愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第79集

一色青海遺跡

（考古編）

1998

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター



93Aa 区
SB26
南より



95Ba 区
東側部分
北より



95Ca 区
南側部分
北より



96D 区
NR06
円窓付土器
出土状況
西より



台付き甕と炉石と炉縁石の関係



焼けた土器（焼失竪穴住居出土のもの）



穿孔された土器



弥生土器焼成復元

序

一色青海遺跡の所在する愛知県稲沢市と中島郡平和町は、濃尾平野のほぼ中央に位置する町であります。現在の当遺跡周辺は植木生産の盛んな地域でありますが、歴史的には稲作と河川を利用した生業とが密接に関わって育まれてきた地域といえます。

この一色青海遺跡は、日光川上流流域下水道浄化センター建設及び県道馬飼井堀線建設に伴う事前調査として、愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、調査を行って参りました。これまで当センターにおいて調査報告されている一色長畑遺跡と一連の遺跡と考えられるもので、今回の調査により、弥生時代の集落としてほぼ全体像が想定できるようになりました。本遺跡は新たな弥生時代像を考えていく上で欠かすことができない遺跡になるものと思われます。本書の調査成果が文化資料として広く活用され、また埋蔵文化財に関する一層の御理解を願う次第です。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、地元住民の方々をはじめ、関係者及び関係諸機関の御理解と御協力を頂きましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

平成10年8月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
理事長　塩見　修哉

例　言

1. 本書は愛知県稲沢市儀長町および中島郡平和町須ヶ谷に所在する一色青海遺跡（『愛知県遺跡地図』（Ⅰ）尾張地区による遺跡番号は09168、稲沢市遺跡番号は4－10）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は愛知県土木部が建設予定している日光川上流流域下水道浄化センター建設及び県道馬飼井堀線建設に伴う事前調査として愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は平成5年5月～同9年3月で、整理期間は平成9年4月～同10年3月である。
4. 発掘調査は高橋信明（本センター課長補佐・現愛知県教育委員会文化財課教育主事）、福岡晃彦（本センター課長補佐）、前田雅彦（本センター主査・現小牧市立北里小学校教頭）、水谷寛明（本センター主査・現一色町立佐久島小学校教諭）、池本正明（本センター調査研究員）、鈴木正貴（本センター調査研究員）、加藤博紀（本センター調査研究員）、蔭山誠一（本センター調査研究員）、早野浩二（本センター調査研究員）が担当した。

また調査に参加頂いた方々は、以下の通りである。

浅野文善、飯野香代子、石黒芙佐子、市川香津子、市橋久美子、伊藤とよ、稲垣美登里、井浪栄子、今井春義、今田利彦、岩田明美、岩田美季子、上田茂寿、上田利子、植村輝美、内藺洋子、内野知代子、奥田美由岐、小野清子、各務則子、垣見和昭、片岡健二、片野百合子、加藤悟子、鎌田智子、黒谷日佐子、小崎暢子、後藤栄次、後藤喜久江、五藤むつ子、小播すみ江、近藤洋子、酒井敏子、桜井乃布香、柴山香代子、柴山まさえ、新海澄子、杉田千代子、杉原利明、関田美千代、高野幸雄、竹川美知子、棚橋豊子、田深多美子、堤陽子、東松道昭、徳永悟士、中村幸一、長屋靖子、西村澄子、野垣豊子、野々垣敬子、野々垣鈴美、橋口為義、羽田野明美、服部富子、服部美枝子、服部礼二、早川久子、林恭江、久田友子、日比芳子、平野加奈子、平野比戸子、平林八寿子、藤井美代子、松田典子、三輪美恵子、百瀬詔子、森清和、森本千歳、山崎久美子、山田由起夫、山田芳美、山之内なつ子、山本真紀子、雪松町子、渡辺康子

（五十音順・敬称略）

学生

浅野知之（東海大学）、岩間弘樹（三重大学）、内蔵菜穂子（愛知学院大学）、梅林秀行（早稲田大学）、遠藤啓輔（奈良大学）、加賀智之（三重大学）、加藤優子（名古屋女子大学）、河合征治（三重大学）、櫻木耕史（名古屋工業大学）、新海洋規（名古屋経済大学）、田口雄一（花園大学）、富田智恵（豊田短期大学）、富永晶子（佛教大学）、中島新治（花園大学）、中村晋也（三重大学）、野村信生（日本大学）、堀田真理子（愛知淑徳大学）、山内富正（佛教大学）、吉兼千絵（同朋大学）、吉田由香（敦賀女子短期大学）

（五十音順・敬称略）

5. 調査・報告書作成に際して次の機関から御協力を得た。

愛知県教育委員会文化課、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県土木部、稲沢市教育委員会、平和町教育委員会、守山市教育委員会、三重県埋蔵文化財センター、松阪市文化財センター

6. 調査・報告書作成にあたっては次の方々の御教示、御協力を頂いた。記して感謝の意としたい。

愛甲昇寛、伊藤秋男、井上直夫、上村安生、大参義一、小林正史、鈴木元、高田康成、中村一郎、日栄智子、菱田昌美、　日野幸治、深澤芳樹、福田昭、福田哲也、北條献示、森泰通、山崎秀二

（五十音順・敬称略）

7. 平成9年6月14日（土）・15日（日）には、財団法人愛知県埋蔵文化財センターにおいて一色青海遺跡検討会を行った。25名の参加者があり、貴重な御教示を賜った。記して感謝の意としたい。

赤澤徳明、浅井厚視、天野博之、石川日出志、石黒立人、伊藤淳史、小林正史、杉浦裕幸、鈴木敏則、鈴木とよ江、鈴木正貴、高橋幸仁、田口雄一、田中昌樹、永井宏幸、成瀬憲作、贄元洋、馬場伸一郎、早瀬賢、早野浩二、原田幹、深澤芳樹、宮越健司、森泰通、山内富正

（五十音順・敬称略）

8. 報告書作成に関わる整理作業には蔭山誠一があたり、八木佳素実（調査研究補助員）、永井智子（調査研究補助員）、玉作美智子（以下整理補助員）、中村たかみ、本多恵子、山本律子、山田有美子、田中和子、野川佳江、加藤豊子、平野みどり、柴田和恵、稲石純子（富山大学大学院）、全並美保子の協力を得た。

9. 写真図版の撮影は遺構は各調査員が、遺物は深川進・小島英樹が主に行い、一部の弥生土器・石器を蔭山が撮影した。

10. 本書の編集は、考古編を蔭山誠一、自然科学・考察編を鬼頭剛・堀木真美子が担当した。本書の執筆は目次と各章の文頭に記載している。

11. 本書で使用している遺構略記号は以下の通りである。

ＮＲ…旧河道、ＳＡ…柵、ＳＥ…井戸、ＳＢ…竪穴住居・掘立柱建物、
ＳＫ…土坑、ＳＤ…溝、ＳＵ…土器集積、ＳＸ…方形土坑、ＳＺ…方形周溝墓

12. 本書で使用する遺構埋土等の色調については1989年度版『新版標準土色帳』小山正忠・竹原秀雄編著を参考に記述した。

13. 調査区の座標は、建設省告示の国土座標第Ⅶ系に準拠する。

14. 調査の実測図、写真等の記録は財団法人愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802番24

15. 調査による出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802番24

目　次

1. 前言	蔭山誠一	…1
2. 遺跡の概観	加藤博紀	…5
3. 調査の概要と基準層位	蔭山誠一	…10
写真図版(遺構･遺物)		…21
4. 弥生時代の遺構	蔭山誠一	…59
5. 弥生土器	蔭山誠一	…110
6. 土製品類・古代の土器	八木佳素実	…200
7. 石製品	石黒立人・原田幹	…203
8. 木製品	樋上昇	…223
9. 中世以降の遺構	池本正明	…233
10. 中世以降の陶器類	池本正明	…240
11. 金属製品	鈴木正貴	…243
12. 弥生時代の遺構分布と変遷	蔭山誠一	…245

遺構図版 1 ～ 11　…251

1. 前　言

蔭山誠一

(1) 位置(第1図)

一色青海遺跡は愛知県稲沢市儀長町及び中島郡平和町須ヶ谷に位置する遺跡で、名鉄尾西線上丸渕駅より東約2.1㎞、名鉄名古屋本線国府宮駅より南西約4.7㎞の位置にある。西約900ｍには国道155線が北北東から南南西にはしる。

(2) 調査に至る経緯と経過 (第2図・第1表)

愛知県土木部下水道課において計画された日光川上流流域下水道浄化センター建設、愛知県土木部道路建設課で計画された県道馬飼井堀線建設に際し、その予定用地内に弥生時代の遺物散布地である『一色青海遺跡』(遺跡番号県09168、稲沢市4－10) が所在しており、事前に発掘調査し、記録保存する必要性が認められた。そのため平成4年度に愛知県埋蔵文化財調査センターでは調査計画を策定するための遺跡の試掘調査を行い、範囲の確認をした。この際試掘トレンチから多くの弥生土器・石器が確認された。このため、新下水道浄化センター建設、新県道建設に先立って発掘調査が計画され、愛知県土木部より愛知県教育委員会をとおして委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが平成5年5月から平成9年3月までの期間で、一色青海遺跡の発掘調査を実施した。調査にあたっては、面積も広く、事業地となる調査対象区域が分かれているため、第1表の通り調査を実施した。調査区は事業対象地内にある用水路・車両の侵入路・廃土置き場などの関係もあり、



第1図　遺跡位置図

第2図のようになった。調査面積は23,500㎡である。発掘調査終了後、平成9年度に出土遺物の整理作業、及び報告書作成を行った。

(3) 調査方法

現地表面から表土のみをバック・ホウにより除去したのち、建設省告示によって定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠した5mグリッドを設定し、手掘りで包含層を掘削して遺構を検出する方法をとった。調査の進行上、基本的に遺構測量はヘリコプターによる航空写真測量を実施し、調査区全面の1／50基本平面図を作成したほか、重要部分については補助測量図を手測りにより実施した。

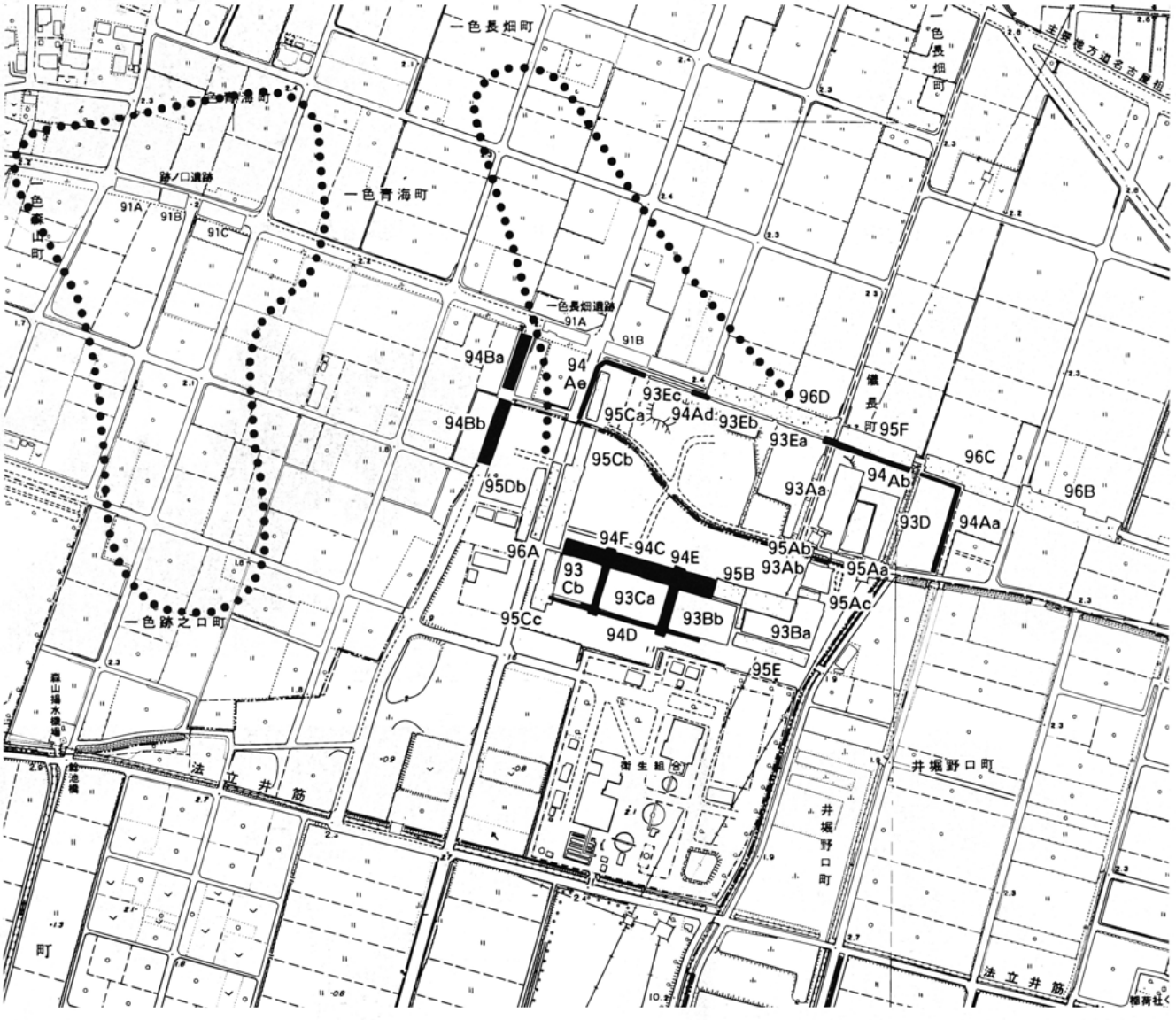
発掘調査

調査年度	調査委託者	事　業	調査区	面積(㎡)	調査期間(年.月)	調査担当者
平成5年度	愛知県土木部下水道課	日光川上流流域下水道浄化センター	A	1,750	93.5～93.12	前田・池本
			B	3,200	93.8～93.12	前田・池本
			C	2,530	93.8～93.12	前田・池本
			D	1,050	93.11～94.1	前田・池本
			E	270	93.11～94.1	前田・池本
平成6年度	愛知県土木部下水道課	日光川上流流域下水道浄化センター	A	736	94.4～94.5	福岡・池本
			B	1,080	94.4～94.5	福岡・池本
			C	1,486	94.6～94.8	福岡・池本
			D	214	94.6～94.8	福岡・池本
			E	192	94.12	水谷・池本
			F	192	94.12	水谷・池本
平成7年度	愛知県土木部下水道課	日光川上流流域下水道浄化センター	A	750	95.5・95.8～95.9	水谷・鈴木・蔭山
			B	930	95.4～95.5	水谷・鈴木・蔭山
			C	2,120	95.6～95.7	水谷・鈴木・蔭山
			D	600	95.9～95.10	水谷・鈴木・蔭山
			E	600	96.1～96.2	水谷・蔭山
	愛知県土木部道路建設課	県道馬飼井堀線	F	800	96.2～96.3	水谷・蔭山
平成8年度	愛知県土木部下水道課	日光川上流流域下水道浄化センター	A	600	96.4～96.5	高橋・加藤・早野
	愛知県土木部道路建設課	県道馬飼井堀線	B	1,300	96.11～96.12	高橋・加藤・早野
			C	1,300	96.12～97.1	高橋・加藤・早野
			D	1,800	97.1～97.3	高橋・加藤・早野

整理・報告

調査年度	調査委託者	事　業	調査区	面積(㎡)	調査期間(年.月)	調査担当者
平成9年度	愛知県土木部下水道課	日光川上流流域下水道浄化センター	上記	18,300	97.4～98.3	(考古)蔭山、(自然科学)鬼頭・堀木
	愛知県土木部道路建設課	県道馬飼井堀線	上記	5,200	97.4～98.3	(考古)蔭山、(自然科学)鬼頭・堀木

第１表　調査の工程



第２図　調査区位置図（1：5,000）



94Cb 区　遺構掘削



96B 区　旧河道跡の掘削



96D 区　旧河道（NR06）の掘削



95Ac 区　方形周溝墓跡の掘削



94Ae 区　遺構掘削



96D 区　遺物の検出



95Ba 区　遺構の実測



96D 区　遺構土層断面の実測

作業風景（1）



熱残留地磁気測定の試料採取



竪穴住居埋土分析のための試料採取



93Aa区での現地説明会（93年12月）



遺物（弥生土器）の復元



遺物（弥生土器）の実測



遺物（弥生土器）の登録



遺物（木製品）の収蔵



遺物の写真撮影

作業風景（2）

2. 遺跡の概観

加藤博紀

(1) 地理的環境

濃尾平野は木曽川により堆積された沖積平野であり、上流域より扇状地地帯、氾濫原地帯、三角州地帯という地形に分けられる。木曽川南側になる愛知県尾張地域では、かつての木曽川支流である数多くの小河川が流下し自然堤防と後背湿地を形成している。一色青海遺跡のある稲沢市は濃尾平野の氾濫原地帯のほぼ中央部に位置し、西を日光川、東を五条川に画された中にあり、市の中心部を三宅川が蛇行しながら南流する。一色青海遺跡は日光川と三宅川の自然堤防に挟まれた後背湿地の中に位置する。この稲沢市周辺の自然堤防地帯はたび重なる河川の氾濫で肥沃な大地となり、全国でも有数の植木の産地として名をはせている。

(2) 歴史的環境

1．弥生・古墳時代（第１図）

弥生時代の遺跡は、稲沢市北西部から美和町・甚目寺町・清州町北部にかけて標高2.5mに沿うように帯状に広がっている。この帯状の広がりの中に朝日遺跡などの著名な弥生時代の遺跡が含まれている。この弥生時代の遺跡の広がりと縄文海進高潮期以降の海浜性浜堤の広がりが対応していることがわかる。

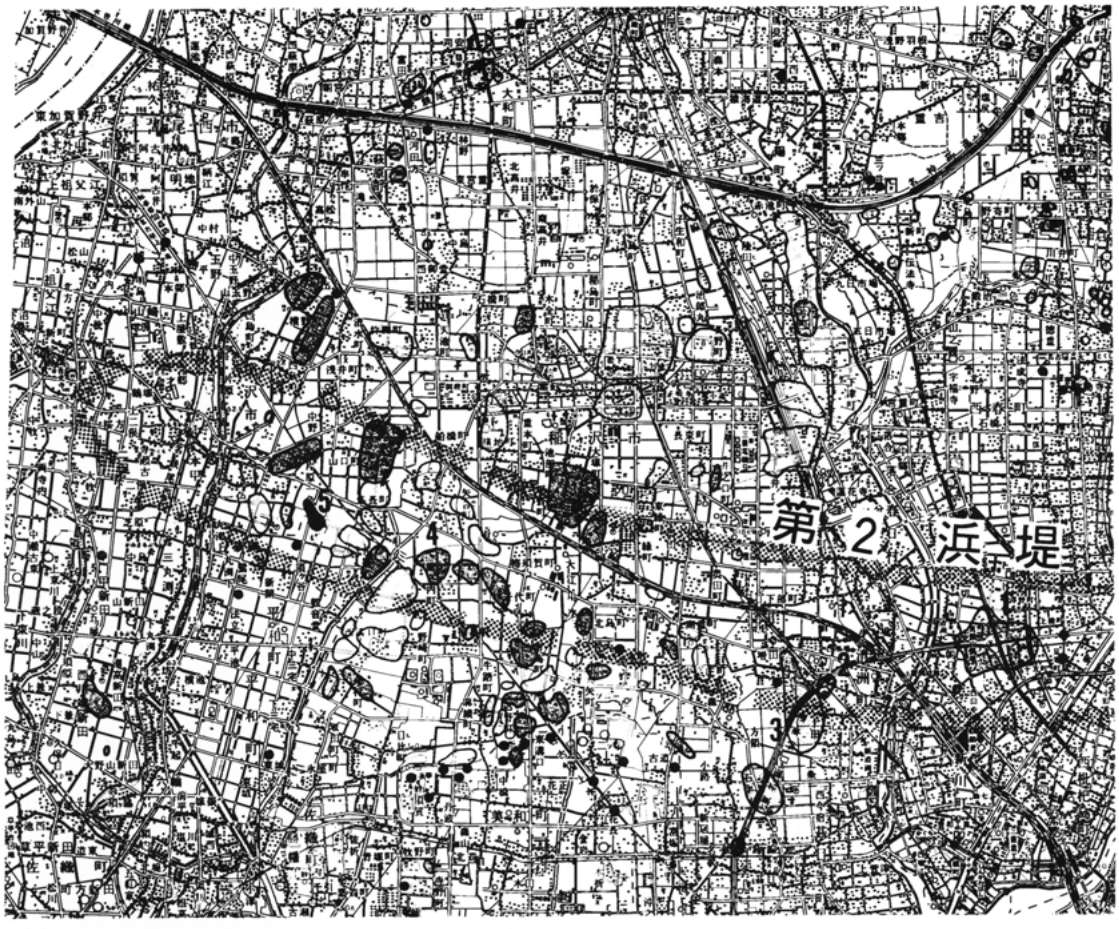
海浜性浜堤とは、河川による自然堤防の延長方向と直交ないし斜交しているもので、濃尾平野には数列存在する。河川はこの浜堤を乗りこえるときに自らを著しく屈曲・蛇行させ流下している。そのうち海側から数えて二列目の浜堤（第二浜堤）は、西は中島郡祖父江町から稲沢市片原一色・矢合・奥田付近を通り、東は西春日井郡清州町廻間・朝日・阿原付近へと北西－南東方向に延びている。この第二浜堤の東側に朝日遺跡は立地している。西方向に目を移すと、廻間遺跡、土田遺跡、堀之内花ノ木遺跡そして一色青海遺跡へとつながっていく。他にも未調査ではあるが弥生時代の遺跡が第二浜堤上に広がっている。この遺跡の住人たちは、河川の氾濫から身を守っていくためにこの海浜性浜堤に好んで居住したことが想像される。

古墳時代に入ると、遺跡が稲沢市及びその周辺一帯に拡大していく。しかし稲沢市井之口町一帯および稲沢市目比町・南北麻積町・野崎町に囲まれた地域には全く存在しない。近世において新田開発されるまで両地域は湿地帯であり、当時も居住に適しない地域であったことがわかる。

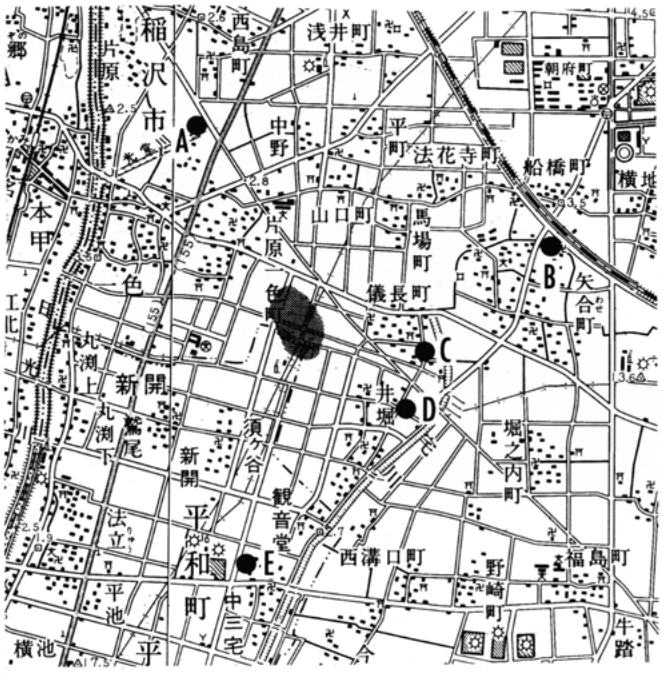
2．中世（第２図）

本遺跡周辺地域の中世城館跡の中で、片原一色城・三宅城・矢合城・儀長城・井堀城は橋本伊賀守及びその一族が城主であったと伝えられる。橋本氏は定着した15世紀初めから加藤清正の招きで肥後へ赴く16世紀末までこの地域を支配した。この橋本氏の５城について考えてみる。

片原一色城は、「片原一色村誌」によると応永年間この地域に定着した橋本宣都寺以降８代にわたって橋本氏に相伝された居城であるとしている。15世紀初めから橋本氏の本城として利用されたことがわかる。またその位置は光堂川を望むところ



第１図　周辺の弥生・古墳時代の遺跡と地形（1:100,000）
アミカケと●は弥生時代、アミカケなしと○は古墳時代
1. 朝日遺跡　2. 廻間遺跡　3. 土田遺跡　4. 堀之内花ノ木遺跡　5. 一色青海遺跡



第２図　周辺の中世城館跡
（1：50,000）
アミカケは一色青海遺跡
Ａ. 片原一色城
Ｂ. 矢合城
Ｃ. 儀長城
Ｄ. 井堀城
Ｅ. 三宅城

にあり、その光堂川を利用すれば、日光川を経て津島などへ行くことができた。

三宅城は、下三宅野口義一所蔵文書によると片原一色城主橋本伊賀守道一の嫡子伊兵衛尉道正の居城であるとしている。城館と推定されている地域の南に「船附」という字名があり、三宅川を利用した交流が盛んであったことをうかがわせる。三宅川を下れば、織田信秀が居城とした勝幡城、さらに津島などへ行くことができた。

矢合城・儀長城・井堀城に関しては詳しい資料がない。城主に関しても矢合城主が橋本大膳（橋本伊賀守道一の弟）であることがわかるのみである。なお1993～94年度に実施された儀長正楽寺遺跡の発掘調査でも儀長城に関する遺構は確認できていない。しかし3城とも三宅川流域にあることから三宅川水系を利用する意図があることは想像できる。

以上から橋本氏が関わった5城には居城または軍事拠点という目的の他に、日光川・三宅川水系の利用という目的があるものと考えられる。

(3) 地誌

本遺跡の所在する平和町須ケ谷の旧名須賀垂（すかたり）の「須賀」とは、砂所が転じたもので、砂所は「砂の集ひ寄たる形」をさすとしている。このことからこの地域に洪水を防ぐことができるような砂地の高まりがあったことがうかがえよう。これは隣村の片原一色村を「此むら砂地」であると紹介していることからも砂地の高まりの存在がわかる。「須賀」がはたしてどのような環境の土地につけられた地名であるかを愛知県尾張地域に拡大して考えたゆきたい。

第1表のように『尾張国地名考』の中に紹介されている旧村名は12件存在した。これをみると旧中島郡・海東郡が8件を占めていることが分かる。この地域は木曽川支流の氾濫原地帯である。旧中島郡・海東郡以外の「須賀」を含む旧村を考えてみると、愛智郡高須賀村は庄内川を挟んで海東郡鎌須賀村・長須賀村の対岸に、春日井郡須ケ口村は海東郡鎌須賀村の北方の庄内川と五条川の合流点に、葉栗郡須賀村は木曽川沿いというように河川と密接な関係をもつ地点に位置している。

次に旧中島郡・海東郡内の小字についても「須賀」がつくものを明治17～18年にかけて調査された地籍帳から抜出した。この結果が第2表及び第3図である。両郡内には36件あり、21の旧村で見ることができた。土地利用状況に関しては、旧中島郡内で畑の面積が一番広く利用されていた小字は32件中17件に及んだ。これは比較的周囲より高いことをさすものと推測される。分布状況は、中島郡全体に広がるのに対し、海東郡は庄内川と旧佐屋川沿いにしか見られない。立地条件は日光川・三宅川などの蛇行する河川沿いあるいは河川に挟まれた地域に多く見られ、それ以外の地域には全く見ることができない。

以上から基本的に「須賀」を含む地名は、尾張においては河川が緩やかに蛇行するような氾濫原地帯の自然堤防に多くみられるものであることがわかる。また旧知多郡横須賀や旧桑名郡天ケ須賀などのように海に面した地域に見られるものもあり、これは海によって築かれた砂丘状地形すなわち海浜性浜堤に立地するものと考えられる。水の被害が多い氾濫原や海岸部において砂の高まりは居住域として絶好の場所であったことであろう。「須賀」を含む地名周辺に人が住んだ痕跡があることは容易く想像される。

第１表　　『尾張国地名考』中における「須賀」を含む旧村名

	旧村名	旧郡	同書に紹介された特記事項	備　考
1	高須賀村	愛智	正字は洲所。「こ」は「か」に変化。	
2	須ケ口村	春日井	正字は洲所口。	
3	須賀村	葉栗	正字は洲所。「こ」は「か」に変化。	現在は岐阜県羽島市。
4	梅須賀村	中島	売須可（めすか）という。	
5	苅安賀村	中島	旧名須賀村。「苅屋」は後の冠字。	
6	須賀谷村	中島	旧名須賀垂。垂（たり）は谷が転じたもの。	
7	須賀村	中島	堀津須賀と呼ぶ。長良川東堤の中で砂山の地。	現在は岐阜県羽島市。
8	鎌須賀村	海東	川間須賀むらが転じた。萱津川と萬場川の間の砂所か。	
9	蜂須賀村	海東	蓮池を埋めたことによる蓮須賀が転じた。	
10	須賀村	海東	北一色村の北。	
11	長須賀村	※海東	長い砂所か。	
12	横須賀村	知多		

※枝村および「○○新田」は除外した。
※表記は『尾張国地名考』にしたがう。



第3図　旧中島郡・旧海東郡内の「須賀」を含む地名図
（1：20,000）
● 1 ～ 11…旧村名
● a ～ u…旧小字名

第２表　　旧中島郡・海東郡内の「須賀」を含む旧小字名（「須ケ」含む）

	旧小字	旧郡	旧村名	現市町村		旧小字	旧郡	旧村名	現市町村
a	須ケ口	中島	稲葉村	稲沢市	n	須賀垂り	中島	二俣村	中島郡祖父江町
b	高須賀	中島	島村	稲沢市	o	高須賀	中島	甲新田	中島郡祖父江町
	子須賀					須賀北			
c	高須賀	中島	治郎丸村	稲沢市	p	須賀	中島	天池村	稲沢市
d	子須賀	中島	子生和村	稲沢市	q	苅安賀道	中島	富田方村	一宮市
e	高須賀	中島	稲島村	稲沢市	r	須ケ北	中島	一宮村	一宮市
f	須ケ越	中島	大塚村	稲沢市		須ケ西			
g	苅安賀道	中島	開明村	尾西市		須ケ崎			
h	須ケ先	中島	新開村	中島郡平和町		須ケ東			
i	須ケ越	中島	梅須賀村	稲沢市		須ケ山			
j	高須賀	中島	上祖父江	尾西市		須ケ流			
k	須賀	中島	明地村	尾西市		高須賀西			
	須賀東					高須賀北			
	須賀前					高須賀			
l	下須賀	中島	西五城村	尾西市	s	西高須賀	海東	二ツ寺村	海部郡美和町
	須賀前					東高須賀			
	高須賀				t	須ケ脇	海東	向島村	津島市
m	須賀脇	中島	野田村	中島郡祖父江町	u	須賀割	海東	西善太新田	海部郡佐屋町

※地名表記及び順序は地籍帳にしたがう。
※開明村・・・明治11年12月28日野府村と小原村合併
　新開村・・・明治11年12月28日丸淵村と鷲尾村合併
　明地村・・・明治11年12月28日阿古井村と吉藤村合併

＜追記＞『尾張国地名考』によると「何国にても須賀と一色とはかならず雙びてある地名」で、「一色」の語源の一説に入沙處が転じたものとしており、実際に平和町須ケ谷に隣接して稲沢市片原一色が存在する。しかし「一色」という地名は河川とは関係が薄い山間部にも多数あり、必ず一緒に登場するものでもなかった。語源の他説にあった「初めて居敷（ゐしき）を定め家屋を卜る」すなわち支村というような意味であると考えてここでは取り上げなかった。

参考文献

森勇一 1992「朝日遺跡およびその周辺地域の地質と古環境」『愛知県埋蔵文化財センター調査報　　告書第31集　朝日遺跡Ⅱ』

『新修稲沢市史　本文編』1990

『新修稲沢市史　資料編四　地誌上』1988

『新修稲沢市史　資料編五　地誌下』1988

『平和町誌』1982

『佐織町史　通史編』1988

『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第68集　儀長正楽寺遺跡』1996

『張州史料　尾張国地名考　改定版』1986

3. 調査の概要と基準層位

蔭山誠一

(1) 調査の概要（第1図）

遺構の時期としては大きく弥生時代中期後葉（凹線文期・高蔵期）と鎌倉時代～戦国時代にかけての2時期に分けられる。弥生時代中期後葉の主な遺構としては竪穴住居94棟、掘立柱建物6棟、柵1基、方形周溝墓25基、井戸1基、溝32条、土坑多数、旧河道9条が検出され、居住域と墓域の関係と変遷を考えることが可能な集落遺跡といえる。鎌倉時代～戦国時代にかけての主な遺構は、方形土壙238基、土坑3基を検出しており、集落域から外れた中世の後背湿地の状況を考える上で、良好な遺構群と思われる。その他古代の遺構として古墳時代前期前半の土坑1基、中世以前の柵1基を確認している。

また調査区により地形的なまとまりがあるのと同時にその地形を反映した遺構構成をもつ5つの調査区にわけることが可能である。

北調査区…93Ｅａ～93Ｅｃ・94Ａａ～94Ａｄ・95Ｆ・96Ｂ～96Ｄのちょうど県道馬飼井堀線の調査に伴う部分である。弥生時代中期後葉の北西から南東方向に検出される旧河道とその間の微高地に営まれる居住域が交互にみられるのが特徴的な調査区である。

東調査区…93Ａａ区・93Ａｂ区・93Ｂａ区・93Ｄ区・95Ａａ区～95Ａｃ区・95Ｂａ区・95Ｂｃ区・95Ｅ区の西に高く東に低い南北にのびる微高地部分にあたる調査区で、弥生時代中期後葉において竪穴住居や土坑などからなる居住域から、方形周溝墓からなる墓域に変遷するのが特徴である。

南調査区…93Ｂｂ区・93Ｃａ区・93Ｃｂ区・94Ｃａ区～94Ｃｃ区・94Ｄａ区～94Ｄｃ区・94Ｅ区・94Ｆ区・95Ｃｃ区で、全体的に東西にのびる微高地の南側縁辺にあたる調査区である。東西に広く中世の方形土坑が検出された部分で、弥生時代中期後葉の遺構群はその北側の93Ｂｂ区・94Ｃａ区・94Ｃｂ区に集中している。

西1調査区…93Ａｅ区・95Ｃａ区・95Ｃｂ区・95Ｄｂ区・96Ａ区で北にある旧河道とその南側自然堤防状の微高地部分にあたる調査区で、微高地部分が弥生時代中期後葉の居住域となり、その南側の縁辺部では遺構が希薄となる。

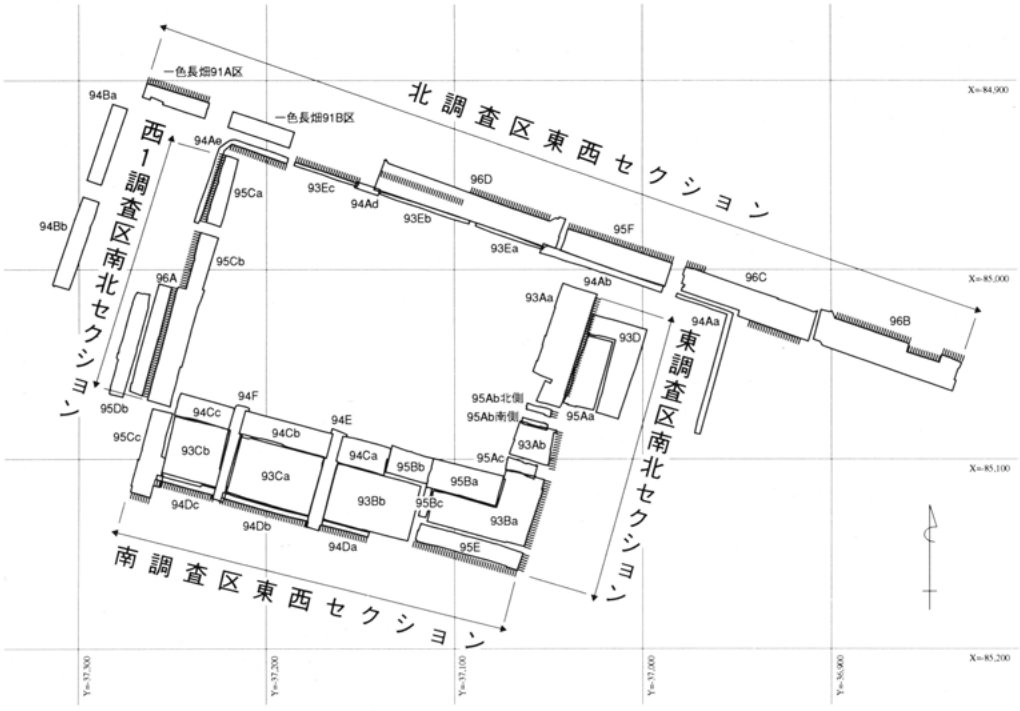
西2調査区…94Ｂａ区・94Ｂｂ区で、西1調査区の微高地の西にのびた部分にあたる調査区で、弥生時代中期後葉の居住域が広がる。

遺物では弥生時代中期後葉の遺構に伴う多くの弥生土器、土製品、石製品、木製品、骨角製品と中世の陶磁器、銭貨、鉄資料、木製品が出土した。弥生時代の遺物としては、竪穴住居、方形周溝墓、土坑、旧河道などに伴うまとまった土器が出土し、遺構の変遷や土器の交流などを考える上で貴重な資料と思われる。石製品では居住域を中心に出土しており、石製品製作に伴う未成品や剥片、加工具と考えられるものがみられる。居住域にともなう石材もできる限り採取した。木製品では旧河道に伴うものが中心で、未成品や多量の自然木とともに出土し、木製品の製作と周辺の環境を考える根拠を提供している。また土坑などに伴う資料として多くの種子資料、骨貝資料を採取しており、

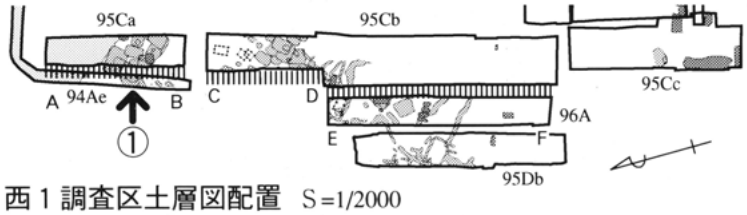
第1図　一色青海遺跡　遺構全体図



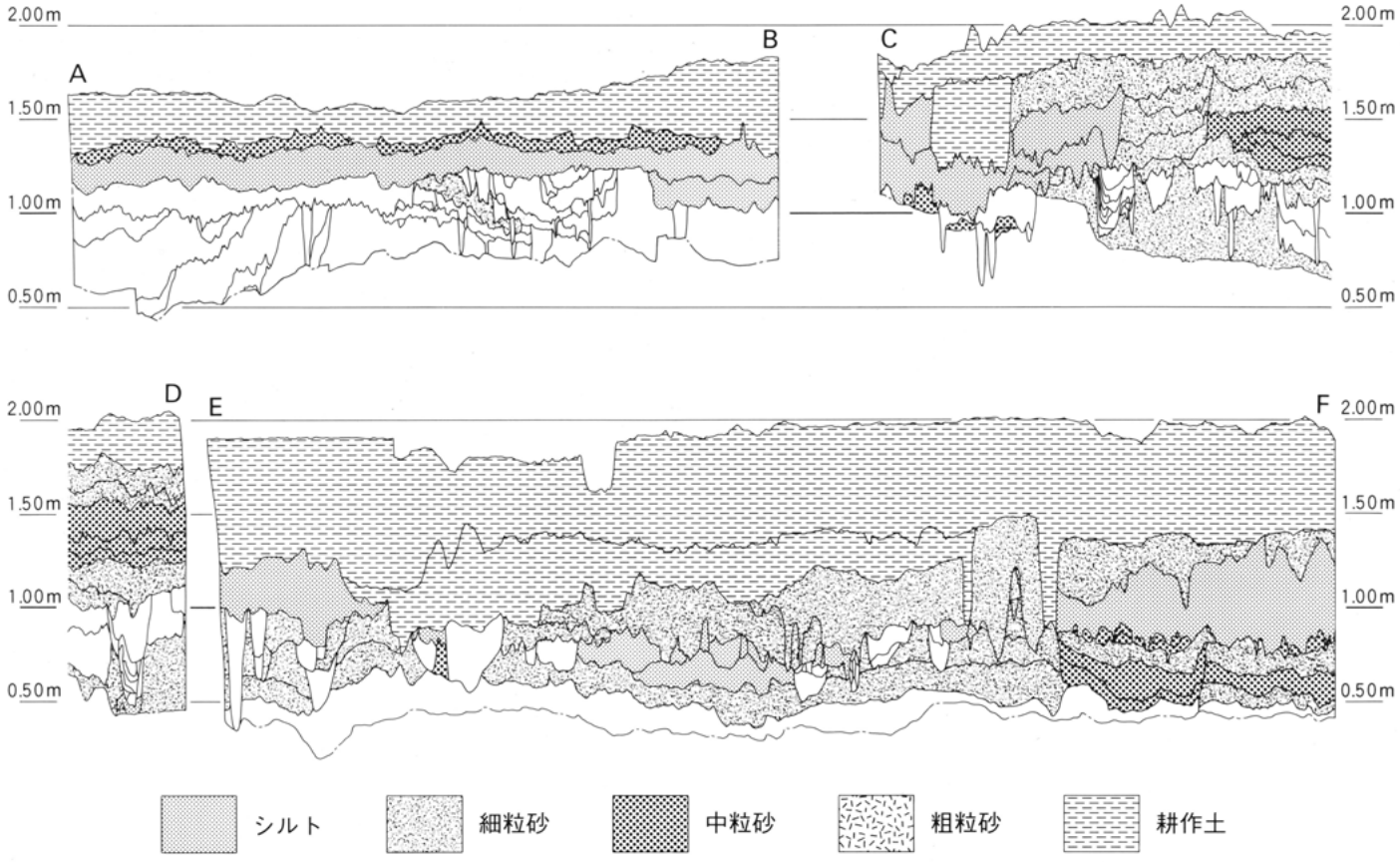
第１図　一色青海遺跡遺構全体図（1：1,500）



第2図　土層堆積図の位置（1：4,000）



西１調査区土層図配置　S=1/2000



第３図　西１調査区土層堆積図（1：400、水平距離と標高の比は１：10）

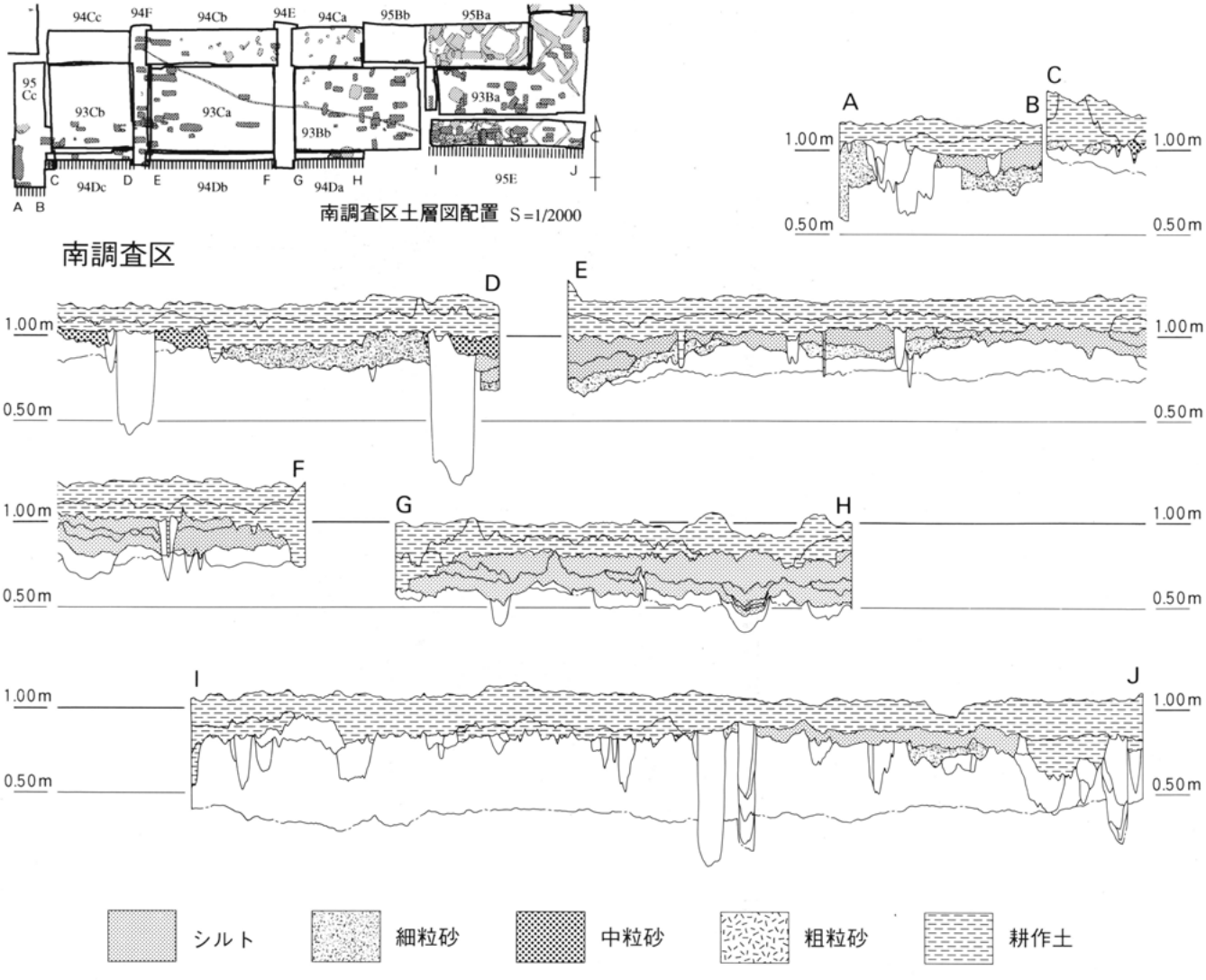
当時の食料や生活環境を考える上で貴重な資料と思われる。中世の遺物としては量的に多くないが、方形土坑に伴う陶磁器などが出土し、遺構の時期幅を考えることが可能である。

また直接遺構には伴わないが、古代の須恵器、中世の鉄資料、近世の加工円盤などの資料も少量出土した。

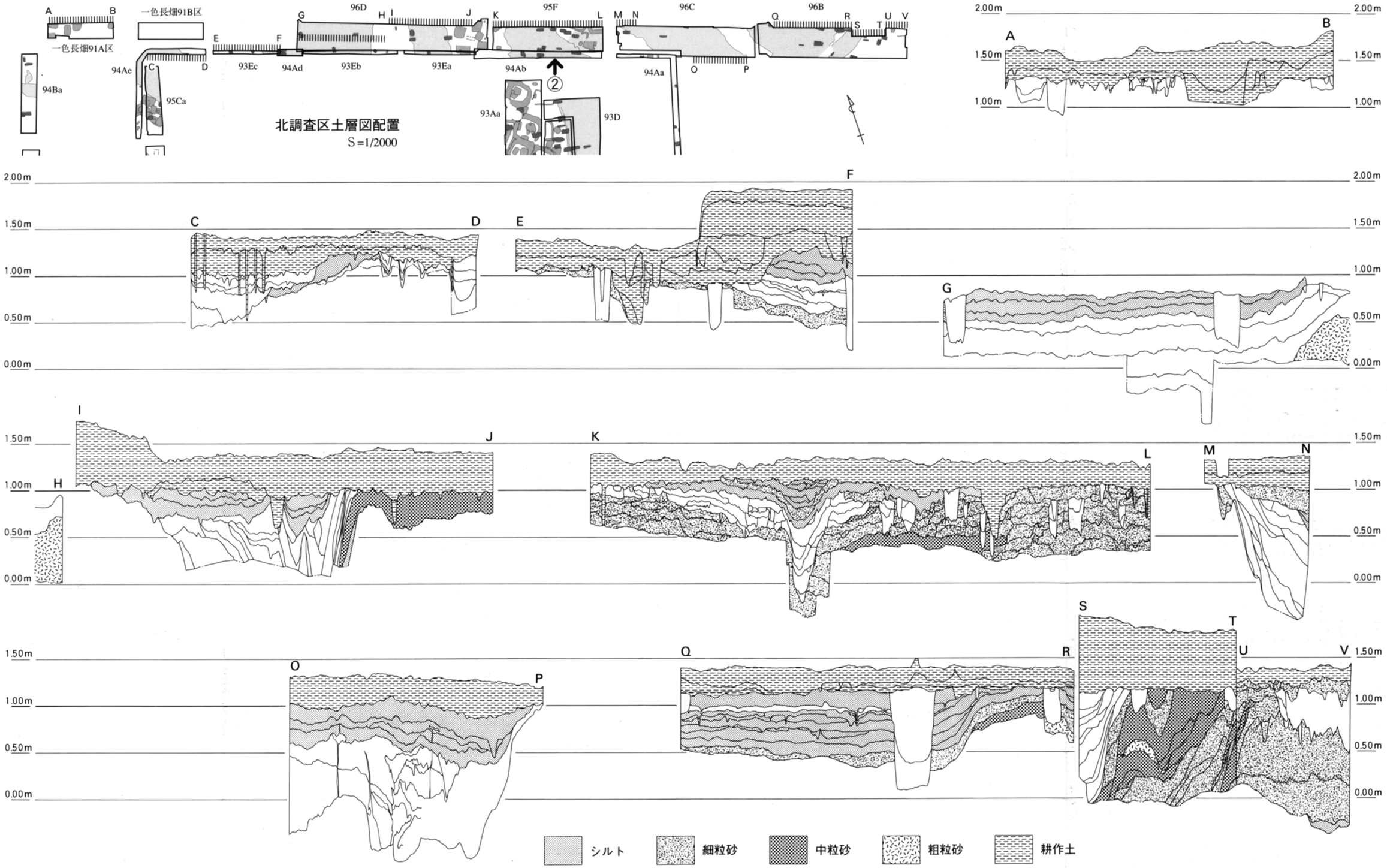
(2) 基準層位（第2図～第7図）

現在の一色青海遺跡は標高1.00m～1.70mの微高地上に位置しており、基本的には北から南に緩やかに下る地形となっている。調査区は事業の対象地であると同時に現代の区画にも大きく制約されており、調査前が水田である部分と畑地であった部分などではかなり地形が改変されている。

本遺跡の調査は東西に広く行なわれているが、集落の中心部分の調査は行なわれておらず、遺跡の中心より外れた周辺を調査している。調査を行った部分は東西南北に1周するような配置になっており、不完全であるが東西南北の各セクションをつなげた（第2図）。北調査区・東調査区・南調査区・西1調査区について述べる。



第4図　南調査区土層堆積図（1：400、水平距離と標高の比は1：10）



第５図　北調査区土層堆積図（1：400、水平距離と標高の比は 1：10）

ａ.北調査区（第５図、第７図土層②）

北調査区としているのは、西は当センターで調査報告されている一色長畑遺跡91Ａ区から東の96Ｂ区の450ｍにわたる部分で、現在の植木畑を除くと標高は1.40ｍ程で東西の比高差がほとんどない。

表土からの堆積では、0.3ｍ～0.5ｍ程の耕作土を除去すると中世の堆積と思われる腐植質な10YR3/1黒褐色シルト（砂粒が肉眼で見えず、粘土紐が出来る）層が10～20㎝堆積している部分がある。その腐植質なシルト層下には弥生時代にさかのぼる旧河道が顕れることが多く、中世に至るまでその部分が凹みとして残存していたことが推定できる。一方腐植質なシルト層のない部分は、後世の耕作などにより削平されているのか、もともと堆積しなかったのかわからないが、現在の耕作土直下の面が弥生時代の遺構面となり、弥生時代の微高地とほぼ一致する。遺構面下の堆積は余り確認できていないが95Ｆ区の部分（第5図Ｋ～Ｌ）では微高地の部分から旧河道のある部分へと層厚10㎝程の細粒砂（砂粒が肉眼で見えず、触るとさらさらしている）層がやや傾斜をもって数層堆積しており、その間に比較的粒度の粗い中粒砂（砂粒は肉眼で見えないが、触るとややざらつく）層が入っている。旧河道はその堆積の凹みを流れており、北調査区は旧河道の流れる谷とその間に挟まれた微高地が交互に残る環境が推定され、弥生時代以後の堆積は微高地を削り、谷を埋めていく過程と言える。

ｂ.東調査区（第６図）

東調査区は遺跡の東側にある93Ａａ区・93Ｄ区・95Ａａ区から95Ｅ区にいたる南北約150ｍの調査区で、現地表で北から南に緩やかに傾斜するが、東調査区中央の93Ａｂ区と93Ｂａ区がわずかにピークになって95Ｅ区にかけてやや下がっている。また調査区の西側は全体に高く東側が大きく下がる谷地形となっている。東調査区の土層断面は東側の微高地部分のものになるが、93Ａａ区では耕作土下に弥生時代から中世の遺構が同一面において検出できる。弥生時代においては2.5Ｙ4／2暗灰黄色細粒砂層を挟んで2時期の遺構が確認できる。下部の層々は確認していないが、この南北の土層では細粒砂層の起伏に応じて低い部分にシルト層がレンズ状に堆積しており、南側の低い95Ｅ区では中粒砂層上から遺構が確認できる。

ｃ.南調査区（第４図）

南調査区は95Ｃｃ区から95Ｂｂ区・93Ｂｂ区にいたる東西約150ｍの調査区で、ここでは遺跡の南側の状況を見るため95Ｅ区まで含めて考える。

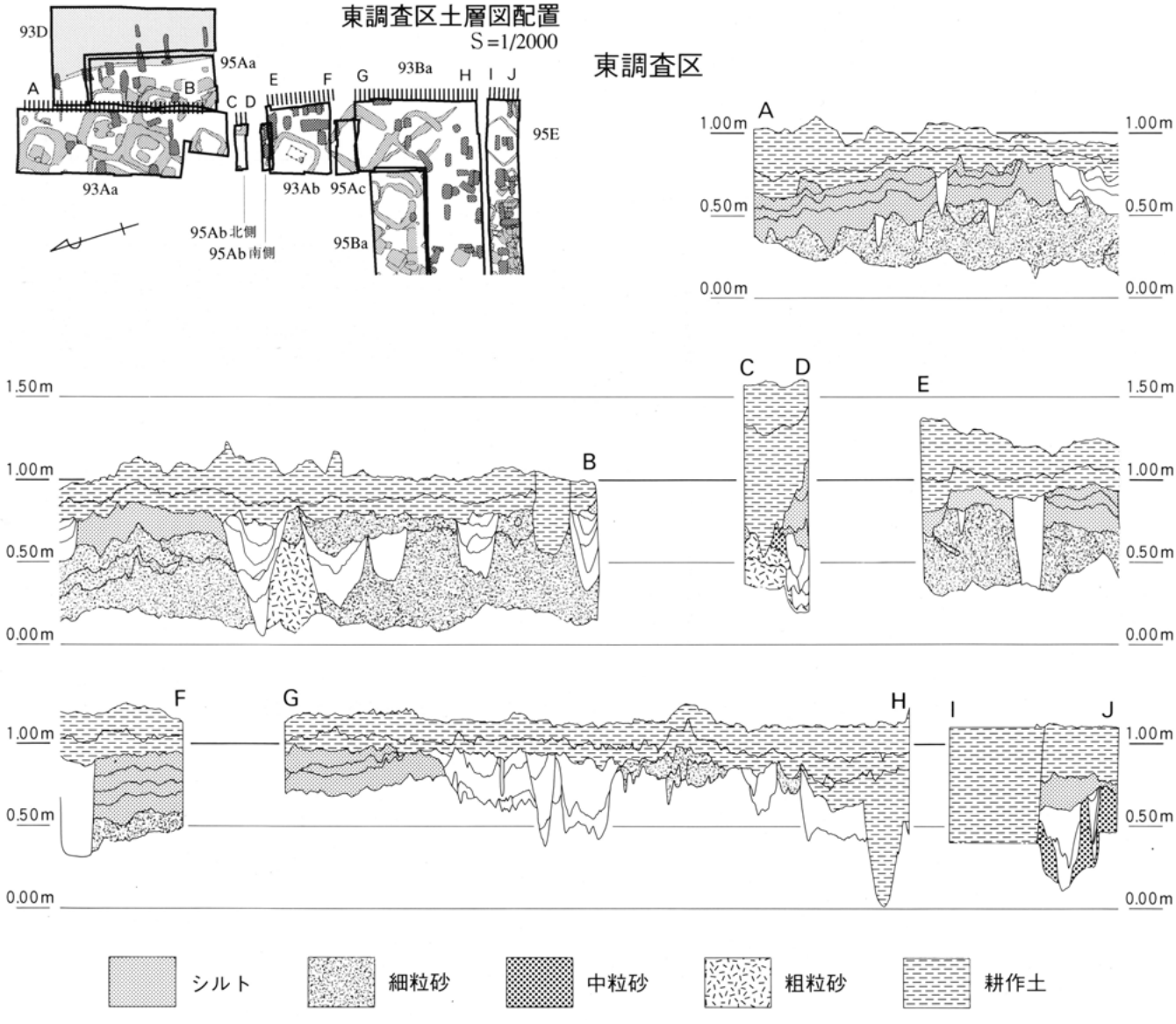
現地表面においては1.00m～1.30mの間にあり、やや東に低くなる傾向があるがほぼ平坦な地形である。中世の方形土坑は現在の耕作土直下において検出でき、弥生時代の谷を埋めているシルトや細粒砂層がその基盤となっている。弥生時代の遺構面については95Ｃｃ区・94Ｄｂ区・95Ｅ区において高まりがみられるが、遺跡の北西からのびる尾根状の微高地にある95Ｅ区を除いて遺構は希薄である。

ｄ.西１調査区（第３図、第７図土層①）

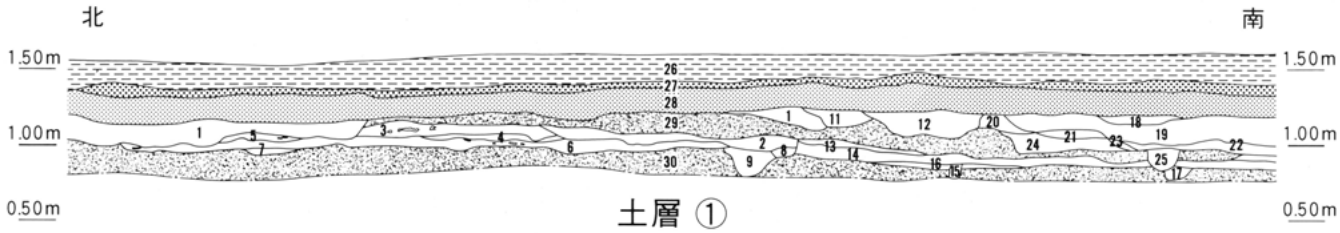
94Ａｅ区・95Ｃａ区から95Ｃｂ区・96Ｄ区・95Ｄｂ区にいたる南北145ｍ程の調査区で、現地表面では南側で畑に利用されたのと道路下にあったことから南側で標高2ｍと北の95Ｃａ区より0.5ｍ程高く残っていた。

土層断面は南調査区の中央を南北に縦断しており、現地表面から0.5ｍから深いところで1.4ｍ程下で弥生時代の遺構面が確認された。弥生時代の遺構面は現在の起伏とは異なり、より北寄りに

微高地のある堆積状況が確認できた。95Ｃａ区の北側には弥生時代の旧河道と思われる北に傾斜する堆積が確認され、その南側に形成されている微高地には竪穴住居などの遺構が多数確認された。南側は96A区北側から次第に下がっていき、遺構も希薄となる。遺構面より下部の土層についてはあまり確認できていないが、弥生時代の遺構のある基盤は何層もの細粒砂層の堆積の上にあり、南側では傾斜して堆積する細粒砂層の凹みにシルトや中粒砂層が挟まれて交互に堆積している。弥生時代の遺構面上には黒褐色シルト層が10～20㎝堆積しており、遺物包含層となっている。弥生時代以降ではレンズ状の堆積とは異なり、後世の大規模な撹乱が及ぶ土層が堆積しており、上部での遺構は確認できなかった。



第６図　東調査区土層堆積図（1：400、水平距離と標高の比は1：10）

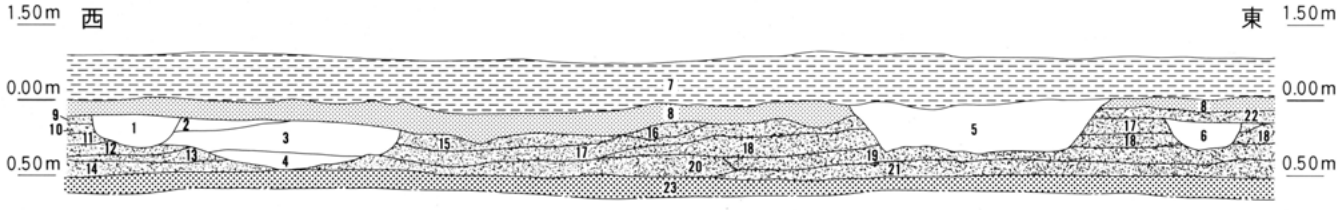


土層 ①

土層①

1.	2.5Y 4/2	暗灰黄色シルト
2.	10YR 4/1	褐灰色細粒砂
3.	10YR 3/1	黒褐色細粒砂
4.	10YR 3/2	黒褐色細粒砂
5.	2.5Y 3/2	黒褐色中粒砂
6.	10YR 3/1	黒褐色細粒砂
7.	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色中粒砂
8.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
9.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
10.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
11.	10YR 4/2	灰黄褐色細粒砂
12.	7.5YR 3/1	黒褐色シルト
13.	10YR 4/1	褐灰色細粒砂
14.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
15.	10YR 4/1	褐灰色細粒砂
16.	2.5Y 3/1	黒褐色細粒砂
17.	2.5Y 3/2	黒褐色細粒砂
18.	10YR 4/2	灰黄褐色細粒砂
19.	2.5Y 4/1	黄灰色中粒砂
20.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
21.	10YR 3/2	黒褐色シルト
22.	10YR 3/2	黒褐色細粒砂50%
	2.5Y 4/1	黄灰色シルト50%
23.	2.5Y 5/1	黄灰色細粒砂
24.	10YR 3/1	黒褐色中粒砂
25.	10YR 4/1	褐灰色細粒砂
26.	2.5Y 4/1	黄灰色中粒砂
27.	2.5Y 3/2	黒褐色中粒砂
28.	2.5Y 4/1	黄灰色シルト
29.	2.5Y 5/1	黄灰色細粒砂
30.	5Y 4/1	灰色細粒砂



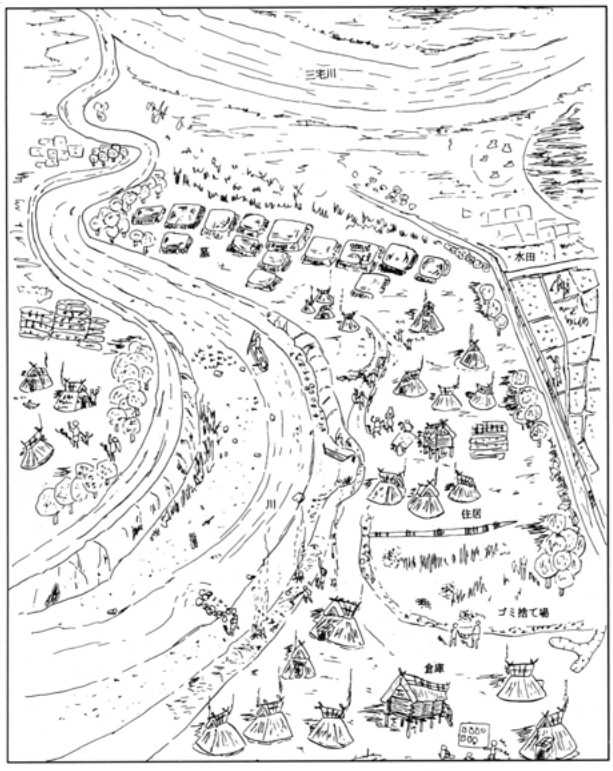


土層 ②

土層②

1.	10YR 3/1	黒褐色シルト
2.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
3.	5Y 4/1	灰色細粒砂
4.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
5.	10YR 3/1	黒褐色シルト
6.	5Y 4/1	灰色細粒砂
7.	5Y 4/1	灰色細粒砂
8.	10YR 3/1	黒褐色シルト
9.	2.5Y 4/2	暗灰黄色細粒砂
10.	5Y 3/1	オリーブ黒色細粒砂
11.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
12.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
13.	5Y 4/1	灰色細粒砂
14.	5Y 4/1	灰色細粒砂
15.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
16.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
17.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
18.	2.5Y 4/1	黄灰色細粒砂
19.	5Y 4/1	灰色細粒砂
20.	5Y 4/1	灰色細粒砂
21.	5Y 4/1	灰色細粒砂
22.	5Y 4/1	灰色細粒砂
23.	5Y 4/1	灰色中粒砂

第７図　基本層序（第３図矢印①・第５図矢印②部分、１：50）

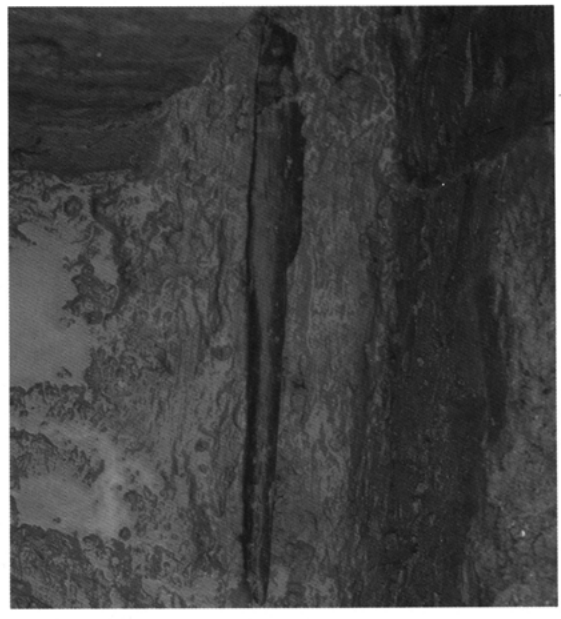


一色青海遺跡のイメージ（弥生時代）

写真図版







（左）
96B区
西側部分
東より

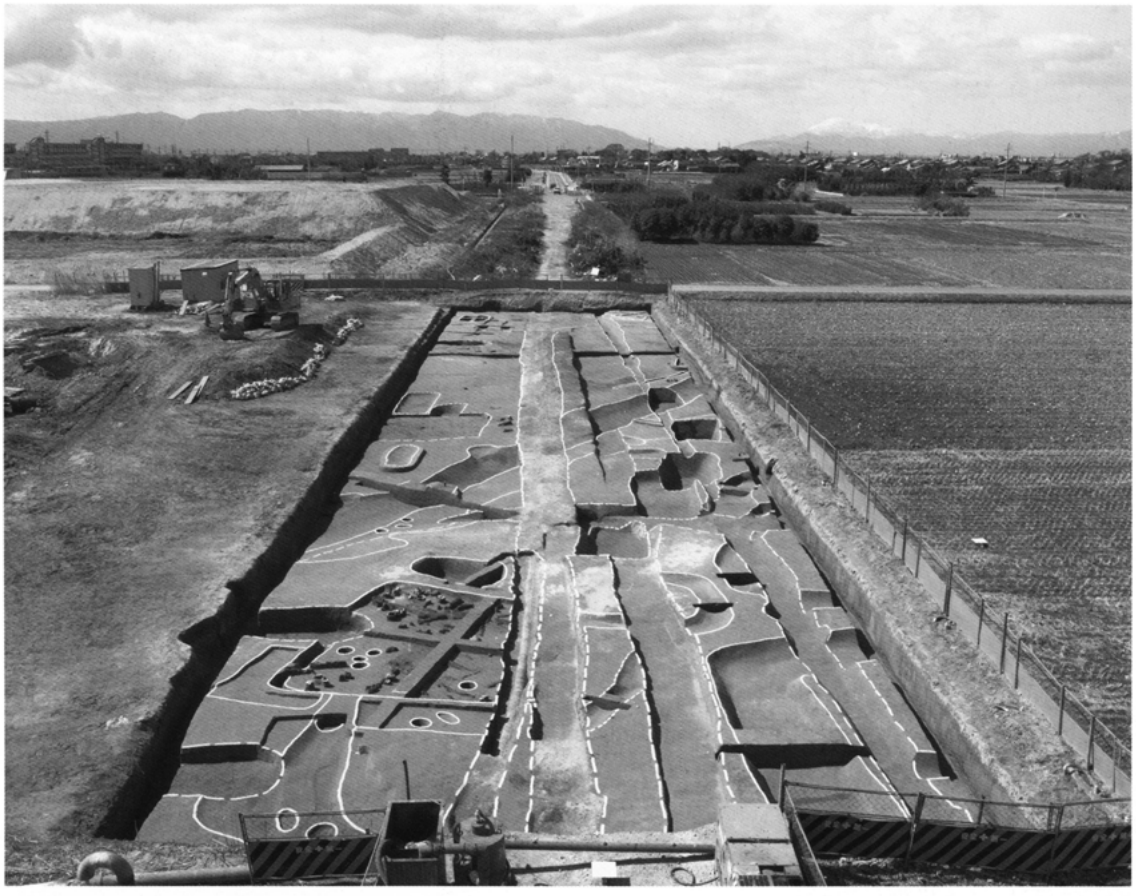
（右）
96B区
木製品出土状況
（櫂？）
南から



96C区
NR03
壺他出土状況
北から



96C区
NR03
流木・遺物
出土状況
西より



95F区
全景
東より



95F区
SB02
遺物出土状況
南より



96D区
東側部分
住居集中区
完掘状況
南西より



96D区
SB09
完掘状況
南より



96D区
SB09
炉出土状況
南より



96D区
NR06
完掘状況
南西より



96D区
NR06
木製品出土状況
北より



96D区
NR06
槽出土状況
西より



96D区
NR06
遺物出土状況
南西より



96D区
NR06
遺物出土状況
東より



93Aa区
全景
北より



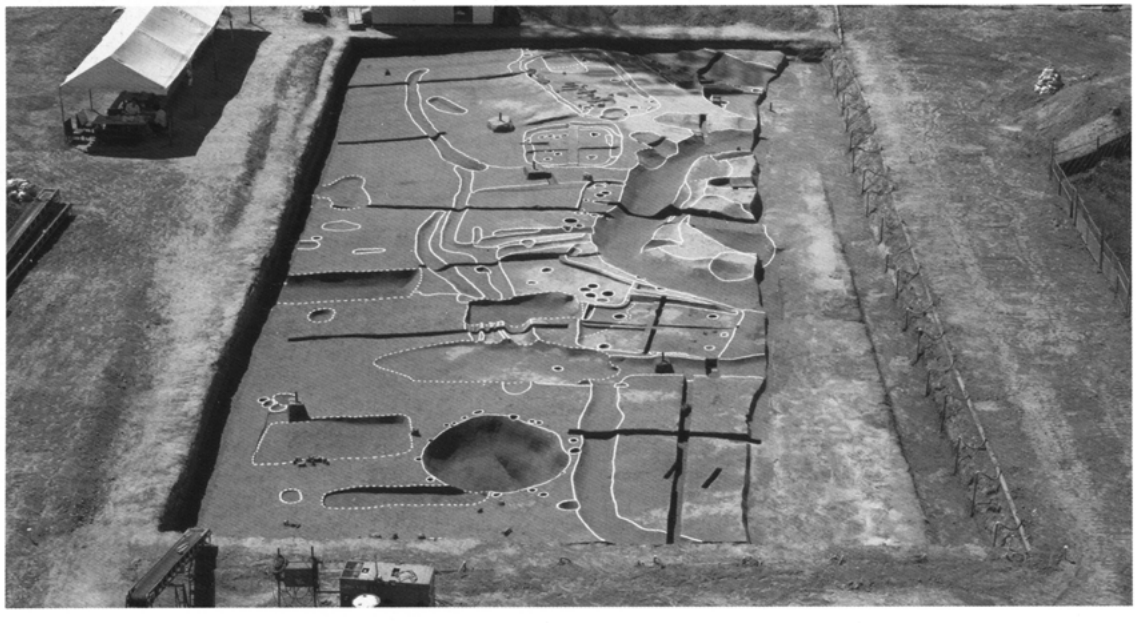
93Aa区
SK11
南より



93Aa区
SB15
東より



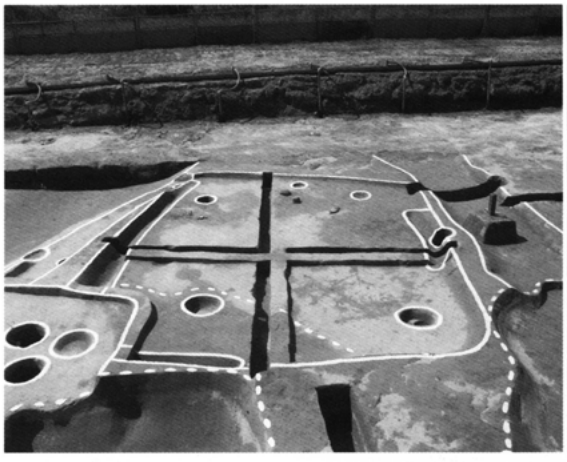
93Aa区
SB26
遺物出土状況
東より

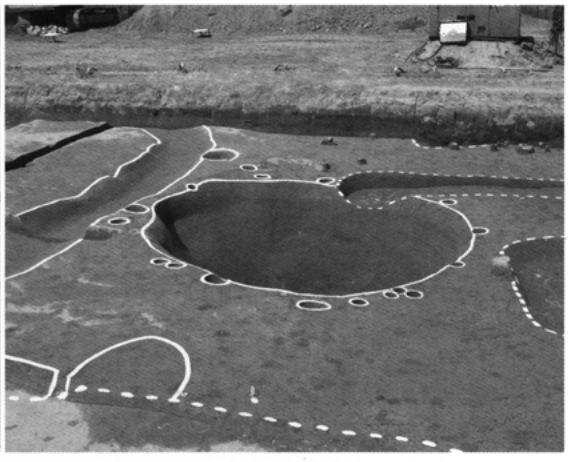


95Aa区
全景
北より



95Aa区
SB22・
23付近
南より





（左）
95Aa区
SB17
東より

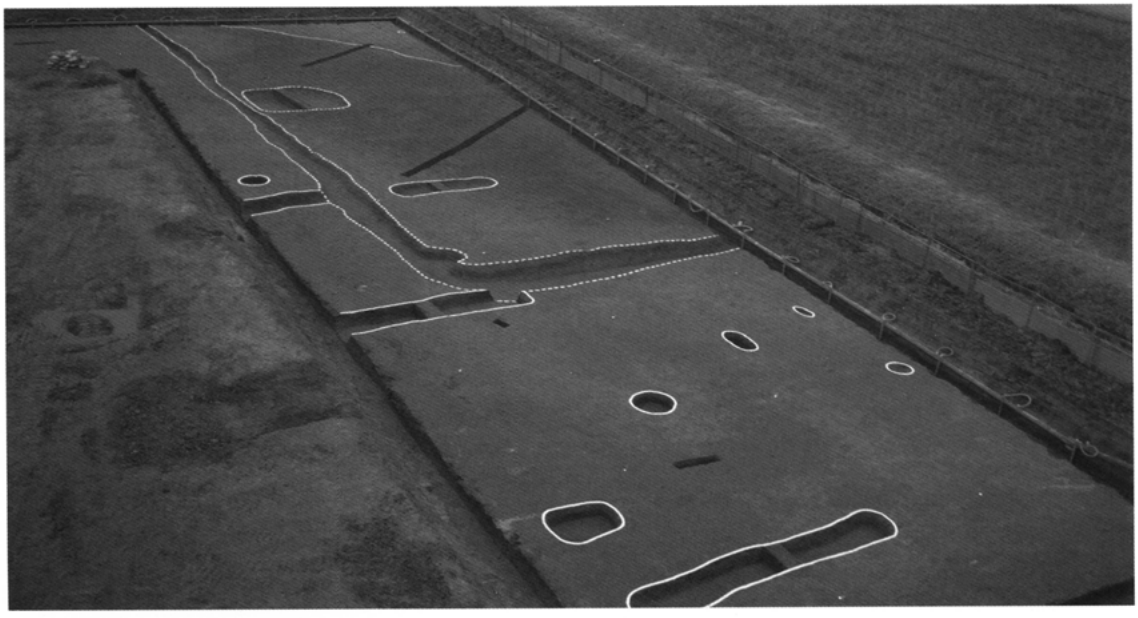
（右）
95Aa区
SE01
南より





（左）
95Aa区
SE01
遺物出土状況
東より

（右）
95Aa区
SB22
セクション
ベルト
南より



93D 区
全景
南より



93Ab 区
SZ17・SB102
北より



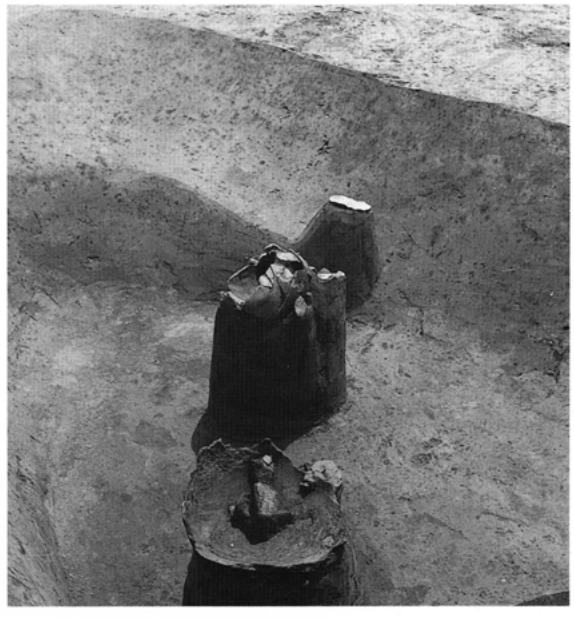
93Ba 区
SZ21 西溝
南より



95Ba区
SZ19・20
完掘状況
南より



（左）
95Ba区
SZ20b北溝
遺物出土状況
南より



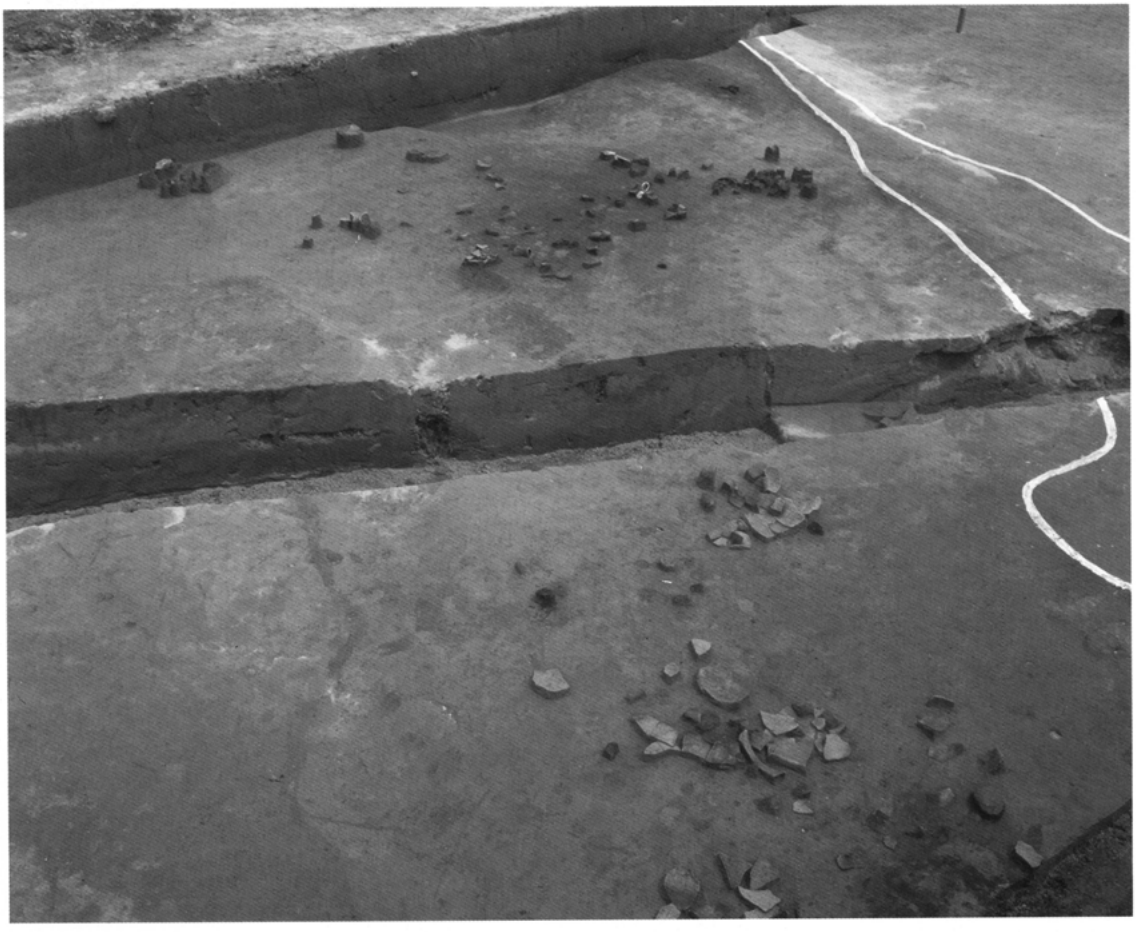
（右）
95Ba区
SZ20b西溝
遺物出土状況
北より



95E区
SZ23・24
東より



95Ca区
南側部分
95Cb区
全景
北より



95Ca区
NR08　1面
遺物出土状況
西より





（左）
95E区
SX131
セクションベルト
南より

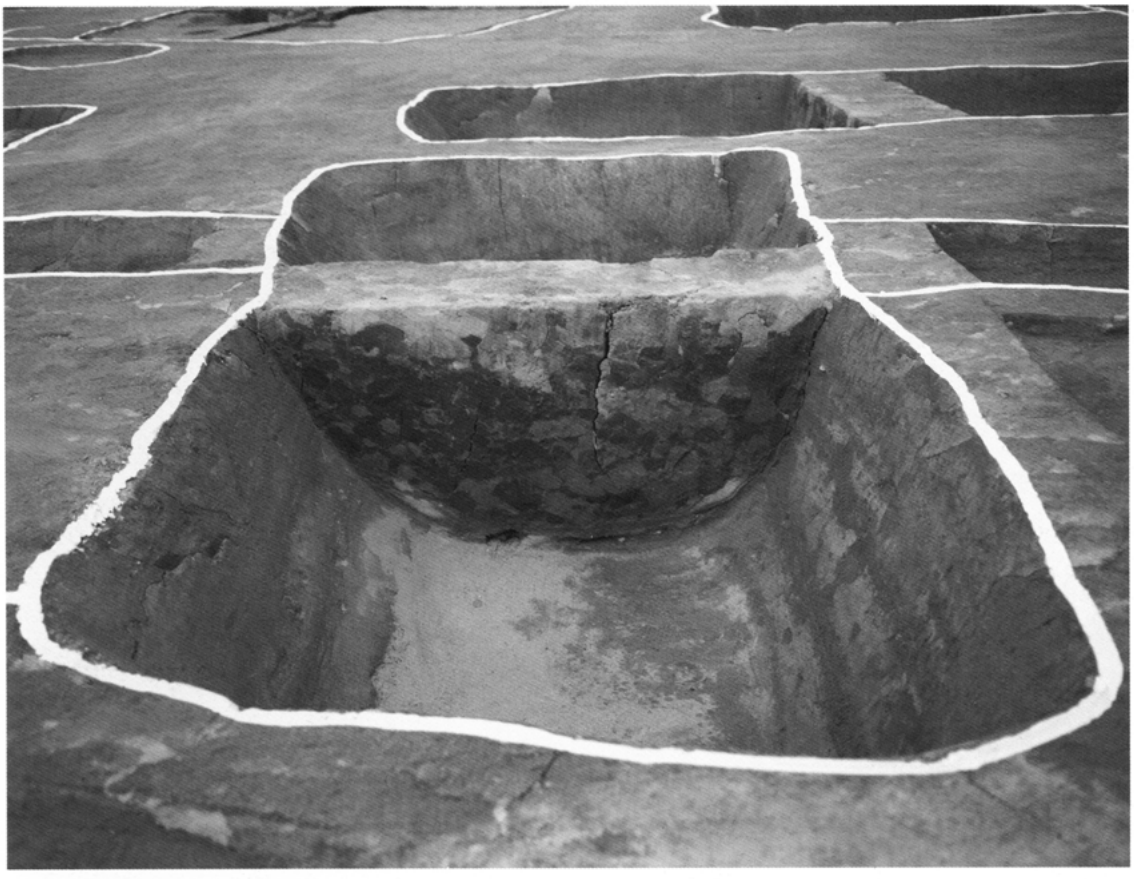
（右）
95E区
SX124
漆製品出土状況
西より



93Ca・Cb区
全景
西より



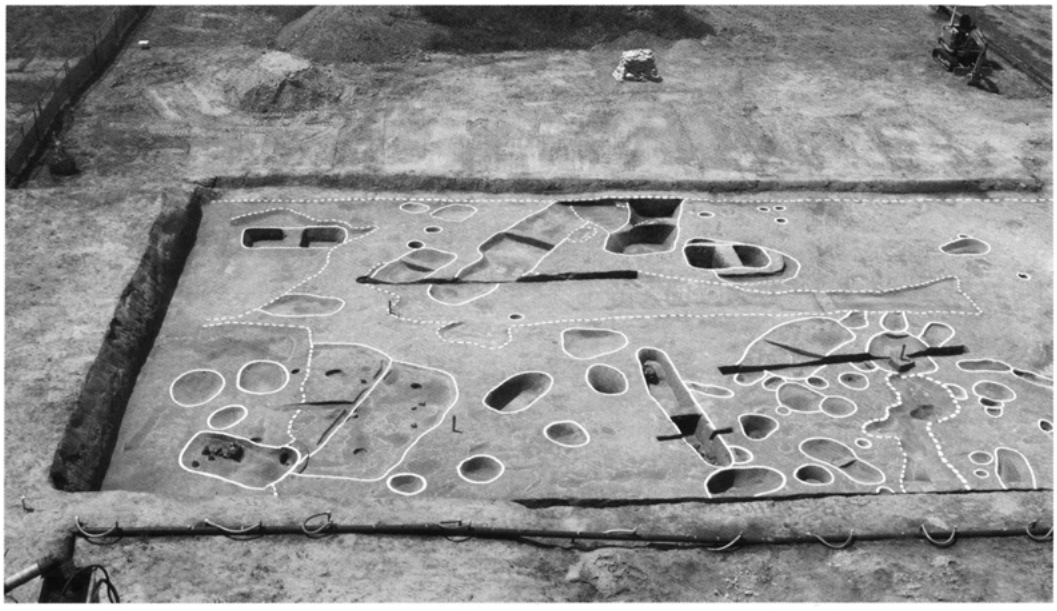
93Bb区
SX159
東より



93Bb区
SX161
南より



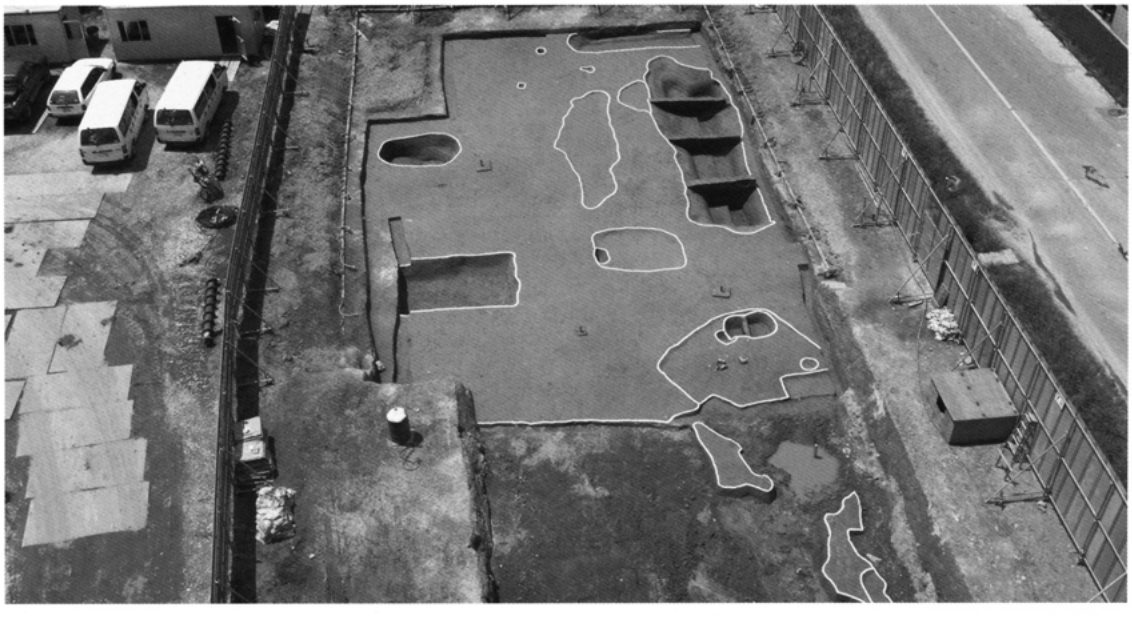
93Bb区
全景
北より



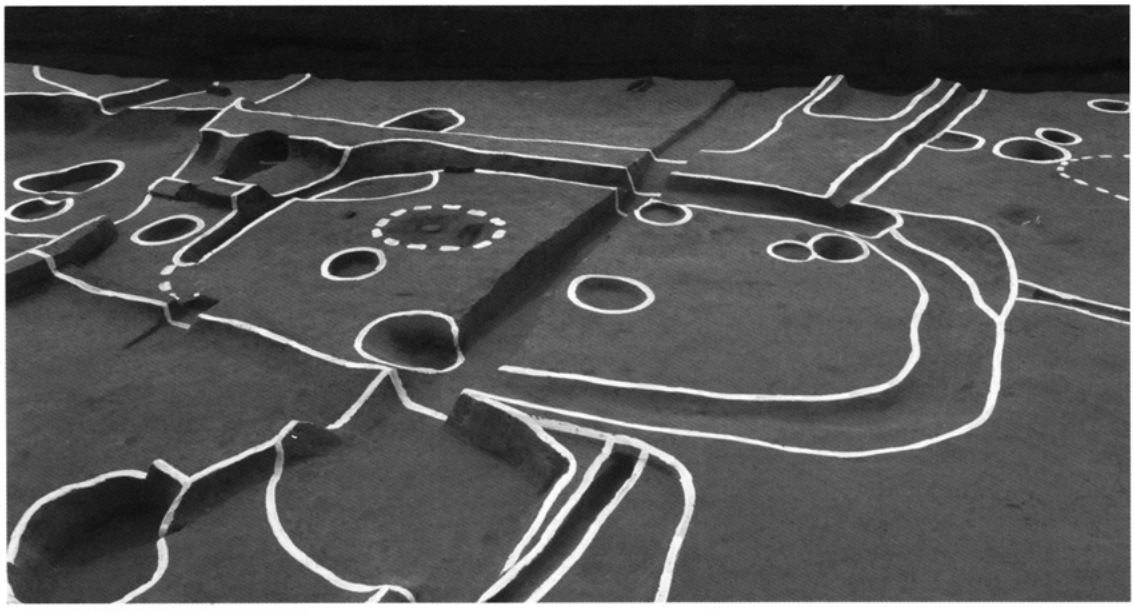
94Ca区
東側部分
北より



94F区
SK65
遺物出土状況
西より



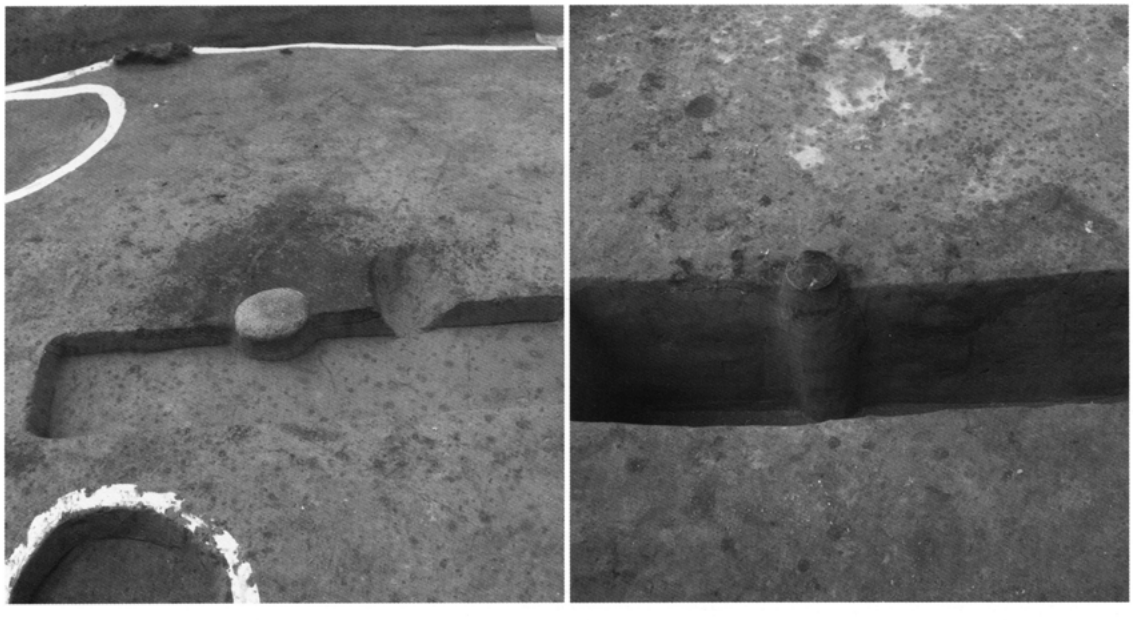
95Ca区
南側部分
北より



95Ca区
SB68
完掘状況
東より



95Ca区
SB73
遺物出土状況
西より



（左）
95Ca区
SB68
地床炉出土状況
東より

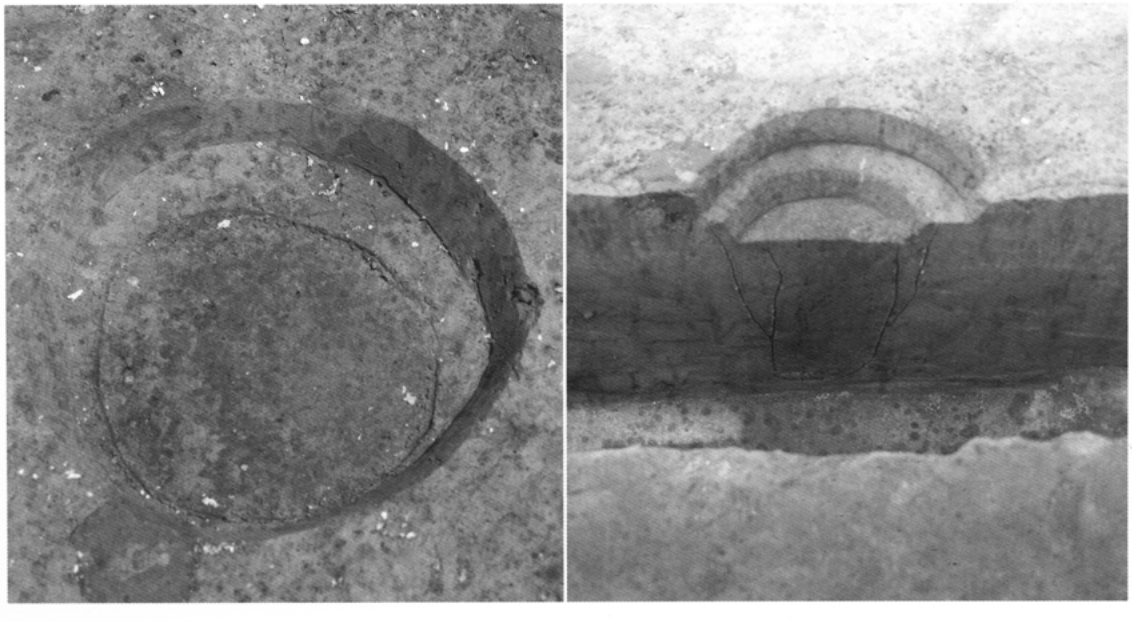
（右）
95Ca区
SB73
地床炉出土状況
東より



95Cb区
北側部分
西より

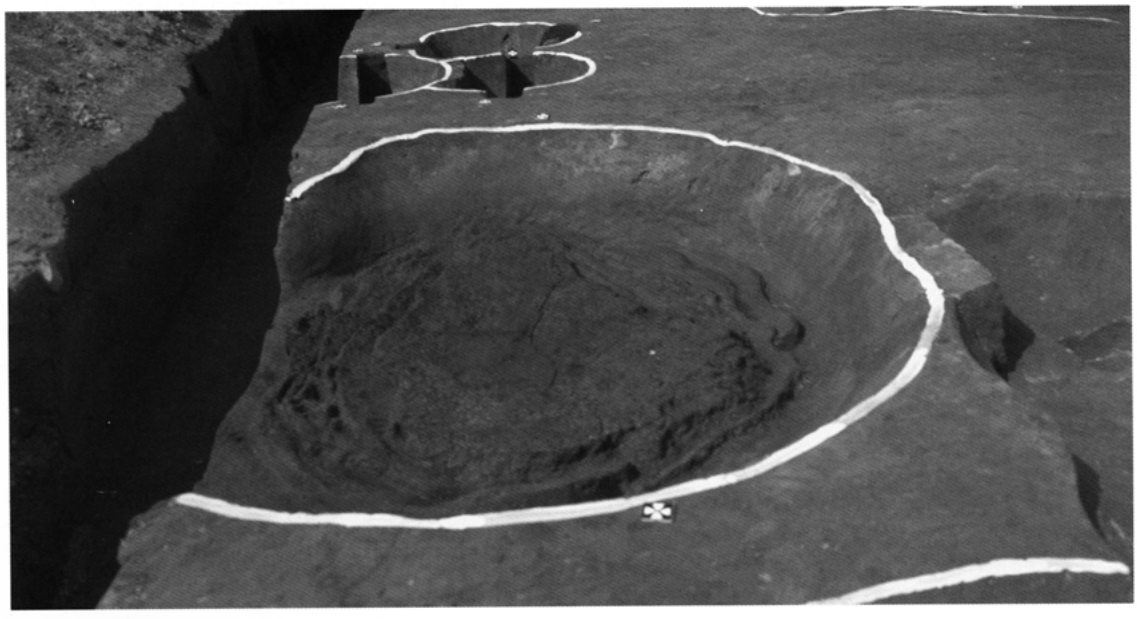


95Cb区
掘立柱建物
SB103
南より



（左）
95Cb区
SB103柱穴
南より

（右）
95Cb区
SB103柱穴
東より



96A区
SK93
完掘状況
南から



（左）
96A区
全景
南から

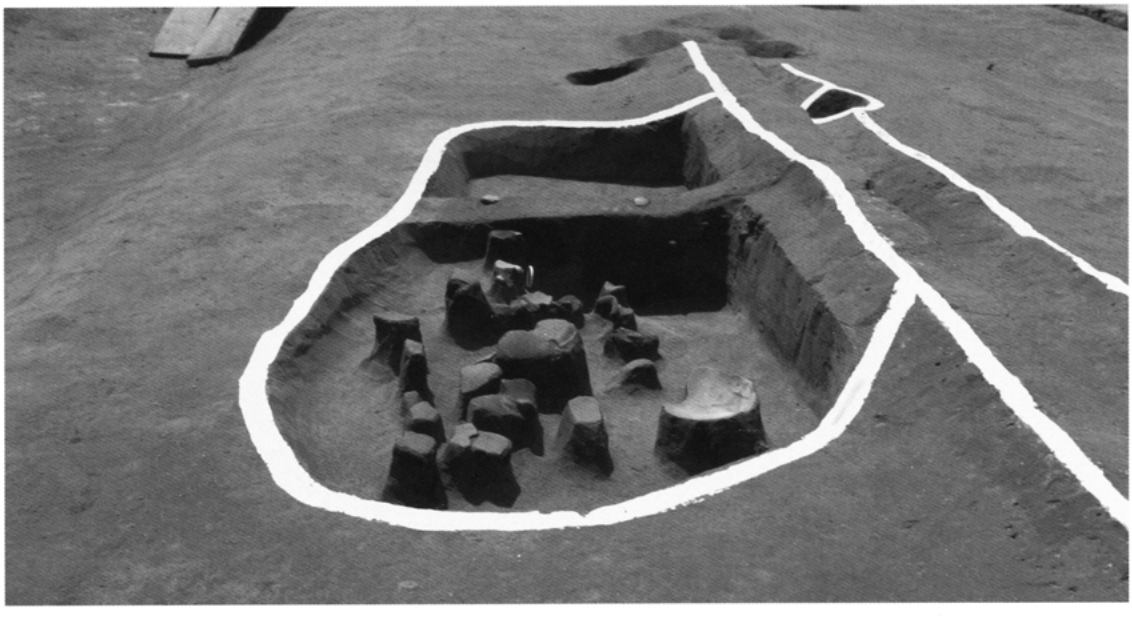
（右）
95Db区
全景
北より



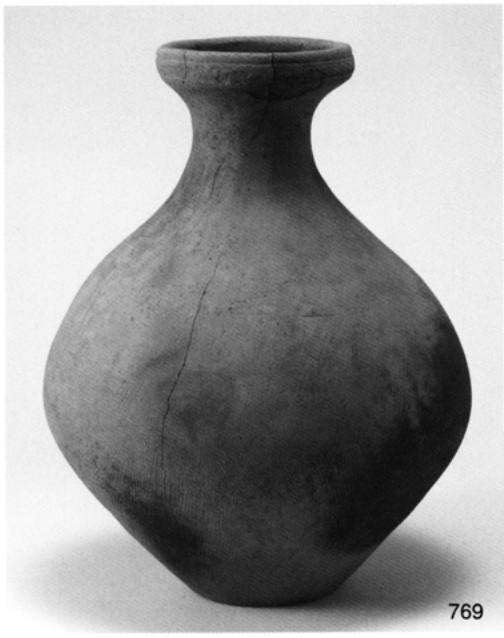
94B区
全景
南より



94Bb区
SB94
東より



94Bb区
SK96
北より


769


782

769. 細頸壺 C
782. 細頸壺 A か B


784

784. 細頸壺 C
781. 細頸壺 D


779


780

779.780 細頸壺 C


781


787


789


788

787. 太頸壺 A　788. 太頸壺 B　789. 太頸壺 C
803. 太頸鉢 A


803

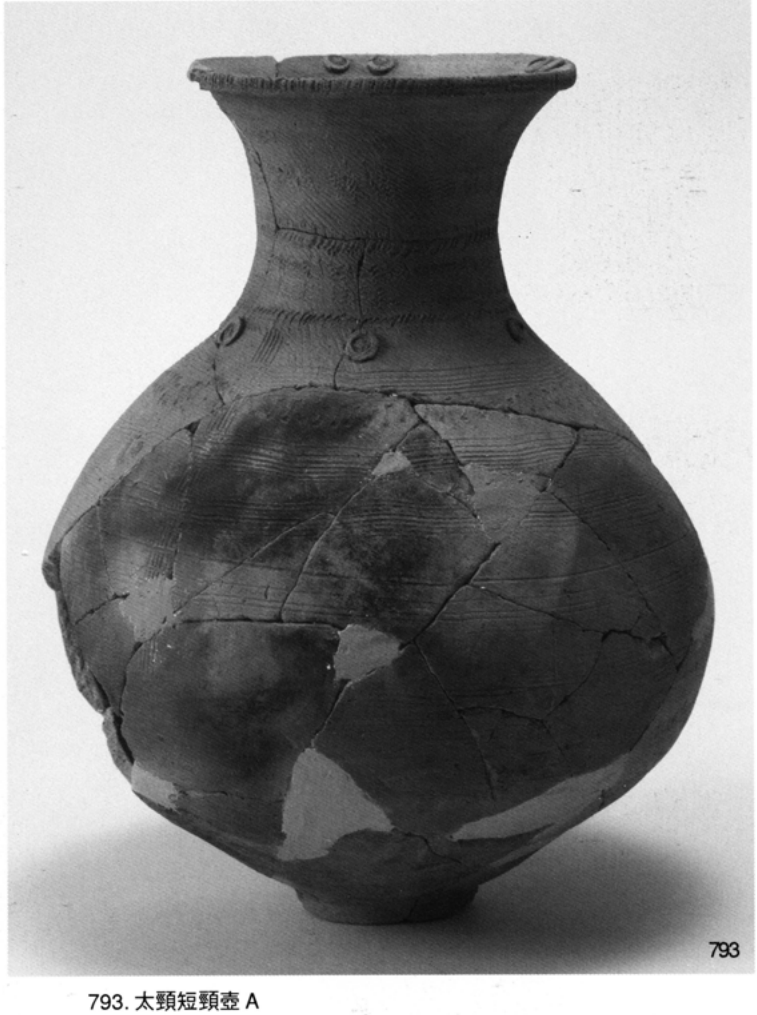




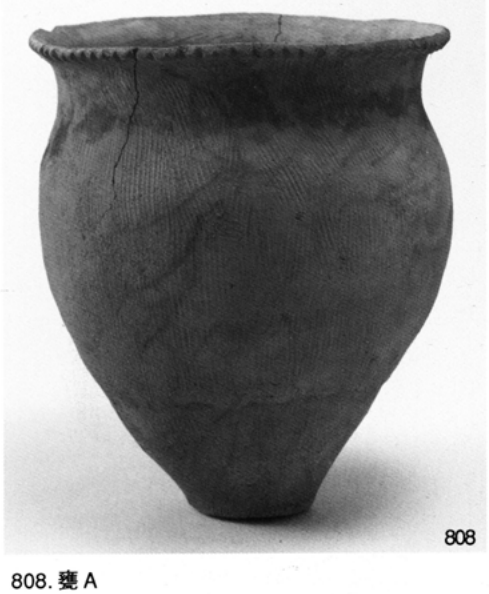
796. 太頸短頸壺 C
（丸窓土器）



811. 甕 B



793. 太頸短頸壺 A



808. 甕 A



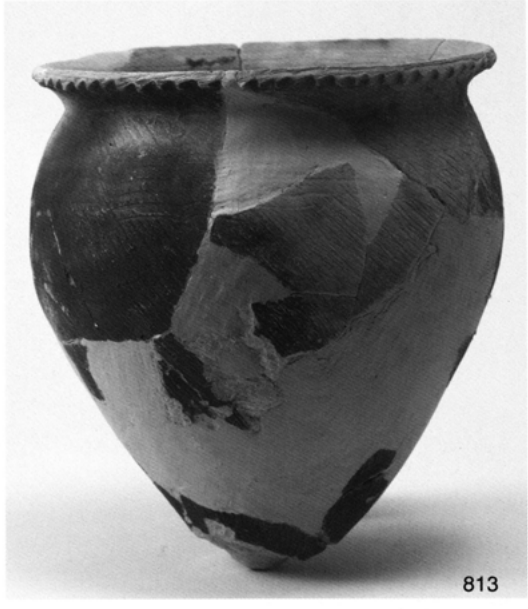
805. 有孔深鉢



807. 台付深鉢B



810. 甕A



813. 甕F



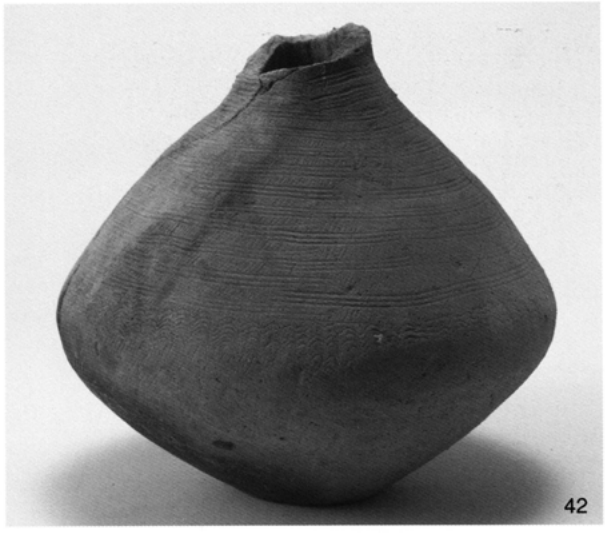
820. 甕G



814. 甕H？



45. 細頸壺 A か B



42. 細頸壺 D



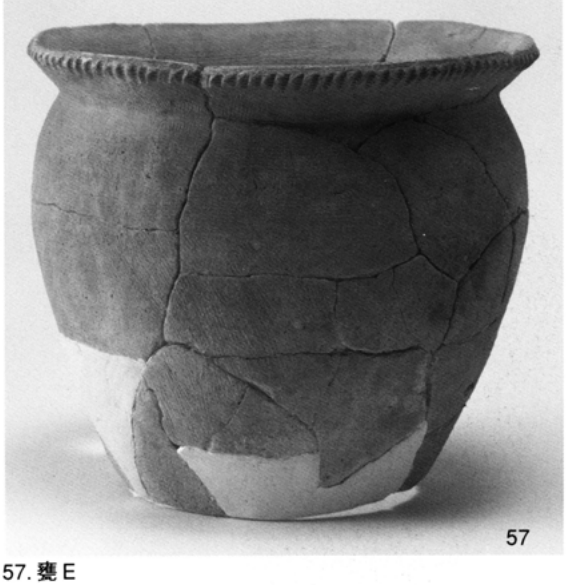
47. 太頸壺 A



50. 太頸短頸壺 D



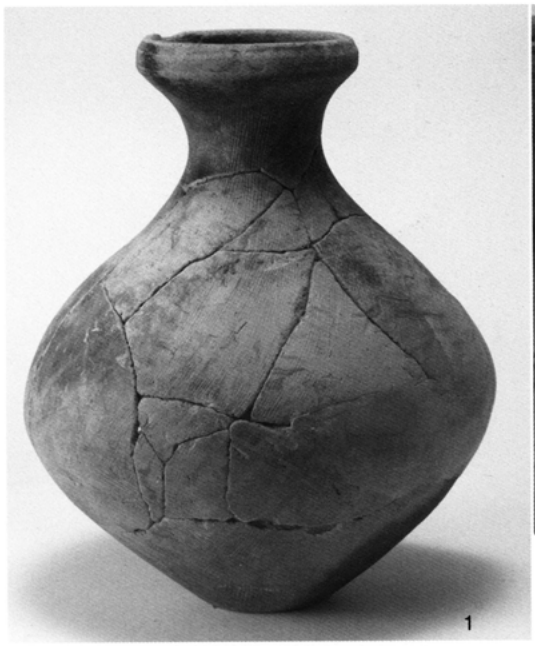
49. 太頸短頸壺 D



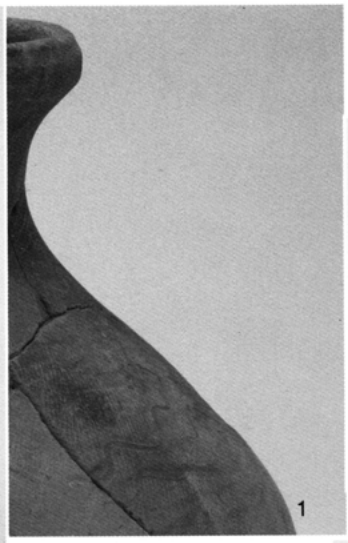
57. 甕 E

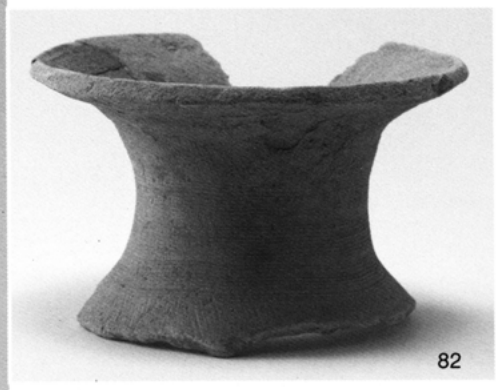


深鉢 A



1. 短頸壺 C、体部上半にヘラ描き沈線文





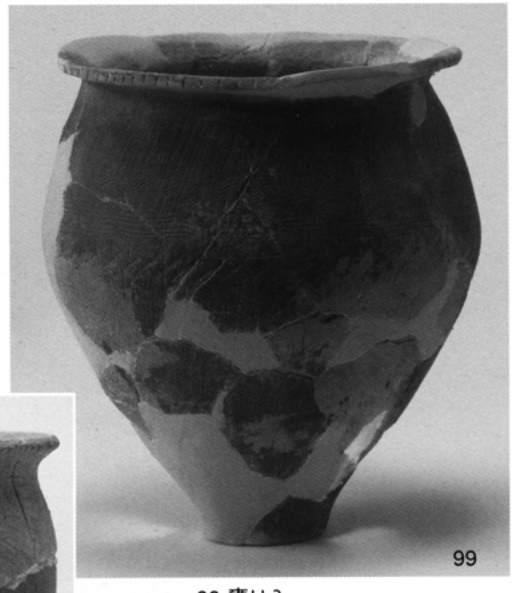
82. 太頸壺 A

5. 太頸壺 A



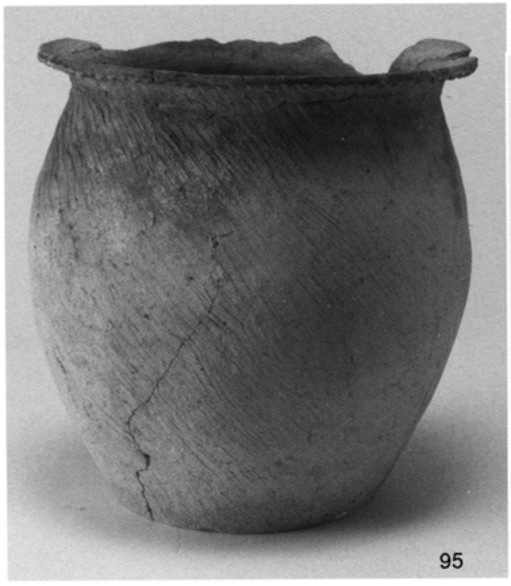


89. 太頸短頸壺 F



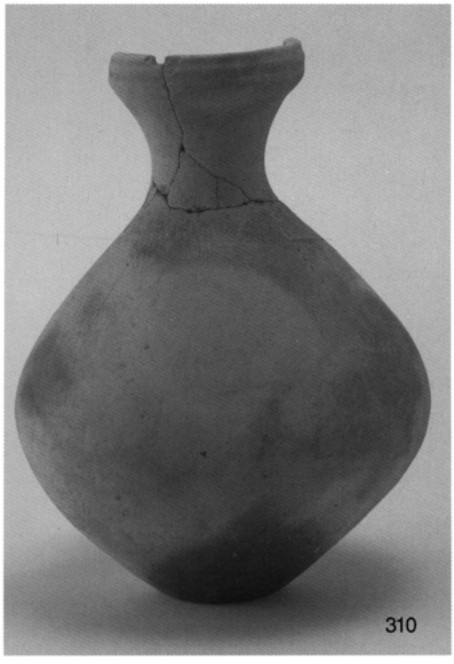
99. 甕 H ?

95. 甕 B





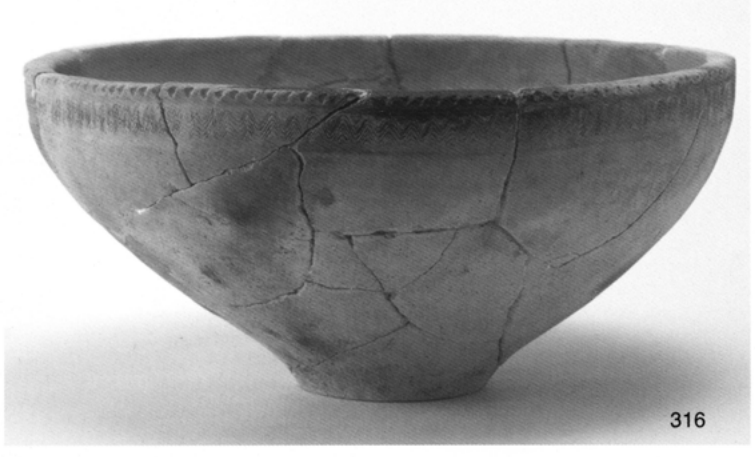
96. 甕 C



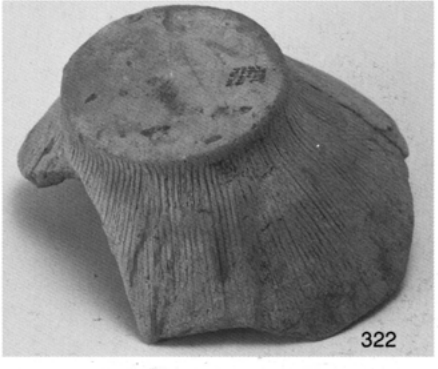
310. 細頸壺 C



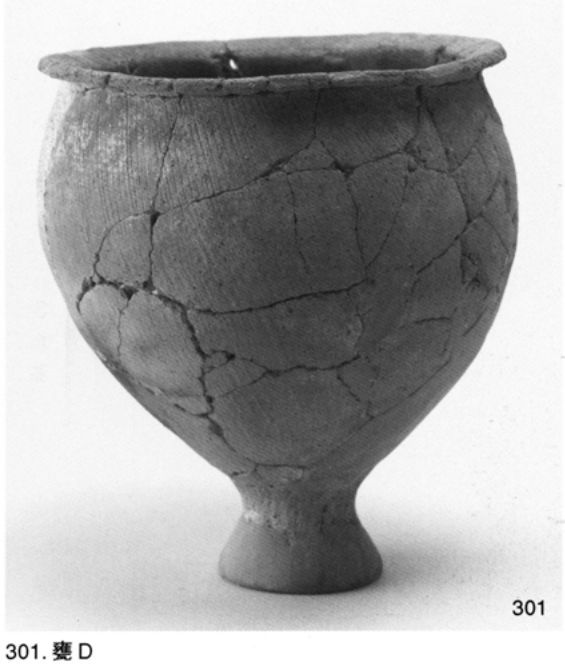
280. 甕 E



316. 鉢 B



322.SB73 炉台土器、甕



301. 甕 D



317. 太頸短頸壺 F



272. 太頸壺 H



965. 太頸壺 G



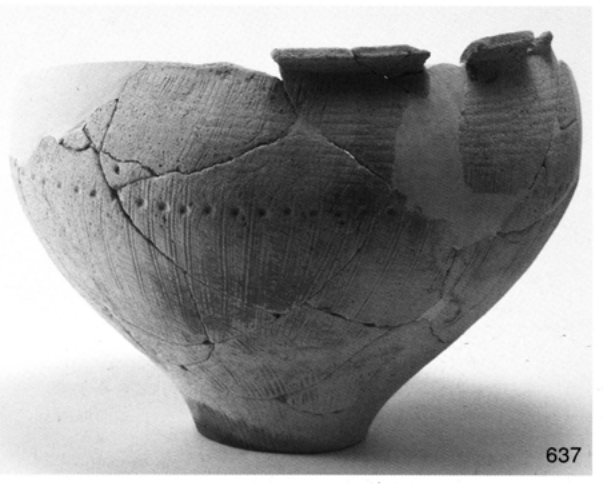
19. 太頸短頸壺 G



386. 太頸壺 G



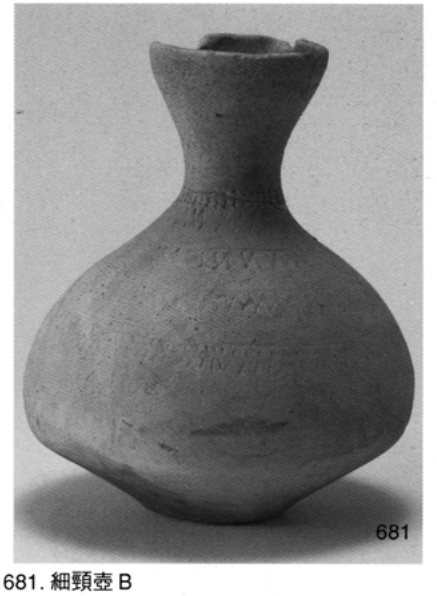
851. 太頸壺 D



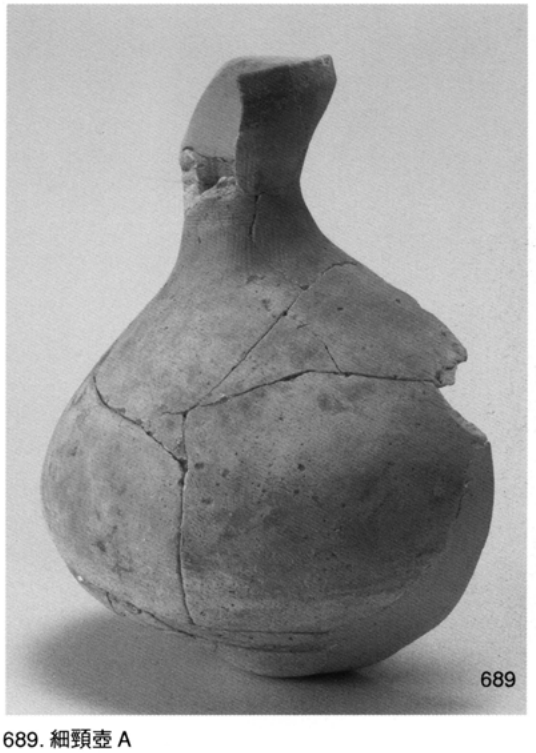
637. 大型鉢 B



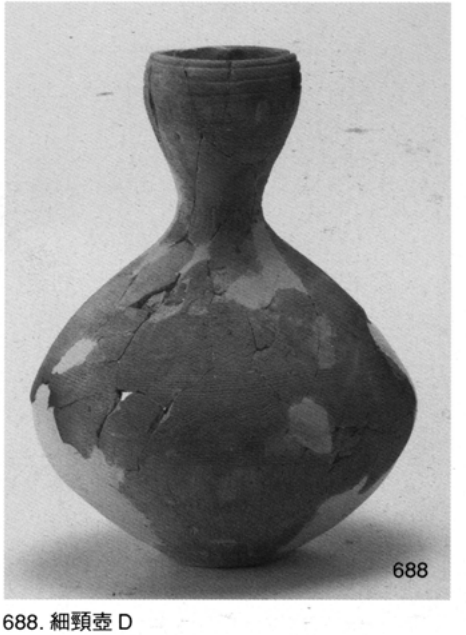
626. 無頸壺 A



681. 細頸壺 B



689. 細頸壺 A



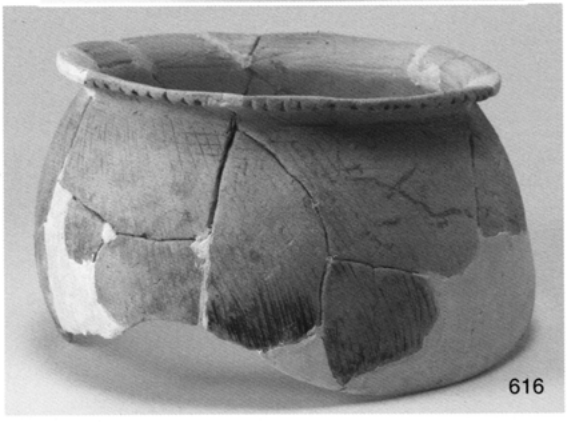
688. 細頸壺 D



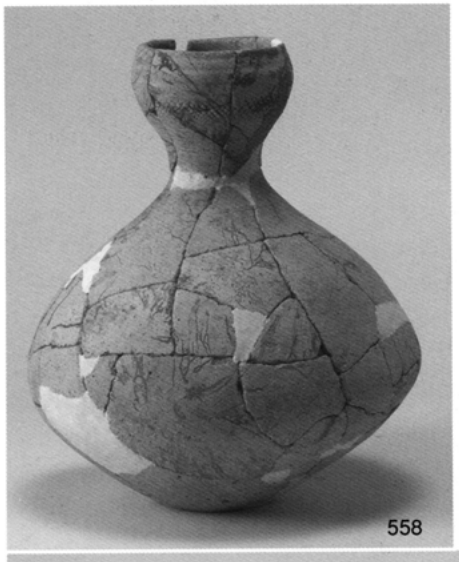
845. 細頸壺 A



615. 甕 F



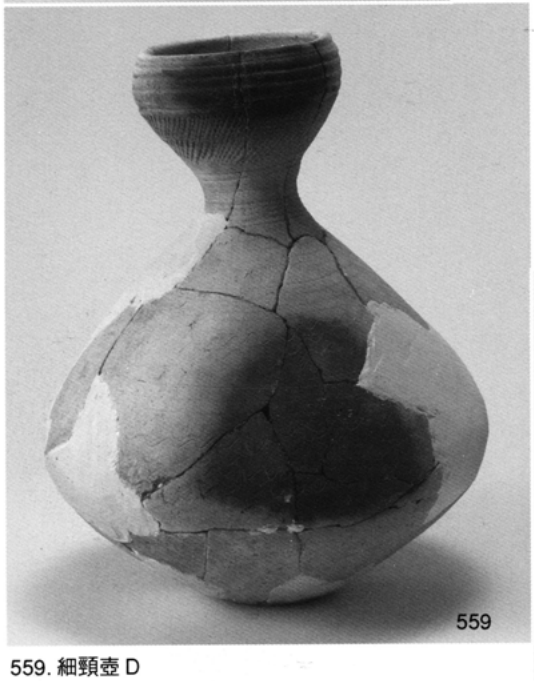
616. 甕 F



558 細頸壺 D



574. 甕 D



559. 細頸壺 D



571. 大型鉢 A


647

647. 細頸壺 C（台付）


650

650. 太頸短頸壺 D


875

875. 細頸壺 C


877

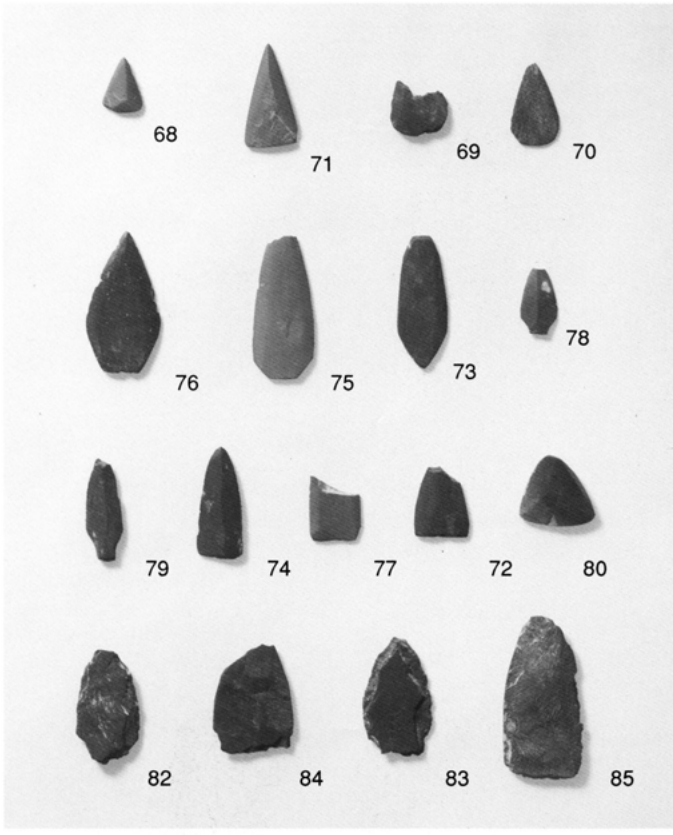
877. 細頸壺 C

880. 大型鉢 B

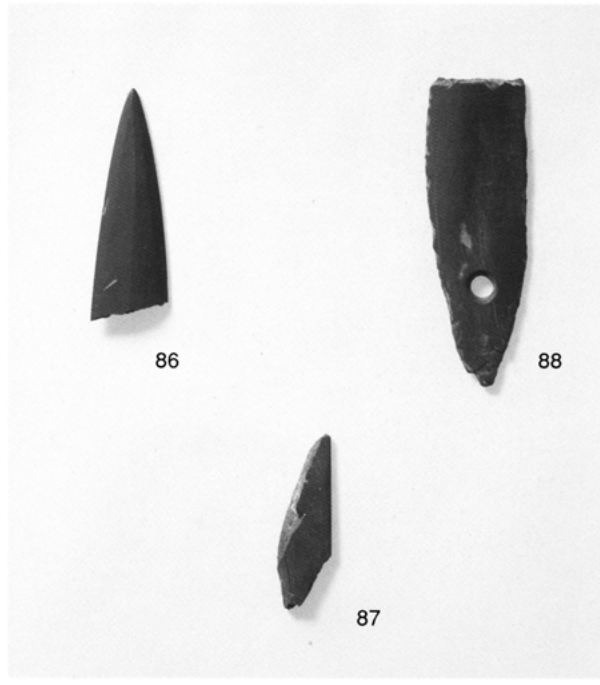

886

886. 甕 H


880

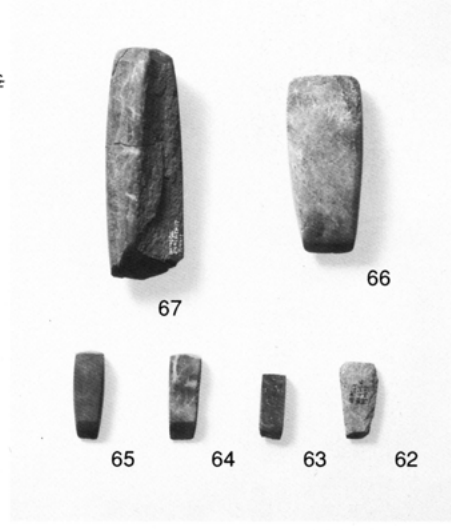


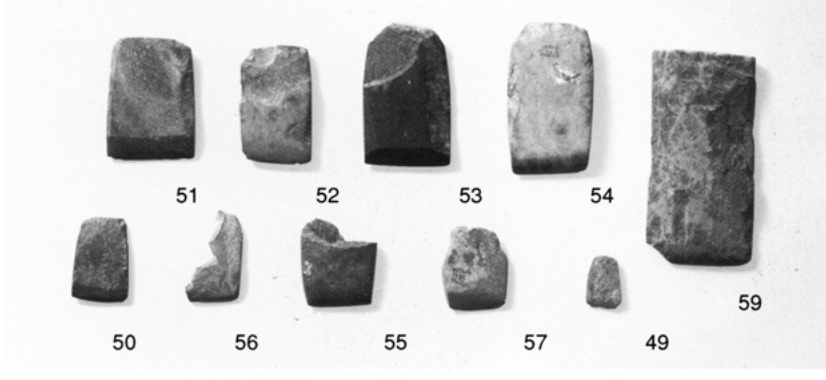
68～79. 磨製石鏃、80・82～85. 磨製石鏃未製品



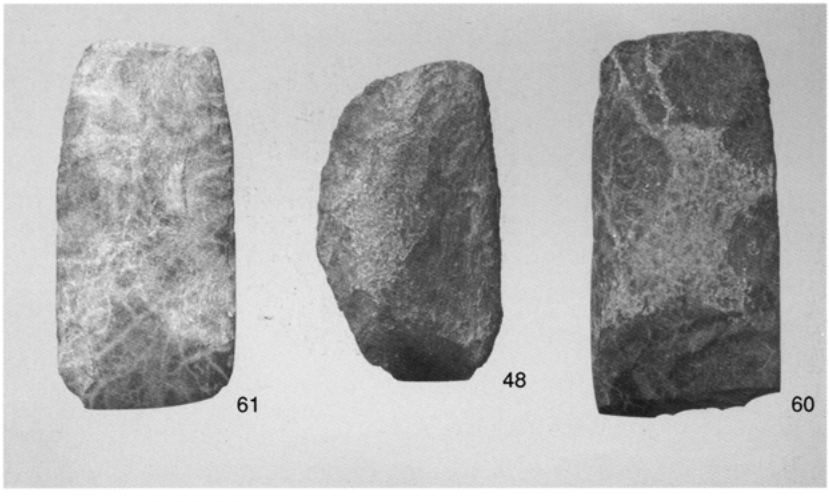
86～88. 磨製石剣

62～67.
磨製柱状片刃石斧

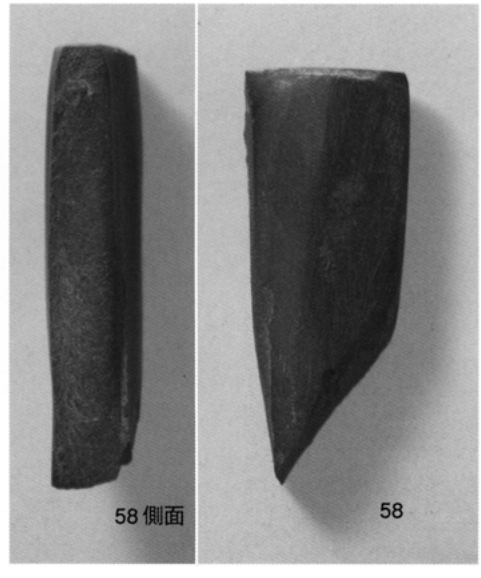




49～57・59. 磨製偏平片刃石斧



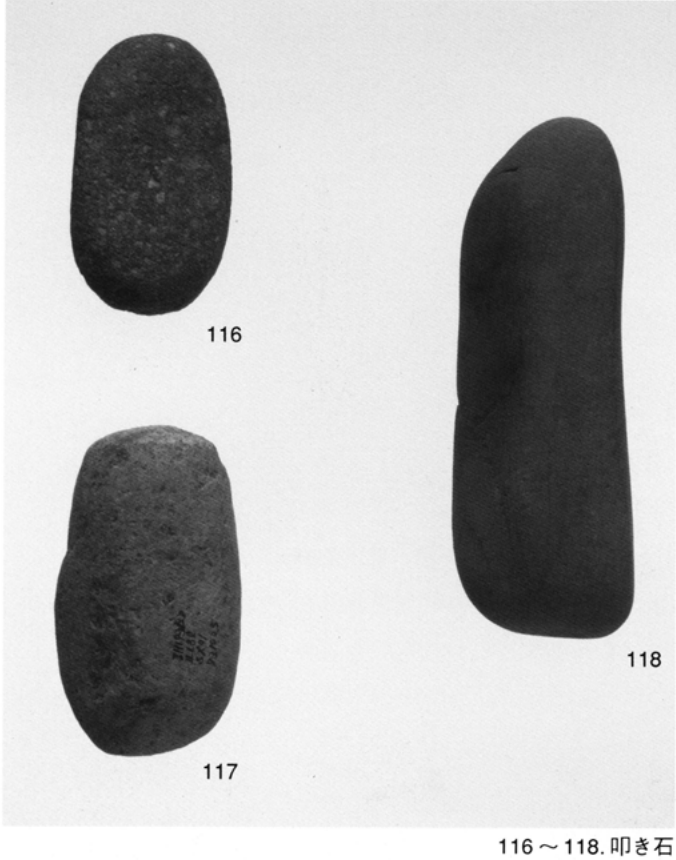
48・60・61. 磨製偏平片刃石斧



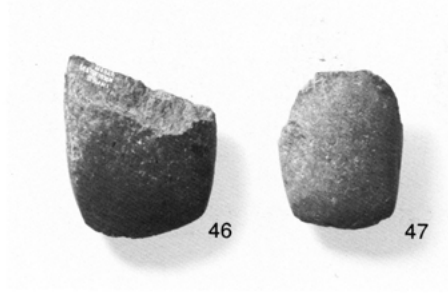
58. 磨製柱状片刃石斧



43～45. 磨製両刃石斧
93. 磨製石斧から敲打具への転用品

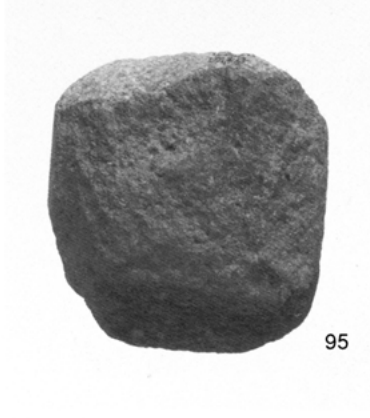


116～118. 叩き石



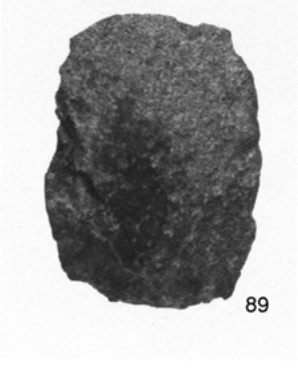
46・47. 磨製両刃石斧





95・96. 敲打具

89. 磨製石斧未製品

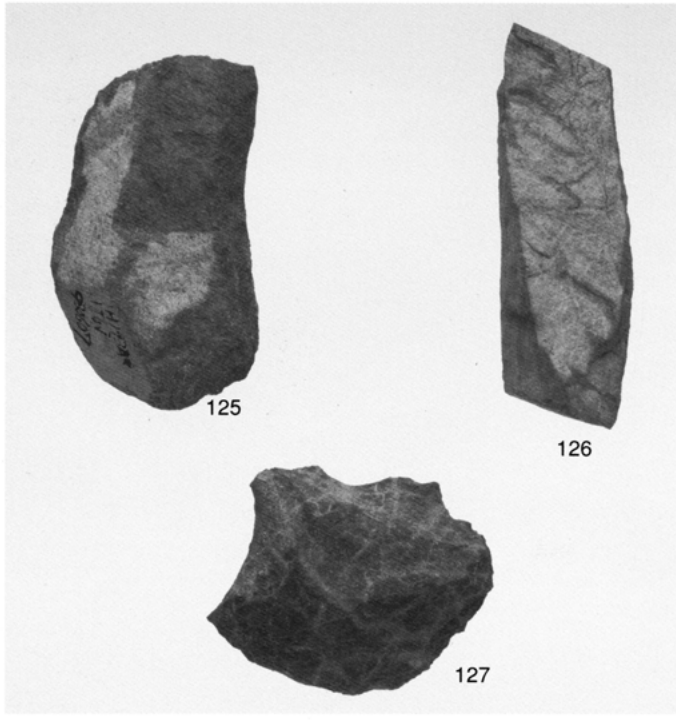




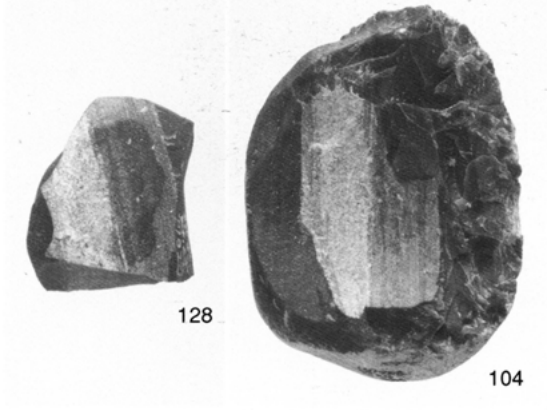
81. 磨製石鏃未製品



97. 磨製石器未製品、石材はハイアロクラスタイト

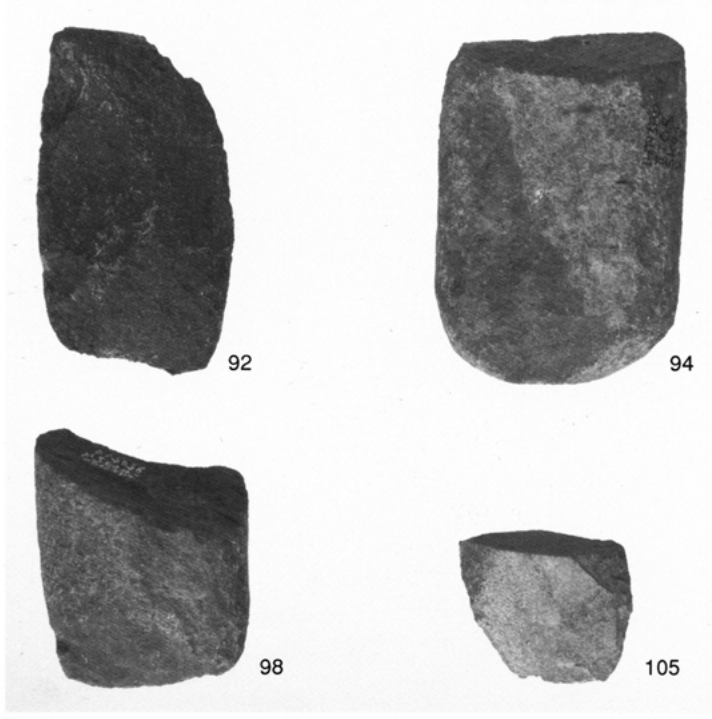


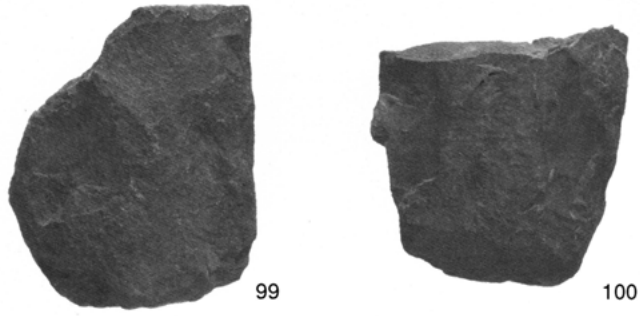
125～127.
磨製石器の未製品
・剥片、全てハイアロクラスタイト



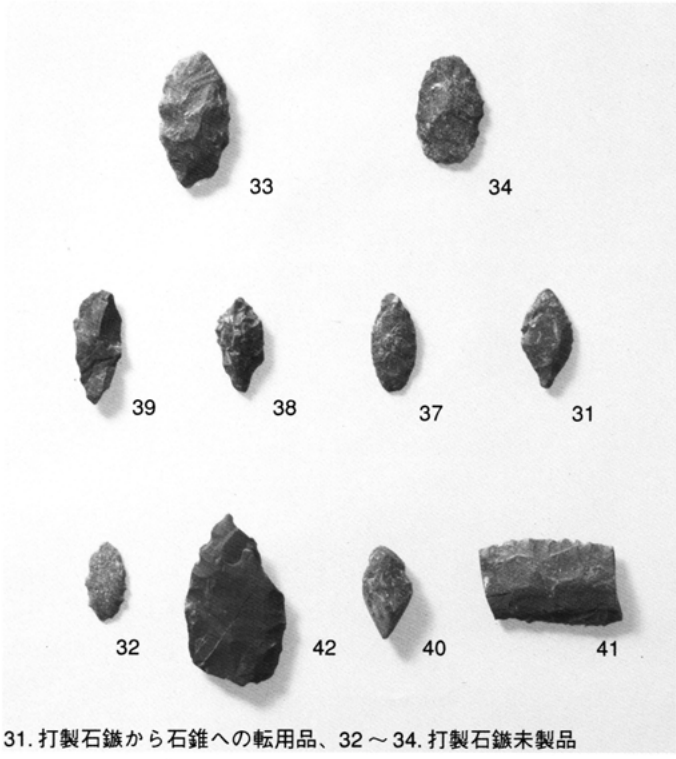


104・128. 下呂石石核、接合する（下）

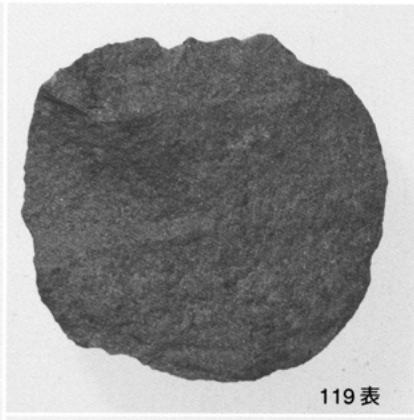




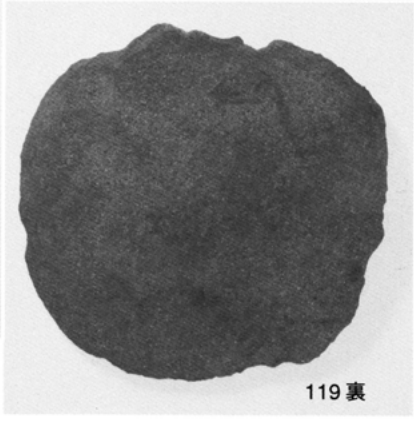
92・98～100. 磨製石斧未製品、105. 下呂石石刻片
94. 磨製石斧未製品から敲打具への転用品

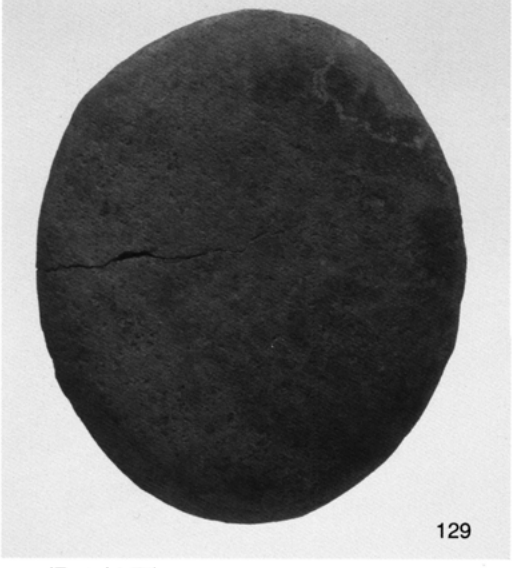


31. 打製石鏃から石錐への転用品、32～34. 打製石鏃未製品
37～40. 打製石錐、41. 打製石小刀、42. 打製尖頭器

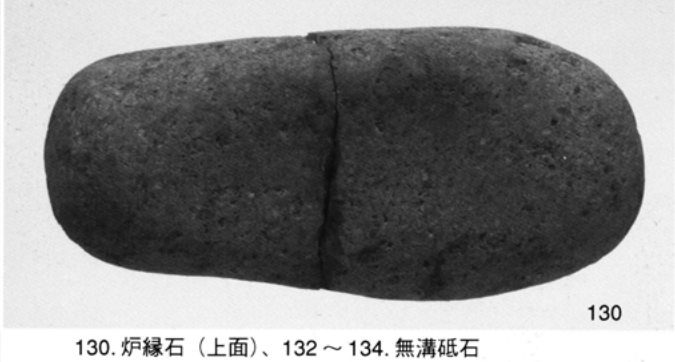


119. 粗製剥片石器

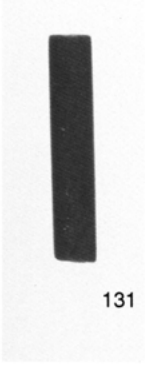




129. 炉石（上面）

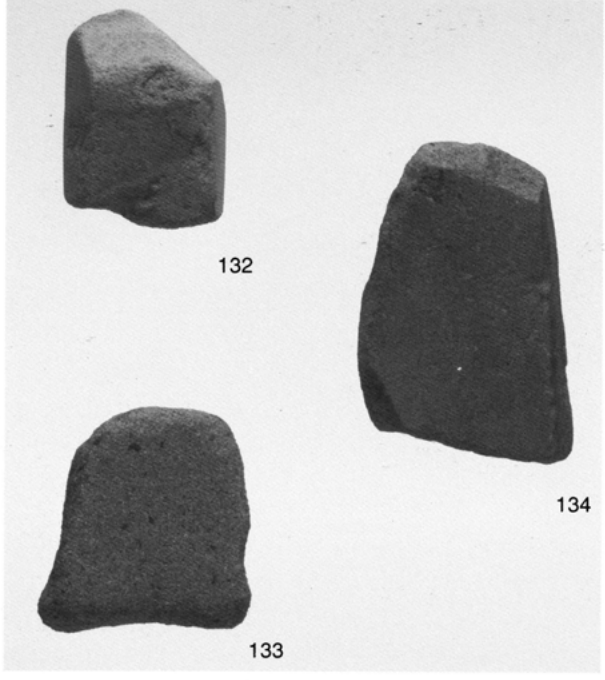


130. 炉縁石（上面）、132～134. 無溝砥石



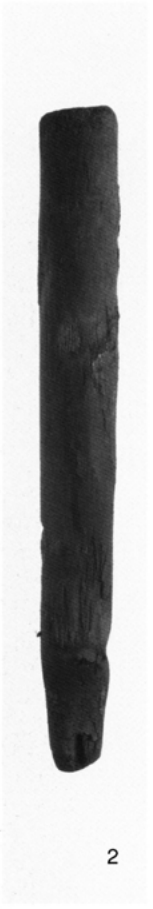
131. 管玉







1



2



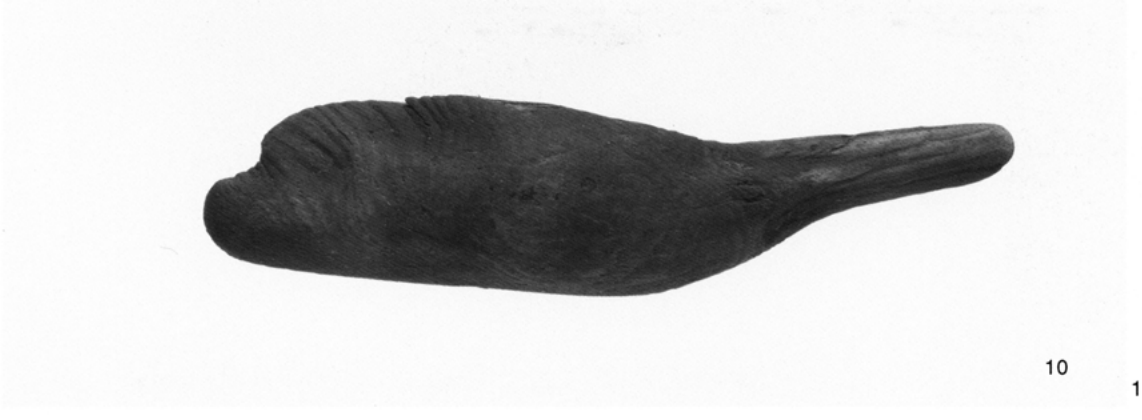
3

1. 直柄狭鍬
2. 鍬直柄
3. 広鍬未製品



6

6. 梯子



10

10. 杓子未製品？



11



16



20



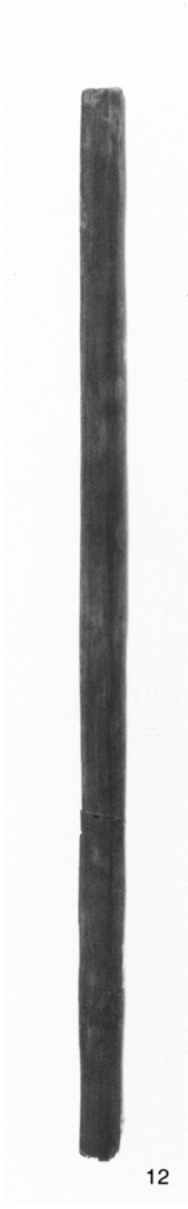
18

11. 縦斧柄未製品
16. 櫂
20. 櫂
18. 加工板



9

9. 把手



12



17

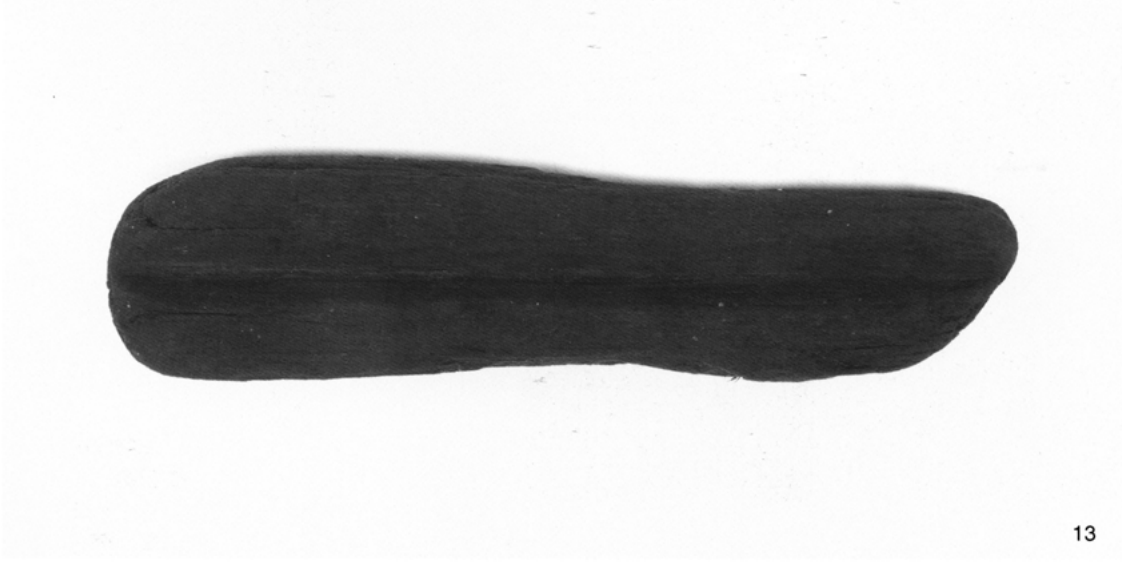


19



21

12. 棒
17. 棒
19. 棒
21. 板材



13

13. 用途不明品



22裏

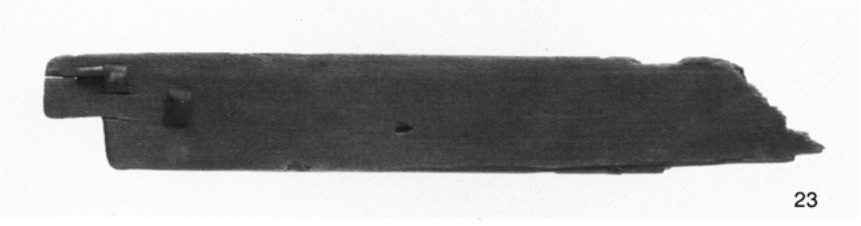


22表

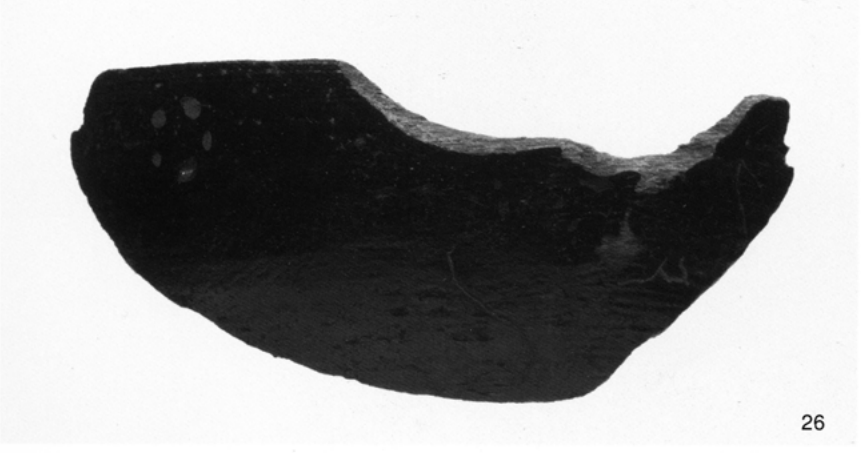


24

22. 下駄
24. 曲物蓋



23



26



31



27

23. 曲物側板
26. 漆椀
27. 火きり臼
31. 加工板

4. 弥生時代の遺構

蔭山誠一

(1) 竪穴住居

（第1図～第18図、第1表・第2表）

竪穴住居　竪穴住居としたのは94棟で、遺物や家屋の焼失した炭化材が出土したものはもちろんであるが、やや大型の平面方形状で掘り方断面が平底のもの、幅10～20cm、深さ数cm程の細い溝に囲まれたものについても竪穴住居として分類した。そのため大小さまざまなものがあり、すべてが住いとしての家屋とは限らないし、遺物がほとんど出土しないものも多数あった。

分　　布　竪穴住居は北調査区にある95Ｆ区5棟・96Ｄ区5棟、東調査区にある93Ａａ区8棟・95Ａａ区9棟・95Ｂａ区22棟・95Ｂｃ区1棟・95Ｅ区13棟、南調査区にある94Ｃａ区1棟・93Ｂｂ区1棟・95Ｃｃ区1棟、西1・2調査区にある95Ｃａ区11棟・95Ｃｂ区15棟・96Ａ区2棟・94Ｂｂ区1棟で弥生時代の微高地が残存していた部分に多数検出されている。これは見掛けの分布であって、本来は発掘調査を行い弥生時代の遺構が検出された部分においては重なるように建てられたものと思われる。そうした中で竪穴住居が希薄と思われるのは94Ａｅ区から96Ｄ区、96Ｂ区・96Ｃ区・94Ａａ区、93Ｃａ区南側・93Ｃｂ区南側・94Ｄｃ区・95Ｃｃ区・94Ｄｂ区、95Ｃｂ区南側・95Ｄｂ区・96Ａ区の4つの地域においては弥生時代においても低い部分にあたり住居が少なかったと思われる。しかしＳＢ65のように遺跡の南側においても竪穴住居が検出される可能性があり、遺跡の南側においても密集はしないものの散在する形で存在した可能性は高い。

平面形態　平面形態がある程度判明するものでは、方形3棟、隅丸方形18棟、隅丸長方形13棟、胴張長方形3棟とやや方形のものが多い。平面形態の違いは時期差や系統差、居住者の階層差などを反映したものと思われ、一色青海遺跡では方形の住居の後に長方形の住居が建てられ重複する場合に限られるので、住居形態の時間的変化が反映しているものと考えられる。

竪穴住居の柱穴　住居の屋根を支えた支柱穴の配置についてであるが、満足に4本ずつ一定のパターンで検出されたものは存在しておらず、調査段階での不備はあるものの不明瞭といったほうが良い。また竪穴住居内において検出されたピット数には0個から12個まで幅広いが、ＳＢ23やＳＢ66のように比較的大型の住居において多数のピットが検出される傾向があり、また相対的に平面方形の住居より長方形の住居が大型でピット数が多い。しかしピットの深さについてはＳＢ09で検出された35cmのものが最も深く、中心は深さ15cm前後にある。またＳＢ18・ＳＢ21・ＳＢ28などの住居では、壁際や壁溝の内部に検出されるピットがある。住居内を全周するものはないが、径5cm～15cm程で深さも5cm～10cm程と小さいものである。

壁　　溝　いわゆる竪穴住居の周溝と呼ばれるも

のであるが幅は5㎝～30㎝程と幅がある。深さについては5㎝～10㎝前後である。壁溝としての痕跡では壁溝の埋土部分がやや粘質であるものが多かった点とＳＢ22住居土層断面において東辺の壁板が壁溝から倒れた状態で50㎝程残存していた点が確認された。壁溝は全周するもの（ＳＢ02・ＳＢ13・ＳＢ68など）と部分的に巡るもの（ＳＢ06・ＳＢ07・ＳＢ23・ＳＢ82など）がある。部分的に巡るものでは住居の南側を中心に巡るものが多かった。また壁溝が2重や3重で巡るものについては住居が拡張されたり・縮小された建て替えの痕跡と考えられ、ＳＢ09で2回、ＳＢ73で1回の建て替えがみられる。ＳＢ09では縮小されたようにもみえるが、残存していた炉の位置からは2回拡張建て替えされたものと考えられ、ＳＢ73も拡張建て替えが行なわれた。

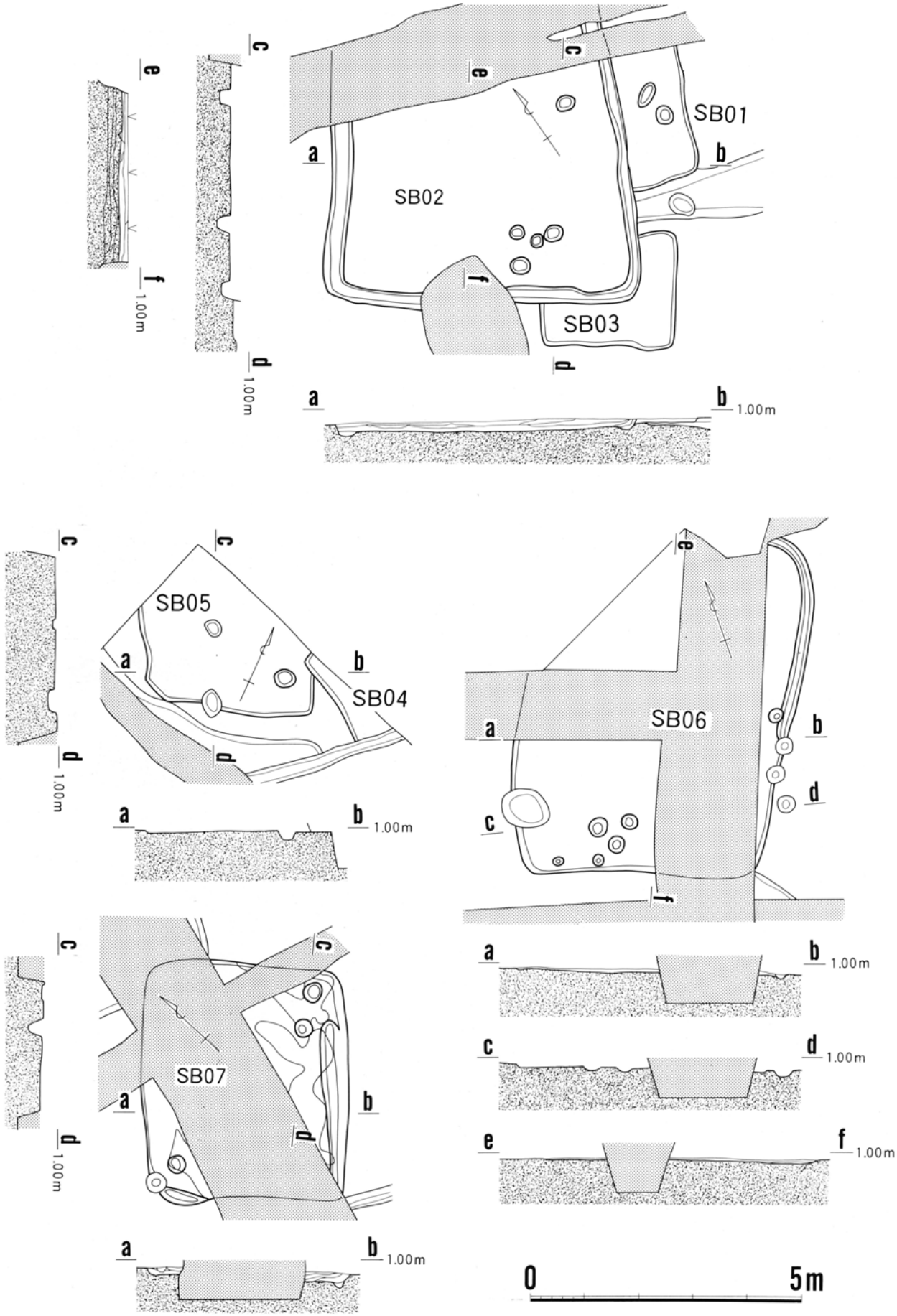
炉の形態と位置　あまり残存していた例は多くないが、地床炉8棟、地床炉＋炉石2棟、地床炉＋炉台土器1棟、石置炉＋炉台土器1棟がみられ、石置炉に炉台土器が伴う例が確認された初例で、炉縁石と炉台土器・炉石が伴うことを実証したものである。炉縁石は地床炉の住居内側に置かれ、炉台土器・炉石は地床炉の中央付近で据えられていた。地床炉の断面を断ち割ったものの観察からすれば、炉石などを据える分の深さだけ掘り込むものもあるが、炉の検出状況からすると使用中の炉は床面から高い位置で平坦かやや盛り上げたところを火床としていたものと思われる。1つ興味深い炉は、ＳＢ73の地床炉に炉台土器をおいたもので炉台土器の住居内側を40㎝程掘り凹めた痕跡が残っていた。埋土に炭粒が多く含まれていたことからすると灰のかき取りや炉の下部からの湿気の上がる毛管現象を絶ち切るための所作とも考えられるものである。炉の位置では住居中央に設けられるものが3例、やや偏在するもの6例、壁際にあるもの2例で、方角では南に偏在して設けられるものが6例と多い。

床面標高　残存している住居床面の高さは相対的に当時の地表面の高さを反映している可能性もあるが、一色青海遺跡では93Ａａ区で見つかっている竪穴住居のものが標高0.40ｍ～0.64ｍと最も低く、その他の調査区の竪穴住居が標高0.70m～1.00ｍであるのに比べるとかなり低い。床面の高さについては相対的に地下水位の低い微高地の高い部分で深い竪穴住居を造ることを示す興味深い例である。

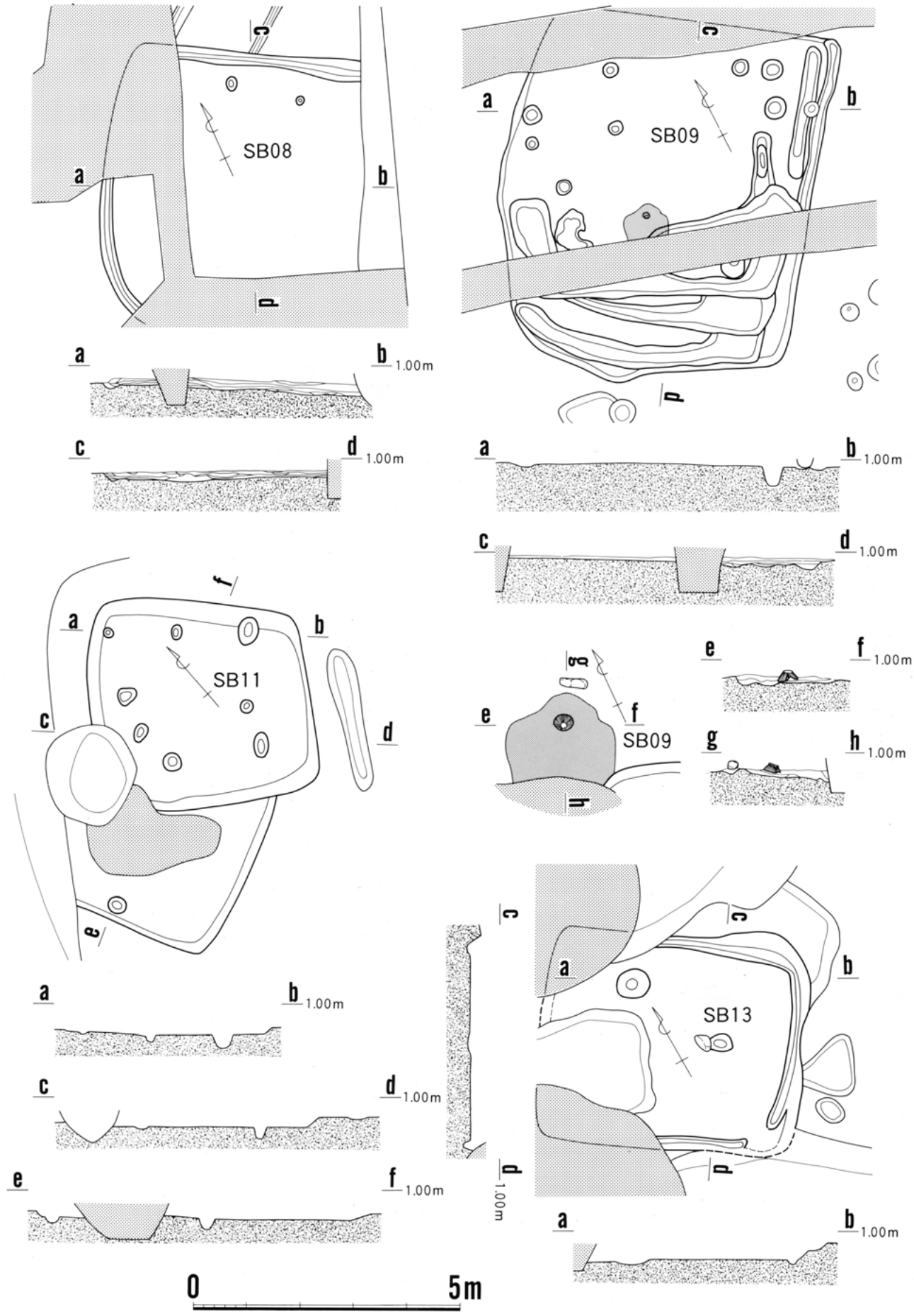
焼失住居　今回の調査では確実に焼失住居として検出・記録できたものが8棟ある。どの焼失住居においても炭化した材が放射状になっている部分があり、壁板や屋根の垂木が倒れた痕跡を示すものと言える。炭化した材には板状のものと棒（枝）状のものがあり、ＳＢ73のように板状の材が壁際から内側に倒れるように検出されるものとＳＢ68・ＳＢ69などのように棒状の炭化材がやや散乱して内側に放射状にみられるものに分かれる。また炭化材の出土する位置においてもＳＢ69のように床面から20㎝～30㎝程浮いて出土するものとＳＢ02・ＳＢ68・ＳＢ73などのように床面近くにおいて出土する場合がある。炭化材は針葉樹・スギ属、広葉樹のコナラ亜属・アカガシ亜属・コナラ・クリなどがあるが、一つの住居においても一様ではなく、さまざまな部材が使用・混ざって出土していることを伺わせるものである。

ＳＵ01は明確な遺構を確認できなかったが、炭化材が土器とともに検出されていることから焼失住居の可能性がある。

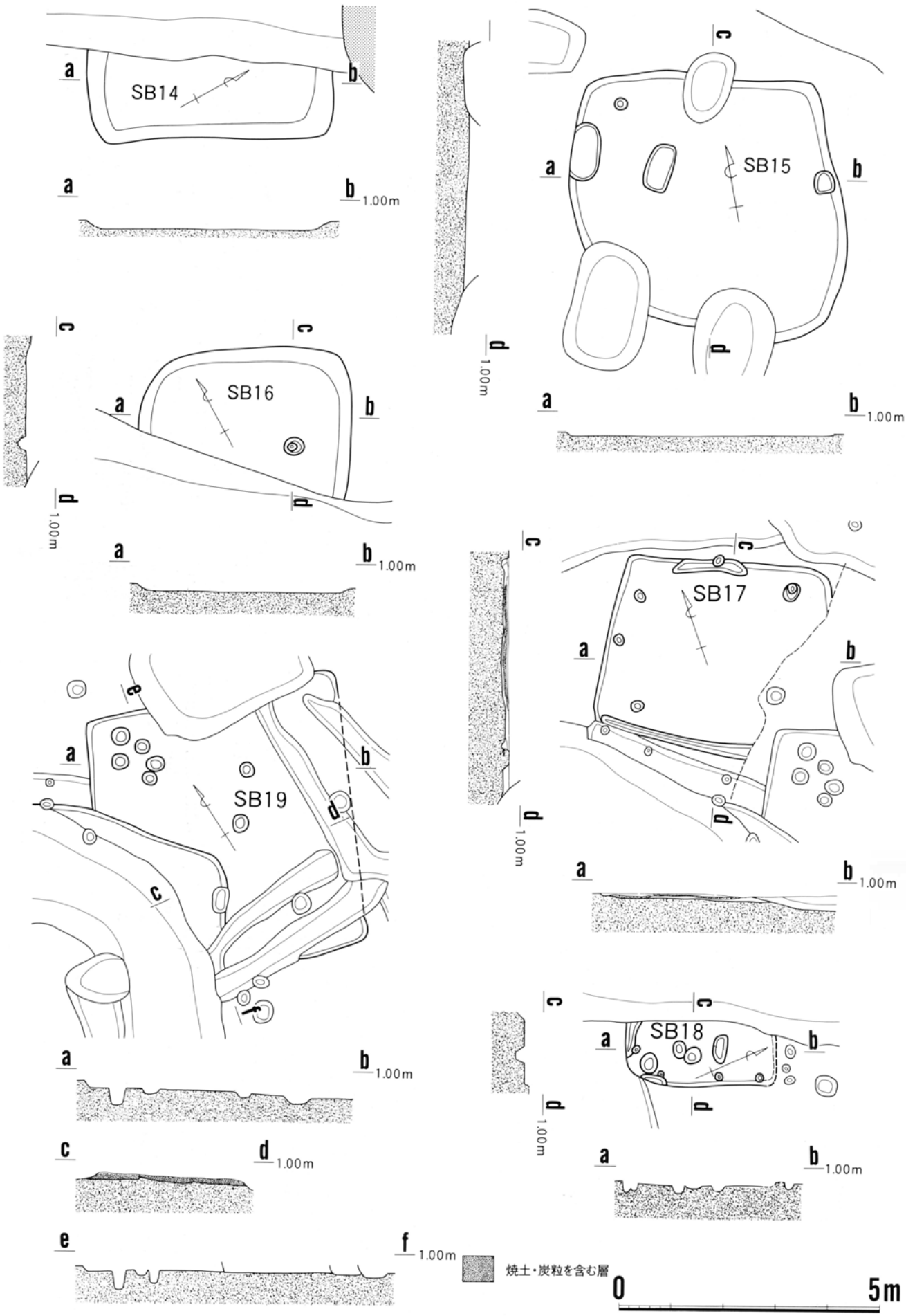
出土遺物　焼失住居では床面直上から多くの弥生土器がまとまって出土しており、当遺跡の基準資料になるものと思われる。



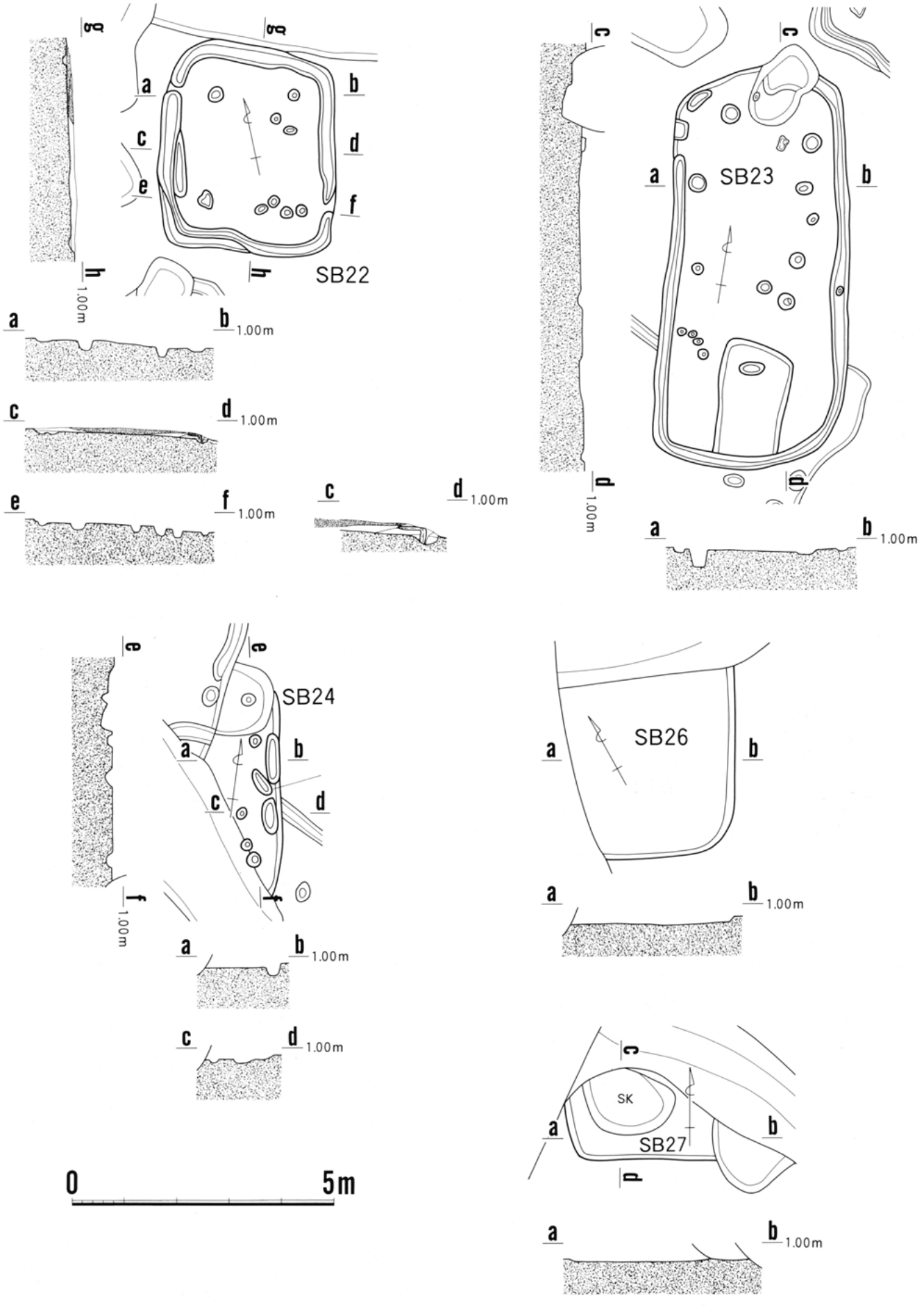
第１図　竪穴住居実測図１（１：100）



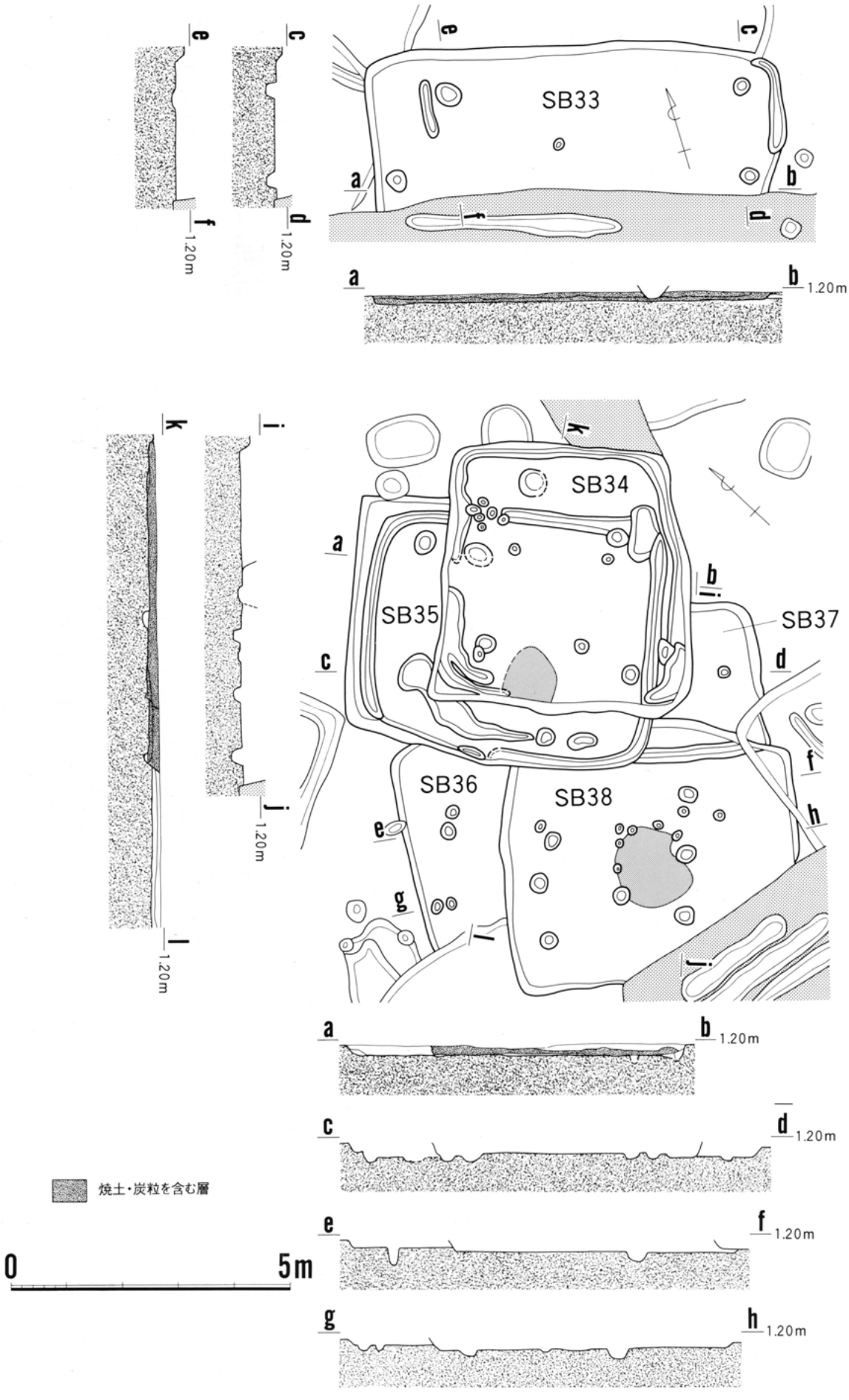
第２図　竪穴住居実測図２（1：100、SB09 地床炉は 1：40）



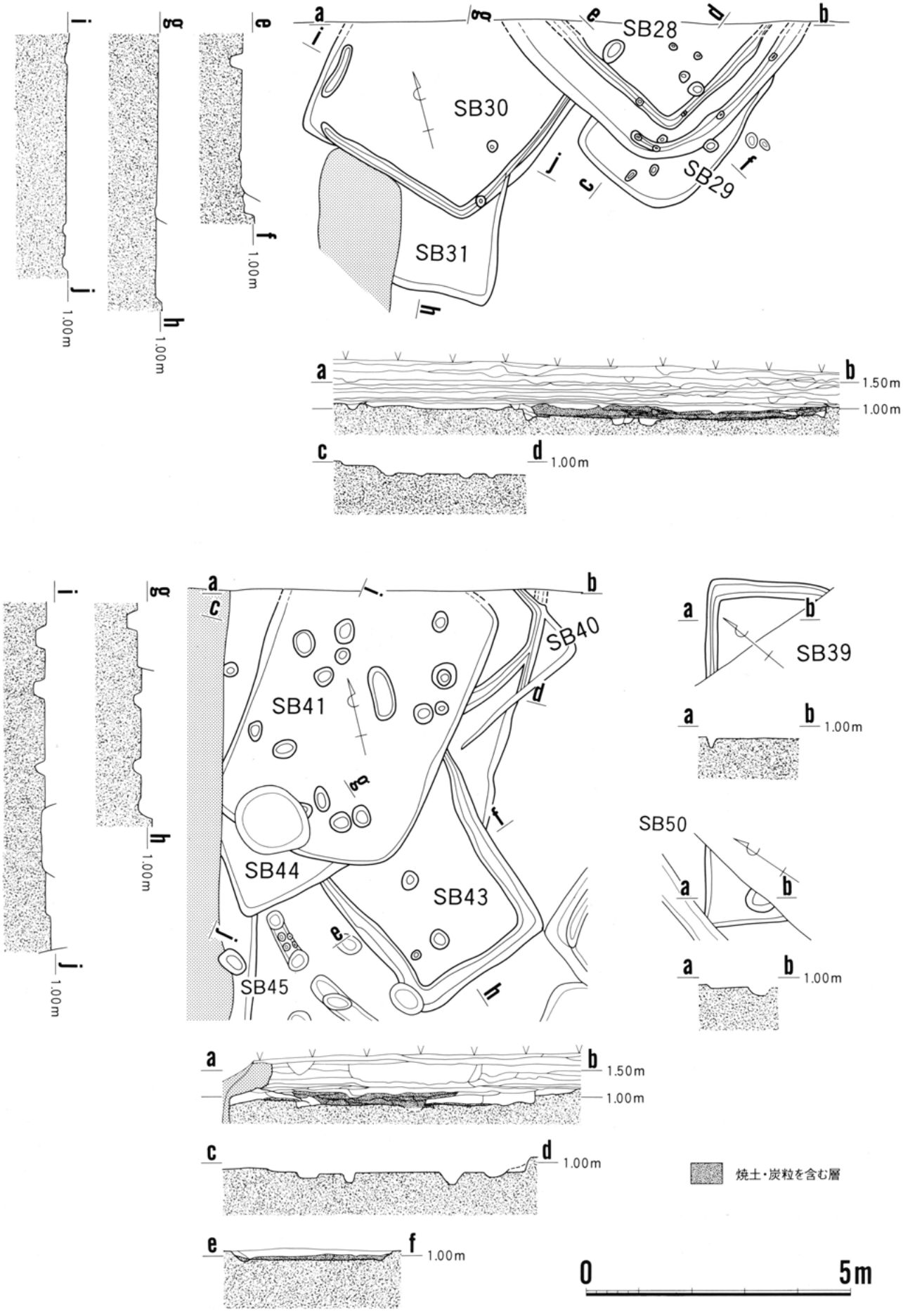
第３図　竪穴住居実測図３（１：100）



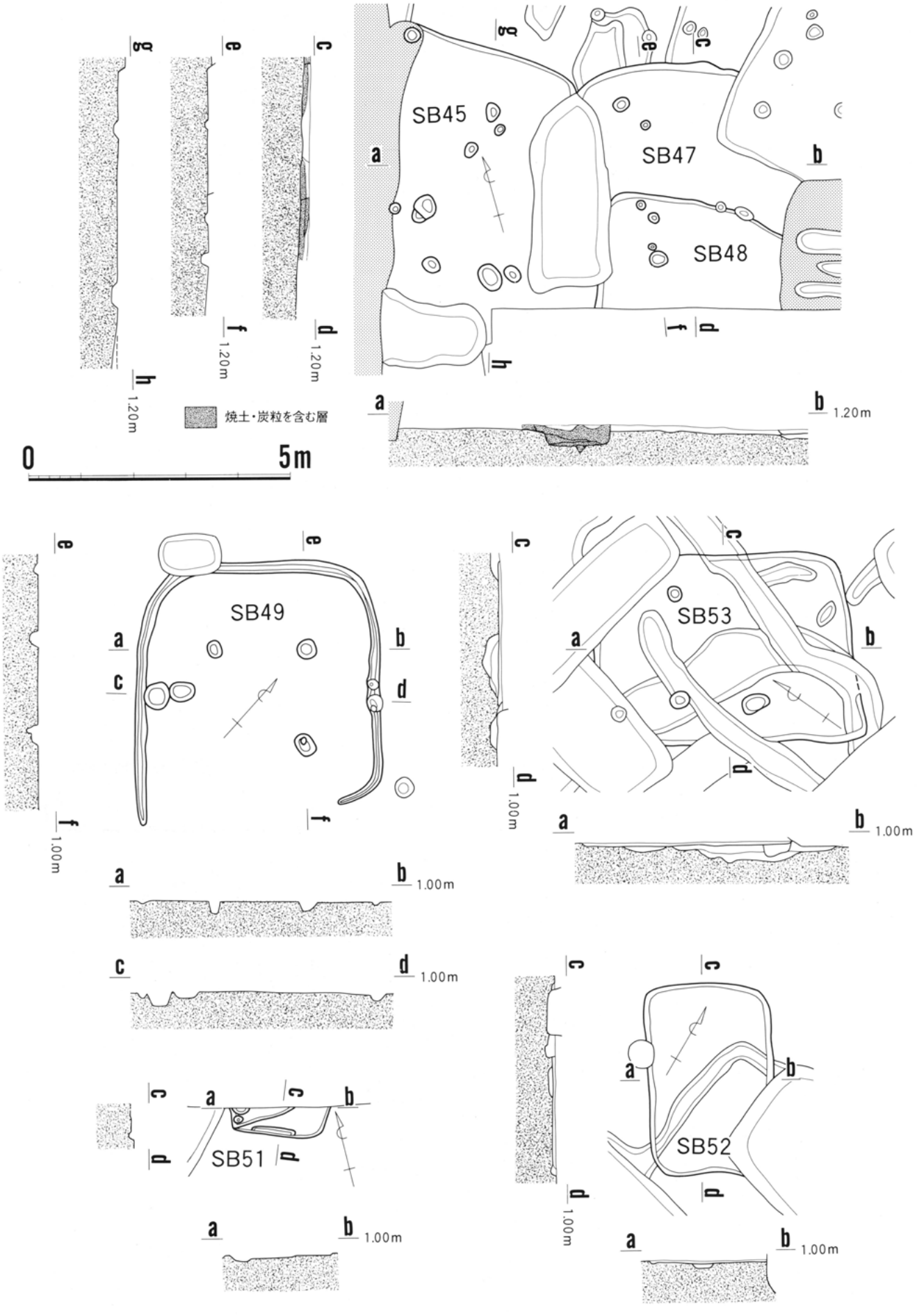
第４図　竪穴住居実測図４（1：100、SB22土層断面c－dは1：40）



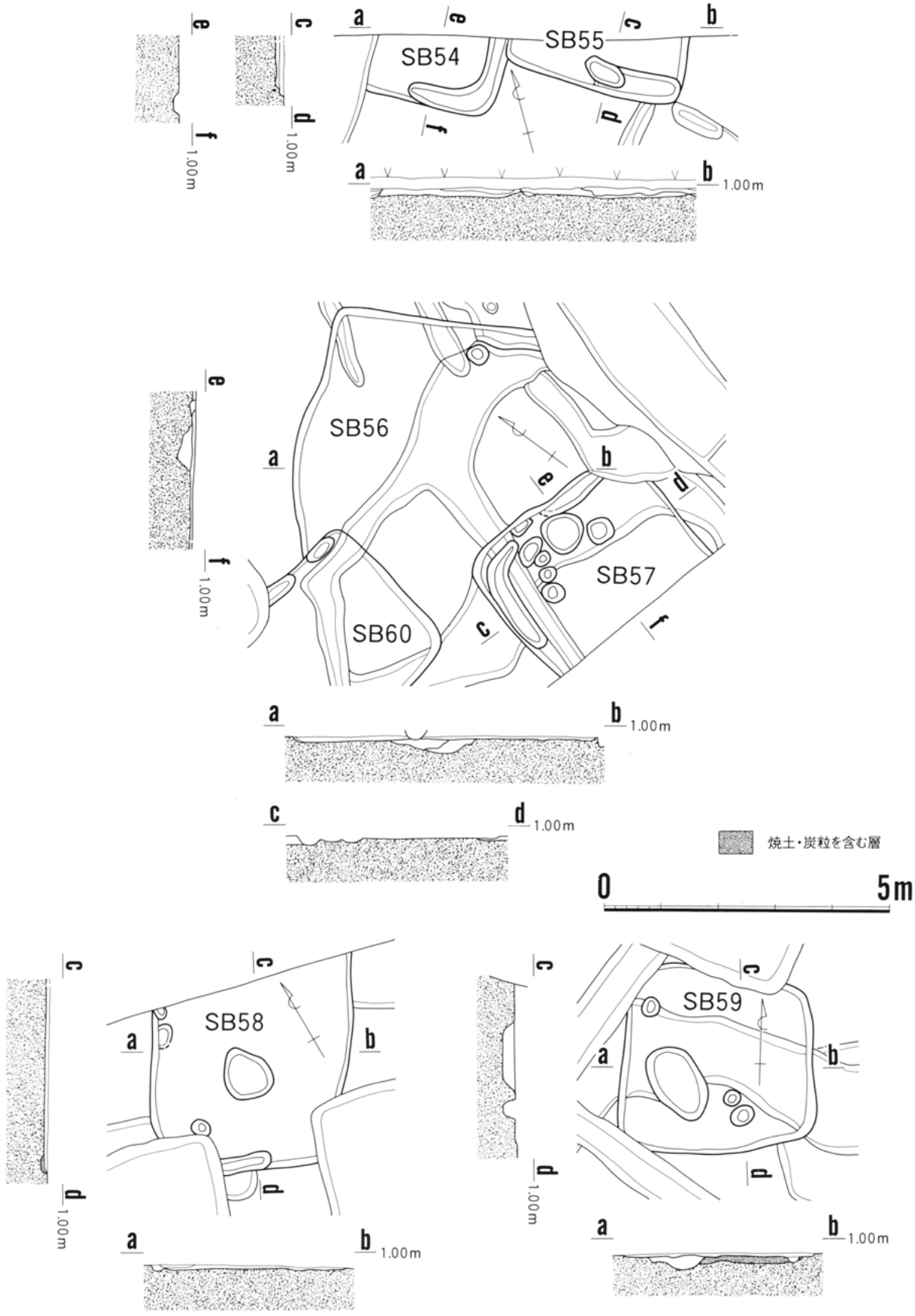
第5図　竪穴住居実測図5（1：100）



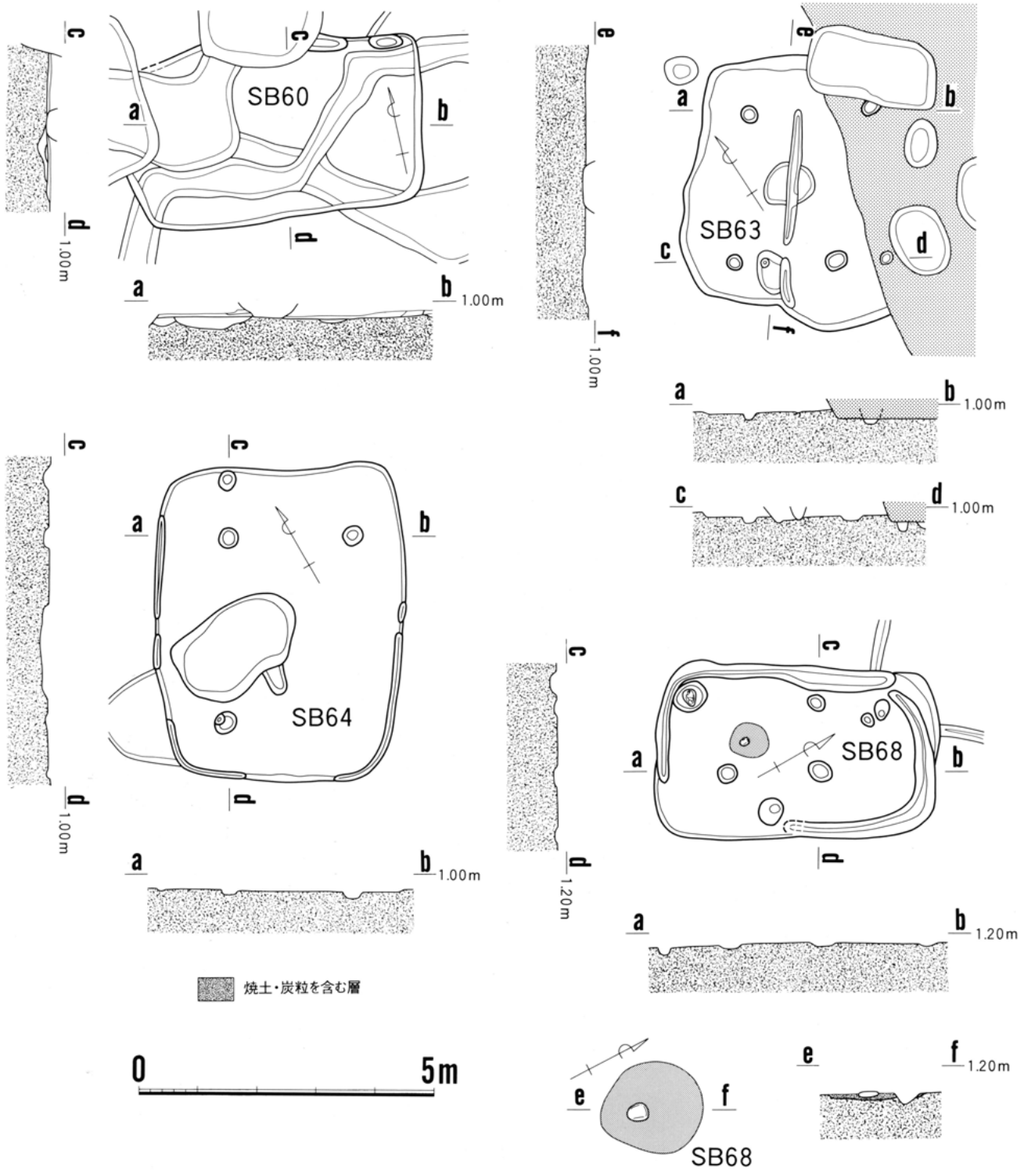
第6図　竪穴住居実測図6（1：100）



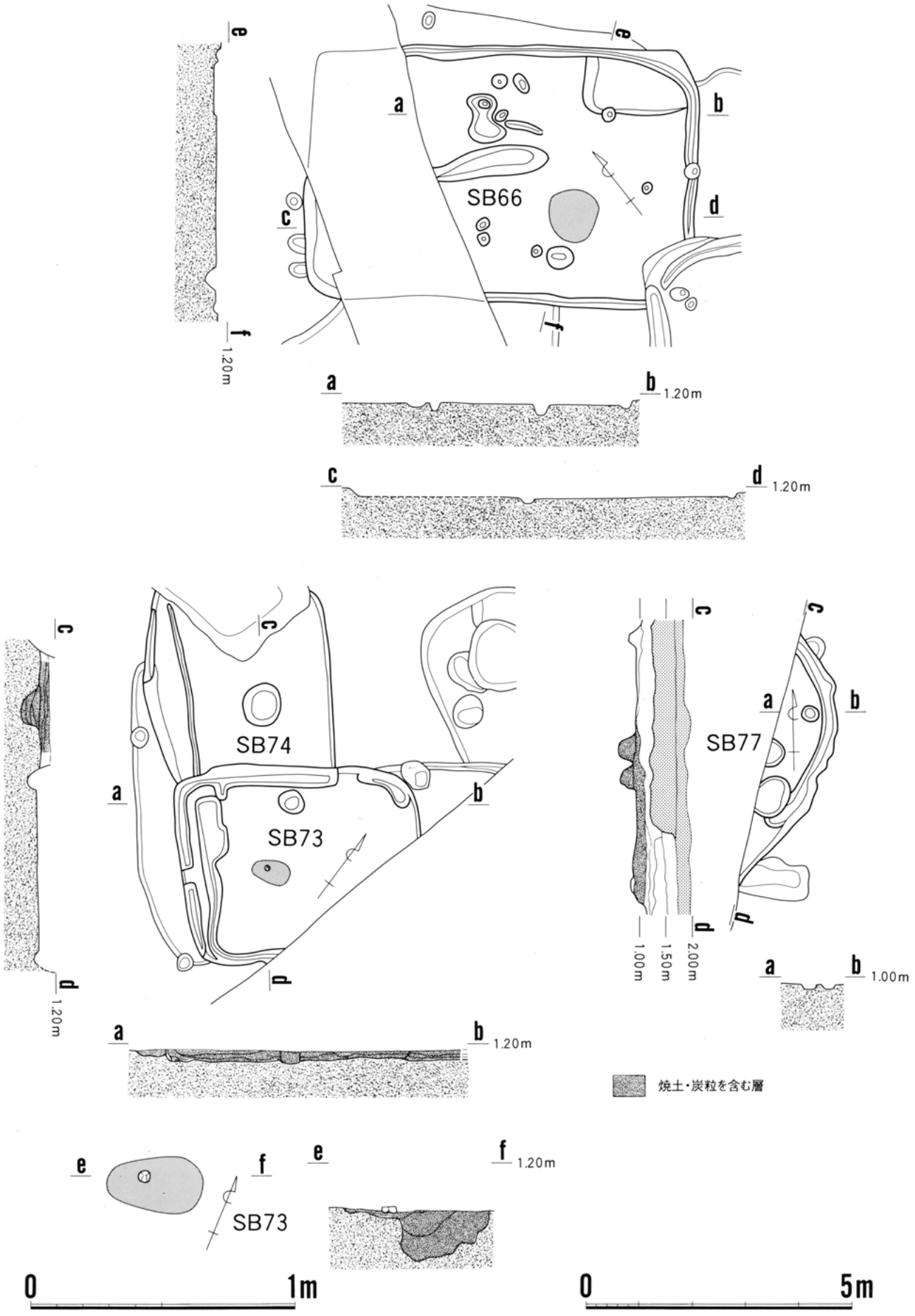
第7図　竪穴住居実測図7（1：100）



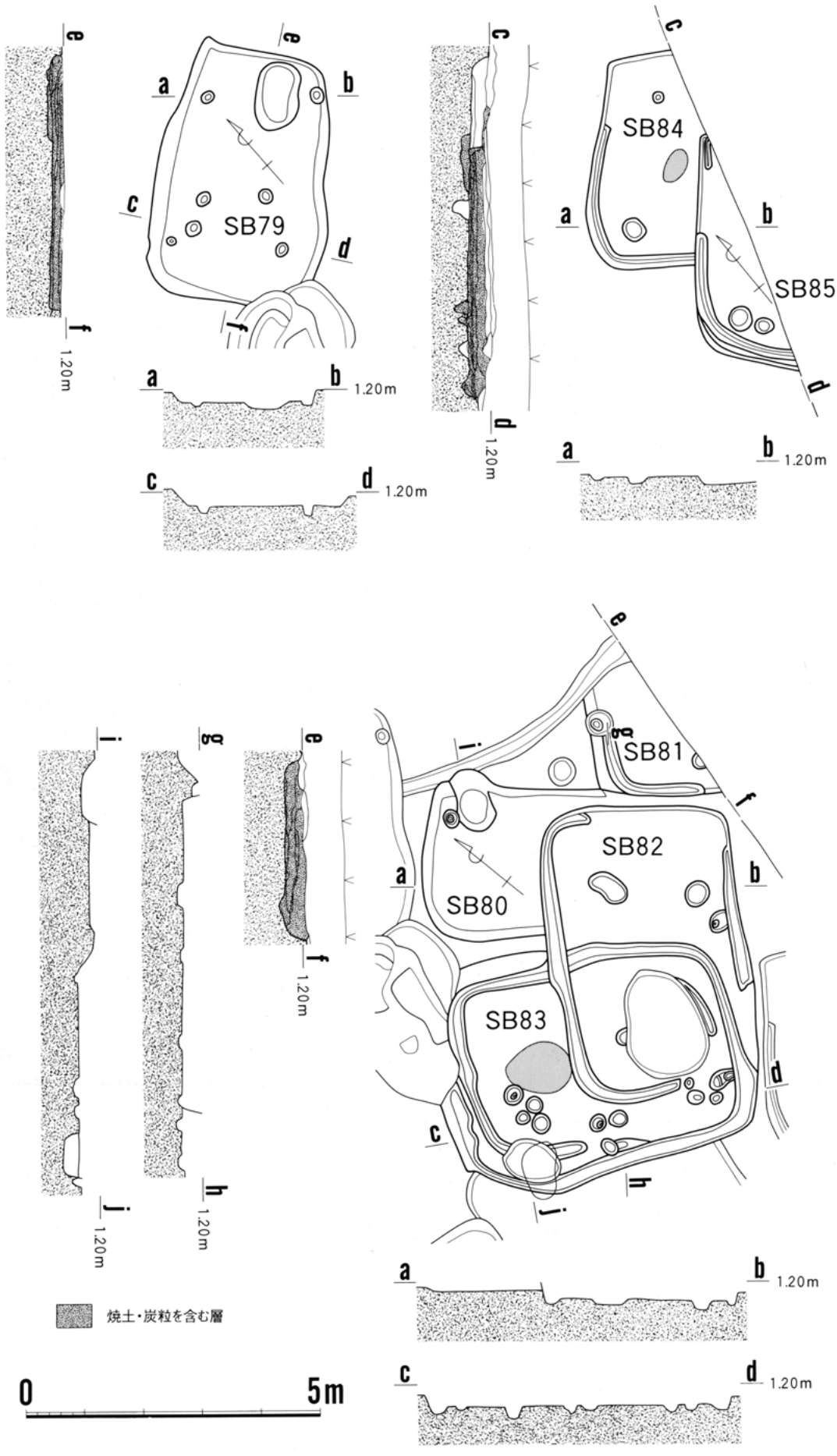
第８図　竪穴住居実測図８（１：100）



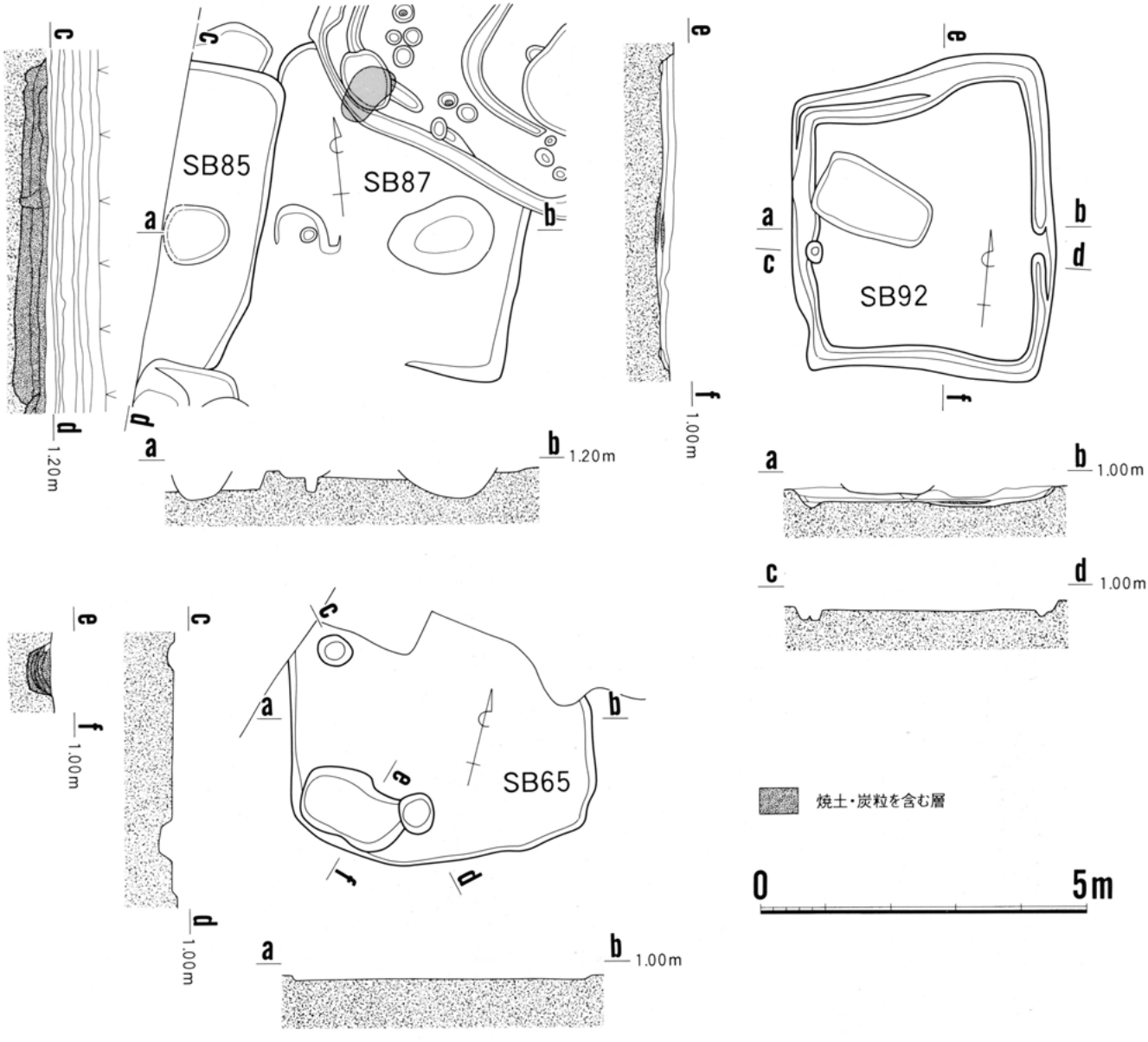
第９図　竪穴住居実測図９（1：100、SB68 地床炉は 1：40）



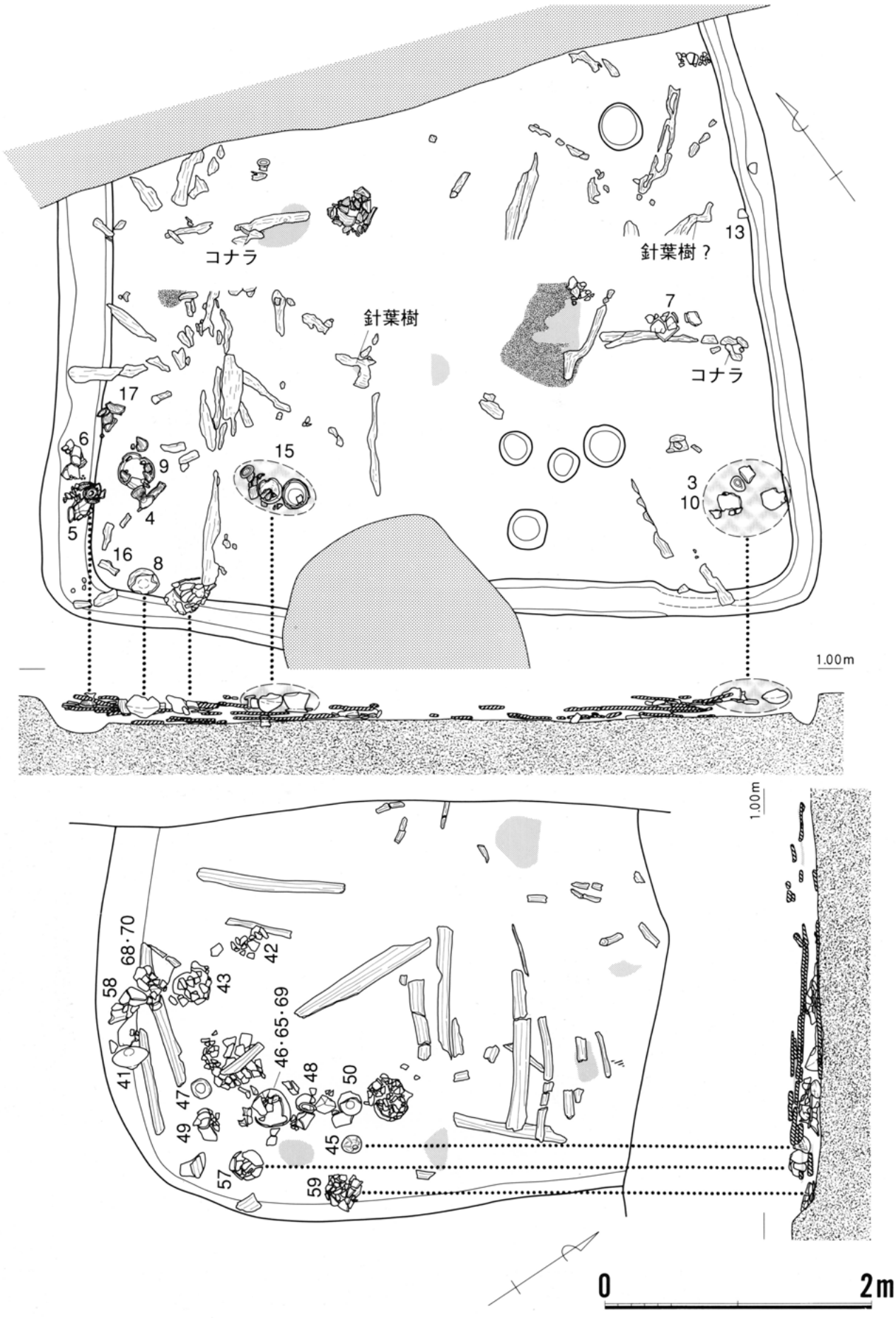
第10図　竪穴住居実測図10（1：100、SB73地床炉は1：40）



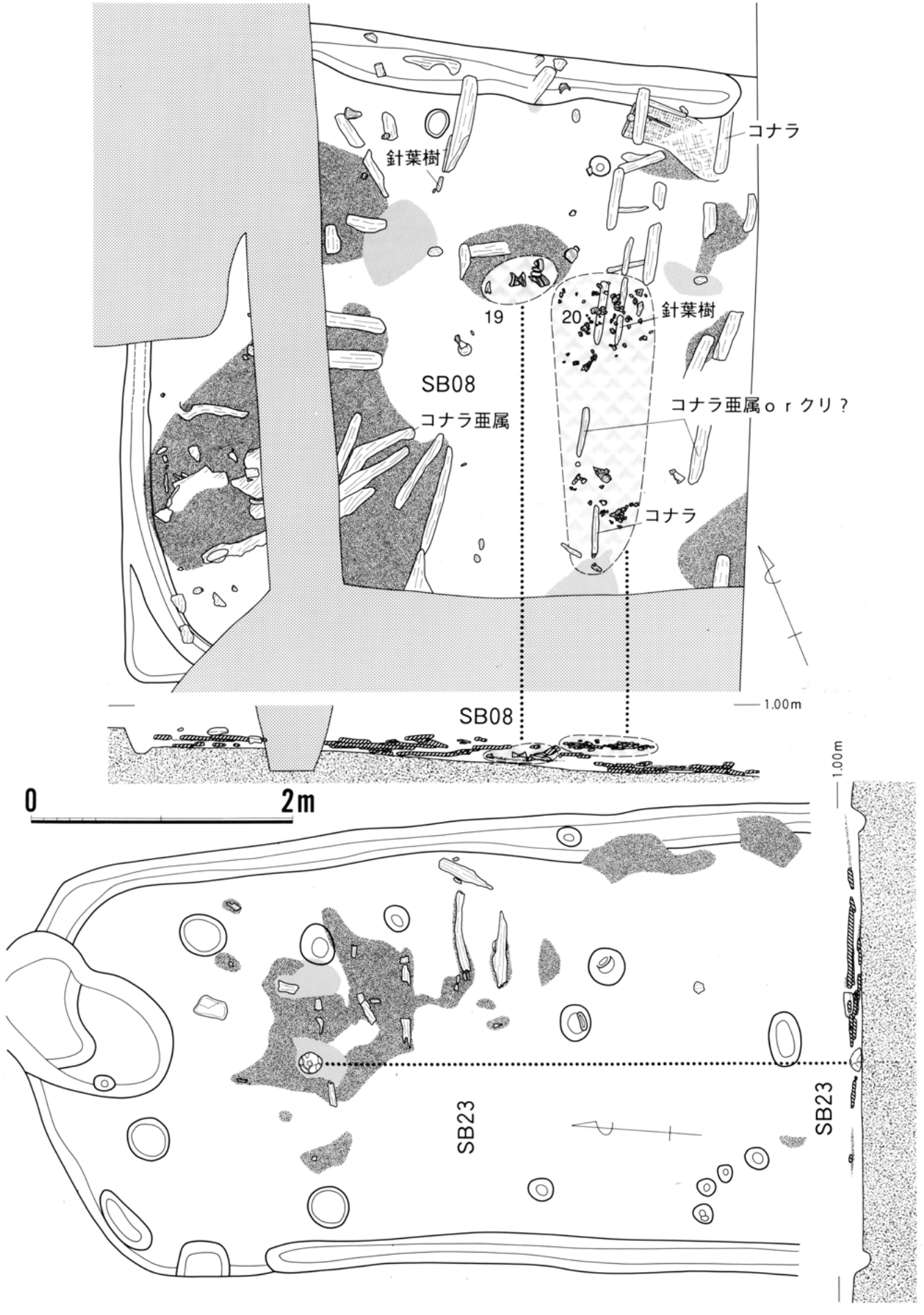
第11図　竪穴住居実測図11（1：100）



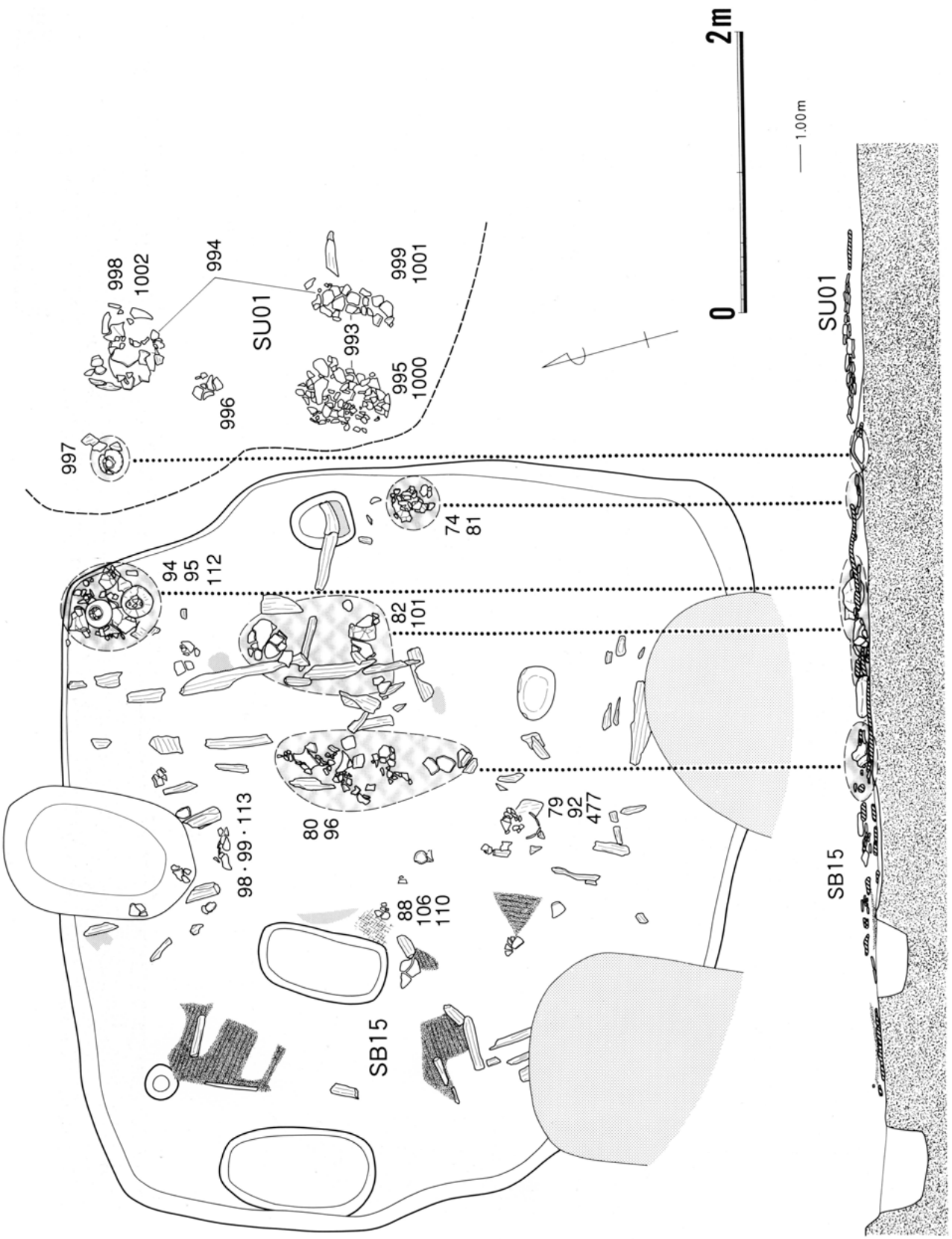
第12図　竪穴住居実測図12（1：100）



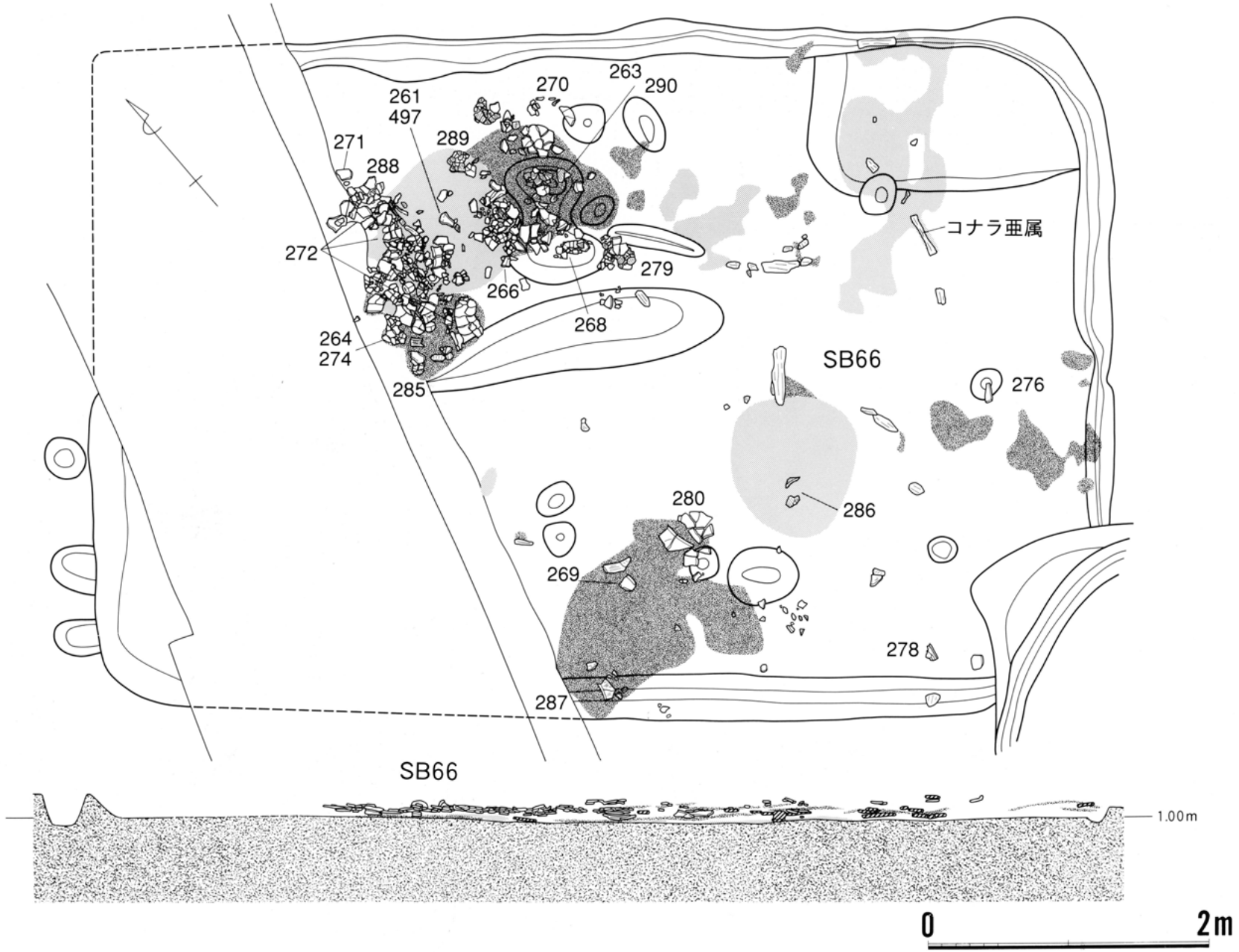
第13図　焼失竪穴住居遺物出土状況図1（1：40）



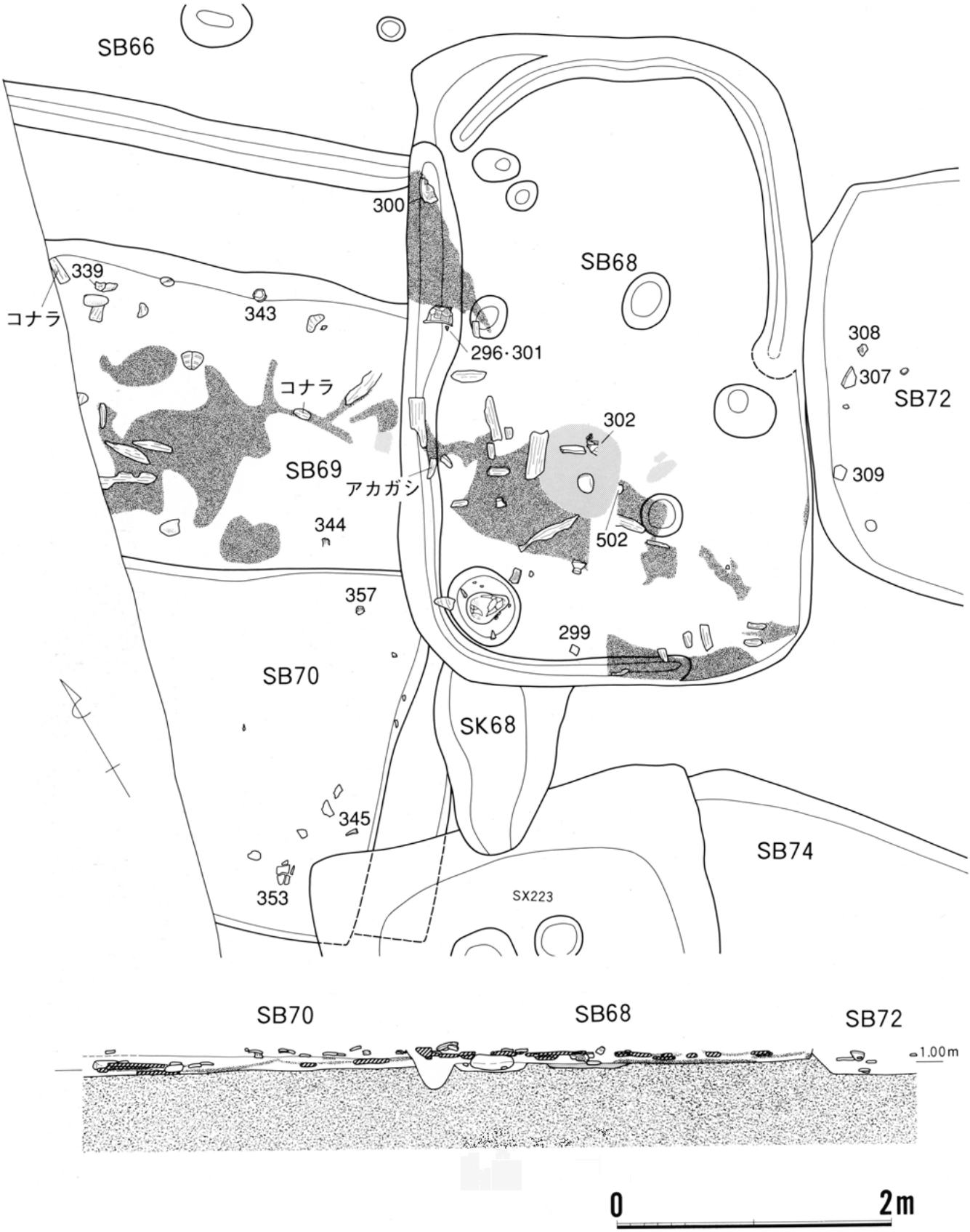
第14図　焼失竪穴住居遺物出土状況図2（1：40）



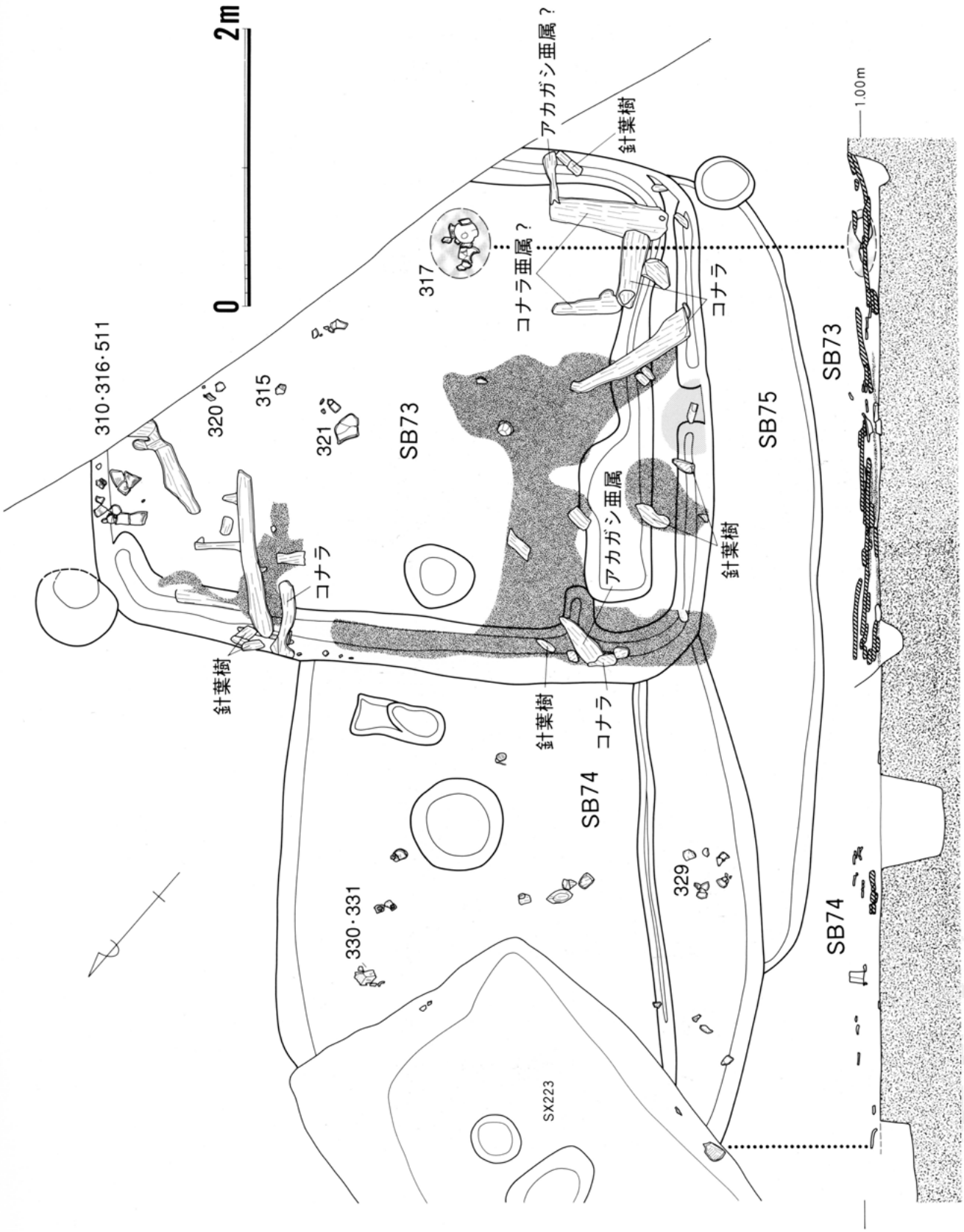
第15図　焼失竪穴住居遺物出土状況図3（1:40）



第16図　焼失竪穴住居遺物出土状況図4（1：40）



第17図　焼失竪穴住居遺物出土状況図5（1：40）



第18図　焼失竪穴住居遺物出土状況図6（1：40）

新遺構番号	年度	旧遺構番号	平面形態	長径 (m)	短径 (m)	面積 (m²)	深さ (m)	床面標高 (m)	壁際の溝 （深さcm）	柱穴の深さ(深い順、cm)	炉の形態、位置	備考（時期など）
SB 01	95F	SB 04	方形	(2.55)	(1.25)	(3.1)	0.13	0.74	なし	6･15	-	Ⅰ式ａ段階
SB 02	95F	SB 03	隅丸方形	5.85	(4.55)	(26.7)	0.24	0.65	全周(5~10)	16･20･22･25･28	-	焼失住居、Ⅰ式ａ段階
SB 03	95F	SB 05	方形	2.50	2.25	5.6	0.12	0.70	なし	なし	-	Ⅰ式ａ段階
SB 04	95F	SB 02A	（方形）	(1.95)	(0.75)	(1.5)	0.14	0.93	なし	なし	-	Ⅰ式
SB 05	95F	SB 01	（方形）	3.30	(3.10)	(10.2)	0.17	0.92	なし	15	-	Ⅰ式
SB 06	96D	SB 04	隅丸長方形	6.5	4.85	31.5	0.20	0.81	東辺(2~4)	2~3･5･5･6･6	-	
SB 07	96D	SB 03	隅丸方形	4.35	3.80	16.5	0.30	0.70	東辺・南辺(8)	5･15･30	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 08	96D	SB 02	隅丸方形	(5.15)	(4.75)	(24.5)	0.33	0.61	全周(5)	18	-	焼失住居、Ⅱ式
SB 09	96D	SB 01	隅丸長方形	6.95	5.80	40.3	0.21	0.90	東辺・南辺(3~9)	2･2･3･3･4･7･12･35	石置炉＋炉台土器、南偏在	建て替え2回、Ⅱ式
SB 10	96D	SK105周辺	不明	(1.30)	(1.05)	(1.4)	0.11		-	-	地床炉＋炉石、	
SB 11	93Aa	SB105B	隅丸方形	4.20	4.00	16.8	0.23	0.45	なし	7･7･12･18･20･25	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 12	93Aa	SB106	隅丸（方形）	(0.65)	(0.50)	(0.3)	0.15	0.55	なし	20	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 13	93Aa	SD 06	隅丸（方形）	(4.9)	4.10	(20.1)	(0.33)	0.45	全周(3~5)	3	-	Ⅱ式
SB 14	93Aa	SB105A	隅丸（方形）	4.70	(1.70)	(8.0)	0.29	0.40	なし	なし	-	Ⅱ式
SB 15	93Aa	SB104	隅丸方形	5.55	4.90	22.2	0.16	0.50	なし	なし	-	焼失住居、Ⅰ式ｂ段階
SB 16	93Aa	SB103	隅丸方形	4.10	(2.80)	(11.5)	0.16	0.45	なし	16	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 17	95Aa	SB 02	隅丸方形	4.00	3.70	14.8	0.22	0.60	南辺(3~7)	5･6･11･12･17	-	東南隅を洪水により削平、Ⅰ式ｂ段階
SB 18	95Aa	SB 07	（方形）	(3.60)	(0.60)	(2.2)	0.11	0.66	なし	(5･7･8)	-	
SB 19	95Aa	SB 04	方形	5.30	4.90	26.0	0.33	0.60	なし	8･9･10･13･24･33･35	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 20	95Aa	SB 05	隅丸（方形）	(3.80)	(1.80)	(6.8)	0.11	0.65	なし	-	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 21	95Aa	SB 06	隅丸（方形）	2.90	(1.30)	(3.8)	0.10	0.64	東辺一部・南辺(11)	9･16･17(8･11･13･13)	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 22	95Aa	SB 03	隅丸方形	3.90	3.30	12.9	0.23	0.73	全周(4~6)	5･10･11･12･13･14･16･18	-	東辺壁溝から壁板の倒れた痕跡
SB 23	95Aa	SB 01	胴張長方形	7.75	3.65	28.3	0.11	0.82	東辺・南辺・西辺(6~8)	2･3･3･5･5･6･7･8･9･9･10･25	-	焼失住居、Ⅰ式ｂ段階
SB 24	95Aa	SB 10	（方形）	(3.95)	(1.45)	(5.7)	0.07	0.78	東辺一部(8~13)	7･7･9･11	-	
SB 25	95Aa	SB 09	（方形）	(3.25)	(2.20)	(7.2)	0.10	0.78	北辺(5)	8	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 26	93Aa	SB102	隅丸（方形）	(3.60)	(3.30)	(11.9)	0.08	0.59	なし	なし	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 27	93Aa	SB101	隅丸（方形）	(2.85)	(1.75)	(5.0)	0.07	0.64	なし	なし	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 28	95Ba	SB 12	隅丸方形	(4.20)	(3.90)	(16.4)	0.29	0.78	(3~5)	5･7･24･(4･6)	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 29	95Ba	SB 18	隅丸長方形	(3.50)	2.40	(8.4)	0.10	0.92	なし	2･3･10	-	
SB 30	95Ba	SB 21	（方形）	4.30	(3.35)	(14.4)	0.12	0.92	全周(3~5)	1	-	
SB 31	95Ba	SB 17	（方形）	(2.55)	(1.95)	(5.0)	0.16	0.91	なし	なし	-	
SB 32	95Ba	SB 19	（方形）	(4.50)	3.40	(15.3)	0.25	1.02	なし	9･13･13	-	
SB 33	95Ba	SB 11	隅丸長方形	7.50	(2.80)	(21.0)	0.22	0.97	東辺(4~5)	4･11･14･22	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 34	95Ba	SB 06	隅丸方形	4.85	4.55	22.1	0.27	0.90	東辺・西辺・北辺(2~21)	5･6･7･10･15･21	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 35	95Ba	SB 05	隅丸方形	5.70	4.85	27.6	0.31	0.85	全周(1~10)	3･4･9･10･12･15･16	地床炉、南偏在	Ⅰ式ｂ段階
SB 36	95Ba	SB 13	隅丸（方形）	(3.75)	(2.10)	(7.9)	0.16	0.96	なし	9･10･13･32	-	
SB 37	95Ba	SB 16	隅丸（方形）	(2.80)	(1.90)	(5.3)	0.18	0.83	南辺(8)	11	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 38	95Ba	SB 10	隅丸方形	5.35	4.80	25.7	0.31	0.89	なし	5･9･11･11･12･14･21･23･24･28	地床炉、中央	Ⅰ式ｂ段階
SB 39	95Ba	SB 14	（方形）	(2.30)	(1.95)	(4.5)	0.08	0.76	全周(12~15)	-	-	
SB 40	95Ba	SB 20	（方形）	(3.20)	(1.65)	(5.3)	0.24	0.90	なし	-	-	
SB 41	95Ba	SB 01	胴張長方形	(5.65)	4.15	(23.4)	0.34	0.82	なし	1･2･3･9･13･17･18･19･21	-	
SB 42	95Ba	SB 02	（方形）	(4.35)	(1.05)	(4.6)	0.36	0.93	なし	-	-	
SB 43	95Ba	SB 09	隅丸長方形	(3.65)	3.05	(11.1)	0.24	0.89	全周(4~5)	6･14	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 44	95Ba	SB 07	（方形）	(2.20)	(2.00)	(4.4)	0.17	0.96	なし	-	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 45	95Ba	SB 08	（方形）	(4.85)	(0.75)	(3.6)	0.17	0.92	なし	15	-	Ⅰ式ｂ段階？
SB 46	95Ba	SB 03	（方形）	(5.35)?	(3.30)	(17.6)	0.17	0.95	なし	6･8･9･11･13･13･14･16	地床炉、南偏在	Ⅰ式ｂ段階
SB 47	95Ba	SB 04	隅丸（方形）	(4.25)	(2.70)	(11.5)	0.24	0.92	なし	8･13	-	Ⅰ式ｂ段階？
SB 48	95Ba	SB 15	隅丸（方形）	(3.65)	(2.30)	(8.4)	0.30	0.91	なし	5･6･9･13	-	Ⅰ式ｂ段階
SB 49	93Ba	SD 04	隅丸方形	5.2	4.7	24.4	0.08	0.71	全周10~11)	11･16･20･25･28	-	
SB 50	95Bc	SK 05	（方形）	(1.55)	(1.50)	(2.3)	0.06	0.82	なし	17	-	

第１表　竪穴住居一覧１

新遺構番号	年度	旧遺構番号	平面形態	長径 (m)	短径 (m)	面積 (m²)	深さ (m)	床面標高 (m)	壁際の溝 (深さcm)	柱穴の深さ(深い順、cm)	炉の形態、位置	備考（時期など）
SB 51	95E	SB 15	隅丸（方形）	1.90	(0.55)	(1.0)	0.26	0.67	南辺(1~2)	6･7	-	
SB 52	95E	SB 12	隅丸方形	3.70	2.45	(9.1)	0.11	0.72	なし	なし	-	
SB 53	95E	SB 11	隅丸長方形	5.00	3.65	(18.3)	0.10	0.75	なし	2･4	-	
SB 54	95E	SB 08	隅丸（方形）	(2.30)	(1.50)	(3.5)	0.18	0.71	東辺・南辺(3~4)	なし	-	
SB 55	95E	SB 09	隅丸（方形）	(3.10)	(1.35)	(4.2)	0.18	0.80	南東隅(3)	なし	-	
SB 56	95E	SB 07	隅丸（方形）	5.30	(4.45)	(23.6)	0.15	0.69	なし	19	-	
SB 57	95E	SB 14	隅丸方形	3.55	(2.65)	(9.4)	0.10	0.76	西辺(14)	5･6･7･8	-	
SB 58	95E	SB 03	（方形）	3.40	(3.90)	(13.3)	0.27	0.68	南辺(3)	5･13	-	
SB 59	95E	SB 05	隅丸方形	(3.50)	(3.30)	(11.6)	0.16	0.68	なし	なし	-	
SB 60	95E	SB 06	隅丸長方形	5.05	3.15	15.9	0.16	0.68	北辺(4~6)	なし	-	
SB 61	95E	SB 02	隅丸（方形）	(1.85)	1.90	(3.5)	0.12	0.76	全周(5)	4	-	
SB 62	95E	SB 01	隅丸（方形）	(2.75)	2.65	(7.3)	(0.00)	0.77	全周(6~9)	4･7･13･13･28	-	
SB 63	94Ca	SK 03	隅丸（方形）	(4.30)	(3.20)	(13.8)	0.18	0.83	-	4･5･10･10･12	-	2軒ある可能性
SB 64	93Bb	SB 01	隅丸長方形	5.45	4.25	(23.2)	0.12	0.69	東辺・西辺(2~3)	6･10･11	-	
SB 65	95Cc	SK 08	（胴張方形）	4.65	(3.85)	(17.9)	0.23	0.74	なし	8･24	-	
SB 66	94Ae	SK 21	隅丸長方形	7.30	4.90	35.8	0.26	0.97	東辺・南辺・北辺(5~10)	9･11･12･13･14･17･17･20	地床炉、南偏在	焼失住居、Ⅱ式
SB 66	95Ca	SB 05					0.15			なし	-	
SB 67	95Ca	SB 15		(1.35)	(1.00)	(1.35)	(0.20)	0.90	なし	-	-	
SB 68	95Ca	SB 01	胴張長方形	4.75	3.00	14.2	0.16	0.99	全周(4~11)	5･6･6･6･18･20	地床炉＋炉石、南偏在	焼失住居、Ⅲ式ｂ段階
SB 69	95Ca	SB 09	（方形）	(4.35)	(1.95)	(8.5)	0.37	0.94	なし	-	-	焼失住居、Ⅲ式ａ段階
SB 70	95Ca	SB 10	（方形）	3.55	(2.85)	(10.1)	0.22	1.08	なし	-	-	Ⅲ式ａ段階
SB 71	95Ca	SB 08	（方形）	(2.50)	(1.30)	(3.3)	0.14	0.98	西辺(10)	-	-	
SB 72	95Ca	SB 02	胴張（方形）	(3.60)	2.60	(9.4)	0.22	0.98	なし	-	-	Ⅱ式
SB 73	95Ca	SB 03	隅丸長方形	4.50	3.85	17.3	0.24	0.87	全周(5~18)	21	地床炉＋炉台土器、南偏在	焼失住居、建て替え1回、Ⅲ式ａ段階
SB 74	95Ca	SB 04	（方形）	3.55	(3.35)	(11.9)	0.32	0.86	なし	-	-	Ⅱ式
SB 75	95Ca	SB 13	（方形）	(5.45)	(0.60)	(3.3)	0.22	0.95	なし	-	-	
SB 76	95Ca	SB 11	（方形）	(2.15)	2.00	(4.3)	0.34	0.87	なし	-	-	
SB 77	95Cb	SB 01	胴張（方形）	(4.20)	(1.65)	(6.9)	0.29	0.90	全周(11)	10･12･17	-	Ⅲ式ｂ段階
SB 78	95Cb	SB 09	隅丸（方形）	(1.20)	(1.15)	(1.4)	0.15	1.00	全周(8~9)	-	-	
SB 79	95Cb	SB 04	隅丸長方形	4.35	3.00	(13.0)	0.35	0.96	なし	6･6･6･8･10･11･12･18	-	Ⅱ式
SB 80	95Cb	SB 16	隅丸（方形）	(3.70)	3.20	(11.8)	0.17	1.06	なし	7	-	
SB 81	95Cb	SB 14	隅丸（方形）	(2.30)	(1.95)	(4.5)	0.38	0.92	南西隅(7~13)	9	-	Ⅱ式
SB 82	95Cb	SB 05	隅丸長方形	5.05	3.35	16.9	0.37	0.91	東辺・南辺・西辺(5~12)	6･10･15･16	-	Ⅲ式ａ段階
SB 83	95Cb	SB 06	隅丸長方形	5.25	4.15	21.8	0.31	0.83	全周5~12)	6･7･8･9･10･12･13･15･17･19	地床炉、西壁際	Ⅱ式
SB 84	95Cb	SB 12	隅丸（方形）	3.60	(2.60)	(9.4)	0.32	0.93	南西隅(4~8)	8･11	地床炉、中央	
SB 85	95Cb	SB 03	隅丸（方形）	(3.90)	(1.80)	(7.2)	0.29	0.83	南西隅(6~10)	8･15	-	Ⅱ式
SB 86	95Cb	SB 15	隅丸（方形）	4.65	(1.25)	(5.8)	0.54	0.81	なし	-	-	Ⅱ式
SB 87	95Cb	SB 07	隅丸方形	4.65	4.15	19.3	0.23	0.92	なし	25	地床炉、北壁際	Ⅱ式
SB 88	95Cb	SB 11	隅丸（方形）	3.85	(2.10)	(8.1)	0.38	0.71	なし	-	-	Ⅱ式
SB 89	95Cb	SB 02	隅丸（方形）	(2.90)	(1.40)	(4.1)	0.26	0.98	なし	-	-	Ⅱ式
SB 90	95Cb	SB 08	不明				0.21	0.88	-	-	-	Ⅱ式
SB 91	95Cb	SB 10	隅丸（方形）	(1.25)	(0.90)	-1.1	0.18	0.85	全周(5~20)	-	-	
SB 92	96A	SB 01	隅丸方形	2.05	1.95	(4.0)	0.10		-	-	-	Ⅱ式
SB 93	96A	SB 02	方形	4.80	4.00	19.2	0.31?	0.62	全周(10)	-	地床炉、中央	Ⅲ式ａ段階
SB 94	94Bb	SK 15		(3.30)	(2.90)	(9.57)	0.19	0.99	東辺一部(9)	6･9･12	-	Ⅱ式

第２表　竪穴住居一覧２

(2) 掘立柱建物
(第19図・第3表)

掘立柱建物　柱穴が一定の間隔で方形列状に並ぶものを分類しており、桁行2間×梁行1間のものが2(1)棟、桁行3間×梁行1間のものが1棟、桁行4間×梁行1間のものが1棟、桁行3間×梁行2間のものが1棟ある。面積は4.2㎡～14.4㎡で、小型の建物である。

分　　布　北調査区の96D区で1棟、東調査区の93Ab区で1棟、西1調査区の95Cb区で3棟、同96A区で1棟検出されている。96D区の他は比較的竪穴住居とは分布が重ならない部分の微高地に占地しているのが特徴である。

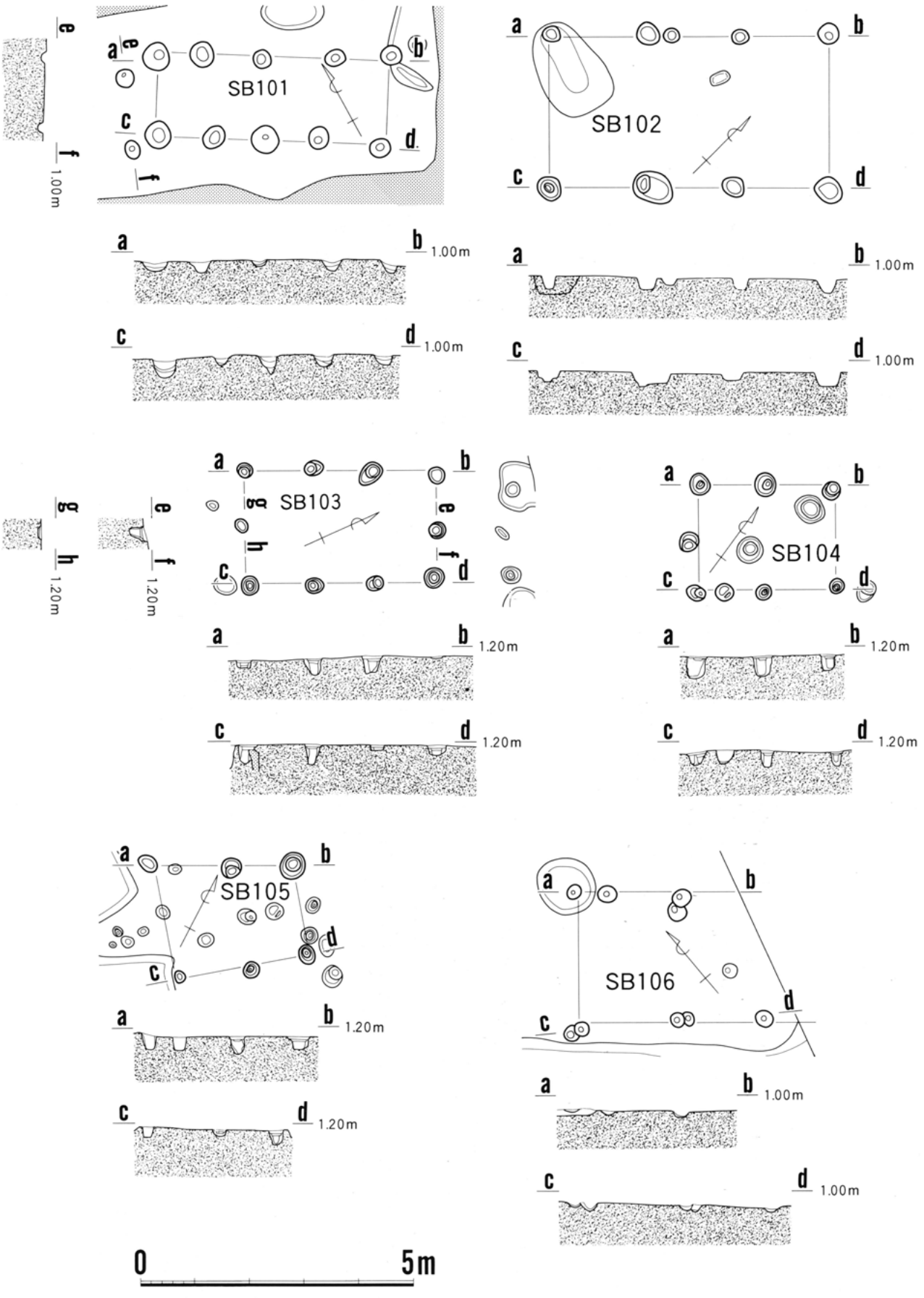
柱　　間　桁行の柱間1間1.1m～1.3m程でSB106のみ1間1.70mある。また梁行の柱間は1.65m～2.30mでSB102のみ2.80mあるが、全て高床建物と思われる。

柱　　穴　柱穴の径はSB101やSB102で長径50cmを越えるものが数個みられるが基本的には長径でも20cm～40cm、深さ20cm～30cmのものである。柱穴の深さについては5cm～42cmまで幅があり、1つの建物においても30cm以上の深さの差があるもの(SB103)がある。柱材が残っていたものはないが、柱痕跡が残っていた建物の観察から、ほぼ柱穴に合わせた径15cm～30cmの柱材が使われた状況が推定できる。

建物方位　N-59°-W～N-60°-Eの間にあるがまとまりはない。

新遺構No.	調査区	旧遺構No.	建物方位・柱欠の形態	建物桁行(m) 柱穴長径(m)	建物梁行(m) 柱穴短径(m)	建物規模(㎡) 柱穴深さ(m)	備考(柱穴埋土など)
SB101	96D	SB A	N-59°-W	4.20	1.65	面積／6.9㎡	Ⅱ式、桁行4間×梁行1間
SB101	96D	SK107	円形丸底	0.50	0.50	0.19	
SB101	96D	SK108	円形丸底	0.45	0.45	0.22	5Y4/2　灰ｵﾘｰﾌﾞ色極細粒砂
SB101	96D	SK109	円形丸底	0.35	0.35	0.15	
SB101	96D	SK110	楕円形丸底	0.40	0.30	0.21	
SB101	96D	SK111	円形丸底	0.40	0.35	0.26	
SB101	96D	SK112	円形丸底	0.50	0.50	0.35	
SB101	96D	SK113	円形丸底	0.45	0.35	0.26	
SB101	96D	SK114	円形ﾛｰﾄ状丸底	0.50	0.50	0.34	
SB101	96D	SK115	円形丸底	0.40	0.35	0.23	
SB101	96D	SK116	円形丸底	0.40	0.35	0.20	
SB102	93Ab		N-45°-W	5.15	2.80	面積／14.4㎡	Ⅱ式～Ⅲ式、桁行3間×梁行1間
SB102	93Ab	SK 13内Pit	円形丸底	0.30	0.30	0.25	
SB102	93Ab	SK 17	円形丸底	0.40	0.35	0.22	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB102	93Ab	SK 24	円形丸底	0.40	0.35	0.13	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB102	93Ab	SK 25	円形丸底	0.55	0.45	0.24	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB102	93Ab	SK 27	楕円形丸底	0.70	0.55	0.26	2.5Y4/3　ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂質土
SB102	93Ab	SK 28	円形ﾛｰﾄ状丸底	0.50	0.45	0.20	2.5Y4/1　黄灰色砂質土
SB102	93Ab	SK 35	円形丸底	0.30	0.25	0.15	7.5YR3/1　黒褐色粘質土
SB102	93Ab	SK 36	円形丸底	0.45	0.45	0.22	2.5Y3/1　黒褐色粘質土
SB102	93Ab	SK 39					2.5Y3/2　黒褐色粘質土
SB103	95Cb	SB A	N-26°-E	3.55	2.05	面積／7.3㎡	Ⅱ式～Ⅲ式、桁行3間×梁行2間
SB103	95Cb	SK 88	円形平底	0.25	0.20	0.07	2.5Y5/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK 90	円形丸底	0.35	0.30	0.37	2.5Y3/1　黒褐色砂質土他
SB103	95Cb	SK 91	円形平底	0.30	0.30	0.38	2.5Y4/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK 92	円形平底	0.30	0.30	0.10	2.5Y5/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK 93	円形平底	0.40	0.35	0.18	2.5Y5/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK 95	円形平底	0.30	0.30	0.33	2.5Y5/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK 97	円形平底	0.30	0.30	0.05	2.5Y4/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK 98	楕円形平底	0.50	0.30	0.34	2.5Y4/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK 99	楕円形丸底	0.35	0.25	0.34	2.5Y4/1　黄灰色砂質土他
SB103	95Cb	SK100	円形平底	0.30	0.30	0.17	2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土他
SB104	95Cb	SB B	N-55°-E	2.45	1.90	面積／4.7㎡	Ⅱ式～Ⅲ式、桁行2間×梁行1間
SB104	95Cb	SK 22	円形丸底	0.25	0.25	0.37	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB104	95Cb	SK 24	円形丸底	0.30	0.25	0.41	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB104	95Cb	SK 26	楕円形平底	0.30	0.25	0.30	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB104	95Cb	SK 28	円形平底	0.40	0.40	0.39	2.5Y4/1　黄灰色砂質土
SB104	95Cb	SK 32	円形平底	0.35	0.35	0.42	2.5Y4/1　黄灰色砂質土
SB104	95Cb	SK 35	楕円形ﾛｰﾄ状丸底	0.35	0.25	0.28	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB105	95Cb	SB C	N-60°-E	2.20	1.90	面積／4.2㎡	Ⅱ式～Ⅲ式、桁行2間×梁行2間
SB105	95Cb	SK 23	円形丸底	0.30	0.30	0.27	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB105	95Cb	SK 30	円形平底	0.45	0.45	0.23	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土
SB105	95Cb	SK 33	円形丸底	0.35	0.30	0.33	10YR4/1　褐灰色砂質土
SB105	95Cb	SK 36	円形丸底	0.25	0.25	0.13	ﾍﾞｰｽ他
SB105	95Cb	SK 43	円形平底	0.20	0.20	0.19	2.5Y4/1　黄灰色砂質土他
SB105	95Cb	SK 79	楕円形	0.25	0.20	0.24	2.5Y4/1　黄灰色
SB106	96A	SB 03	(N-54°-W)	(3.40)	(2.30)	面積／(7.8)㎡	Ⅱ式～Ⅲ式、桁行2間～×梁行1間
SB106	96A	SK 69	円形丸底	0.30	0.30	0.10	5Y4/3　暗ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ質極細粒砂
SB106	96A	SK 70	円形丸底	0.35	0.35	0.11	2.5Y4/3　ｵﾘｰﾌﾞ褐色極細粒砂
SB106	96A	SK 73	円形丸底	0.35	0.30	0.10	2.5Y5/3　黄灰色極細粒砂
SB106	96A	SK 74	円形丸底	0.25	0.25	0.11	2.5Y5/3　黄褐色極細粒砂
SB106	96A	SK 75	円形丸底	0.25	(0.20)	0.14	2.5Y4/3　ｵﾘｰﾌﾞ褐色極細粒砂
SB106	96A	SK 77	円形丸底	0.25	0.25	0.16	2.5Y4/1　黄灰色ｼﾙﾄ質極細粒砂
SB106	96A	SK 78	円形丸底	0.25	0.25	0.06	5Y5/2　灰ｵﾘｰﾌﾞ色極細粒砂

第3表　掘立柱建物一覧



第19図　掘立柱建物実測図（1：100）

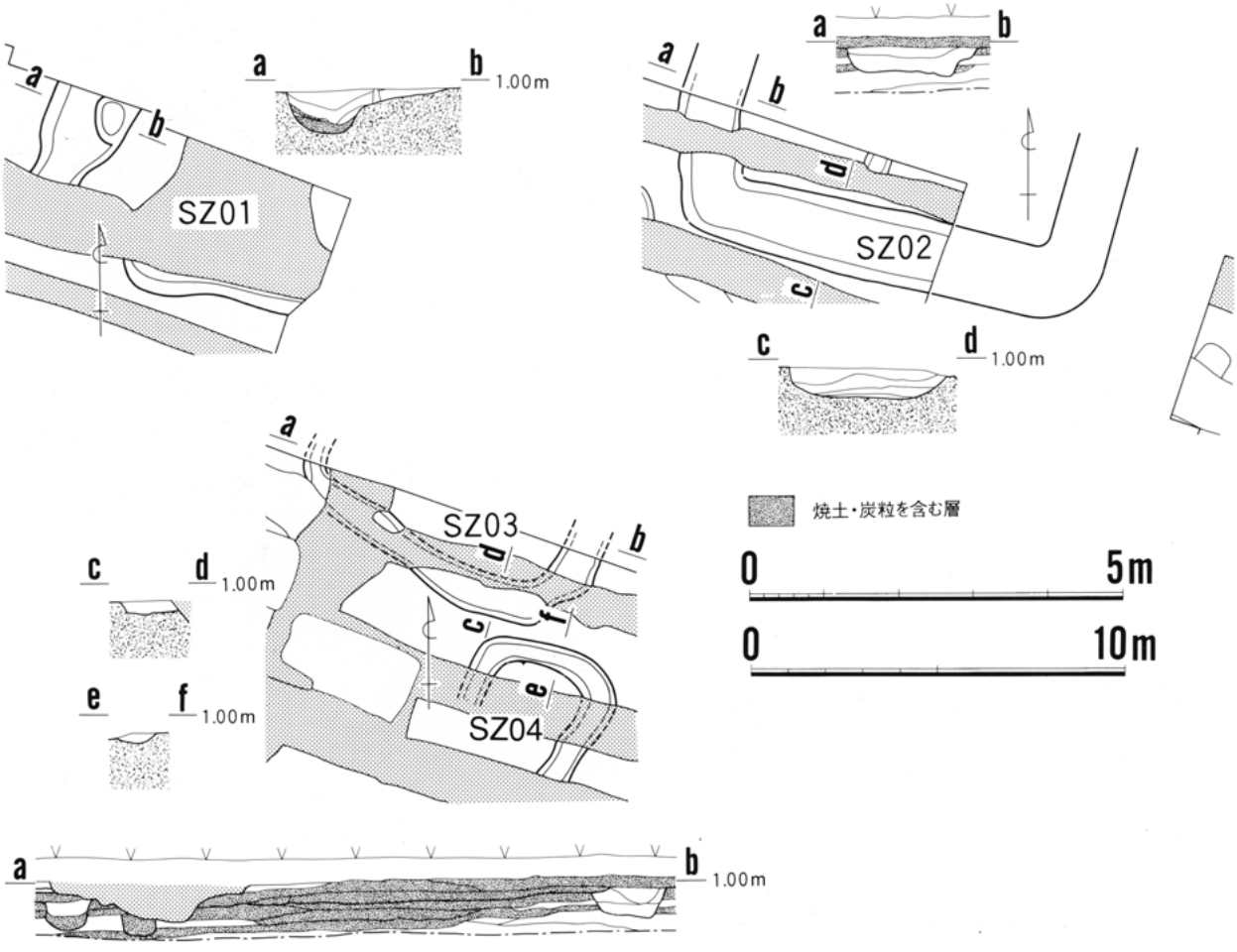
(3) 方形周溝墓
(第20図～第28図、第4表・第5表)

方形周溝墓　弥生時代の墓と考えているが、内部主体などは墳丘上部が削平されているため確認できていない。ここでは幅0.5m～3.0m、深さ1.7mまでの溝が方形状に独立して巡るものを分類している。方形の一隅が途切れるものがある。25基を確認した。

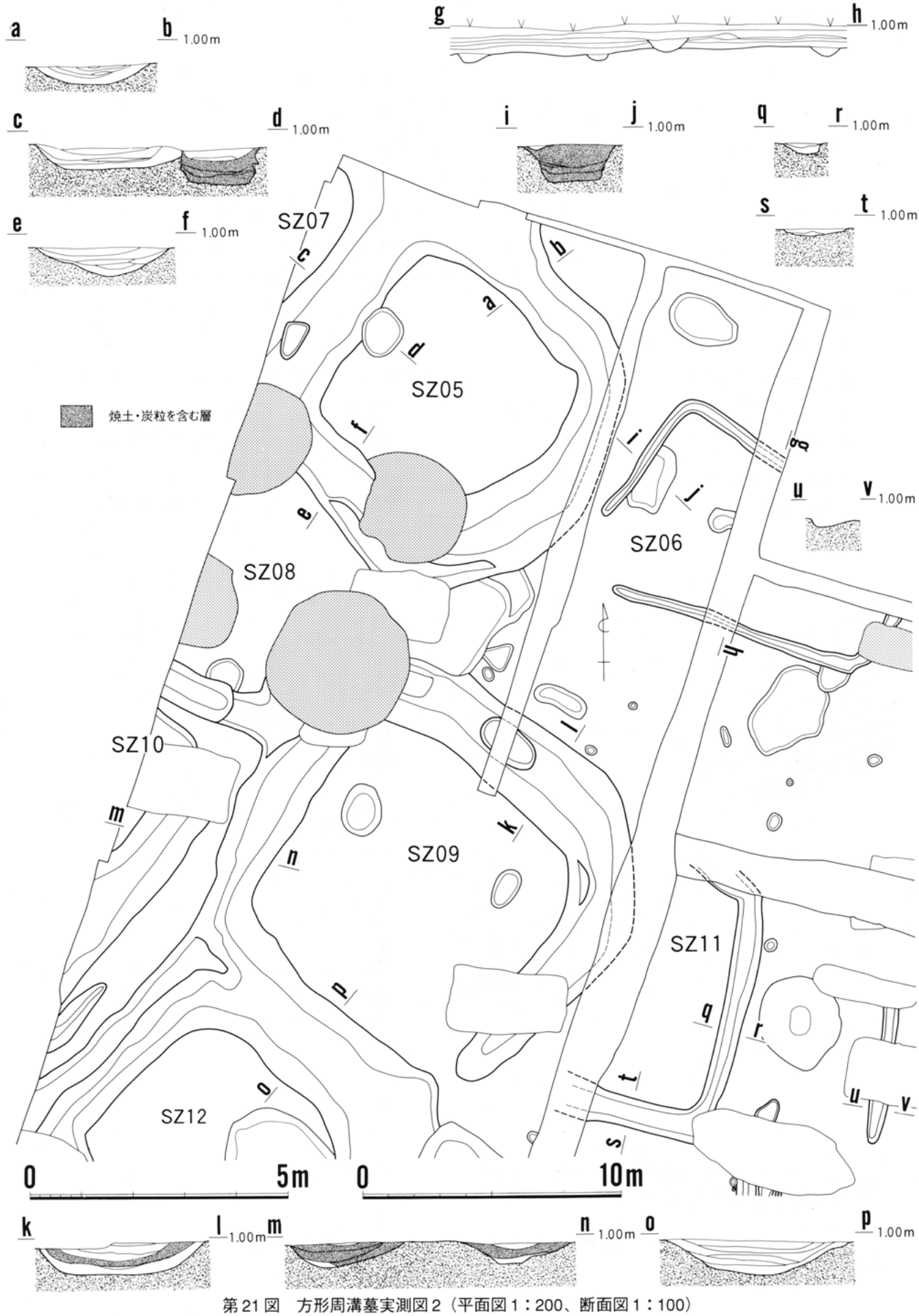
分　　布　方形周溝墓は北調査区の96B区1基、95F区3基と東調査区の93Aa区・93Ab区・95Aa～95Ac区・93D区・93Ba区・95Ba区・95E区のほぼ全範囲で21基検出されており、一色青海遺跡の東縁部南北にのびる微高地上に偏って分布している。

方　　位　方形周溝墓の方位（溝の方位）についてはN-45°-W前後のもの（SZ05～SZ10・SZ12～SZ18・SZ20a～SZ23・SZ25）とN-10°-E前後のもの（SZ01～SZ03・SZ11・SZ19・SZ24）の2つに分かれる。後者のSZ11・SZ19は前者の方形周溝墓より重複関係で古く、方位の異なる方形周溝墓が同時に営まれないとすると2段階の時期が存在するものと考えられる。

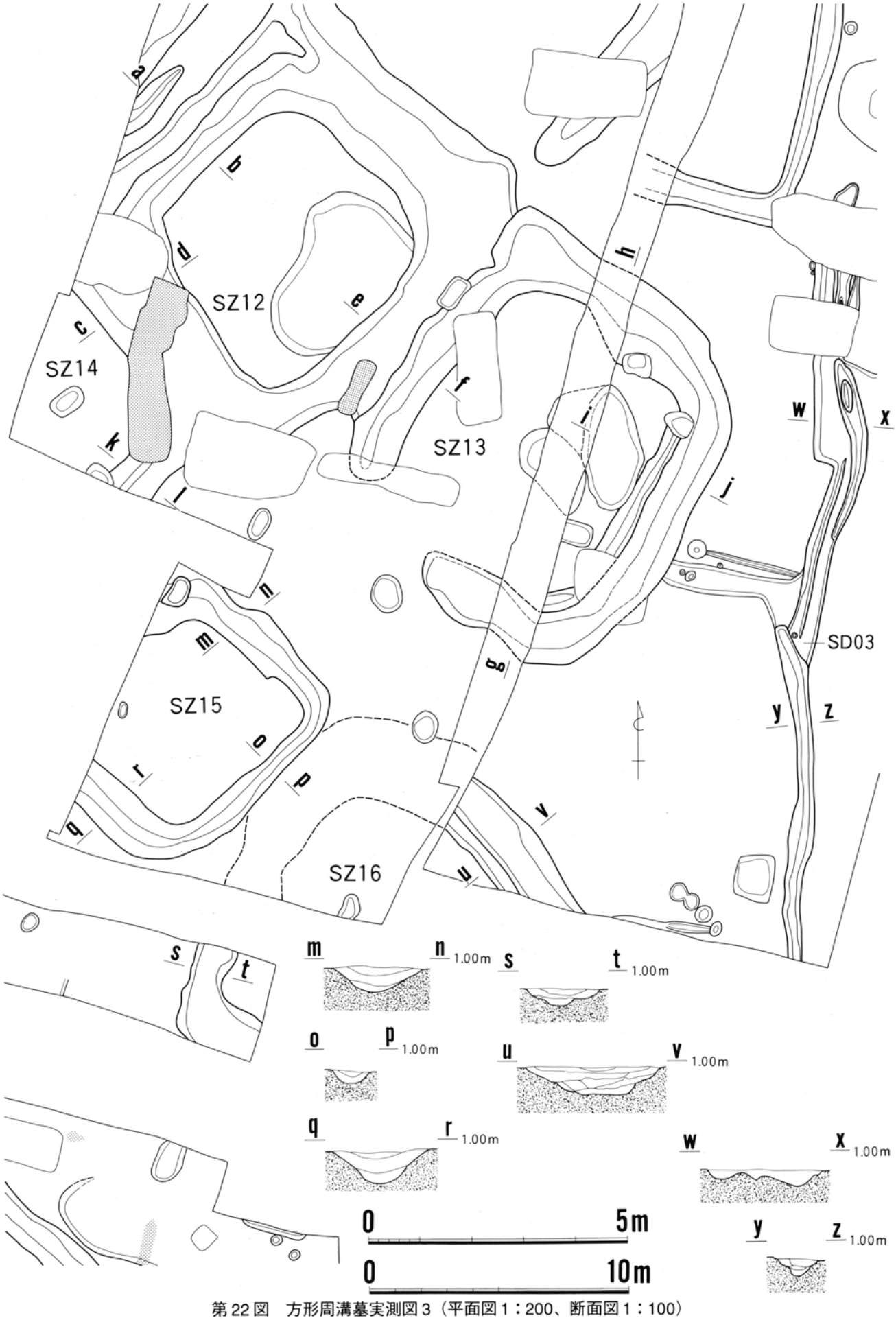
平面形態　方形周溝墓の溝の巡り方であるが基本的には正方形に近い方形状に巡るが、SZ13・SZ23は長方形状に溝が巡り、SZ13は南北12.50m、東西8.40mと明確に長方形プランをしている。またSZ06・SZ24は長台形状に溝が巡る。SZ



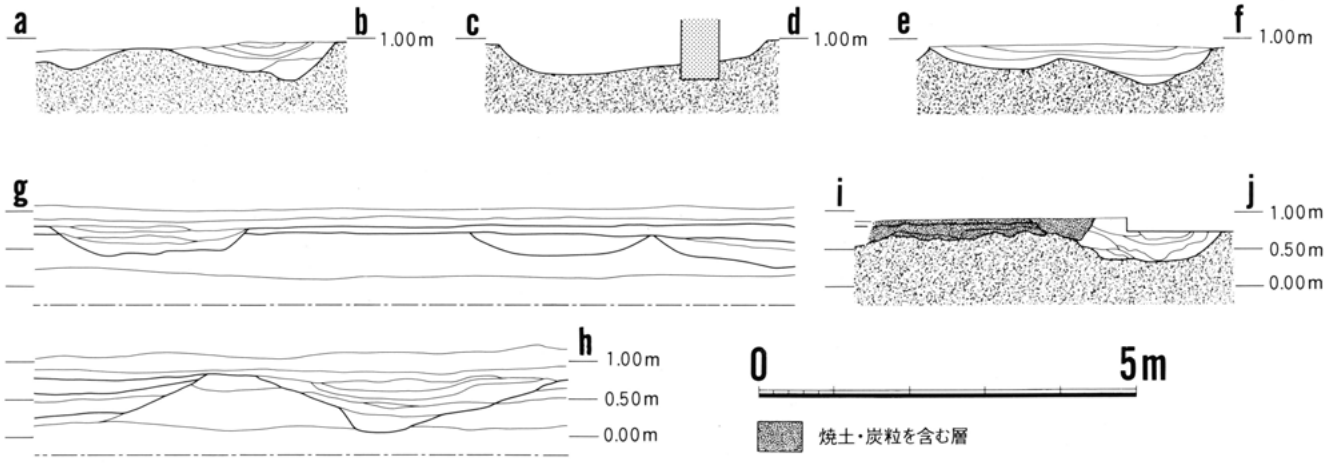
第20図　方形周溝墓実測図1（平面図1：200、断面図1：100）



第21図　方形周溝墓実測図2（平面図1：200、断面図1：100）



第22図　方形周溝墓実測図3（平面図1：200、断面図1：100）



第23図　方形周溝墓実測図4（1：100）

24については西溝中央から西に枝分かれする溝がのびることから方形周溝墓とは異なる可能性もある。

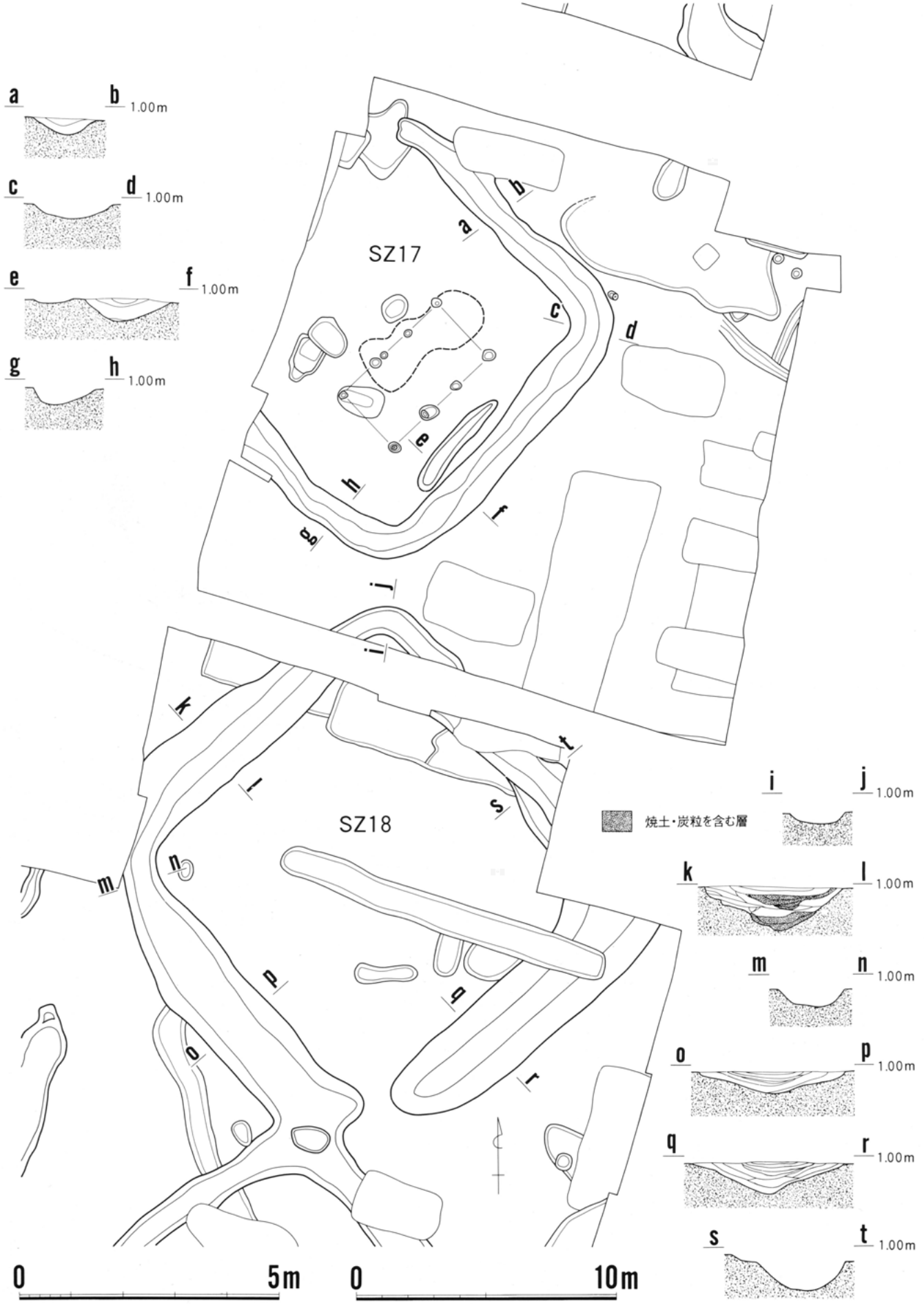
また全体がある程度判明しているものについて、溝のコーナーが途切れる部分を1カ所もつもの（ＳＺ09・ＳＺ13・ＳＺ17・ＳＺ18・ＳＺ20ａ・ＳＺ21・ＳＺ24）と溝の途切れる部分を2カ所持つもの（ＳＺ20ｂ）、溝が完全に全周するもの（ＳＺ05・ＳＺ12）がある。本来の姿は最も多数確認されている溝が1カ所途切れるものであるかもしれない。拡張されたと考えられる方形周溝墓ＳＺ20ａ・ＳＺ20ｂでは、拡張される前のＳＺ20ａでは南隅が1カ所途切れるだけであったのが、拡張された後のＳＺ20ｂでは東隅と南隅の2カ所が途切れていたようである。溝の途切れる部分については南隅が5基（ＳＺ09・ＳＺ18・ＳＺ20ａ・ＳＺ21・ＳＺ24）と多く、西隅が2基（ＳＺ06・ＳＺ13）、北隅が1基（ＳＺ17）ある。

溝の断面と埋土　溝の断面は丸底状のものが基本であるが、本来はもう少し溝が細く立ち上がりが急なものであった可能性が高いが、溝断面が断面Ｖ字の薬研掘り状のものを推定できるものはなかった。

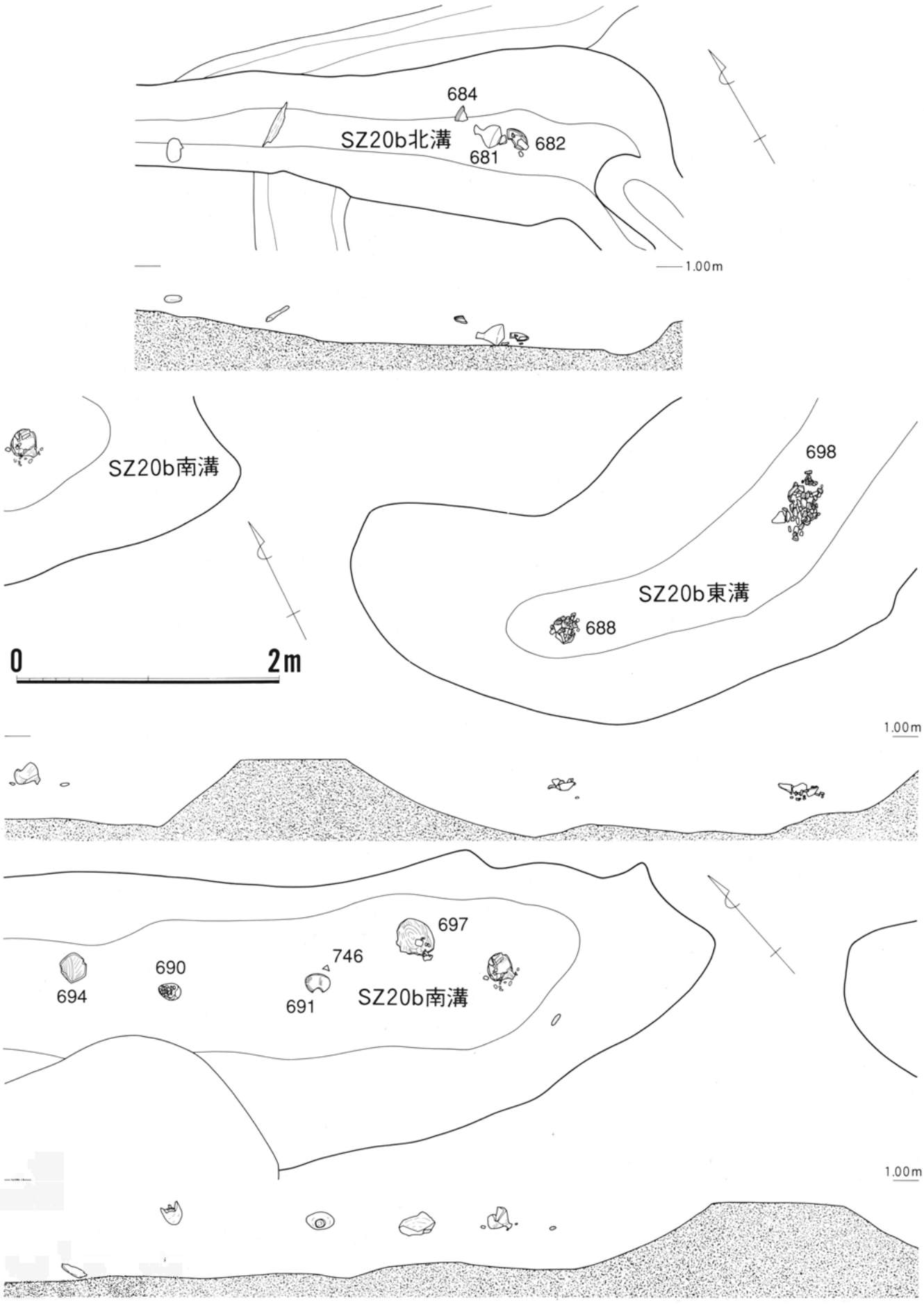
溝の埋土は数層から10層以上の堆積のあるものもあり、ほとんどの溝ではほぼ水平レンズ状に堆積している。ＳＺ01西溝・ＳＺ05南溝・ＳＺ20ａ東溝では一部墳丘側からの盛り土の崩落が観察できる。炭粒を含む層はあるが、あまり顕著なものはない。

遺物の出土状況　ＳＺ05・ＳＺ09・ＳＺ08・ＳＺ12・ＳＺ17・ＳＺ20ｂ・ＳＺ21などにおいて比較的完形に近い状態に復元できるものがまとまって出土しているが、溝から20㎝～50㎝浮いた状態で出土しているものがほとんどある。ＳＺ20ｂ北溝・南溝の一部の土器は溝の底直上の位置から出土した。遺物の出土位置について規則性は認められないが、受口口縁の細頸壺Ｃが少なく内湾口縁の細頸壺Ｄ・大型の平底甕が比較的多く出土している。

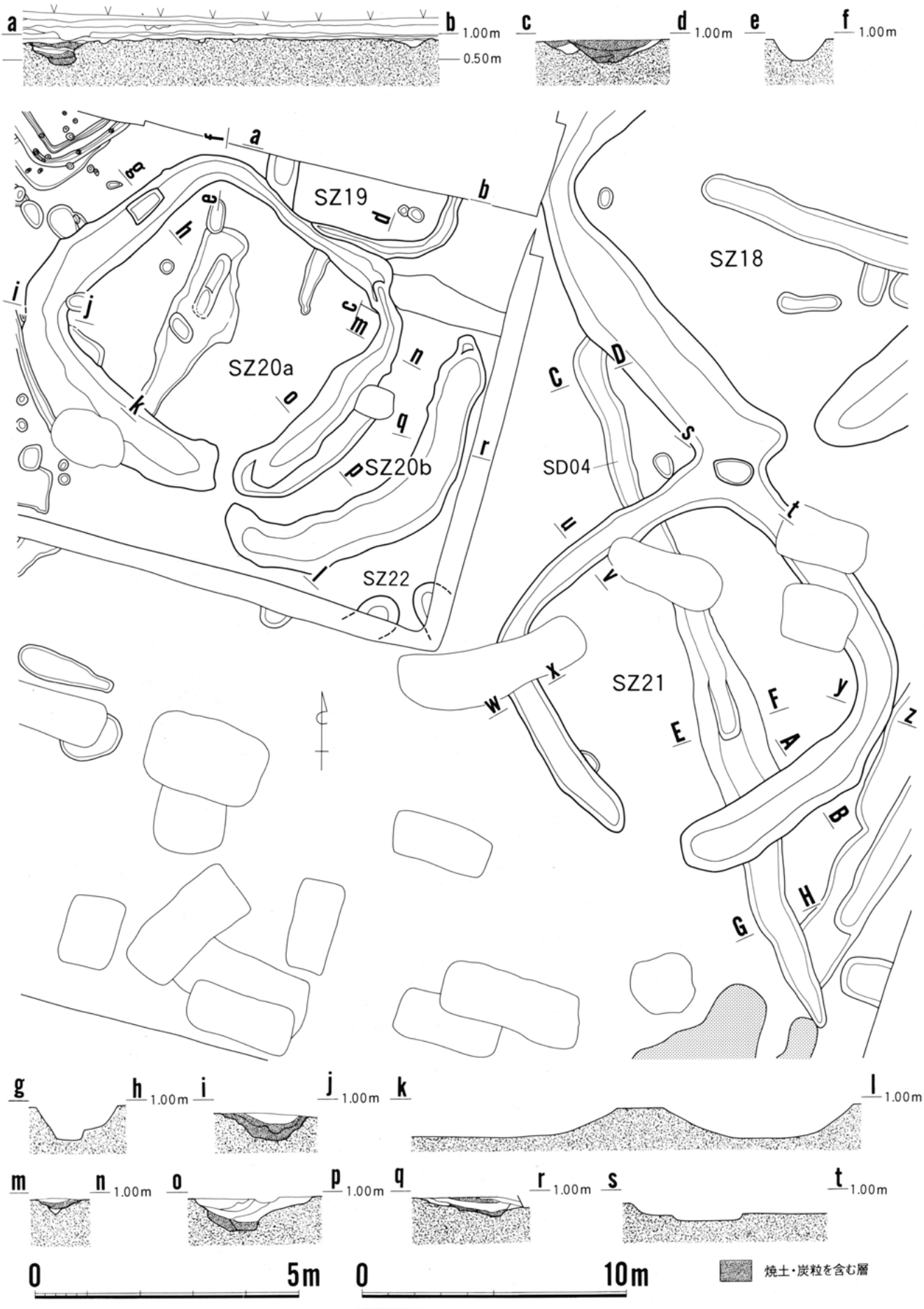
ＳＺ13東隅溝底からベンガラが径10㎝程の範囲で薄く残存していた。



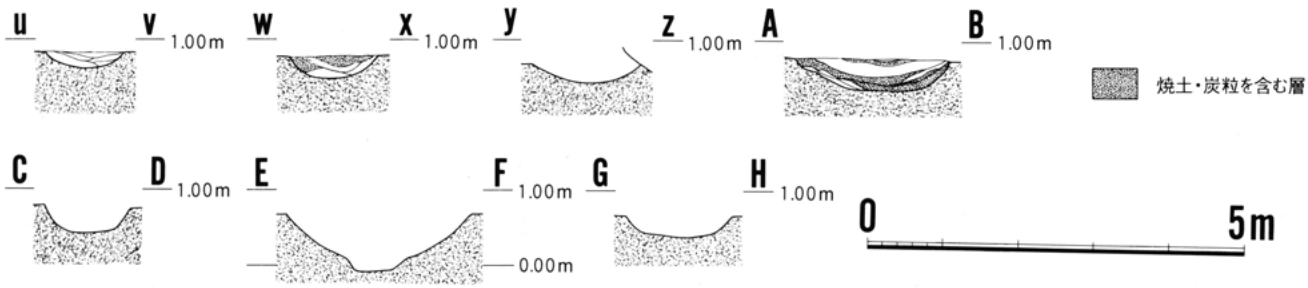
第24図　方形周溝墓実測図5（平面図1：200、断面図1：100）



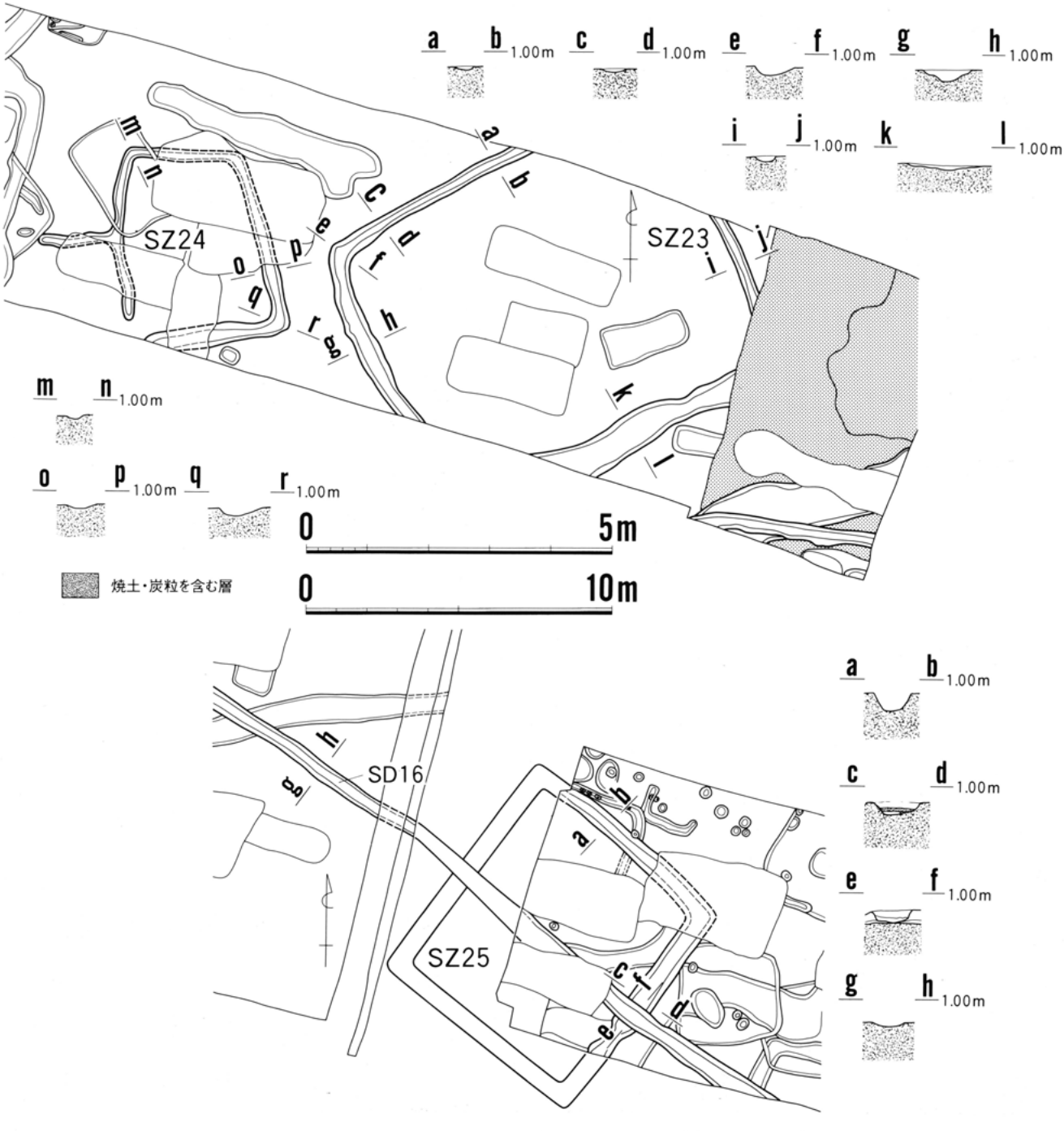
第25図　方形周溝墓ＳＺ20ｂ遺物出土状況図（1：40）



第26図　方形周溝墓実測図6（平面図1：200、断面図1：100）



第27図　方形周溝墓実測図5（1：100）



第28図　方形周溝墓実測図8（平面図1：200、断面図1：100）

新遺構No	調査区	旧遺構No	方位	溝断面形態	長径(m)・溝の幅(m)	短径(m)・辺の長さ(m)	溝の深さ(m)	備考
SZ 01	96B	SZA	(N-78-W)	／	(7.45)	(3.50)	／	
SZ 01西溝	96B	SD 01A	N-30-E	丸底？	2.20	(2.60)	0.59	
SZ 01西溝	96B	SZA西溝	SD01A	丸底？	2.20	／	0.59	
SZ 01東溝	96B	SZA東溝	調査区外					
SZ 01南溝	96B	SD 02	N-78-W	丸底？	0.65	(5.00)	(0.18)	
SZ 01南溝	96B	SZA南溝	SD02	丸底？	0.65	／	(0.18)	
SZ 01北溝	96B	SZA北溝	調査区外					
SZ 02	95F	SZA	(N-76-W)	／	(7.00)	(2.55)	／	
SZ 02西溝	95F	SZA西溝	SD16	平底	1.75	(3.10)	0.38	
SZ 02西南溝	95F	SD 16	N-	平底				
SZ 02東溝	95F	SZA東溝	調査区外					
SZ 02南溝	95F	SZA南溝	SD16	平底	2.10	(5.85)	0.43	
SZ 02北溝	95F	SZA北溝	調査区外					
SZ 03東南西溝	95F	SD 14	N-51～75-W他	平底,丸底	1.00～0.65	9.20	0.40～0.18	
SZ 04西北東溝	95F	SD 15	N-不定	丸底	0.50	(6.55)	0.13	
SZ 05	93Aa	SZ 01	N-43-E	／	11.10	10.45	／	Ⅲ式ｃ段階
SZ 05西溝	93Aa	SZ 01西溝	／	平底	2.85	／	0.60～0.39	
SZ 05東溝	93Aa	SZ 01東溝	／	丸底	3.30	／	0.53～0.37	
SZ 05南溝	93Aa	SZ 01南溝	／	丸底	2.55	／	0.56	
SZ 05北溝	93Aa	SZ 01北溝	／	平底	2.55	／	0.40～0.27	
SZ 06西北溝	93Aa	SD 01	N-39-E,-54-W	丸底	0.55	8.60	0.17	Ⅱ式
SZ 07	93Aa	SZC	(N-39-E)	／	(6.70)	(3.75)	／	
SZ 07西溝	93Aa	SZC西溝	撹乱不明					
SZ 07東溝	93Aa	SZC東溝	SZ01西溝?	平底	2.85	／	0.60～0.39	
SZ 07南溝	93Aa	SZC南溝	調査区外					
SZ 07北溝	93Aa	SZC北溝	SZ01北溝続き	不明	不明	／	不明	
SZ 08	93Aa	SZD	(N-25-E)	／	10.40	(6.50)	／	Ⅲ式ａ段階
SZ 08西溝	93Aa	SZD西溝	調査区外					
SZ 08東溝	93Aa	SZD東溝	撹乱不明	不明	不明	／	不明	
SZ 08南溝	93Aa	SZD南溝	SD04B	丸底	1.60	／	0.37	
SZ 08南溝?	93Aa	SD 04B	N-65-W	丸底	1.60	(2.80)	0.37	
SZ 08北溝	93Aa	SZD北溝	SZ01南溝?	丸底	2.55	／	0.56	
SZ 09	93Aa	SZ 02	N-40-E	／	13.90	13.25	／	Ⅱ式
SZ 09西溝	93Aa	SZ 02西溝	／	平底	2.75	／	0.43	
SZ 09東溝	93Aa	SZ 02東溝	／	平底	2.40	／	0.66～0.48	
SZ 09南溝	93Aa	SZ 02南溝	／	丸底	3.60	／	0.66～0.47	
SZ 09北溝	93Aa	SZ 02北溝	／	平底	3.30	／	0.68	
SZ 10	93Aa	SZA	(N-44-E)	／	(8.70)	(2.80)	／	Ⅲ式ｃ段階
SZ 10西溝	93Aa	SZA西溝	調査区外					
SZ 10東溝	93Aa	SZA東溝	SD02	丸底	2.30	／	0.59～0.46	
SZ 10南溝	93Aa	SZA南溝	調査区外					
SZ 10北溝	93Aa	SZA北溝	SD02	不明	(1.20)	／	不明	
SZ 10北東溝	93Aa	SD 02	N-50-W,-44-E	丸底	2.30	9.55	0.59～0.46	
SZ 11	95Aa	SZA	(N-12-E)	／	(9.80)	(4.35)	／	Ⅱ式
SZ 11西溝	95Aa	SZA西溝	調査区外					
SZ 11東溝	95Aa	SZA東溝	SD03	平底?	0.75	8.45	0.22	
SZ 11南溝	95Aa	SZA南溝	SD03	平底	1.25	(4.00)	0.19	
SZ 11北溝	95Aa	SZA北溝	SD03	平底?	0.95	(3.40)	0.09	
SZ 11北東南溝	95Aa	SD 03	N-	平底				
SZ 12	93Aa	SZ 03	N-46-E	／	11.20	10.50	／	Ⅲ式ａ段階
SZ 12西溝	93Aa	SZ 03西溝	／	丸底	2.20	／	0.59	
SZ 12東溝	93Aa	SD 05	N-43-E	丸底	1.95	(1.85)	0.55	
SZ 12東溝	93Aa	SZ 03東溝	／	丸底	1.70	／	0.33	
SZ 12南溝	93Aa	SZ 03南溝	／	平底	3.45	／	0.37	
SZ 12北溝	93Aa	SZ 03北溝	／	丸底	3.60	／	0.66～0.47	
SZ 13	93Aa	SZ 04	N-39-E	／	12.50	(8.40)	／	Ⅲ式ａ段階
SZ 13	95Aa	SZB	(N-27-E)	／	12.55	(4.05)	／	
SZ 13西溝	93Aa	SZ 04西溝	／	丸底	2.05	／	0.50	
SZ 13西溝	95Aa	SZB西溝	93Aa/SZ04					
SZ 13東溝	93Aa	SZ 04東溝	95Aa/SD02			／		
SZ 13東溝	95Aa	SZB東溝	SD02	平底	3.10	10.05	0.59	
SZ 13南溝	93Aa	SZ 04南溝	／	丸底	2.30	／	0.40～0.25	
SZ 13南溝	95Aa	SZB南溝	SD02	平底	2.40	(1.30)	0.57	
SZ 13北溝	93Aa	SZ 04北溝	／	平底	2.00	／	0.49	
SZ 13北溝	95Aa	SZB北溝	SD02	平底?	3.20	(5.35)	0.42	
SZ 13北東南溝	95Aa	SD 02	N-	平底				
SZ 14	93Aa	SZB	(N-43-E)	／	(7.80)	(7.00)	／	
SZ 14西溝	93Aa	SZB西溝	調査区外					
SZ 14東溝	93Aa	SZB東溝	SD05	丸底	1.95	(1.85)	0.55	
SZ 14南溝	93Aa	SZB南溝	調査区外					
SZ 14北溝	93Aa	SZB北溝	SZ03南溝?					
SZ 15	93Aa	SZ 05	N-43-E	／	8.80	(7.60)	／	Ⅲ式ａ段階
SZ 15西溝	93Aa	SZ 05西溝	調査区外					
SZ 15東溝	93Aa	SZ 05東溝	／	丸底	1.30	／	0.50～0.25	
SZ 15南溝	93Aa	SZ 05南溝	／	丸底	1.90	／	0.65～0.54	
SZ 15北溝	93Aa	SZ 05北溝	／	丸底	1.70	／	0.48	

第４表　方形周溝墓一覧１

新遺構No	調査区	旧遺構No	方位	溝断面形態	長径(m)・溝の幅(m)	短径(m)・辺の長さ(m)	溝の深さ(m)	備考
SZ 16	95Aa	SZC	(N-38-W)	／	(6.80)	(3.20)	／	Ⅲ式a段階？
SZ 16	95Ab	SZA	(N-15-E)	／	(3.40)	(2.40)	／	
SZ 16西溝	95Aa	SZC西溝	SD01,95Ab北	平底?				
SZ 16西溝	95Ab	SZA西溝	SD01	平底?	1.40	／	0.32	
SZ 16南溝	95Aa	SZC南溝	95Ab北/SD01	平底				
SZ 16南溝	95Ab	SZA南溝	SD01	平底	(1.90)	／	0.44	
SZ 16南西溝	95Ab	SD 01	N-15-E,-62-W	平底	(1.90)～1.40	(5.25)	0.44～0.17	
SZ 16北溝	95Aa	SD 01	N-	平底				
SZ 16北溝	95Aa	SZC北溝	SD01	平底	2.55	(6.80)	0.54	
SZ 16北溝	95Ab	SZA北溝	95Aa/SD01					
SZ 17	93Ab	SZ 01	(N-41-E)	／	12.85	(12.65)	／	Ⅲ式b段階
SZ 17西溝	93Ab	SZ 01西溝	調査区外					
SZ 17東溝	93Ab	SZ 01東溝	／	丸底	1.85	／	0.43	
SZ 17南溝	93Ab	SZ 01南溝	／	丸底	1.65	／	0.34	
SZ 17北溝	93Ab	SZ 01北溝	／	丸底	1.60	／	0.34	
SZ 18	93Ab	SZ02	(N-48-W)	／	(3.10)	(1.95)	／	Ⅲ式a段階
SZ 18	93Ba	SZ 01	N-38-W	／	15.00	14.55	／	
SZ 18	95Ac	SZA	(N-42-W)	／	(13.10)	(10.30)	／	
SZ 18西溝	93Ab	SZ02西溝	／	平底	1.00	／	0.23	
SZ 18西溝	93Ba	SZ 01西溝	／	丸底	(1.05)	(2.15)	0.29	
SZ 18西溝	95Ac	SD 01西	N-48-E	丸底	2.80	(8.70)	0.68	
SZ 18西溝	95Ac	SZA西溝	SD01	丸底∨	2.65	／	(0.81)	
SZ 18東溝	93Ab	SZ02東溝	93Ba/SZ01					
SZ 18東溝	93Ba	SZ 01東溝	／	丸底∨	2.95	(11.00)	0.65	
SZ 18東溝	95Ac	SZA東溝	93Ba/SZ01					
SZ 18南溝	93Ab	SZ02南溝	93Ba/SZ01					
SZ 18南溝	93Ba	SZ 01南溝	／	丸底∨	3.05	12.85	0.48	
SZ 18南溝	95Ac	SZA南溝	93Ba/SZ01					
SZ 18北溝	93Ab	SZ02北溝	／	平底	1.10	／	0.25	
SZ 18北溝	93Ba	SZ 01北溝	93Ab/SZ02					
SZ 18北溝	95Ac	SD 01北	N-52-W	丸底	2.40	(7.00)	0.70	
SZ 18北溝	95Ac	SZA北溝	SD01	平底?	(1.75)	／	0.57	
SZ 19	95Ba	SZB	(N-75-W)	／	6.65	(2.35)	／	Ⅱ式
SZ 19西溝	95Ba	SZB西溝	SD02	丸底?	1.25	(1.90)	0.44	
SZ 19東溝	95Ba	SZB東溝	SD02	丸底	0.75	(2.30)	0.34～0.19	
SZ 19東南西溝	95Ba	SD 02	N-	丸底?				
SZ 19南溝	95Ba	SZB南溝	SD02	丸底	0.80	(4.55)	0.46～0.18	
SZ 19北溝	95Ba	SZB北溝	調査区外					
SZ 20a	95Ba	SZA	N-47-W	／	10.55	10.00	／	Ⅲ式a段階
SZ 20a西溝	95Ba	SZA西溝	SD01	丸底	2.10	／	0.65～0.47	
SZ 20a東溝	95Ba	SD 03	N-44-E	丸底?	2.90	10.45	0.64～0.29	
SZ 20a東溝	95Ba	SZA東溝a	SD03	丸底	2.90	／	0.64～0.29	
SZ 20a南溝	95Ba	SZA南溝	SD01	丸底	2.55	／	0.56	
SZ 20a北溝	95Ba	SZA北溝	SD01	丸底	1.75	／	0.45～0.18	
SZ 20b	95Ba	SZA	N-47-W	／	14.95	10.00	／	Ⅲ式a段階～Ⅲ式b段階
SZ 20b西溝	95Ba	SZA西溝	SD01	丸底	2.10	／	0.65～0.47	
SZ 20b東溝	95Ba	SZA東溝b	SD01	丸底	2.35	／	0.62～0.38	
SZ 20b南溝	95Ba	SZA南溝	SD01	丸底	2.55	／	0.56	
SZ 20b北溝	95Ba	SZA北溝	SD01	丸底	1.75	／	0.45～0.18	
SZ 20四周	95Ba	SD 01	N-	平底?				
SZ 21	95Ba	SZ 02	N-56-E	／	12.15	12.10	／	Ⅲ式a段階
SZ 21西溝	95Ba	SZ 02西溝	／	丸底	1.50	10.55	0.21	
SZ 21東溝	95Ba	SZ 02東溝	／	丸底	2.15	10.10	0.60	
SZ 21南溝	95Ba	SZ 02南溝	／	丸底	1.45	8.35	0.31	
SZ 21北溝	95Ba	SZ 02北溝	／	平底?	1.90	10.45	0.33	
SZ 22	95Ba				不明	不明	不明	
SZ 22西溝	95Ba	SZ西溝			不明	不明	不明	
SZ 22北溝	95Ba	SZ北溝			不明	不明	不明	
SZ 23	95E	SZA	N-62-E	／	12.20	10.00	／	
SZ 23四周	95E	SD 08	N-	丸底				
SZ 23西溝	95E	SZA西溝	SD08	平底	0.80	(6.10)	0.21	
SZ 23東溝	95E	SZA東溝	SD08	丸底	0.40	(3.55)	0.13	
SZ 23南溝	95E	SZA南溝	SD08	丸底?	1.20	(7.30)	0.17	
SZ 23北溝	95E	SZA北溝	SD08	丸底	0.40	(7.20)	0.13	
SZ 24区画	95E	SZB区画	N-06-W	／	6.10	5.10	／	
SZ 24四周	95E	SD 09	N-06-E他	丸底,平底	0.70～0.30	(15.35)	0.25～0.05	
SZ 24枝1	95E	SZB枝1	SD 09枝1	丸底	0.40	2.35	0.08	
SZ 24西溝	95E	SZB西溝	SD 09	丸底	0.40	5.45	0.05	
SZ 24東溝	95E	SZB東溝	SD 09	平底	0.55	(2.10)	0.08	
SZ 24南溝	95E	SZB南溝	SD 09	平底	0.70	(4.40)	0.25	
SZ 24北溝	95E	SZB北溝	SD 09	丸底	0.30	(1.05)	不明	
SZ 25	95E	SZC	(N-37-E)	／	(7.35)	(6.30)	／	Ⅲ式a段階
SZ 25西溝	95E	SZC西溝	調査区外					
SZ 25東溝	95E	SZC東溝	SD03	平底	0.85	／	0.28	
SZ 25南溝	95E	SZC南溝	調査区外					
SZ 25北溝	95E	SZC北溝	SD03	平底	0.65	／	0.28	
SZ 25北東溝	95E	SD 03	N-52-W,-37-E	平底	0.85～0.65	(8.60)	0.34～0.21	

第5表　方形周溝墓一覧2

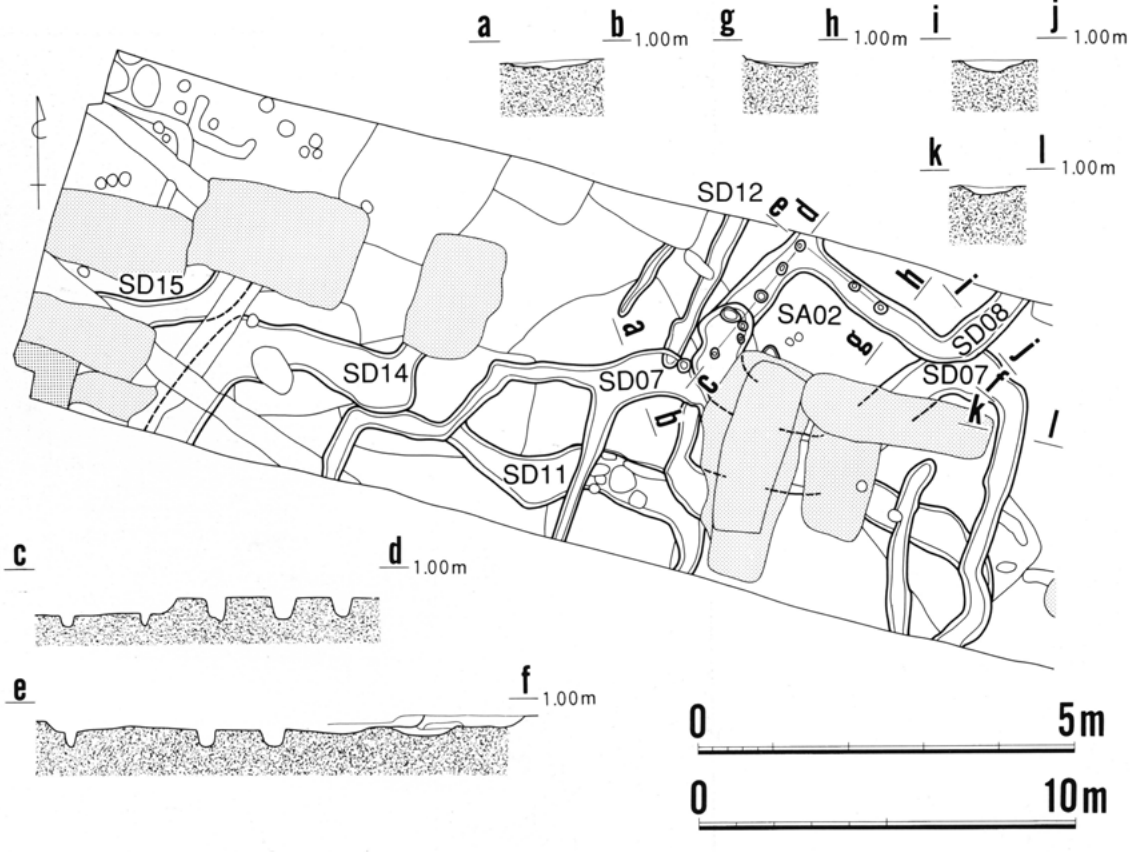
(4) 溝（第22図・第25図・第26図・第29図～第31図、第6表）

溝　人為的に掘られたと考えられるものを分類しているが、集落を区画すると思われるもの4条と集落の南側縁辺部に集中して見いだされるものを27条取りあげた。前者は幅が0.3m～2.4m、深さも0.2m～0.7mと幅がある比較的明確な溝であるが、後者は幅が0.2m～1.5m、深さ0.05m～0.30mとやや細く、形態的にも不明瞭な部分がある。95E区では前者の溝の後SD16が掘られている。

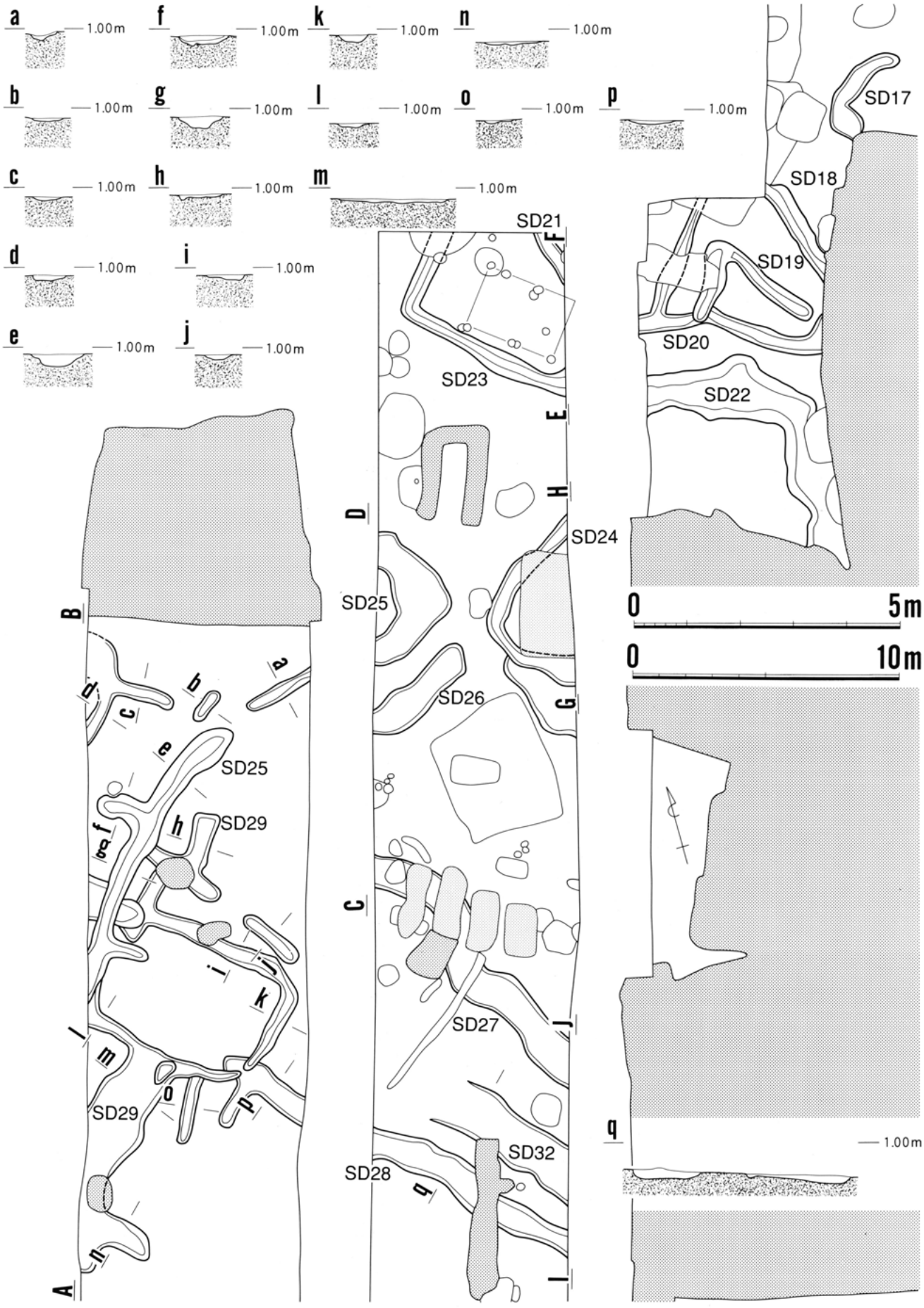
分　布　溝は集落の外部を区画すると思われるSD03・SD04・SD15・SD16と集落の南側縁辺部の微高地にそって重複して検出されるものに分かれる。後者の溝は95E区（SD06～SD14）と95Cb区南側・96D区・95Db区（SD17～SD32）の2調査区で検出されているが、本来は南調査区においても広く存在したものと思われる。

巡り方　溝は基本的に全て微高地の縁辺部を等高線に沿って流れているが、SD04のみやや地形の起伏とは異なる方向をもって流れている。SD03・SD04・SD15・SD16はほぼ直線状に流れるが、その他のSD06～SD14・SD17～SD32は直角に曲がって方形状に巡るもの（SD28）や鍵状に巡るもの（SD18・SD24など）、枝分かれして流れるもの（SD12・SD24など）などが重複して交差するように検出された。

埋土と断面　埋土はシルト～細粒砂の単一層で埋まっているものが多く、比較的短期間に埋まったことを示しているものと思われるが、SD16やSD24の一部分では2層からなる堆積が残存してい



第29図　溝実測図1（平面図1：200、断面図1：100）



第30図　溝実測図2（平面図1：200、断面図1：100）



第31図　溝実測図3（1：100）

た。

断面は溝の上部がかなり削平されているものと思われるが、基本的には丸底の断面形態になるものと思われる。また残存している部分ではあるがＳＤ03やＳＤ04では底の深さに20㎝～30㎝程差がある部分があり、区画溝と考えられる溝については必ずしも一方向に流れていなかったように思われる。

その他の溝についてはほぼ地形に沿って流れており、ある程度水の流れがあったものと思われる。

溝に伴う柵　ＳＤ07に伴うものとしてＳＡ02がある。ＳＡ02は径30㎝前後、深さ20㎝～30㎝の柱穴が7個南にひらく鍵状に並ぶもので北西から南東は2.7ｍ、北東から南西は3.6ｍある。0.8ｍ～1.0ｍの間隔で柱穴が並び、溝の方向と同一であるので溝に伴う柵と考えられる。

出土状況　区画溝としたＳＤ03・ＳＤ04・ＳＤ15・ＳＤ16からは少量土器が出土するが、その他の溝についてはほとんど出土しなかった。

新遺構No	調査区	旧遺構No	流路の方向	断面形態	幅(m)	確認した長さ（m)	深さ	備考
SD 01	96C	SD 01	N-　-E	平底	0.60	(5.30)	0.14	～Ⅱ式
SD 02	94Aa	SD 06	N-20-E	丸底	3.30	(1.90)	0.67	
SD 03	95Aa	SD 04・SD 06	N-09-E	不定	2.20～0.60	(30.10)	0.34～0.08	Ⅲ式a段階
SD 04	93Ba	SD 03	N-18-W	丸底	2.55	(27.65)	0.76～0.15	Ⅱ式
SD 05	95E	SD 29A	N-76-E	平底	1.95	(7.55)	0.23	
SD 06	95E	SD 28A	N-83-W	丸底	0.65	(6.10)	0.44	
SD 06	95E	SD 10	N-不定	丸底	1.60～0.70	(14.40)	0.23	
SD 06	95E	SD 16	N-76-E	平底	1.30	(2.75)	0.12	
SD 07	95E	SD 19	N-不定	平底	0.60	(9.45)	0.15	
SD 07	95E	SD 14	N-54-W,-48-E	平底	0.85	(6.70)	0.16	
SD 08	95E	SD 15	N-41-E	平底	1.05	(3.15)	0.19	
SD 09	95E	SD 12	N-03～28-E	丸底?	0.70	(4.75)	0.26	
SD 09	95E	SD 11	N-64-W	平底	1.25	(2.95)	0.31	
SD 09	95E	SD 13	N-					
SD 10	95E	SD 25	N-不定	平底	1.05～0.45	(3.50)	0.14	
SD 10	95E	SD 20	N-不定	平底	0.85	(7.55)	0.26	
SD 11	95E	SD 28B	N-					
SD 12	95E	SD 29B	N-25-E	平底	0.55	(4.50)	0.15	
SD 13	95E	SD 18	N-20-E	平底	0.70～0.30	(4.00)	0.17	
SD 13	95E	SD 21	N-不定,-72-W	平底	1.90～0.65	(8.65)	(0.20)	
SD 14	95E	SD 23	N-	平底				
SD 15	95E	SD 24	N-83-E	平底	2.65	(3.65)	0.08	
SD 16	93Bb	SD 02	N-65-W	丸底	0.80	(47.15)	0.20～0.07	
	93Ca	SD 02	N-50-W	丸底	0.70	(41.25)	0.17	
	94Cb	SD 06	N-46-W	丸底	0.45	(11.00)	(0.08)	
	94E	SD 02	N-71-W	丸底	0.40	(7.25)	0.08	
	94F	SD 01A	N-46-W	平底	0.45	(1.75)	0.13	
	94F	SD 01B	N-68-W	丸底	0.35	(1.15)	0.04	
	95E	SD 02	N-44-E	平底	0.65	(10.00)	0.20	Ⅲ式a段階
SD 17	95Cb	SK 74	不定形	平底	(3.65)	0.75	(0.25)	
SD 18	95Cb	SD 07	N-17-W	丸底	0.85	(4.10)	0.32～0.13	（Ⅱ式）
SD 19	95Cb	SD 03	N-35-W,-33-E	丸底	0.65	6.95	0.33	～Ⅱ式
SD 20	95Cb	SD 05	N-37-E,-53～83-W	丸底	0.70	(7.05)	0.16	Ⅱ式
SD 21	96A	SD 04	N-16-W	平底	0.60	(2.30)	0.24	
SD 22	95Cb	SD 06	N-77-W,-05-E	丸底,平底	(1.80)	(11.85)	0.17	
SD 23	96A	SD 11	N-46-W,-42-E	丸底	0.85	(8.35)	0.31～0.07	
SD 24	96A	SD 06	N-74-W～63-E	平底	1.10～0.50	(9.30)	0.13	
	95Db	SD 04	N-76-E	丸底?∨	0.50	(2.85)	0.17	
	95Db	SD 05	N-35～67-E他	丸底	1.00～0.85	(12.20)	0.25	
SD 25	96A	SD 10	N-22-W,-56-E	平底	2.10～0.70	(6.15)	0.13	
SD 26	96A	SD 09	N-65-E	平底	1.45	(4.65)	0.25	
SD 27	96A	SD 08	N-58-W～N	平底	1.60～1.20	(11.60)	0.24	
SD 27	95Db	SD 09	N-41-W,-46-E	平底	0.90,0.55	(5.55)	0.09	
SD 28	96A	SD 02	N-59～43-W	平底	1.40～0.80	(8.30)	0.20	Ⅱ式
	95Db	SD 08	N-不定	平底,丸底	2.05～0.55	(34.90)	0.19～0.03	
	95Db	SD08A区画	N-48-W		6.40	4.80	／	
	95Db	SD08A北溝	N-51-W	平底	0.75	6.70	0.11	
	95Db	SD08A東溝	N-45-E	丸底	0.55	3.20	0.18	
	95Db	SD08A西溝	不明	平底	不明	1.50+1.10	不明	
	95Db	SD08A南溝	N-49-W	平底	0.60	6.15	0.10	
	95Db	SD08B	N-27-E	丸底	0.55	2.65	0.08	
	95Db	SD08C主	N-50-E	平底	2.05	(4.50)	0.10	
	95Db	SD08C枝1	N-42-W	平底	1.10	(2.35)	0.08	
	95Db	SD08D	N-53-W	平底	1.55～1.10	(2.55)	0.19	
	95Db	SD08E主	N-41-W	平底	0.75	(3.10)	0.03	
	95Db	SD08E枝1	N-32-E	平底	0.80	2.20	0.11	
SD 29	95Db	SD08E枝2	N-45-E	平底	0.65	(1.45)	0.06	
SD 30	95Db	SD 06A	N-14～44-E,-60	丸底	0.60	(6.40)	0.11	
SD 31	95Db	SD 07	N-34-W	丸底	0.55	2.55	0.10	
SD 32	96A	SD 05	N-42-W	平底	1.95	(6.10)	0.16	

第6表　溝一覧

(4) 井戸（第32図・第7表）

井　戸　円形大型のロート状丸底の土坑状のもので深さが遺構面から1.51ｍあり、-0.86ｍまで掘り込まれていた。9月初めの井戸内の滞水面が-0.65ｍであったので、十分に井戸として機能したのではないかと思われた。このＳＥ01のみ分類した。

分　布　井戸は東調査区の95Ａａ区の微高地上で検出された。

埋　土　シルトから中粒砂が交互に堆積いている。3層上面で土器と自然流木を、4層上面において自然流木と一部の建築材がまとまって出土した。土坑の上面は中世以前の褶曲構造を持つ腐植土層が入り込み、弥生時代以後中世に至るまで凹みとして残存していたものと思われる。井戸の周りには、径15㎝程、深さ10㎝程のピット群がめぐり、井戸の上屋を支えていたのかもしれない。柱痕跡は見つからなかった。

(4) 土坑
（第33図～第35図、第7表・第8表）

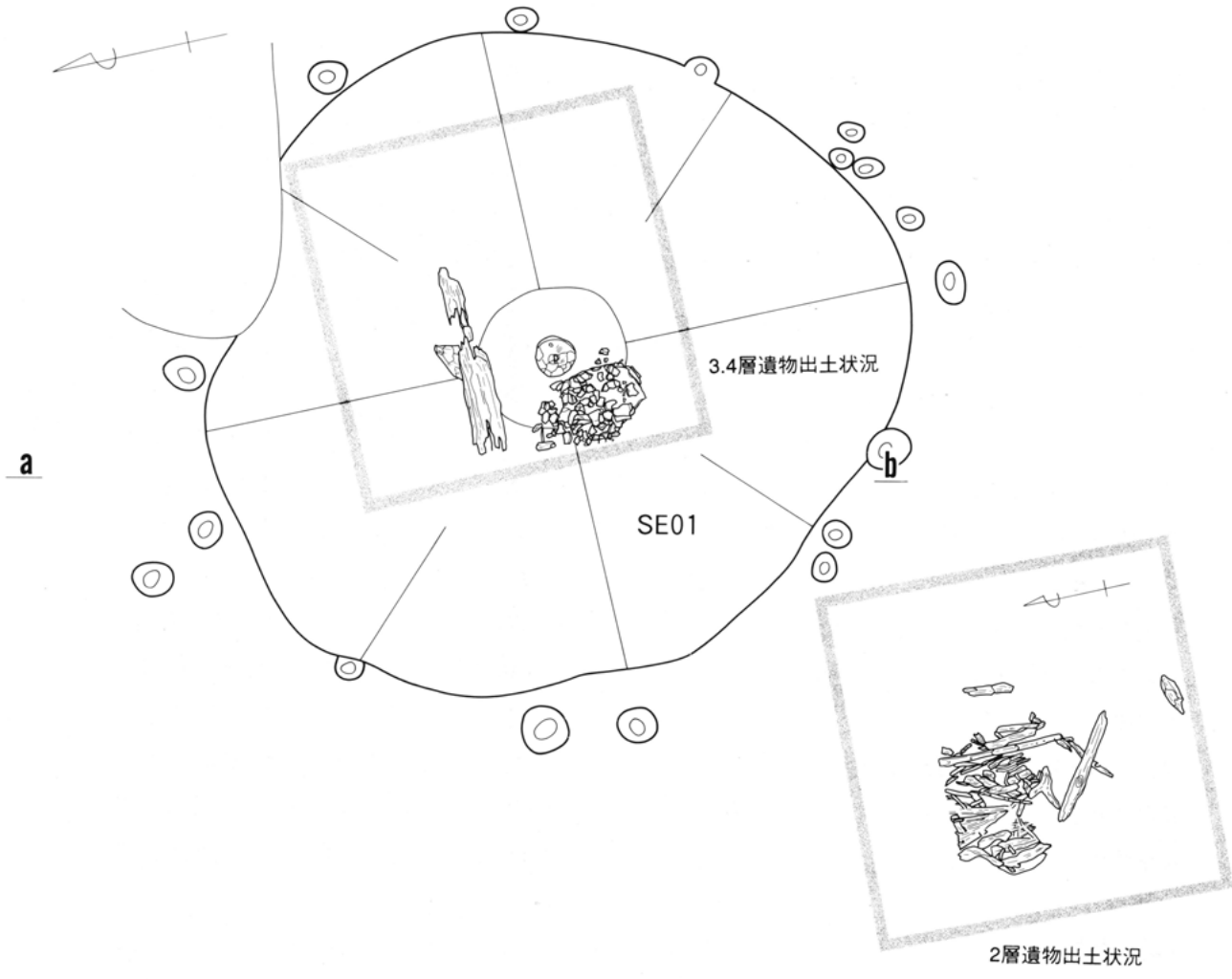
土　坑　長径がほぼ1ｍ以上になる大型の土坑を96基分類し取り上げる。平面形態は円形・楕円形・長楕円形・方形・長方形と不整形なものがあり、断面形態ではロート状丸底・丸底・平底の主に3形態に分類できる。したがって形態は平面形態と断面形態の組み合わせた分類で18類になる。

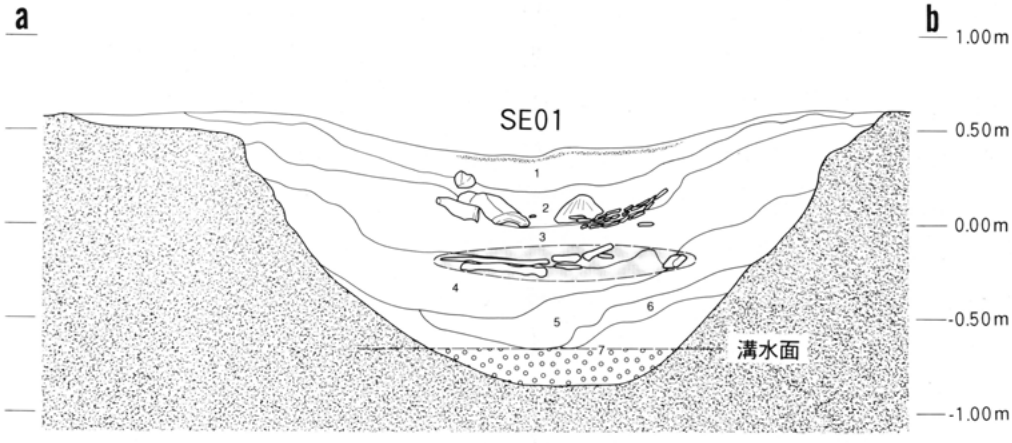
分　布　大型土坑の分布はほぼ居住域の分布に対応するといってよいと思われるが、竪穴住居が検出されている範囲より広い範囲で検出されており、土坑の大型のものは竪穴住居より深く掘られるため遺構の残る可能性が高いことを反映している。調査区では北調査区の94Ａａ区1基・95Ｆ区2基・94Ａｂ区1基・96Ｄ区（93Ｅａ区）3基・93Ｅｂ区1基、東調査区の93Ａａ区10基・95Ａａ区4基・93Ａｂ区1基・95Ｂａ区6基、南調査区の93Ｂｂ区8基・94Ｃａ区11基・94Ｄａ区1基・94Ｃｂ区16基・94Ｆ区1基・95Ｃｃ区1基、西1調査区の95Ｃａ区3基・94Ａｅ区7基・95Ｃｂ区12基・96Ａ区7基、西2調査区の94Ｂｂ区1基があり、竪穴住居があまり検出されていない南調査区の北側において多く検出されている点が興味深い。また95Ｅ区において竪穴住居があるものの土坑がない点や東調査区の微高地にある93Ａｂ区や93Ｂａ区においてほとんど検出されていない点も大型土坑の性格の一端を示しているように思われる。

形　態　先述した分類に合わせると円形丸底5基、円形平底3基、楕円形ロート状丸底1基、楕円形丸底14基、楕円形平底23基、長楕円形平底1基、方形平底4基、長方形丸底4基、長方形平底13基、不定形丸底2基、不定形平底12基、不明15基（内丸底3基・平底10基）となり、大型のためか楕円形や長方形の土坑が多く、断面形態も比較的平底状になるものが多い。

埋　土　深さが20㎝内外の浅い土坑（上部を削られて浅いものが多いと思われる）は単一の埋土によって埋まっているものもあるが、比較的深いものに関しては数層から30層程の土層が確認できる。これらの大型で深い土坑は炭層や焼土層が互層に堆積するものが多くみられ、尾張地域で調査されている阿弥陀寺遺跡などにおいても多数確認されている。土坑中の炭層や焼土層からは多くの魚類や鳥類の骨や穀類などの種子、炭化材が多数含まれている。またＳＫ89やＳＫ93では炭層や焼土層はないものの腐植物層があり、その前後の層から昆虫が多数検出されている。

出土状況　まとまった土器が出土する土坑（ＳＫ30・ＳＫ31など）とほとんど出土しない土坑（ＳＫ02・ＳＫ89・ＳＫ93など）とがあり、多くの土器が出土する土坑では土坑の底面近くに検出されるものと、底から数十㎝浮いた位置で外から流れ込むような形で出土するものがある。



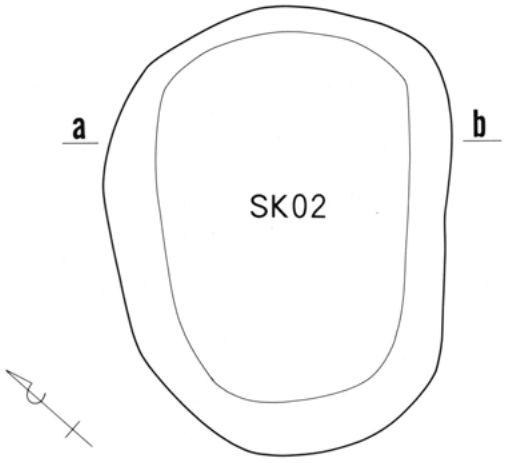


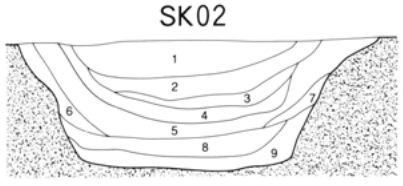
SE01土層

1. 2.5Y2/1 黒色細粒砂（炭化物を多量に含む）
2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（炭化物を多量に含む）
3. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂（炭化物を含む）
4. 5Y4/1 灰色細粒砂（小粒炭化物を少量含む）
5. 5Y4/1 灰色中粒砂
6. 5Y4/1 灰色細粒砂（小粒炭化物を微量含む）
7. 7.5Y4/1 灰色中粒砂

0 2m

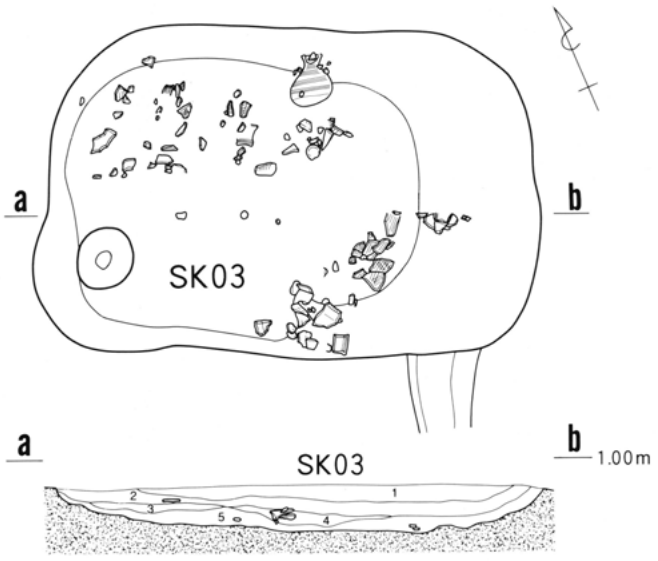
第32図　井戸遺物出土状況図（1：40）





SK02土層

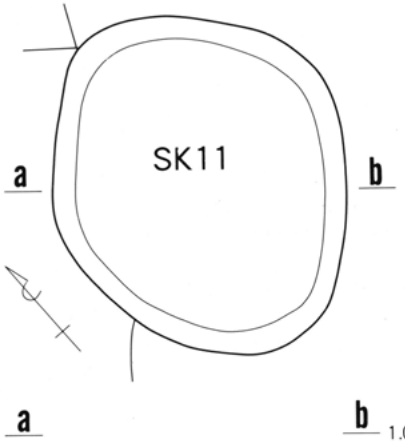
1.2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
2.5Y4/2 灰オリーブ色中粒砂
3.2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
4.5Y4/2 灰オリーブ色細粒砂(炭化物を少量含む)
5.5Y3/2 オリーブ黒色細粒砂
6.5Y4/2 灰オリーブ色細粒砂(炭化物を少量含む)
7.2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
8.2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂(焼土層・炭化物層を含む)
9.5Y3/2 オリーブ黒色細粒砂(焼土層・炭化物層が互層)

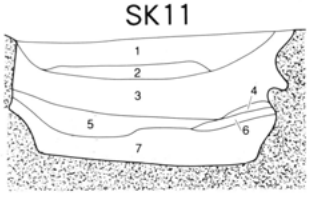


SK03土層

1. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂（炭化物層を含む）
2. 10YR3/3 暗褐色細粒砂（炭化物層を含む）
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂（炭化物層を含む）
4. .2.5Y3/1 黒褐色細粒砂（炭化物を少量含む）
5. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物層を含む）

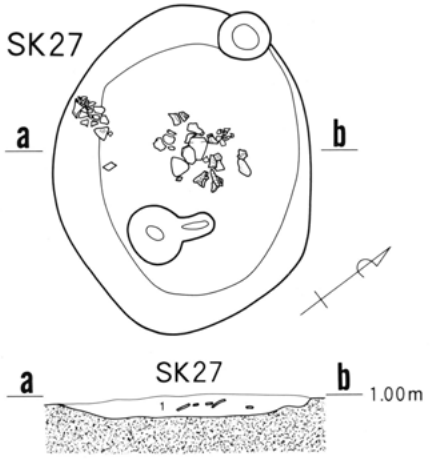






SK11土層

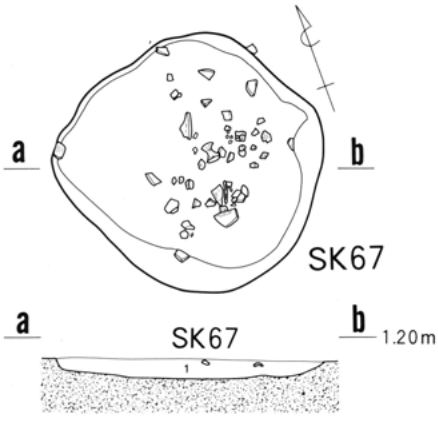
1.5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂
2.7.5Y3/2 オリーブ黒色中粒砂
3.5YR1.7/1 黒色細粒砂(炭化物を多量に含む)
4.7.5Y4/1 灰色粗粒砂
5.2.5Y4/6 にぶい黄色細粒砂(炭化物層を含む)
6.10YR3/3 暗褐色細粒砂(炭化物層を含む)
7.10YR1.7/1 黒色細粒砂(炭化物を多量に含む)



SK27土層

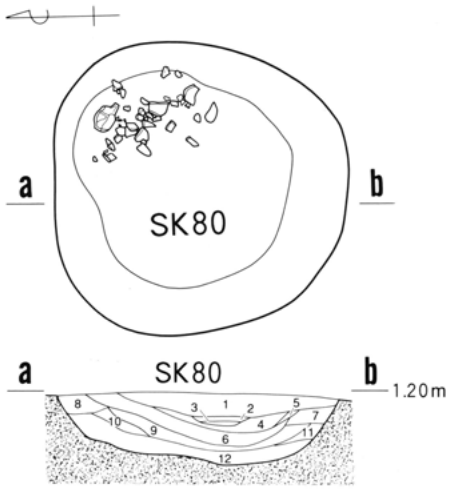
1. 10YR3/1 黒褐色細粒砂（炭化物を多量に含む）

第33図　土坑遺物出土状況図1（1：40）



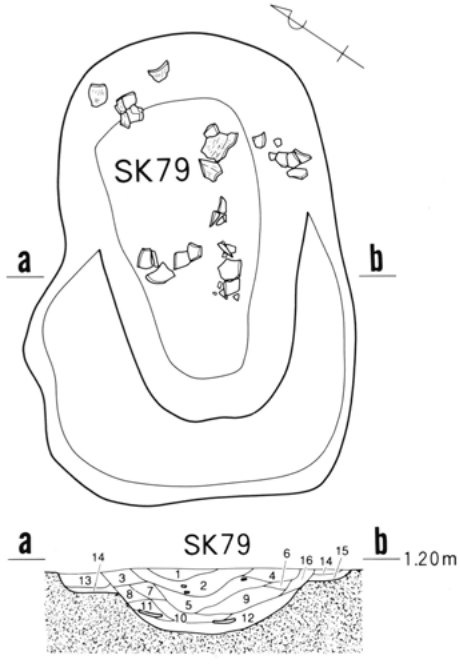
SK67土層

1. 10YR2/1 黒色中粒砂（炭化物を含む）



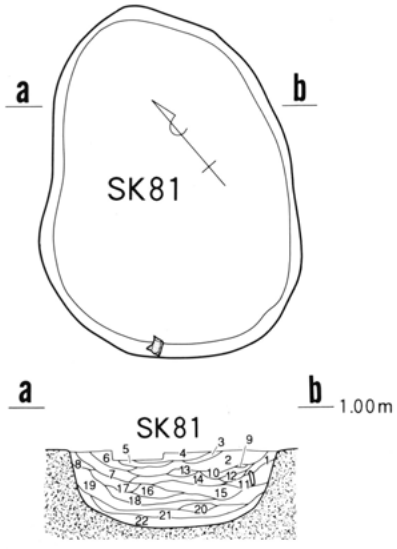
SK80土層

1. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂
2. 10YR3/1 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
3. 10YR4/1 褐灰色細粒砂（炭化物を含む）
4. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
5. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
6. 10YR1.7/1 黒色シルト（炭土・焼土塊を含む）
7. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂
8. 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂
9. 2.5Y3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を多量に含む）
10. 10YR3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を含む）
11. 10YR4/1 褐灰色細粒砂（炭化物を含む）
12. 10YR3/1 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）



SK79土層

1. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
2. 10YR4/1 褐灰色中粒砂（炭化物を含む）
3. 7.5YR3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を含む）
4. 10YR4/1 褐灰色細粒砂（炭化物を含む）
5. 10YR3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を含む）
6. 10YR1.7/1 黒色シルト
7. 10YR3/1 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
8. 10YR2/1 黒色シルト（炭化物を多量含む）
9. 10YR2/1 黒褐色中粒砂（炭化物を含む）
10. 7.5YR2/1 黒色細粒砂（炭化物を含む）
11. 2.5Y3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を含む）
12. 10YR2/1 黒色シルト（炭化物、焼土塊を含む）
13. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂（炭化物を含む）
14. 2.5Y4/2 黄灰色細粒砂

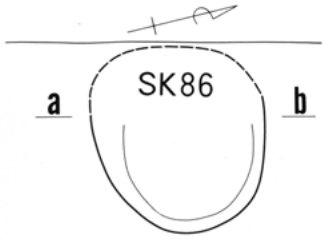


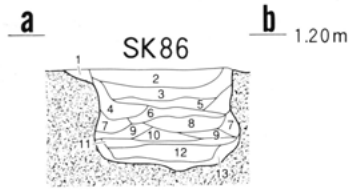
SK81土層

1. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂（炭化物を少量含む）
2. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂（炭化物を少量含む）
3. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色中粒砂（炭化物を多量含む）
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂（炭化物を含む）
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂（炭化物を多量含む）
6. 2.5Y5/2 暗灰黄色中粒砂（炭化物を含む）
7. 10YR3/1 黒褐色中粒砂（焼土粒を含む）
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂（炭化物を含む）
9. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色中粒砂（炭化物を含む）
10. 10YR2/2 黒褐色中粒砂（炭化物を多量含む）
11. 10YR2/1 黒色中粒砂（炭化物を多量含む）
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂（炭化物を多量含む）
13. 2.5Y5/2 暗灰黄色中粒砂（炭化物を含む、焼土粒を含む）
14. 5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂（炭化物を多量含む）
15. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂（炭化物を多量含む）
16. 2.5Y3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を少量含む）
17. 2.5Y3/2 黒褐色中粒砂（炭化物を含む）
18. 10YR2/1 黒色細粒砂（炭化物を含む）
19. 2.5Y3/2 黒褐色中粒砂（炭化物を少量含む）
20. 5Y3/1 オリーブ黒色中粒砂（炭化物を少量含む）
21. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
22. 5Y4/2 灰オリーブ中粒砂（炭化物を少量含む）



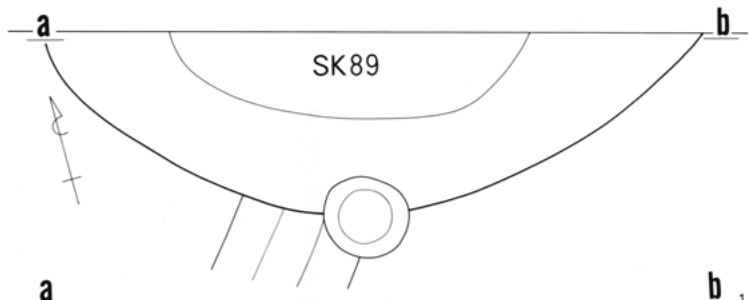
第34図　土坑遺物出土状況図2（1：40）

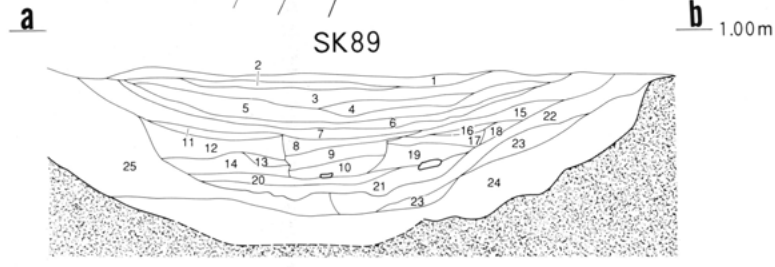




SK86土層

1. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
2. 10YR2/2 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
3. 10YR6/2 灰黄褐色中粒砂（焼土粒を含む）
4. 10YR2/3 黒褐色細粒砂
5. 10YR2/3 黒褐色細粒砂
6. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
7. 10YR5/1 褐灰色中粒砂
8. 10YR2/2 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂（焼土）
10. 10YR1.7/1 黒色細粒砂（炭化物を含む）
11. 10YR3/1 黒褐色細粒砂
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂（焼土）
13. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂（炭化物を含む）

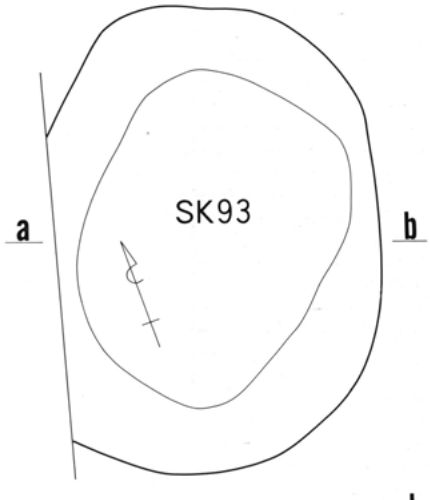


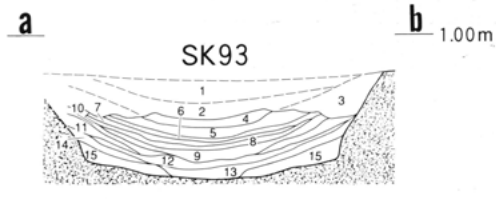


SK89土層

1. 2.5Y3/2 黒褐色シルト
2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト
3. 5Y4/1 灰色シルト
4. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト
5. 5Y4/1 灰色シルト（炭化物を多量に含む）
6. 7.5Y4/1 灰色シルト
7. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト（腐食物を多量に含む）
8. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（腐食物を多量に含む）
9. 5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂（腐食物を多量に含む）
10. 2.5Y3/1 黒褐色細粒砂（腐食物を多量に含む）
11. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト（腐食物を少量含む）
12. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
13. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（腐食物を含む）
14. 5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂
15. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂
16. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
17. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂
18. 5Y4/1 灰色シルト
19. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（腐食物を含む）
20. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
21. 5Y2/1 黒色シルト（腐食物を含む）
22. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂・粗粒砂の互層
23. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
24. 2.5Y5/1 黄灰色中粒砂（炭粒を含む）
25. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
26. 2.5Y4/1 黄灰色粗粒砂（腐食物を含む）







SK93土層

1. 5Y3/1 黒褐色シルト
2. 2.5Y3/2 黒褐色シルト
3. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂
4. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト
   2.5Y6/1 黄灰色シルトの互層
5. 5Y2/1 黒色シルト
   2.5Y6/1 黄灰色シルトの互層（炭化物を含む）
6. 5Y5/1 灰色シルト
7. 5Y2/1 黒色シルト（腐食物を含む）
8. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト（炭化物を少量含む）
9. 5Y2/1 黒色シルト（炭化物層がと互層）
10. 7.5Y4/1 灰色シルト（炭化物層との互層）
11. 7.5Y5/1 灰色中粒砂
12. 7.5Y5/1 灰色シルト
13. 7.5Y4/1 灰色シルト（炭化物を少量含む）
14. 7.5Y5/1 灰色細粒砂
15. 5Y4/1 灰色細粒砂（炭化物を少量含む）

第35図　土坑遺物出土状況図3（1：40）

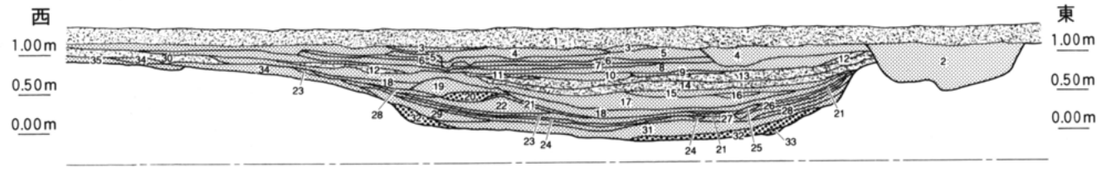
新遺構No	調査区	旧遺構No	平面形態	断面形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
SE 01	95Aa	SK 10	円形	丸底	3.65	3.20	1.51	Ⅱ式
SK 01	94Aa	SK 22	不定形	平底	1.25	1.05	0.09	
SK 02	95F	SK 14	楕円形	平底	2.40	1.80	0.75	
SK 03	95F	SK 06	長方形	平底	2.60	1.75	0.32	Ⅲ式ｃ段階
SK 04	96D	SK101	不定形	平底	1.00	0.90	0.19	
SK 05	96D	SK104	円形	平底	0.90	0.80	0.50	
SK 06	94Ab	SK 34	長方形	平底	2.90	2.35	0.10	Ⅲ式ａ段階
SK 07	93Ea	SD 03	N-07-E	平底	5.70	(1.90)	0.12	Ⅲ式ｂ段階～Ⅲ式ｃ段階
	93Ea	SK 03	不明	平底	(2.75)	(1.30)	0.30	
	96D	SX 01	方形?	平底	7.50	(3.55)	0.45	
SK 08	93Eb	SK 07	楕円形	平底	1.45	1.05	0.06	
SK 09	93Aa	SK 10	楕円形	平底	2.80	1.85	0.21	
SK 10	93Aa	SK 09	楕円形	平底	2.65	1.60	0.68	Ⅱ式
SK 11	93Aa	SK 23	楕円形	平底	1.95	1.55	(0.68)	Ⅲ式ｃ段階
SK 12	93Aa	SK120	不明	丸底?	不明	5.50	0.31?	Ⅱ式
SK 13	93Aa	SK110	楕円形	平底	1.40	0.90	0.14	Ⅰ式ｂ段階
SK 14	93Aa	SK106	長方形	平底	2.40	1.50	0.53	Ⅰ式ｂ段階
SK 15	93Aa	SK107	楕円形	丸底	2.40	1.55	0.25	
SK 16	93Aa	SK102	長方形	平底	4.20	2.60	0.21	
SK 17	93Aa	SK 27	不定形	平底	6.60	(4.55)	0.57	Ⅰ式ｂ段階
SK 18	93Aa	SK 29	不明	平底?	(4.15)	(0.20)	(0.40)	
	95Aa	SK 17	楕円形	平底?	4.85	2.45	0.68	Ⅰ式ｂ段階
SK 19	93Aa	SK 28A	不明	平底	(2.45)	(0.90)	(0.59)	
SK 20	95Aa	SK 01B	長方形	平底	1.90	1.55	0.31	
SK 21	95Aa	SB 11	不明	／	(5.50)	(2.55)	0.24	
	95Aa	SK 03	不明	平底				
SK 22	93Aa	SK101	不明	平底	(1.75)	(1.00)	0.05	
SK 23	93Ab	SK 13	長方形?	丸底	1.80	1.20	0.37	
SK 24	95Ba	SD 08	N-32-W	平底	1.25	(1.30)	0.31	
SK 25	95Ba	SK 15	楕円形	平底?	1.05	0.85	0.27	
SK 26	95Ba	SK 07	長方形	平底	2.50	0.90	0.16	Ⅰ式ｂ段階
SK 27	95Ba	SK 21	楕円形	平底	1.75	1.35	0.19	Ⅲ式
SK 28	95Ba	SK 25	不定形	丸底	1.30	0.72	0.80	
SK 29	95Ba	SK 97	長方形?	平底	3.70	1.45	0.79	Ⅱ式
SK 30	93Bb	SK 01	不明	丸底?	(2.50)	(1.80)	0.23	Ⅰ式ｂ段階
SK 31	93Bb	SK 03	円形	丸底	1.50	1.50	0.28	Ⅰ式ｂ段階
SK 32	93Bb	SK 05	楕円形	平底	1.40	0.85	0.08	
SK 33	94Ca	SK 01	長方形	平底	2.25	1.20	0.26	Ⅲ式ａ段階
SK 34	94Ca	SK 14	方形	平底	1.10	0.90	0.06	
SK 35	94Ca	SK 08	楕円形	丸底	1.70	0.90	0.40	Ⅲ式
SK 36	94Ca	SK 10	不定形	平底	1.50	1.25	0.14	
SK 37	94Ca	SK 09	楕円形	丸底	1.10	0.80	0.58	
SK 38	94Ca	SK 16	楕円形	丸底	1.55	0.90	0.55	
SK 39	94Ca	SK 22	楕円形	平底	(1.10)	0.95	0.08	
SK 40	94Ca	SK 41	楕円形	平底	0.17	0.14	0.18	
SK 41	94Ca	SK 47	方形	平底?	1.35	1.25	0.27	Ⅱ式？
SK 42	94Ca	SK 48	楕円形	平底	2.45	1.00	0.21	Ⅲ式？
SK 43	94Ca	SK 58	楕円形	丸底	1.35	0.80	0.15	
SK 44	93Bb	SK 53	不定形	平底	1.00	0.90	0.08	
SK 45	93Bb	SK 52	不定形	平底	2.10	1.75	0.05	
SK 46	93Bb	SK 51	円形	平底	0.80	0.70	0.04	
SK 47	93Bb	SK 50	不定形	平底	1.65	1.40	0.19	
SK 48	93Bb	SK 41	不明	丸底	(5.00)	(1.50)	(1.29)	
	94Da	SK 02	不明	平底	(4.55)	(2.35)	0.52	
SK 49	94Cb	SK 09	長方形	平底	(2.30)	1.10	0.36	Ⅰ式ｂ段階
SK 50	94Cb	SK 11	楕円形	丸底	(1.80)	1.50	0.46	Ⅱ式～Ⅲ式ａ段階
SK 51	94Cb	SK 06	不明	丸底	(0.80)	(0.25)	0.15	Ⅰ式～Ⅱ式
SK 52	94Cb	SK 07	長?方形	丸底	1.75	(0.80)	0.30	
SK 53	94Cb	SK 15	長方形	平底	2.25	1.15	0.45	
SK 54	94Cb	SK 16	楕円形	平底?	1.70	0.70	0.29	
SK 55	94Cb	SK 18	長方形	平底	2.80	1.60	0.11	Ⅲ式？
SK 56	94Cb	SK 26	長楕円形	平底	3.30	0.80	0.24	Ⅱ式
SK 57	94Cb	SK 29	楕円形	丸底	2.20	1.15	0.47	Ⅰ式ａ段階～Ⅰ式ｂ段階
SK 58	94Cb	SK 44	不定方形	平底	3.40	2.70	0.16	Ⅱ式
SK 59	94Cb	SK 56	長方形	丸底	1.35	0.80	0.25	
SK 60	94Cb	SK 53	楕円形	平底	1.65	0.90	0.23	Ⅱ式
SK 61	94Cb	SK 54	楕円形	丸底	(0.75)	0.55	0.10	
SK 62	94Cb	SK 59	楕円形	平底	(1.30)	1.20	0.09	Ⅰ式ｂ段階
SK 63	94Cb	SK 76	楕円形	丸底	1.90	0.80	0.30	Ⅱ式
SK 64	94Cb	SK 66	楕円形	丸底	1.00	0.75	0.14	Ⅲ式ａ段階

第７表　井戸・土坑一覧１

新遺構№	調査区	旧遺構№	平面形態	断面形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
SK 65	94F	SK 12	不明	平底	(1.40)	(0.85)	0.06	Ⅱ式
SK 66	95Cc	SK 10	長方形	平底	1.70	1.00	0.48	
SK 67	95Ca	SK 05	不定形	平底	1.45	1.35	0.13	Ⅱ式
SK 68	95Ca	SK 09	長方形?	丸底	(1.95)	1.20	0.18	Ⅱ式～
SK 69	95Ca	SK 18	円形	丸底	0.70	0.70	0.54	
SK 70	94Ae	SK 23	楕円形	丸底	(1.00)	0.75	0.32	Ⅱ式～
SK 71	94Ae	SK 29—	不定形	平底	(2.75)	(2.25)	(0.19)	
SK 72	94Ae	SK 29	不明	平底	4.50	(4.30)	0.29	
SK 73	94Ae	SK 28	不明	平底?	(3.65)	(1.70)	(0.38)	
SK 74	94Ae	SK 27	不明	平底?	(1.90)	(0.75)	(0.11)	
SK 75	94Ae	SK 03	楕円形	平底	1.95	0.95	0.22	Ⅲ式a段階
SK 76	94Ae	SK 01	不定形	平底	2.45	1.25	0.10	Ⅱ式～Ⅲ式
SK 77	95Cb	SK 09	楕円形	平底	1.50	1.05	0.23	Ⅱ式～
SK 78	95Cb	SK 04	不明	平底	(2.55)	(1.35)	0.48	Ⅰ式～Ⅱ式
SK 79	95Cb	SK 12A	不定形	丸底	2.50	1.55	0.45	Ⅱ式
SK 80	95Cb	SK 52	円形	丸底?	1.60	1.55	0.37	Ⅱ式
SK 81	95Cb	SK137	楕円形	平底	1.90	1.40	0.51	Ⅱ式
SK 82	95Cb	SK138	楕円形	平底	0.95	0.07	(0.00)	
SK 83	95Cb	SK 07	楕円形	丸底	3.10	1.55	0.74	
SK 84	95Cb	SK 64	長?方形?	平底	(1.30)	(1.00)	(0.15)	
SK 85	95Cb	SK 05	楕円形	丸底	1.65	1.15	0.49	Ⅱ式
SK 86	95Cb	SK 10	楕円形?	平底	(1.00)	0.90	0.54	Ⅱ式
SK 87	95Cb	SK134	不明	平底	(2.40)	(0.65)	(0.67)	
SK 88	95Cb	SK 08	方形	平底	1.80	1.60	0.36	Ⅱ式
SK 89	96A	SK 32	円形?	平底	(2.85)	(0.95)	(0.71)	（Ⅱ式～）
SK 90	96A	SK 28	楕円形	ﾛｰﾄ状丸底	0.90	0.80	(0.32)	
SK 91	96A	SK 26	円形?	丸底	1.20	(0.50)	0.28	Ⅱ式～Ⅲ式
SK 92	96A	SK 27	円形	丸底	0.75	(0.65)	0.26	
SK 93	96A	SK 25	楕円形	平底	2.40	1.90	0.57	
SK 94	96A	SK 23	方形?	平底	(1.65)	(0.95)	0.12	
SK 95	96A	SK 22	楕円形	丸底	1.55	1.15	0.21	
SK 96	94Bb	SK 23	長方形	平底	2.40	(1.20)	0.24	Ⅲ式b段階

第8表　井戸・土坑一覧2

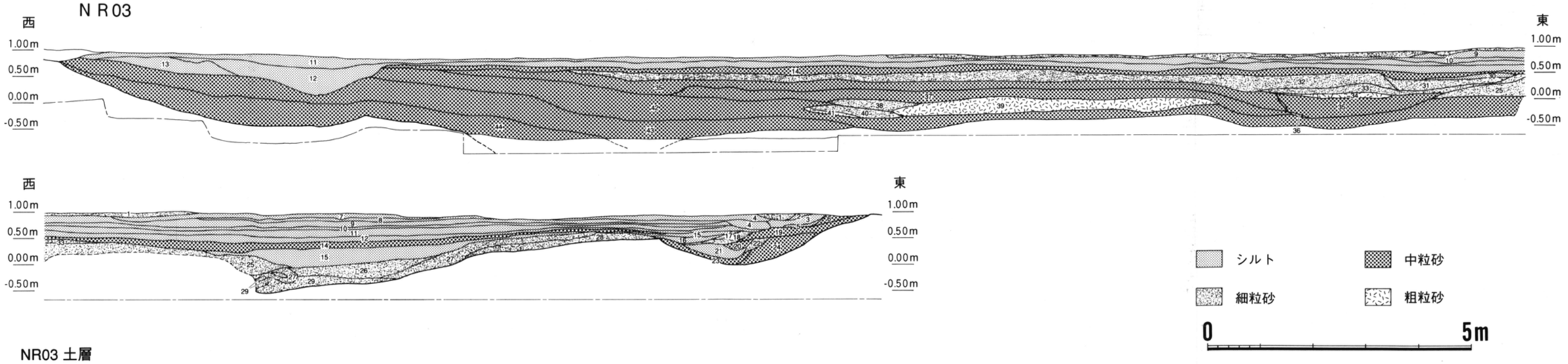
N R01



NR01 土層

1. 2.5Y4/3　オリーブ褐色細粒砂(耕作土)
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色細粒砂(土抗)
   2.5Y3/2　黒褐色シルト
   10YR3/1　黒褐色シルト　の斑土
3. 2.5Y4/3　オリーブ褐色細粒砂
   2.5Y3/2　黒褐色シルトの斑土(水田床土)
4. 2.5Y3/2　黒褐色シルト
5. 2.5Y3/1　黒褐色シルト
6. 2.5Y5/1　黄灰色シルト
   2.5Y2/1　黒色シルト　の互層
7. 2.5Y3/2　黒褐色シルト
8. 2.5Y4/2　暗灰黄色シルト
9. 2.5Y3/1　黒褐色シルト
   2.5Y5/2　暗灰黄色シルト　の斑土
10. 2.5Y3/1　黒褐色シルト
11. 2.5Y5/2　暗灰黄色細粒砂
    (2.5Y3/1　黒褐色シルトのブロック混じり)
12. 2.5Y4/2　暗灰黄色細粒砂
    (2.5Y3/1　黒褐色シルトのブロック混じり)
13. 2.5Y5/2　暗灰黄色細粒砂
14. 2.5Y5/1　黄灰色細粒砂
15. 2.5Y5/2　暗灰黄色シルト
    と炭化物の互層
16. 2.5Y4/2　暗灰黄色シルト
    (黒色シルトの堆積層を含む)
17. 2.5Y5/2　暗灰黄色シルト
    (一部に黒色シルトの堆積層を含む)
18. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
    5Y5/1　灰色シルト　の互層
    (炭化物を含む)
19. 10YR3/1　黒褐色シルト
20. 5Y5/2　灰オリーブ色中粒砂
    10YR3/1　黒褐色シルト　の斑土
21. 2.5Y2/1　黒色シルト(炭化物層)
22. 10YR3/1　黒褐色シルト
    5Y5/2　灰オリーブ色粗粒砂　の斑土
23. 2.5Y5/1　黄灰色シルト
    (有機物を少量含む)
24. 2.5Y3/1　黒褐色シルト(炭化物層)
    2.5Y3/2　黒褐色シルト(有機物層)　の互層
25. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
    (有機物を多量に含む)
26. 5Y5/1　灰色シルト
27. 2.5Y2/1　黒色シルト
    2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト　の互層
28. 2.5Y4/2　暗灰黄色シルト
    2.5Y3/2　黒褐色中粒砂　の互層
29. 2.5Y5/2　暗灰黄色シルト
    2.5Y4/1　黄灰色シルト(有機物を含む)
    2.5Y3/1　黒褐色シルト　の互層
30. 2.5Y6/2　灰黄色細粒砂
31. 2.5Y3/2　黒褐色シルト(炭化物を含む)
32. 2.5Y4/1　黄灰色中粒砂
33. 5Y4/1　灰色中粒砂
34. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
35. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト

N R03

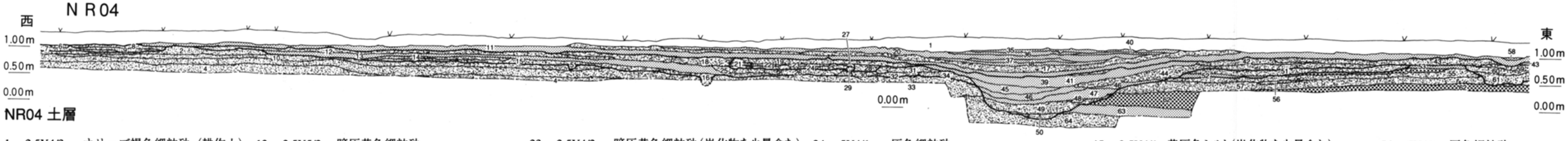


NR03 土層

1. 2.5Y3/2　黒褐色細粒砂
   一部に2.5Y6/2　灰黄色細粒砂を含む
2. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
3. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
   一部に2.5Y6/2　灰黄色中粒砂を含む
4. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
5. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
   2.5Y6/2　灰黄色中粒砂　の斑土
6. 2.5Y5/1　黄灰色中粒砂
7. 2.5Y3/1　黒褐色シルト
8. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
9. 5Y2/1　黒色シルト
10. 5Y5/2　灰オリーブ色シルト
11. 5Y5/1　灰色シルト
    (炭化物の堆積を含む)
12. 5Y5/1　灰色シルト
    5Y3/1　オリーブ黒色シルト　の互層
13. 2.5Y3/1　黒褐色シルト
    (炭化物を含む)
14. 2.5Y6/1　黄灰色中粒砂
15. 2.5Y6/2　黄灰色シルト
16. 2.5Y4/1　黄灰色シルト
17. 5Y4/1　灰色細粒砂
18. 2.5Y5/1　黄灰色細粒砂
19. 2.5Y6/1　黄灰色中粒砂
20. 2.5Y5/1　黄灰色中粒砂
21. 2.5Y5/1　黄灰色シルト
22. 5Y5/2　灰オリーブ色細粒砂
23. 5Y5/1　灰色中粒砂
24. 5Y5/2　灰オリーブ色中粒砂
25. 2.5Y5/1　黄灰色細粒砂
26. 2.5Y5/1　黄灰色細粒砂
    (有機物・流木を含む)
27. 2.5Y4/2　暗灰黄色細粒砂
    (有機物を含む)
28. 2.5Y5/1　黄灰色細粒砂
29. 2.5Y3/2　黒褐色細粒砂
30. 2.5Y4/2　暗灰黄色シルト
    (一部炭化物を含む)
31. 2.5Y4/1　黄灰色細粒砂
32. 2.5Y4/1　黄灰色細粒砂
33. 2.5Y5/1　黄灰色細粒砂
34. 2.5Y5/1　黄灰色粗粒砂
35. 2.5Y4/2　暗灰黄色中粒砂
    (有機物を含む)
36. 2.5Y4/2　暗灰黄色粗粒砂
    (有機物を含む)
37. 2.5Y5/2　暗灰黄色中粒砂
    2.5Y4/1　黄灰色細粒砂　の互層
    (有機物を含む)
38. 2.5Y4/1　黄灰色細粒砂
    (有機物を含む)
39. 2.5Y6/1　黄灰色粗粒砂
    2.5Y4/1　黄灰色中粒砂　の互層
    (有機物を含む)
40. 2.5Y4/1　黄灰色中粒砂
    2.5Y4/1　黄灰色細粒砂　の互層
    (有機物を少量含む)
41. 2.5Y5/1　黄灰色粗粒砂
    (有機物を少量含む)
42. 2.5Y4/1　黄灰色中粒砂
    (有機物・流木を含む)
43. 2.5Y5/1　黄灰色中粒砂
    10YR4/1　褐灰色中粒砂　の互層
    (有機物を少量含む)
44. 2.5Y4/1　黄灰色中粒砂
    (有機物を少量含む)

第36図　旧河道土層断面図1(1：80)

N R04

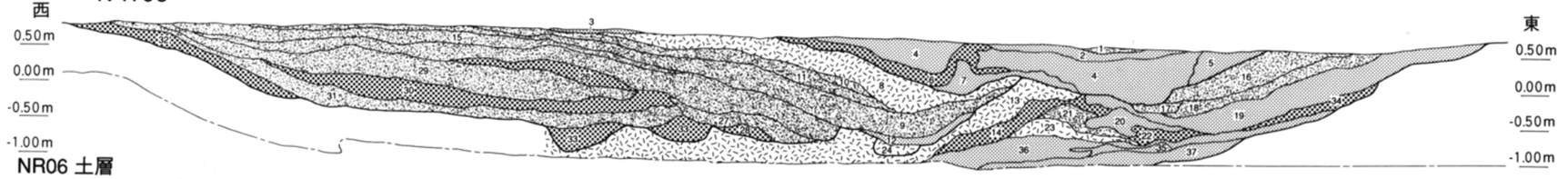


NR04 土層

1. 2.5Y4/3 オリーブ褐色細粒砂（耕作土）
2. 7.5Y4/1 灰色細粒砂
3. 5Y4/1 灰色細粒砂
4. 7.5Y4/1 灰色細粒砂
5. 5Y4/1 灰色細粒砂（炭化物を多量含む）
6. 5Y4/1 灰色細粒砂
7. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
9. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂
10. 5Y4/1 灰色細粒砂
11. 10YR3/1 黒褐色シルト
12. 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂
13. 10YR3/1 黒褐色シルト（炭化物を少量含む）
14. 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂（炭化物を少量含む）
15. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂（炭化物を多量含む）
16. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂
17. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
18. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
19. 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂
20. 10YR3/2 黒褐色シルト
21. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
22. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂（炭化物を含む）
23. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂（炭化物を少量含む）
24. 10YR3/1 黒褐色細粒砂（炭化物を多量含む）
25. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂（炭化物を少量含む）
26. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂（炭化物を含む）
27. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
28. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
29. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂
30. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
31. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂
32. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
33. 5Y5/1 灰色細粒砂
34. 5Y4/1 灰色細粒砂
35. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
36. 2.5Y5/3 黄褐色シルト
37. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
38. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
39. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
40. 10YR3/1 黒褐色シルト
41. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂
42. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
43. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
44. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を多量含む）
45. 2.5Y4/1 黄灰色シルト（炭化物を少量含む）
46. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト（炭化物を少量含む）
47. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト（炭化物を少量含む）
48. 5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂
49. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を少量含む）
50. 5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂（炭化物を少量含む）
51. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
52. 5Y5/1 灰色細粒砂
53. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を少量含む）
54. 5Y5/1 灰色中粒砂
55. 5Y4/1 灰色細粒砂
56. 5Y4/1 灰色細粒砂
57. 5Y4/1 灰色細粒砂
58. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
59. 5Y4/1 灰色細粒砂
60. 5Y4/1 灰色細粒砂
61. 5Y4/1 灰色細粒砂
62. 5Y4/1 灰色中粒砂
63. 5Y3/1 オリーブ褐色シルト（炭化物を少量含む）
64. 5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂

10YR3/1 黒褐色シルト（炭化物を少量含む）のラミナ

N R06

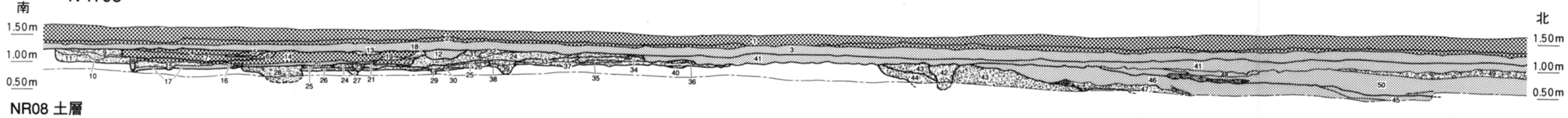


シルト　中粒砂
細粒砂　粗粒砂
0　5m

NR06 土層

1. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂
2. 2.5Y3/2 黒褐色シルト（炭化物を含む）
3. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
4. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
5. 5Y4/1 灰色シルトと5Y7/1 灰白色中粒砂の斑土
6. 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂
7. 5Y4/1 灰色シルトと5Y5/1 灰色細粒砂の互層
8. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（噴砂）
9. 5Y4/1 灰色シルトと5Y4/2 灰オリーブ色細粒砂の互層（下層に腐食物層を含む）
10. 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂
11. 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂
12. 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂と2.5Y3/1 黒褐色シルトの互層
13. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（噴砂）
14. 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂
15. 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂
16. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂と2.5Y5/3 黄褐色細粒砂の互層
17. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
18. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂
19. 2.5Y3/2 黒褐色シルトと2.5Y5/1 黄灰色細粒砂の互層（下層に腐食物層を含む）
20. 2.5Y3/2 黒褐色シルト
21. 2.5Y3/1 黒褐色細粒砂
22. 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂
23. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂と2.5Y3/2 黒褐色シルトの斑土
24. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂
25. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂（下層に腐食物層を含む）
26. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂と2.5Y6/1 黄灰色中粒砂の互層
27. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂（下層に腐食物層を含む）
28. 2.5Y5/1 黄灰色中粒砂
29. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂と2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂の互層
30. 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂
31. 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂（下層に腐食物層を含む）
32. 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂
33. 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂（下層に腐食物層を含む）
34. 5Y7/1 灰白色中粒砂
35. 5Y5/4 オリーブ色シルト（貝殻を含む）
36. 5Y7/2 灰白色粗粒砂と10YR4/1 褐灰色シルトの斑土
37. N5/0 灰色シルト

N R08



NR08 土層

1. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂（表土）
2. 2.5Y3/2 黒褐色中粒砂
3. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
4. 2.5Y3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を含む）
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂
6. 10YR4/1 褐灰色中粒砂
7. 10YR3/1 黒褐色中粒砂
8. 10YR3/1 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
9. 10YR4/1 褐灰色細粒砂
10. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
11. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
12. 7.5YR3/1 黒褐色シルト
13. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
14. 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂
15. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂（炭化物を含む）
16. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
17. 10YR4/2 灰黄褐色シルト（炭化物を多量含む）
18. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
19. 10YR3/2 黒褐色シルト（炭化物を含む）
20. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト（炭化物を含む）
21. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂
22. 10YR3/1 黒褐色中粒砂（炭化物を多量含む）
23. 10YR4/1 褐灰色細粒砂（炭化物を多量含む）
24. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂
25. 10YR4/1 褐灰色細粒砂
26. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
27. 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂
28. 10YR4/1 褐灰色細粒砂
29. 10YR4/1 褐灰色細粒砂
30. 2.5Y3/1 黒褐色細粒砂
31. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
32. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
33. 10YR4/1 褐灰色細粒砂（炭化物を含む）
34. 10YR3/1 黒褐色細粒砂
35. 10YR3/2 黒褐色細粒砂
36. 2.5Y3/2 黒褐色中粒砂
37. 10YR3/1 黒褐色細粒砂（炭化物層を含む）
38. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
39. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
40. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色中粒砂
41. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
42. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
43. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物層を含む）
44. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂
45. 5Y3/2 オリーブ黒色シルト
46. 2.5Y3/2 黒褐色シルト（炭化物層を含む）
47. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物層を含む）
48. 5Y4/1 灰色シルト（炭化物を少量含む）
49. 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂（炭化物を含む）
50. 5Y4/1 灰色シルト（炭化物層を含む）

第37図　旧河道土層断面図2（1：80）

(5) 旧河道

(第36図～第39図、第9表)

旧河道　ここで分類したものは人為的な掘削ではなく、自然の流水によると思われる溝を9条取り上げた。

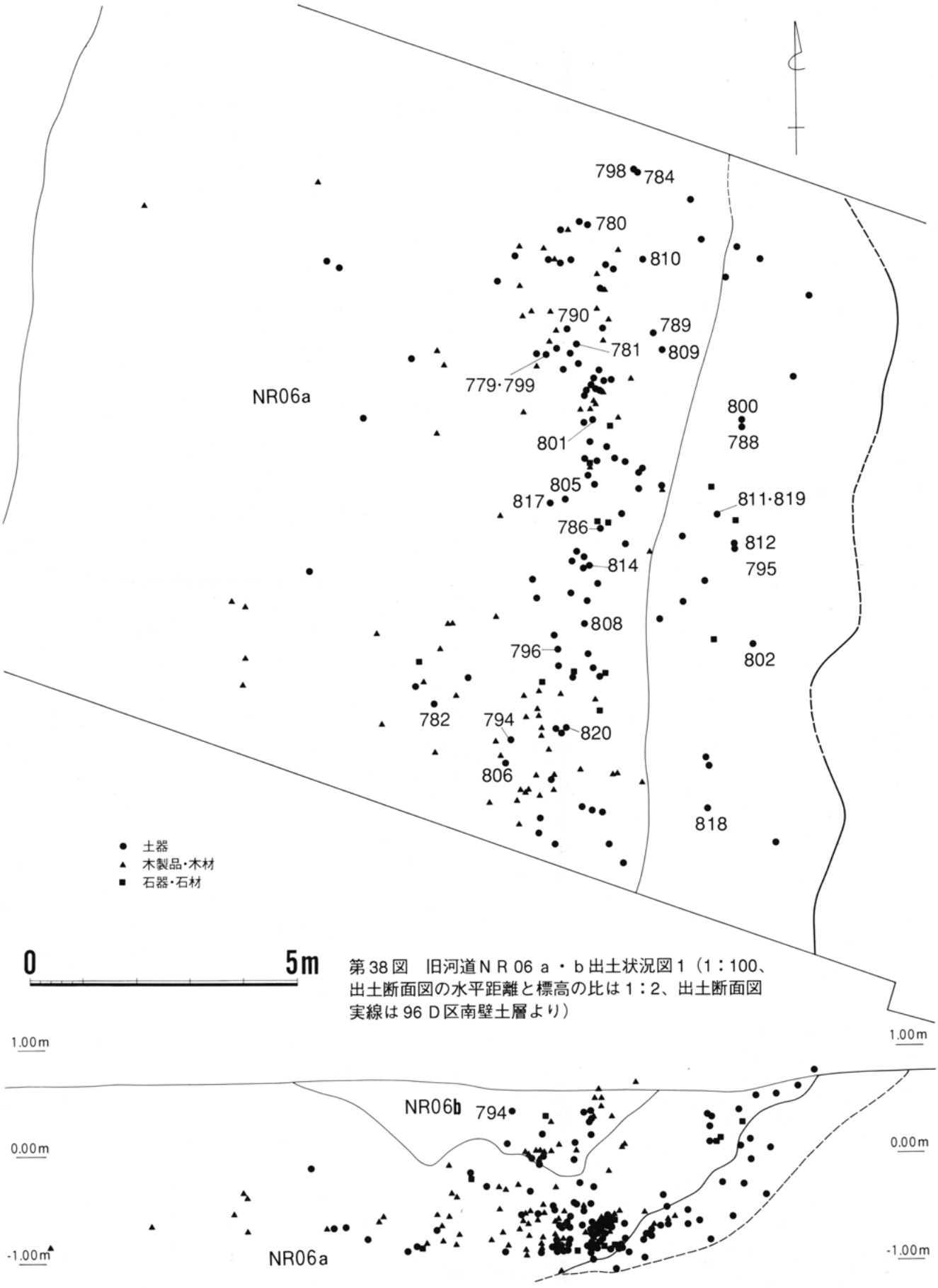
分　　布　北調査区を南北に横断する旧河道を7条（NR01～NR07）と西1調査区で1条（NR08）、西2調査区で1条（NR09）が検出されている。主に北西から南東に流れるもの（NR03・NR04・NR09）と北東から南西に流れるもの（NR05・NR06・NR07）、南東から北西に流れるもの（NR02・NR08）、南西から北東に流れるもの（NR01）の4タイプに分かれ、旧河道の流れは一定の方向性を持っていない。95F区を北北西から南南西に流れるNR04のみ95Aa区・93D区において河道の続きが確認されている。

断面形態　旧河道の底面は全て丸底で、必ずしも旧河道の横断面を直角に捉えていないが、河道の立ち上がりが左右均等のもの（NR01・NR06a）と左右の立ち上がりのどちらかがやや不均衡なもの（NR03・NR04・NR08）があり、後者の緩やかの立ち上がりの方は旧河道のポイントバーの部分にあたるものと思われる。NR03東側にはポイントバーにみられるスクロールバーとそれに伴う凹みが観察された。またNR06中央は河道を埋めた土層が大きく盛り上がっており、河道下部土層の砂層が液状化・流動化した結果、水平な堆積が崩れたものと思われる。NR08南側の北への傾斜が強くなる部分があるのも、河道下部土層の砂層が液状化・流動化した結果水平な堆積が崩れたことが原因にあると思われる。95Ca区SB66で調査した竪穴住居床面の熱残留地磁気測定結果にある地磁気の揺れはこの現象を反映したものであろう。NR06は埋まった後再び小規模な河道が流れるようであり、下層河道をNR06a、上層河道をNR06bとした。

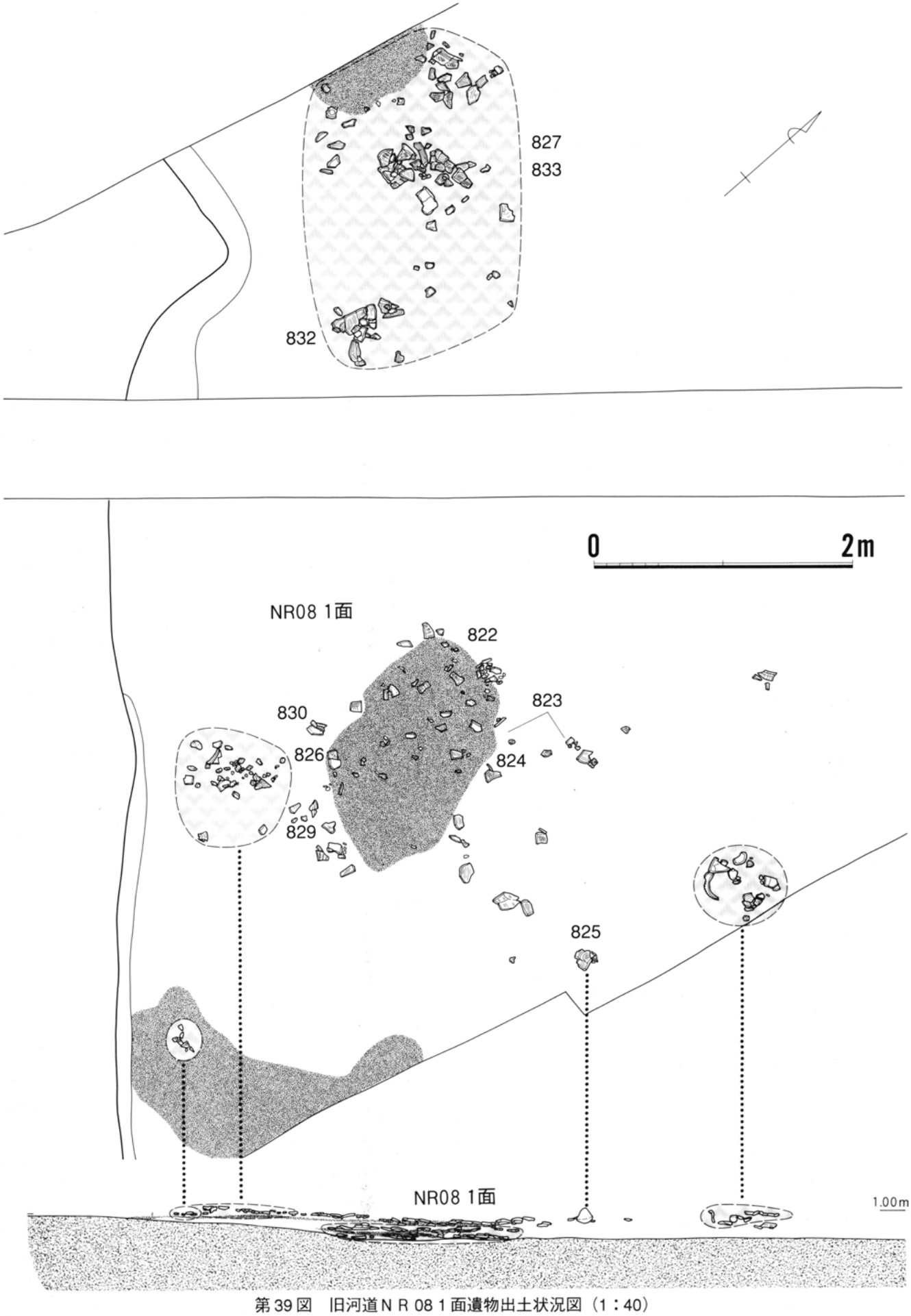
埋　　土　シルトが卓越したNR01・NR04・NR08と砂が卓越したNR03・NR06に分かれる。前者はシルトが数層堆積した間にシルトが2～3層挟まれるような堆積をしており、後者はシルト・細粒砂と中粒砂・粗粒砂の層が互層になって堆積しており、後者の方が急速に堆積したことを示しているかも知れない。遺物がまとまって出土しているのは、NR06a下層やNR08の1面がある。NR08の1面直上の炭層の堆積は当時の生活面が残っている可能性がある。NR06aに伴う遺物は河道東側の方から斜方に出土するものが多く微高地にある居住域から流れ込んだ可能性が高い。

新遺構No	調査区	旧遺構No	流路の方位	断面形態	幅(m)	確認した長さ(m)	深さ(m)	備考(時期など)
NR 01	96B	NR 02	N-58-E	丸底	9.30	(19.50)	1.28	南西→北東
NR 02	96B	NR 01	N-?-E	丸底	(24.00)	(27.00)	(0.73)	Ⅰ式a段階～Ⅱ式
	96C	NR 01	N-12-W	丸底	(4.40)	(8.70)	(0.25)	南東→北西
NR 03	96C	NR 02	N-52-W	丸底	32.80	(50.00)	(1.71)	Ⅰ式a段階、北北西→南南西
NR 04	93D	NR 01	N-27-W	丸底	17.35	(26.10)	不明	Ⅱ式
	94Aa	NR 01	N-51-E	丸底	(2.60)	(7.45)	0.14	北北西→南南西
	94Ab	NR 01	N-14-W	丸底	12.50	(6.20)	0.34	
	95F	NR 01	N-39-W	丸底	27.0	(21.05)	1.01	
NR 05	95F	NR 02	N-30-W	丸底	(1.35)	(8.40)	(0.14)	Ⅰ式a段階、洪水によるスクロールバー
NR 06a	96D	NR 01下層	N-06-E	丸底	19.80	(14.15)	(1.87)	Ⅰ式a段階、北→南
NR 06b	96D	NR 01上層	N-06-E	丸底				Ⅲ式b段階～Ⅲ式c段階、北→南
NR 07	93Ec	NR 01	N-07-W	丸底	不明	(1.55)	0.53	北北東→南南西
	96D	NR 02	N-23-E		55.0	(14.40)	(0.87)	
NR 08	AE	NR 01	N-49-W	丸底	24.00	(2.20)	0.33	Ⅱ式、南東→北西
	95Ca	SD 03	N-42-E	丸底	(16.15)	(8.85)	(1.02)	
NR 09	94Ba	NR 01	N-69-W	丸底	7.25	(7.65)	0.54	北西北→南東南

第9表　旧河道一覧



第38図　旧河道ＮＲ06ａ・ｂ出土状況図１（１：100、出土断面図の水平距離と標高の比は１：２、出土断面図実線は96Ｄ区南壁土層より）



第39図　旧河道ＮＲ08１面遺物出土状況図（1：40）

5. 弥生土器

蔭山誠一

(1) 弥生土器の整理について

a .弥生土器の選別について

一色青海遺跡ではコンテナ約700箱の弥生土器が出土している。弥生土器の整理に関しては、出土した土器の種類と量を分析し、遺跡・個々の遺構についての時間的、文化的な調査検討・報告することを目的としている。

そのため出土した全ての資料について接合・復元を行い、立体的に形の復元が出来るもの、土器の口縁部・底部（長径3㎝以上の破片、実測可能なもの、特徴による分類可能なもの）と文様付き壺体部（長径5㎝以上の破片、特徴的な破片）（C1類）を抽出した。その段階で抽出しなかった破片（C2類）はコンテナ200箱分にあたる。

抽出された遺物の中で更に弥生時代の遺構として取り上げた遺構出土のものとそれ以外の遺構・包含層出土のもの（C1類）に分け、遺構出土のものについては実測作業を進めた（B類）。

実測作業では、竪穴住居出土のものについてはほとんど実測など資料化を行い、方形周溝墓、溝、旧河道についてはその遺構の時期などを確認するために立体的に復元できるもの・特徴のある破片を実測した。残る土坑出土の資料については遺構の時期などを確認するためなどに必要な資料を中心に抽出した後、出土資料の多い遺構から実測作業を行った。包含層出土の資料についてはほとんど実測など資料化を行えなかった。今後の課題として残る。

b .報告について

先述した目的と方法から弥生土器の図化を行ったものが第15図～第63図である。遺構の分類ごとに実測図は4分の1、拓本付き実測図は3分の1になっている。ここでは実測図に合わせた遺物個々の記述を行うべきとも考えられるが、土器の資料化を優先して行い、また先述の目的を果たすため、まず遺構出土の弥生土器について分類を行い、遺構間での出土器種・土器形態の構成について分析し、遺構出土の弥生土器について時期区分を行う。続いて時期ごとの土器の器種構成や個々の土器の形態変化などについて述べ、分析することによって報告とする。尚、実測図に対応する個々の分類・特徴などについては一覧表である第3表～第13表を参照していただきたい。

(2) 弥生土器の分類（第1図～第5図）

ここでは遺構出土の弥生土器について分類を行うが、まず弥生土器の調整・文様について分類し、続いて形態である器形について分類を行う。

a .調整の分類

調整を6つに分ける。

N .ナデ・・・器壁表面に土器胎土中の砂礫粒の移動痕跡がないもの、不明瞭なもの。指頭・指腹によると思われるもので、やや不明瞭な凹凸をもって認識されるもの。

Na .タテナデ…壺頚部内面・甕体部内面に多くみられる。指頭・皮革などを利用したもの。下から

上への器壁調整が主体的、縦位に帯状の凹凸が形成される。

Ｎｂ.ヨコナデ…口縁部内面・脚台部などに施される。皮革などを利用したもの。土器に対して横方向の平行移動が確認され、上下には帯状の凹凸が形成される。ある程度の回転台の使用が想定されるものもある。

Ｎｅ.平ナデ…壺などの頚部・体部外面にみられる。凹凸はほとんどみられない。

Ｎｆ.板ナデ…壺・甕体部の内外面に見られるもので原体によるナデの始まりが直線状の停止、器面に原体幅部分の凹みをもって認識されるもの、ハケとは調整面に残る条線の有無により異なる。

ＮＦ.指オサエ…器壁表面の移動を伴わない円形・楕円形状の凹みとして認識されるもので、体部内面などに顕著にみられる。外面からの調整による内面当てとの区分は難しくそれらを含む。時に爪痕が残され、指頭状のもの、拳状のものがある。

Ｈ.ハケ・・・木材などの板小口を使ったものと考えられているもの、木材の年輪の冬季硬質部分が器壁表面に断面階段状の平行した条線として認識される。ハケ原体の単位がわかるはずであるが、調整の重複により不明瞭な場合が多い。原体の材の種類や使用状況などにより表れ方が異なる。大きく２種に分類する。

ＨＡ.太ハケ…ハケの年輪の冬期硬質部が当たる凹部である条が年輪の夏期軟質部のあたる凸部である条間より幅広なもの。

ＨＢ.細ハケ…ハケの条が条間より細いもの。

Ｊ.条痕・・・いわゆる条痕文で、器壁表面の凹部が深い荒々しい感じになる。二枚貝の側縁を使用したと思われる貝条痕と細い棒を束ねた櫛状原体を用いたと思われる櫛条痕がある。

ＪＳ.貝条痕…条間が丸い断面を持つ器壁表面として認識されるもの。

ＪＸ.櫛条痕…条間に平坦な部分を残すもので、深鉢形土器の口縁部に施される指突文の観察では断面円形・楕円形をした径1.5㎜前後の細い棒状のものを３～７本束ねた櫛状のものの先端部分を使用したと推定されるもの。刺突文の穴底に植物質痕が確認できる。

Ｔ.タタキ・・・器壁の表面に平行にはしる直線の凹みにより認識され、壺・甕の体部外面にみられる。内面には指オサエを伴うことが多い。板状工具の平坦面にある直線の凹凸が表れたもので、器体に対してヨコからナナメ方向に凹みである条がはしる。

ＴＡ.三角タタキ…凹みである条の断面が三角形状のもの。

ＴＢ.台形タタキ…凹みである条の断面が台形状のもの。

Ｋ.ケズリ・・・器体表面の砂礫粒の移動痕跡により認識されるもので、壺体部下半の外面に施されるケズリの断面は2～3㎝幅の平坦面をもつが、甕体部下半の内面にあるケズリ断面は丸い溝状に認められる。主に器壁表面が比較的乾燥した状態で調整される場合と余った粘土を掻ぎ取る場合とがある。

Ｍ.ミガキ・・・器体表面に残る幅１～８㎜程の滑らかで光沢のある浅く長い凹みとして認識される。器体表面を押圧して施文しているものと思われる。調整の最後に施される場合が多い。調整の範囲により**ＭＡ.帯状(充填を含めない)**・**ＭＢ.部分(充填を含めない)**・**ＭＣ.全面**の３つにわかれる。

Ｍａ.タテミガキ…縦方向のミガキで壺体部下半・鉢体部内外面・高坏内外面にみられる。

Ｍｂ.ヨコミガキ…横方向のミガキで壺体部下半・高坏坏部内外面などにみられる。充填ミガキなどもこの一種であるがここでは区別している。

充填ミガキ…壺体部上半の外面に帯状体として施されるもの。文様的効果が想定される。

ミガキ文様…ミガキの１単位が独立して施される

もので、暗文的効果が想定される。壺体部上半の外面に斜格子文などで描かれる。いわゆる「磨消線文」とよばれるミガキ直線文や暗文風のミガキ斜格子文などがある。

b．文様の分類

土器の装飾をする方法としては何らかの工具による線刻文や粘土を貼り付ける浮文、ベンガラなど赤彩による彩色・彩文の3つの方法がある。一色青海遺跡出土の弥生土器では現在確認できるかぎりでは線刻文がほとんどで、浮文も比較的多くみられる。彩色や彩文は少数の土器で確認できるのみである。

1）線刻文

土器に残されている文様から想定される施文原体の形状について分類し、続いて文様の種類を分類する。

◯施文原体

文様から想定される施文原体の形状を8類に分ける。

P．指…基本的にはヨコナデによる施文を想定しており、基本的に器体に対して横方向の施文になる。凹線文の原体に相当する。

Q．竹管…竹のような断面円形の管状のものを想定しており、径1～2㎝の円形や半円形の線状凹みとして認識される。文様を刻んで施文する場合を推定している。描いて施文する場合も存在すると思われるが、今回は櫛の描いて施文する場合に含んでいる。また刻んで施文する場合には半裁した管を使う場合と管のまま使う場合がある。いわゆる竹管文・爪形文の原体に相当する。

S．貝殻…貝殻の側縁のような波状になったものを想定しており、貝殻側縁が器体に当たった長さ1～3㎝の波線や器体表面に残された文様の波状凹凸がある断面として認識される。前者の文様を刻んで施文する場合がほとんどであるが、後者の描いて施文する場合もある。貝殻文の原体に相当する。

V．石・ヘラ…施文部分がやや丸みをもった平坦なものを想定しており、器体表面に残る幅1～8㎜程の滑らかで光沢のある浅く長い凹みとして認識される。器体表面を押圧して施文しているものと思われる。調整の最後に施される場合が多い。ミガキ調整と同様のもので、暗文・磨り消し線文・充填ミガキなどの原体に相当する。

W．ヘラ(棒状)…櫛よりやや太い1本の棒状のものを想定しており、単独の長い線状の凹みとして認識できる。櫛と同じように描いて施文する場合と刻んで施文する場合が推定できる。いわゆる沈線文の原体に相当する。

X．櫛…細い棒状のものを2～20本束ねたものを想定しており、長さ1～3㎝の線状凹みや条間の平坦面が残る断面をもつ複数集まった長い線状凹みとして認識される。それぞれ文様を刻んで施文する場合と描いて施文する場合が推定される。いわゆる櫛描文の原体に相当する。櫛はさらに4類に細分される。

XⅠ．櫛Ⅰ種…文様から線の凹みなどの間隔がほぼ一定のもので、硬度のある木・竹等の小片の先端を細かく割ったようなもの(**櫛Ⅰ種A**)と柔軟ならざる程度の植物の枝茎を緊密に束ねたもの(**櫛Ⅰ種B**)がある。櫛Ⅰ種Bの原体は管状のものと棒状のものがある。

XⅡ．櫛Ⅱ種…管状・棒状の原体を2～5本一定の間隔で束ね、さらにその束ねたものを2～4束一定の間隔を保って束ねたもので原体にはやや弾力がある。これまで複合櫛描文と呼ばれていたものの原体に相当する。壺体部上半の直線文や波状文によくみられる。

XⅢ．櫛Ⅲ種…1本1本が比較的細くまれにこれらが交差するササラ状、またはホウキ状の形状が想定されるもので、いわゆる三河系の壺体部にみられる。

Y．**撚紐**…植物質のものを撚った紐状のものを想定しており、器体表面に残された撚紐の撚り圧痕として認識される。文様を刻んで（回転させる）施文する場合が推定できる。縄文の原体に相当する。

Z．**不明・その他**…原体の形状が分類できないもの。その他のもの。

○文様

1.直線文…器体に対して横方向の直線状の文様で、1本のみの場合もあるが、平行して複数の単位で施文されることが多い。

2.波状文…器体に対して横方向の上下に振幅する波状の文様で、直線文と同様に平行して複数の単位で施文されることもある。

3.簾状文…器体に対して横方向の直線状の文様で、一定間隔で原体を止めた横方向のスダレ状に認識される。

4.山形文…器体に対して横方向の上下に振幅する山形波状の文様で、上下の振幅に角があるもの。

5.斜格子文…格子の斜めに傾いたもので、施文時の斜め線の前後によって左上り斜め線が先行する**左斜格子文**（5α）と右上り斜め線が先行する**右斜格子文**（5β）の2類に分かれる。

6.羽状文…斜線文が互い違いに施されるもので、器体に対して横方向に施されるものが多い。羽の開く向きにより右向きに開く**左羽状文**（6α）と左向きに開く**右羽状文**（6β）の2類に分かれる。

7.斜線文…斜めの直線状に見える文様で、器体に対して横方向に施されるものが多い。**左上がり斜線文**（7α）と**右上がり斜線文**（7β）に分かれる。

8.はね上げ文…器体に対して下から上に施文原体をやや高速に移動させ、文様の終わりで原体を止めないで描く文様で、縦方向でやや左右の斜めに振った状態になる。

9.弧状文…半円の円弧状に文様が描かれるもので、円弧の弧部が上にくる横方向に施文される。

10.扇形文…原体をコンパス状に用いて描くもので、扇形の文様が横方向に単体で並ぶ。

11.流水文…器体に対して縦方向に左右に蛇行して描かれるもので、波状文の波が大きくなったもの。横方向に描かれるものがある。

12.鋸歯文…三角形文を横や縦方向に並べたもので、三角の部分を沈線などで充填する充填鋸歯文もある。

13.垂下文…直線文や波状文を器体に対して縦方向に描くもので、横方向の直線文や波状文を施文する前後に描かれる。

14.付加文A(複数原体)…直線文などに直線文とは異なる原体によって付け加えられる文様。

15.付加文B(同一原体)…直線文などに直線文と同じ原体によって付け加えられる文様。

16.C字刻み…器体に対して横方向に右開きの半截の円形文として認識される。半截した竹管状のものや爪型文と同様のものである。

17.D字刻み…器体に対して横方向に左開きの半截の円形文として認識される。

18.円形刻み…竹管状の原体によって円形に刻まれたもの。

19.タテ刻み…櫛やハケ状の原体によって上下縦に刻みを入れたもの、タテ刻みを器体に対して横方向帯状に施文したものが多い。

20.ナナメ刻み…タテ刻みが斜めになったもので、**左上りナナメ刻み**(20α)と**右上りナナメ刻み**(20β)に分かれる。

21.羽状刻み…左右のナナメ刻みが上下に重なって羽状文風になったもの。横方向帯状に施される。

22.ヨコ刻み…タテ刻みが90度回転したもの。

23.点刻み(口縁端部が主)…棒状の原体を刺突したもので、横方向帯状に展開したものが多い。

24.回転文(充填・帯状・部分・全面)…原体をコンパス状に回転して施文するもので、扇形文以外の文様。

25.その他…1～24以外の文様。

2）G.浮文・・・貼り付ける粘土の形状により3類に分ける。

GA.棒状浮文…比較的短い粘土紐を貼付けるもの。無文のもの（GAα）と上面に刻みをいれるもの（GAβ）がある。

GB.円形浮文…円形ボタン状の粘土を貼り付けたもので、上面が比較的扁平なもの（GBα）、上面に円形刻みが施されるもの（GBβ）、上面が円錐形山形になるもの（GBγ）に分かれる。

GC.帯状浮文…帯状、突帯状に器体を全周する形で粘土紐を貼付けるもので、断面三角形・丸いもの（GCα）、断面台形のもの（GCβ）、上面に刻みなどを施文するもの（GCγ）に分かれる。

GD.その他浮文…その他の形態の粘土を貼り付けたもの。

3）彩色・・・ベンガラによる赤彩が認められた。

c.器形の分類（第1図～第5図）

一色青海遺跡出土の弥生土器には壺・高坏・鉢・深鉢・甕形の土器があり、それぞれを分類した。

1）壺・・・先ず機能の差とも考えられる頸部の太さによって細頸壺と太頸壺に2分類し、さらに頸部の長さにより太頸壺を2形式に大別した。また壺底部の形態を4類に分類する（第1図）。

a類…底部が体部から突出するもので、体部下半を全面ミガキ調整するもの。

b類…底部が体部から突出するもので、体部下半を部分ミガキ・帯状ミガキ調整するもの。

c類…底部が体部から突出するもので、体部下半にミガキ調整が確認できないもの、ハケ調整などでおわるもの。

d類…底部が体部から突出しない平底のもの、体部下半はハケ調整でおわるものが多い。

e類…脚台の付くもの。脚台は横ナデ調整されるものが多い。

細頸壺（第1図）・・・頸部の細い壺の一群をまとめる。

細頸壺A…口縁部が斜め上方にやや外反してひらく受口細頸壺で、口縁端部を内折させる。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。頸部には沈線直線文・櫛描直線文・簾状文・円形浮文などを巡らす。体部はやや下膨れの球状形態で、体部上半に櫛描文帯が数単位巡り、体部下半には横ミガキによるミガキ帯があるものが多い。底部はやや突出する形状となる。

細頸壺B…直口細頸壺で、口縁端部はそのままおわる。体部・底部の形状は細頸壺Aに類似する。

また細頸壺A・Bは頸部と口縁部の形態から4類に分かれる。

1類…頸部の括れ部が柱状部分をもって口縁部が外反して立ち上がるもの。口縁端面が斜め上方にある。

2類…頸部の括れ部で柱状部分を持たずに屈曲して口縁部に至るもの。口縁端面が上方にある。

3類…2類と同様であるが、頸部から口縁部の立ち上がりが短くなったもの。

4類…体部から口縁部に明瞭な屈曲部をもって口縁部が立ち上がるもの。

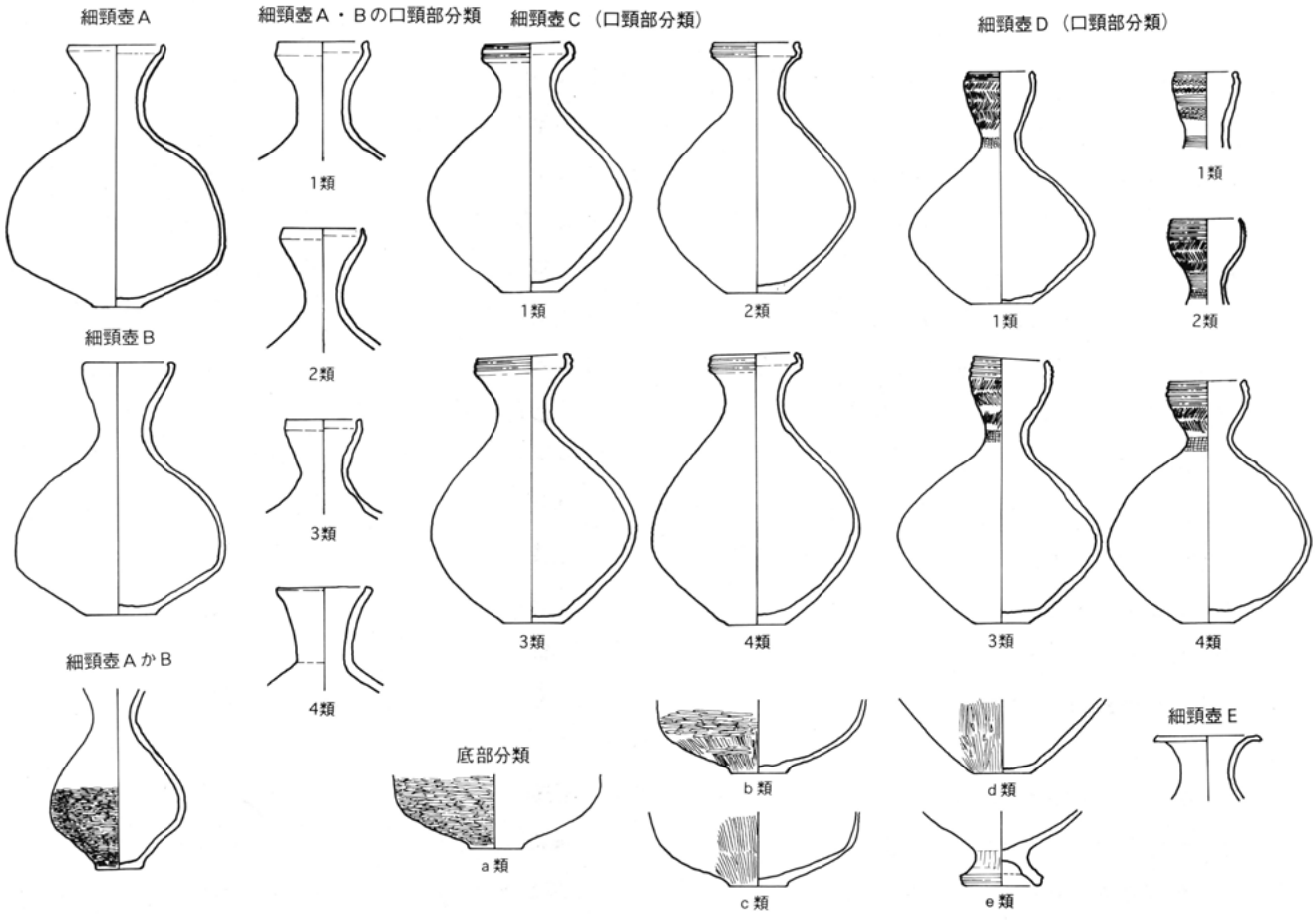
細頸壺C…口縁部が外反してひらく受口細頸壺で、口縁端部を内接させた外面に凹線文が巡る。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。頸部に沈線直線文を2～5条巡らすものがあるが、無文のものが多い。体部は縦長の断面そろばん玉形をした形状になる。体部に文様はなく、ハケ調整がそのまま残る。底部は扁平で突出していない。

口縁部と頸部の形態から4類に分ける。

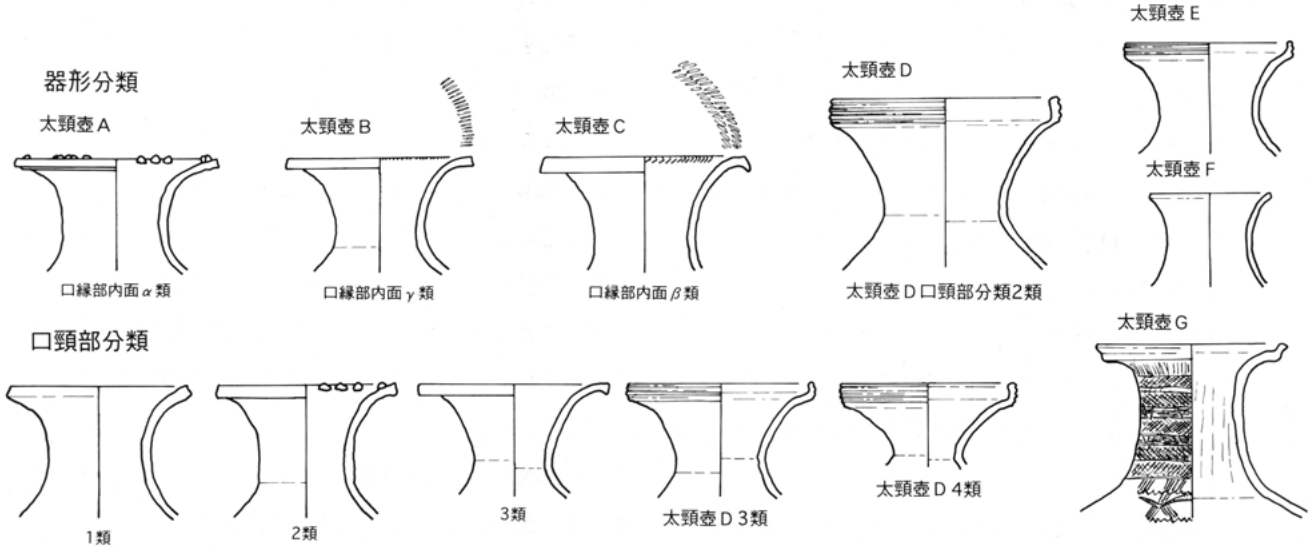
1類…体部から頸部への移行部分より上の頸部中央で緩やかに曲がるもので、体部最大径が比較的高い位置にある断面縦長のソロバン玉形の体部形状をもつ。

2類…口縁部の外反が1類にくらべて強くなったもので、頸部の抉れの位置がやや下がる。

3類…2類の頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部



第1図　細頸壺の器形分類



第2図　太頸壺の器形分類

への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

4類…3類の頚部から口縁部の立ち上がりが短くなったもので、体部の形状も1類～3類と異なり体部最大径が体部中央より下がった断面下膨れの形状になる。

細頸壺D…口縁部が内湾してひらく内湾口縁細頸壺で、口縁端部外面に凹線文が巡る。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。口縁部の凹線文下の頸部には櫛描文や櫛刻みが巡る。体部は横長の断面そろばん玉形をした形状で、体部上半に櫛描文帯がある。体部下半はタテハケによる調整が主体で、タテケズリの痕跡を残すものがある。

口縁部と頸部の形態から4類に分類する。

1類…頸部の括れ部から口縁が緩く内湾してひらくもので、相対的に口縁部から頸部までの長さが長く口縁端部外面の凹線文帯が2～3条巡る。口縁部の文様帯は櫛による刻みが数段巡るものや櫛刻みと櫛描直線文が交互に数段巡るもので、頸部括れ部の文様と口縁部文様との境に無文の部分が一定幅存在するもの。

2類…口縁が1類に比べて強く内湾してひらくもので、口縁部断面が内湾して膨らみをもつ形態に変化して口縁部から頸部の文様帯が4帯以上あるもの。体部形態、文様構成などは変化しない。

3類…口縁が2類にくらべて強く内湾してひらくもので、口縁部から頸部の長さも短くなる。体部の形態などは変わらないが、体部上半の文様で櫛描波状文が増加する。

4類…口縁が3類にくらべて更に強く内湾してひらくもので、口縁部から頸部の長さもより短くなる。体部の形態は断面横長のソロバン形が上下に膨らみをもち不整形な感じになる。体部上半の文様帯数が減少し、2類同様櫛描波状文の比率が高い。

細頸壺E…口縁部が大きく外反してひらく広口細頸壺で、体部の形状がわかるものが出土していない。

太頸壺（第2図・第3図）・・・頸部の太い壺の一群をまとめる。さらに頸部が長い太頸壺と頸部の短い太頸短頸壺にわける。体部の形状がわかるものは出土していない。また太頸壺、太頸短頸壺の口縁部内面の文様を**α類**…浮文が付くもの、**β類**…複帯の櫛描文、**γ類**…単帯の櫛描文の3つに分類した。

太頸壺を口縁部の形態によりA～G類に分ける。

太頸壺A…口縁部が大きく外反してひらく広口太頸壺で、口縁端部がそのままおわるもの。外面斜め上方に端面をもつ。

太頸壺B…口縁部が大きく外反してひらく広口太頸壺で、口縁端部がやや肥厚するもの。外面斜め上方に端面をもつ。

太頸壺C…口縁部が大きく外反してひらく広口太頸壺で、口縁端部がやや肥厚し、下端が垂下するもの。外面斜め上方に端面をもつ。

太頸壺A～Cは頸部と口縁部の形態から4類に分ける。

1類…体部から頸部への移行部分より上の頸部中央で緩やかに曲がるもの。

2類…口縁部の外反が1類にくらべて強くなったもので、頸部の抉れの位置がやや下がり、頸部に柱状の部分があるもの。

3類…2類の頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

太頸壺D…口縁部が外反してひらく受口太頸壺で、口縁端部を内接させた外面に凹線文が巡る。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。頸部から体部上半に櫛描文帯が施される。底部は扁平で突出していない。全体を復元できるものはないが、大型の断面そろばん形の体部形状になるものである。

太頸壺Ｅ…太頸壺Ｄの口縁部ほど大きく外反しない受口太頸壺で、やや小振りの口縁部になる。

太頸壺Ｄ・Ｅも頸部と口縁部の形態から４類に分ける。

１類…体部から頸部への移行部分より上の頚部中央で緩やかに曲がるもの。太頸壺Ｅの口頸部形態にみられる。

２類…口縁部の外反が１類にくらべて強くなったもので、頸部の抉れの位置がやや下がり、頸部に柱状の部分があるもの。

3類…2類の頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

４類…頸部から口縁の開きが３類にくらべて強くなる一方で、口縁部の外半は緩やかになり口縁がまっすぐ斜め上方にのびる形状になる。

太頸壺Ｆ…口縁部がほとんど外反しないでひらく直口太頸壺で、頸部に沈線直線文・ヘラ刻み・円形浮文などの施文がある。

太頸壺Ｇ…大きく外反してひらく受口口縁をもつ広口太頸壺で、頸部が突出する断面山形の形態になる。底部は突出する。体部上半はササラ状の櫛Ⅲ種により羽状文や垂下直線文から派生している垂下山形文などが施される。体部下半はヨコミガキが施される。

太頸短頸壺Ａ…口縁部が斜め上方にやや外反してひらく直口太頸壺で､口縁端部はそのままおわる。口縁端部の形状により２類に分かれる。頸部には沈線直線文・櫛描直線文・波状文・竹管刻み・円形浮文などを巡らす。体部はやや下膨れの球状形態で、体部上半に櫛描文帯が数単位巡り、体部下半には横ミガキによるミガキ帯のあるものが多い。底部はやや突出する形状となる。

また太頸短頸壺ＡとＤも頸部と口縁部の形態から３類に分ける。

１類…体部から頸部への移行部分より上の頸部中央で緩やかに曲がるもの。

2類…口縁部の頸部からの立ち上がりが短くなり、頸部から体部の広がりが不明瞭なもの。

３類…口縁部の外反が１類にくらべて強くなったもので、頸部の抉れの位置がやや下がり、頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

太頸短頸壺Ｂ…太頸短頸壺Ａの頸部がやや短くなった直口太頸壺で、外面をナデやハケ調整のみでおわるもの。体部の形状から断面球形の１類と断面下膨れ状の２類に分けられる。

太頸短頸壺Ｃ…太頸短頸壺Ｂの形態に体部上半に焼成前穿孔を施した円窓付壺。

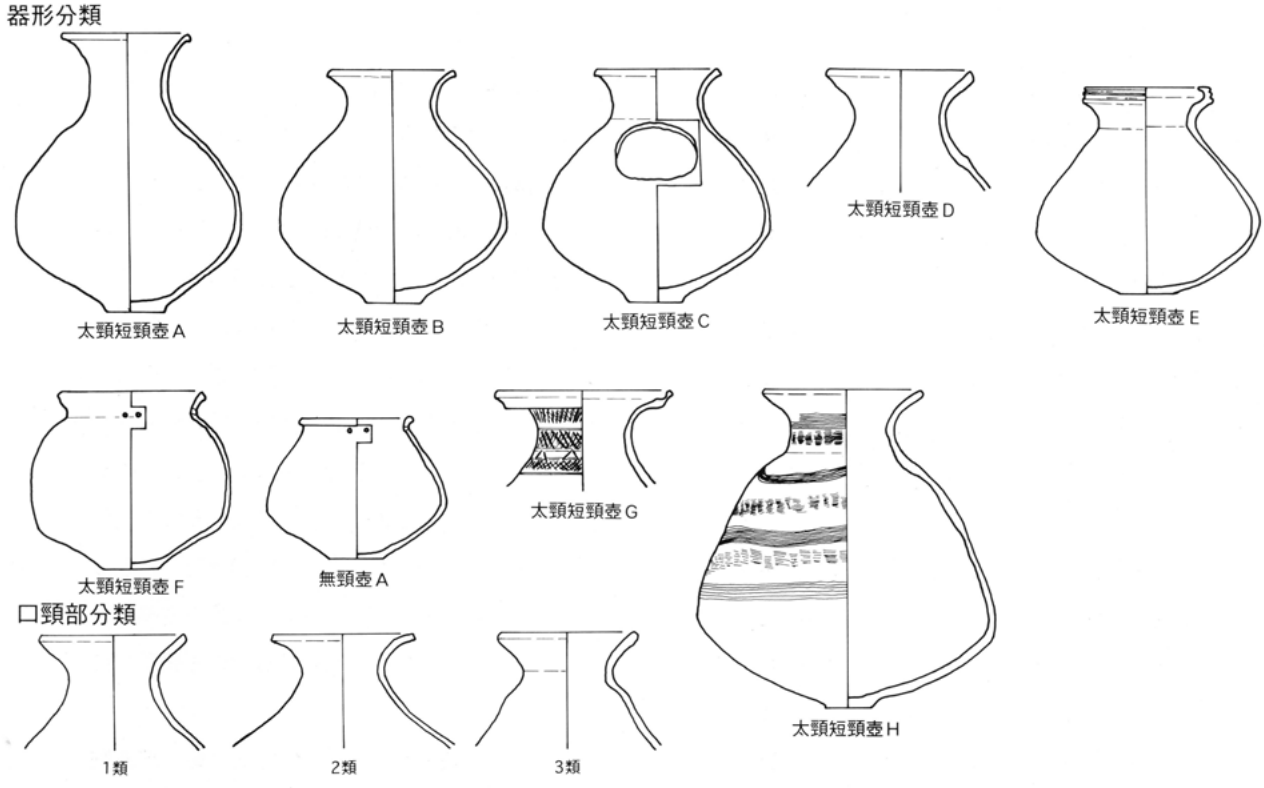
太頸短頸壺Ｄ…太頸壺Ａの短頸化したものであるが、形態的には太頸短頸壺Ｈに類似する折衷形態のもので、体部上半に櫛描直線文や波状文などが施文される。

太頸短頸壺Ｅ…頸部に２個１対の穿孔がある有蓋太頸直口壺で、体部が断面下膨れの形態のものと体部が断面ソロバン玉形に近いやや腰高のものに分かれる。体部下半にヨコミガキのあるものがある。

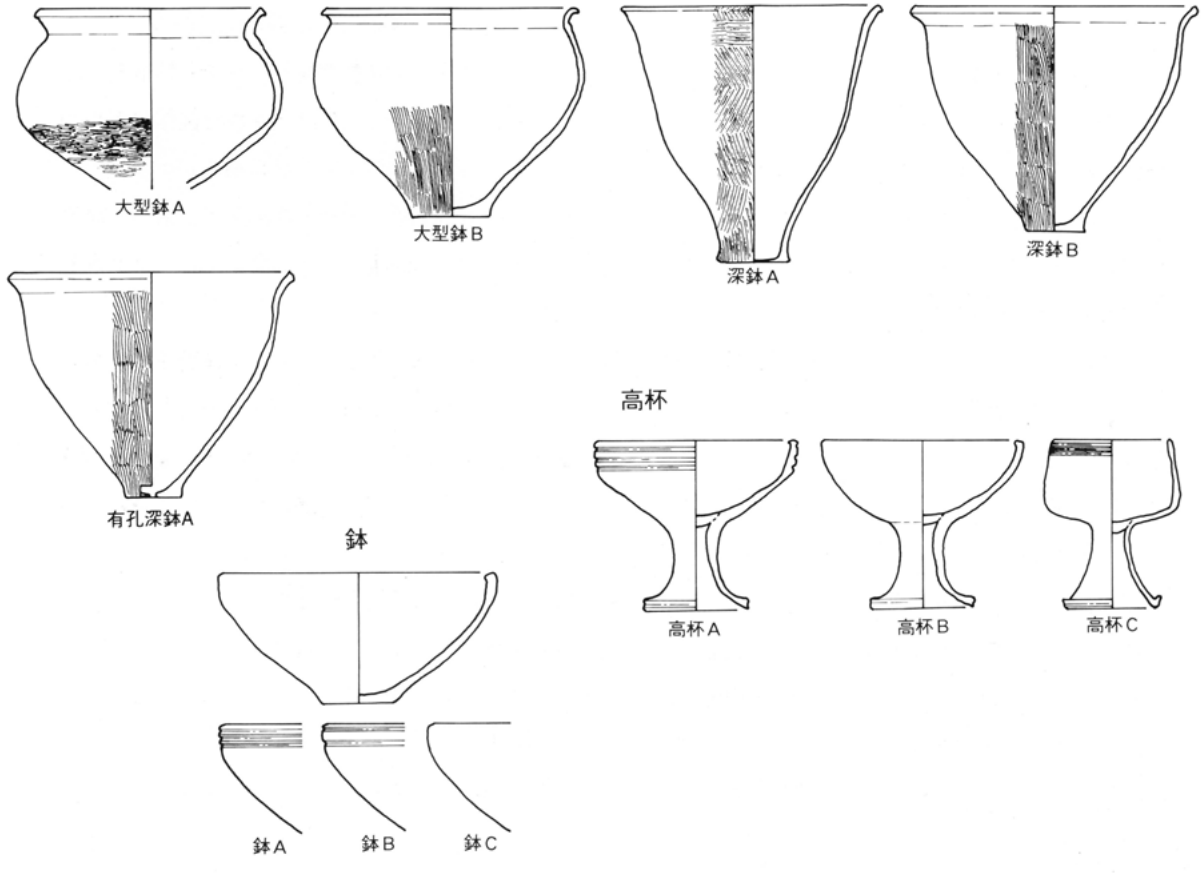
太頸短頸壺Ｆ…太頸壺Ｄの頸部を短くした形状の小型の受口太頸短頸壺。

太頸短頸壺Ｇ…太頸壺Ｇの頸部が短くなったもので、全体を復元できるものはないが頸部から体部上半にかけて沈線文による斜格子文などが施される。斜格子文間は横ミガキされる。受口口縁のものをいれている。

太頸短頸壺Ｈ…頸部が短く大きく外反してひらく広口太頸壺で頸部から体部上半にかけて、櫛Ⅲ種による櫛描直線文や波状文などがみられる。体部下半にはヨコミガキが施される。体部は断面下膨れ状で肩部が張り、底部が突出する。単純な広口のものと受口のものがあるが、今回は区別できて



第3図　太頸短頸壺・無頸壺の器形分類



第4図　大型鉢・深鉢・鉢・高杯の器形分類

おらず、ここでは広口のもののみをいれている。

無頸壺A（第3図）・・・明瞭な頸部がなく、縁帯状の口縁になるもの。口縁部下に2個1対の穿孔がある、有蓋のもの。体部は太頸短頸壺Eの形状に類似する。

2）高杯（第4図）・・・口縁部形態から3形態に分かれる。脚部は高脚で杯部との境は粘土充填技法によるものである。

高杯A…やや丸い鉢状の杯部口縁部をもち口縁部外面に凹線文を施すもの。

高杯B…ほぼ直線的に広がる杯部から口縁部が受口状に立ち上がるもの。

高杯C…コップ状の杯部をもつもので、口縁部はやや内湾しつつもまっすぐ上に立ち上がる。

3）鉢（第4図）・・・ボウル状の形のものがある。どの形態もミガキ調整のされるものがある。外面口縁部の文様により3つに分類する。

鉢A…外面口縁部に凹線文が3条めぐるもの。

鉢B…外面口縁部に凹線文が間を空けて2条めぐるもの。

鉢C…櫛描文や無文のもの。

4）大型鉢（第4図）・・・甕形のもので、口縁部径に対して器高が低いもの。

大型鉢A…大型鉢で体部下半が横ミガキ調整される精製のもの。

大型鉢B…甕の大型扁平化したもので、外面にタタキ調整が入り、内面体部下半には縦ケズリ調整がされるもの。外面体部上半には竹管による円形刻みが施されるものがある。

5）深鉢（第4図）・・・口縁部径が最も大きいもので、頸部の括れが不明瞭なもの。平底がほとんどであるが脚台付きもある。

深鉢A…櫛条痕による外面調整によって代表されるもの。口縁部内面に櫛右上り斜め刻みがめぐる。内面は横ナデ調整である。

深鉢B…口縁部がやや外反して屈曲する形態の深鉢で、外面縦ハケ、内面ナデによる調整のもの。平底のものと脚台付きのものがある。

有孔深鉢A…深鉢Bの形態のもので、底部に焼成前穿孔の施されたもの。調整などは深鉢Bと同様。

6）甕（第5図）・・・頸部の括れがあり、口縁部と体部の2カ所で径が大きくなるもので、断面くの字状口縁で体部上半が外側に張る甕A～甕Gと体部中位から上半のやや低い部分が外側に張る甕H・甕Iがある。それぞれの形態に脚台付きの甕と平底甕があり、**a類**…平底、**b類**…脚台の内面上部に底部充填のための粘土が突出するもの、**c類**…上げ底、**d類**…低脚のもの、**e類**…高脚のもの、**f類**…柱状部のある高脚のものの6タイプに分かれる。

甕A…外面に縦ハケ、内面の体部上半をナデ調整するもの。

甕B…外面に縦ハケ、内面体部上半にハケ調整されるもの。内面の体部下半はナデ調整が多い。

甕C…外面の体部上半で体部下半の縦ハケ調整が左上り斜めハケ調整になるもの。

甕D…外面縦ハケ調整の前後にタタキ調整が加えられるもの。内面はハケ調整された後体部下半から中ほどにかけて縦ケズリされるものが多い。

甕E…外面ハケ調整の後、体部上半に横ハケ調整を施すもので、内面は体部上半を中心にナデ調整される。

甕F…甕Eの内面体部上半がハケ調整されたもので、体部下半は下から上へ縦ケズリが施される。

甕G…体部外面の縦ハケの前後にタタキ調整が施されるもので、内面は体部にハケ調整がされた後体部下半に縦ケズリがほどこされる。

甕H…いわゆる近江系甕とされている一群で口縁端部を内折させる受口口縁の形態をとる。体部内面はナデ調整が基本であるが、ケズリ調整されるものもある。体部上半のハケによる刻みや波状文の要素は特徴的である。

甕Ⅰ…いわゆる知多・三河系の体部内外面を平ナデ調整するもの。

また、甕口縁部・頸部・体部最大径部の関係から口頸部を4類に分類する。

1類…頸部から口縁部が断面鈍角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径と同じか小さいもの。

2類…頸部から口縁部が断面鈍角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径より大きいもの。

3類…頸部から口縁部が断面直角か鋭角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径と同じか小さいもの。

4類…頸部から口縁部が断面直角か鋭角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径より大きいもの。

(3) 器形組成の変遷

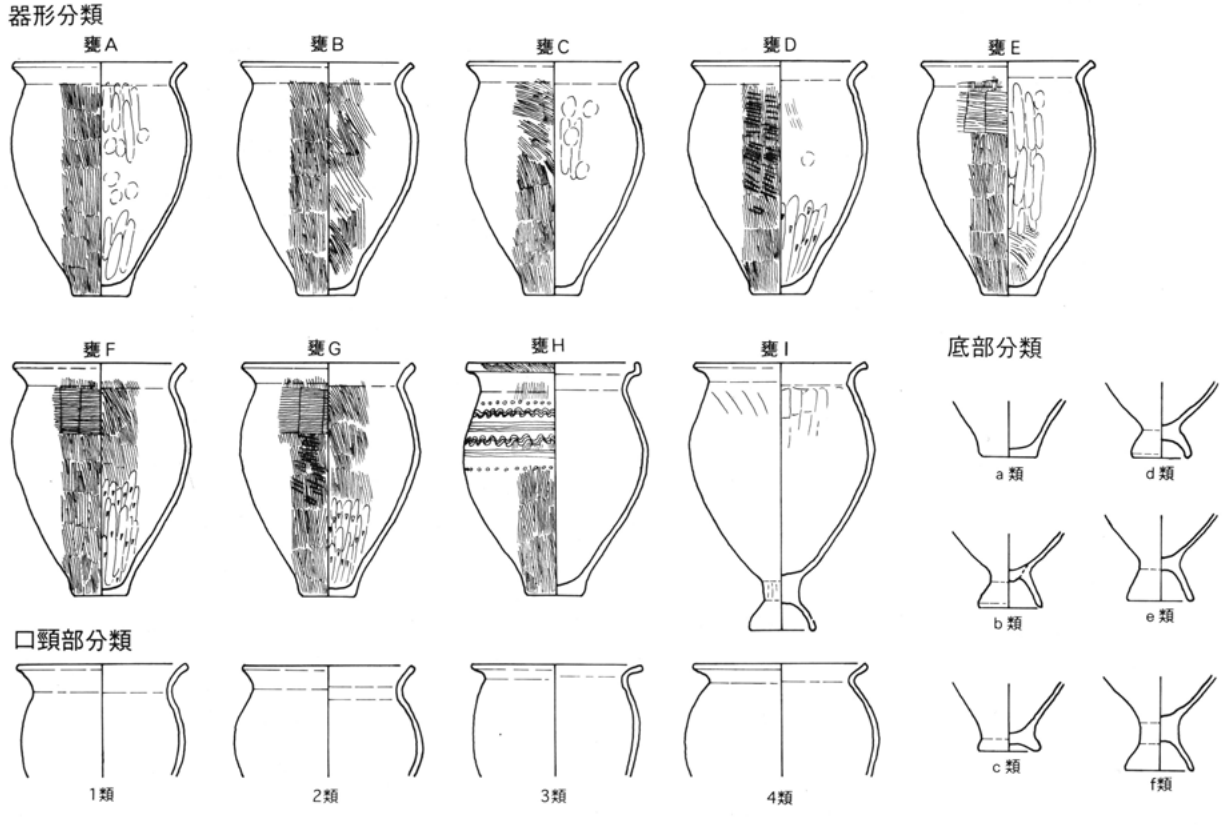
a. 各調査区の器形組成

一色青海遺跡では竪穴住居や方形周溝墓、溝、旧河道、土坑など比較的まとまった量の出土した遺構が多く、調査により遺構の重複関係などから時間的前後関係を考えることが可能な遺構が多い。また先述したように調査区の位置が大きく東西南北に分かれ、それぞれの調査区で地形的特徴と遺構の特徴が対応する。そこで前節までに述べた器形分類にしたがって主な遺構ごとの器形組成と各器形の形態的特徴の組み合わせを明らかにし、調査区ごとに土器組成におけるグループの存在を検討したものが第1表である（第1表の数字と文字は各分類を、記号は量比を示している［○は存在する、◎は多く存在する］）。

以下各調査区ごとの特徴を述べる。

1）北調査区

細頸壺A～D、太頸壺A～D、太頸短頸壺A～



第5図　甕の器形分類

C・G、壺底部形態a類～d類、大型鉢A、鉢A・C、深鉢A・B、有孔深鉢A、甕A～H、甕底部形態a類～e類がある。

器形組成や器形ごとの形態的特徴からは、細頸壺・太頸壺において口頸部形態1類・2類のみであること、太頸壺内面口縁部文様帯がα類～γ類があるがα類・β類が多いこと、壺底部形態a類・b類が多いこと、有孔深鉢A・深鉢Bがあること、甕A～Hがそれぞれ一定量存在すること、甕口頸部形態1類～2類が主体であること、甕底部形態a類が多いもののb類・d類・e類も一定量存在すること、などがあげられる。

2）東調査区

細頸壺A～E、太頸壺A～F、太頸短頸壺A・B・D～H、無頸壺A、壺底部形態a類～e類、高杯C、大型鉢A・B、鉢A～C、深鉢A・B、甕A～I、甕底部形態a類～f類がある。

東調査区では細頸壺・太頸壺の口頸部形態、太頸壺内面口縁部文様帯、大形鉢Bの存在、甕の組成、甕の口頸部形態、甕の底部形態の要素において2群に分かれる。この2群については基本的には東調査区の遺構変遷と対応するもので、それぞれ東竪穴住居群と東方形周溝墓群とよぶ。

東竪穴住居群出土土器の特徴は、細頸壺・太頸壺口頸部形態1類・2類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帯でβ類が多いこと、壺底部形態a類・b類があるもののc類・d類が多いこと、深鉢Bがあること、甕A～Hが多いこと、甕の口頸部形態4類が一定量あるものの1類・2類が多いこと、甕底部形態a類が多いもののb類・d類・e類が比較的多いこと、などがある。

東方形周溝墓群出土土器の特徴は、細頸壺・太頸壺口頸部形態3類・4類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帯でγ類が主体であること、壺底部形態a類・b類は少なくc類～e類が多いこと、甕D・F・Gが多いこと、甕口頸部形態2類・4類が多いこと、甕底部形態a類が多く、d類・e類が少ないこと、などがある。

3）南調査区

南調査区の遺構については比較的まとまりのある3遺構のみ取り上げている。

細頸壺B・C、太頸短頸壺B・C、壺底部形態d類、高杯B、深鉢A・B、甕A・C～G、甕底部形態a類がある。

器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺の口頸部形態が1・2類であること、深鉢Bがあること、甕A・C～Gがそれぞれ一定量存在すること、甕底部形態a類が多いこと、などがある。

4）西1・2調査区

遺構などのまとまりとして西1調査区と西2調査区は比較的まとまりがあるので一緒に扱った。

細頸壺A～E、太頸壺A～D・G、太頸短頸壺A・B・D・F・H、壺底部形態a類～d類、大型鉢A・B、鉢A・B、深鉢A・B、甕A～G・I、甕底部形態a類・c類～f類がある。

器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頸部形態2類・3類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帯でβ類が多いこと、壺底部形態a類・b類は少なくc類・d類が多いこと、大型鉢Bがあること、深鉢Bがあること、甕A～Gがそれぞれ一定量あること、甕口頸部形態の2類・4類が多いこと、甕底部形態a類が主体的でe類も一定量あること、などがある。

以上各調査区ごとの器形組成や各器形の形態的特徴を検討すると北調査区の一群、東竪穴住居群、東方形周溝墓群、南調査区の一群、西調査区の一群の7群に分けられる。この中で類似した一群であるのは北調査区の一群と東竪穴住居群、量的には少ないが南調査区の一群が類似し、東方形周溝墓群はこれらとは明らかに器形組成・各器形の形態的特徴において異なる一群で、西調査区の一群はその中間的特徴をもつ一群といえる。

土器群	遺構・出土地	細頸壺					太頸壺								太頸短頸壺								無頸壺	壺底部形態					高杯	鉢	大型鉢	深鉢		甕									甕底部形態					
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	F	G		A	B	C	D	E	F	G	H	A	a	b	c	d	e				A	B	A	B	C	D	E	F	G	H	I	a	b	c	d	e	f
北調査区	NR03 下層	○		○	1			2																	○														2				○		○			
	NR06a	1·2		○	○		1α	1·2γ	2·2β	○					1·2		○							◎	◎	○	◎			A	A	○	有·○	1·2	1	2			2	1·3	2		◎	◎		◎		
	SB02	1	1	1	○		2α									1								○	◎	○	◎			C				1		2		2					○			○		
	NR04 下層	2																								○	◎			A													◎					
	SB08								γ												2																										○		
	SB09									2														○								○					2		2					◎					
	SD01		○	2																																							○					
東竪穴住居群	SB11	2		○																				○			○					○						1	1		1	○		○	○		
	SB15	○	○	1			2	γ		○		○						○				○			○		◎			B				1·3	1·2	1	1·4	1·2	3		4		◎	◎		○	◎	
	SB26	2		2	1		1			1							1·3							○	◎		◎							1			1·4	1·2·4					◎	○		○	◎	
	SB34	2	○	1·2	1					○										○							○					○			1·2		2		2					◎			◎	○	
	SB38	2					β	β			1									○	○					○	○					○				1		1·2	1									
	SB41			2		○				○						○		2				○				○	○			C				○		1·2	2		2		1		◎	○		◎		
	SB46		2						β													○				○						○			○		4	2	2	○			◎			○	◎	
	SK10	○		2				β																		○	◎									4		4	4				◎			○	◎	○
	SK17	1		2	○			γ		○								3	○						○	○	◎					○	○	2·4		1	1	2·3		1·4			1	◎				
東方形周溝墓群	SZ07	2		○	○			2α		○												○		○	◎	◎		○							1		4					1	◎			○		
	SZ12		2	○	1					○																									1								◎	◎	◎	◎		
	SD04		4							○												○					○						○			1												
	SZ13				3			α			3												○				○	◎	C	A·B	B				3		4		4	1	○		◎			◎	○	
	SZ15			○					3β	○																	○	○		A								1	2				◎		○	○	
	SZ18		3		3			3		○												○		○	◎	◎	◎					○					2·4						◎			○	◎	○
	SZ20a	○											1										○					○		C				○						○			◎			○		
	SZ20b 底面		3								3													○	○																						
	SZ25		3						γ																		○												1							○		
	SZ11								γ	○														○								○								1			◎					
	SZ16														○											○	◎	○										4						○					
	SZ17			3	3													3								○	◎	○										3			4		4	◎					
	SZ20b 上層	3	3	○	3						4		○									○			○		◎											2	2	1·4			○		◎		○	○	
	SZ21							○					○									○				○	○	○		C									2									
	SZ05			3	4				α															○			◎	◎			A								4	2·4	2	4			◎					
	SZ10	4			4																						○													4								
	SK03	3		4																				○															4	2				○		○			
	SK11			4																							◎						A					2		2			4	2		1	◎		○	◎	◎
南調査区	SK30			2												○											○		B											2			2·4			◎				
	SK31																○																○					1		4			2	1·2	4		◎				
	SK49		1																							◎													4			4			◎				
西1・2調査区	NR08 1面	2		2				2β																		○		◎											1			1·2	2·4			○				
	SB66	2		2	○	○		β										2				○								B									4	3		1·4	2·4		4	4	○	◎			○	○
	SB72		○	2		1				○														○								○								2					○					
	SB74	2			1·2												γ					○		○								○												◎					
	SB79			○																		○				○							○										4		◎		○		
	SB83	3		○	○	1							○												○	○	○					A		○	4	4								◎					
	SB86															3						○																		○		3							
	SB94				2	○		1·3α	β						1α	2														A							2	2		4		4		2	◎			○		
	SK79			○									○													◎												2	2·4					○					
	SB69				○																												○							1				◎			○		
	SB70			3																		○											○								1			◎					
	SB73			3																1	○									B	B			1			4		2				◎				◎	○
	SB82	3											○									○		○	○	○						○					2		2	1·2·4				○		○			
	SB93								3γ																																							
	SB68	2		○	○								○					3						○			○					○							4						○		○		
	SB77						3																																			4				○		◎		

第1表　弥生土器の組成1

b．器形組成からの3時期区分

遺構出土のものに関しては遺跡の時期区分についてはその基礎となる時期区分は遺構の重複による前後関係や遺構の位置における相対的前後関係によっている部分が大きい。

前節で分かれた弥生土器の大きな3群はおおまかには時期差を想定できるものと言え、東調査区における2群については遺構の重複関係から東竪穴住居群が古く、東方形周溝墓群が新しいものである。よって各弥生土器群の時間的推移は北調査区の一群・東竪穴住居群・南調査区の一群が古く、次に西調査区の一群、最も新しい一群として東方形周溝墓群となる。しかし細かな器形組成の変化や各器形の形態変化の併行関係をみていくと前後する弥生土器群の間には重複する部分があり、それらの特徴の変遷と遺構の重複関係を重視して検討したのが第2表である（第2表の数字と文字は各分類を、記号は量比を示している［○は存在する、◎は多く存在する］）。この表においては前節で検討した3群の時間的推移をもとに一色青海Ⅰ式～一色青海Ⅲ式の3時期の弥生土器群に分け、さらに各器形の形態的特徴の変化をもとにⅠ式を2段階、Ⅲ式を3段階に分類した。そこで各段階における各器形の形態的特徴の変化を述べ、その後全体の変遷についてその特徴をのべる。

(4) 各器形の形態的特徴の変化（第6図～第13図・第2表）

今回の調査によって出土した弥生土器は先述したように細頸壺・太頸壺・太頸短頸壺・無頸壺・高坏・鉢・大型鉢・深鉢・甕に分類しており、分類した各器形の出土量と頻度は大きく偏っている。出土量・頻度とも少ない器形については細かな変化をおっていくことは不可能で、ここでは出土量・頻度とも比較的多く、時期区分の中心になっている細頸壺・太頸壺・甕の3器形についてまず述べ、その他の器形については3器形の形態変化に沿った共伴関係から形態変化を述べる。

a．細頸壺（第6図）

細頸壺はA～Eまであり、細頸壺Eは破片のみしかなく少量で、全体を復元できるものがない。ここでは細頸壺A～Dについて述べる。

細頸壺A～Dは一色青海Ⅰ式から一色青海Ⅲ式まで出土量においてやや消長が見られるもののほぼ全段階にわたり存在する。

一色青海Ⅰ式

a段階

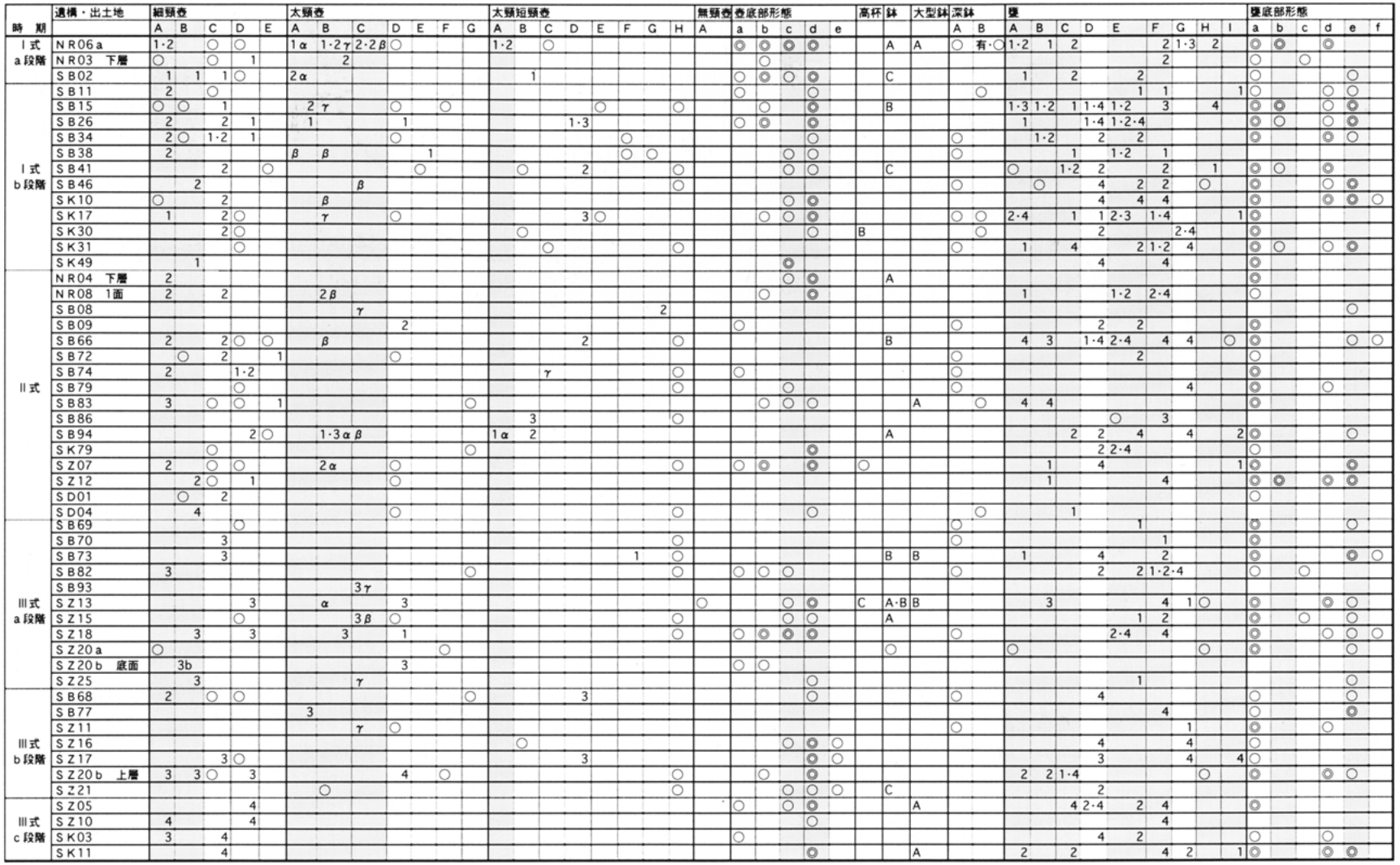
細頸壺A・Bが細頸壺C・Dより多く組成するものと思われ、このことはこの段階における遺構出土の壺底部形態a類・b類がc類・d類より多いという傾向からもいえる。Ⅰ式を通じていえることであるが、口縁部の判明するものはないが出土例の多い細頸壺とは別に細身で外面体部下半をヨコミガキする精製の器形を含む。

細頸壺A・Bでは口頸部1類と2類のものがあり1類が主体的である。細頸壺C・Dでは1類のもののみで構成される。文様ではどの器形においても櫛Ⅰ種・櫛Ⅱ種による直線文が主体であるが、細頸壺A・Bにおいて全段階から続く体部上半の磨り消し線文と呼ばれるヨコミガキ暗文直線文のみられものがある。また外面体部上半に櫛Ⅰ種山形文が2～3帯巡るものはb段階にも続く特徴である。細頸壺Dの体部上半の文様は上部に直線文が巡り、最下段に波状文が1帯巡るものがほとんどで、この傾向は一色青海Ⅱ式まで続く。

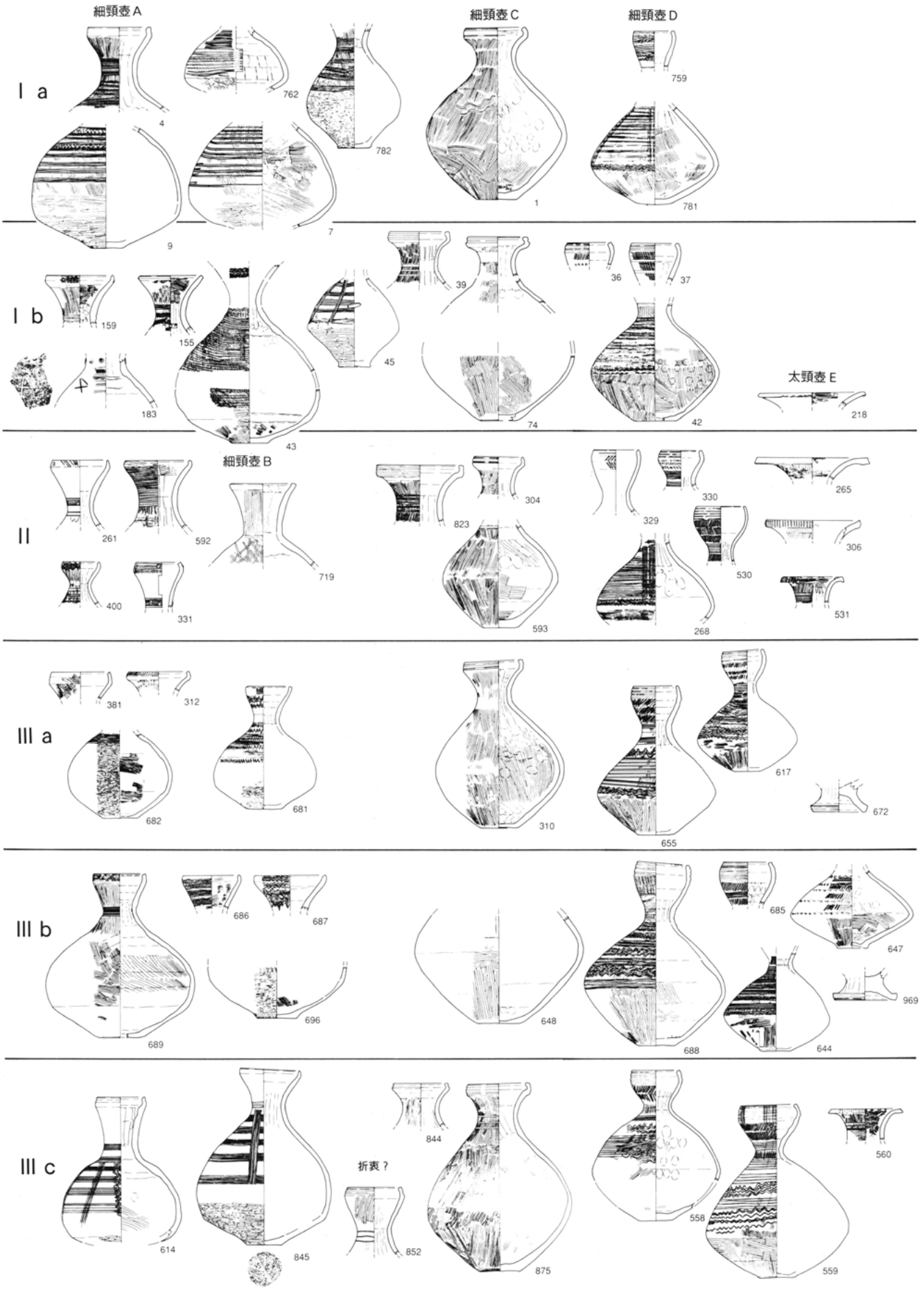
b段階

a段階から続く特徴も多いが、細頸壺の組成において細頸壺C・Dが量的に細頸壺A・Bより多くなる傾向がある。このことは壺底部形態においてc類・d類が増加し、d類が主体的にある傾向からもこのことを示唆する。

形態的特徴については細頸壺A・Bにおいて口



第２表　弥生土器の組成２



第6図　細頸壺の変遷（1：8）

頸部形態1類から2類に主体が移ること、細頸壺C・Dにおいて口頸部形態1類に加えて2類が現れることがあげられる。

一色青海II式

細頸壺の組成についてはI式b段階と同様な傾向にある。II式においては細頸壺Eが比較的みられる。

形態的特徴については細頸壺A・Bにおいて口頸部形態1類がほとんど無くなり、3類・4類が加わる。主体は2類であるが、細頸壺Bの口縁部形態で口縁端面の向きがI式の外面斜め上方から上方に変化する。

一色青海III式

細頸壺の組成において細頸壺A・Bが少なくなり、細頸壺Dが増加する。III式の遺構は方形周溝墓が主であり、竪穴住居・土坑出土の組成に比べて方形周溝墓出土のものでは明らかに細頸壺Dが多い傾向にある。この傾向がIII式の特徴かどうかは今後の課題として残る。

a段階

竪穴住居出土のものでは細頸壺Cが多いが方形周溝墓では細頸壺Dが多い。細頸壺A・Bは少ないが確実に伴う。

形態的特徴では口頸部形態がほぼ3類のみになる。細頸壺A・Bでは、細頸壺Aの口縁部の受口が小さく不明瞭になり、細頸壺Bとの区分があいまいになった感がある。II式に比べてより短く外反する口縁部形態になり、口頸部文様に波状文が増える。細頸壺Cは3類の口縁部が体部から強く外反する形態に変化する。細頸壺Dでは口頸部形態2類があらわれ、口縁部が短くなり、口縁部上端の凹線文が多条化する。頸部の文様が櫛描簾状文が主体になる。体部上半の文様の中に波状文と直線文が交互に繰り返し描かれるものが多くなる。櫛描文の最下段の文様には波状文が描かれる。

b段階

a段階と細頸壺の組成及び、形態的特徴においてほとんど変化ないが、細頸壺Dの体部上半の文様帯で櫛描波状文と直線文が交互に繰り返し描かれるものが多くなり、それらのものの中に櫛描文の最下段に直線文を描くものがあらわれる。

明確な共伴例がないが細頸壺Cは口頸部形態3類のものが伴うものと思われる（SZ17）。

c段階

細頸壺C・Dにおいて大きな形態変化がある段階で、細頸壺の組成では細頸壺C・Dの共伴例がなく、不明瞭であるが細頸壺A・Bは確実に伴うようである。細頸壺C・Dでは、口頸部形態が4類に変化し、口縁部が短く体部が下膨れ状の形態になる。852は細頸壺Aと細頸壺Dの折衷型であろうか。

b.太頸壷（第7図）

太頸壷はA～Gまであるが、一色青海遺跡の中で型式変化を追えるのは太頸壷A～Eで、太頸壷Gは一色青海遺跡においては客体的存在であることからその他の器形の部分で述べる。太頸壷Fについては少量であることから出土のある段階で述べる。

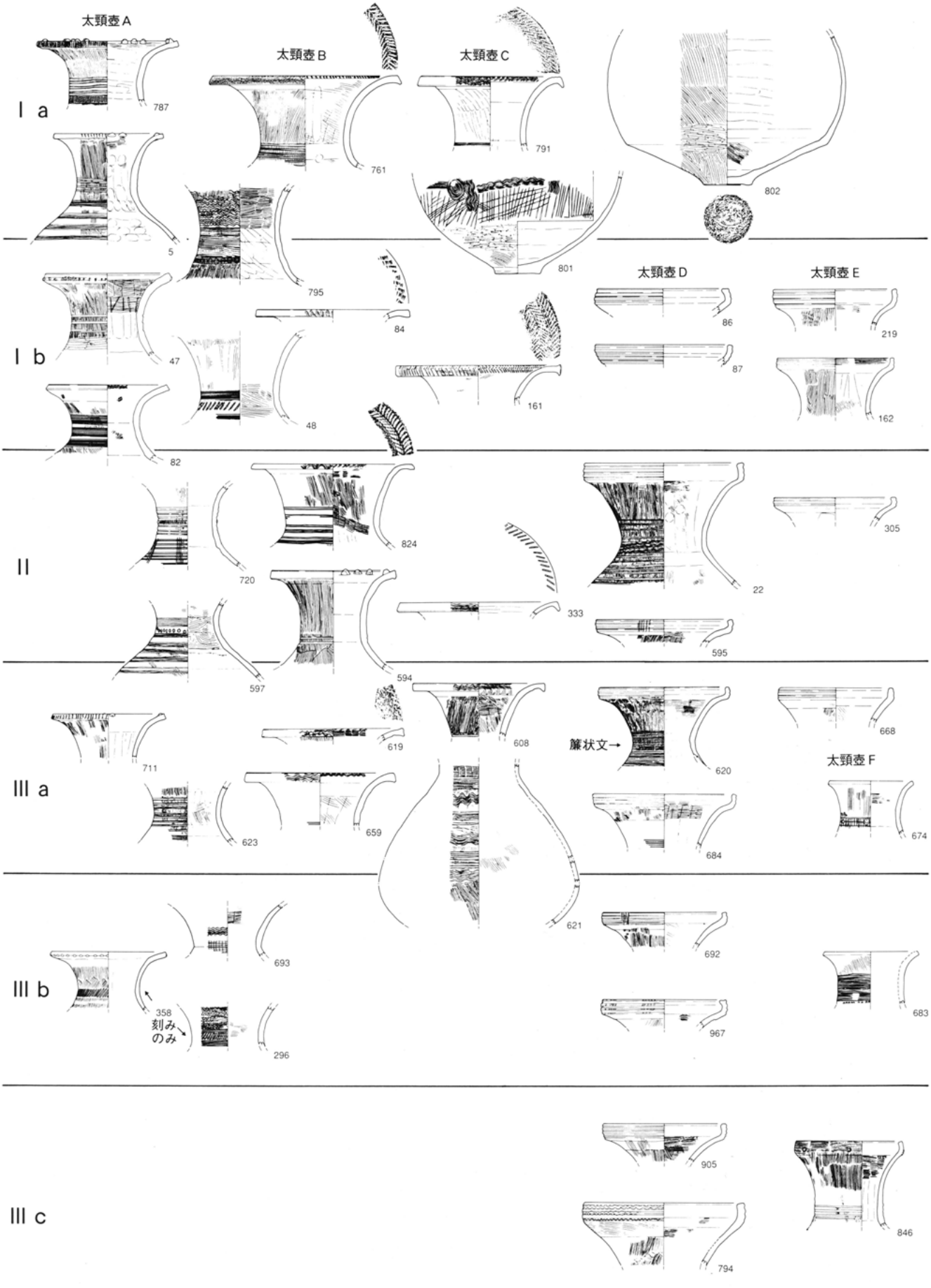
太頸壷における器形組成においては、一色青海III式a段階までは比較的多く見られるが、III式b段階以後は少なくなり、ほぼ太頸壷Dのみとなる。

一色青海I式

a段階

太頸広口壷の太頸壷A～Cが主体で太頸壷D・Eは全体を復元できるものがなく、存在しても少ないものと思われる。

太頸壷の形態的特徴では口頸部形態1類が主体であるが、2類も併存する。内面口縁部文様帯は円形浮文をつけるα類が多く、β類も一定量ある。体部形態は全体を復元できるものがなく不明であるが、破片などの資料からは体部最大径が体部中位にある比較的腰高のものと体部下位にある下膨



第7図　太頸壺の変遷（1：8）

れ状のものがある。壷底部形態では少量ａ類～ｃ類が存在するものと思われるが、基本的にはｄ類である。

ｂ段階

太頸広口壷の太頸壷Ａ～Ｃがａ段階に続き主体であるが、太頸壷Ｄ・Ｅが比較的見られるようになる。太頸壷Ｄ・Ｅでは太頸壷Ｅの形態が多いように思われる。

太頸壷Ａ～Ｃでは、口頸部形態１類と２類があるが、2類が多くなる。内面口縁部文様帯はα類～γ類まで存在するがβ類が多い。体部形態や底部形態はａ段階と大きな変化はないように思われる。太頸壷Ｄ・Ｅでは太頸壷Ｄは小片しかなく不明であるが、太頸壷Ｅは口頸部形態1類のみである。壷底部形態はｄ類である。

一色青海Ⅱ式

太頸広口壷である太頸壷Ａ～Ｃと太頸受口壷である太頸壷Ｄ・Ｅがほぼ同じ比率で出土するようになる。

口頸部形態はどの器形も１類が残るものの２類のものが多くなる。頸部の文様帯が頸部より上の口縁部にまで及ぶのもこの段階の特徴である。太頸壷Ａ～Ｃの内面口縁部文様帯はα類～γ類まで存在するがβ類が多い。

体部形態、底部形態はあまり変化がないように思われる。

一色青海Ⅲ式

ａ段階

太頸壺Ａ～Ｃの頸部が細くなり、細頸壷Ｅとの区分が不明瞭になり、やや減少傾向になる。太頸壷全体の組成の中ではⅡ式と同様の傾向にあるが、太頸壺Ｆがこの段階から少量見られる。

太頸壷はどの器形も頸部が細くなり口縁部が大きく外反して開く口頸部形態３類に変化する。太頸壺Ａ～Ｃの内面口縁部文様帯はβ類が残るもののγ類が多くなる。頸部文様帯はⅡ式に比べて下がり頸部の部分のみ描かれるものが多くなる。全体が分かるものは存在しない。体部などの形状は変化しないものと思われるが、直線文を持つ壷ではⅠ式に比べて文様間の間隔が広くなったように思われる。

ｂ段階

太頸壺の頸部がより細くなり、特に太頸壺ＤとＥの区別は困難になり、太頸壺Ｅはなくなる。太頸壺はａ段階に比べると全体的に少なくなり、太頸壺Ａ～Ｃがより少なくなる傾向にある。太頸壺Ｆは少量存在する。

形態的には太頸壺ＤがＳＺ２０ｂ底と上層で口頸部形態３類から４類に変化するのを一つの画期にしている。太頸壺Ａ～Ｃの内面口縁部文様帯はほとんどγ類になる。太頸壺の頸部に櫛Ⅰ種左上がりナナメ刻みがある帯状浮文が浮文を伴わない刻みのみになる。口縁部であるが全体に小ぶりのものが多くなる。

ｃ段階

一色青海遺跡ではこの段階の太頸壺Ａ～Ｃは不明瞭で、太頸壺Ｄのみが見られる。太頸壺は一層少なくなる傾向にある。太頸壺Ｄの口頸部形態は４類である。この段階には凹線文を伴わない太頚受口壷もみられ、口頸部形態は細頸壷Ａ・Ｂの１類に類似する。

ｃ．甕（第８図・第９図）

甕は甕Ａ～Ｉの器形に分かれる。甕Ｄ・Ｈ・Ｉはやや遅れて現れるが、その他の器形は消長があるものの全段階を通じて存在する。

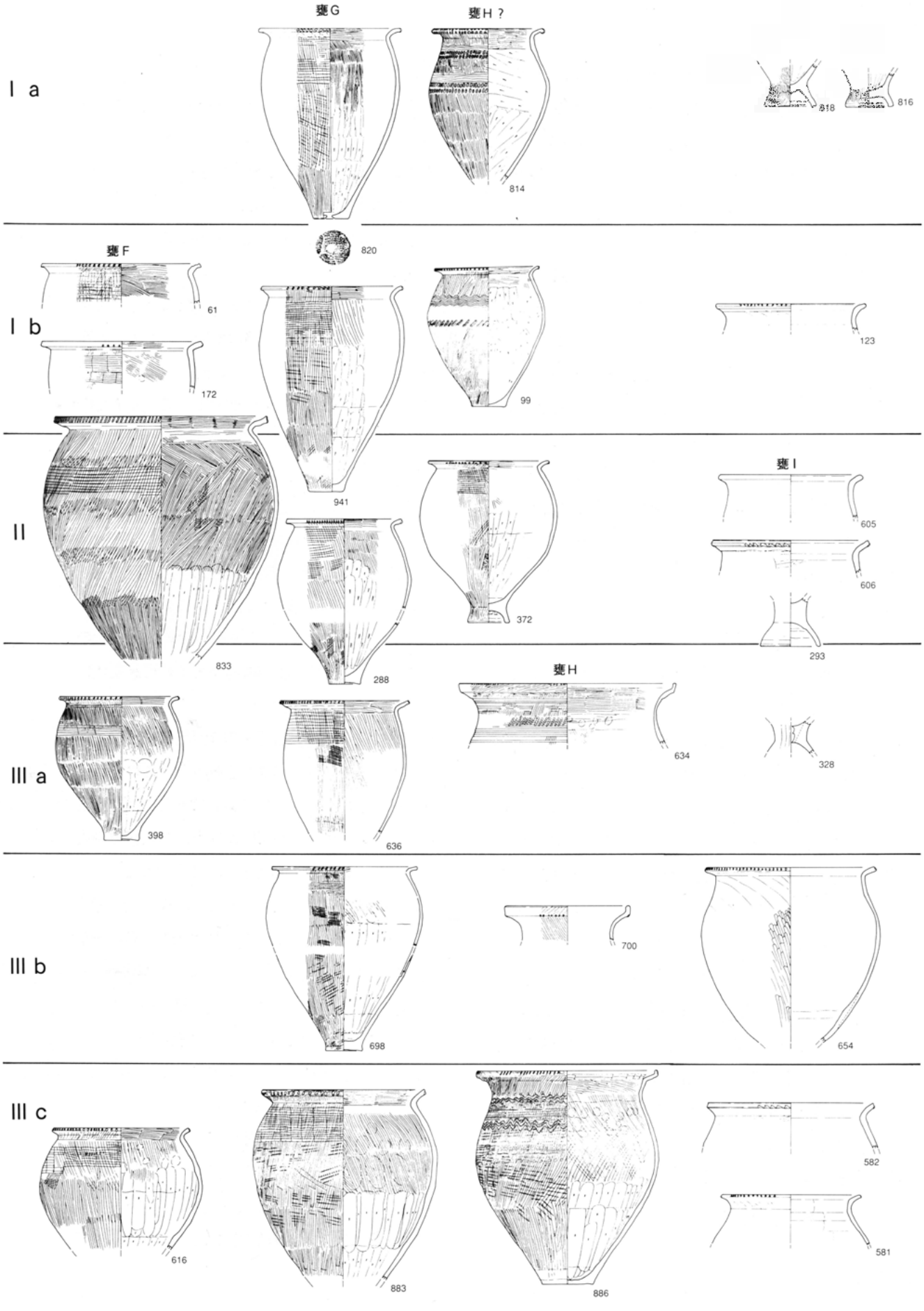
一色青海Ⅰ式

ａ段階

甕Ａ～Ｃ・Ｅ～Ｇ・(Ｈ)が存在する。甕Ａ～Ｃ・Ｅが主体であるが、甕Ｆ・甕Ｇも一定量存在する。口頸部形態では1類・2類のものが主体である。甕底部形態ではａ類・ｂ類・ｄ類が多い。甕Ｃは台付甕になる可能性が高く、ｂ類の脚台が付くもの


甕A
甕B
甕C
甕D
甕E
I a
I b
II
III a
III b
III c
810
811
12
13
813
56
95
96
101
59
63
111
197
113
830
603
604
280
291
290
679
633
451
673
322
327
397
1024
1025
699
301
704
702
570
878
574
857
881
887
849

第8図　甕の変遷1（1：8）


甕G
甕H？
甕F
甕I
甕H
Ⅰa
Ⅰb
Ⅱ
Ⅲa
Ⅲb
Ⅲc
818
816
814
820
61
172
941
99
123
833
288
372
605
606
293
634
328
398
636
700
698
654
616
883
886
582
581

第9図　甕の変遷2（1：8）

が多い。甕Gは平底のものが主体である。甕Hとしているものは口縁部が断面くの字状口縁で体部上半に櫛描直線文・波状文・ナナメ刻みなどを施すもので、内面をケズリ調整しているのが特徴である。Ⅰ式b段階にも1点ある。

b段階

甕A～Iが存在する。a段階から引き続く甕A～C・Eに加えて甕D・Fが多くなる。甕H・Iも少量であるが含まれるようになる。口頸部形態では1類・2類が多いが、4類も一定量存在するようになる。特に甕D～Gでは口頸部形態2類・4類が主体的になり、口頸部形態1類・2類が卓越する甕A～Cとは明らかに異なる傾向が現れる。底部形態では平底のa類が多く、それに加えてb類・d類・e類が一定量存在するのが特徴である。この段階までの甕Fでは内面ケズリ調整を確認できていない。

一色青海Ⅱ式

甕A～Iまで存在するが、甕H・Iは少量である。甕の組成においてⅠ式に主要な甕であった甕A～Cが少なくなり、甕D～Fが主体となる。甕Gも一定量存在する。

口頸部形態では全ての器形において2類・4類が多くなり、体部上半が外に張る形態が定着する。底部形態ではa類が圧倒的に多く、その他の形態がごくわずかになる。底部形態d類の甕G（372）は内面ケズリ調整をするものである。

一色青海Ⅲ式

Ⅲ式では甕A～Iまで存在するが、Ⅱ式に主要な甕Eが少数になり、甕D・F・Gの内面をケズリ調整をする甕が卓越する段階で、同時に甕D・Gのような外面にタタキ調整を残すものが主体となる。甕A～C・Eは少数になるものの確実にⅢ式を通じて存在する。この傾向はⅢ式を通じる傾向と思われる。

a段階

この段階では少数派になった甕A～C・Eにおいて比較的口頸部形態1類・3類がみられる。甕D・F・GはⅡ式の傾向と変わらない。底部形態のa類が多いようであるが、竪穴住居においては比較的底部形態e類がみられる。

方形周溝墓では平底の甕が中心である。

b段階

口頸部形態がほとんど2類か4類になる。底部形態はa段階と同様に遺構の種類により底部形態が異なることが分かる。体部の断面形状が球胴化する傾向にある。甕Iも形態的にみてⅡ式のものに比べて体部上半の張りが強くなる

c段階

ほとんど口頸部形態2類と4類になる。底部形態はa類が卓越する。

d．その他の器形（第10図～第13図）

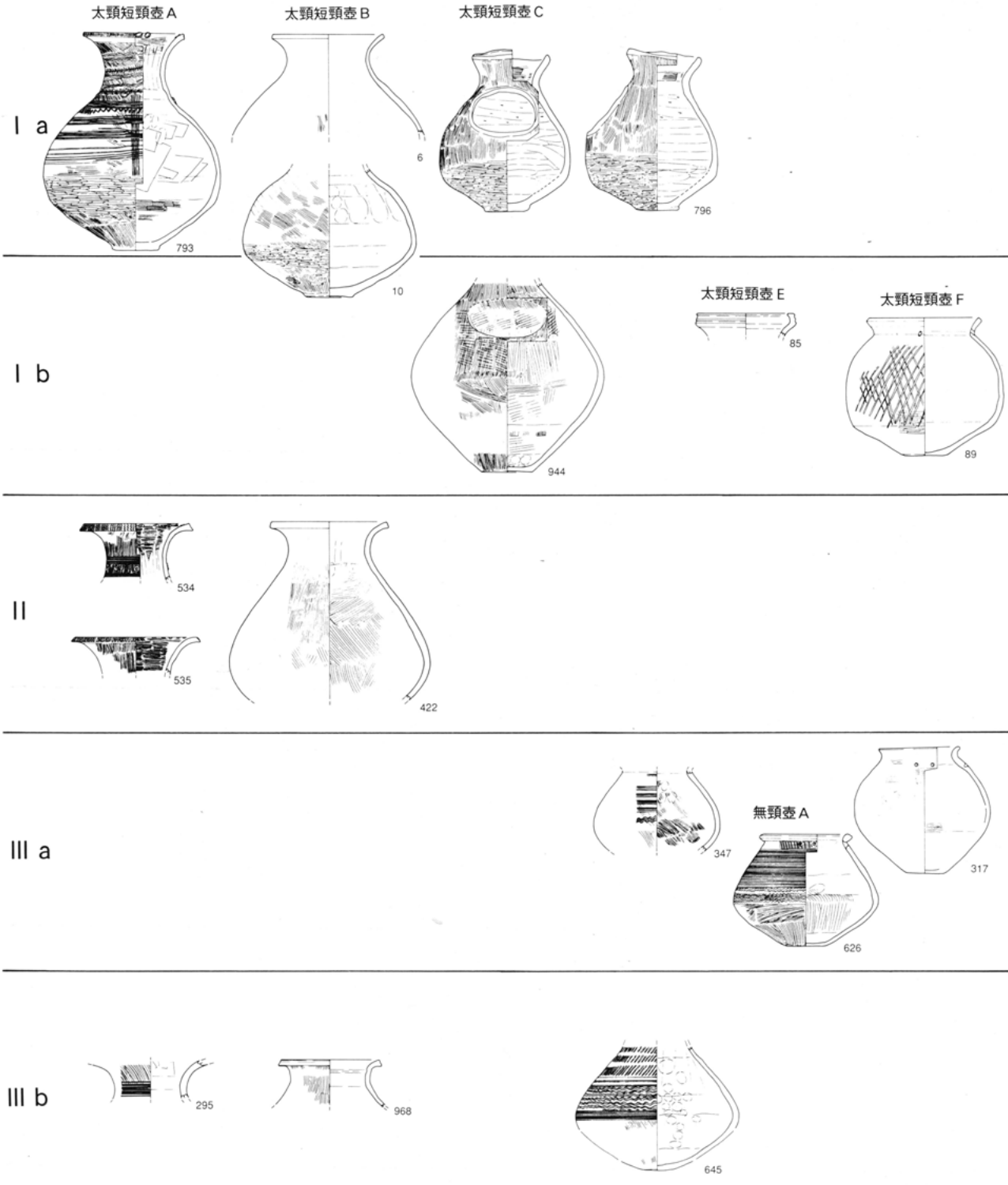
続いて主に細頸壺・太頸壺・甕によって区分された土器群に基づき、それらの各段階に伴うその他の器形について、器形の消長とその形態変化について述べる。

1）太頸短頸壺（第10図・第12図）

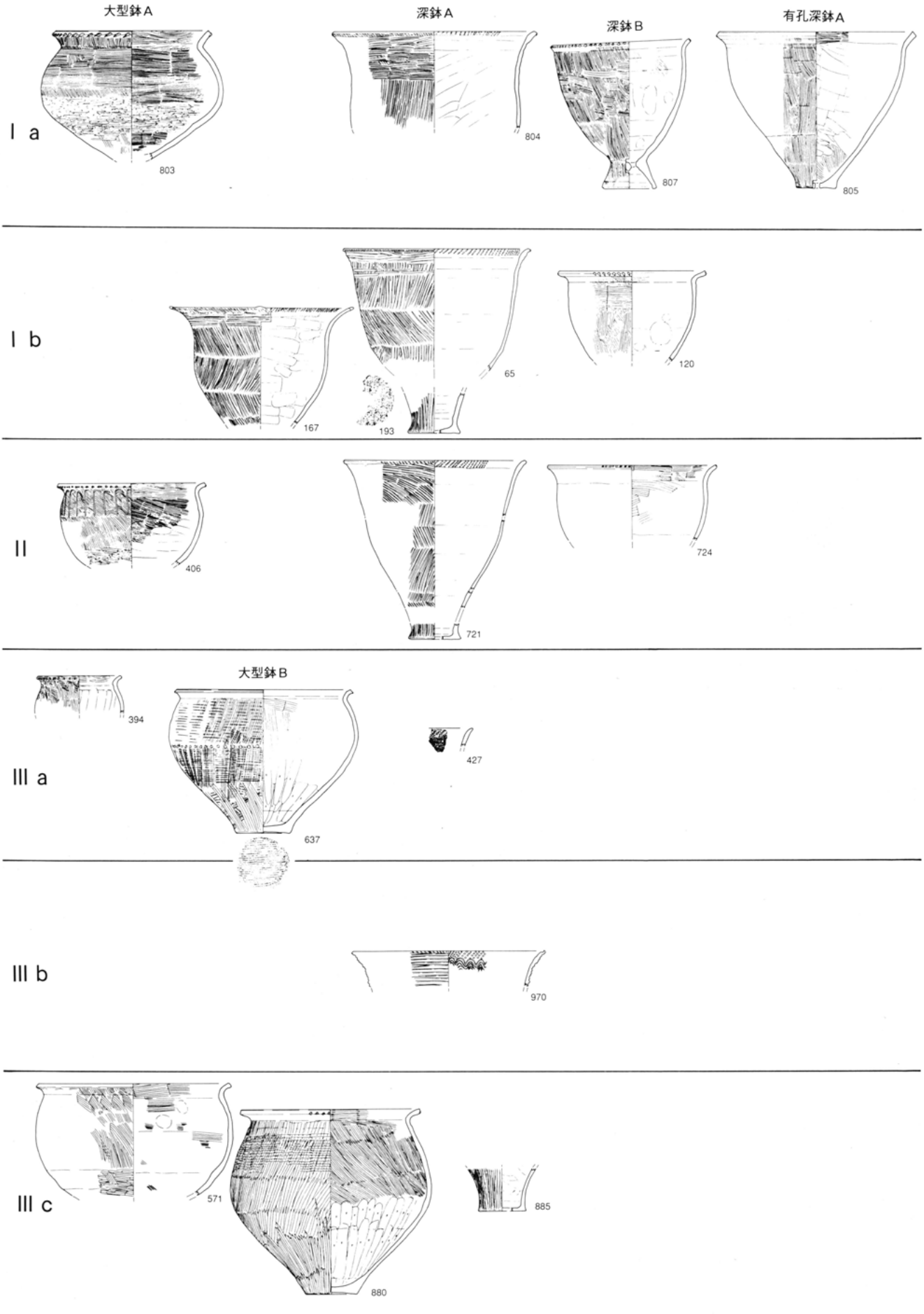
太頸短頸壺はA～Gまで分類され、この内太頸短頸壺Gについては主に三河地域からの搬入品と考えられるので、その影響が伺われる太頸短頸壺Dと同じく後でまとめて述べることにする。

太頸短頸壺A～C・E・Fは、小型の壺と考えられ、一色青海遺跡では太頸短頸壺A～Cは一色青海Ⅱ式までは比較的見られるようであるが、その後少なくなる傾向があり、全時期を通じた形態変化を追うことはできない。太頸短頸壺Eは口縁部の破片を少数確認しているのみで、全体を復元できるものがよくわからない。

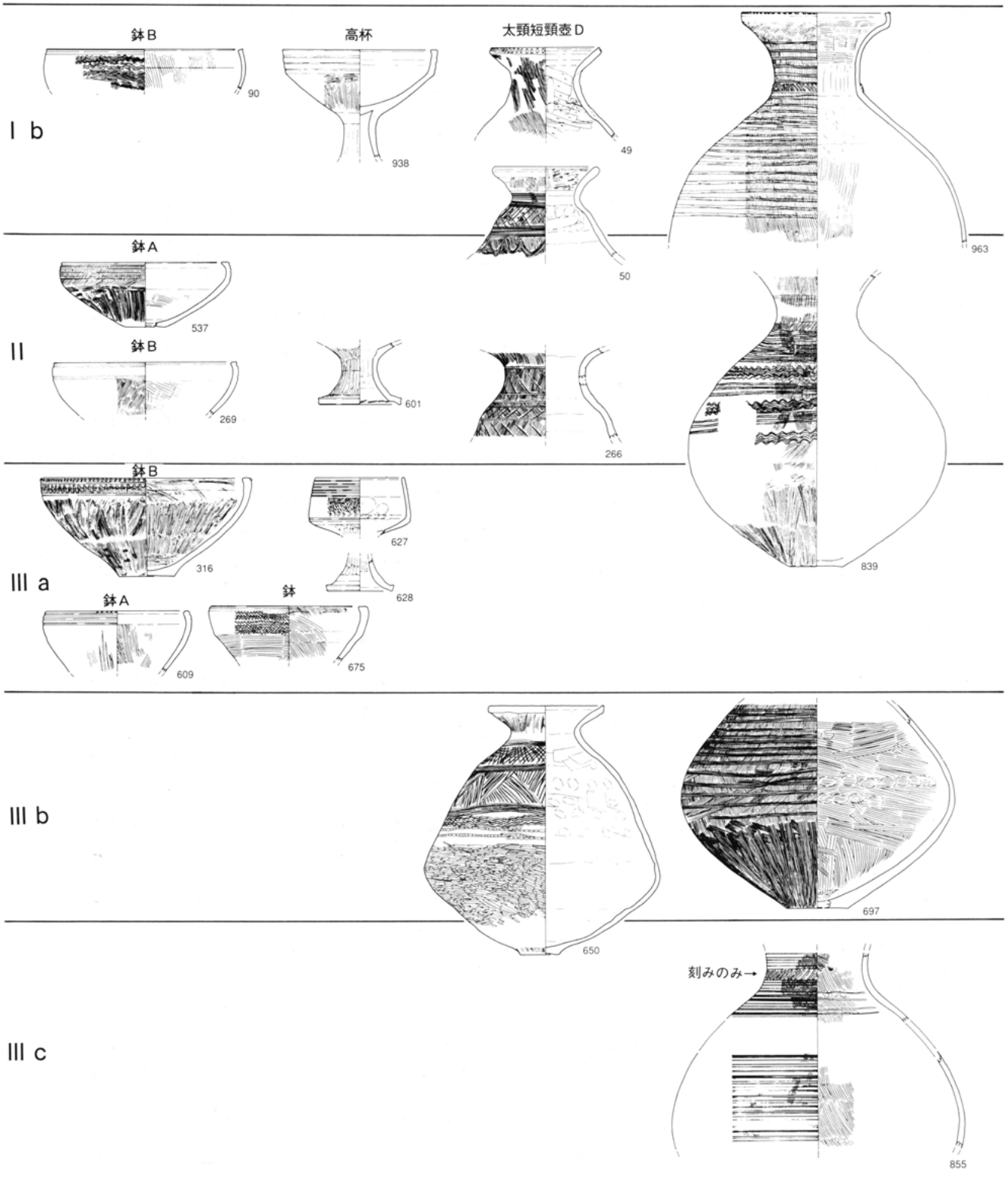
太頸短頸壺Fも出土点数は多くないが、Ⅰ式b段階のものは断面くの字状口縁で体部が断面下膨れ台形状の形態から、Ⅲ式a段階には体部最大径が体部中位程の腰高の形態に変化し、口縁部も短



第10図　太頸短頸壺の変遷（1：8）



第11図　大型鉢・深鉢の変遷（1：8）



第12図　鉢・高杯・太頸短頸壺D等の変遷（1：8）

く外反する形状となる。89は体部上半に斜格子の暗文を描いている。同段階には無頸壺Aが一点出土しているが、体部は最大径が体部下半にある形状のものである。体部上段に櫛描簾状文を描き、最下段に波状文を描くのが特徴である。底部形態はd類である。

2）大型鉢・深鉢（第11図）

大型鉢はAとBがあり、精製の土器である大型鉢Aは一色青海Ⅰ式から存在する。一方大型鉢Bは一色青海Ⅲ式の指標になる土器である。大型鉢Aの外面体部上半には波状文風のハケ調整が施されている。

深鉢はA・Bとあり、深鉢A・BともⅠ式a段階から存在する。

深鉢Aは搬入品と考えられるものである。形態的に明瞭な変化はないが、Ⅰ式のものは口縁部が肥厚し、体部が砲弾形のものが主体で、Ⅱ式以後口縁部の肥厚がなくなりやや細長い形状になる。また底部形態はa類であるが、Ⅰ式では体部下半の底部際が抉れる形態のものが多いが、Ⅱ式以後のものはその抉れがやや緩やかになる傾向がある。今回Ⅲ式と考えられる資料の中には全体を復元できるものはなかったが、口縁部内面に櫛条痕の工具を使った右上がりナナメ刻みに波状文を描いたものがみられる（970）。また167の口縁山形になるものは体部中央が張るものである。

深鉢Bとしたものは形態的には有孔深鉢Aと同様な形態であり、本来同一と思われるものがある。有孔深鉢Aは甕などと異なり、外面に煤付着が見られないのが特徴である。深鉢B・有孔深鉢AはともにⅠ式を代表する器形である。

3）鉢（第12図）

鉢はA～Cがあるが、鉢AがⅠ式a段階から少数ながら存在する。鉢B・Cがやや後出するようであるが、同時期に存在する形態と思われる。Ⅲ式a段階までは確実に存在するが、Ⅲ式b段階以後は存在するのかよく分からなかった。

4）高杯（第12図）

高杯はA～Cに分けられるが、木製容器を模した高杯は確認できなかった。高杯は存在するようであるが、数点確認したに過ぎない。高杯CはⅢ式に現れる器形である。

5）太頸壺G・太頸短頸壺G・H（第13図）

いわゆる三河系の太頸壺であるが、考古学的には搬入品と考えられるものである。Ⅰ式b段階から比較的みられ、Ⅱ式以後顕著にみられるようになる。口縁部では受口の形状になる太頸壺G・太頸短頸壺Gが多くみられるが、体部破片からは広口壷になる太頸短頸壺Hの方が多く認められるように思われる。Ⅲ式b段階には少なくなるように思われる。

一色青海遺跡でみられる三河系の太頸壺では全体を復元できるものが少なく形態変化を追うのが困難であるが、各段階の基準としたのは、次のとおりである。

Ⅰ式：口縁端部に部分圧痕文をもつ太頸短頸壺Hと体部上半が張らないタイプのもの。

Ⅱ式：太頸壺Gの口縁部の受口形態が比較的整っていて頸部が長いもの、太頸短頸壺Hと思われる体部上半が外面上方に張ってくるタイプのもの。

Ⅲ式a段階：太頸壺Gの口縁部の受口形態が不明瞭になり頸部が短くなるもの。

Ⅲ式b段階：体部文様にパッチ状の充填櫛描文の存在と太頸短頸壺Dに分類した650のような文様が沈線によるものに変化し、文様構成が完全に変化したもの。

6）太頸短頸壺D（第12図）

太頸短頸壺Dは点数こそ少ないが、口縁部から体部上半にいたる形態や文様などからこれら三河系の影響を受けた在地系の土器と思われる。体部の文様を描く原体は、先述の太頸壺Gや太頸短頸壺G・Hのササラ櫛状の櫛Ⅲ種ではなく、文様構

Ⅰa

Ⅰb

太頸短頸壺H

239

Ⅱ

太頸短頸壺G・H

太頸短頸壺G

19

271

太頸壺G

402

272

965

599

Ⅲa

667

387

383

386

Ⅲb

988

第13図　太頸壺G・太頸短頸壺G・Hの変遷（1：8）

成も異なっている。

（5）まとめ

a．各段階の傾向とその特徴

一色青海遺跡出土土器は、全て従来の尾張地域における高蔵式に属するもので、主要な器形における組成は今回分けた時期区分に関らず存在するものと思われる。したがって先述した一色青海遺跡の時期区分は一部の土器の有無や細分した器形ごとの組成変化（出土量や出土頻度の変化）をもって認識している。ここではまず前節の各器形の分析を踏まえて、先述した各土器群から時期的に重複する部分を整理し（第2表）、一色青海遺跡出土弥生土器にみられる傾向とその特徴について述べる。

一色青海Ⅰ式

東竪穴住居群・北調査区の一群の一部における器形組成を主に基準にしている。器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頸部形態1類・2類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帯でα類・β類が多いこと、壺底部形態a類～d類がそれぞれ一定量あること、深鉢Bがあること、甕A～Hが多いこと、甕の口頸部形態4類が一定量あるものの1類・2類が多いこと、甕底部形態a類が多いもののb類・d類・e類が比較的多いこと、などがある。

このうちa段階の基準資料はNR06a・NR03下層・SB02出土土器で、SB02はやや新しい傾向をもつ資料と考えられる。この段階の特徴としてはいわゆる貝田町式とされる土器群を構成する細頸壺A・Bや太頸壺A～C、甕A～Cがやや形態変化しながらも主体的に存在する点で、続くb段階と異なるのは甕Dがみられないことである。

b段階はSB15・SB26・SK17をこの段階の基準資料と考える。この段階の特徴としてはⅠ式になってあらわれたいわゆる凹線文系といわれる土器群（細頸壺C・D、太頸壺D・E、甕D・E・F）が増加し主要な器形になる点で、三河系とされる太頸壺G、太頸短頸壺G・H、甕Iも少量であるが搬入される。

一色青海Ⅱ式

西調査区の一群のⅠ式に存在する特徴をもつ部分の器形組成を基準にしている。この段階の資料としてはNR081面・SB66・SB94をもって設定する。NR081面の資料はSB66廃絶後の洪水砂が堆積した後のもので新旧関係にある。

器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頸部形態2類・3類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帯でβ類が多いこと、壺底部形態a類・b類は少なくc類・d類が多いこと、大型鉢Bがあること、深鉢Bがあること、甕A～Gがそれぞれ一定量あること、甕口頸部形態の2類・4類が多いこと、甕底部形態a類が主体的でe類も一定量あること、などがある。

この段階の特徴としては細頸壺など壺の頸部形態で短く外反する2類が主体となることで、短頸化という傾向がみられるようになる。また甕A～C・Eの形態が甕D・F・Gの形態的特徴の影響を受けた口縁部が強く屈曲し、体部上半が外面に張る形態が主体となる。Ⅱ式は細頸壺における特徴的な形態変化を軸に設定されており、どの段階も同様であるが、その他の器形単独で厳密な段階区分を充てるのは困難である。

一色青海Ⅲ式

東方形周溝墓群の出土土器の器形組成をもって基準としている。器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頸部形態3類・4類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帯でγ類が主体であること、壺底部形態a類・b類は少なくc類～e類が多いこと、大型鉢Bが存在すること、甕D・F・Gが多いこと、甕口頸部形態2類・4類が多いこと、甕底部形態a類が多く、d類・e類

が少ないこと、などがある。器形組成はⅢ式を通じてあまり変化しないが、太頸短頸壺はほとんど無くなり、太頸壺では太頸壺Ａ～Ｃが減少し、太頸壺Ｄ・Ｅが主要な器形となる。甕の底部形態ではａ類が多いものの、高脚台付甕（甕Ｄや甕Ｆ・Ｇにみられる）の存在はⅢ式の重要な要素である。脚台付き壺の存在も同様な特徴である。

Ⅲ式の段階区分は細頸壺Ｃ・Ｄ、太頸壺Ｄの形態変化によっており、Ⅱ式においてあらわれた壺の短頸化傾向が一層明瞭にあらわれる。

ａ段階はＳＢ73・ＳＢ82・ＳＺ13・ＳＺ18ＳＺ20ｂ底面を基準にしている。Ⅲ式で基準としている竪穴住居と方形周溝墓の調査区は離れており、また壺類や甕類の器形組成が異なっているため、完全な同時性を表現することが困難であった。

ｂ段階はＳＢ68・ＳＺ17・ＳＺ20ｂ上層出土資料を基準にしている。ａ段階とｂ段階はＳＺ20ｂの出土層位による太頸壺Ｄの型式変化と細頸壺Ｄの文様構成をもって設定しており、その他の器形についてはほとんど変化がない。

ｃ段階はＳＺ05・ＳＺ11・ＳＫ03・ＳＫ11出土資料をもって基準にしている。ＳＺ05とＳＫ11は重複関係にあり、ＳＺ05の溝埋没後ＳＫ11が掘削されているが、出土した細頸壺Ｃは土坑に、細頸壺Ｄは方形周溝墓に伴っており、遺構の性格を反映している可能性が高い。ｃ段階とした資料は少なく、全ての器形を提示できていないものと思われる。

ｂ.尾張地域における弥生土器区分との関係

尾張地域の高蔵期における土器編年は阿弥陀時遺跡（石黒1990）・大渕遺跡（石黒1991）・朝日遺跡（石黒1994）などの遺跡により主に進められてきており、各遺跡ごとに、出土した資料による微妙な時期差などが存在するものと思われるが、ほぼ一貫した原則に基づいて区分されてきたものと思われる。これら3遺跡は比較的近接した地域にあり、遺跡の地理的背景として現在考えられる水系についても同じ水系に分類できるものである。しかし今回分析した一色青海遺跡はわずか10㎞であるが西に位置しており、地理的背景も同一の水系と考えることは出来ない。ここでは一色青海遺跡との関係において阿弥陀寺遺跡・大渕遺跡・朝日遺跡などと共通する部分と異なる部分があると思われるのでその点についてまとめる。

阿弥陀寺遺跡において、凹線文の出現をもってⅢ期とされた土器群はⅢ1期～Ⅲ3期に細分され、Ⅲ1期を出現期、Ⅲ2期を展開期、Ⅲ3期を盛行期として位置づけられている。一色青海遺跡においてもその傾向は伺われ、Ⅰ式～Ⅱ式における細頸壺・太頸壺・甕などにみられる器形組成や各器形の形態変化などからその変化の特徴を位置づけることが出来る。またⅢ式における主要な器形の組成において変化があまりない点も阿弥陀寺遺跡においてⅢ3期とされた内容に対応しているように思われるし、Ⅲ式にあらわれるとした大型鉢Ｂや高脚台付甕や脚台付き壺の普及といった点でも同様な傾向にあるものと思われる。

このような器形組成における共通点があるものの、一色青海遺跡の遺構資料の偏りによる影響もあってか台付甕の比率が低い点、平底の甕がⅢ式とした段階まで主体である点、細頸壺Ａ・ＢがⅢ式まで残る点、高杯が少ない点で阿弥陀寺遺跡などと様相が異なる。

この中で現状として資料化された甕の様相差は時期区分などにおいて、比較的これまで重要視されてきた要素である。大渕遺跡などではⅡａ期とされた一群に低脚の台付甕が比較的共伴する点が一つの段階指標として考えられているが、一色青海遺跡で低脚台付甕が多くみられるのはⅠ式にしたため、大渕遺跡の段階よりは古い要素として考えている。それと同時に阿弥陀寺遺跡や大渕遺跡などでは台付甕の比率が高まるようであるが、同

段階と考えている一色青海Ⅱ式ではほとんど平底甕の段階として考えられる。この傾向は先述したⅢ式においても同様である。

また阿弥陀寺遺跡におけるⅢ2期・Ⅲ3期の区分と一色青海遺跡におけるⅡ式・Ⅲ式の区分の関係は微妙である。阿弥陀寺遺跡Ⅲ2期・大渕遺跡2a期・朝日遺跡Ⅵ2期とされた部分はやや幅があり、内湾口縁の細頸壺Dの形態などからは一色青海遺跡Ⅱ式からⅢ式a段階を含むものと思われ、大渕遺跡2b期は一色青海Ⅲ式a・b段階に対応するものと思われる。また同様に阿弥陀寺遺跡Ⅲ3期・朝日遺跡Ⅵ3期は一色青海遺跡Ⅲ式c段階に対応しているものと考えられる。

このような微妙な違いはまず時期区分を行う際の資料の偏りがある程度存在することと、同時に遺跡の形成された背景の相違によるもの（いわゆる地域性か）が反映されているものと考えられる。また調査・分析を担当した人間による微妙な認識レベルの差（一色青海分析者の方がレベルが低いかもしれないが）も多少反映しているものと考えられる。こうした認識レベルの違いを含めて今回あらわれてきた相違などは今後の遺跡研究の上で重要な研究課題として残るものである。今後の調査・研究の進展を待ちたい。

参考文献

石黒立人1990「弥生時代の遺構と遺物」『阿弥陀寺遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
石黒立人1991「弥生時代土器」・「弥生中期にみる複数の〈系〉その2」『大渕遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第18集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
石黒立人1994「時期区分をめぐって」『朝日遺跡Ⅴ』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第34集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
1	SB02	95F	SB03床土器	細頸壺C	1	d	10	10	5	7	10	2.9	26.1	9.0	5.9	21.4	6.0			体部上半沈線波状文
2	SB02	95F	SB03	細頸壺C			2							10.0						
3	SB02	95F	SB03土器9	細頸壺B	1		10	1						8.6	5.3					
4	SB02	95F	SB03土器3	細頸壺A	1		10	1						9.5	5.4					体部上半横Ⅱ種2+2+2+2波状文
5	SB02	95F	SB03土器1	太頸壺A	2α		4	10	2					16.3	9.2					体部上半横Ⅰ種6直線文
6	SB02	95F	SB03土器1	太頸短頸壺B	1		4	4	2					14.6	11.0					体部上半横Ⅱ種1+1+1直線文
7	SB02	95F	SB03土器10	細頸壺AかB		b			4	3		3.9				22.4				体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文
8	SB02	95F	SB03土器4	細頸壺D		d			4	6	10	1.6				18.4	5.2			
9	SB02	95F	SB03床,土器3	細頸壺AかB		a			10	10	10	4.5				22.9	5.4			体部上半横Ⅰ種5直線文後山形文
10	SB02	95F	SB03土器9	太頸短頸壺B		b			5	7	10	4.1				23.2	6.2			
11	SB02	95F	SB03SE	太頸壺C							2						8.2			
12	SB02	95F	SB03	甕C	2	e	9		8	5		6.1		20.4	18.4	23.0				
13	SB02	95F	SB03土器12	甕E	2		2		2					17.6	16.4	20.1				
14	SB02	95F	SB03SE	甕E	2		3		1					15.8	14.1	17.2				
15	SB02	95F	SB03土器6	甕A	1		10		9					22.2	19.7	21.8				
16	SB02	95F	SB03土器4	甕	3		2		1					43.0	39.4					
17	SB02	95F	SB03土器2	甕A		a				5	10						4.8			
18	SB04	95F	SB02	甕			1							24.2						
19	SB08	96D	SB02No.454	太頸短頸壺G	2		8	10						18.3	9.8					頸部横Ⅲ種直線文付加沈線磨消技法
20	SB08	96D	SB02No.115	太頸壺C	γ		2							23.6						口縁端面横Ⅰ種7波状文
21	SB08	96D	SB02No.111	甕		e					10							7.8	2.7	
22	SB09	96D	SB01No.64	太頸壺D	2	d	3	5	1	1	1			23.2	12.8		14.0			横Ⅱ種2+2+2直線文後波状文
23	SB09	96D	SB01No.229	細頸壺F			2							15.5						
24	SB09	96D	SB01	甕E	2		1		1					18.4	8.5					
25	SB09	96D	SB01No.65	深鉢A		a					3						8.8			
26	SB09	96D	SB01No.61	甕D	2		5		5					20.4	18.0	21.4				体部上半ヨコタタキ後細ナナメハケ
27	SB09	96D	SB01No.468	甕		a				1	10						7.3			底部転用炉台土器,底部ふき抜け痕
28	SB07	96D	SB03No.220	太頸壺B			1													
29	SB07	96D	SB03No.220	甕A	1		2		1					18.0	16.0	16.3				
30	SB07	96D	SB03No.220	甕E	4	a	1		1	1	1	8.8		25.2	22.4		6.2			
31	SB07	96D	SB03No.207	深鉢A		a					1						9.6			
32	SB13	93Aa	SD06	太頸壺G			6	4	1											
33	SB13	93Aa	SD06	太頸短頸壺			4	3	1											
34	SB13	93Aa	SD06	高坏				10												脚部中実
35	SB13	93Aa	SD06	甕D			3		2	1										
36	SB26	93Aa	SB102	細頸壺D	1		2							6.8						
37	SB26	93Aa	SB102	細頸壺D	1		3							6.5						口縁部横Ⅰ種7簾状文
38	SB26	93Aa	SB102	細頸壺C	2		2							8.2						
39	SB26	93Aa	SB102土坑	細頸壺C	2		10	7						8.8	5.5					
40	SB26	93Aa	SB102	細頸壺AかB				2							6.2					頸部横Ⅰ種5直線文
41	SB26	93Aa	SB102No.10	細頸壺D				1	10	9	10	1.5			4.0	18.0	5.4			体部上半横Ⅱ種3+3直線文後波状文
42	SB26	93Aa	SB102No.15	細頸壺D		d		1	7	3	5	2.1			5.0	19.6	6.5			体部上半横Ⅱ種2+2+2直線文後波状文
43	SB26	93Aa	SB102No.13	細頸壺AかB	2	b		8	5	9	10	3.8				21.5	5.7			体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文
44	SB26	93Aa	SB102	細頸壺AかB		b			10	10	10	5.9				24.9	6.4			体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文
45	SB26	93Aa	SB102No.2	細頸壺AかB		a			10	10	10	0.9				14.0	4.8			体部上半横Ⅰ種4垂下直線文と波状文
46	SB26	93Aa	SB102No.7	細頸壺C		d			1	7	10	5.3				24.5	5.8			
47	SB26	93Aa	SB102No.9	太頸壺A	1		10	10						18.4	10.7					
48	SB26	93Aa	SB102No.6	太頸壺	2			9							11.8					頸部横Ⅰ種11直線文
49	SB26	93Aa	SB102No.8	太頸短頸壺D	1		7	10	1					15.0	9.4					
50	SB26	93Aa	SB102No.5	太頸短頸壺D	3		7	10	1					14.0	9.4					体部上半沈線斜格子文後横Ⅰ種9直線文
51	SB26	93Aa	SB102	太頸壺D			1							20.4						
52	SB26	93Aa	SB102	細頸壺C		d				2	6						5.8			
53	SB26	93Aa	SB102	細頸壺		d				1	3						6.0			
54	SB26	93Aa	SB102	甕	2		1		1					20.0	18.4					
55	SB26	93Aa	SB102	甕	3		1		1					27.9						
56	SB26	93Aa	SB102	甕A	1		6		6	4		5.5		21.2	19.8	21.6				
57	SB26	93Aa	SB102No.4	甕E	1		10		10	7		5.7		21.5	19.3	21.9				甕Cに類似
58	SB26	93Aa	SB102No.11(4)	甕E	2		10		9	6		2.1		14.2	12.7	16.6				
59	SB26	93Aa	SB102No.1	甕E	4		10		10	9		2.9		16.2	14.7	18.6				
60	SB26	93Aa	SB102	甕D	1		3		2					21.2	18.0	20.7				体部細タテハケ後三角ヨコタタキ
61	SB26	93Aa	SB102	甕F	2		2		1					23.8	21.8					
62	SB26	93Aa	SB102	甕D	4		3		3	1				21.6	19.2	23.8				体部三角ヨコタタキ後細タテハケ
63	SB26	93Aa	SB102	甕AかB		a				1	5						5.0			
64	SB26	93Aa	SB102土坑	甕		a				1	2						7.2			
65	SB26	93Aa	SB102No.7	深鉢A			7		10	4		7.2		28.0						
66	SB26	93Aa	SB102	甕		a				1	3						6.4			
67	SB26	93Aa	SB102	甕		e					2							5.2		
68	SB26	93Aa	SB102No.12	甕		d					10							6.0	2.0	
69	SB26	93Aa	SB102No.7	甕		e				1	7							6.0		
70	SB26	93Aa	SB102No.12	甕		b				5	10					28.5		8.2	3.0	
71	SB16	93Aa	SB103	甕E	4		1		1					20.2	18.3					
72	SB16	93Aa	SB103	甕		e					4							6.5		
73	SB12	93Aa	SB106	太頸壺C							6						8.0			
74	SB15	93Aa	SB104No.5	細頸壺C	1	d	7	3		2	3	4.6		9.0	5.3		6.0			
75	SB15	93Aa	SB104内SK02	細頸壺A			2							10.0						口縁部貝殻タテ刻み
76	SB15	93Aa	SB104	細頸壺C				3							5.2					
77	SB15	93Aa	SB104	細頸壺C		d			8	9	10	3.0				21.0	6.0			
78	SB15	93Aa	SB104	細頸壺C		d				4	4						6.2			
79	SB15	93Aa	SB104No.4	細頸壺C		d				3	5						6.8			
80	SB15	93Aa	SB104No.3	細頸壺C		d				1	4						7.0			
81	SB15	93Aa	SB104No.5	細頸壺AかB		b			2	2	2					16.3	6.4			体部上半横Ⅰ種4垂下波状文後磨消線文
82	SB15	93Aa	SB104No.2	太頸壺A	2		9	10						17.6	10.2					頸部横Ⅰ種9直線文
83	SB15	93Aa	SB104内SK03	太頸壺A	2		4	1						20.4						
84	SB15	93Aa	SB104内SK02	太頸壺B	γ		2							22.8						口縁内面横Ⅰ種7扇線文
85	SB15	93Aa	SB104	太頸短頸壺E			4							11.8						
86	SB15	93Aa	SB104内SK01	太頸壺D			1							17.8						
87	SB15	93Aa	SB104	太頸壺D			1							20.0						
88	SB15	93Aa	SB104No.7	太頸壺					4	2						31.4				体部三角ヨコタタキ後右上がりナナメハケ
89	SB15	93Aa	SB104	太頸短頸壺F			4		8	4	5	3.8		14.5	13.5	21.2	5.5			体部下半ヨコミガキ後体部上半斜格子ミガキ
90	SB15	93Aa	SB104内SK02	鉢B			2		1					27.3		28.1				
91	SB15	93Aa	SB104内SK03	甕B	1		4		4					20.0	18.2					
92	SB15	93Aa	SB104No.4	甕A	3		1		1					22.5	20.0					
93	SB15	93Aa	SB104内SK02	甕			2		1					20.8	18.0					
94	SB15	93Aa	SB104No.1	甕A	1		8		10	5		3.7		21.2	18.9	20.0				内面のタテナデはミガキに近い
95	SB15	93Aa	SB104No.1	甕B	2		7		10	7		4.3		18.4	15.7	19.4				
96	SB15	93Aa	SB104No.3	甕C	1	d	10		9	3	8	1.5	18.6	14.3	13.2	15.1		6.2	1.5	
97	SB15	93Aa	SB104	甕E	2		10		5	1				17.5	15.1	19.0				
98	SB15	93Aa	SB104No.6	甕E	1		3		3					21.1	18.4	19.9				
99	SB15	93Aa	SB104内SK02No.6	甕H？	4	a	7		9	6	8	2.5	21.1	15.8	13.7	18.0	5.2			体部上半横Ⅰ種8波状文・直線文
100	SB15	93Aa	SB104	甕E	2		1		1					25.6	22.6					
101	SB15	93Aa	SB104No.2	甕D	4		8		7	2		5.3		19.0	16.8	20.4				体部三角タタキ後細タテハケ
102	SB15	93Aa	SB104内SK02	甕F	3		2		2					17.6	15.4	17.3				
103	SB15	93Aa	SB104	甕			1							18.0						
104	SB15	93Aa	SB104	甕	1		1		1					22.2	20.0					

第3表　弥生土器観察表1

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口類分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
105	SB15	93Aa	SB104内SK03	甕			1							24.9						
106	SB15	93Aa	SB104No.7	甕D	2		1		1					29.2	26.8					
107	SB15	93Aa	SB104内SK03	甕		a					3						7.8			
108	SB15	93Aa	SB104内SK02	太頸壺		d				1	5						8.4			
109	SB15	93Aa	SB104	甕		a				1	2						9.0			
110	SB15	93Aa	SB104No.7	甕		b					9							6.8	2.3	
111	SB15	93Aa	SB104内SK02	甕		b					9							7.2	2.8	
112	SB15	93Aa	SB104No.1	甕		b					10							7.1	2.3	
113	SB15	93Aa	SB104No.6	甕		e				1	10							7.1	3.0	
114	SB15	93Aa	SB104内SK03	甕		e					2							7.4	2.9	
115	SB11	93Aa	SB105	細頸壺C			1							10.0						
116	SB11	93Aa	SB105	細頸壺AかB	2			3	1						6.0					
117	SB11	93Aa	SB105	細頸壺AかB		a					6						5.6			
118	SB11	93Aa	SB105B	細頸壺C		d			3	3	1					25.6	7.2			
119	SB11	93Aa	SB105	太頸短頸壺F			3		2					13.3	12.0					頸部に径0.5cmの穿孔2個
120	SB11	93Aa	SB105	甕E	1		1		2	2		3.0		22.0	19.2	19.4				
121	SB11	93Aa	SB105	甕E	1		2		1					22.6	20.2					
122	SB11	93Aa	SB105B	甕F	1		1		1					22.8	18.4					体部上半斜格子ﾐｶﾞｷ
123	SB11	93Aa	SB105B	甕I	1		2		1					22.4	19.6					
124	SB11	93Aa	SB105B	甕		a					10						6.4			
125	SB11	93Aa	SB105B	甕		d					5							6.1	1.8	
126	SB11	93Aa	SB105	甕		e					5							7.6		
127	SB14	93Aa	SB105A	鉢A			1			1				19.0		20.7				
128	SB14	93Aa	SB105	甕			1							22.0						
129	SB14	93Aa	SB105	甕B	4		4		1					22.4	19.2					
130	SB14	93Aa	SB105	甕		a					2						5.1			
131	SB14	93Aa	SB105A	甕		d					6							7.6	2.4	
132	SB14	93Aa	SB105	甕							4									
133	SB14	93Aa	SB105A	甕B	1		5		4	4		8.9		23.0	20.2	19.0				
134	SB14	93Aa	SB105	甕C	1		4		2	1		38.1		41.4	37.8	42.0				
135	SB17	95Aa	SB02	細頸壺C	1		1	1						9.8	6.2					
136	SB17	95Aa	SB02	細頸壺A			2	1						7.0						口縁部横Ⅰ種9直線文
137	SB17	95Aa	SB02	細頸壺		c					3						6.5			
138	SB17	95Aa	SB02	甕H			2		1					29.2	23.5					
139	SB17	95Aa	SB02	甕B	4		2		1	1		5.1		18.6	16.8	21.0				
140	SB23	95Aa	SB01	鉢A			1			1		2.3		20.6		22.4				
141	SB23	95Aa	SB01	細頸壺		a					10						5.6			
142	SB23	95Aa	SB01	甕		e					3							7.1		
143	SB20	95Aa	SB05	甕I	1		1		1					22.4						
144	SB25	95Aa	SB08	細頸壺		d					3						6.2			
145	SB28	95Ba	SB12	細頸壺C	2		4	1						8.8						
146	SB28	95Ba	SB12	細頸壺D					2	1		0.3				11.0				
147	SB28	95Ba	SB12	鉢C			1			1				19.4		20.1				
148	SB28	95Ba	SB12	細頸壺		d					10						4.4			
149	SB28	95Ba	SB12	細頸壺		c					3						7.0			
150	SB28	95Ba	SB12	太頸壺		d					3						8.0			
151	SB28	95Ba	SB12	太頸壺		c					1						9.1			
152	SB28	95Ba	SB12	甕A	3		2		1					10.7	9.4					
153	SB28	95Ba	SB12 119層	甕C	2		5		3	1				24.1	22.3	25.8				
154	SB28	95Ba	SB12	甕E	1		2		1					31.9	28.6					
155	SB37	95Ba	SB16	細頸壺B	2		10	8						9.4	4.6					頸部横Ⅰ種5直線文
156	SB37	95Ba	SB16,SB10E	細頸壺D					7											体部上半横Ⅰ種5直線文
157	SB37	95Ba	SB16	細頸壺AかB		a			1	1						15.6				
158	SB37	95Ba	SB16	甕D	3		1		1					19.5	16.0	17.7				
159	SB38	95Ba	SB10E	細頸壺A	2		1	5						10.2	5.2					
160	SB38	95Ba	SB10S	太頸壺A	β		2							20.0						
161	SB38	95Ba	SB10土器3	太頸壺B	β		2	1						24.6						
162	SB38	95Ba	SB10	太頸壺E	1		2	1						17.4	10.4					口縁部寧面内面ﾖｺﾅﾃﾞ
163	SB38	95Ba	SB10E	太頸短頸壺G			1	3						17.4	12.8					
164	SB38	95Ba	SB10WE	太頸短頸壺F					3	2						13.9				
165	SB38	95Ba	SB10E	太頸壺		c					10						7.3			
166	SB38	95Ba	SB10N	太頸壺		d					3						8.8			
167	SB38	95Ba	SB10土器4,5,6	深鉢A			6			6		4.7		26.4		20.2				
168	SB38	95Ba	SB10土器1	把手付壺						1	10						4.0			
169	SB38	95Ba	SB10N	甕E	1		2		1					16.0	13.2					
170	SB38	95Ba	SB10	甕E	1		1		1					18.7	16.1					
171	SB38	95Ba	SB10土器2	甕E	2		2		2	1		6.6		21.0	18.5	23.5				
172	SB38	95Ba	SB10E	甕F	1		1		1					24.0	21.5	22.3				
173	SB38	95Ba	SB10N	甕C	1		3		2					26.8	25.0	27.0				
174	SB38	95Ba	SB10	深鉢A		a					10						7.8			
175	SB38	95Ba	SB10N	深鉢A		a					8						8.4			
176	SB34	95Ba	SB06NW	細頸壺D	1		3	1						5.8						口縁部横Ⅰ種6羽状刻み
177	SB34	95Ba	SB06SW	細頸壺AかB	2			10							4.4					頸部横Ⅰ種9直線文
178	SB34	95Ba	SB06	細頸壺C	2		3	1						9.0	4.6					
179	SB34	95Ba	SB06SE	細頸壺C	1		2	1						8.0	5.7					
180	SB34	95Ba	SB06	細頸壺C	2		1	1						9.8						
181	SB34	95Ba	SB06SW	細頸壺C	2		1							8.8						
182	SB34	95Ba	SB06	細頸壺C	2		10	8						9.0	5.5					頸部ﾀﾃﾅﾃﾞ、面取り気味
183	SB34	95Ba	SB06SW	細頸壺AかB				2	2						6.0					体部上半横Ⅰ種直線文
184	SB34	95Ba	SB06SE	太頸壺D			1							22.5						口縁部横Ⅰ種羽状刻み後凹線文
185	SB34	95Ba	SB06土器1	細頸壺C					2	3						21.8				
186	SB34	95Ba	SB06NE	細頸壺		d				1	3						7.0			
187	SB34	95Ba	SB06SW	甕E			2		1					22.1	19.8					
188	SB34	95Ba	SB06SE	甕B	2		1		1					17.2	16.6					
189	SB34	95Ba	SB06SW	甕E	2		1		1					16.0	13.6					
190	SB34	95Ba	SB06NE	甕B	1		1		1					19.2	17.0					
191	SB34	95Ba	SB06SW	甕D	2		2		1					20.4	18.2					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
192	SB34	95Ba	SB06SW	甕		a				1	2						5.2			
193	SB34	95Ba	SB06土器1,SB16NE	深鉢A		a				1	6						8.0			
194	SB34	95Ba	SB06土器A	甕		a					3						6.8			
195	SB34	95Ba	SB06SW	甕		a					2						7.6			
196	SB34	95Ba	SB06	甕		d					10							6.1	1.7	
197	SB34	95Ba	SB06NE	甕		d					5							7.0	1.8	
198	SB34	95Ba	SB06	甕		d					2							7.2		
199	SB34	95Ba	SB06SW	甕		e					2							6.2		
200	SB35	95Ba	SB05南側	太頸壺D			1							26.4						
201	SB35	95Ba	SB05南ﾄﾚﾝﾁ	細頸壺		d					2						6.0			
202	SB35	95Ba	SB05	細頸壺		d				1	5						5.4			
203	SB35	95Ba	SB05	甕E	4		2		1					15.2	13.2					
204	SB35	95Ba	SB05南側	甕F	2		2		1					19.6	18.4					
205	SB35	95Ba	SB05内SK	甕A	2		2		1					22.0	19.8					

第4表　弥生土器観察表2

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
206	SB35	95Ba	SB05	甕		d					3							6.0		
207	SB35	95Ba	SB05	深鉢A			1			1				29.6						
208	SB44	95Ba	SB07	細頸壺C	2		1	1						10.2						
209	SB45	95Ba	SB08	甕		a					2						4.8			
210	SB47	95Ba	SB04	太頸壺B	β		1													口縁部内面横Ⅰ種扇線文・ﾅﾅﾒ刻み
211	SB47	95Ba	SB04	細頸壺		c					9						5.5			
212	SB43	95Ba	SB09	太頸壺			3	1						19.4						
213	SB43	95Ba	SB09S	太頸短頸壺B			2	1						16.8	15.0					
214	SB41	95Ba	SB01	細頸壺C	2		2	1						8.0						
215	SB41	95Ba	SB01	細頸壺C	2		2	2						9.2						
216	SB41	95Ba	SB01	細頸壺C	2		3	3						9.8						
217	SB41	95Ba	SB01	太頸短頸壺D	2		4	6	1					16.3	9.4					体部上半横Ⅰ種6直線文と波状文
218	SB41	95Ba	SB01	細頸壺E			2							16.0						
219	SB41	95Ba	SB01	太頸壺E			3	1						18.0						
220	SB41	95Ba	SB01	太頸短頸壺B			2		1					17.6	18.0					
221	SB41	95Ba	SB01掘り	細頸壺AかB		c					10					6.8				
222	SB41	95Ba	SB01掘り	細頸壺		d					4					5.6				
223	SB41	95Ba	SB01掘り	甕H	1		1		1					14.6	12.6					
224	SB41	95Ba	SB01掘り	甕D	2		2		2	1				19.4	16.6	21.9				体部下半三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
225	SB41	95Ba	SB01掘り	甕F	2		1		1					16.0	13.6					
226	SB41	95Ba	SB01	甕C	1		1		2			6.1		23.2	20.1	22.8				
227	SB41	95Ba	SB01掘り	甕C	2		2		1					22.8	21.2					
228	SB41	95Ba	SB01	甕A	3		2		1					26.6	23.8					
229	SB41	95Ba	SB01	甕			2		1					31.2	28.8					
230	SB41	95Ba	SB01	甕		d	1							32.4						
231	SB41	95Ba	SB01	甕H							6							6.5	1.9	
232	SB41	95Ba	SB01掘り	甕		d					4							7.1	2.1	
233	SB41	95Ba	SB01掘り	甕		b					10							8.0	2.5	
234	SB41	95Ba	SB01掘り	甕		a					7						6.2			底部焼成後穿孔
235	SB41	95Ba	SB01掘り	甕		a					3						7.8			底部細ﾊｹ
236	SB41	95Ba	SB01掘り	甕		a					2						7.0			底部細ﾊｹ
237	SB46	95Ba	SB03上層	細頸壺B	2		1	1						7.8						口縁部横Ⅰ種6直線文
238	SB46	95Ba	SB03土器8	太頸壺	2			3							8.8					頸部横Ⅰ種9波状文、同11直線文
239	SB46	95Ba	SB03土器10	太頸短頸壺H			2	1						17.2	11.6					口縁部横Ⅲ種ﾊﾈ上げ文・直線文
240	SB46	95Ba	SB03土器4	太頸壺C	β		2							20.2						
241	SB46	95Ba	SB03土器4	甕E	2		5		3					16.4	15.8	18.8				
242	SB46	95Ba	SB03土器6	甕E	2		3		1					17.6	15.0					
243	SB46	95Ba	SB03NE	甕D			3		1					19.4	17.0					
244	SB46	95Ba	SB03土器6	甕D	4		2		1					24.5	20.8					三角ﾖｺﾀﾀｷ後細左上がりﾅﾅﾒﾊｹ
245	SB46	95Ba	SB03土器3	甕H			1							38.6						
246	SB46	95Ba	SB03土器4	甕F	2		1		2					25.7	23.2	28.0				
247	SB46	95Ba	SB03土器2	甕B			1		1					31.5	28.0					
248	SB46	95Ba	SB03土器6	深鉢A		a				1	10						5.0			
249	SB46	95Ba	SB03	甕		a					3						8.0			
250	SB46	95Ba	SB03	甕		d					2							7.0		
251	SB46	95Ba	SB03土器1	甕		e					2							7.8		
252	SB46	95Ba	SB03土器9	甕		e					3							9.5		
253	SB33	95Ba	SB11東	太頸短頸壺H					1							39.1				体部上半横Ⅲ種8直線文
254	SB33	95Ba	SB11東	甕			1		1					20.0	17.8					
255	SB33	95Ba	SB11西	甕D	4		1		1					21.0	20.0					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
256	SB33	95Ba	SB11西	甕			1		1					32.0						
257	SB33	95Ba	SB11西	甕B	2		1		1					33.5	30.8					
258	SB33	95Ba	SB11	甕		a					3						5.2			
259	SB48	95Ba	SB15	太頸短頸壺H	1		1	1						16.6						頸部横Ⅲ種波状文
260	SB48	95Ba	SB15,SB16,SB18	細頸壺A	2		8	6						8.4	5.7					
261	SB66	95Ca	SB05土器11	細頸壺A	2		3	4						8.4	4.0					頸部横Ⅰ種5直線文後円形線文
262	SB66	95Ca	SB07	細頸壺C	2		1							6.5						
263	SB66	95Ca	SB05土器5	細頸壺C	2		4	4						9.2	4.7					
264	SB66	95Ca	SB05土器14	太頸壺B	β		2							18.3						口縁部内面横Ⅰ種羽状刻みと竹管文
265	SB66	95Ca	SB05	細頸壺E			1							16.8						口縁部横Ⅰ種5波状文
266	SB66	95Ca	SB05土器10	太頸短頸壺D	2			1	6						11.2					頸部～体部上半沈線羽状文後直線文
267	SB66	95Ca	SB07	太頸壺				2							10.0					頸部沈線4直線文後棒状浮文
268	SB66	95Ca	SB05土器7,8	細頸壺D					3	1						18.0				体部上半横Ⅱ種8直線文後垂下直線文
269	SB66	95Ca	SB07土器2	鉢B			1			1				25.0		25.9				
270	SB66	95Ca	SB05土器3	太頸壺					3	3						36.0				
271	SB66	95Ca	SB05土器22	太頸短頸壺H					2			19.1				37.0				体部上半横Ⅲ種直線文・波状文
272	SB66	95Ca	SB05土器12,15,18,19,20	太頸壺H				3	9	8	10	10.7			10.7	31.7	4.9			頸部～体部上半横Ⅲ種波状文・押し引き文
273	SB66	95Ca	SB05	甕A	4		2		2					18.6	16.2					
274	SB66	95Ca	SB05土器14	甕A	4		1		2					18.5	17.0					
275	SB66	95Ca	SB05土器24	甕B	3		3	1						21.2	19.0					
276	SB66	95Ca	SB05	甕			1							24.0	20.3					
277	SB66	95Ca	SB05	甕E	2		5		5	3		2.8		16.1	14.9	17.6				
278	SB66	95Ca	SB06土器2	甕A	4		2		1	1				25.6	23.4					
279	SB66	95Ca	SB05土器6	甕F	4		2		2	1				17.0	15.0	20.0				
280	SB66	95Ca	SB07土器1	甕E	4		10		10	5		12.7		26.5	25.0	29.8				
281	SB66	95Ca	SB05	甕F	4		3		9	3		5.3		19.0	16.6	21.2				
282	SB66	95Ca	SB05	甕D	1		1		1					22.6	21.4					体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
283	SB66	95Ca	SB07土器2	甕		a					10						4.6			
284	SB66	95Ca	SB07	甕		a					4						5.0			
285	SB66	95Ca	SB05土器13	甕		a				1	7						5.6			
286	SB66	95Ca	SB06土器5	甕G	4		7		7	1				27.8	20.0					
287	SB66	95Ca	SB07土器3	甕D	4		2		3					24.0	23.5					
288	SB66	95Ca	SB05土器23	甕D	4	a	5		5	5	7	21.5	59.7	33.0	30.0	25.5	7.2			体部上半細ﾅﾅﾒﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ、頸部一次ﾖｺﾀﾀｷ
289	SB66	95Ca	SB05土器4	甕G	4	a	3		2	1		4.3		17.8	15.2	20.4	4.8			体部下半三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
290	SB66	95Ca	SB05土器5	甕		a				1	9						5.8			
291	SB66	95Ca	SB05	甕		a					3						6.2			
292	SB66	95Ca	SB07	甕		e					3							6.0		
293	SB66	95Ca	SB06	甕I		f					2							8.9	3.5	
294	SB68	95Ca	SB01SE	細頸壺			2							7.4						
295	SB68	95Ca	SB01土器9	太頸短頸壺D	3			2							9.6					頸部横Ⅲ種ﾊﾈ上げ文後直線文
296	SB68	95Ca	SB01	太頸壺	3			1							10.9					頸部横Ⅰ種9直線文後右上がりﾅﾅﾒ刻み
297	SB68	95Ca	SB01南側	細頸壺D					3	2						19.0				体部上半横Ⅱ種3+4直線文・波状文
298	SB68	95Ca	SB01土器6	細頸壺		d					3						6.2			
299	SB68	95Ca	SB01SE	甕E	4		1							15.5	14.2					
300	SB68	95Ca	SB01土器10	甕D	4		3		3	1				22.5	20.6	26.7				体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
301	SB68	95Ca	SB01土器9	甕D	4	e	10		10	10		3.8		18.9	17.4	20.5				体部細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
302	SB68	95Ca	SB01土器1	甕D	4		2		2	1				22.6	20.3	25.3				体部三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
303	SB68	95Ca	SB01SW	甕		a					3						5.0			
304	SB72	95Ca	SB02	細頸壺C	2		1	2						7.2	4.8					
305	SB72	95Ca	SB02	細頸壺D			1							18.2						
306	SB72	95Ca	SB02	細頸壺E			3							14.2						口縁端部貝殻ﾀﾃ刻み

第５表　弥生土器観察表３

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
307	SB72	95Ca	SB02土器3	甕E	2		3		3					17.0	16.0					
308	SB72	95Ca	SB02土器2	甕		a				1	4						7.8			
309	SB72	95Ca	SB02土器6	深鉢A		a				1	10						7.6			
310	SB73	95Ca	SB03土器7	細頸壺C	3	d	6	8	9	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6			
311	SB73	95Ca	SB03外側SD	細頸壺C	3		2							6.9						
312	SB73	95Ca	SB03(N)	細頸壺A	2		3							9.1						口縁端部横Ⅰ種ﾌﾅﾅﾒ刻み
313	SB73	95Ca	SB03	細頸壺C			2							11.0						口縁部凹線文後横Ⅰ種ﾅﾅﾒ刻み
314	SB73	95Ca	SB03(S)	細頸壺D					1											体部上半横Ⅰ種2+4直線文
315	SB73	95Ca	SB03土器5	細頸壺D					1	1						16.0				体部上半横Ⅱ種3+3+2直線文・波状文
316	SB73	95Ca	SB03土器7	鉢B			9			10	10	4.6	13.7	29.3			7.7			口縁部横Ⅰ種波状文後凹線文
317	SB73	95Ca	SB03土器2	太頸短頸壺F			10		9	10	10	2.3	16.8	10.5	10.1	18.0	5.0			体部上半焼成後穿孔の痕跡
318	SB73	95Ca	SB03N	甕A	1		1		1					19.8	17.2					
319	SB73	95Ca	SB03N	甕D	4		1		1					19.4	17.0					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
320	SB73	95Ca	SB03土器6	甕F	2		1		1					24.2	23.2					
321	SB73	95Ca	SB03土器4	大型鉢B			2		2	1		11.6		29.0	27.6	32.2				体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
322	SB73	95Ca	SB03地床炉	甕		a				1	10						9.0			底部を炉台土器に転用、中央にｽｽ抜け痕
323	SB73	95Ca	SB03(S)	甕		a				1	3						7.0			
324	SB73	95Ca	SB03外側SD	甕		e					4							7.2	2.5	
325	SB73	95Ca	SB03	甕		e					5							6.0	2.7	
326	SB73	95Ca	SB03(S)	甕		e					5							6.5	3.7	
327	SB73	95Ca	SB03	甕		e					9							6.1	3.3	
328	SB73	95Ca	SB03	甕		f					1									
329	SB74	95Ca	SB04土器1	細頸壺D	1		6	8						6.8	4.1					口縁部横Ⅰ種羽状刻み
330	SB74	95Ca	SB04土器9	細頸壺D	2		4	1						6.0	4.2					口縁部横Ⅰ種羽状刻み・直線文
331	SB74	95Ca	SB04土器9	細頸壺A	2		9	10						6.8	4.0					頸部横Ⅰ種7直線文後円形浮文
332	SB74	95Ca	SB04炭層上	細頸壺A			3							11.2						口縁部凹線文後横Ⅰ種5ﾅﾅ刻み
333	SB74	95Ca	SB04炭層上	太頸壺C	γ		2							23.8						口縁部内面横Ⅰ種10ﾅﾅﾒ刻み
334	SB74	95Ca	SB04	甕		a				1	7						8.3			
335	SB74	95Ca	SB04	深鉢A		a					3						8.0			
336	SB74	95Ca	SB04	甕		a					3						6.0			
337	SB74	95Ca	SB04S	甕		a				2	1						6.5			
338	SB74	95Ca	SB04	甕		a				1	2						7.0			
339	SB69	95Ca	SB09土器1	細頸壺D					3	1						21.9				体部上半横Ⅱ種4+4直線文・波状文
340	SB69	95Ca	SB09	甕E	1		1		1					18.0	16.0					
341	SB69	95Ca	SB09	深鉢A			1							27.2						
342	SB69	95Ca	SB09	深鉢A		a					1						7.4			
343	SB69	95Ca	SB09土器2	甕		a					10						6.8			
344	SB69	95Ca	SB09土器4	甕		e					2							8.7	3.7	
345	SB70	95Ca	SB11土器3	細頸壺C	3		7	4						9.6	5.0					
346	SB70	95Ca	SB11	細頸壺C			1							9.8						
347	SB70	95Ca	SB10	太頸短頸壺					1	1						16.9				体部上半横Ⅰ種4直線文・波状文
348	SB70	95Ca	SB10土器2	甕B			2		1					17.0	14.2					
349	SB70	95Ca	SB10土器2	太頸短頸壺H			2							17.8						口縁部横Ⅲ種ﾊﾈ上げ文
350	SB70	95Ca	SB10土器4	甕	4		2		1					18.4	16.0					
351	SB70	95Ca	SB10土器4	甕			2		1					22.3	20.0					
352	SB70	95Ca	SB11	甕			2		1					26.0	23.6					
353	SB70	95Ca	SB11土器5	甕F	1				3			5.1		21.0	17.5	21.5				
354	SB70	95Ca	SB11	深鉢A			1							26.6						
355	SB70	95Ca	SB11	甕		a					6						5.3			
356	SB70	95Ca	SB11	甕		a				1	3						4.9			
357	SB70	95Ca	SB10土器1	甕		a				1	2						8.6			
358	SB77	95Cb	SB01内P1	太頸壺A	3		3	2		1				17.2	9.3					頸部横Ⅰ種ﾅﾅﾒ刻み
359	SB77	95Cb	SB01	甕F	4		2		3	1				19.0	16.8	22.4				
360	SB77	95Cb	SB01	甕		a				2	5						5.2			体部下半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
361	SB77	95Cb	SB01	甕		e					2							6.4	2.3	
362	SB77	95Cb	SB01	甕		e					9							6.5	2.5	
363	SB81	95Cb	SB05,SB14	甕D	3		3		3	1		3.1		18.8	16.3	18.2				体部下半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
364	SB81	95Cb	SB14土器3	甕B	4		4		4	3		7.4		22.6	19.7	24.2				
365	SB81	95Cb	SB14N	細頸壺AかB		c				3	4						6.7			
366	SB81	95Cb	SB14	甕		a				1	5						5.0			
367	SB81	95Cb	SB14	甕		a				2	10						5.4			
368	SB81	95Cb	SB14土器2	甕		d					5							5.8	2.0	
369	SB79	95Cb	SB04	細頸壺D				2							4.5					体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文
370	SB79	95Cb	SB04	太頸壺C						1	6						7.4			底部複数の木の葉圧痕
371	SB79	95Cb	SB04	太頸短頸壺H					2	2						37.1				体部上半横Ⅲ種直線文・弧状文
372	SB79	95Cb	SB04	甕G	4	d	2		2	2	1	4.2	24.5	18.0	15.8	20.8		6.4	1.8	体部下半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
373	SB79	95Cb	SB04	甕			1							20.0						
374	SB79	95Cb	SB04	甕			1							28.0						
375	SB79	95Cb	SB04	深鉢A			1													
376	SB79	95Cb	SB04	甕		a					2						5.0			
377	SB79	95Cb	SB04	甕		a					2						4.0			
378	SB79	95Cb	SB04	甕		a				1	9						5.0			
379	SB79	95Cb	SB04	甕		a				1	3						5.0			
380	SB79	95Cb	SB04	甕		a				1	4						5.0			
381	SB82	95Cb	SB05	細頸壺A	3		2							7.0						口縁部横Ⅰ種6波状文
382	SB82	95Cb	SB05,SB14	細頸壺F			5							10.6						口縁部横Ⅲ種ﾊﾈ上げ文
383	SB82	95Cb	SB05S	太頸壺G			3							18.6						口縁部横Ⅲ種ﾊﾈ上げ文
384	SB82	95Cb	SB05土器1	細頸壺				1	1						5.0					頸部～体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文
385	SB82	95Cb	SB05	細頸壺				1	1						5.9					頸部横Ⅱ種直線文
386	SB82	95Cb	SB05土器3	太頸壺G	3	a		10	10	9	10	28.3			11.7	42.4	4.8			頸部～体部上半横Ⅲ種直線文等
387	SB82	95Cb	SB05E	太頸短頸壺H					1											体部上半横Ⅲ種直線文後竹管付加文
388	SB82	95Cb	SB05	太頸短頸壺		b				4	5						5.0			
389	SB82	95Cb	SB05	太頸短頸壺		c				1	2						5.2			
390	SB82	95Cb	SB05S	甕F	1		2		2					19.6	17.2	17.5				
391	SB82	95Cb	SB05	甕			2							23.5						
392	SB82	95Cb	SB05	甕			1		1											
393	SB82	95Cb	SB05	深鉢A			1													
394	SB82	95Cb	SB05	甕E	2		3		3					12.4	11.5	13.6				体部上半細ﾀﾃﾊｹ後細波状ﾊｹ
395	SB82	95Cb	SB05	甕D	2		2	2						16.4	14.5	19.1				体部細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
396	SB82	95Cb	SB05	甕F	2		3		1					36.0	34.0					
397	SB82	95Cb	SB05土器1	甕		c					3							5.7	1.0	
398	SB82	95Cb	SB05土器5	甕F	4	a	3	6		9	10	3.2	21.9	18.3	14.9	18.8	5.3			
399	SB83	95Cb	SB06	細頸壺C			2							9.6						
400	SB83	95Cb	SB06	細頸壺A	3		9	10	1					5.6	3.3					口縁部横Ⅰ種波状文、体部横Ⅱ種直線文
401	SB83	95Cb	SB06	細頸壺E			2							14.0						
402	SB83	95Cb	SB06	太頸壺G			2							22.2						口縁部横Ⅲ種ﾊﾈ上げ文
403	SB83	95Cb	SB06	壺		d				1	6							5.1	0.5	
404	SB83	95Cb	SB06	細頸壺		c					4						6.6			
405	SB83	95Cb	SB06	太頸壺		b					2						6.6			
406	SB83	95Cb	SB06	大型鉢A			5		5	1		3.5		22.2	20.4	21.8				体部上半細ﾀﾃﾊｹ後太波状ﾊｹ
407	SB83	95Cb	SB06	甕A			1		1					15.3	13.6					

第6表　弥生土器観察表4

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
408	SB83	95Cb	SB06	甕A	4		1		1					15.0	13.9					
409	SB83	95Cb	SB06	甕			2							21.6						
410	SB83	95Cb	SB06土器1	甕B	4		7		3					18.8	16.3					体部上半爪圧痕
411	SB83	95Cb	SB06	深鉢B			2		1					32.4	30.5					
412	SB83	95Cb	SB06	甕		a					3						5.4			底部細ﾊｹ
413	SB83	95Cb	SB06	甕		a				1	5						5.8			底部細ﾊｹ
414	SB83	95Cb	SB06	甕		a				1	5						5.9			底部細ﾊｹ
415	SB83	95Cb	SB06	甕		a				1	4						6.2			底部細ﾊｹ
416	SB83	95Cb	SB06	甕		a				1	10						6.8			底部平ﾅﾃﾞ
417	SB83	95Cb	SB06	甕		a				1	3						7.2			底部平ﾅﾃﾞ
418	SB78	95Cb	SB09	甕		a		1			4						5.0			底部平ﾅﾃﾞ
419	SB84	95Cb	SB12	細頸壺C	2		9	8						9.3	5.5					
420	SB80	95Cb	SB16	甕D	2		7		7	2		3.3		17.6	15.9	18.7				体部上半二角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
421	SB85	95Cb	SB03	甕			2							20.6						
422	SB86	95Cb	SB15	太頸短頸壺B	3		6	2	3	1		6.8		15.4	11.0	27.0				
423	SB86	95Cb	SB15	甕F	3		2		1					17.0	14.5					
424	SB86	95Cb	SB15	甕E			1		1					19.8						
425	SB86	95Cb	SB15	甕			1							22.8						
426	SB87	95Cb	SB07	甕D	1		2		1					18.3	16.1					
427	SB87	95Cb	SB07SE	深鉢A			1													
428	SB87	95Cb	SB07	甕		a				1	3						5.6			
429	SB87	95Cb	SB07SE	甕		a					2						6.3			
430	SB91	95Cb	SB10	深鉢A			1													
431	SB88	95Cb	SB11内土坑	細頸壺		d				1	1						5.6			
432	SB88	95Cb	SB11	甕B	2		1		1					22.2	19.4					
433	SB88	95Cb	SB11	甕A	1		1		1					20.4	17.7					
434	SB88	95Cb	SB11	甕		e					3							8.0	2.2	
435	SB88	95Cb	SB11内土坑	甕		e					1							8.0		
436	SB88	95Cb	SB11内土坑	甕A	4		2		1					22.0	19.7	23.5				
437	SB89	95Cb	SB02	太頸短頸壺			1													口縁部棒状ﾀﾃ刻み､櫛Ⅲ種ﾊｹ上げ文
438	SB89	95Cb	SB02	太頸壺B	γ		1	1						21.6						口縁部内面櫛Ⅰ種ﾅﾅﾒ刻み
439	SB89	95Cb	SB02	細頸壺		d				1	2						6.0			
440	SB89	95Cb	SB02	高杯A			1		1					23.4						
441	SB89	95Cb	SB02	甕			1		1					16.2	13.9					
442	SB89	95Cb	SB02	甕			1							26.0	23.8					
443	SB89	95Cb	SB02	甕		a				1	6						4.6			
444	SB89	95Cb	SB02	甕		a					3						6.0			
445	SB89	95Cb	SB02	甕		a					4						6.0			
446	SB90	95Cb	SB08	太頸壺D	2		1	1												口縁部祭ﾀﾃﾊｹ後平ﾅﾃﾞ
447	SB90	95Cb	SB08	太頸壺	2			2							16.5					頸部櫛Ⅰ種10波状文
448	SB93	96A	SB02No.9	甕D	2		1		1					17.4	16.0					体部上半二角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
449	SB93	96A	SB02	甕		a					7						5.2			
450	SB93	96A	SB02炉内No.9	太頸壺C	3γ		3	1						22.0						口縁部内面櫛Ⅰ種10ﾀﾃ刻み
451	SB93	96A	SB02炉内No.8	甕C	2		3		1	1		7.4		23.0	21.0	24.7				
452	SB93	96A	SB02炉内No.7	甕G	4	a	3		3	3	10	4.3	24.4	19.0	16.2	20.0	5.5			底部焼成後穿孔､細ﾊｹ
453	SB92	96A	SB01No.1	細頸壺C	2		2	1						10.3						
454	SB92	96A	SB01No.1	細頸壺		c					2						6.4			
455	SB02	95F	SB03NE	鉢C			1													口縁部2条の円形刻み
456	SB02	95F	SB03SW	鉢C			1													口縁部櫛Ⅰ種ﾀﾃ刻み
457	SB08	96D	SB02No.299	細頸壺D					1											
458	SB07	96D	SB03No.141	細頸壺B			1													
459	SB09	96D	SB01No.38	細頸壺D					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文後垂下直線文
460	SB09	96D	SB01No.21	壺					1											体部上半櫛描き綾杉文と弧状文
461	SB11	93Aa	SB105	細頸壺AかB					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文後垂下直線文
462	SB11	93Aa	SB105	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文
463	SB11	93Aa	SB105	太頸短頸壺H			1													口縁部櫛Ⅲ種ﾊｹ上げ文
464	SB27	93Aa	SB100	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2斜格子文他
465	SB27	93Aa	SB100	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文
466	SB27	93Aa	SB100	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文後沈線付加文
467	SB26	93Aa	SB102	細頸壺AかB					2											体部上半櫛Ⅰ種のﾗﾝﾀﾞﾑな刻み
468	SB17	95Aa	SB02土器3	太頸壺						1										体部櫛Ⅱ種2+2+2+2直線文
469	SB17	95Aa	SB02	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文､波状文､押し引き文
470	SB14	93Aa	SB105	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種11直線文､垂下波状文
471	SB14	93Aa	SB105,SK117	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅰ種山形刻み後櫛Ⅲ種弧状文
472	SB14	93Aa	SB105	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文
473	SB23	95Aa	SB01	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文・波状文
474	SB15	93Aa	SB104	細頸壺AかB					1											体部上半ﾐｶﾞｷ直線文
475	SB15	93Aa	SB104	細頸壺AかB				2												頸部櫛Ⅰ種4直線文後貝殻ﾀﾃ刻み
476	SB15	93Aa	SB104	壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3+3直線文
477	SB15	93Aa	SB104No.4	細頸壺AかB					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文
478	SB15	93Aa	SB104	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種8直線文・波状文
479	SB15	93Aa	SB104	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文
480	SB33	95Ba	SB11	太頸短頸壺F					1											体部上半櫛Ⅱ種3+2+2直線文
481	SB35	95Ba	SB05	細頸壺D				1												頸部櫛Ⅰ種9ﾅﾅﾒ刻み・直線文
482	SB34	95Ba	SB06SW	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種4直線文
483	SB34	95Ba	SB06NE	太頸短頸壺F					1											体部上半櫛Ⅱ種3+4直線文
484	SB38	95Ba	SB10	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2+2直線文
485	SB42	95Ba	SB02	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文・波状文
486	SB41	95Ba	SB01	壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3+2直線文
487	SB41	95Ba	SB01	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3直線文・波状文
488	SB41	95Ba	SB01	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3+2直線文
489	SB41	95Ba	SB01	細頸壺AかB					1											体部上半櫛Ⅰ種複合鋸歯文
490	SB41	95Ba	SB01	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文後垂下斜線文
491	SB41	95Ba	SB01	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3+2直線文・波状文
492	SB41	95Ba	SB01,SB07	鉢C			1													体部上半櫛Ⅰ種8波状文
493	SB46	95Ba	SB03	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種波状文・直線文
494	SB46	95Ba	SB03土器10	太頸壺					2											体部上半櫛Ⅱ種4+3直線文
495	SB66	95Ca	SB07土器2	細頸壺D			1													口縁部櫛Ⅰ種7羽状刻み
496	SB66	95Ca	SB05	太頸壺					1											体部上半櫛描き扇形文左描き 右回り
497	SB66	95Ca	SB05土器11	細頸壺AかB					1											体部上半櫛Ⅰ種5直線文後円形刻み
498	SB66	95Ca	SB07土器7	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種簾状文
499	SB66	95Ca	SB07土器11	細頸壺D					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3+2波状文・直線文
500	SB69	95Ca	SB09	細頸壺AかB					1											体部帯状浮文上端刻み
501	SB72	95Ca	SB02土器5	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種直線文・扇形文､沈線直線文
502	SB68	95Ca	SB01土器8	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種8直線文・波状文
503	SB68	95Ca	SB01SE	太頸壺G				1												口縁部櫛Ⅲ種ﾊｹ上げ文
504	SB68	95Ca	SB01SE	壺					1											体部上半沈線斜格子文
505	SB68	95Ca	SB01SE	細頸壺AかB					1											体部上半帯状浮文2帯上面刻み
506	SB68	95Ca	SB01	深鉢A			1													
507	SB70	95Ca	SB10土器2	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種直線文・波状文
508	SB70	95Ca	SB11	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文後付加垂下直線文

第７表　弥生土器観察表５

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
509	SB70	95Ca	SB11	壺					1											体部上半横Ⅰ種3直線文
510	SB73	95Ca	SB03(S)	太頸短頸壺H					1											体部上半横Ⅲ種垂下直線文・沈線波状文
511	SB73	95Ca	SB03土器7	太頸短頸壺H					1											体部上半横Ⅲ種直線文・押し引き文
512	SB74	95Ca	SB04	細頸壺D					1											体部上半横Ⅱ種直線文・波状文
513	SB74	95Ca	SB04	太頸短頸壺H					1											体部上半横Ⅲ種直線文・押し引き文
514	SB77	95Cb	SB01	細頸壺D？					1											体部上半横Ⅰ種直線文・ﾅﾅﾒ刻み
515	SB77	95Cb	SB01	太頸短頸壺H					1											体部上半横Ⅲ種直線文・波状文
516	SB77	95Cb	SB01	細頸壺D					1											体部上半横Ⅱ種2+2+2直線文・波状文
517	SB79	95Cb	SB04	太頸短頸壺H					1											体部上半沈線直線文・波状文
518	SB82	95Cb	SB05	甕			1													体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
519	SB83	95Cb	SB06	細頸壺D					1											体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文
520	SB84	95Cb	SB12	細頸壺C			1													口縁部凹線文2条
521	SB85	95Cb	SB03	太頸短頸壺H					1											体部上半横Ⅲ種直線文後沈線付加文
522	SB88	95Cb	SB11内土坑	細頸壺AかB					1											体部上半横Ⅰ種7流水文
523	SB86	95Cb	SB15	細頸壺AかB					1											体部上半横Ⅰ種8波状文
524	SB86	95Cb	SB15	太頸短頸壺H					1											体部上半横Ⅲ種波状文・直線文
525	SB89	95Cb	SB02	細頸壺D？					1											体部上半横Ⅱ種2+2+2直線文
526	SB89	95Cb	SB02	太頸壺					1											体部上半横Ⅱ種3+3+1直線文
527	SB93	96A	SB02	細頸壺AかB					1											体部上半ﾐｶﾞｷ直線文
528	SB93	96A	SB02	細頸壺D？					1											体部上半横Ⅱ種3+3+3+3直線文・波状文
529	SB93	96A	SB02炉内	壺					1											体部上半横Ⅰ種6直線文・波状文
530	SB94	94Bb	SK15	細頸壺D	2		2	8						7.4	3.7					口縁部横Ⅰ種羽状刻み3帯・直線文
531	SB94	94Bb	SK15	細頸壺E			10	5						9.0						口縁部内面円形浮文3個3単位
532	SB94	94Bb	SK15	細頸壺E			3	2						7.5	5.7					口縁部下に焼成後穿孔､紐ずれ痕有
533	SB94	94Bb	SK15	太頸壺B	1		2	4						17.4	12.1					口縁部内面に円形浮文
534	SB94	94Bb	SK15	太頸短頸壺A	1α		5	4						14.0	8.0					口縁部内面円形浮文20個全周
535	SB94	94Bb	SK15	太頸壺B	3α		5	1						16.2						口縁部内面横Ⅰ種羽状刻み・円形刻み
536	SB94	94Bb	SK15	太頸壺B	2		2	2						16.2	10.7					頸部沈線直線文3条
537	SB94	94Bb	SK15	鉢A			3			4	2		9.0	23.0		23.9	5.4			
538	SB94	94Bb	SK15	太頸壺G			1	3						22.0	12.0					頸部横Ⅲ種直線文後沈線付加文
539	SB94	94Bb	SK15	甕E	4		5		2	1				20.8	19.0	23.2				
540	SB94	94Bb	SK15	甕		e					5							8.6	2.6	
541	SB94	94Bb	SK15	細頸壺D					2											体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文・波状文
542	SB94	94Bb	SK15上面	細頸壺D					1											体部上半横Ⅱ種2+2+2+3直線文・波状文
543	SB94	94Bb	SK15	太頸壺					1											体部上半横Ⅰ種7直線文・波状文等
544	SZ06	93Aa	SD01	細頸壺C	1		4	2						8.9	5.4					頸部沈線直線文
545	SZ06	93Aa	SD01	甕			1							36.0						
546	SZ06	93Aa	SD01	甕A	1		1							20.0	16.7					
547	SZ08	93Aa	SD04	細頸壺B	4		1	4						9.5	5.0					頸部横Ⅱ種3+4直線文
548	SZ08	93Aa	SD04	細頸壺		d					4						5.4			
549	SZ08	93Aa	SD04	甕		e					3							8.0		
550	SZ08	93Aa	SD04	甕A	1		2			1				14.0	12.0					
551	SZ08	93Aa	SD04	甕D	4		2			1				17.6	16.0					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
552	SZ11	95Aa	SD03NE	太頸壺C	γ		1							20.0						口縁部内面横Ⅰ種5ﾅﾅﾒ刻み
553	SZ11	95Aa	SD03SE	太頸壺D			2							18.4						
554	SZ11	95Aa	SD03NE	甕	1		1							26.0	23.0					
555	SZ11	95Aa	SD03SE	甕		a				1	3						7.5			
556	SZ11	95Aa	SD03SE	深鉢A		a				1	5						9.3			
557	SZ11	95Aa	SD03	甕G	1		6		4	3		4.1		19.9	16.6	19.5				体部三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
558	SZ05	93Aa	SZ01ENo.3	細頸壺D	4	d	10	10	5	1	10	2.6	23.0	7.0	4.2	19.5	5.2			体部上半横Ⅰ種6と7直線文・波状文
559	SZ05	93Aa	SZ01No.1	細頸壺D	4	c	10	10	8	9	10	3.3	26.3	8.4	4.2	21.8	5.7			体部上半横Ⅰ種5直線文・波状文
560	SZ05	93Aa	SZ01南溝No.4	細頸壺E	1		2	1						10.4	5.6					頸部横Ⅰ種7直線文・波状文
561	SZ05	93Aa	SZ01東溝	細頸壺				10	2						4.9					体部上半ﾐｶﾞｷ直線文
562	SZ05	93Aa	SZ01西溝	細頸壺D					1											体部上半横Ⅱ種6+4直線文・垂下波状文
563	SZ05	93Aa	SZ01N	細頸壺D		d			2	8						27.5	7.6			体部上半横Ⅰ種6直線文・波状文
564	SZ05	93Aa	SZ01西溝No.5	細頸壺D		d		1	9	10	10	3.2				22.4	5.8			体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文・波状文
565	SZ05	93Aa	SZ01南溝	細頸壺D					3	1						19.4				底部上半横Ⅱ種3+3+3直線文､横Ⅰ種5波状文
566	SZ05	93Aa	SZ01北溝No.1	細頸壺D		d			1	6	10					19.2	5.7			体部上半横Ⅰ種5直線文・波状文
567	SZ05	93Aa	SZ01SNo.4	細頸壺		a				1	10						3.6			
568	SZ05	93Aa	SZ01E	太頸壺						1	3						7.3			
569	SZ05	93Aa	SZ01SNo.4	甕E	2		5		5	2		10.3		23.7	22.2	27.0				
570	SZ05	93Aa	SZ01E	甕C	4		3		3	1				30.0	27.5	33.1				
571	SZ05	93Aa	SZ01南溝No.4	大型鉢A			5		3	2		9.8		28.9	27.4	30.1				
572	SZ05	93Aa	SZ01北溝	甕P	4		2		3	1				27.6	25.0					
573	SZ05	93Aa	SZ01	甕D	4		3		2					24.7	23.0					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
574	SZ05	93Aa	SZ01NNo.2	甕D	4	a	6		4	4	10	5.4	25.0	19.5	18.2	22.0	5.8			体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
575	SZ05	93Aa	SZ01東溝	甕D	2		3		3	1				18.4	17.2	19.8				体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
576	SZ05	93Aa	SZ01NNo.1	甕D	4		2		1					19.9	18.4	20.3				体部上半細ﾅﾅﾒﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
577	SZ05	93Aa	SZ01	甕D	2		3		3	1		4.3		19.0	17.2	20.4				体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
578	SZ05	93Aa	SZ01西溝	甕		a				1	4						6.2			底部ﾅﾃﾞ
579	SZ05	93Aa	SZ01西溝	甕		a				1	6						6.0			底部細ﾊｹ
580	SZ05	93Aa	SZ01西溝	甕		a				1	6						6.2			底部ﾅﾃﾞ
581	SZ05	93Aa	SZ01南溝	甕I	2		2		2					20.5	18.3					体部内外面平ﾅﾃﾞ
582	SZ05	93Aa	SZ01N	甕I	2		1		1					25.0	23.0					体部内外面平ﾅﾃﾞ
583	SZ12	93Aa	SZ03西溝	細頸壺B	2		5	3						6.0	3.8					口縁部横Ⅰ種5波状文
584	SZ12	93Aa	SZ03東溝	太頸壺D			1							17.6						
585	SZ12	93Aa	SZ03西溝	甕B	1		2		1					19.2	16.2					
586	SZ12	93Aa	SZ03南溝	甕		e					2							10.1		脚部内外面ﾖｺﾅﾃﾞ
587	SZ12	93Aa	SZ03東溝	甕		d					5							6.1		脚部内外面ﾖｺﾅﾃﾞ
588	SZ12	93Aa	SZ03東溝	甕		d				1	10							6.2	1.7	脚部外面ﾖｺﾅﾃﾞ
589	SZ12	93Aa	SZ03南溝	甕		e				1	10							6.4	2.2	脚部内外面ﾖｺﾅﾃﾞ
590	SZ07	93Aa	SZ02N	細頸壺C			2	1						10.0						
591	SZ07	93Aa	SZ02E	細頸壺D				1	1											体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文
592	SZ07	93Aa	SZ02N	細頸壺A	2		5	10						9.8	5.8					口縁部横Ⅰ種10直線文
593	SZ07	93Aa	SZ02No.1	細頸壺C		d			7	9	10	1.7				17.0	5.2			頸部沈線直線文
594	SZ07	93Aa	SZ02NNo.3	太頸壺B	2α		3	5	1					18.5	10.0					頸部沈線直線文
595	SZ07	93Aa	SZ02E	太頸壺D			1	1						20.3						口縁部凹線文後横Ⅰ種6付加文
596	SZ07	93Aa	SZ02	太頸壺	3			6							8.2					頸部沈線直線文3
597	SZ07	93Aa	SZ02N	太頸壺	3			6	1						9.5					体部上半横Ⅱ種7+7直線文
598	SZ07	93Aa	SZ02N	太頸壺		a			1	4	8					25.2	5.2			
599	SZ07	93Aa	SZ02NNo.3	太頸短頸壺H					2											体部上半横Ⅲ種直線文・山形文
600	SZ07	93Aa	SZ02E	太頸壺		d				1	3						7.4			
601	SZ07	93Aa	SZ02N	高杯						1	8							11.2		脚部ﾀﾃﾐｶﾞｷ
602	SZ07	93Aa	SZ02	甕		e				1	5							6.4		
603	SZ07	93Aa	SZ02北溝	甕B	1		2		1					19.0	16.8	18.6				口縁端部上下にﾊｹ刻み
604	SZ07	93Aa	SZ02N	甕D	4		5		5	2		3.4		19.0	14.9	20.6				体部三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
605	SZ07	93Aa	SZ02N	甕I	1		2		1					21.2	19.0					体部内外面平ﾅﾃﾞ
606	SZ07	93Aa	SZ02N	甕I	1		2		1					23.5	20.5					体部内外面ﾖｺﾅﾃﾞ
607	SZ15	93Aa	SZ05北溝	細頸壺D					1	1		3.0				19.1				
608	SZ15	93Aa	SZ05南溝	太頸壺C	3β		1	3						19.6						口縁部内面横Ⅰ種5羽状文・扇形文
609	SZ15	93Aa	SZ05南溝	鉢A			2			1		2.1		19.6		20.7				

第８表　弥生土器観察表６

登録番号	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
610	SZ15	93Aa	SZ05南溝	甕		a				1	5						5.4			
611	SZ15	93Aa	SZ05S	甕		c				1	10							6.0	0.7	内面ﾀﾃﾅﾃﾞ
612	SZ15	93Aa	SZ05南溝	甕F	2		2		1					22.4	20.8					
613	SZ10	93Aa	SD02No.1	細頸壺D	4	d	9	8	7	6	8	2.8	24.9	7.2	4.8	20.8	6.2			体部上半横Ⅰ種7直線文・波状文
614	SZ10	93Aa	SD02	細頸壺A	4							2.0		7.0	5.2	18.5				体部上半横Ⅰ種5直線文・垂下直線文・波状文
615	SZ10	93Aa	SD02溝上部	甕F	4		9		5					20.2	18.0	22.8				
616	SZ10	93Aa	SD02	甕F	4		6		4	2		6.5		20.5	19.1	24.8				
617	SZ13	95Aa	SD02土器1	細頸壺D	3	d	10	10	10	10	10	0.9	18.5	6.1	3.4	15.3	4.0			体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文・波状文
618	SZ13	93Aa	SZ04S	細頸壺D					3	3		1.7				18.3				体部上半横Ⅱ種3+2+2直線文・波状文
619	SZ13	95Aa	SD02N	太頸壺B		a	1							21.0						口縁部内面横Ⅰ種6扇形文
620	SZ13	93Aa	SZ04北溝No.3	太頸壺D	3		5	3						19.0	9.3					頸部横Ⅰ種簾状文
621	SZ13	93Aa	SZ04北溝No.3	太頸壺					2	2		10.3			16.0	30.0				体部上半横Ⅰ種8と9直線文・波状文
622	SZ13	95Aa	SD002SE	太頸壺	2			1							10.0					頸部横Ⅰ種直線文後貝殻刻み
623	SZ13	93Aa	SZ04NNo.5	太頸壺	3			2							10.0					頸部横Ⅱ種2+2+2+2直線文
624	SZ13	95Aa	SD002SE	細頸壺		d			1	2	10					20.5	5.6			体部下半ﾀﾃﾐｶﾞｷ
625	SZ13	93Aa	SZ04N	細頸壺		d					3						6.4			底部細ﾊｹ
626	SZ13	93Aa	SZ04WNo.2	無頸壺A			2		6	8	10	2.3	14.9	11.0	11.0	19.4	5.0			口縁部下横Ⅰ種8簾状文
627	SZ13	93Aa	SZ04西溝	高杯C			1							12.0		14.1				杯部下半ﾀﾃﾀｽﾞﾘ
628	SZ13	95Aa	SD02	高杯							4							9.0		脚部ﾀﾃﾀｽﾞﾘ
629	SZ13	93Aa	SZ04N	鉢B			1							18.1						口縁部凹線文後貝殻刻み
630	SZ13	93Aa	SZ04W	鉢A			1							23.5						体部沈線直線文4
631	SZ13	95Aa	SD02NE	甕F			7		1					19.0	16.4					
632	SZ13	95Aa	SD02内土器1	甕F	4		4							18.0	16.1	20.2				
633	SZ13	93Aa	SZ04W	甕B	3		4		2					20.7	17.8					
634	SZ13	93Aa	SZ04N	甕H			2		2					32.2	27.0					
635	SZ13	93Aa	SZ04W	大型鉢B			1		2					27.0	24.8	29.2				口縁部ナナメﾊｹ、端部部分刻み
636	SZ13	93Aa	SZ04南溝	甕G	1		3		4	2		4.2		19.4	14.2	18.0				体部三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
637	SZ13	93Aa	SZ04西溝No.1	大型鉢B			1		4	8	10	8.0	21.7	26.2	25.3	23.7	8.0			体部三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
638	SZ13	95Aa	SD02NE	甕		a				1	5						6.0			体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
639	SZ13	93Aa	SZ04W	甕		a				1	10						5.7			底部ﾅﾃﾞ、焼成後穿孔
640	SZ16	95Aa	SD01	太頸短頸壺B			2		1					10.4	10.0	16.0				底部細ﾊｹ
641	SZ16	95Aa	SD01	太頸壺		c					10						7.2			
642	SZ16	95Aa	SD01	細頸壺		e					2							9.2	2.8	底部木の葉圧痕
643	SZ16	95Ab	SD01	甕D	4		2		1					25.6	23.6					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
644	SZ17	93Ab	SZ01NNo.10	細頸壺D		d		3	10	10	10	1.2			3.5	16.0	5.0			体部上半横Ⅰ種10～11本直線文・波状文
645	SZ17	93Ab	SZ01ENo.3	太頸短頸壺		d			4	3	6	3.1				22.0	5.0			体部上半横Ⅱ種2+2+2+2波状文他
646	SZ17	93Ab	SZ01北溝No.9→No.5	細頸壺D				1	4	6	10	1.3				17.4	5.0			体部上半横Ⅱ種2+2+2+2直線文・波状文
647	SZ17	93Ab	SZ01SNo.2	細頸壺C					7	10	10	1.3				18.8	4.5			脚台付部研磨
648	SZ17	93Ab	SZ01東溝No.6	細頸壺		d			1	2	10					25.8	6.8			
649	SZ17	95Ab	SD01	細頸壺				5	1											体部上半横Ⅱ種2+3+2直線文
650	SZ17	93Ab	SZ01	太頸短頸壺D	3		10	10	6	6	5	13.4	34.7	15.7	9.6	33.0	5.4			体部上半横Ⅰ種6直線文後沈線斜格子文・複合鋸歯文
651	SZ17	93Ab	SZ01北溝	甕D	3		3		1					19.4	17.2					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
652	SZ17	93Ab	SZ01No.9	甕G	4	a	4		4	2	3			33.1	30.6	35.6	7.4			体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
653	SZ17	93Ab	SZ01No.11	甕G	4									38.6	35.4	40.7				
654	SZ17	93Ab	SZ01土器7,8	甕I	4		2		3	2		10.1		25.0	22.7	27.1				体部ﾐｶﾞｷ状のﾀﾃﾅﾃﾞ
655	SZ18	95Ac	SD01土器1	細頸壺D	3	d	6	6	10	10	10	1.7	22.8	6.6	4.5	17.9	5.6			体部上半横Ⅱ種3+2+2直線文・波状文
656	SZ18	93Ba	SZ01南溝	細頸壺B	3		2							7.8						口縁部横Ⅰ種4波状文
657	SZ18	95Ac	SD01	細頸壺		d				1	3						5.0			
658	SZ18	93Ba	SZ01S	細頸壺		b				1	6						4.0			
659	SZ18	95Ac	SD01	太頸壺B	3		1	2						22.0						
660	SZ18	95Ac	SD01	太頸壺D			1							18.0						口縁部内面横Ⅰ種6波状文
661	SZ18	93Ba	SZ01S	細頸壺		c				1	10						6.2			底部木の葉圧痕
662	SZ18	93Ba	SZ01S	甕	1		1		1					17.8	14.5					
663	SZ18	95Ac	SD01	深鉢A			1													
664	SZ18	95Ac	SD01	深鉢A			1													
665	SZ18	93Ba	SZ01南溝	甕		d				3	10						5.0			底部細ﾊｹ
666	SZ19	95Ba	SD02	細頸壺		d					3						6.2			底部細ﾊｹ
667	SZ21	93Ba	SZ02東溝	太頸短頸壺H			1							19.9						
668	SZ21	93Ba	SZ02東溝	太頸壺E			1	1						16.4						
669	SZ21	93Ba	SZ02E	細頸壺		c					5						5.6			底部ﾅﾃﾞ
670	SZ21	93Ba	SZ02E	細頸壺		d				1	3						7.0			
671	SZ21	93Ba	SZ02西溝	鉢C			1		1					18.2		19.2				体部ﾖｺﾐｶﾞｷ
672	SZ21	93Ba	SZ02S	壺		e					5							8.7	2.7	脚端部凹線文2条
673	SZ21	93Ba	SZ02E	甕D	2		4		7	6	10	5.3	25.4	20.7	18.3	21.8	5.0			体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三画ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
674	SZ20a	95Ba	SD03	太頸壺F			1	3						12.6	9.0					頸部Ⅰ種直線文後横ﾀﾃ刻み後円形浮文
675	SZ20a	95Ba	SD03,	鉢			2			1				21.4		22.4				口縁部横Ⅰ種8波状文
	SZ18	93Ba	SZ01S,SK14																	
676	SZ20a	95Ba	SD03	細頸壺AかB						2						18.0				
677	SZ20a	95Ba	SD03	甕		e					2							8.0		
678	SZ20a	95Ba	SD03	甕		a					3						5.8			体部下半三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
679	SZ20a	95Ba	SD03	甕A			2		1					16.2	13.8					
680	SZ20a	95Ba	SD03	甕		a					3						5.2			
681	SZ20b	95Ba	SD01No.4	細頸壺B	3	b	8	8	10	10	10	1.2	18.7	6.7	5.8	15.5	5.6			体部上半横Ⅰ種直線文・山形刻み
682	SZ20b	95Ba	SD01No.5	細頸壺AかB		a			7	4	5	1.4				16.0	5.2			体部上半までﾖｺﾐｶﾞｷ
683	SZ20b	95Ba	SD01	太頸壺F			1	4						13.9	9.9					頸部横Ⅰ種直線文
684	SZ20b	95Ba	SD01No.3	太頸壺D	3		3	1						20.6						
685	SZ20b	95Ba	SD01	細頸壺D	3		1	1						7.2						口縁部横Ⅰ種ﾅﾅﾒ刻み・直線文
686	SZ20b	95Ba	SD01	細頸壺B	3		5							8.4						口縁部横Ⅰ種10波状文
687	SZ20b	95Ba	SD01	細頸壺B	3		2							10.6						口縁部横Ⅰ種波状文
688	SZ20b	95Ba	SD01No.1	細頸壺D	3	d	8	5	4	3	8	3.2	27.9	7.6	4.5	21.5	5.6			体部上半横Ⅱ種3+3+3直線文・波状文
689	SZ20b	95Ba	SD01上層土器1	細頸壺A	3	d	3	6	4	3	5	3.6	25.0	7.8	5.0	25.0	6.0			頸部横Ⅰ種10直線文
690	SZ20b	95Ba	SD01土器3	細頸壺C		d			4	8	10	1.2				16.8	3.6			
691	SZ20b	95Ba	SD01土器4	細頸壺D		d			8	9	10					17.9	5.0			体部上半横Ⅰ種波状文・垂下直線文
692	SZ20b	95Ba	SD01	太頸壺D	4		3	1						18.4						口縁部凹線文後横Ⅰ種5付加文
693	SZ20b	95Ba	SD01土器1	太頸壺	3			10							10.0					頸部横Ⅰ種簾状文
694	SZ20b	95Ba	SD01土器2	太頸壺		d			4	4	4	4.8				23.4	5.2			体部上半横Ⅱ種2+2+2直線文
695	SZ20b	95Ba	SD01	細頸壺		d				1	3						5.8			底部ﾅﾃﾞ
696	SZ20b	95Ba	SD01上層	細頸壺AかB		b				1	5						5.8			底部平ﾅﾃﾞ
697	SZ20b	95Ba	SD01土器No.1	太頸壺		d			3	4	6					38.0	8.6			体部上半横Ⅱ種3+3直線文
698	SZ20b	95Ba	SD01No.3	甕G	4	a	5		3	4	10	6.8	28.0	22.0	20.0	24.0	5.4			体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
699	SZ20b	95Ba	SD01	甕C	1		2		1					21.5	18.8	21.3				
700	SZ20b	95Ba	SD01	甕H			1	1						18.4	13.7					
701	SZ20b	95Ba	SD01	甕		a					6						5.7			底部ﾅﾃﾞ
702	SZ20b	95Ba	SD01	甕		a					4						7.1			底部ﾅﾃﾞ
703	SZ20b	95Ba	SD01	甕		a				1	10						4.8			底部ﾅﾃﾞ、焼成後穿孔
704	SZ20b	95Ba	SD01	甕		d				1	5							7.4	1.9	
705	SZ25	95E	SD03(北)	細頸壺B	3		1	10							4.4					頸部円形浮文
706	SZ25	95E	SD03(東)	太頸壺C	γ		1							23.6						
707	SZ25	95E	SD03(東)	細頸壺		d					3						6.1			底部ﾅﾃﾞ
708	SZ25	95E	SD03(北)	甕		e					2							7.1		

第9表　弥生土器観察表7

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口類分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
709	SZ25	95E	SD03(東)	甕E	1		1		1					14.5	12.8					
710	SD03	95Aa	SD04	細頸壺C			2							10.0						
711	SD03	95Aa	SD04	太頸壺A	3α		3	1						16.7						口縁端部貝殻ﾀﾃ刻み
712	SD03	95Aa	SD04	甕			1							27.4	24.2					
713	SD01	96C	SD01	細頸壺B			3	1						10.0	5.4					
714	SD01	96C	SD01No.87	細頸壺C			3	1						8.5						
715	SD01	96C	SD01No.87	細頸壺C	2		3	1						9.0	5.8					
716	SD01	96C	SD01	甕			1							15.4	15.2					
717	SD01	96C	SD01	甕			1							30.0	28.5					
718	SD01	96C	SD01	甕		a				1	3						5.3			底部ﾅﾃﾞ
719	SD04	93Ba	SD03	細頸壺B	4		3	1	2					9.2	5.2					体部上半ﾐｶﾞｷ斜格子文
720	SD04	93Ba	SD03	太頸壺I				10	2						8.8					頸部沈線文7条
721	SD04	93Ba	SD03	深鉢A		a	5			3	3	6.3	27.0	27.2			8.0			
722	SD04	93Ba	SD03	太頸壺D			2							26.1						
723	SD04	93Ba	SD03	細頸壺		d					5						7.0			底部ｹｽﾞﾘ
724	SD04	93Ba	SD03	深鉢B			3		1					34.5	27.7	27.9				
725	SD04	93Ba	SD03	甕C	1		1		3	1		2.5		16.5	15.2	16.9				体部細ﾀﾃﾊｹ後ﾅﾃﾞ
726	SD16	93Ca	SD02	甕			1							17.4	15.2					
727	SD16	93Ca	SD02	甕		d				1	2						5.2			底部ﾅﾃﾞ
728	SD16	93Ca	SD02	甕		a				1	10						5.0			底部中央木の葉圧痕
729	SD19	95Cb	SD03	太頸壺D				10							9.9					頸部櫛Ⅰ種直線文
730	SD18	95Cb	SD09	甕		a				1	4						8.0			底部細ﾊｹ
731	SD28	96A	SD02	甕		a				1	3						6.1			底部ﾅﾃﾞ
732	SD20	95Cb	SD05	細頸壺		c					5						7.2			底部細ﾊｹ後ﾅﾃﾞ
733	SD20	95Cb	SD05	細頸壺A	3		7	10						7.2	4.0					頸部櫛Ⅱ種2+2+2+3直線文
734	SD20	95Cb	SD05	甕D	4		3		1					34.6	32.5					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
735	SZ06	93Aa	SD01	細頸壺D	3				1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文・垂下直線文
736	SZ12	93Aa	SZ03N	細頸壺D					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+1直線文・波状文
737	SZ05	93Aa	SZ01N	太頸壺					3											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文・波状文
738	SZ05	93Aa	SZ01N	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種直線文・波状文
739	SZ05	93Aa	SZ01	細頸壺D					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+1直線文
740	SZ05	93Aa	SZ01東溝	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3直線文
741	SZ09	93Aa	SZ02E	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種4+4直線文
742	SZ09	93Aa	SZ02N	細頸壺D					1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2直線文
743	SZ09	93Aa	SZ02N	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種7波状文・直線文
744	SZ09	93Aa	SZ02E							1										体部下半櫛Ⅰ種9波状文
745	SZ20b	95Ba	SD01						1											体部上半櫛Ⅱ種2+2+2+2波状文・垂下直線文
746	SZ20b	95Ba	SD01(土器4)						1											体部上半沈線垂下文、櫛Ⅲ種直線文
747	SD03	95Aa	SD04	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+4直線文
748	SD03	95Aa	SD04	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+4直線文
749	SD06	95E	SD28	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種3+3直線文
750	SZ18	93Ba	SZ01南溝	太頸壺G					1											体部上半沈線斜格子文後直線文・波状文
751	SZ18	93Ba	SZ01S	細頸壺AかB					1											体部上半ﾐｶﾞｷ直線文
752	SZ18	93Ba	SZ01S	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文・押し引き文
753	SZ18	93Ba	SZ01東溝	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種波状文・直線文
754	SZ20a	93Ba	SD03	甕H			1													口縁部外面ﾅﾅﾒﾊｹ
755	SD04	93Ba	SD03	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛Ⅲ種直線文・押し引き文
756	SD18	95Cb	SD03	細頸壺AかB					1											体部上半櫛Ⅱ種垂下直線文後流水文
757	SD18	95Cb	SD03	太頸壺					1											体部上半櫛Ⅱ種5+5直線文
758	SD27	96A	SD08	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種4直線文
759	NR03	96C	NR02最下層No.7	細頸壺D	1		2	1						6.0						口縁部櫛Ⅰ種6波状文・直線文
760	NR03	96C	NR02最下層	細頸壺C			5	1						9.0						頸部櫛Ⅱ種2+2+2+2直線文
761	NR03	96C	NR02No.96	太頸壺B	2		5	5						28.0	13.5					
762	NR03	96C	NR02最下層	細頸壺AかB				1	2	1						15.8				体部上半ﾐｶﾞｷ直線文間櫛Ⅰ種垂下ﾖｺ刻み
763	NR03	96C	NR02No.96	細頸壺		b				1	5						5.3			
764	NR03	96C	NR02No.26	太頸壺					2	1						29.4				体部上半櫛Ⅰ種5直線文
765	NR03	96C	NR02No.70	甕F	2		1		1					33.0	29.2					
766	NR03	96C	NR02No.8	甕		a				3	5						5.8			体部三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
767	NR03	96C	NR02最下層	甕		c					5							7.8	1.4	
768	NR02	96B	NR01下層No.4	甕		a					3						3.6			
769	NR02	96C	NR01最下層(仮の壺A)	細頸壺C	3		10	10	9	8	10		28.2	9.4	6.0	22.2	7.8			体部上半三角ヨコタタキ後頸部面取りﾀﾃﾅﾃﾞ
770	NR04	95F	NR01下層	細頸壺A	2		3	1						10.8						頸部沈線直線文
771	NR04	95F	NR01東肩F	細頸壺A	2		7	10						8.8	4.9					頸部櫛Ⅱ種2+2+2+2直線文
772	NR04	95F	NR01下層	鉢A			2			1				22.5						
773	NR04	95F	NR01下層	細頸壺		d				1	3						5.6			
774	NR04	95F	NR01下層	細頸壺		c					6						5.8			底部木の葉圧痕
775	NR04	95F	NR01下層	太頸壺		d					6						6.8			底部ﾅﾃﾞ
776	NR04	95F	NR01下層	甕		a					6						4.6			底部ﾅﾃﾞ
777	NR04	95F	NR01東肩F	甕		a					3						6.4			底部木の葉圧痕
778	NR05	95F	SB03土器7	甕C	2		2		1	1		6.3		22.4	20.2	22.2				
779	NR06	96D	NR01No.430	細頸壺A	2		9	8						8.4	4.9					頸部沈線直線文
780	NR06	96D	NR01No.436	細頸壺A	1		6	10						9.8	4.6					頸部沈線直線文
781	NR06	96D	NR01No.331	細頸壺D		d			3	5	10	1.9				19.5	5.4			体部上半櫛Ⅱ種3+2+2直線文
782	NR06	96D	NR01遺物集中区No.490	細頸壺AかB	2	a		3	10	10	10	1.1			4.6	14.3	5.1			体部上半櫛Ⅰ種4直線文
783	NR06	96D	NR01No.558	細頸壺AかB					2	3						21.7				体部下半ヨコﾐｶﾞｷ、体部上半櫛Ⅱ種2+2+2
784	NR06	96D	NR01遺物集中区No.517	細頸壺C		c		1	9	10	10	1.8			5.8	17.2	6.2			体部上半細ﾀﾃﾊｹ後細ヨコﾊｹ、体部下半焼成後穿孔
785	NR06	96D	NR01	細頸壺C		d			1	7	3	2.7				21.0	5.4			体部上半三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
786	NR06	96D	NR01下層No.499	細頸壺		d			3	3	4					35.5	7.8			体部上半櫛Ⅱ種3+3直線文、焼成後穿孔
787	NR06	96D	NR01No.553	太頸壺A	1α		8	10						21.0	11.1					頸部櫛Ⅱ種3+2+2直線文
788	NR06	96D	NR01No.309	太頸壺B	1		10	4						18.6	9.8					頸部沈線直線文
789	NR06	96D	NR01No.329	太頸壺C	2		10	3						21.7	11.4					頸部櫛Ⅱ種2+2+3直線文
790	NR06	96D	NR01No.276	太頸壺B	2γ		8	7						19.3	9.5					口縁部内面ﾍﾗﾀﾃ刻み
791	NR06	96D	NR01No.555	太頸壺C	2β		2	1						20.9	10.7					頸部櫛直線文
792	NR06	96D	NR01No.557	太頸短頸壺A	2		1	10	1					12.2	7.6					頸部櫛Ⅰ種直線文後貝殻ﾀﾃ刻み後沈線直線文
793	NR06	96D	NR01No.226	太頸短頸壺A	1	b	8	10	8	8	10	5.2	29.3	13.2	8.0	23.7	6.2			体部上半櫛Ⅰ種7直線文
794	NR06	96D	NR01No.305	太頸壺D	4		5	2						24.0						口縁部凹線文条線内に沈線残る
795	NR06	96D	NR01遺物集中区No.338	太頸壺I				10							12.0					頸部櫛Ⅰ種7直線文・波状文
796	NR06	96D	NR01遺物集中区No.528	太頸短頸壺C		a	10	10	10	10	10	2.1	21.7	9.9	7.9	17.5	6.0			底部ﾅﾃﾞ
797	NR06	96D	NR01下層	太頸短頸壺C		a			3	8	10					24.0	7.0			体部上半ﾐｶﾞｷ斜格子文
798	NR06	96D	NR01No.518	太頸壺		c				1	10						7.7			
799	NR06	96D	NR01No.430	細頸壺AかB		a				5	10					18.5	5.0			底部木の葉圧痕
800	NR06	96D	NR01No.336	細頸壺AかB		b				9	10						6.2			底部木の葉圧痕
801	NR06	96D	NR01No.333	太頸壺		b				3	10						6.6			体部三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後施文
802	NR06	96D	NR01東肩No.495	太頸壺AかB		b			3	7	10					36.0	7.4			底部に籾圧痕
803	NR06	96D	NR01	大型鉢A			6		5	3		7.0		23.2	21.6	27.8				体部下半内面ヨコﾐｶﾞｷ
804	NR06	96D	NR01No.304	深鉢A			3			1				30.0	25.4	26.0				
805	NR06	96D	NR01遺物集中区No.496	有孔深鉢		a	10			10	10	7.3	29.3	29.4	27.1		6.1			底部焼成前穿孔
806	NR06	96D	NR01No.307	深鉢B			5		5	10		4.8		23.4	21.0					
807	NR06	96D	NR01遺物集中区	深鉢B		b	8			8	10	3.1	22.2	20.6	20.0			8.2	3.0	底部焼成後穿孔
808	NR06	96D	NR01No.522	甕A	2	a	10		10	10	10	3.6	22.0	18.3	16.1	18.9	5.7			底部焼成後穿孔
809	NR06	96D	NR01下層No.330	甕A	2		3		4	5		2.9		16.2	15.7	18.0				体部内面板ヨコﾅﾃﾞ

第10表　弥生土器観察表8

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
810	NR06	96D	NR01No.328	甕A	1	a	8		9	10	10	3.5	24.6	17.8	15.6	18.7	6.2			底部ﾅﾃﾞ、焼成後穿孔
811	NR06	96D	NR01No.337,345	甕B	1		7		6	5		3.9		18.8	16.0	18.6				
812	NR06	96D	NR01No.224,286	甕C	2		3		3	1				21.4	19.5	23.9				
813	NR06	96D	NR01No.341	甕F	2	b？	9		10	5		4.5		19.7	17.6	20.6				底部焼成後穿孔
814	NR06	96D	NR01No.503	甕H？	2		10		10	9		3.3		16.4	13.8	18.3				体部上半細ﾖｺﾊｹ、ﾊｹﾀﾃ刻み
815	NR06	96D	NR01	甕		d					10							6.2	1.3	
816	NR06	96D	NR01No.320	甕		d					10							7.3	1.4	
817	NR06	96D	NR01No.463	甕		d					10							7.3	1.8	
818	NR06	96D	NR01No.414	甕		b					10							7.9	2.5	
819	NR06	96D	NR01No.228,337	甕		a					10						5.1			底部ﾅﾃﾞ、焼成後穿孔
820	NR06	96D	NR01No.514	甕G	3	a	3		4	4	10	5.6	28.9	21.7	18.2	21.0	5.3			底部細ﾊｹ、焼成後穿孔、 体部上半三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
821	NR06	96D	NR01	甕G	1		10		3	1				18.8	16.6	18.2				体部細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
822	NR08	95Ca	SD03(1面)土器15	細頸壺A	2		10	10						9.1	5.5					頸部楕Ⅱ種2+2+2+2直線文
823	NR08	95Ca	SD03(1面)土器14,16	細頸壺C	2		3	3						12.3	7.0					頸部楕Ⅱ種2+2+2+2+2直線文
824	NR08	95Ca	SD03(1面)土器14	太頸壺B	2β		2	3						23.6	14.0					頸部楕Ⅱ種2+3直線文
825	NR08	95Ca	SD03(1面)土器11	細頸壺AかB		b				2	10					21.6	4.0			体部下半帯状浮文2帯、上面櫛刻み
826	NR08	95Ca	SD03(1面)土器7	太頸壺		d			3	2	1					37.0	8.0			体部上半楕Ⅱ種2+3直線文・波状文
827	NR08	95Ca	SD03(1面)土器21	太頸壺		d				1	5						8.4			
828	NR08	95Ca	SD03(1面)土器19	甕F	2		4		6					18.2	16.0	20.0				
829	NR08	95Ca	SD03(1面)土器5	甕E	1		2		1					21.8	20.6	22.6				
830	NR08	95Ca	SD03(1面)土器6	甕A	1		3		2					34.0	31.0					
831	NR08	95Ca	SD03(1面)	甕E	2	a	6		6	5	7	7.6	28.1	21.3	19.9	23.5	5.4			底部ﾅﾃﾞ後沈線文三角形
832	NR08	95Ca	SD03土器20	甕F	4		6		3	3		18.2		31.6	29.4	34.0				
833	NR08	95Ca	SD03(1面)土器21	甕F	2		9		8	8		23.8		32.0	28.0	36.0				
834	NR02	96B	NR01(下層)No.3	細頸壺D						1										体部上半複合櫛波状文
835	NR03	96C	NR02最下層	細頸壺AかB						1										体部上半楕Ⅰ種波状文、ﾐｶﾞｷ直線文
836	NR04	95F	NR01下層	太頸壺					1	1										体部上半楕Ⅱ種直線文・斜格子文
837	NR06	96D	NR01	太頸壺					1											体部上半楕Ⅰ種直線文・波状文・山形刻み
838	NR06	96D	NR01	壺						1										体部上半楕Ⅰ種波状文
839	SE01	95Aa	SK10土器1	太頸壺	3	d		2	3	4	10	18.5			11.0	36.0	8.0			体部上半楕Ⅱ種2+2+3直線文・波状文
840	SE01	95Aa	SK10土器2	細頸壺C		d			8	8	10	5.9				26.3	7.0			
841	SE01	95Aa	SK10	甕E	2	a	1		2	2	10	4.5	25.9	17.0	15.4	24.6	6.0			底部ﾅﾃﾞ
842	SE01	95Aa	SK10土器3	甕F	2	a	10		10	10	10	5.1	26.4	18.5	16.6	21.6	5.0			底部ﾅﾃﾞ
843	SK02	95F	SK14	甕E	2		3		1					19.6	16.4					
844	SK03	95F	SK06土器2	細頸壺C	4		5	3						8.2	5.5					
845	SK03	95F	SK06	細頸壺A	3	a	7	10	10	10	10		26.8	9.0	5.0	20.5	5.4			体部上半楕Ⅰ種8直線文後垂下直線文
846	SK03	95F	SK06土器7,10	太頸壺			9	10						15.8	10.3					頸部沈線直線文4後円形浮文
847	SK03	95F	SK06	甕D	4		4		3	1				18.0	16.0	20.4				体部三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
848	SK03	95F	SK06土器10	甕		a				1	10						5.3			底部細ﾊｹ
849	SK03	95F	SK06土器4	甕		d				1	10							6.6	1.6	
850	SK03	95F	SK06土器4	甕E	2		5		5	2				18.4	16.7	19.5				
851	SK06	94Ab	SK34	太頸壺D	3		4	10	2					22.4	11.3					体部上半楕Ⅱ種2+2+2直線文・波状文
852	SK07	96D	SX01No.79	細頸壺A	3		10	8						8.3	5.1					頸部沈線直線文3
853	SK07	96D	SX01No.84	細頸壺AかB	2			4							5.6					頸部楕Ⅰ種6直線文
854	SK07	96D	SX01No.84	細頸壺AかB	2			8							4.2					頸部楕Ⅰ種5波状文、D字刻み
855	SK07	96D	SX01No.96	太頸壺	3			1	2						14.0	41.0				体部上半楕Ⅱ種2+2+3+2直線文
856	SK07	96D	SX01No.41	細頸壺		c				1	3						5.5			底部ﾅﾃﾞ
857	SK07	96D	SX01No.78,88	甕E	1		5		4	2				18.8	16.6	19.2				
858	SK07	96D	SX01No.40	甕D	1		9		8	2				12.8	11.8	13.0				体部細ﾅﾅﾒﾊｹ後三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ
859	SK07	96D	SX01No.48	甕B	1		2		1					20.4	18.3					
860	SK07	96D	SX01No.46	甕		a				2	10						7.6			底部細ﾊｹ
861	SK07	96D	SX01No.(中層)	甕		a				2	10						4.0			
862	SK10	93Aa	SK09	受口太頸壺	2		8	8						18.2	10.4					頸部楕Ⅰ種ﾀﾃ刻み・直線文
863	SK10	93Aa	SK09	太頸壺B	β		2							23.0						口縁部内面楕Ⅰ種羽状刻み
864	SK10	93Aa	SK09	太頸壺	1			5							10.2					頸部楕Ⅰ種直線文、ﾀﾃ刻み
865	SK10	93Aa	SK09	細頸壺C		d			3	4	1	3.2				20.8	6.2			
866	SK10	93Aa	SK09	太頸壺		c					5						7.8			
867	SK10	93Aa	SK09	細頸壺C		d			2	3	5	3.1				20.8	6.4			底部細ﾊｹ
868	SK10	93Aa	SK09	細頸壺AかB					3	1	1	1.4				16.8				
869	SK10	93Aa	SK09	甕D	4		2		1					20.0	17.6					体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
870	SK10	93Aa	SK09	甕F	4		2		1					21.8	19.4					
871	SK10	93Aa	SK09	甕E	4	a	5		5	6	10	6.6	30.1	18.3	16.0	22.6	4.6			底部2本の線状圧痕
872	SK10	93Aa	SK09	甕		e					10							7.1	2.5	底部焼成後穿孔
873	SK10	93Aa	SK09	甕I		f					5							8.4	3.6	
874	SK12	93Aa	SK120	深鉢B		a	1				4	1.2	13.7	18.0	16.5	13.6	6.8			底部木の葉圧痕
875	SK11	93Aa	SK23	細頸壺C	4	d	8	8	4	7	10	4.1	28.7	9.4	6.0	22.1	6.1			頸部沈線直線文3
876	SK11	93Aa	SK23	細頸壺C			2	1						9.8						
877	SK11	93Aa	SK23	細頸壺C		d			8	7	10	3.5				21.8	6.6			体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
878	SK11	93Aa	SK23	甕C	2		8		3					22.4	20.3	25.2				
879	SK11	93Aa	SK23	甕A	2		1		1					17.8	16.8					
880	SK11	93Aa	SK23	大型鉢B			1		4	6	10	11.9	29.0	27.0	24.0	30.5	7.8			体部下半ﾀﾃﾐｶﾞｷ
881	SK11	93Aa	SK23	甕		a				1	3						5.2			底部平ﾅﾃﾞ
882	SK11	93Aa	SK23	甕F	4		4		5	3		6.0		20.5	18.5	22.6				
883	SK11	93Aa	SK23	甕G	2		8		8	6		11.7		24.5	21.8	28.0				体部細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
884	SK11	93Aa	SK23	壺		a				4	10						5.2			体部下半三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
885	SK11	93Aa	SK23	深鉢A		a				1	4						7.2			底部布圧痕
886	SK11	93Aa	SK23	甕H	1	a	3		2	3	10	11.8	32.5	27.0	22.8	27.8	6.8			体部細ﾅﾅﾒﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
887	SK11	93Aa	SK23	甕		e				1	10							6.4	2.1	
888	SK13	93Aa	SK110	細頸壺B	2		1	5						9.0	4.9					口縁部～頸部楕Ⅰ種7直線文
889	SK14	93Aa	SK106	太頸壺	1		3	8							8.4					体部上半楕Ⅱ種2+2+2+2直線文・垂下直線文
890	SK14	93Aa	SK106	甕D	2		2		2					23.4	21.2	25.2				体部細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
891	SK18	95Aa	SK17	太頸壺C	γ		1							18.2						口縁部内面貝殻刻み
892	SK18	95Aa	SK	甕A	1		1							23.2	22.0					
893	SK18	95Aa	SK17	甕		a				1	1									
894	SK17	93Aa	SK27	細頸壺A	1		10	3						6.9	4.9					頸部楕Ⅰ種5直線文後垂下直線文
895	SK17	93Aa	SK27	細頸壺C	2		5	3						7.8	5.0					
896	SK17	93Aa	SK27	細頸壺C			2							8.6						口縁部凹線文後楕ﾅﾅﾒ刻み
897	SK17	93Aa	SK27	細頸壺D					2	1		1.7				17.2				体部上半楕Ⅱ種2+2+2+2直線文・波状文
898	SK17	93Aa	SK27	太頸短頸壺D	3		2	1						15.2	8.6					口縁端部部分刻み
899	SK17	93Aa	SK27	太頸壺B	γ		1	1						24.0						口縁部内面楕Ⅰ種8扇形文
900	SK17	93Aa	SK27	太頸短頸壺E			2	1						10.6	9.5					
901	SK17	93Aa	SK27	細頸壺				10	1						5.4					体部上半楕Ⅰ種5直線文
902	SK17	93Aa	SK27	太頸壺	2			5	1						8.8					頸部楕Ⅰ種12直線文・波状文
903	SK17	93Aa	SK27	太頸壺D	4		2	1						15.2						
904	SK17	93Aa	SK27	太頸壺D	4		1	1						16.6						
905	SK17	93Aa	SK27	太頸壺D	4		2	1						16.0						
906	SK17	93Aa	SK27	太頸壺D			1							19.8						
907	SK17	93Aa	SK27	鉢A			3			6	10	2.2	10.8	20.5		21.9	6.0			口縁部楕Ⅰ種ﾅﾅﾒ刻み後凹線文
908	SK17	93Aa	SK27	細頸壺AかB		b				1	7						5.7			底部木の葉圧痕
909	SK17	93Aa	SK27	太頸壺		d				1	3						7.0			
910	SK17	93Aa	SK27	細頸壺		c					2						4.8			

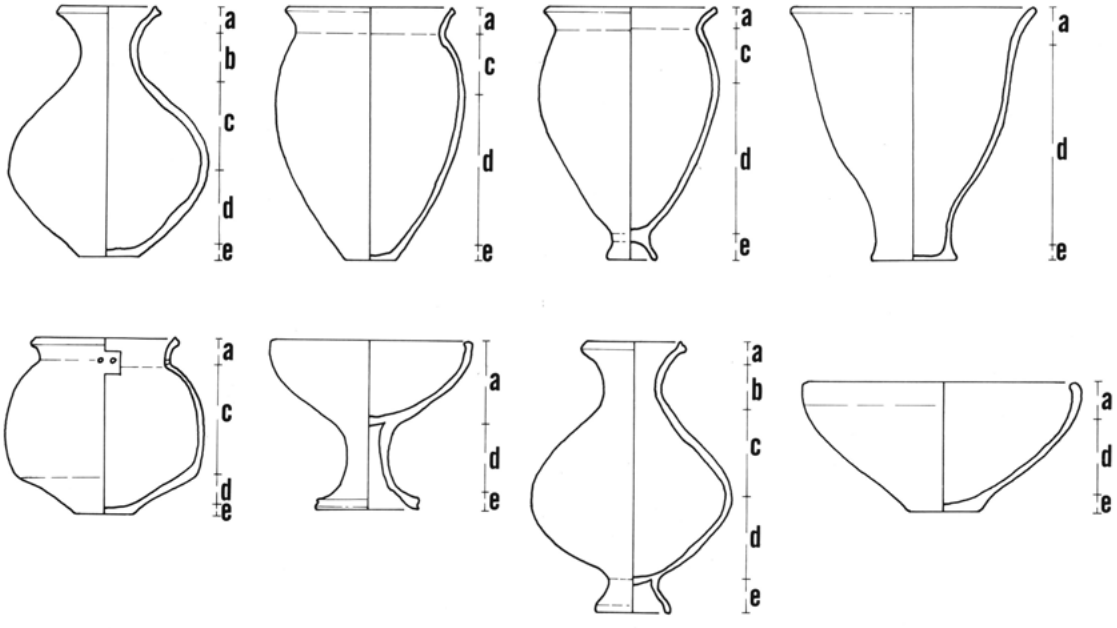
第11表　弥生土器観察表9

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口頸分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
911	SK17	93Aa	SK27	細頸壺		d					2						5.0			
912	SK17	93Aa	SK27	細頸壺		d				1	10						5.8			
913	SK17	93Aa	SK27	深鉢A			1													
914	SK17	93Aa	SK27	深鉢B			10			6		3.0		21.6	20.2					体部細ﾀﾃﾊｹ
915	SK17	93Aa	SK27	甕I	1		2		1					25.0	21.3					
916	SK17	93Aa	SK27	甕			1							14.5	12.2					
917	SK17	93Aa	SK27	甕			2							16.0						
918	SK17	93Aa	SK27	甕C	1		1		1					15.0	12.8					
919	SK17	93Aa	SK27	甕A	4		1		10	5				15.4	14.3					
920	SK17	93Aa	SK27	甕F	1		9		1					16.4	14.3	16.6				
921	SK17	93Aa	SK27	甕A	2		3		1					17.2	15.9	18.5				
922	SK17	93Aa	SK27	甕C	1		3		1			4.3		19.5	17.8	20.4				体部内面板ﾖｺﾅﾃﾞ
923	SK17	93Aa	SK27	甕C	1		1		1					28.4	26.4	28.6				
924	SK17	93Aa	SK27	甕E	3		2		1					16.1	12.6					
925	SK17	93Aa	SK27	甕E	2		2		1					17.0	15.0					
926	SK17	93Aa	SK27	甕F	4		1		1					22.6	19.7	22.9				
927	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	10						5.8			底部ﾅﾃﾞ
928	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	10						4.8			
929	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	3						4.8			
930	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	4						7.0			底部ﾅﾃﾞ
931	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	2						6.0			底部ﾅﾃﾞ
932	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	2						6.4			底部ﾅﾃﾞ
933	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	2						5.2			底部ﾅﾃﾞ
934	SK17	93Aa	SK27	甕		a				1	5						7.2			
935	SK17	93Aa	SK27	甕D	1	a	4		1	1	10	3.0	24.1	16.8	14.7	17.0	4.6			体部三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
936	SK30	93Bb	SK01	細頸壺C	2		6							9.4	7.2					頸部沈線直線文
937	SK30	93Bb	SK01	太頸短頸壺B			3	1						11.8	9.4					
938	SK30	93Bb	SK01	高杯B			5	7				1.6		21.4						脚部外面ﾀﾃﾅﾃﾞ
939	SK30	93Bb	SK01	太頸壺		d			5	5	10	28.6				42.2	8.0			体部上半櫛I種8波状文
940	SK30	93Bb	SK01	深鉢B			7			2				28.6	26.5					体部内面板ﾅﾃﾞ
941	SK30	93Bb	SK01	甕G	2	a	9		8	7	10	6.5	31.2	21.2	19.0	21.0	5.4			体部三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾀﾃﾊｹ
942	SK30	93Bb	SK01	甕D	2	a	2		2	2	10	4.2	25.6	17.0	15.0	19.2	5.3			体部上半台形ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
943	SK30	93Bb	SK01	甕G	4		10		5	3		3.0		15.6	13.4	18.5				
944	SK31	93Bb	SK03	太頸短頸壺C		d			7	5	10	6.5				25.8	6.6			体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
945	SK31	93Bb	SK03	深鉢A			2			3		4.8		27.5						口縁部内面櫛条痕ﾅﾅﾒ刻み
946	SK31	93Bb	SK03	甕A	1		9		9	9		4.9		20.6	18.5	21.4				
947	SK31	93Bb	SK03	甕A	1	a	3		2	1	3	4.2		20.2	18.1	20.2				
948	SK31	93Bb	SK03	甕C	4		8		8	8		5.1		19.9	17.2	22.2				
949	SK31	93Bb	SK03	甕E	2		3		4	4		3.9		17.0	15.2	17.6				
950	SK31	93Bb	SK03	甕G	4		8		9	4		4.4		19.8	17.2	20.0				
951	SK31	93Bb	SK03	甕F	2	a	5		4	7	10	5.9	26.9	18.8	16.9	22.2	4.8			底部細ﾊｹ、焼成後穿孔
952	SK31	93Bb	SK03	甕F	1		2		1					31.4	28.8	30.0				体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ
953	SK47	93Bb	SK50	甕H	2		3		2					22.2	19.2					体部上半櫛I種4波状文と刻み
954	SK47	93Bb	SK50	甕		a				1	10						5.1			底部木の葉圧痕、焼成後穿孔
955	SK49	94Cb	SK09	細頸壺B	1		2	10						11.8	6.0					口縁部櫛II種4+4波状文
956	SK49	94Cb	SK09	太頸壺	2			6							10.0					頸部沈線直線文後貝殻ﾀﾃ刻み
957	SK49	94Cb	SK09	細頸壺AかB					9							28.9				体部上半櫛II種3+3直線文
958	SK49	94Cb	SK09	甕F	4		5		3	1				17.8	16.3	21.0				
959	SK49	94Cb	SK09	甕D	4	a	10		7	6	6		29.0	21.5	19.2	23.4	5.7			体部上半台形ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ後台形帯状ﾖｺﾀﾀｷ
960	SK50	94Cb	SK11	太頸壺E	2		5	7						17.8	9.8					頸部櫛II種2+2+2+2直線文
961	SK50	94Cb	SK11	細頸壺AかB					8	1						20.3				体部上半櫛II種2+3直線文
962	SK50	94Cb	SK11	細頸壺C		d			3	5	5					21.2	7.0			底部細ﾊｹ
963	SK62	94Cb	SK59	受口太頸壺	2		7	10	2	1				20.4	11.9					頸部～体部上半櫛II種2+2+2直線文
964	SK55	94Cb	SK18	甕		e				1	7							7.5	2.9	
965	SK65	94F	SK12	太頸壺G	2		3	5	3	4				19.8	10.8	47.5				頸部～体部上半沈線波状文・斜格子文
966	SK78	95Cb	SK04	太頸壺				1	4	2		25.3				40.8				体部上半櫛II種2+2直線文
967	SK96	94Bb	SK23	太頸壺D	4		4	1						18.4						口縁部凹線文後櫛付加文
968	SK96	94Bb	SK23	太頸短頸壺B			3	1						13.0	10.6					
969	SK96	94Bb	SK23	細頸壺		e					10							9.4	1.3	脚端部凹線文2条
970	SK96	94Bb	SK23	深鉢A			1			1				29.0						口縁部内面櫛条痕ﾅﾅﾒ刻み後波状文
971	SK79	95Cb	SK12	太頸壺G				6							11.4					頸部沈線斜格子文、ハの字文等
972	SK79	95Cb	SK12土器3	細頸壺C		d			4	5	10					22.0	6.3			
973	SK79	95Cb	SK12土器2	甕D	2		10		3					18.0	16.0	20.0				体部上半三角ﾖｺﾀﾀｷ後細ﾅﾅﾒﾊｹ
974	SK79	95Cb	SK12	甕E	2		10		8					21.1	19.5	22.8				
975	SK79	95Cb	SK12土器3	甕E	4		6		2					24.3	21.8	25.3				
976	包含層等	93Ab	検出II	深鉢A		a	2		1	5	5	5.6	26.3	24.0			7.2			
977	包含層等	95Aa	検出III土器群9	甕G	1	a	10		10	7	1		26.4	20.7	17.8	20.4	5.2			体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ
978	SK02	95F	SK14	細頸壺D						1										体部上半櫛II種3+3+3直線文
979	SK07	96D	SX01	細頸壺AかB					1											体部上半垂下C字刻み後ﾓｶﾞｷ直線文
980	SK17	93Aa	SK27	太頸壺			1													
981	SK17	93Aa	SK27	太頸壺				1												頸部櫛II種2+2+2直線文
982	SK17	93Aa	SK27	太頸壺				1												頸部沈線直線文後貝殻ﾀﾃ刻み
983	SK17	93Aa	SK27	細頸壺AかB					1											体部上半櫛I種6垂下波状文後ﾐｶﾞｷ直線文
984	SK17	93Aa	SK27	太頸壺					1											体部上半櫛I種8直線文・波状文
985	SK17	93Aa	SK27	太頸壺					2											体部上半櫛I種8直線文・波状文・扇形文
986	SK17	93Aa	SK27	深鉢A						1										
987	SK96	94Bb	SK23	太頸壺					1											体部上半櫛I種9直線文・波状文
988	SK96	94Bb	SK23	太頸短頸壺H					1											体部上半櫛III種直線文と方形区画文
989	その他	93Aa	SK07	甕F	1		7		3			2.3		17.4	15.5	16.6				
990	その他	93Aa	SK123	太頸短頸壺			8	10	1					9.0	8.6					体部上半複合櫛直線文
991	その他	93Aa	SK123	甕F	3	a	1		2	2	10	5.0	24.7	21.6	19.2	21.4	5.2			
992	その他	93Aa	SK119	細頸壺C					2	2		3.3				22.1				底部ﾅﾃﾞ
993	SU01	93Aa	SX101No.4,5	細頸壺C	1		7			6	4				8.4	5.1	25.0			頸部沈線直線文3、体部上半細ﾅﾅﾒﾊｹ後三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ
994	SU01	93Aa	SX101No.1,5	細頸壺C	2	d	8	10	4	7	10			28.0	9.0	5.5	21.4	6.0		体部上半細ﾅﾅﾒﾊｹ後三角ﾅﾅﾒﾀﾀｷ
995	SU01	93Aa	SX101No.4	細頸壺D				5	7	4						4.0	18.4			体部上半櫛II種2+2+2+2直線文・波状文
996	SU01	93Aa	SX101No.3	細頸壺D					1	2	10						18.6	5.2		体部上半櫛II種2+2+2直線文
997	SU01	93Aa	SX101No.2	太頸短頸壺A	1		9	8	1					15.6	9.6					口縁端部指頭圧痕、頸部沈線直線文
998	SU01	93Aa	SX101No.1	太頸短頸壺H				1	3											体部上半櫛III種直線文・波状文
999	SU01	93Aa	SX101No.5	細頸壺		d				1	2						7.0			底部ﾅﾃﾞ
1000	SU01	93Aa	SX101No.4	甕C	2	e	10		2	8	10		29.6	20.0	18.1	21.7	8.3			
1001	SU01	93Aa	SX101No.5	甕E	2		2	1						26.6	24.5					
1002	SU01	93Aa	SX101No.1	甕		a				1	10						5.6			底部細ﾊｹ
1003	SB11	93Aa	SB105	甕?							1							15.4		脚部か?
1004	SB11	93Aa	SB105	甕			1	1						22.0	18.9					
1005	SB11	93Aa	SB105B	甕			2							25.8						
1006	SB11	93Aa	SB105	甕			2							26.0	23.5					
1007	SB11	93Aa	SB105	甕		a				1	4						5.9			底部ﾅﾃﾞ
1008	SB11	93Aa	SB105	甕		a					3						5.5			底部ﾅﾃﾞ
1009	SB11	93Aa	SB105	甕I		f					5									
1010	SB46	95Ba	SB03上層	太頸壺C	β		1													口縁端部櫛I種斜格子刻み
1011	SB35	95Ba	SB05	細頸壺		c					5						6.0			

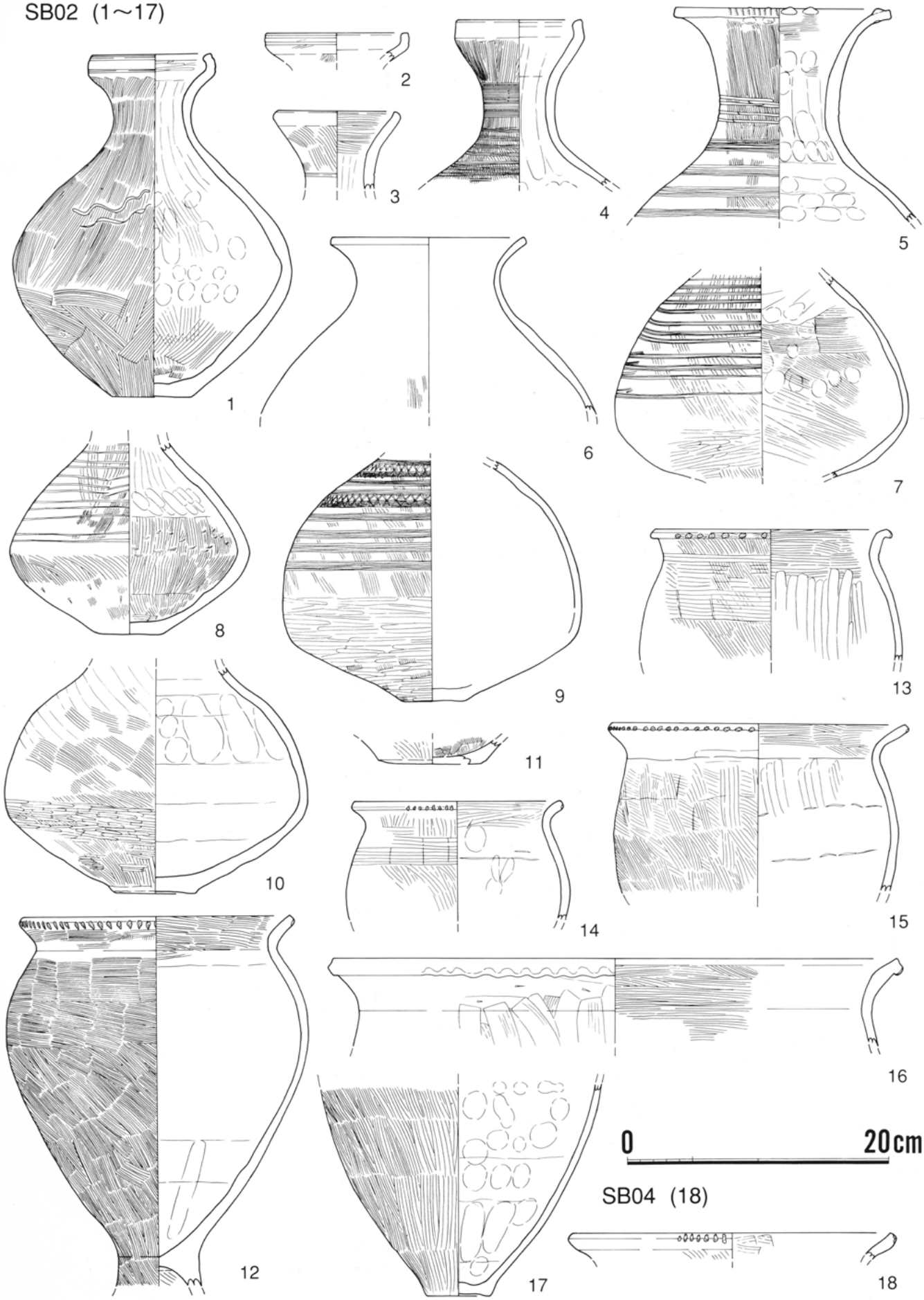
第12表　弥生土器観察表10

登録番号 E-	遺構番号	調査区	旧遺構番号	器形分類	口類分類	底部形態	残存状況 a	b	c	d	e	容量(l)	法量(cm) 器高	口径	頸部径	体部径	底径	脚台径	脚台高	備考
1012	SB38	95Ba	SB10	甕(E)	2		2	1						15.5	12.7					
1013	SB38	95Ba	SB10S	甕			1							28.0	23.7					
1014	SB66	95Ca	SB05	甕H			1													口縁端部外面細ヨコハケ
1015	SB71	95Ca	SB08	太頸壺		a					1						8.4			底部ナデ
1016	SB71	95Ca	SB08	甕F	4		1							21.6	19.3					
1017	SB71	95Ca	SB08	甕			1							19.2						
1018	SB90	95Cb	SB08	甕A	2		1							16.0	14.9					
1019	SB90	95Cb	SB08	甕			1							23.9						
1020	SB93	96A	SB02,SD07	甕C	2		4	1						20.0	18.0					体部内面板ナデ
1021		93Aa	SK15	細頸壺		d					1						5.5			
1022		93Aa	SK15	甕			1							15.0	13.3					
1023	SZ12	93Aa	SZ03西溝	太頸壺B			1													口縁端部櫛Ⅰ種10ﾀﾃ刻み
1024	SZ20b	95Ba	SD01	甕A	2		3		1					18.0	16.5	20.6				
1025	SZ20b	95Ba	SD01	甕B	2		2		1					20.0	18.0					
1026	SZ20b	95Ba	SD01	甕C	4		2		1					18.0	16.2					
1027		95Aa	土器群3	甕		e				1	10							7.7		底部焼成後穿孔
1028	SB15 SX69	93Aa	SB104 SK02	甕H			1							19.2	15.3					口縁端部外面細ﾅﾅﾒﾊｹ
1029	SX22	94Aa	SK23	太頸壺		d				3	6						7.4			底部細ﾊｹ
1030	NR04	95F	NR01上層S	太頸壺D？			1	2						23.6						口縁端部櫛Ⅰ種9波状文
1031	NR03	96C	NR02No.12	細頸壺B	2～3		10	5						9.0	5.5					頸部櫛Ⅰ種5直線文・ﾀﾃ刻み
1032	NR03	96C	NR02No.88	細頸壺		d				2	3						4.0			
1033	NR03	96C	NR02No.13	甕	2		5	1						19.6	17.3					
1034	NR03	96C	NR02No.13	甕		a				1	5						6.0			底部ナデ
1035	NR03	96C	NR02No.97	甕		d				2	7							7.2		
1036	NR03	96C	NR02No.10	甕		b				1	8							8.0	3.5	
1037	NR06	96D	NR01No.126	細頸壺AかB					6	8	10					16.4	3.6			体部ﾐｶﾞｷ直線文の損跡あり
1038	SB13	93Aa	SD06	細頸壺					1											体部上半櫛Ⅰ種8直線文
1039	SD03	95Aa	SD04西側検出Ⅱ	鉢A			2							22.0		22.4				
1040	SD03	95Aa	SD04	深鉢A			1							22.0						
1041	SD03	95Aa	SD04西側検出Ⅱ	甕		a					1						6.0			底部ナデ
1042	SZ18	95Ac	SD01	甕			1													
1043		95Ba	SD04	細頸壺C	2		4	1						10.1						口縁端部櫛Ⅰ種7ﾀﾃ刻み後沈線直線文
1044		95Ba	南北SD	甕		a					2						5.6			底部ナデ
1045	SD19	95Cb	SD03	甕C	2		2							21.8	20.4					
1046	SD19	95Cb	SD03	甕I							6						5.8			底部ナデ
1047	SD16	95E	SD02	甕			1													
1048		93Aa	SZ101No.5	細頸壺C					3	2						20.0				体部上半細ﾀﾃﾊｹ後三角ﾖｺﾀﾀｷ

第13表　弥生土器観察表11



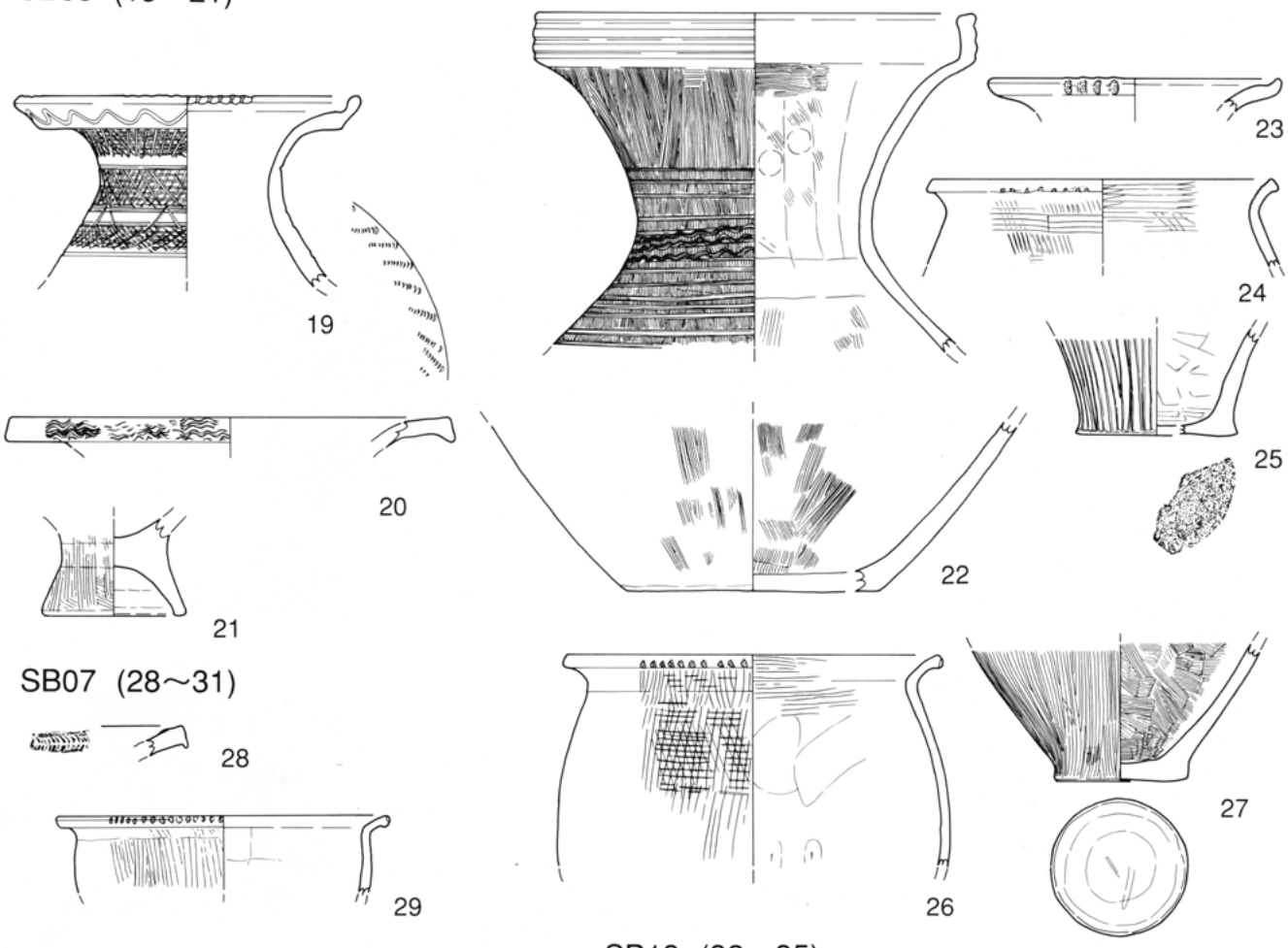
第14図　弥生土器残存状況計測部位
（計測は1～10の10段階に分けて行った。）



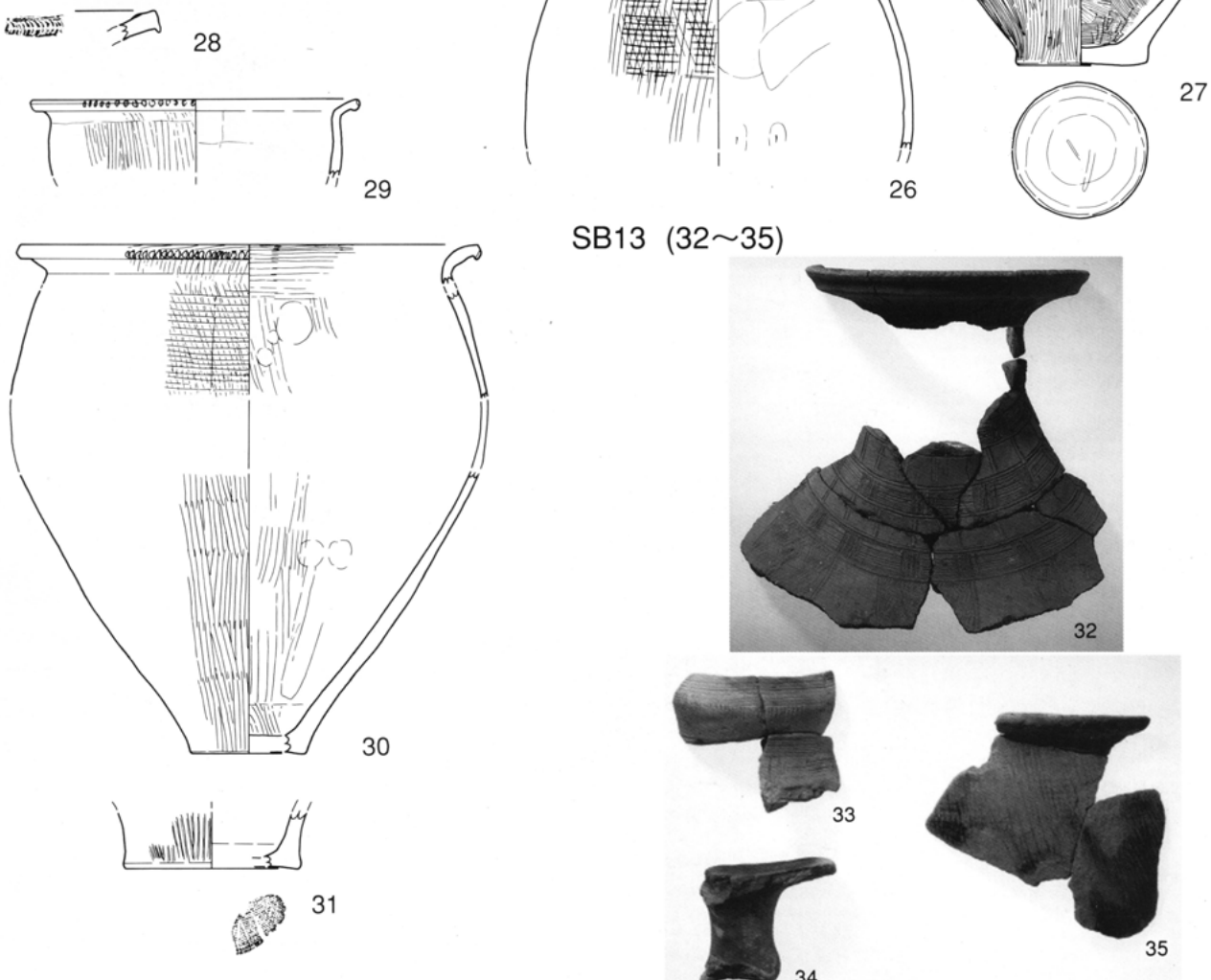
第15図　弥生土器実測図1（1：4）

SB08 (19～21)

SB09 (22～27)



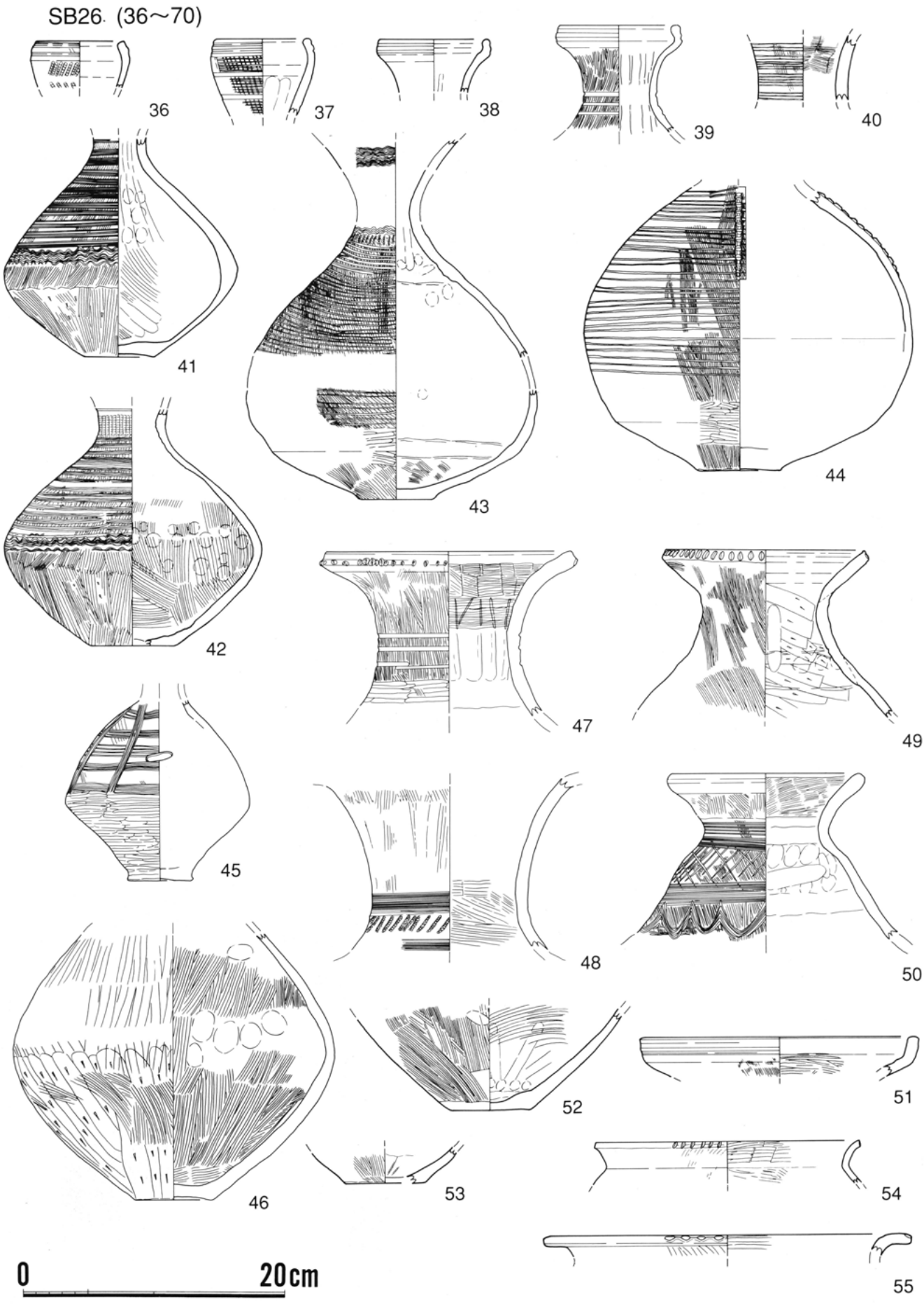
SB07 (28～31)



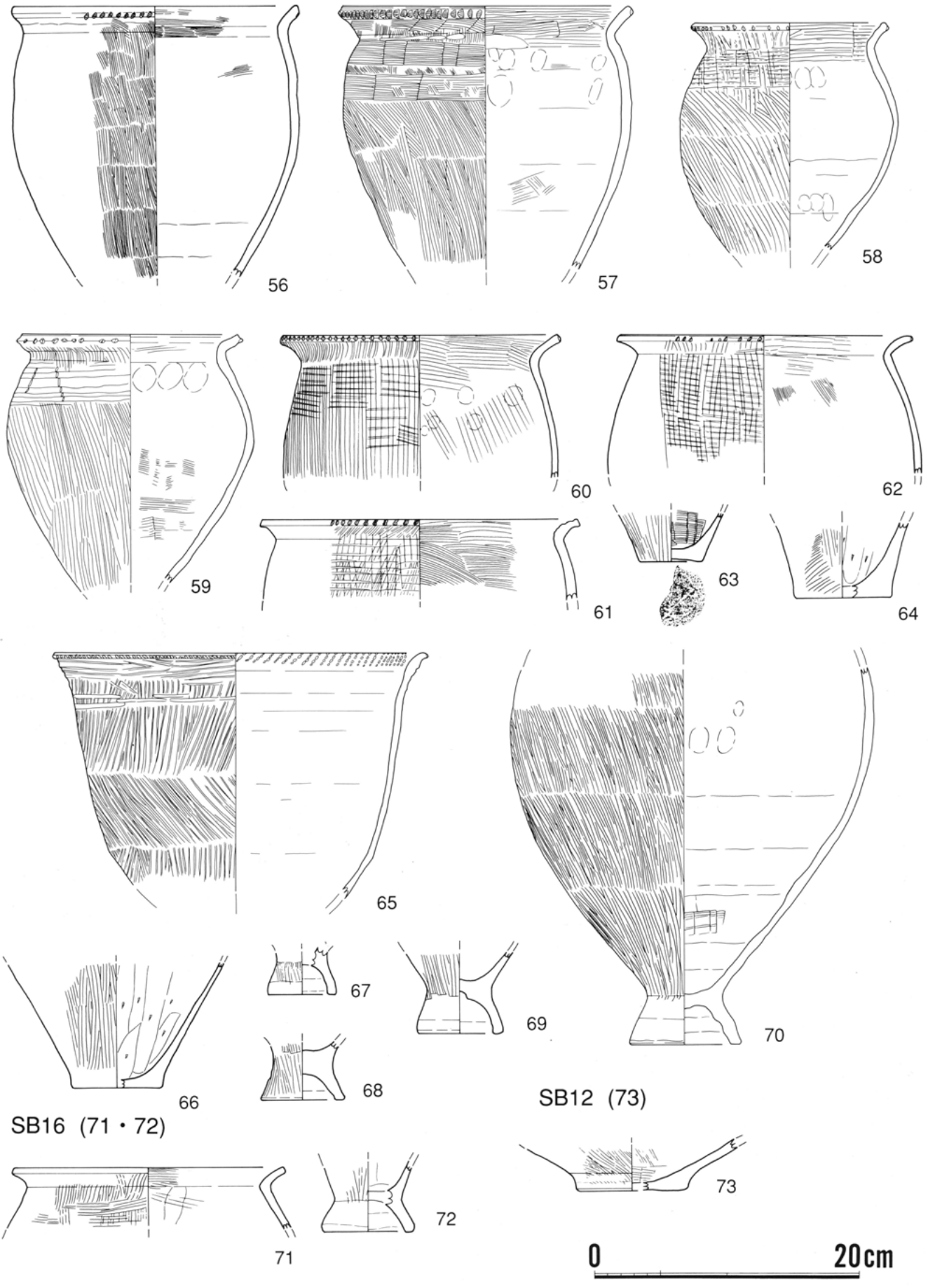
SB13 (32～35)

0 20cm

第16図　弥生土器実測図2（1：4）、写真1・2

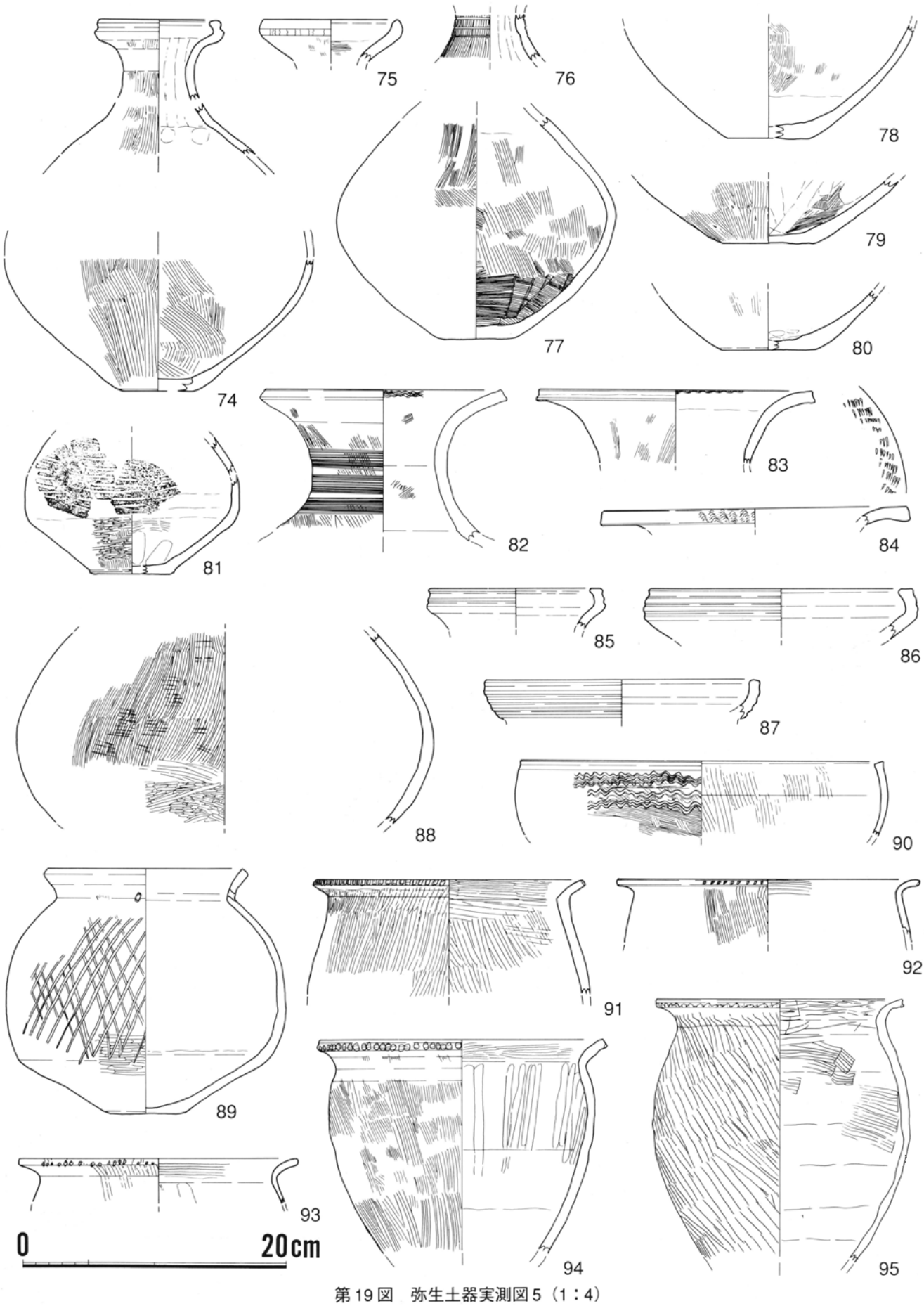


第17図　弥生土器実測図3（1：4）

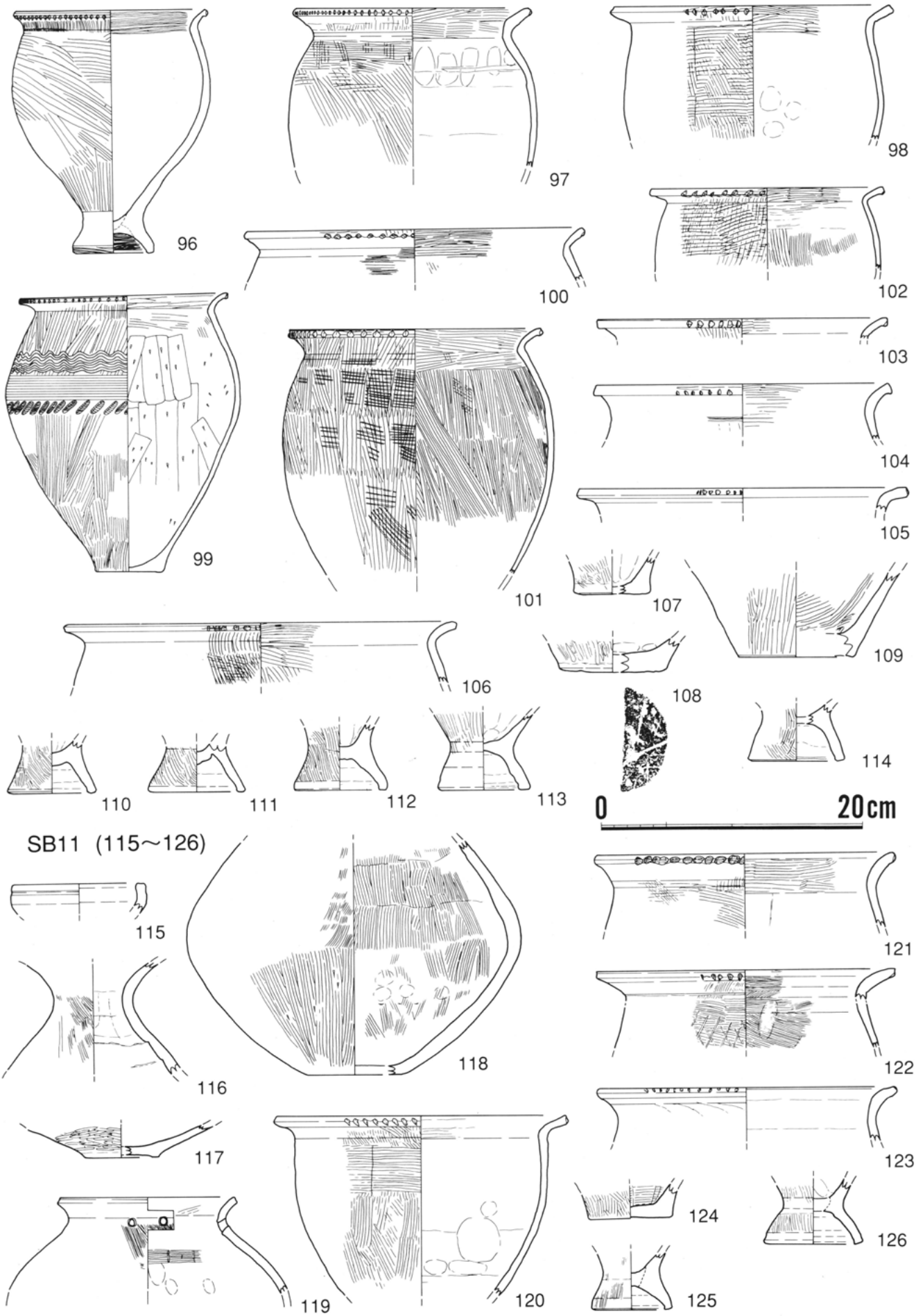


第18図　弥生土器実測図4（12:4）

SB15 (74～114)

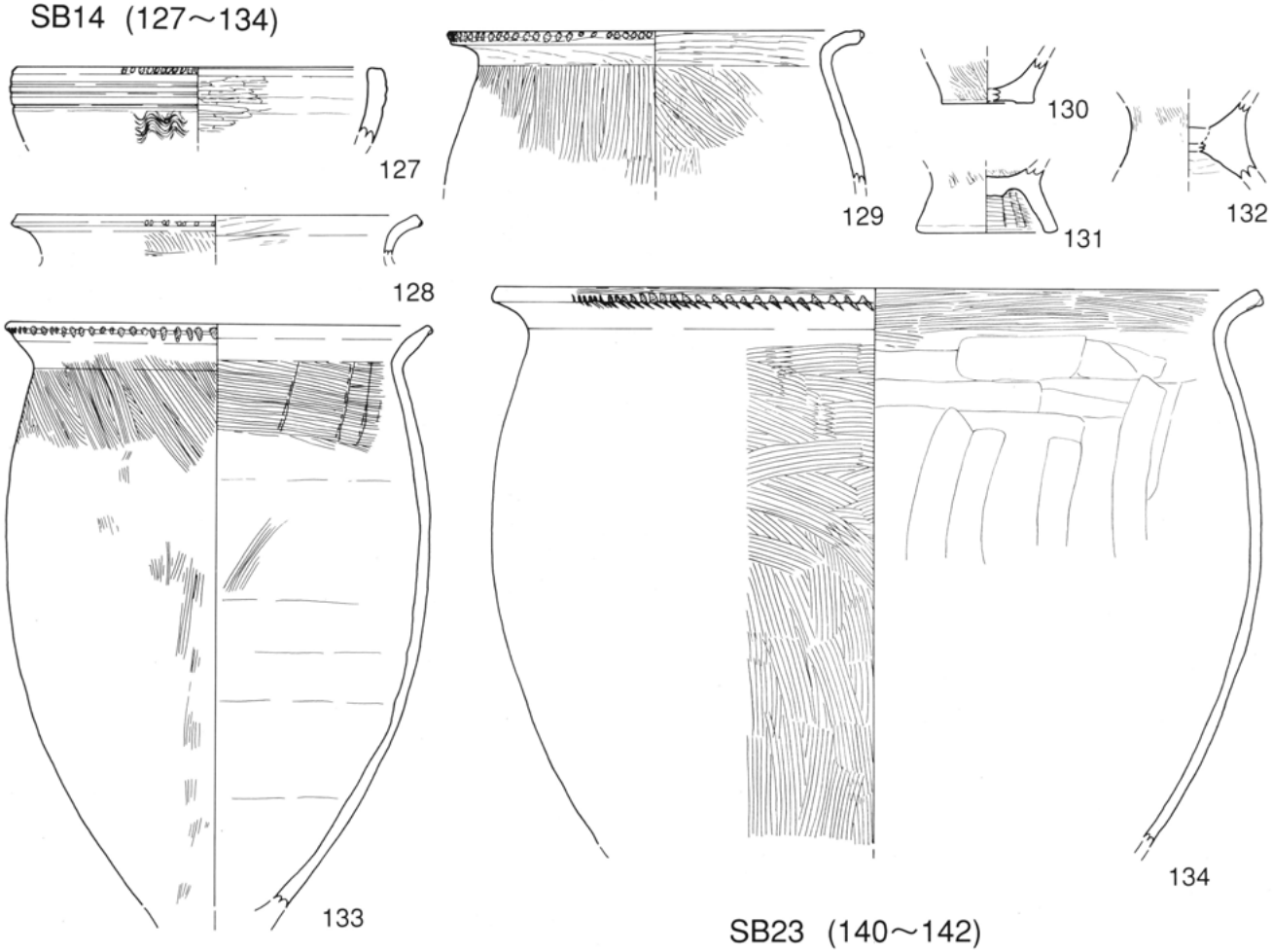


第19図　弥生土器実測図5（1：4）



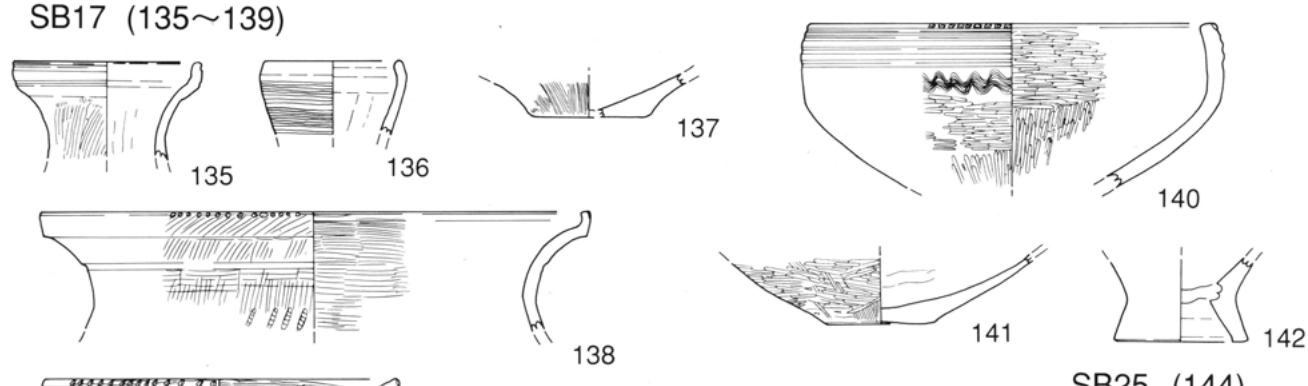
第20図　弥生土器実測図6（1：4）

SB14 (127～134)



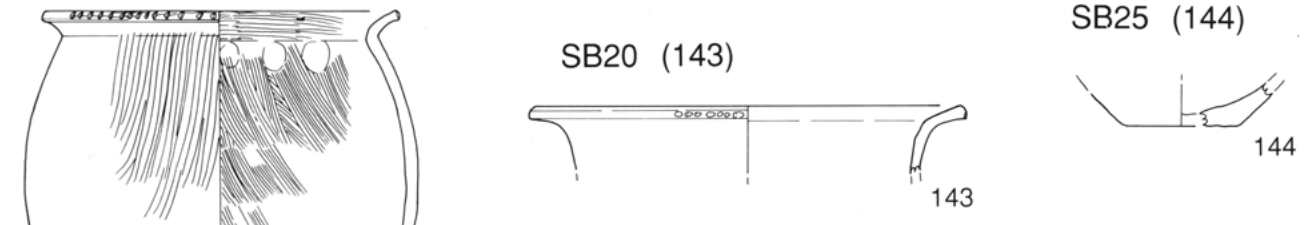
SB17 (135～139)

SB23 (140～142)

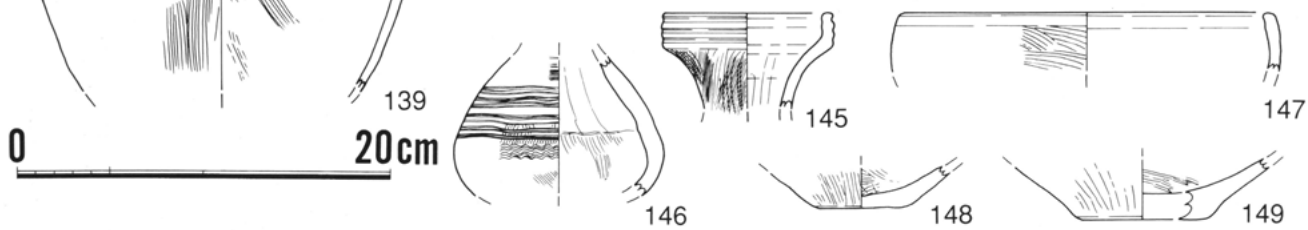


SB20 (143)

SB25 (144)

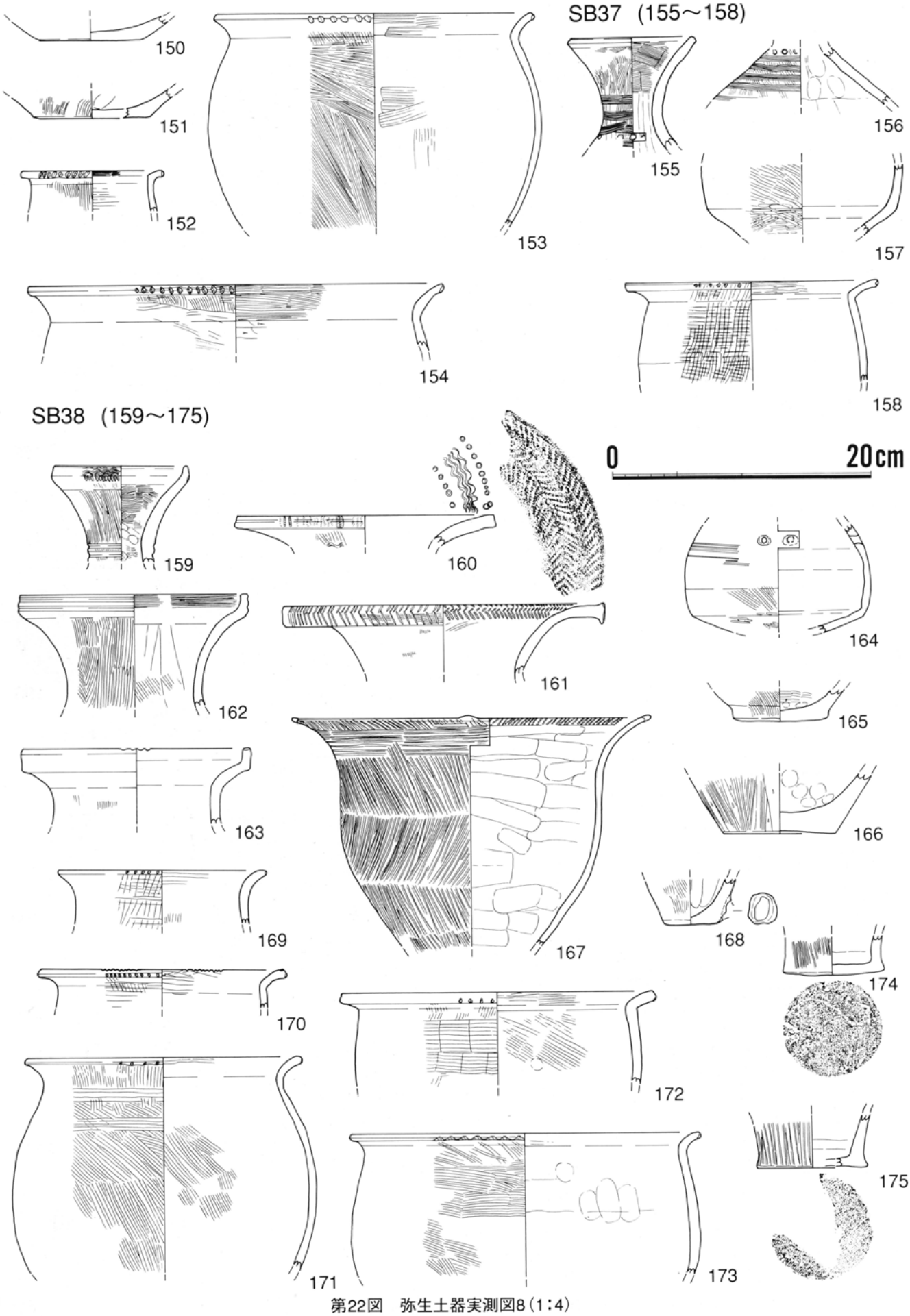


SB28 (145～154)

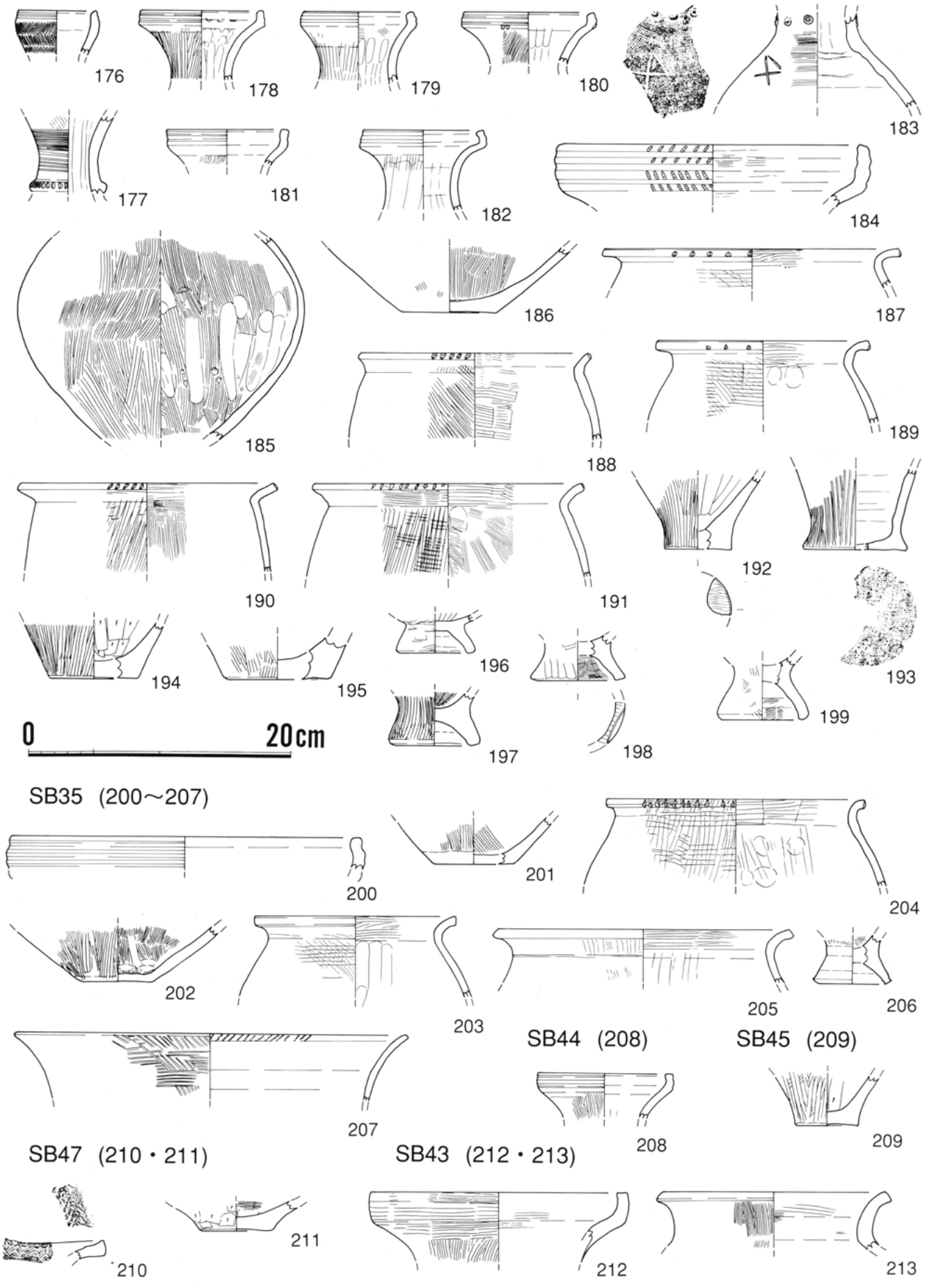


0 20cm

第21図　弥生土器実測図7（1：4）

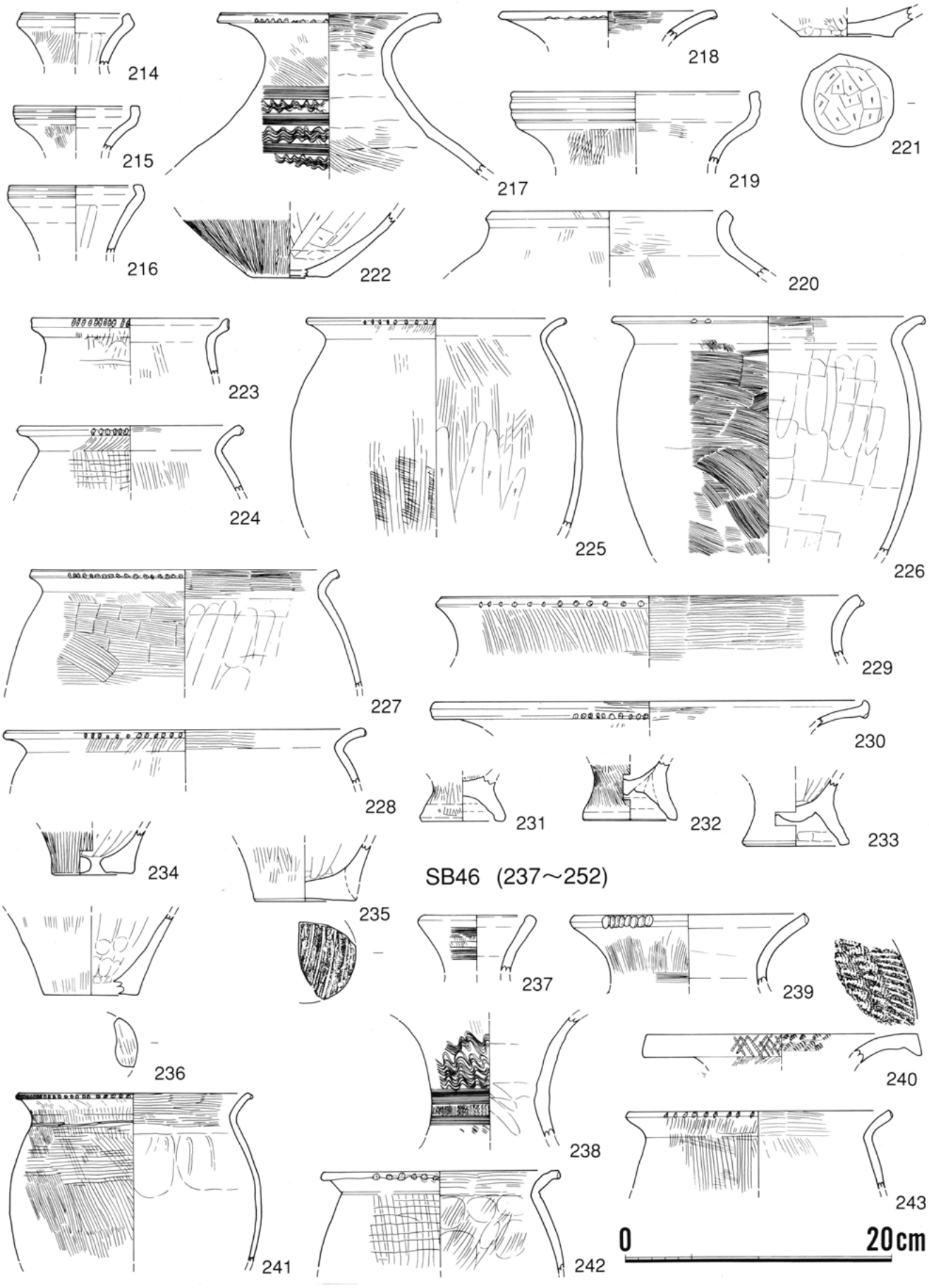


第22図　弥生土器実測図8（1:4）



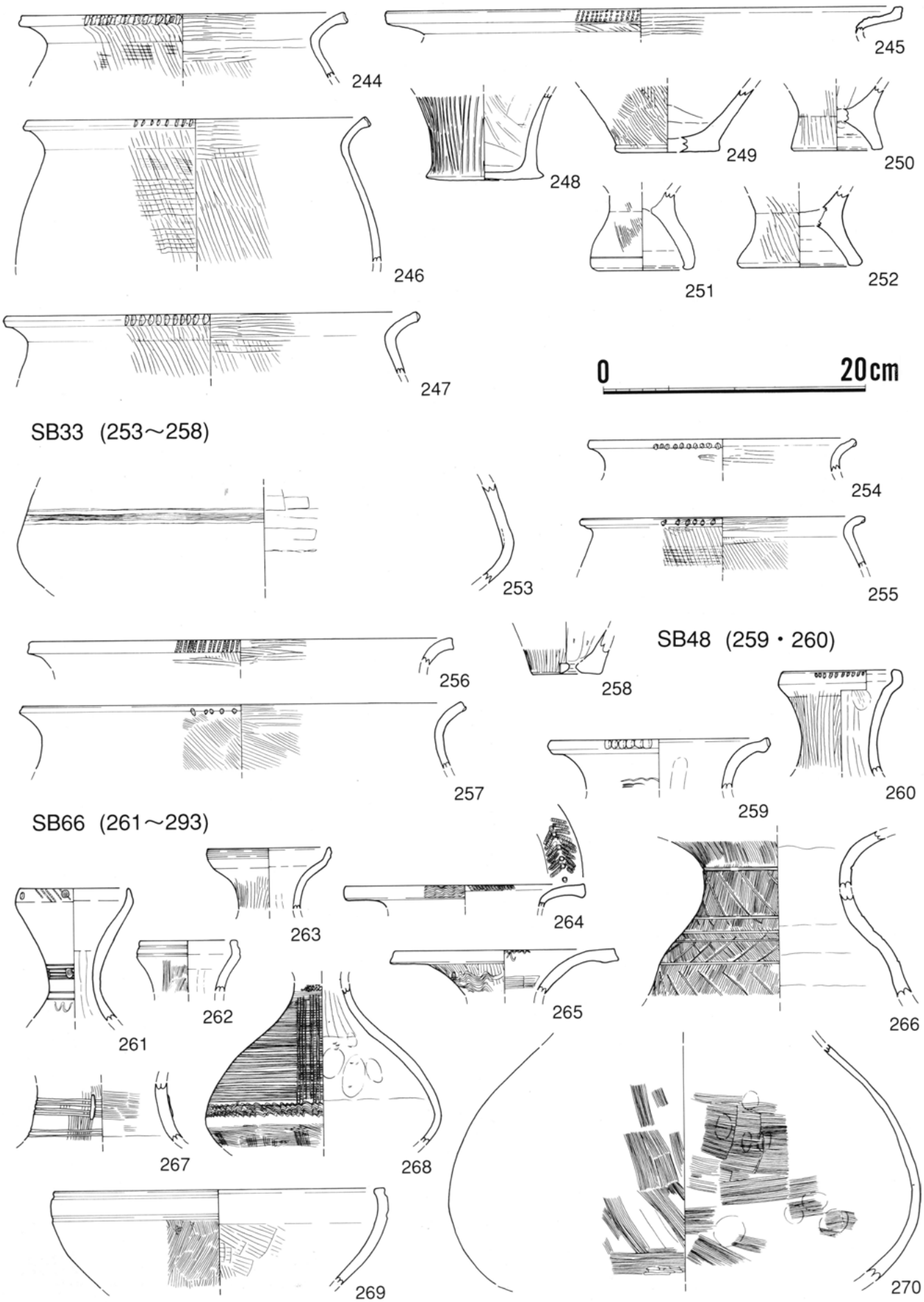
第23図　弥生土器実測図9（1：4）

SB41 (214～236)

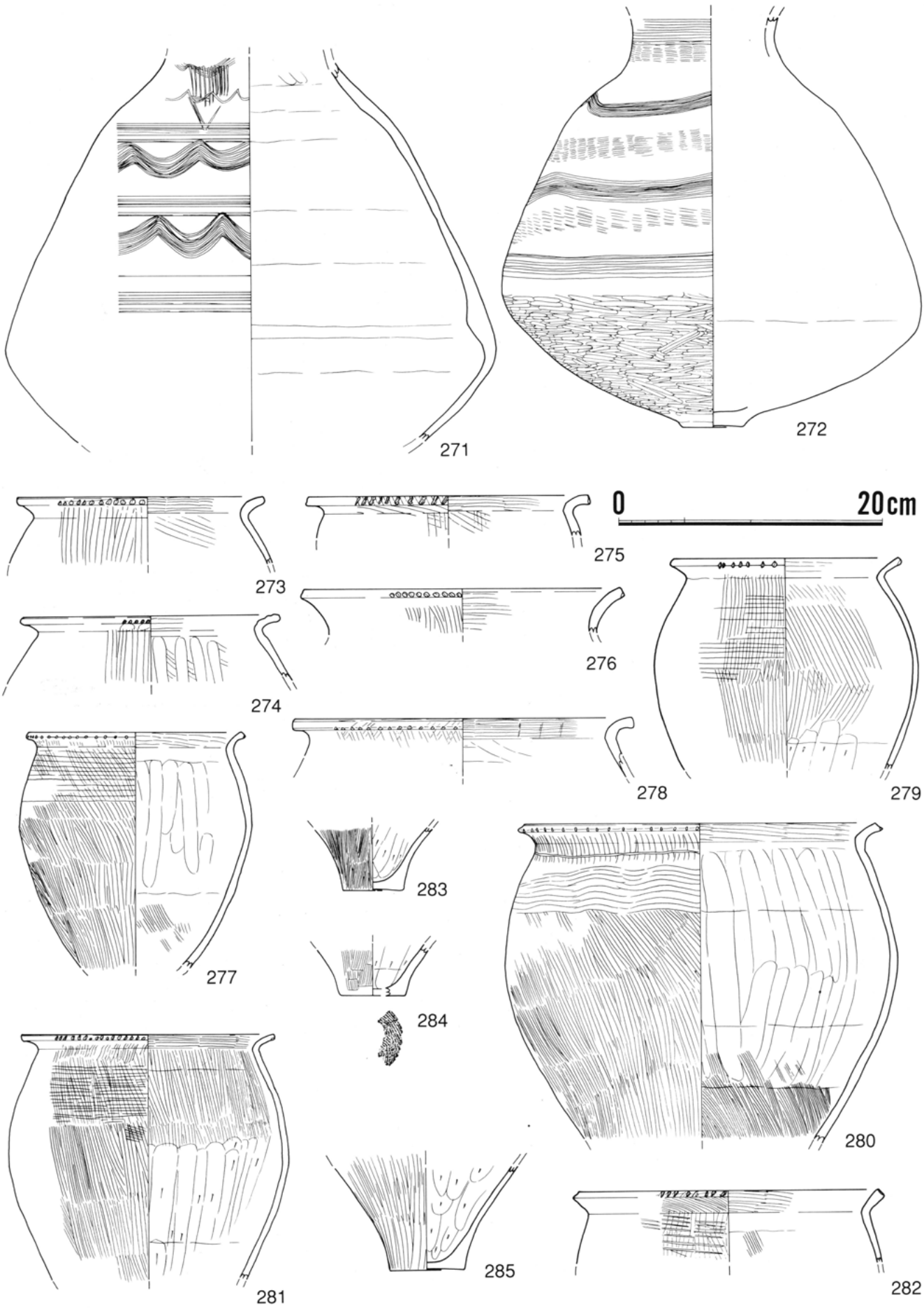


SB46 (237～252)

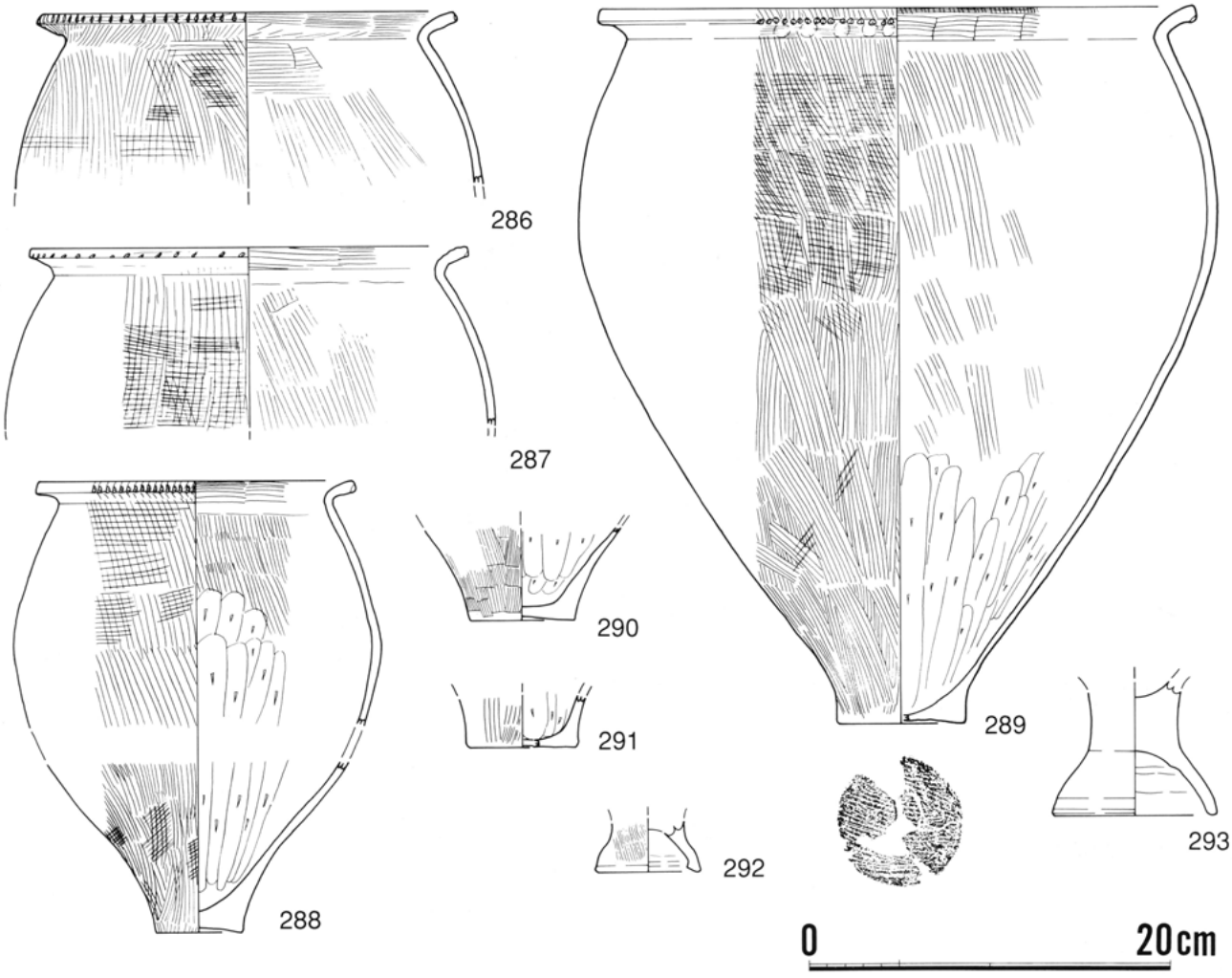
第24図　弥生土器実測図10（1：4）



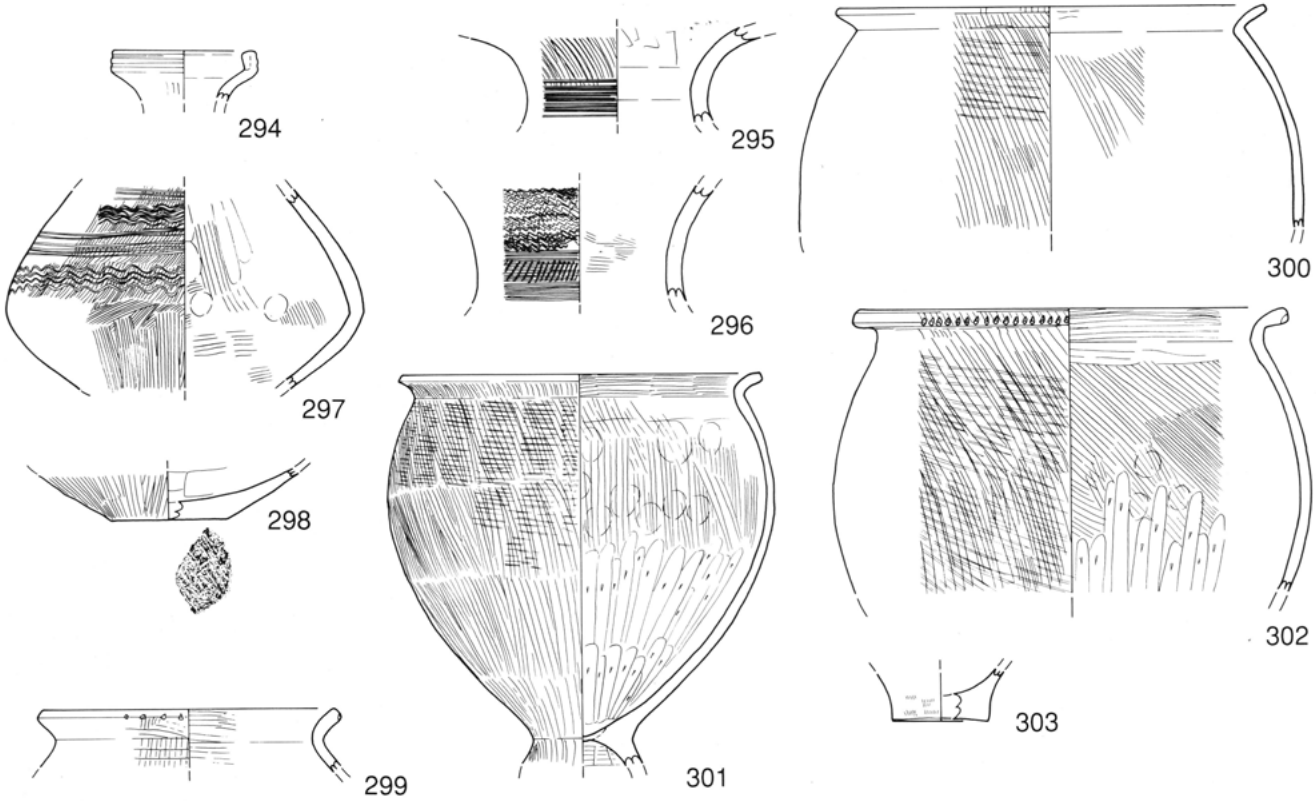
第25図　弥生土器実測図11（1：4）



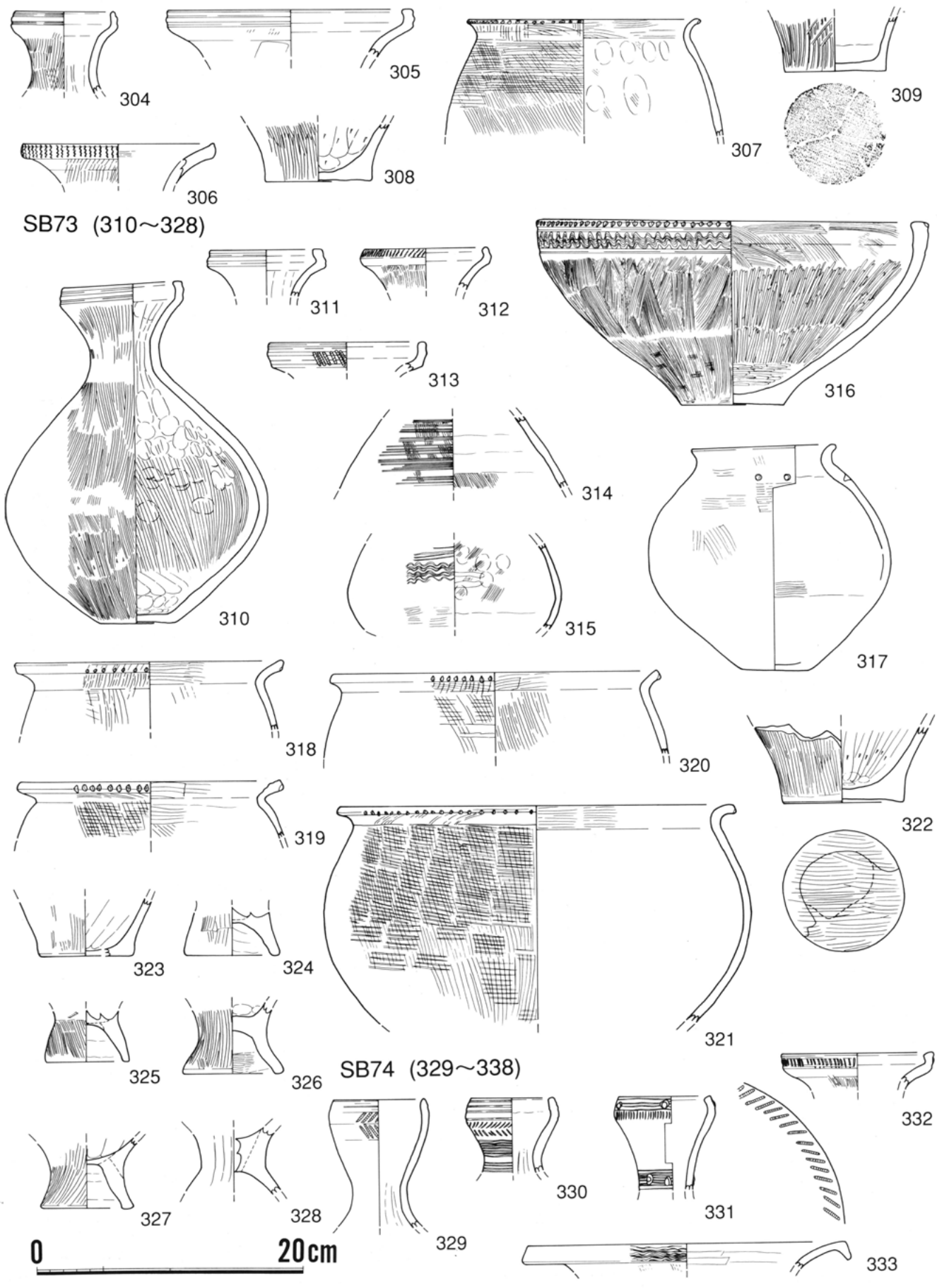
第26図　弥生土器実測図12（1：4）



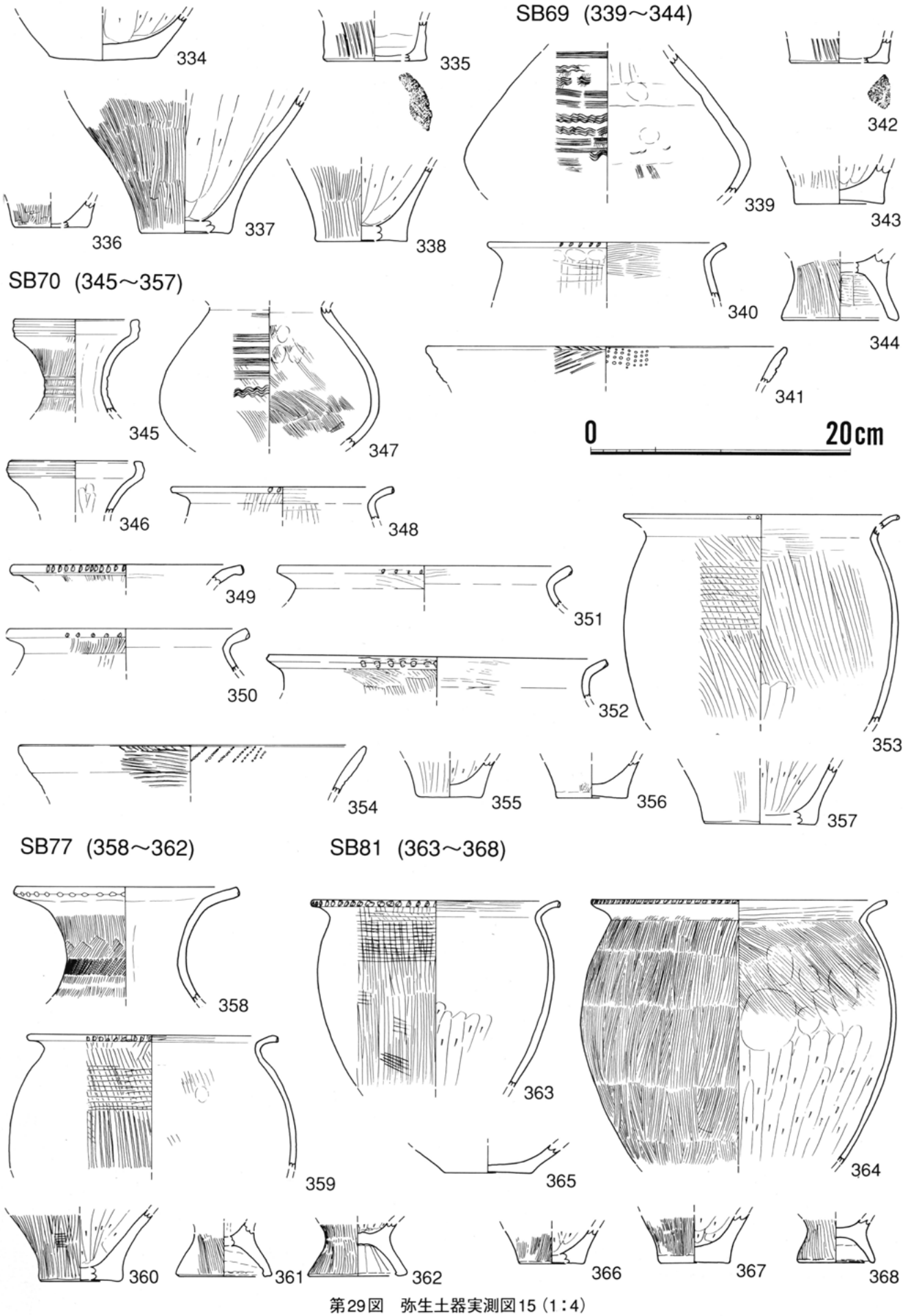
SB68 (294～303)



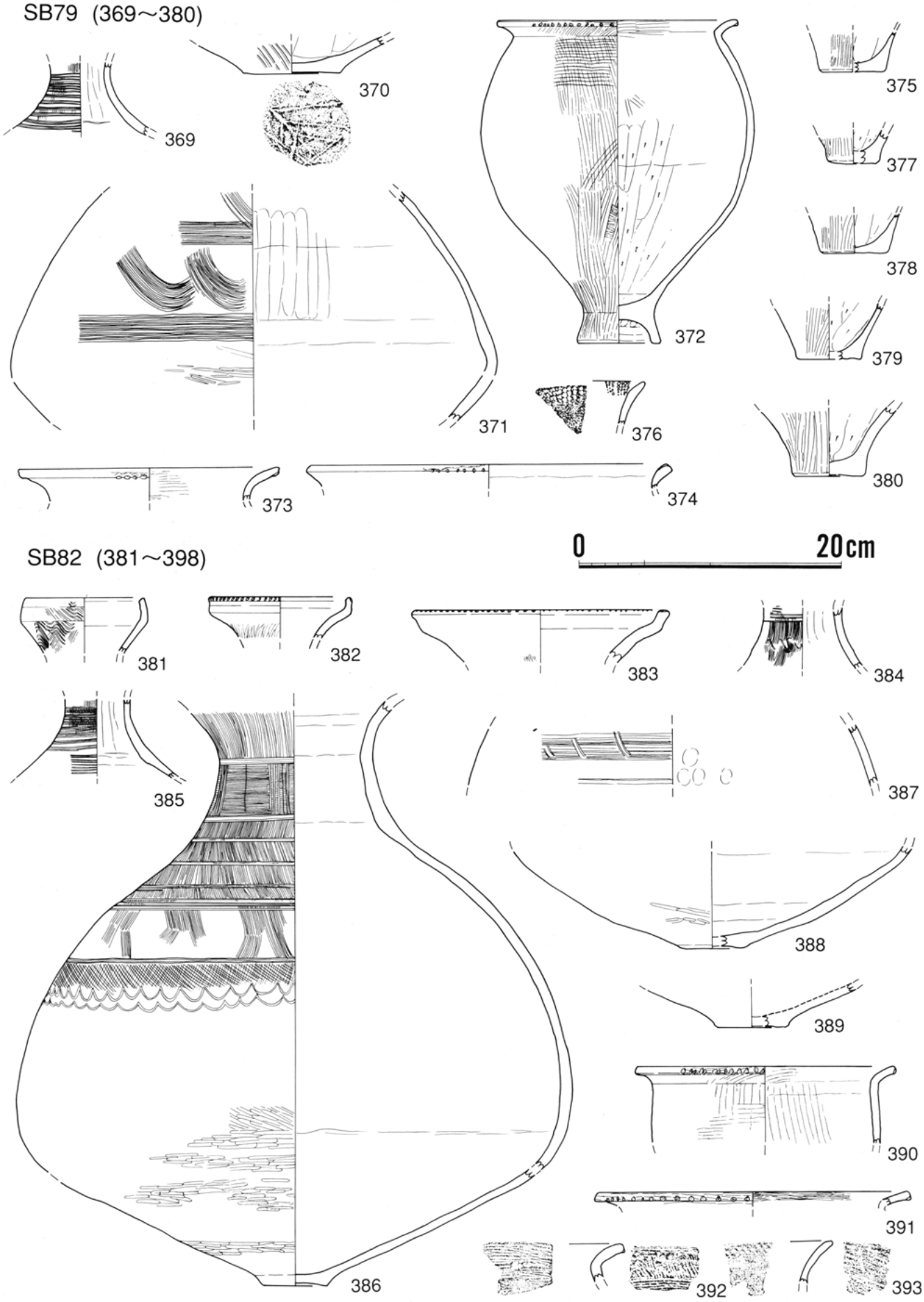
第27図　弥生土器実測図13（1：4）



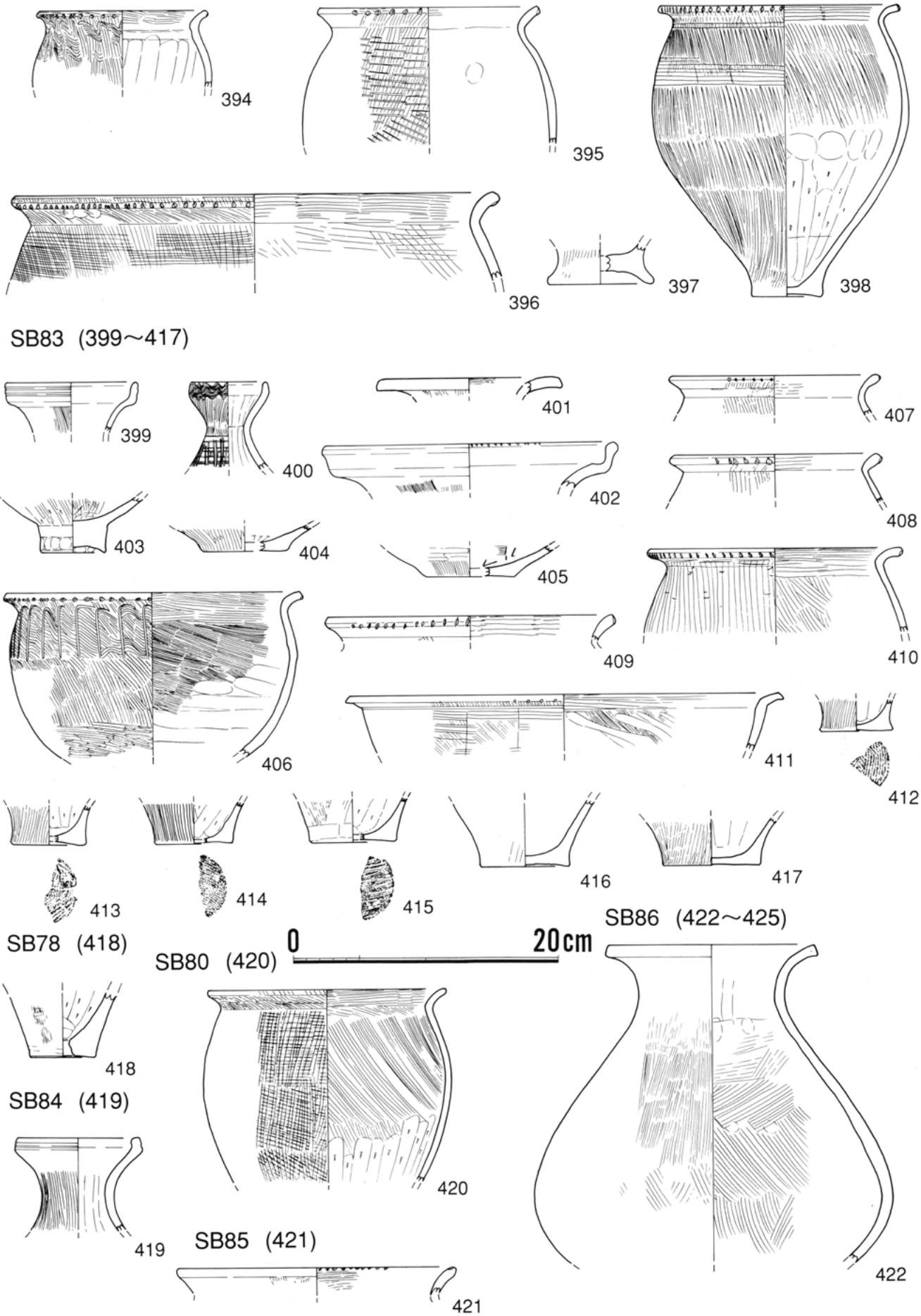
第28図　弥生土器実測図14（1：4）



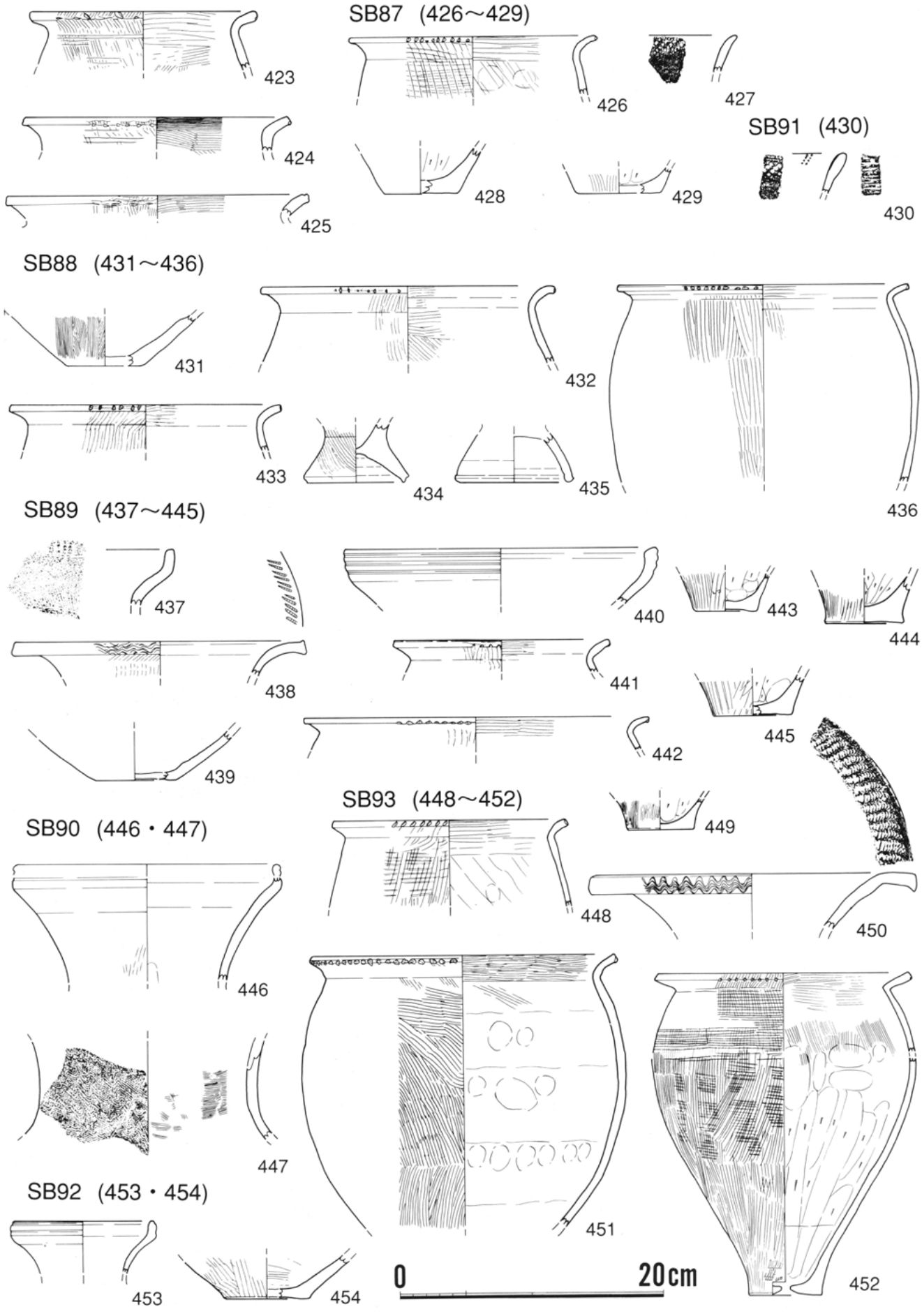
第29図　弥生土器実測図15（1：4）



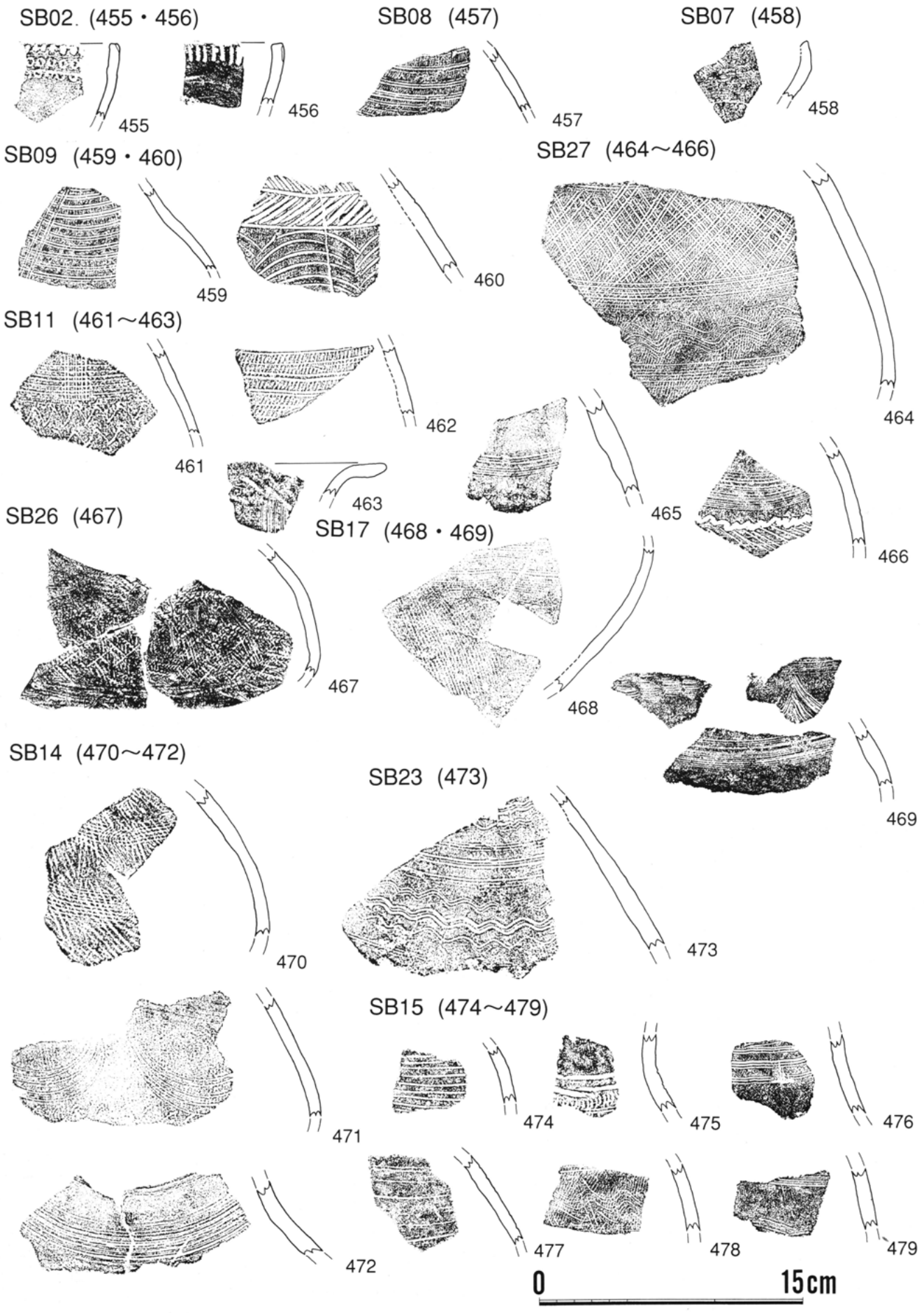
第30図　弥生土器実測図16（1：4）



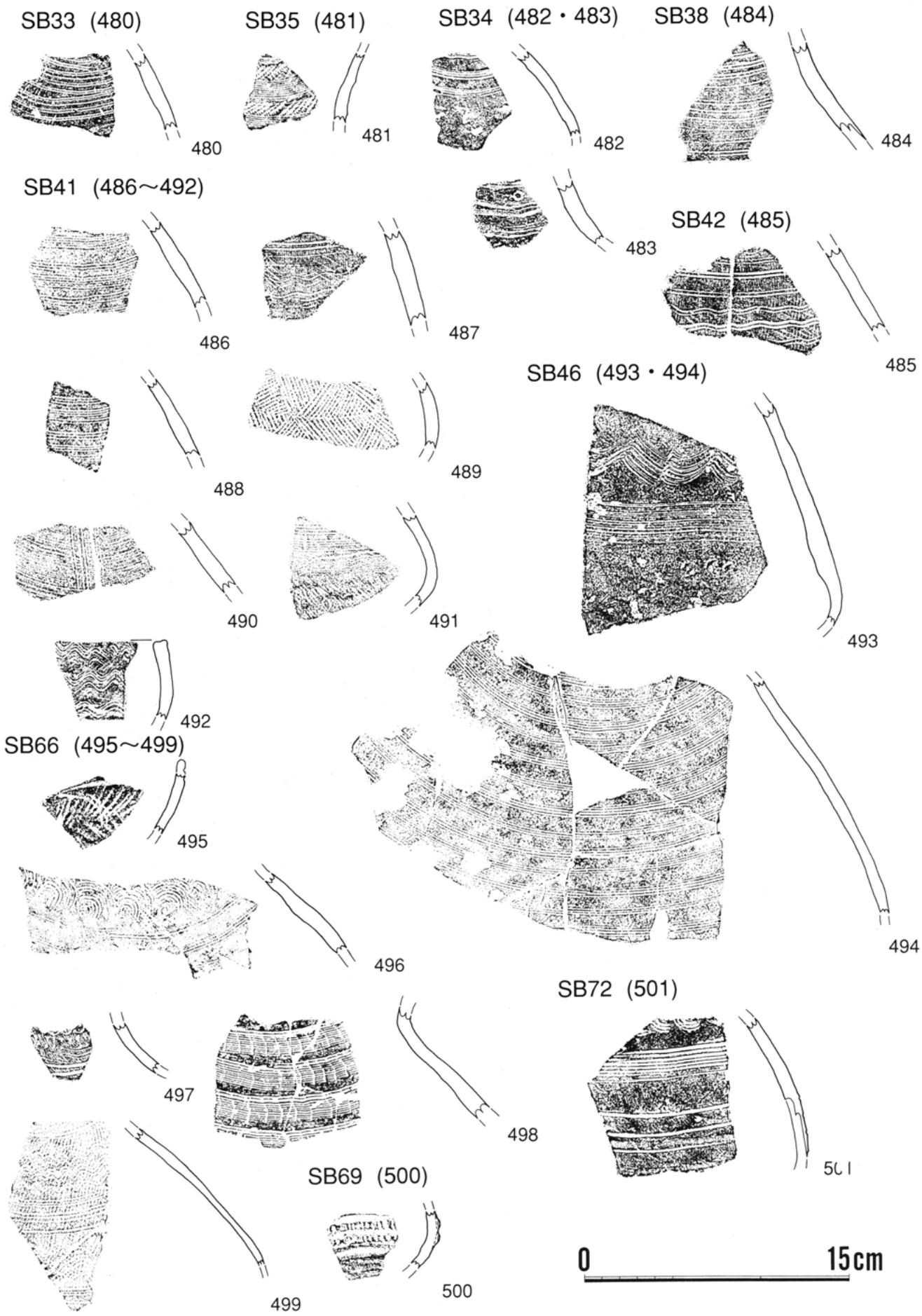
第31図　弥生土器実測図17（1：4）



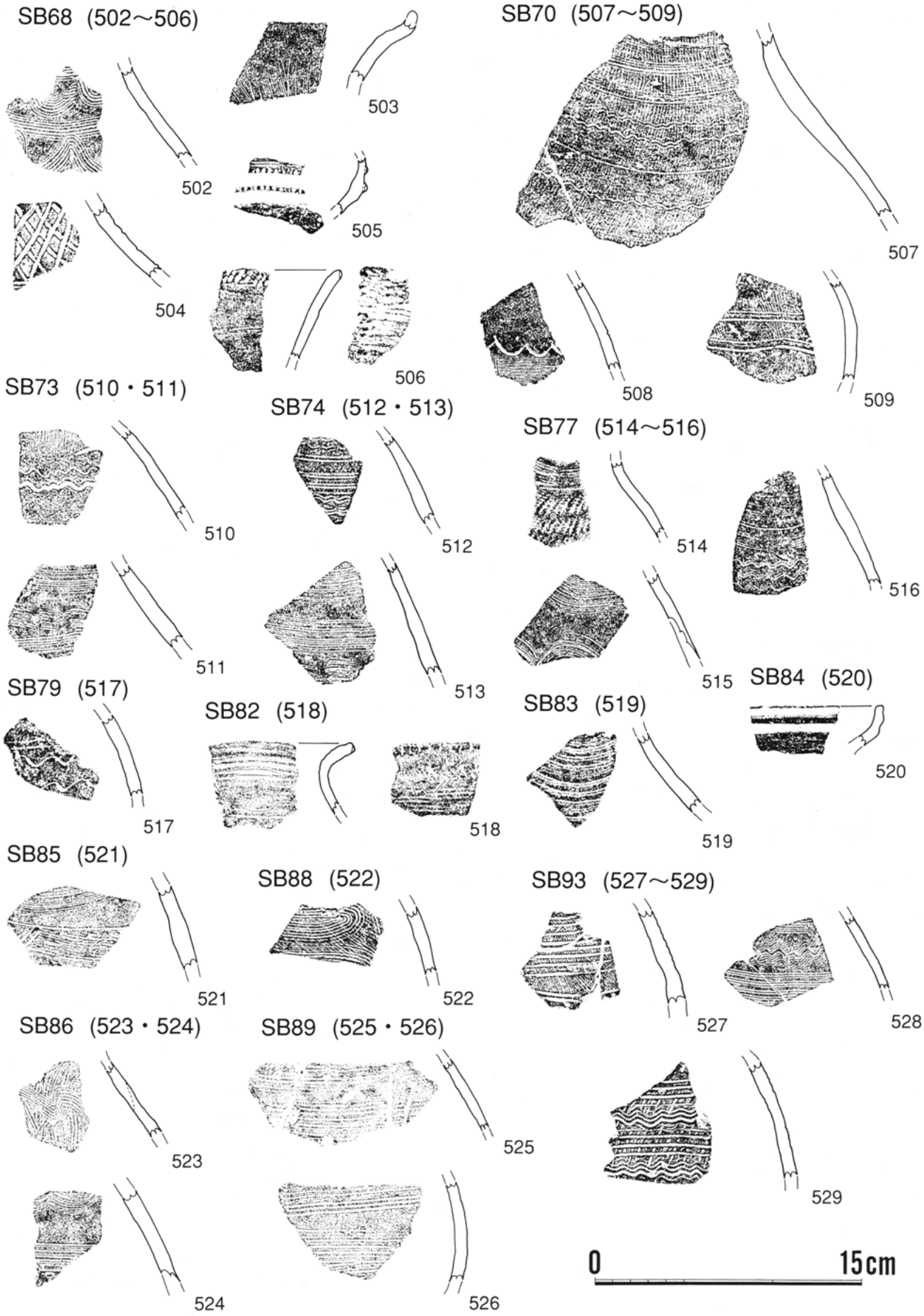
第32図　弥生土器実測図18（1：4）



第33図　弥生土器実測図19（1：3）

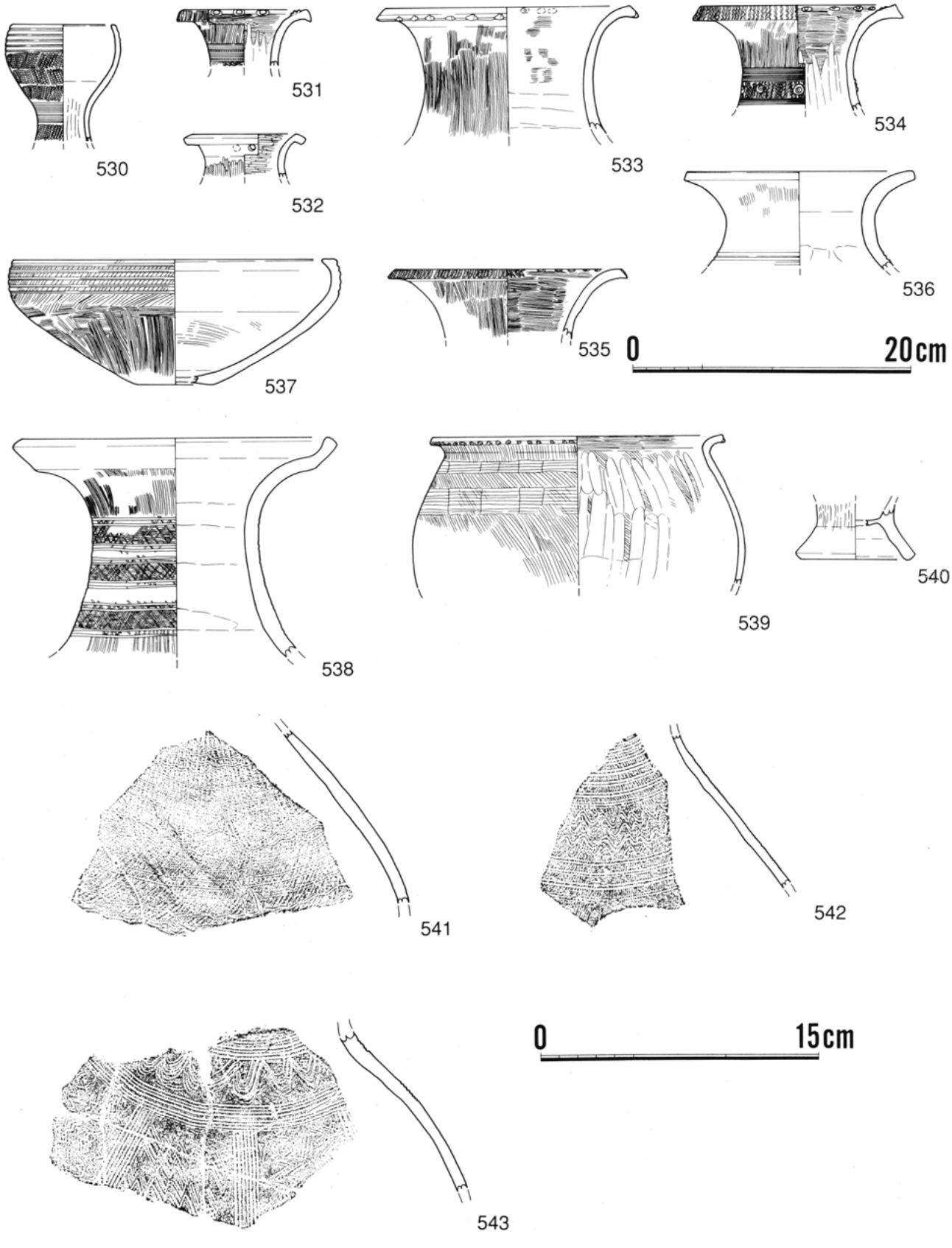


第34図　弥生土器実測図20（1：3）

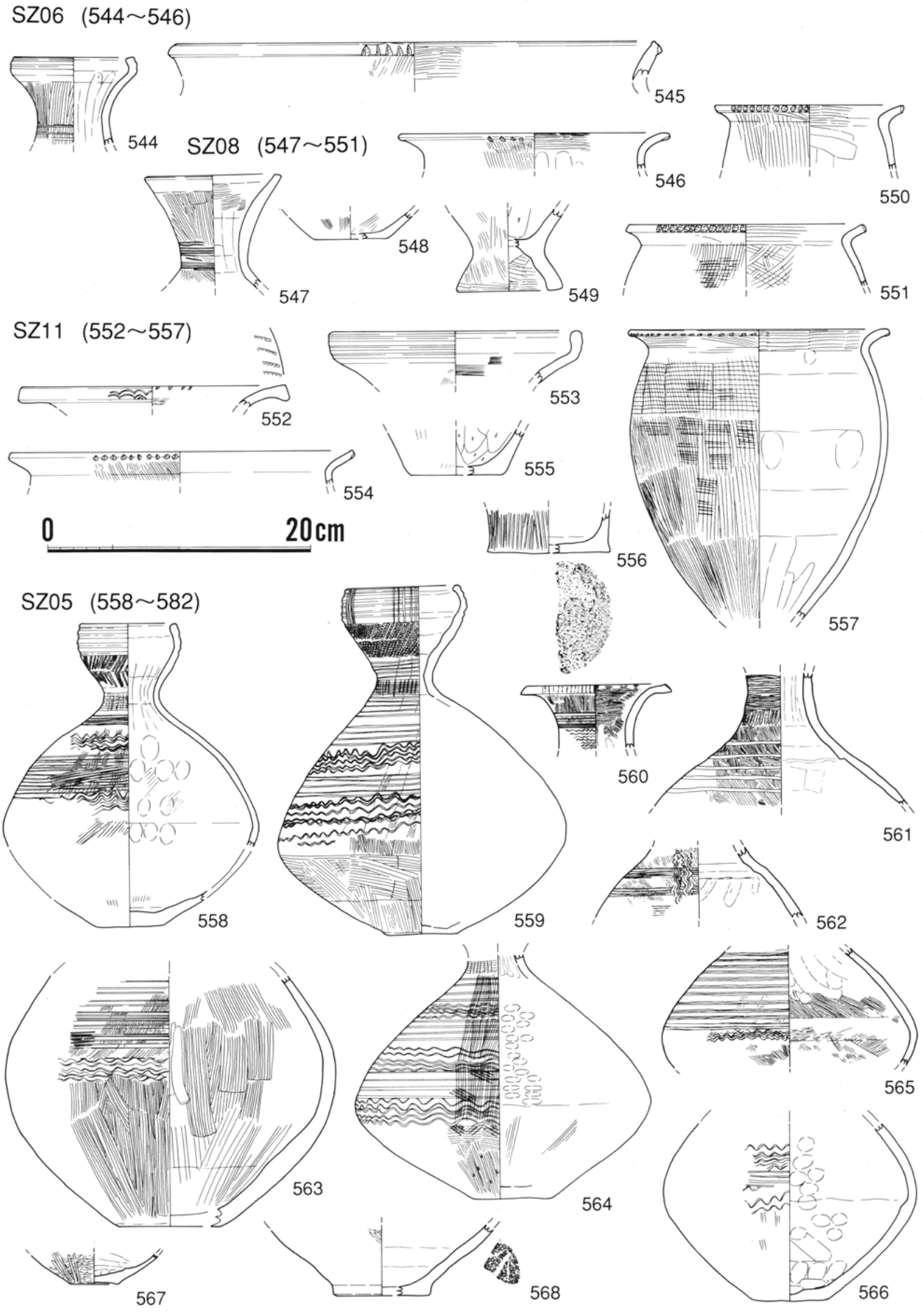


第35図　弥生土器実測図21（1：3）

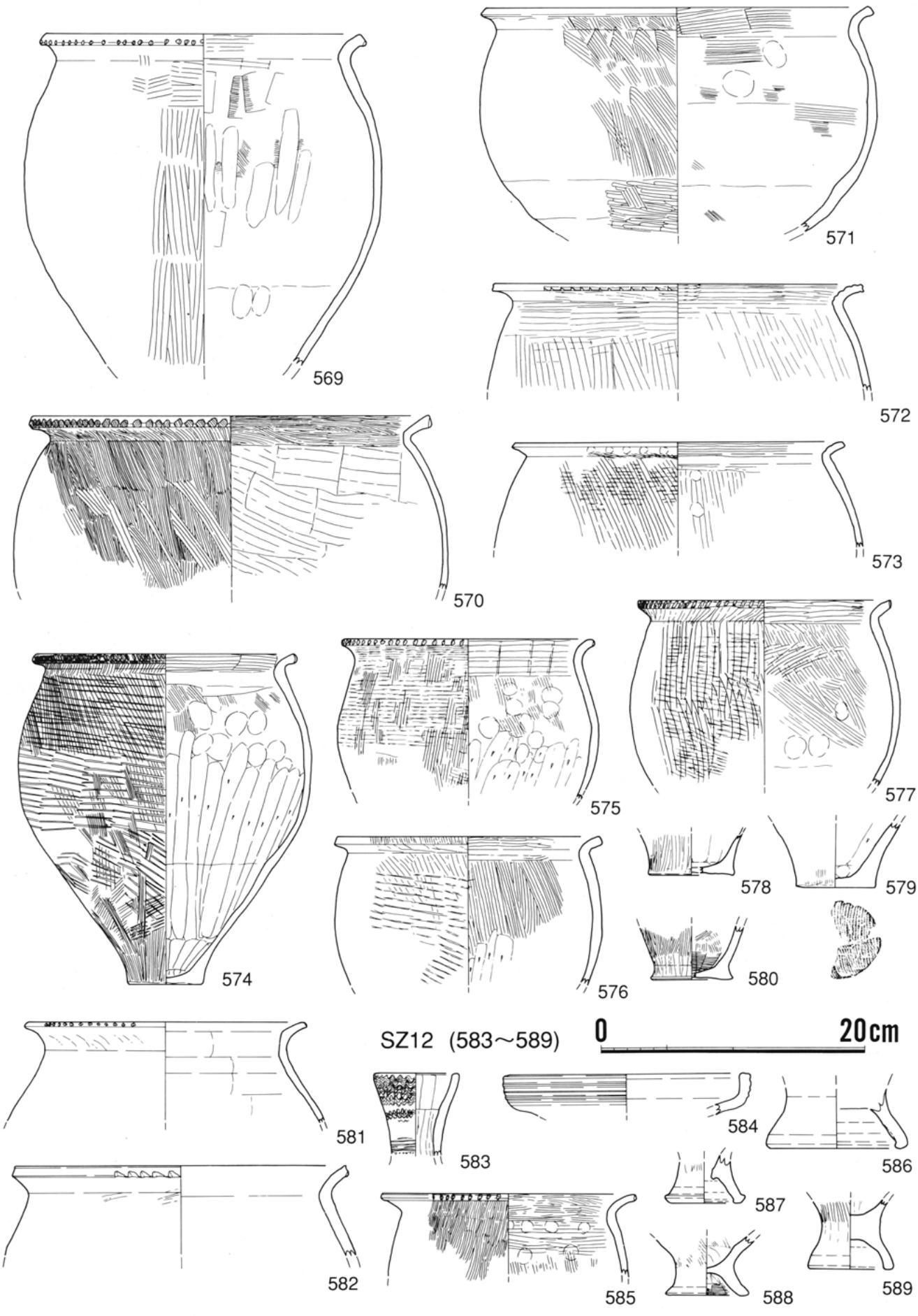
SB94 (530～543)



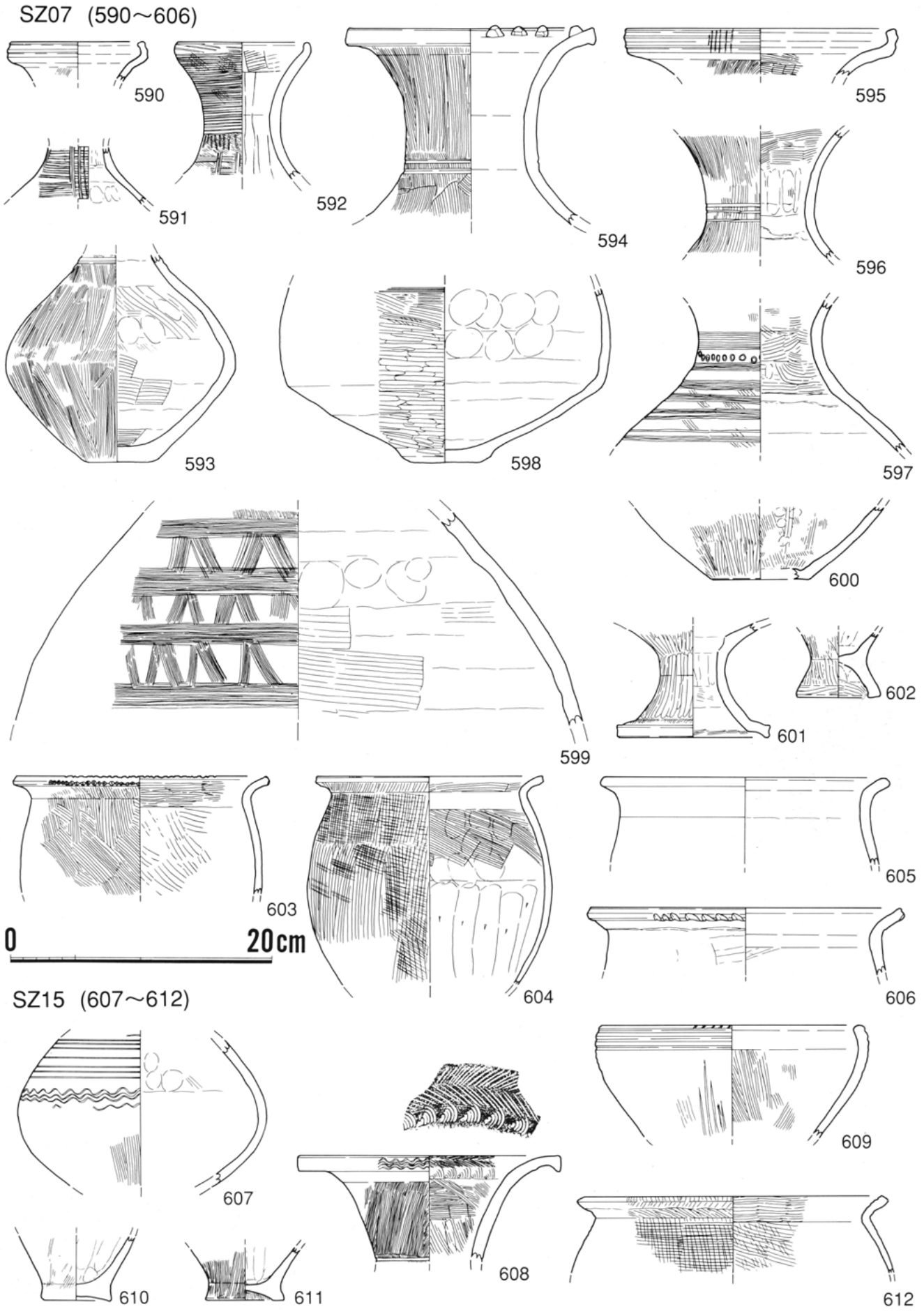
第36図　弥生土器実測図22（530～540は1：4、541～543は1：3）



第37図　弥生土器実測図23（1：4）



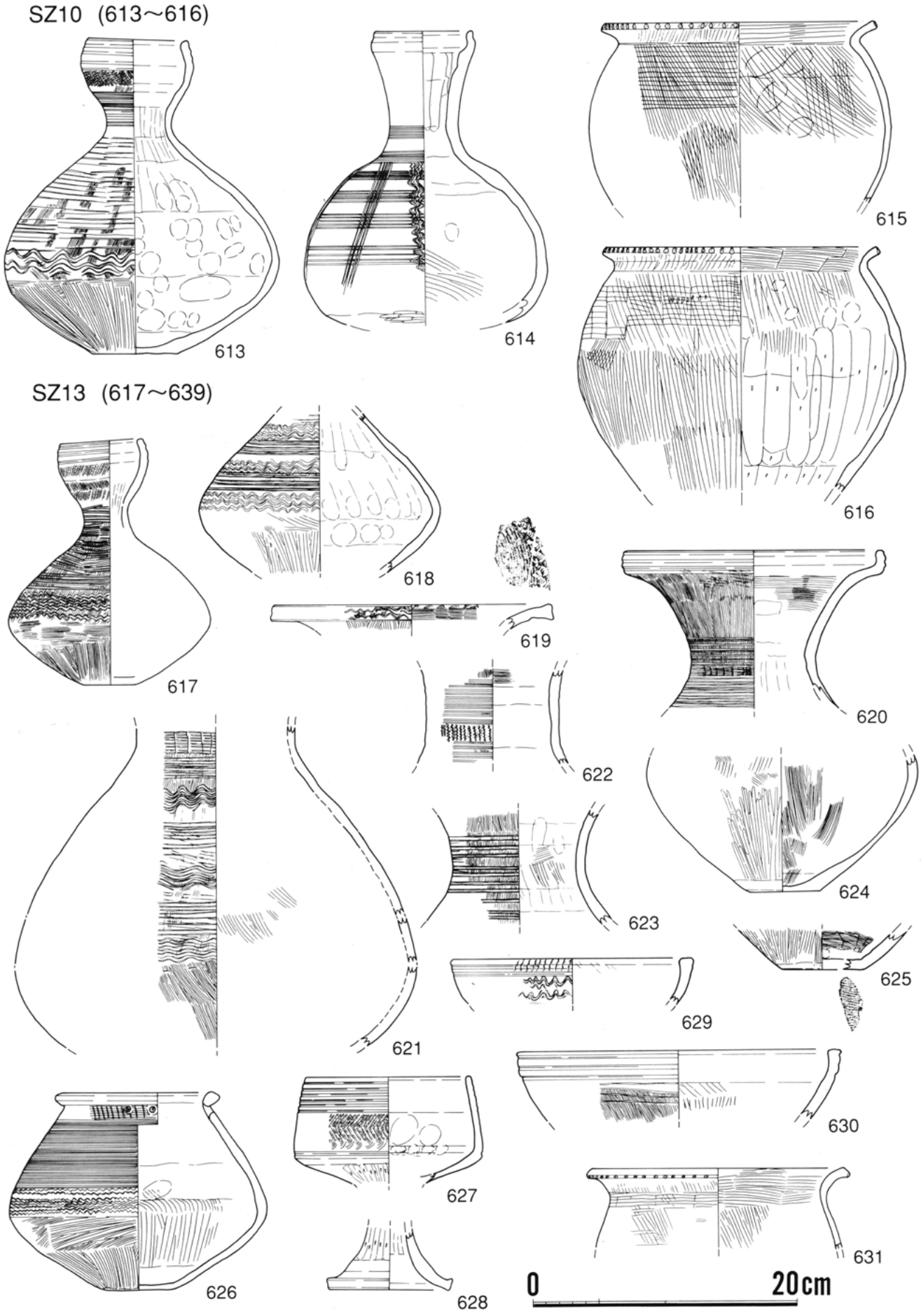
第38図　弥生土器実測図24（1：4）



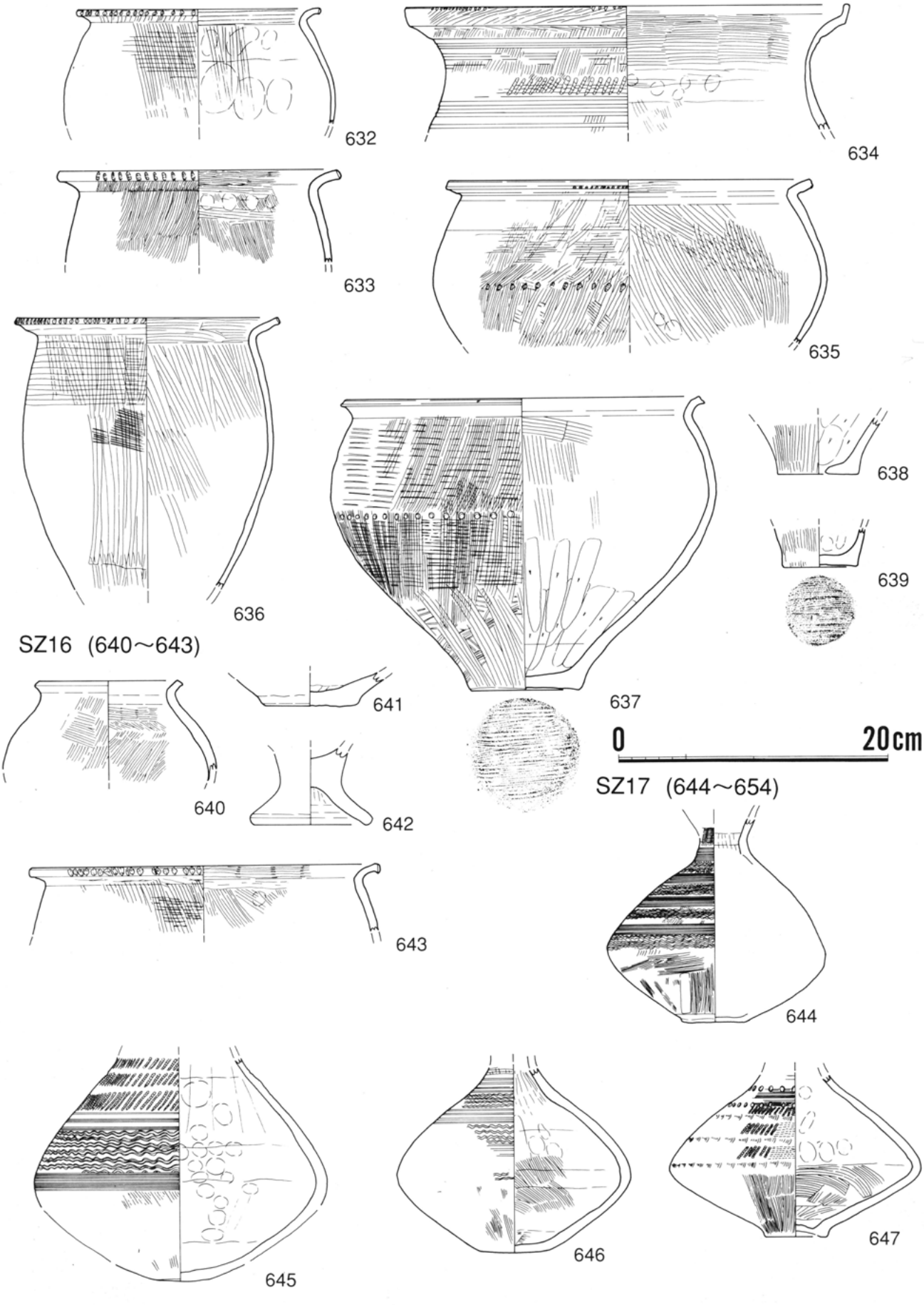
第39図　弥生土器実測図25（1：4）

SZ10 (613～616)

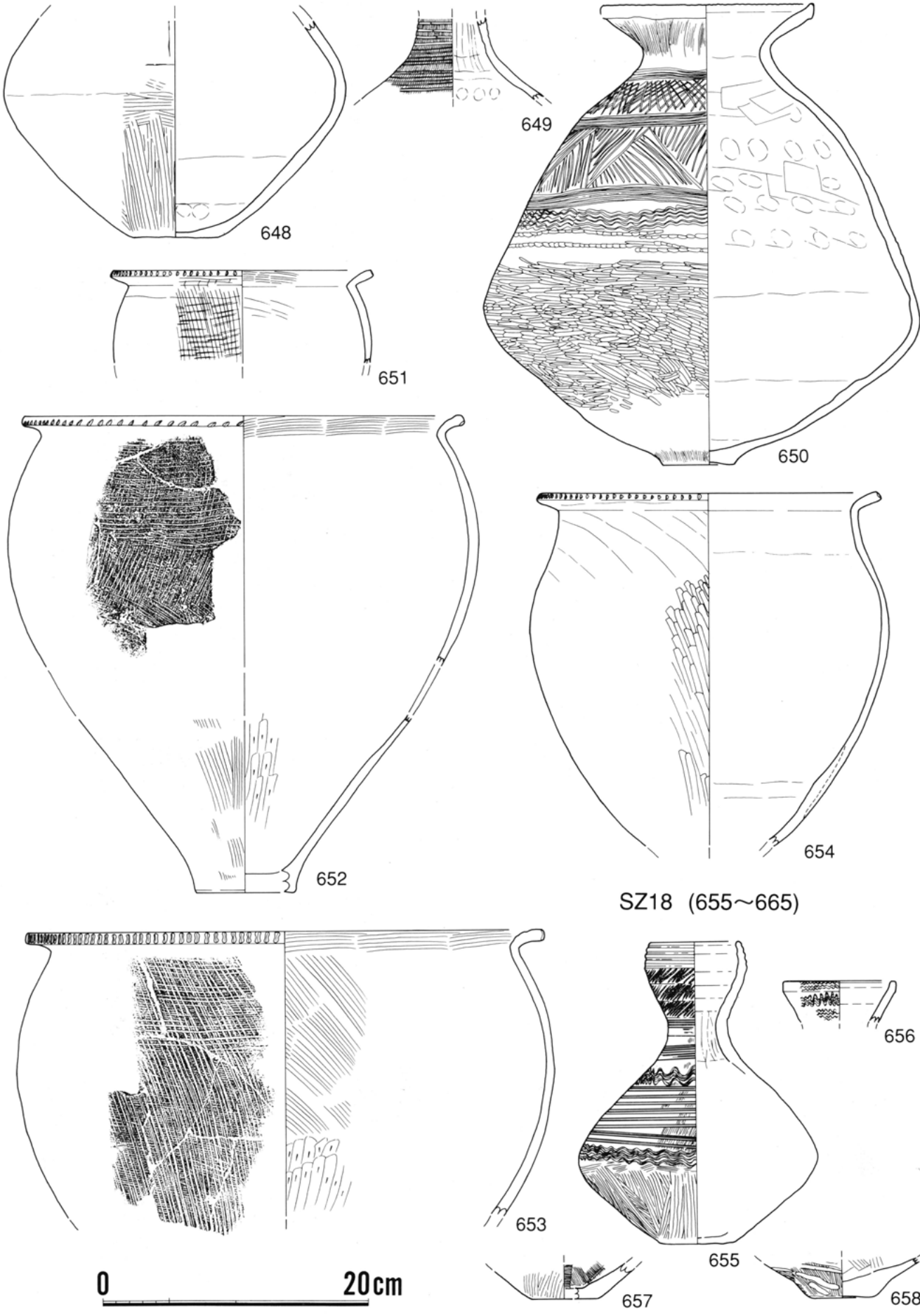
SZ13 (617～639)



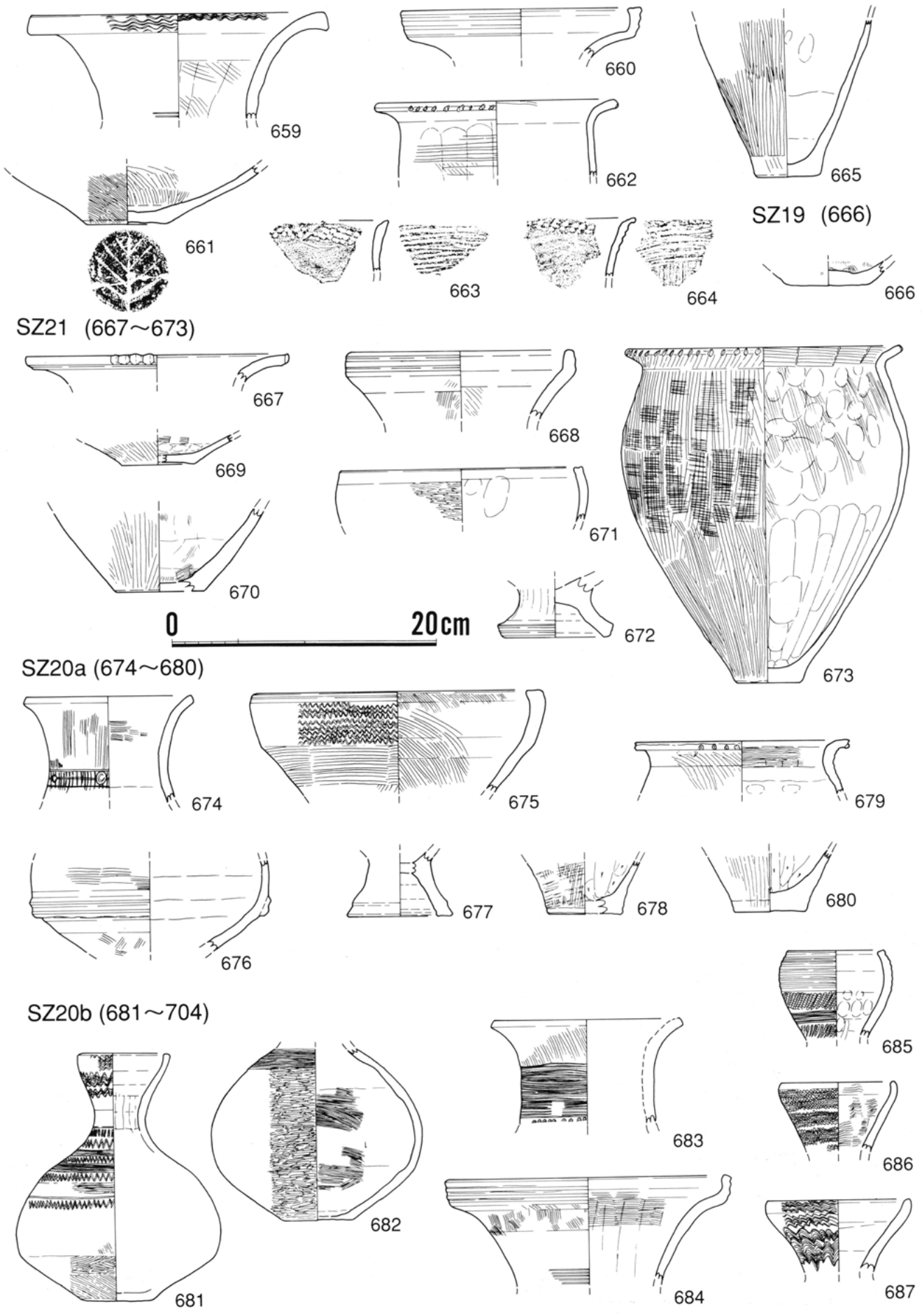
第40図　弥生土器実測図26（1：4）



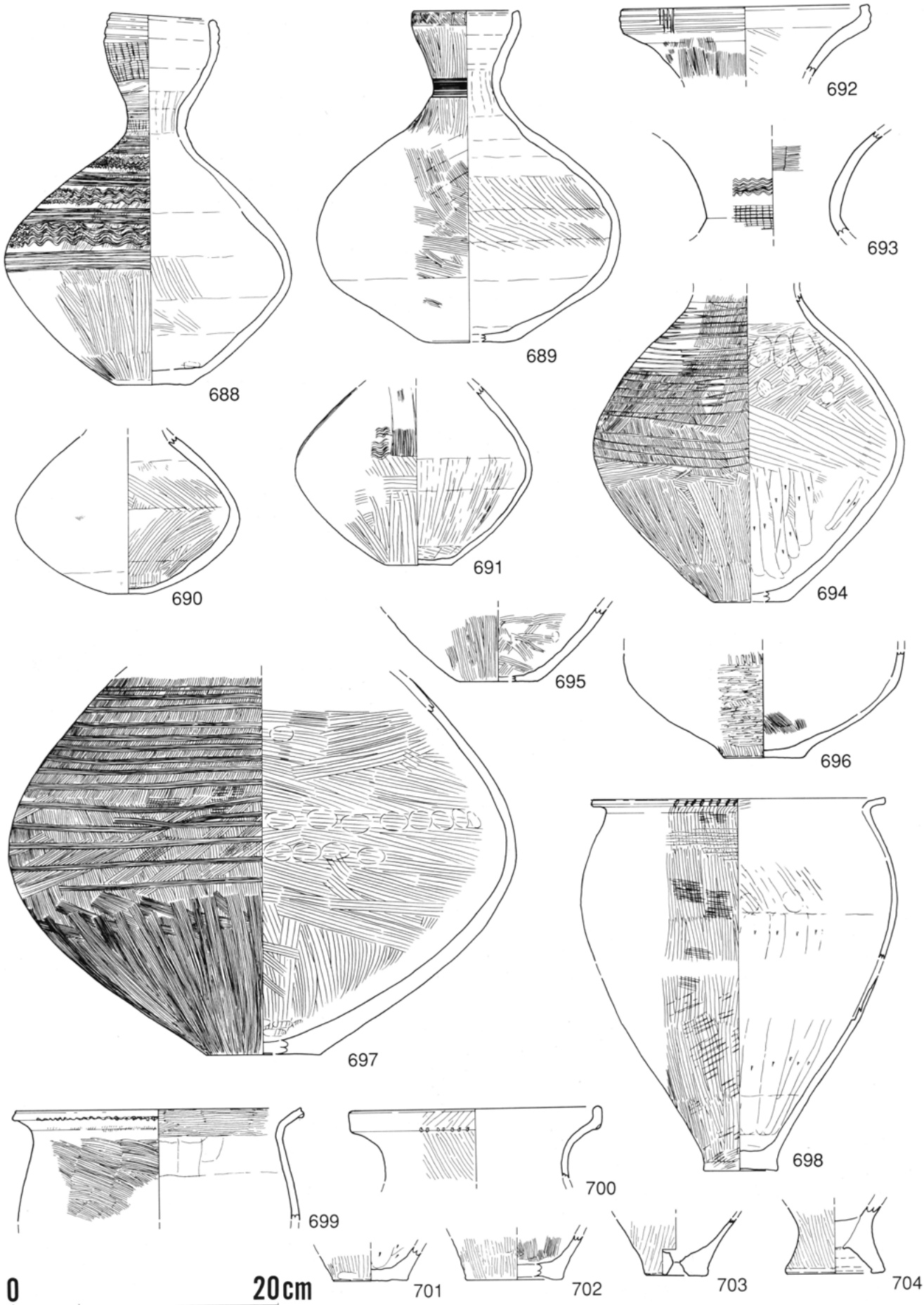
第41図　弥生土器実測図27（1：4）



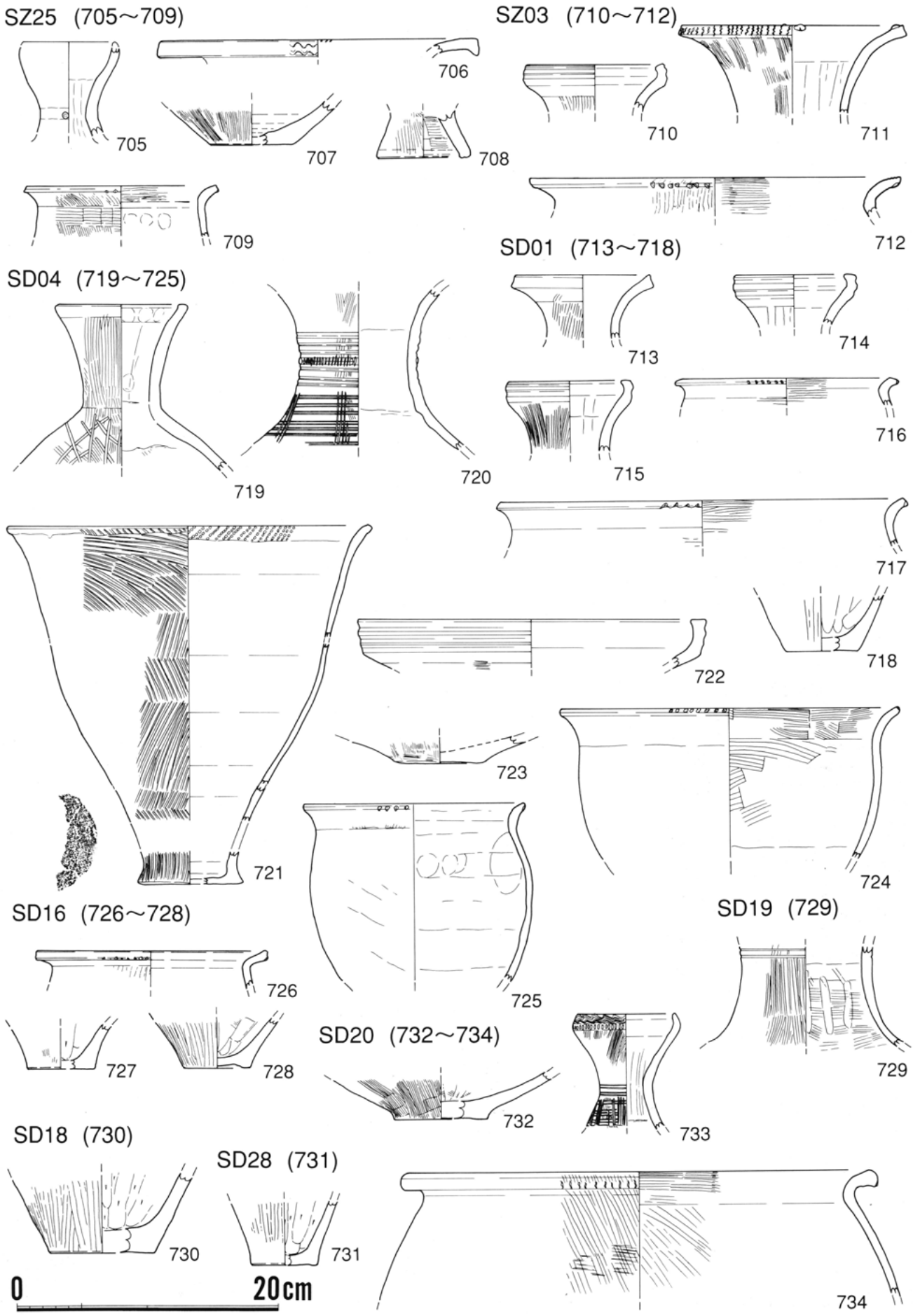
第42図　弥生土器実測図28（1：4）



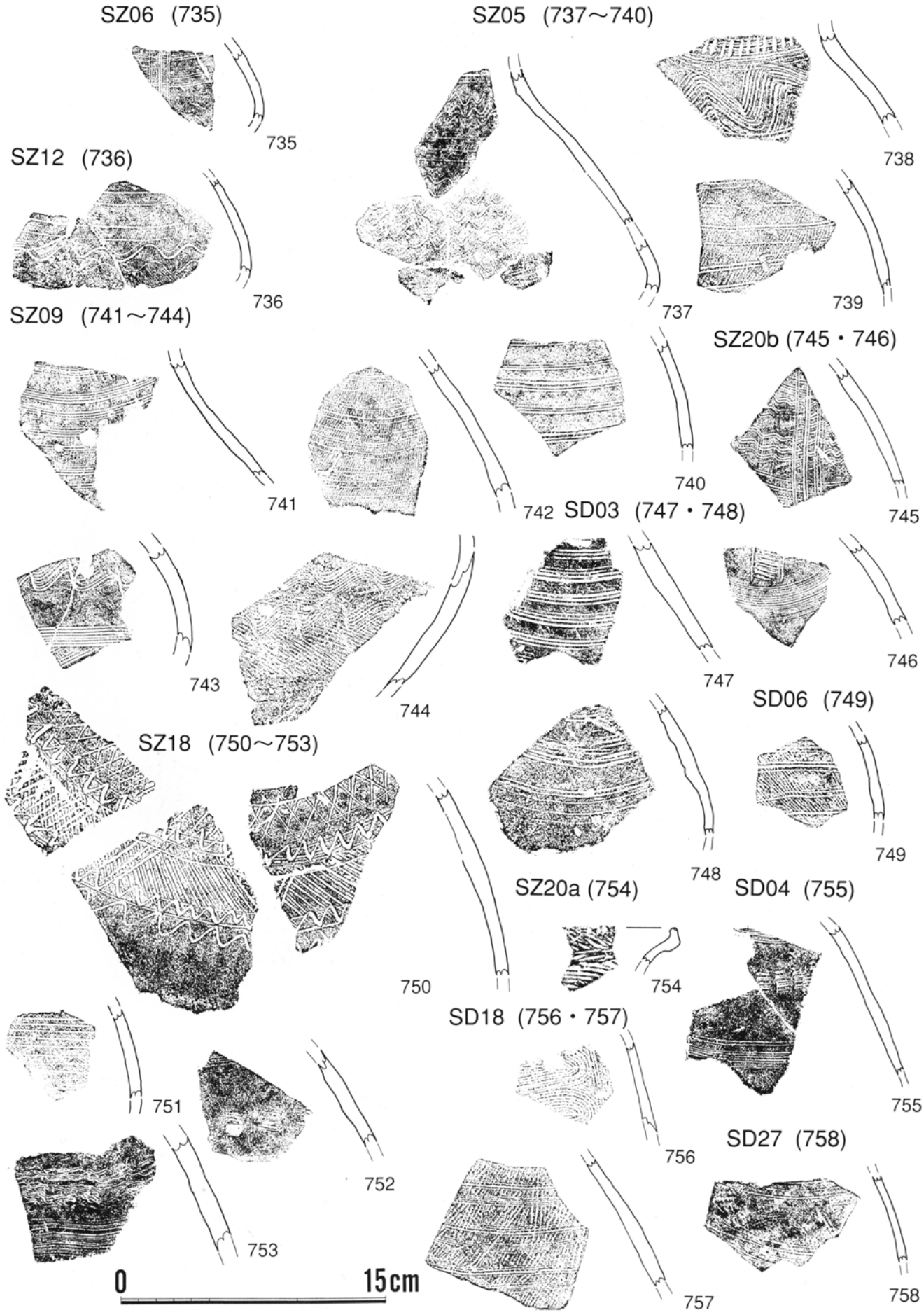
第43図　弥生土器実測図29（1：4）



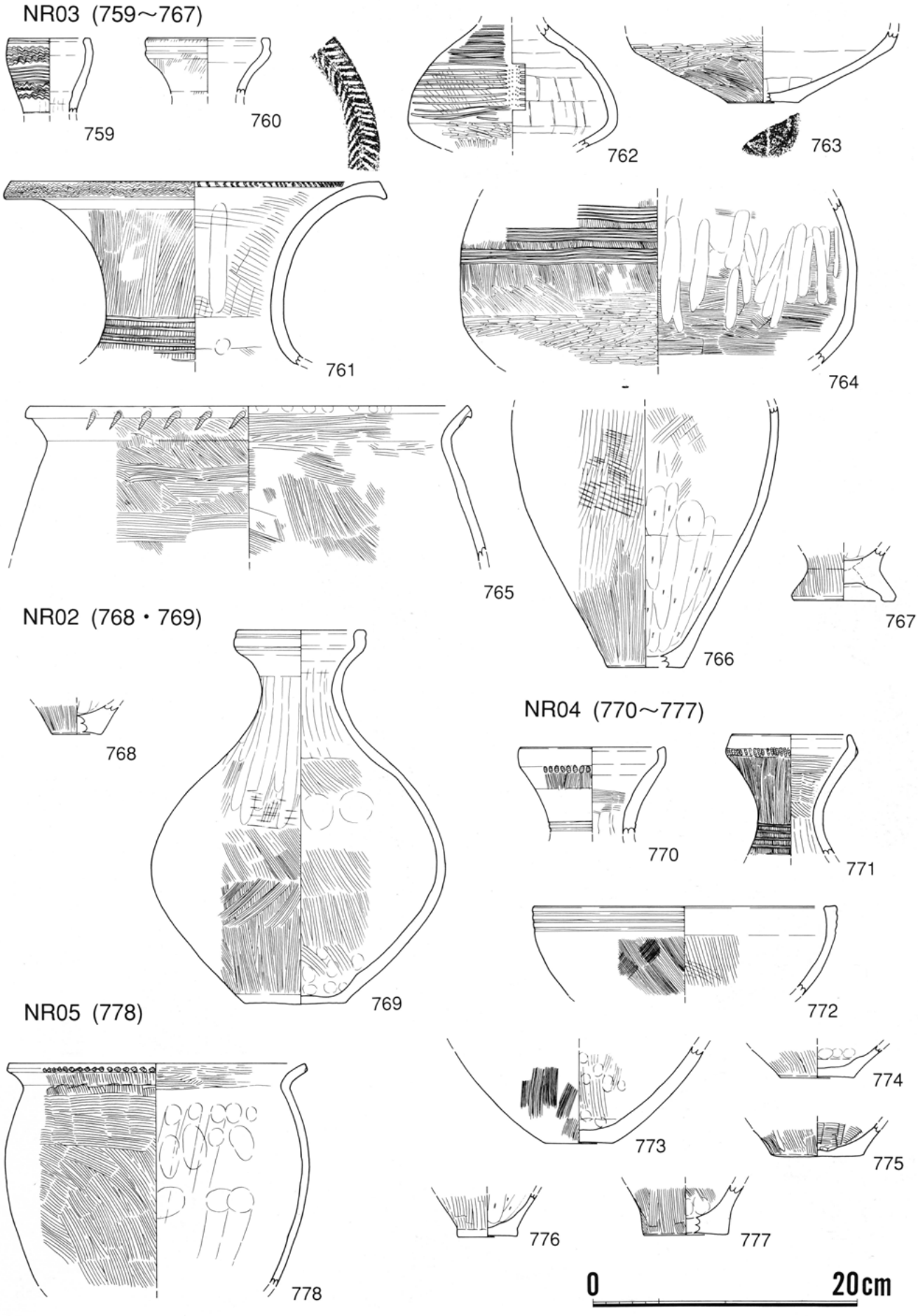
第44図　弥生土器実測図30（1：4）



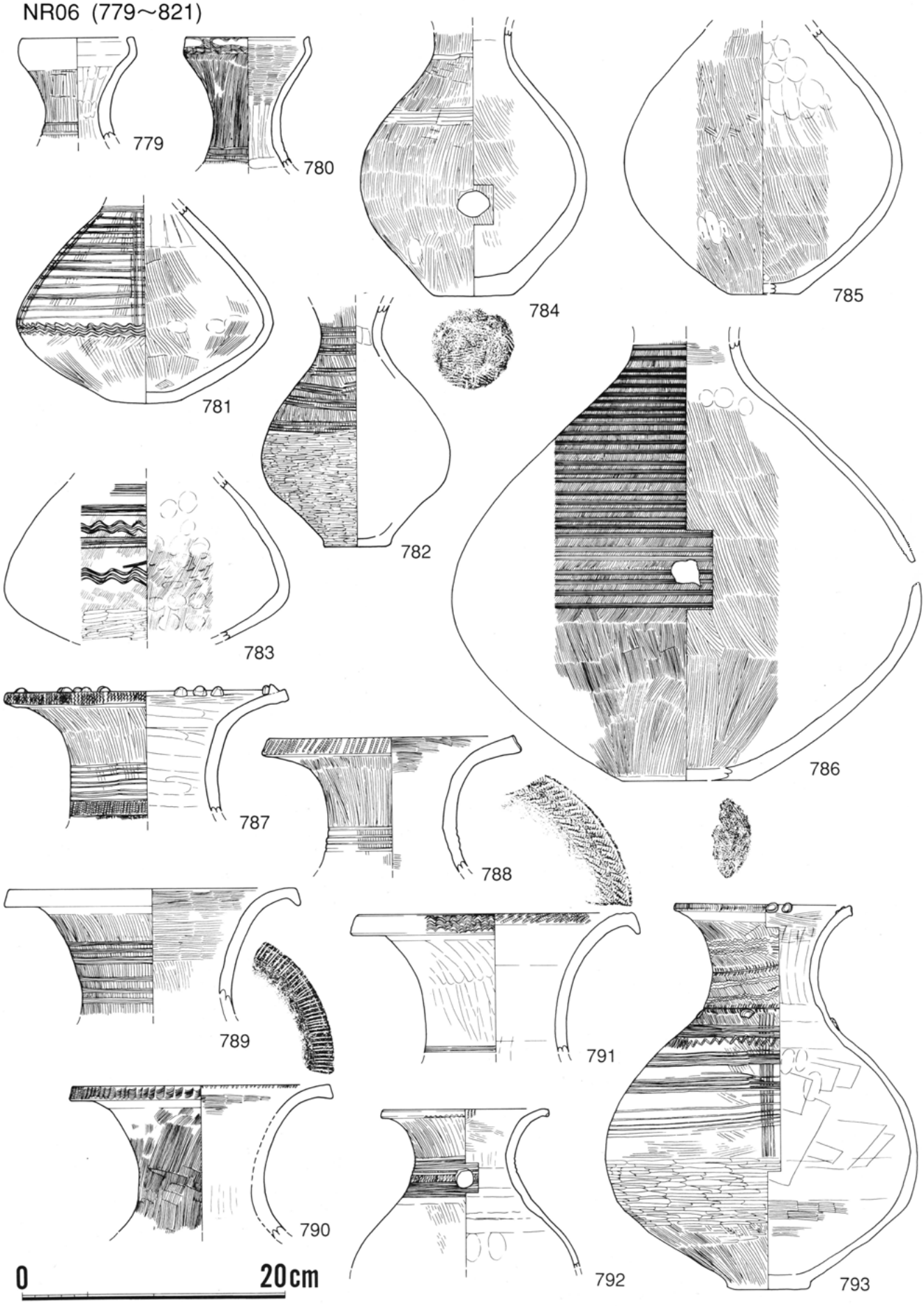
第45図　弥生土器実測図31（1：4）



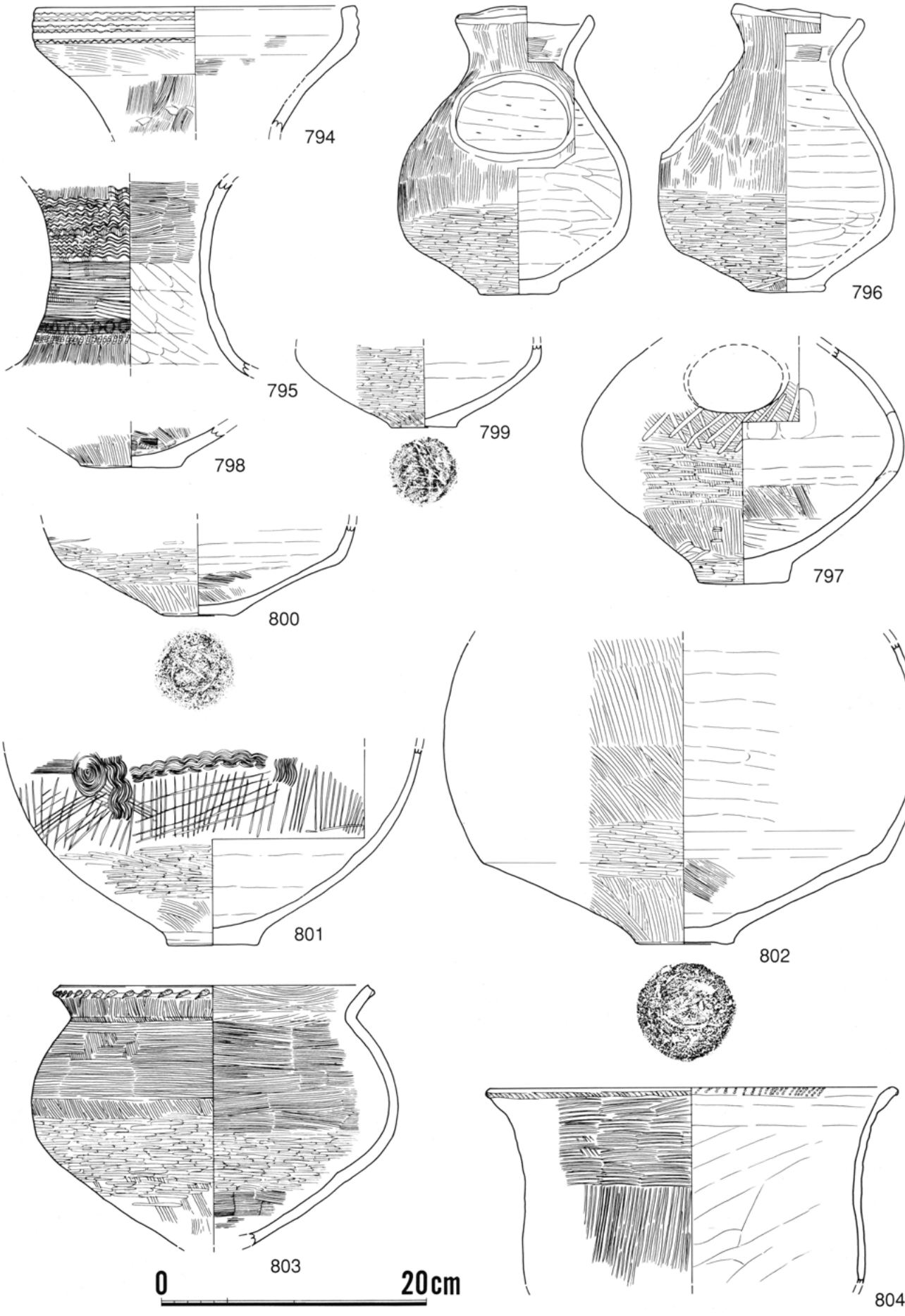
第46図　弥生土器実測図32（1：3）



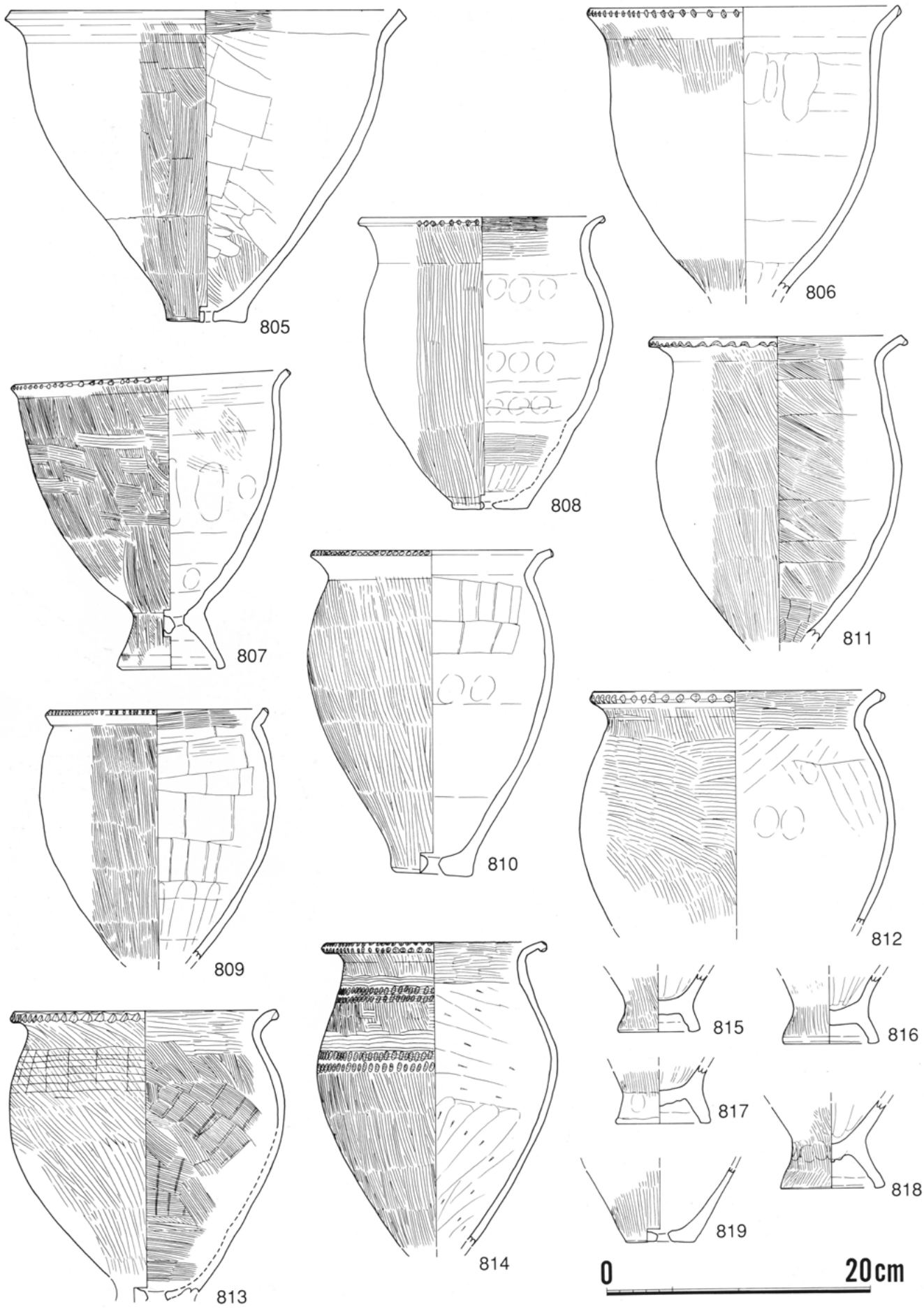
第47図　弥生土器実測図33（1：4）



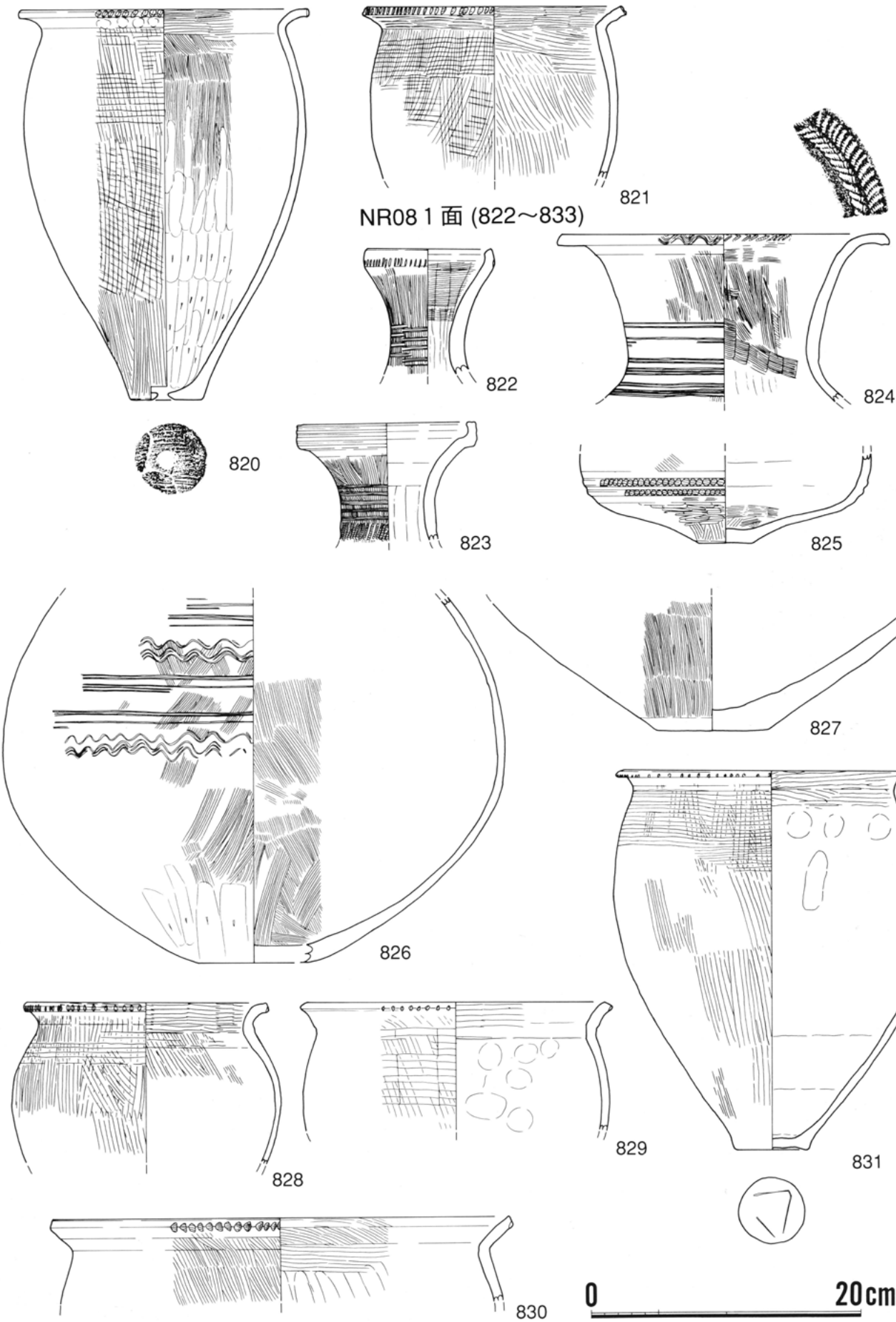
第48図　弥生土器実測図34（1：4）



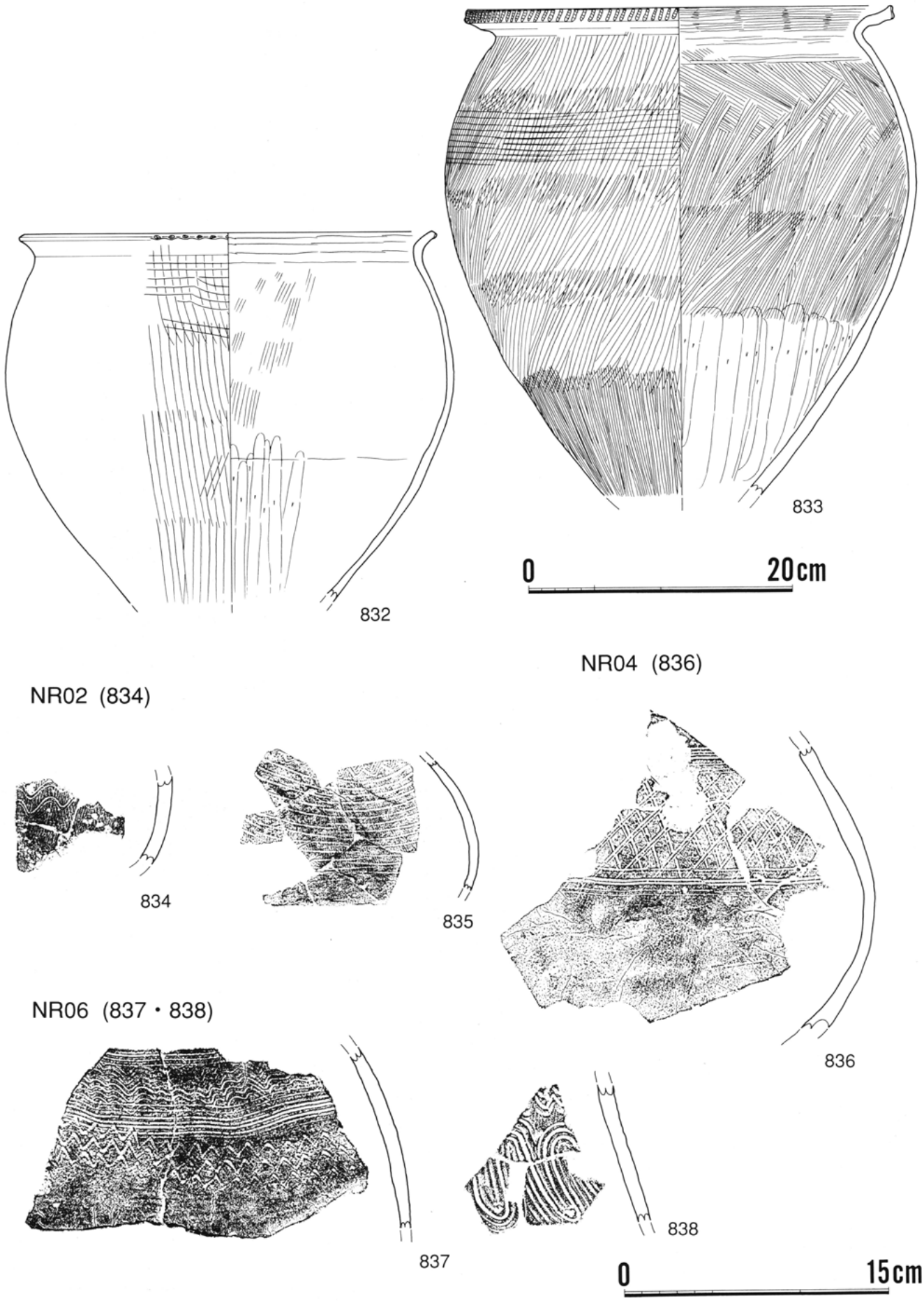
第49図　弥生土器実測図35（1：4）



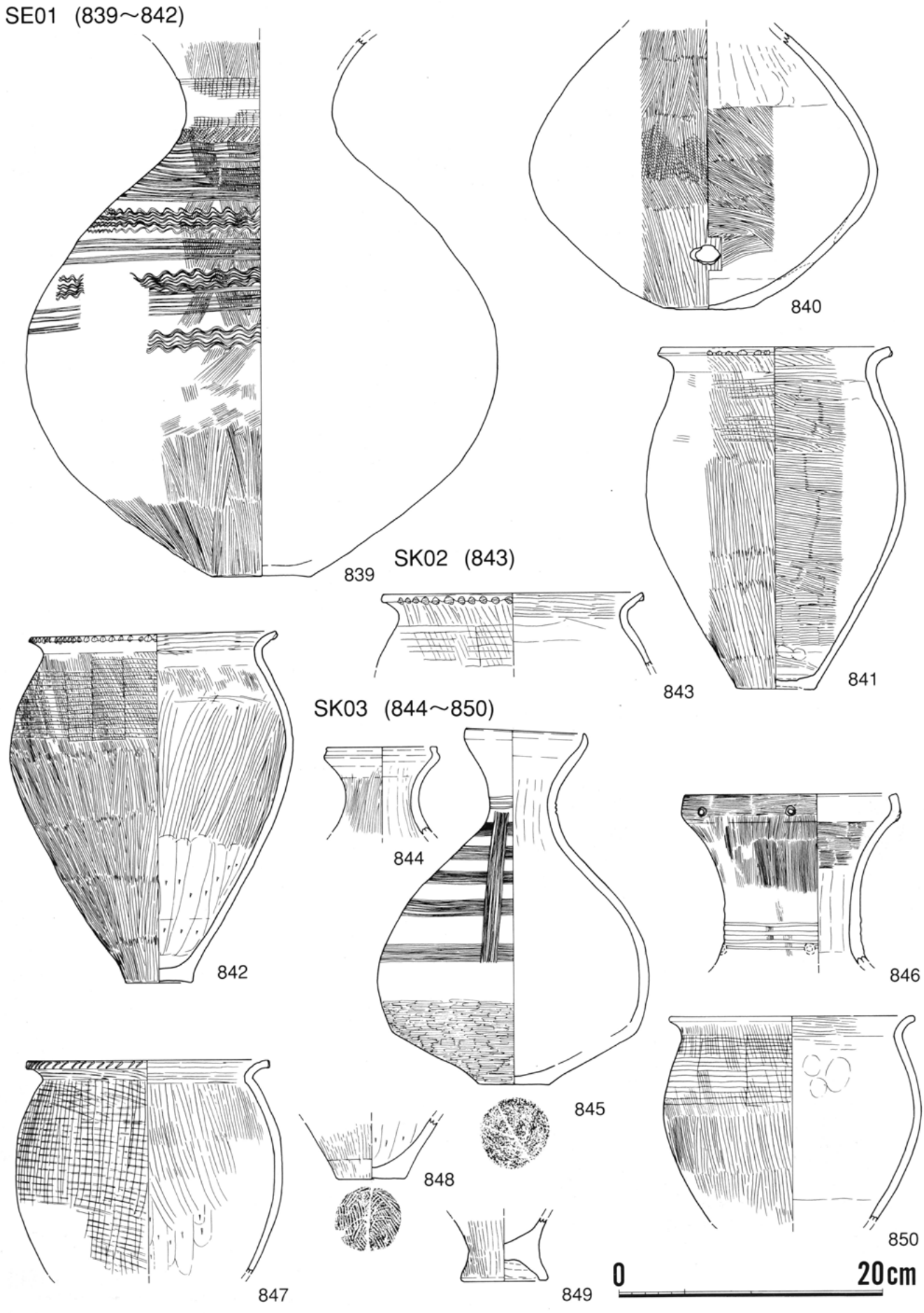
第50図　弥生土器実測図36（1：4）



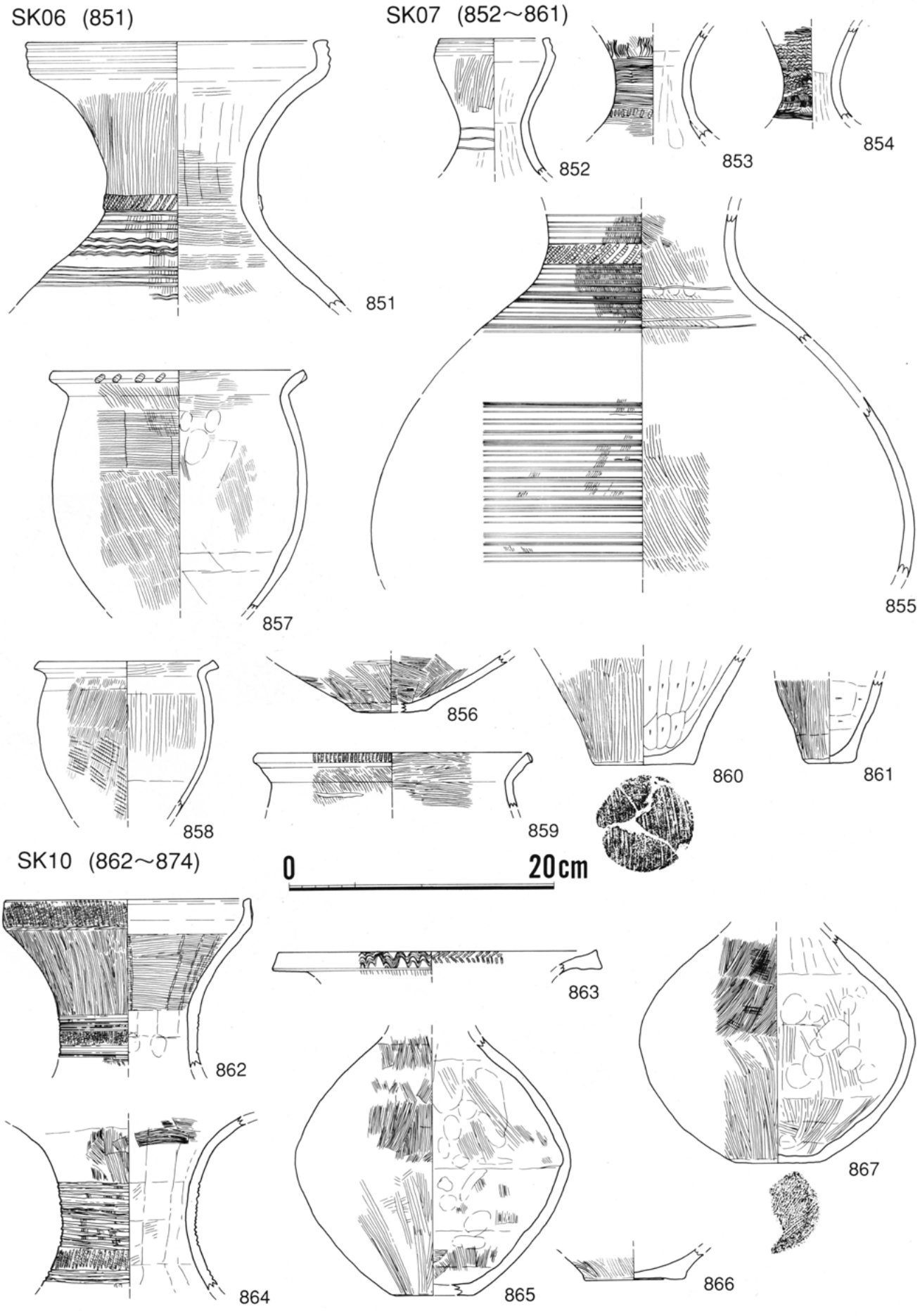
第51図　弥生土器実測図37（1：4）



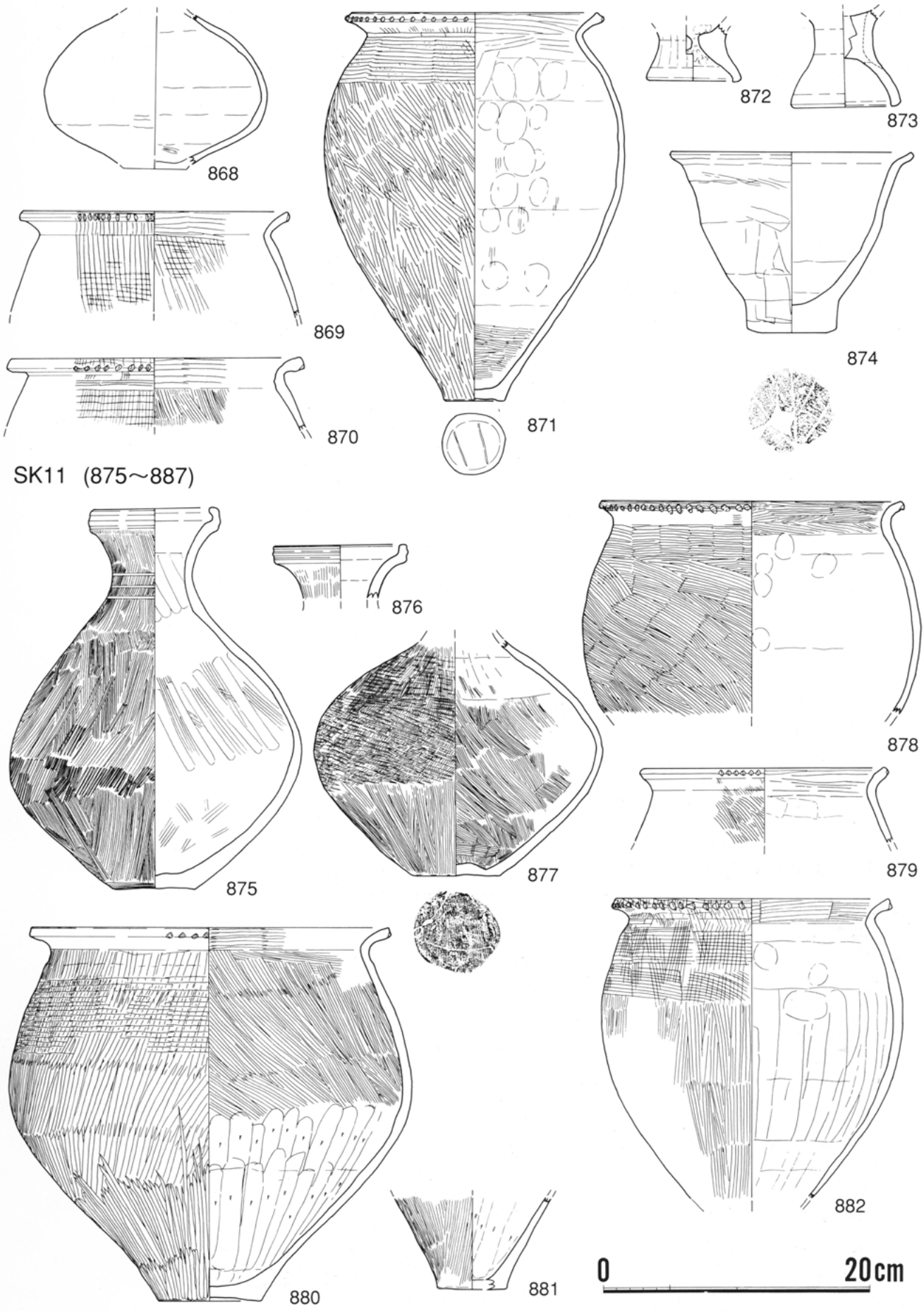
第52図　弥生土器実測図38（832・833は1：4、834～838は1：3）



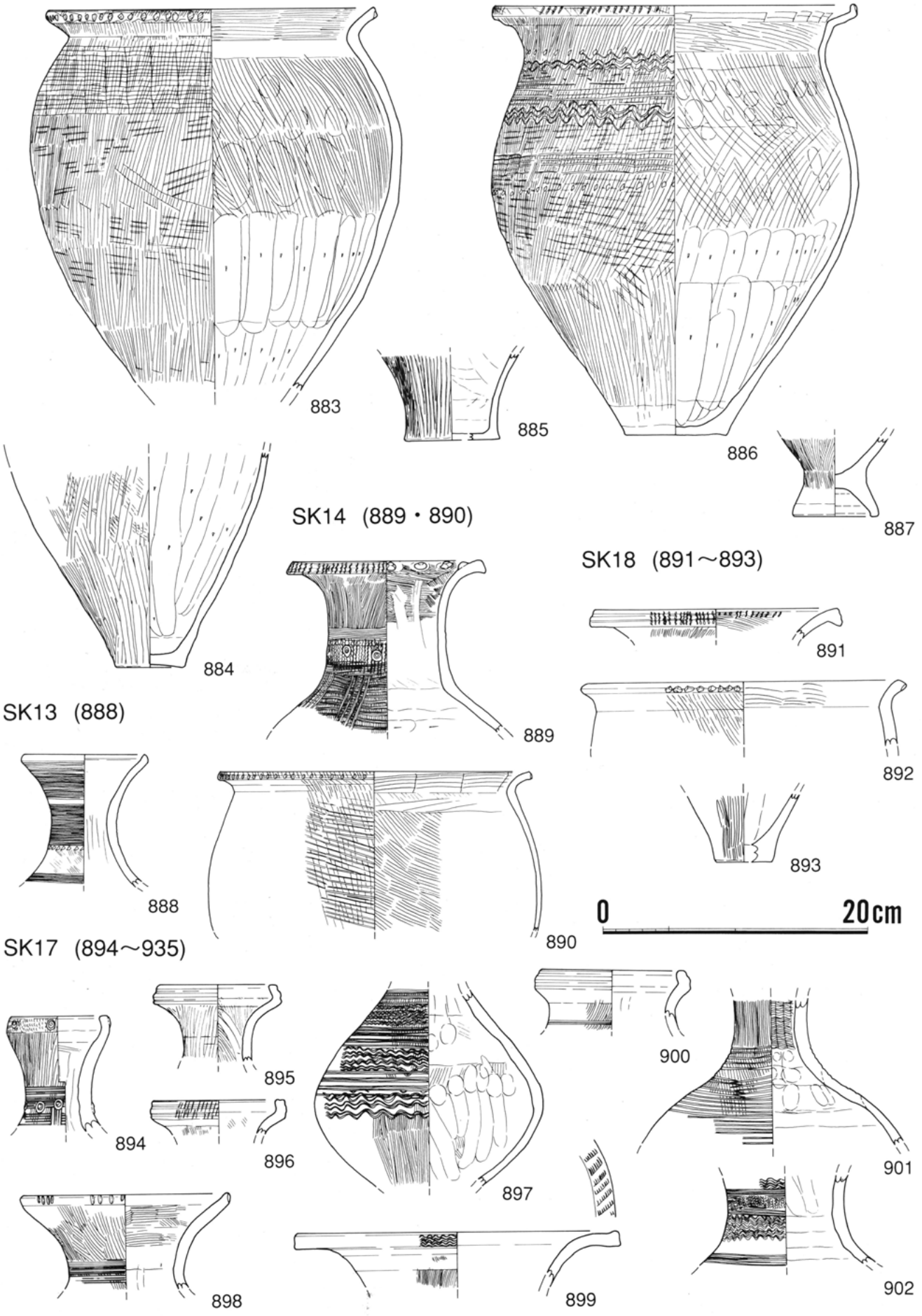
第53図　弥生土器実測図39（1：4）



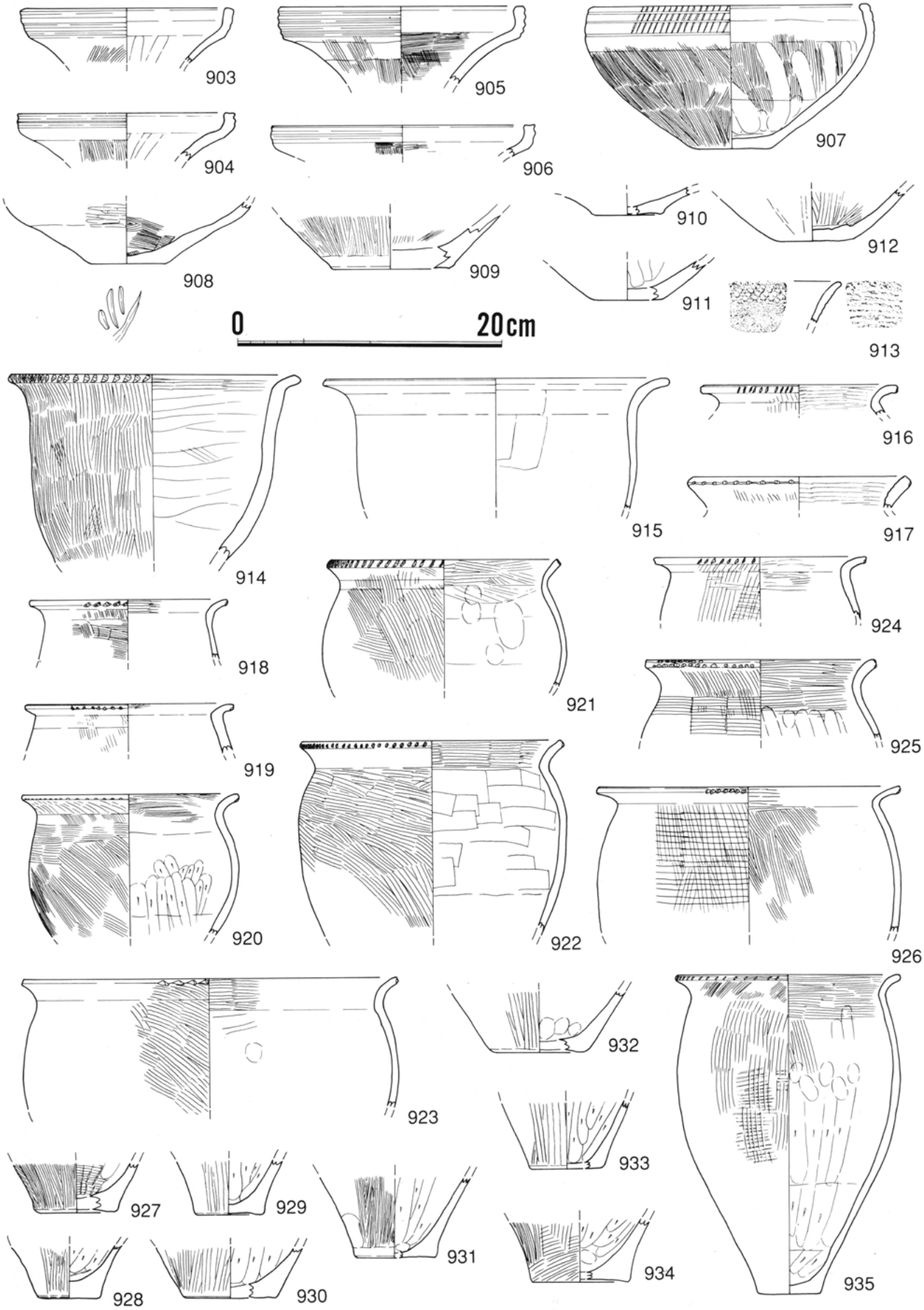
第54図　弥生土器実測図40（1：4）



第55図　弥生土器実測図41（1：4）

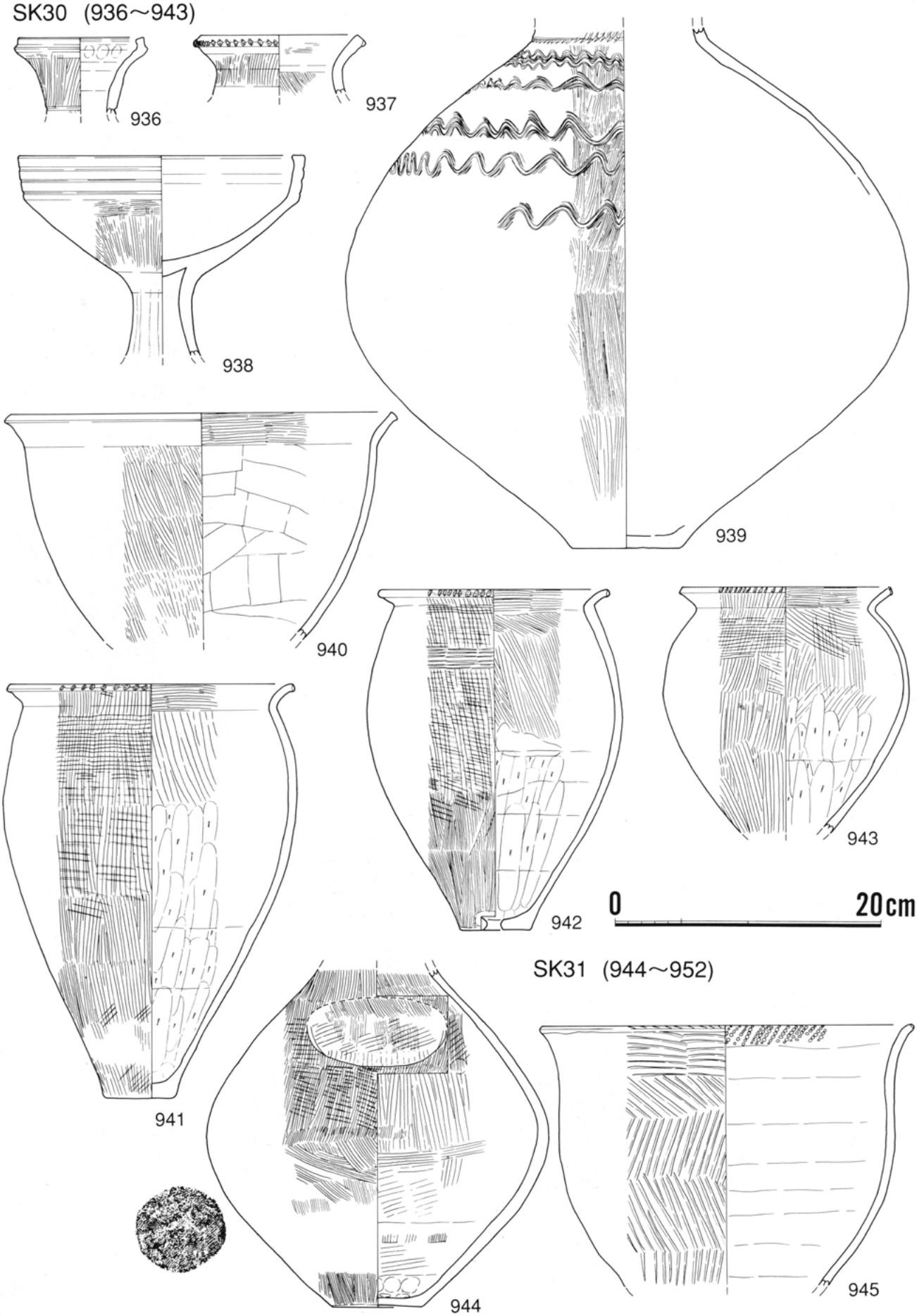


第56図　弥生土器実測図42（1：4）

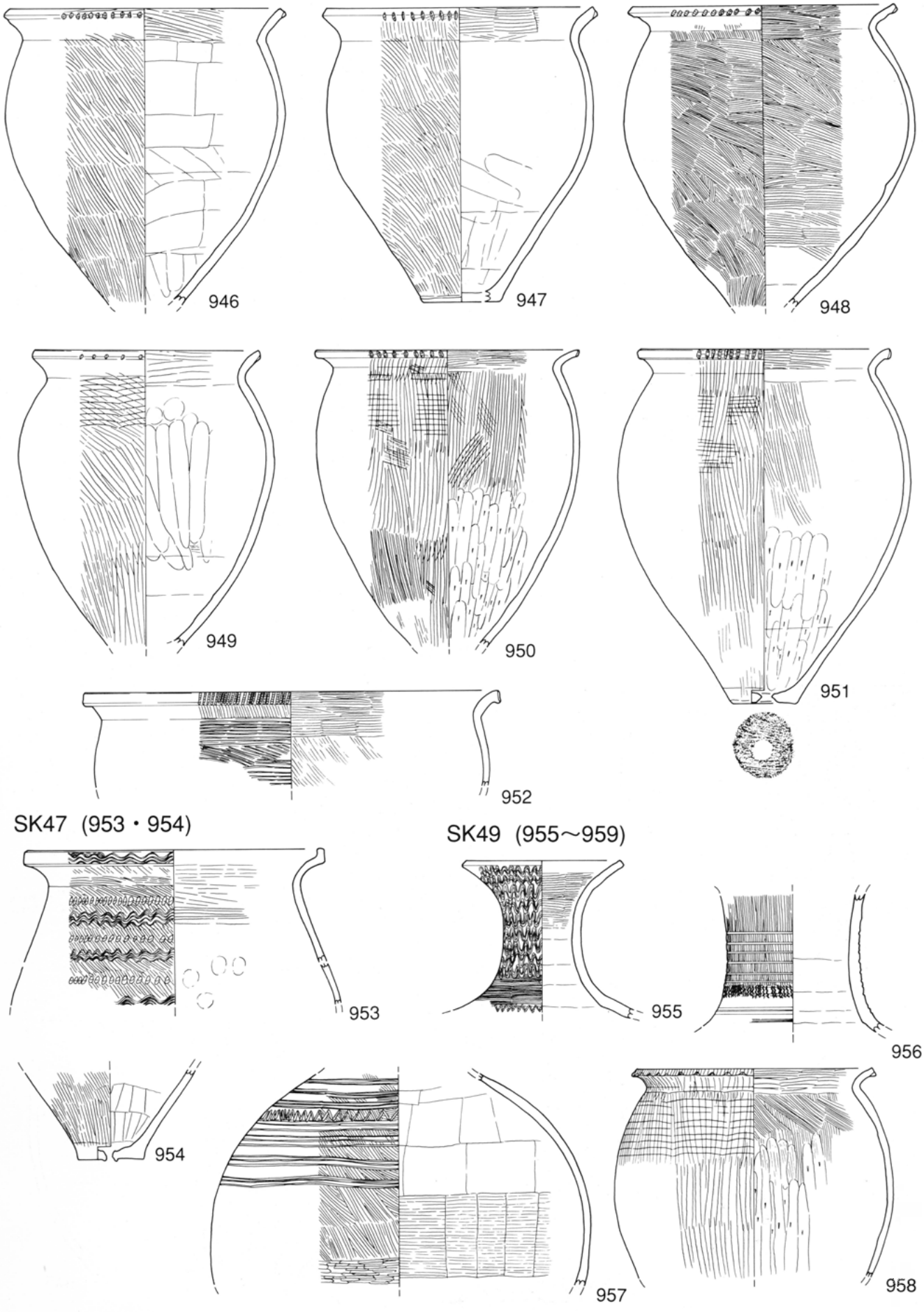


第57図　弥生土器実測図43（1：4）

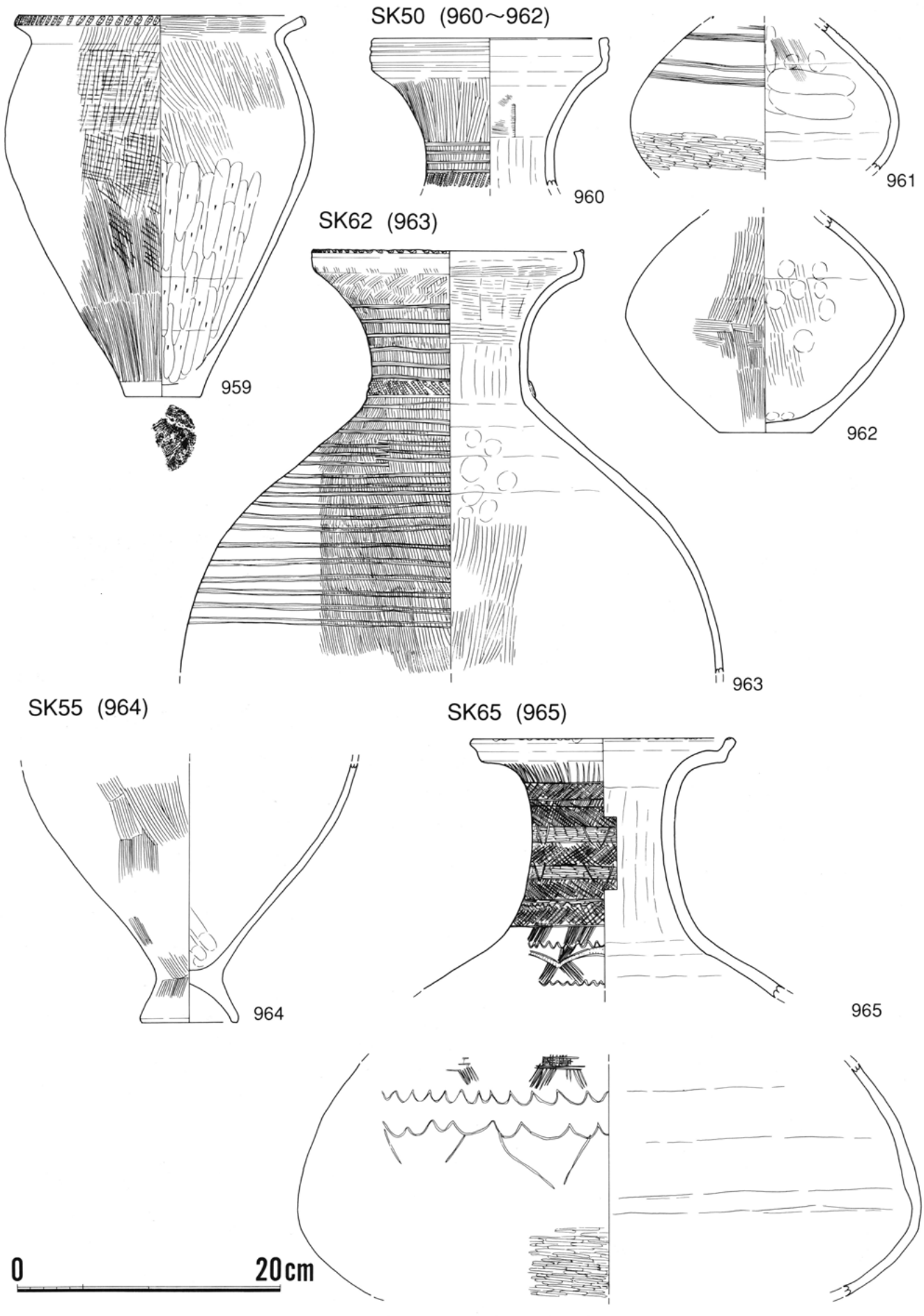
SK30 (936～943)



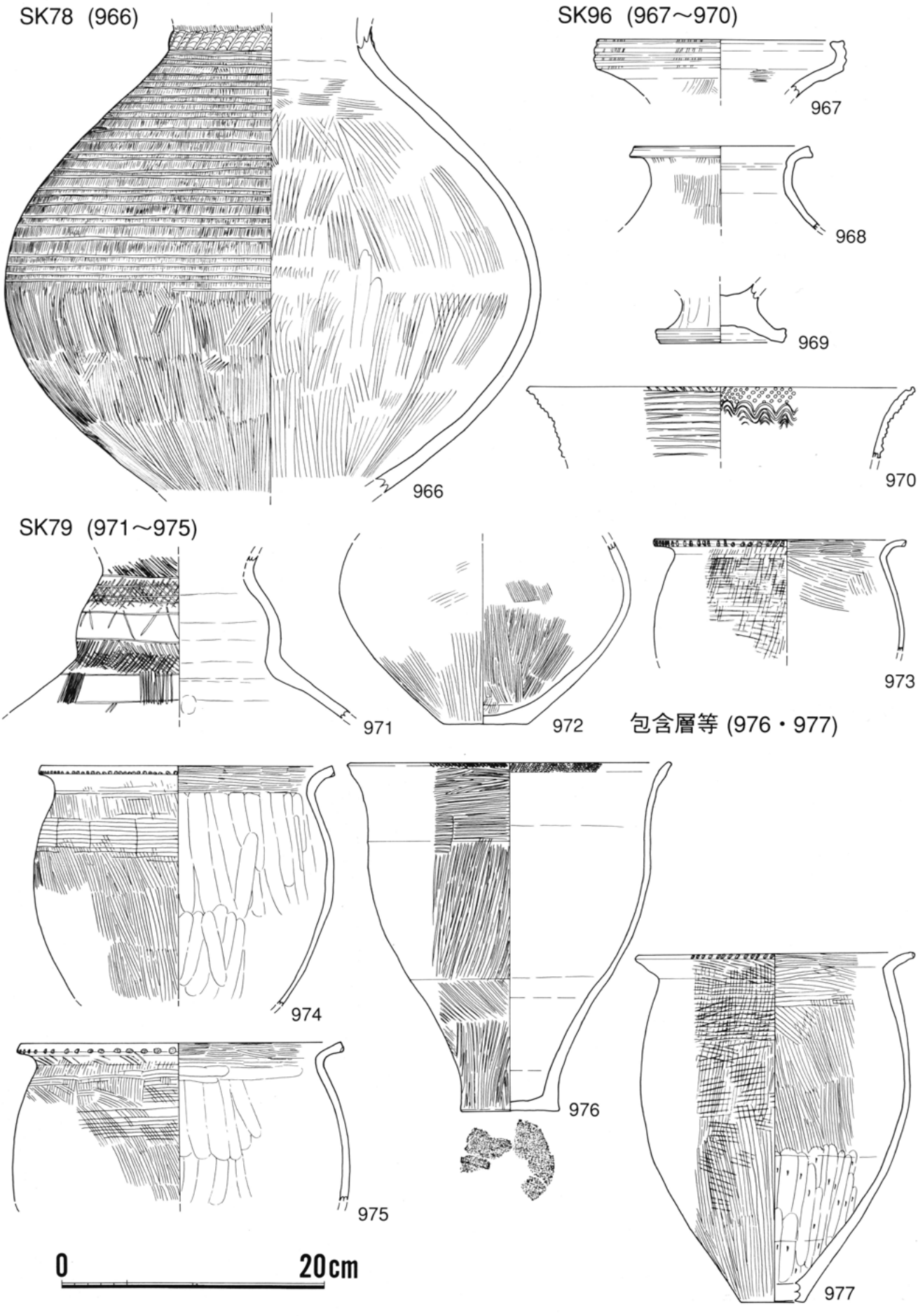
第58図　弥生土器実測図44（1：4）



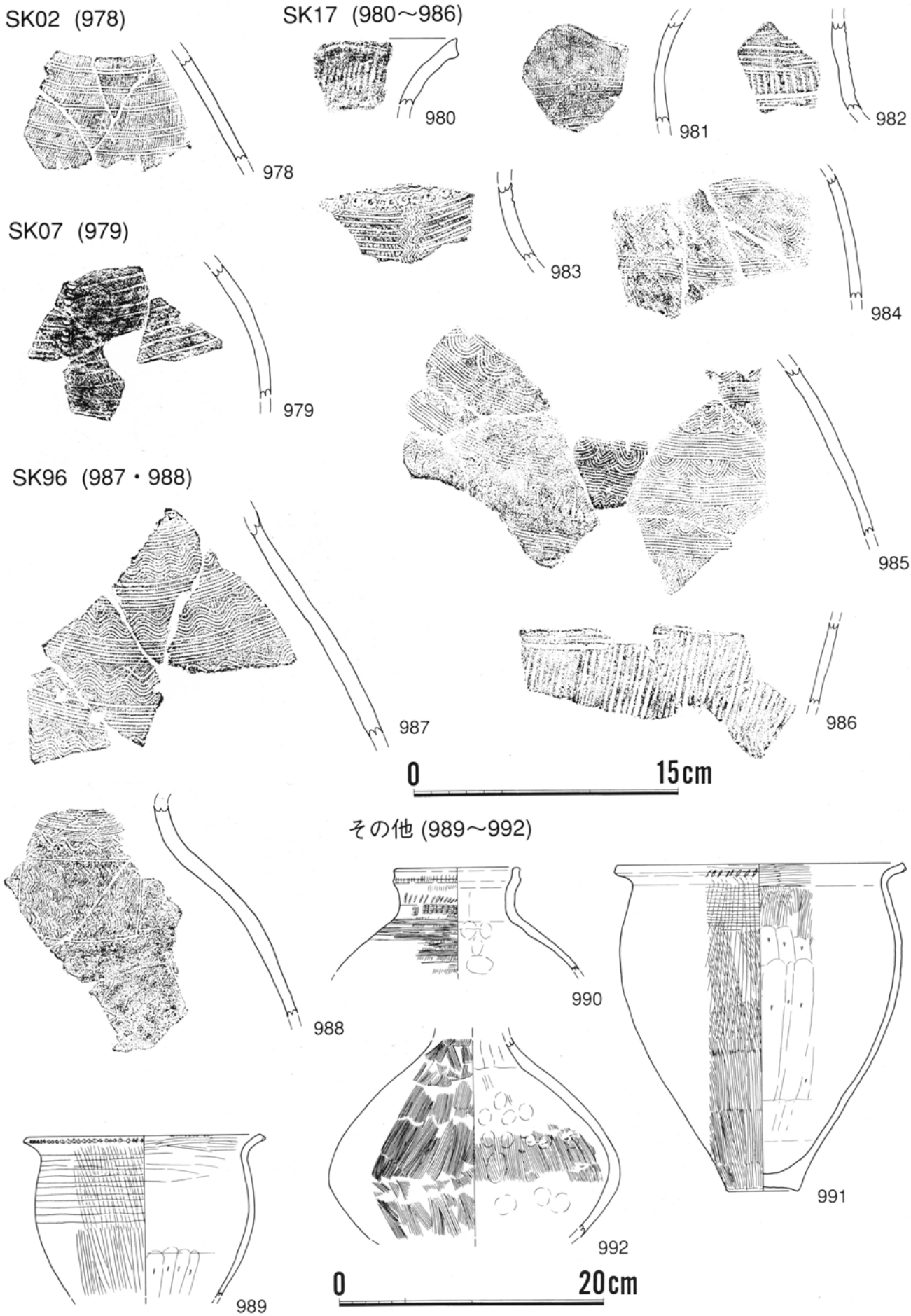
第59図　弥生土器実測図45（1：4）



第60図　弥生土器実測図46（1：4）

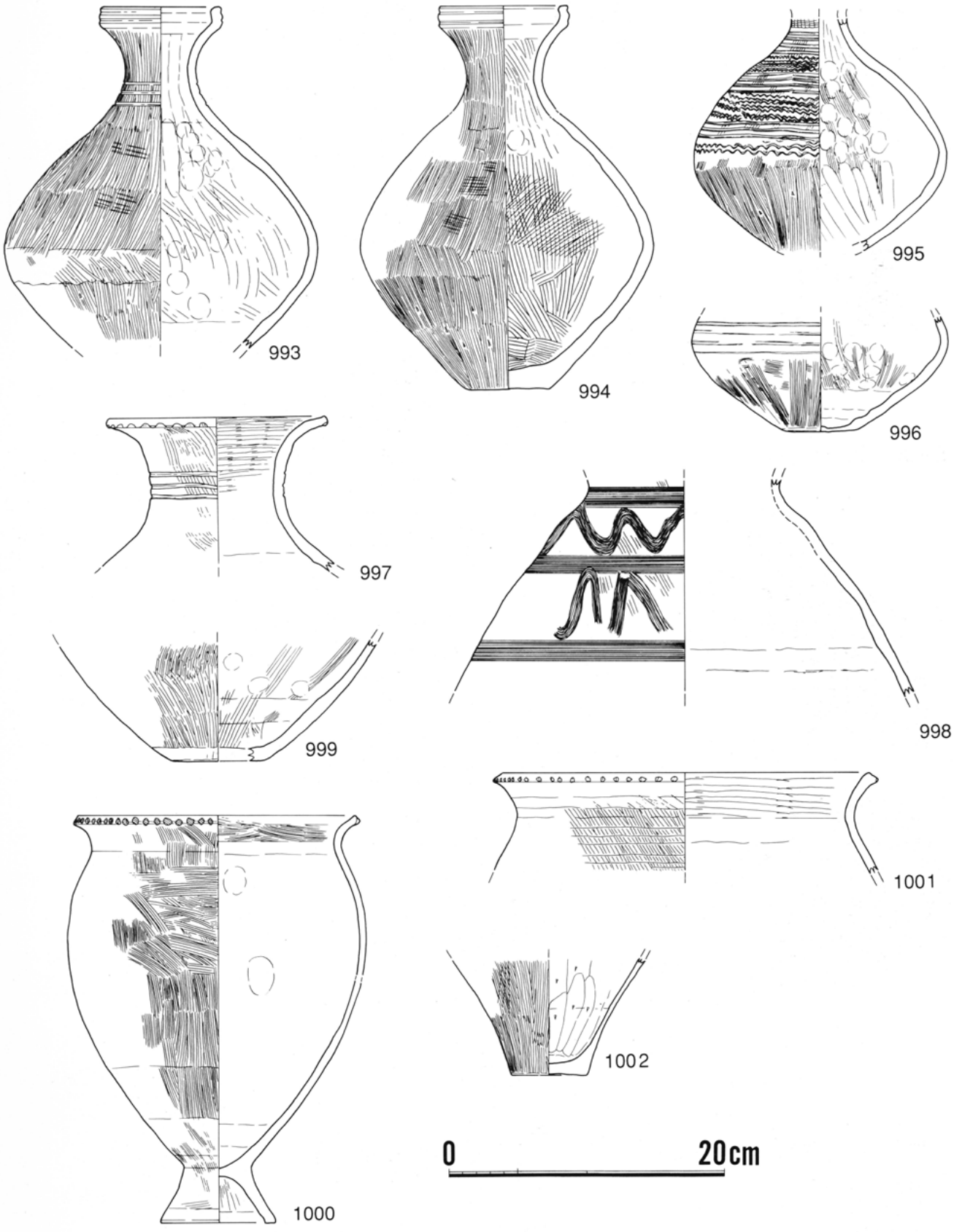


第61図　弥生土器実測図47（1：4）



第62図　弥生土器実測図48（978～988は1：3、989～992は1：4）

SU01 (993～1002)



第63図　弥生土器実測図49（1：4）

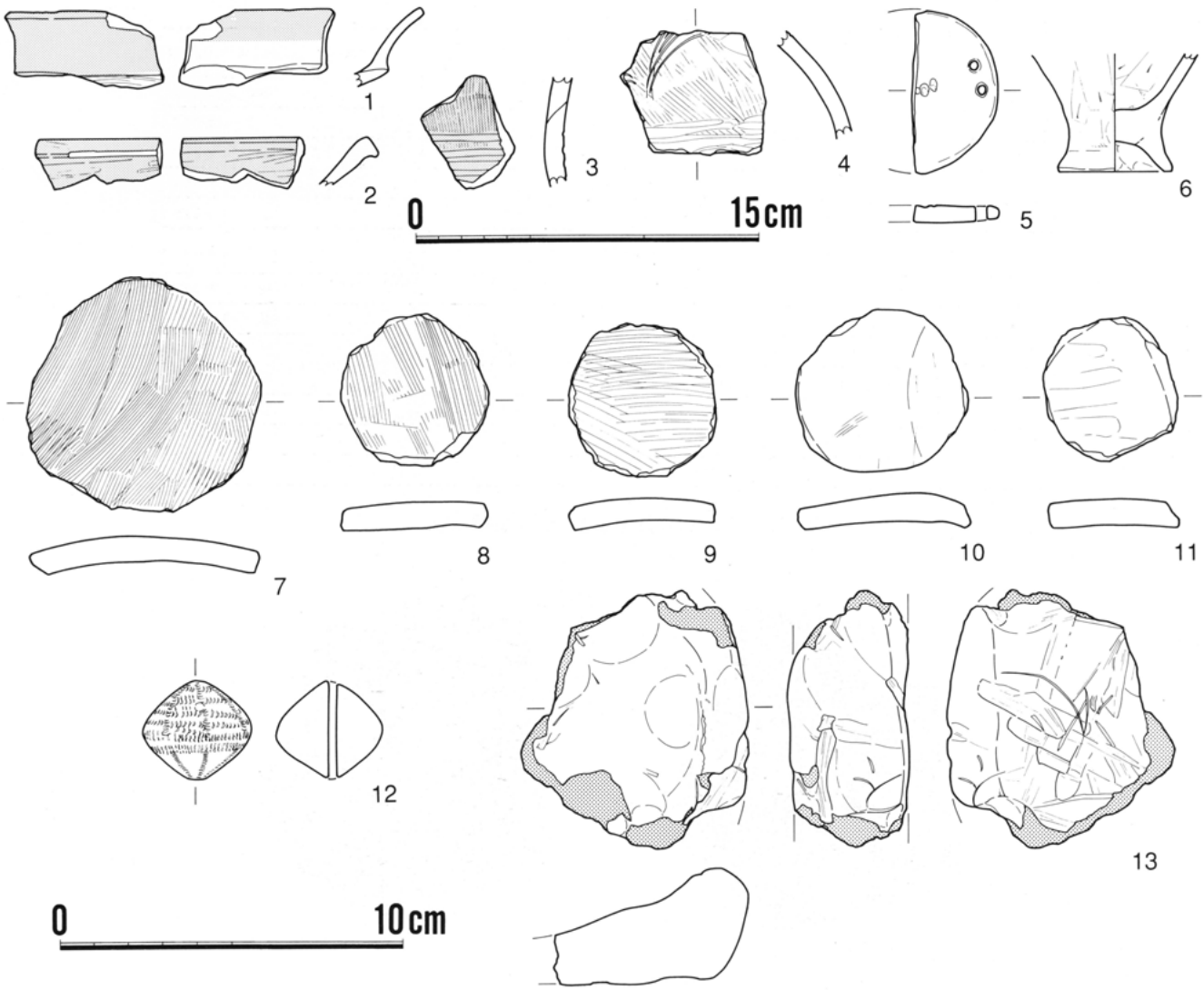
6. 土製品類・古代の遺物

八木佳素実

(1) その他の弥生土器・土製品（第1図・第2図）

1～3は赤彩のある土器である。1は高杯の口縁部もしくは二重口縁壺の口縁部か。稜をなして屈曲した後大きく外反し、屈曲部以上に赤彩を施す。内面の赤彩は磨滅のため一部に残るのみで明確な範囲は不明である。2は器台の口縁部。外面口縁下をナデ押え端部を僅かに突出させる。内外面とも磨きの上、赤彩を施す。3は長頸壺の頸部である。内外面とも赤味を帯びる。

4は線刻の施された壺の胴部である。線刻は2本1組の施文具により、1点を起点として円弧を重



第1図　その他の弥生土器・土製品実測図（1～3は1：3、7～13は1：2）

ねて描いている。

5は蓋である。扁平な円形で、2個1組の孔がある。孔は本来2箇所にあったものと推定される。上面は平滑であるが、裏面はやや黒っぽく変色し、細かい剥離痕が多い。また裏面端部が孔の周囲以外の部分で若干磨滅している。

6は甕形の土器の脚部である。内外面とも下から上の縦方向の削りを施し、脚部は貼り付け後外側をナデ、内側を削り後ナデ押えし、端部を面取りする。全体に火を受けて黒っぽく変色し、外面脚部より上に煤が付着する。

7～11は加工円盤である。原材は7～9が甕、10、11が壺で、いずれも体部を利用、端部を打ち欠いて丸く整形している。8、10、11は端部の一部が磨滅する。大きさは7が6.9㎝、8～11は4.5㎝前後に集中している。

12は土錘または土製の玉か。算盤珠形で径2.5㎜の孔を通す。貝殻または櫛状工具による刺突文が施される。最大径部分で緯線方向に2条巡らせた後、その上下を経線方向の刻み各7条で区分し、その間を上半分のみ緯線方向の刻み4～5条で埋めている。表面は全体に磨滅している。

13は火を受けた土塊で、鋳物の外型の可能性がある。割れて小片となっているため全体の形状は不明であるが、板状に成形されたものの端部が残る。全体に火を受けて黒くなっている。胎土は粗く、5㎜以下の砂礫・砂粒を多く含む。内面は手で押さえつけて凹められ、表面は比較的滑らかである。端部は面をなし、表面は荒れている。外面は平坦であるが、不定方向に線状の凹みが多数付く。

図版	番号	遺構番号	調査区	出土遺構・地点	器形	色調	胎土	焼成	残存率	法量(cm) 口径	器高	底径	技法の特徴	備考	登録番号
1	1		95Ba	検出Ⅰ	高杯？壺？	灰黄色	精良	軟	口縁1/10	推定28.0			内面ナデ 外面ハケ目・ナデ	赤彩	E-2001
1	2	SK07	96D	SD03 SX01	器台	灰黄色	精良	やや軟	口縁1/10	推定27.5			内面ミガキ 外面ナデ・ミガキ	赤彩	E-2002
1	3		93Aa	検出Ⅰ	壺	黄灰色	粗	軟					内面ハケ目・沈線 外面ハケ目・ナデ	赤彩	E-2003
1	4	NR06	96D	NR01	壺	褐灰色	粗	やや軟					内面ハケ目・ナデ 外面ハケ目・ミガキ	線刻	E-2004
1	5		93Ba	SK61	蓋	灰黄色	粗	軟	口縁5/10	6.7	0.75		ナデ		E-2005
1	6		93Ea	SK04	製塩土器？	暗褐色	粗	軟	底部5/10			5.0	内面ケズリ 外面ケズリ 底部オサエ・ナデ		E-2006
1	7	SX57	93D	SK04	加工円盤	灰茶色	粗	やや軟		6.9	0.7		内面指オサエ・ハケ目 外面ハケ目	甕	E-2007
1	8		95Ba	検出Ⅰ	加工円盤	褐色	粗	軟		4.4	0.75		内面ケズリ 外面ハケ目	甕	E-2008
1	9		93D	検出Ⅱ	加工円盤	暗灰色	粗	やや軟		4.6	0.65		内面ハケ目 外面ハケ目	甕	E-2009
1	10	SX22	94Aa	SK23	加工円盤	暗灰褐色	粗	軟		5.0	0.85		内面ケズリ・ミガキ 外面ハケ目・ミガキ	壺	E-2010
1	11	SK53	94Cb	SK15	加工円盤	灰褐色	粗	やや軟		4.2	0.75		内面ミガキ 外面ミガキ	壺	E-2011
1	12		93Aa	SK123	土錘？	灰黄色	精良	軟	完形	3.1	2.85		ナデ・刺突紋		E-2012
1	13	SK67	95Ca	SK05	鋳物外型？	黒褐色	粗	やや軟					内面オサエ・ナデ 外面ケズリ？		E-2013

第1表　その他の弥生土器・土製品観察表



写真1　土製品（13）

凹みには端部が四角で浅いものと端部が丸く深いもの、巾1㎜以下の細いものがあり、刺突痕もある。何らかの掻き削り痕、または植物の茎のようなものの張り付き痕か。

第2図1はパレススタイル壺の口縁部で93Ｃａ区ＳＫ38より単独で出土した。口縁内面文様帯は強く内湾し、その内側端は一段の浅い段をなす。文様帯には貝殻による4列の羽状刺突と、段頂部に円形刺突文を施す。拡張口縁部には5条の擬凹線文を施し、4本1単位の棒状浮文が4箇所につく。赤彩は棒状浮文を除く口縁拡張部及び内面口頸部、外面頸部段部に施す。時期は廻間Ⅰ式期後半（註1）。

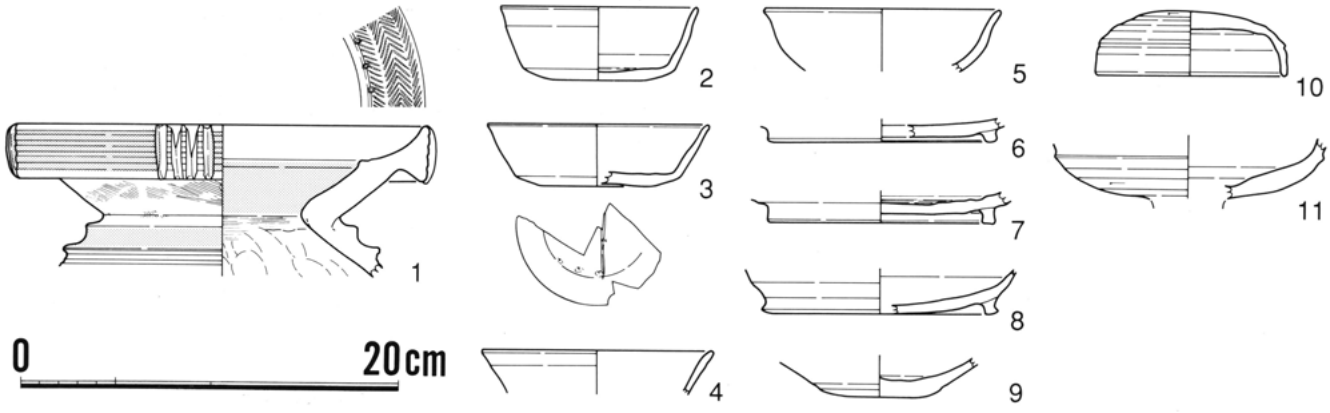
(2) 古代の遺物（第2図）

96Ｃ区の自然流路上層を中心に若干の須恵器片が出土している。いずれも後世の遺構及び包含層からの散発的な出土である。器種は杯身と杯蓋がほとんどで、他に高杯と甕が若干認められる。

2～8は杯身である。2、3は無高台の杯身で、3は外底面にヘラ記号及び4箇所の刺突痕がある。6、7、8は断面台形の高台の付く杯身。9は杯身または瓶か。10は杯蓋、11は高杯。時期は8、10、11が7世紀後半、2、3が8世紀後半（註2）。

註1）赤塚次郎編　1990『廻間遺跡』財団法人愛知県埋蔵文化財センター

註2）斎藤孝正他編　1995『須恵器集成図録第三巻』雄山閣出版



第2図　その他の弥生土器・須恵器実測図（1：4）

図版	番号	遺構番号	調査区	出土遺構・地点	器種	器形	色調	胎土	焼成	残存率	ﾛｸﾛ回転	法量(cm) 口径	器高	底径	技法の特徴	備考	登録番号
1	1	SX183	93Ca	SK38	土師器	壺	白黄色	精良	軟	口縁 9/10		21.7			内面口縁部羽状刺突紋 外面口縁部貼付け後擬凹線紋・棒状斑	赤彩	E-2014
1	2	NR07	96D	NR02	須恵器	杯身	暗灰色	やや粗	硬	口縁 3/10	左	10.4	3.9	4.6	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ・ロクロナデ		E-2015
1	3	SX178	93Ca	SK14	須恵器	杯身	暗灰色	密	硬	口縁 3/10	左	11.6	3.2	5.8	内外面ロクロナデ 底部ケズリ・ナデ	底部ヘラ記号	E-2016
1	4	NR02	96B	NR01	須恵器	杯身	暗灰色	密	硬	口縁 2/10	右	12.2			内外面ロクロナデ		E-2017
1	5		94Aa	検出	須恵器	杯身	暗灰色	やや粗	硬	口縁 2/10	右	12.4			内外面ロクロナデ		E-2018
1	6	NR07	93Eb	NR01	須恵器	杯身	灰色	粗	やや軟	底部 3/10	左			12.1	内外面ロクロナデ 底部ケズリ・高台貼付・ロクロナデ		E-2019
1	7		95Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ	須恵器	杯身	暗灰色	密	硬	底部 2/10	右		1.7	11.7	内面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ・高台貼付・ロクロナデ		E-2020
1	8		94Aa	SK08	須恵器	杯身	暗褐灰色	やや粗	硬	底部 8/10	左			12.6	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ・高台貼付・ロクロナデ		E-2021
1	9	NR07	96D	NR02	須恵器	杯身？	灰色	粗	硬	底部 8/10	右			6.4	内外面ロクロナデ 底部ケズリ・ナデ		E-2022
1	10	NR03	96C	NR02	須恵器	杯蓋	黄灰色	やや粗	やや軟	口縁 10/10	左	9.9	3.4		内面ロクロナデ 外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ		E-2023
1	11		95Cc	検出Ⅰ	須恵器	高杯	灰色	やや粗	やや軟	体部 3/10	右				内面ロクロナデ 外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ		E-2024

第2表　その他の弥生土器・須恵器観察表

7. 石製品

石黒立人・原田幹

(1) 解説（第1表～第6表）

a. 磨製石器（第2図～第5図）

石鏃　78・79のみが有茎である。73～77は打製石鏃の凸基無茎タイプに近似している。断面形では、68・74・78のように菱形で中央に鎬をつくるものと、平坦なものとに大きく区分できる。前者は石剣断面に類似している。石剣製作に関連するのか、あるいは単に石剣切先片を利用したものなのか。後者とすれば、石剣数が増加することになる。はたしてどちらか。

80～85は未製品である。80・74・85は周縁に面があり、刃部を研ぎ出す前の状態である。
81は研磨面がまったく認められない。周縁を押圧剥離ではなく両極加撃によって成形しており、縁辺はやや潰れている。凹線紋土器期での細分時期が明確でないために、果してこのことが剥離技法の衰退に対応したものかどうか断定できないが、時期的には無関係とは言えない。今後、磨製石鏃の普及ではなく、その製作技術上の変化に注意する必要がある。

石剣　86は両面ともに細かな研磨が加えられて面を作っているために、その分だけ鎬が弱くなっている。刃部研ぎ直しを繰り返した結果、身幅が狭くなったことによるのであろう。87は施溝分割されている。石庖丁片かもしれない。88は目釘穴があることから基部片と考えられるものである。右面は研磨面が剥がれているが、目釘穴の周囲は摩耗している。若干の整形が施されてそのまま使用されたようだ。

両刃石斧　大中小がある。43は欠損しているが、完全品であれば重量はゆうに1キログラムを超すであろう。刃部両面には線条痕が顕緒に認められ、前側面側を欠損している。身部は研磨されておらず、敲打痕を残している。しかし、ぬめりのような摩耗が認められる。装着に伴うものであろう。44は破損品の再生であり、側面観がややアンバランスである。刃部は身と平行せず、図示した角度で傾斜している。図化平面が左主面となる。身部上半部は摩耗が顕著である。45は小形品であるが断面形は44に近似している。風化が著しいので、これが本来のサイズであったのかどうかはわからない。敲打痕はほとんど認められないので丁寧に研磨された部類に属すものといえる。46も図化平面が左主面であり、前側面側に偏った刃部の後退が認められる。47は刃縁がつぶれてわずかに平坦面を形成している。

片刃石斧

偏平片刃　48は刃部の断面形が偏っていることから片刃に含めたが、偏平両刃（縦斧）の可能性を否定するものではない。両刃石斧（剥片）からの再生品である。

偏平片刃には大中小がある。概して長方形の比重が高いようだ。そして、成形時の剥離面を研磨で十分に消しさっていないものが多い。57は石庖丁からの再生品で、未貫通の穿孔がある。58は両

主面に浅い溝が施され、この部分で加撃して切断されている。このような施溝分割手法は朝日遺跡にも類例がある。60・61は大形品である。断面形は凸レンズ状に近く、身も厚い。整形時の敲打痕が一部に認められる。両刃石斧の破損品から再生されたものである可能性が高い。

柱状片刃　62は平面形は偏平片刃との中間形のようだが、刃部のサイズが柱状片刃に近似している。63は刃部に大きな剥離が認められる。使用時の衝撃によるとすれば、骨角器の製作（たとえば切断）に関連する可能性もある。66の断面形は隅円長方形で整っているが、67は後主面が突出しており安定さに欠ける。

未製品　89～92のように研磨面または敲打面を一部に残し、破損品からの再生が試みられたものと、97～100のように全く破損品の痕跡を残さないものとがある。

89は両面に研磨痕、側縁にも面が形成されている。サイズは磨製石鏃に近いが、身の厚みから石斧未製品とした。90は両刃石斧刃部付近の破片、91は片刃石斧の破片、92は両刃石斧の破片である。いずれも片刃石斧への再生途中にあったものと思われるが、採取可能な剥片のサイズからみて、それ以外の製作は不可能である。

97は左平面と上端に自然面が残っている。亞角礫から剥ぎ取られた剥片を素材として成形途中に廃棄されたものである。98は主面側の一部剥離上に敲打が加えられている。刃部成形後に破損したものである。折損部の稜には細かな敲打が認められる。敲打具に転用か。99は基部片で基端面は自然面である。右面剥離上に敲打が加えられている。折損部稜に細かな敲打が認められる。これも転用か。100には転用の痕跡は認められない。

敲打具　未製品としての形状が窺えないものを敲打具とした。93は両刃石斧の折損品で、破断面に敲打痕が集中している。94は未製品の破損品を敲打具に転用したものである。折損部の稜もかなり潰れている。

95・96は通常石斧製作跡で出土することが多い敲打具の典型である。95は平坦面がまだ広く石斧時のぬめっとした摩耗痕を残している。平面図左側面には研磨痕があり、やや偏平な両刃石斧であったことが窺われる。96はかなり使用が進んで多面体化しているが、側面図上下に石斧時の平坦面をわずかに残している。

b.打製石器（第1図・第5図・第7図）

石鏃　1～4、12、16、23がチャート製、15がサヌカイト製である以外は下呂石製である。基部形態は平基および凸基が主体であり、明確な凹基は認められない。身部の形態は五角形鏃の系譜が8・9に窺えるのみである。10は逆刺が側方に突き出すもので、該期の特徴である。ほとんどが先端を欠損している。28のような樋状剥離が対象物との衝突時の衝撃によるものであれば、他のものにも未使用品は無いということになる。

30・31は石鏃をドリルに転用したものである。線条痕が観察されることから、土器および土器片の穿孔に用いられたものであろう。

32～36は未製品と考えられるものである。製作途中の破損で廃棄されたのではなく、単に完成に至らなかったもののようだ。あるいは、別器種であるかもしれない。

石錐　指つまみ型ではなく、いずれも軸装着型である。使用痕は顕著ではない。40は研磨によって整形されている。

石小刀　41はサヌカイト製で、搬入品であろう。該期での類例としては珍しい。

中形尖頭器　42はチャート製であり、類例は東海市烏帽子遺跡にある。漁具か。

スクレーパー　101は安山岩製。上部の平坦面は礫面。102は磨製石斧素材（ハイアロクラスタイ

ト）片を利用。下部のエッジには鈍い摩耗痕が認められる。骨角の切断用か。

打製石斧　先端を折損している。残存部分の側縁ほぼ中央がくびれ、敲打によって面が形成されている。磨製石庖丁未製品や石鎌の可能性は低いと考える。

粗製剥片石器　円礫から打ち剥がして得られた剥片を未加工あるいは簡単な調整を施しただけの簡易な石器である。剥片の鋭い縁辺を刃部としている。

119は砂岩製で、自然面と剥離面から成る。実測図では、刃部と推定される部位を下辺とし、自然面を左側、剥離面を右側に図示している。刃部と直交する主軸の長さは9.8cm、幅の最大値は9.9cm、厚さは2.2cm、重さ245 gを測り、平面形は円形に近い。刃部と反対側の背部に調整加工のための剥離を施している。自然面左側辺にもわずかに剥離を施しており、小さな抉り状になっている。刃部角は平均で、42度。刃部剥離面側には、不明瞭ながら連続する剥離がみられる。

120は結晶片岩製。自然面側からみて右半部を欠損し、現存する範囲で長さ6.8cm、幅8.0cm以上、厚さ2.1cm、重さ182 g以上である。背部は平坦な面になっている。刃部角は34度で、明瞭な調整加工は施されていない。石材の性質上表面が剥落しやすく全体に摩滅しているが、刃縁のわずかな範囲に本来の表面が遺存しておりローを塗ったような光沢が観察される。（原田幹）

c．その他（第5図・第6図・第8図）

石錘　104は円礫に敲打による浅い溝がめぐっている。

剥片・石核等　ほとんどが下呂石である。そのほかの石材はきわめてわずかであるとともに、石器製作工程を構成しないことから、有意味なのは下呂石のみである。105～109は同一竪穴出土である。107～109には対応する縁辺に剥離や潰れが集中しており、両極打撃が加えられたことを示している。110～112も両極打撃の認められる資料である。

114・115は石核である。114は左面は打点がほぼ1ヶ所に集中しているが、右面では乱雑に転移している。とても良好な剥片が採れるどころではないだろう。115も同様である。

叩き石　棒状の河原礫を利用している。116・117は上下両端に敲打痕が集中している。118は、上端には他と同様の敲打痕が認められるが、側面稜線には溝の並列する敲打痕、平坦面にはあばた状の敲打痕が認められる。溝の並列する敲打痕は108～113など両極加撃が認められる剥片に関連するものであろう。またあばた状の敲打痕は凹石の初期段階の特徴であり、剥片剥離に伴うものであろうか。

砥石　121～124は研ぎ面に断面丸底の溝のある有溝砥石で、121はほとんどの面が溝になるもの、122～124は溝が部分的にあるものである。122の溝には幅1㎜前後の細溝と幅5㎜～10㎜の太溝とがある。132～134は研ぎ面のみの無溝砥石である。122・132は凝灰岩製、121・123・124・133・134は凝灰質砂岩製、他には砂岩製のものがある。砂岩製のものには、無溝砥石が12個（17個中）、有溝砥石が5個（29個中）ある。

炉石・炉縁石　129は偏平円形の河原礫を利用した炉石で、濃飛流紋岩製。被熱痕があり、上面となるA面中央には径6.5㎝の加熱痕跡の抜けた部分があり、吹きこぼれ痕が残る。下面のB面には、灰が付着している。130は炉縁石で、被熱による痕跡から上面と下面が分かる。濃飛流紋岩製。

管玉　131は管玉で、重さ0.1 gである。溶結凝灰岩製。

(2) 二、三のコメント

a.はじめに

一色青海遺跡にかぎらず尾張平野南西地区に位置するほとんどの遺跡において石器素材の定住地近辺での入手は不可能である。たかが叩石1点といえどもである。つまり、石器の使用はその当初において基本的に制約されているといわなければならない。まして石器生産にいたればなおさらである。自家生産による自給は、当地域にあってはまったくの非現実的適応なのである。したがって、石器に関しては外部依存が基本であったと考えなければならない。

b.生産と消費

ここで「生産」というのは、素材の入手に始まり一定の工程に基づいて生産されている石器に関係する概念である。砥石のように、生産されるというより、石材が選択され使用されることによって「砥石」という形状になるもの、また叩石なども除外する。

一色青海遺跡で生産されている石器の品目には、a) 打製石鏃、b）磨製石鏃、c）磨製石斧がある。それぞれ、a:石核・剥片・未製品および叩石、b：未製品、c：未製品・敲打具・調整剥片、が出土しており、一貫した作業が定住地内部で行われたことを示している。そして、個別の生産工房の所在が果たして分布状況に反映されているのかどうかは判断の分かれるところであろうが、基本的には特定の竪穴建物（群）がそうした場として認定される余地はあろう。以下でもう少し詳しく検討してみよう。

a) 打製石鏃は、下呂石・チャート・サヌカイトなどに石材が分かれるものの、直接の素材は下呂石である。チャート・サヌカイトは石核・剥片が不十分にしか出土しておらず、自家生産されていたと強く言うことは難しい。とすれば、なぜ下呂石製以外の石鏃が存在するのかということになるが、一部は戦闘行為に関係した可能性を考慮しておきたい。

b）磨製石鏃は鏑の有無によって2群に分かれる。磨製石剣の再利用に関係すると考えることもできるが、そうすると石剣数が著しく増えてしまう。ほとんどが先端を欠損しており使用されたものと考えられること、未製品が出土していること、大渕遺跡でも認められることなどを考え合わせれば、一方が搬入された（打ち込まれた）ものというより、製作手法上の差異としたほうが妥当性が高いと考える。

c）磨製石斧は、ハイアロクラスタイト一辺倒の石材選択である。そして、素材には亜角礫（一次素材；円礫は含まれていないようだ）と磨製石斧破損品（二次素材；ほとんどが両刃石斧片）の2種類が用いられて両刃石斧・片刃石斧が製作されている。前者は外部から持ち込まれたことは確実だが、後者が集落内部に限定される素材であるのかどうかは微妙である。朝日遺跡では一次素材が極めて少なかったのと対照的に中小サイズの両刃および片刃石斧における再生品の存在が目立つことから二次素材を中心とするリミットサイクル的な生産過程を考えた。当遺跡でも同様に、典型的な敲打具が出土している以上、石斧製作が行われていたことは確実である。この点を認めた上で一色青海遺跡に関わる問題は、二次素材が内部のサイクルによるのではなく外部から持ち込まれた可能性の有無、一次素材・二次素材の未製品が片刃石斧に集中する点の2つである。

まず第一の点について。なぜこの様に考えるのかというと、同時期の大渕遺跡では調整剥片が認められないにもかかわらず未製品が出土している

からである。破損品の出土は使用されていれば当然のことだが、調整剥片の有無が一貫した製作工程の存在と切り離せない以上、大渕遺跡における磨製石斧製作は未製品からの生産を想定するほかない。そして、これを一色青海遺跡に重ね合せていうならば、一次素材を供給するどこかの遺跡（三重県大安町宮山遺跡は有力な候補地）、二次素材を供給する側として大渕遺跡、二次（および一次）素材を受給して成形・整形し未製品を供給する側として一色青海遺跡、未製品を受給する側として大渕遺跡という関係が成立するのである。もちろん、この関係が直接に認められるというのではない。モデルとして組み立てられるということである。

次に第二点。片刃石斧への集中は、両刃石斧、とりわけ１ｋｇを超す大サイズ両刃石斧の希薄化と対になる。大サイズが常時必要ならば随時補給されると思われるが、どうもそういう事態は生じていない。遺跡資料によるかぎりは、大サイズは消滅傾向にある。すなわち、大サイズ石斧の伐採斧としての機能が中サイズ両刃石斧と鉄斧へ移行しつつあったということになる。この点は、状況証拠的にみれば、朝日遺跡の弥生Ⅲ期後葉に比定される逆茂木・柵材の切断痕が鉄斧の使用を匂わせているように、特定の遺跡ではかなり進行していた可能性が高い。

このように考えると、かつてわたしがⅣ期には石器生産が孤立分散的になる（石器の生産・消費をめぐるネットワークが分解する）がゆえに磨製石斧生産が衰えたと推定したことも、すでに述べているように、けっして段階的に進行したのではなく、Ⅳ期後葉に、まさに急激に進行したということを改めて確認する必要がある。

ｃ．石製工具の終末

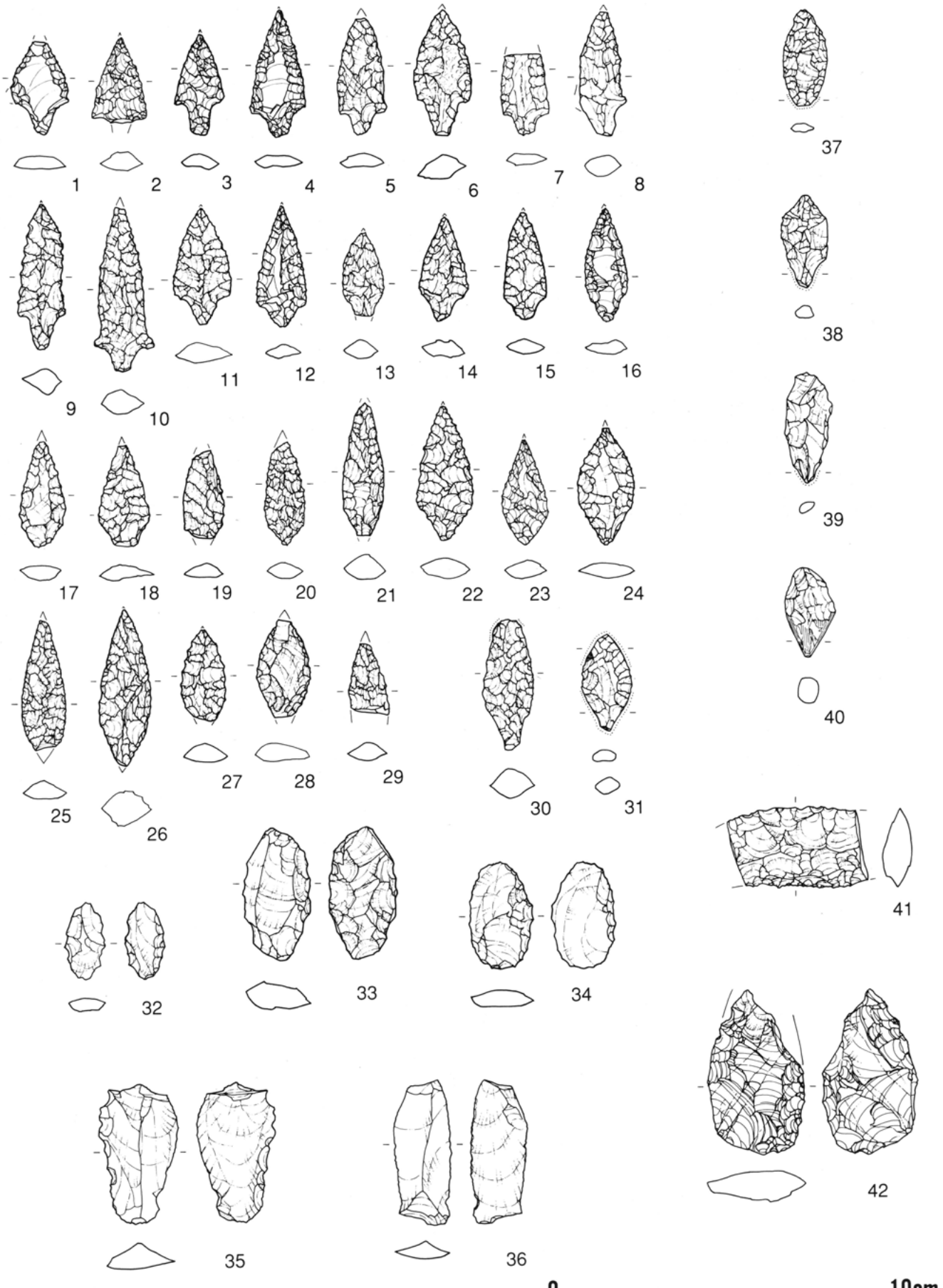
弥生時代の工具として基本的なものには、打製石器にスクレーパー・剥片があり、磨製石器に各種磨製石斧がある。前者は弥生時代以前からの長きにわたって連綿として用いられてきたものである。いっぽう、後者の磨製石斧のうち片刃石斧類は弥生時代になってあらたに工具品目に加わったものである。しかし、それは弥生時代の工具が機能的に優れていたからではなく、木製農具の生産と切り離せないものとして、つまり物産複合体（文化）として移入されたがゆえに水田稲作の普及にともない広がったのである。

さて、弥生Ⅳ期にはスクレーパー・剥片類がほとんどの遺跡で消滅する。一色青海遺跡のスクレーパーの存在は意外なほどである。もうひとつ意外なものに打製石斧があるが、このような品目は犬山扇状地および美濃地方の内陸部で散見されるものであり、そうした地域からもたらされたものである可能性は十分に考えられる。つまり、尾張平野部においてはこれらはⅣ期のはやいうちに消滅するのである。その消滅はおそらく鉄製ナイフの普及に関連するのであろう。そして遅れて鉄斧の普及（導入ではない）となる。その時期は、典型的には名古屋台地の開拓が急激に進むⅣ期後葉をあてることができる。Ⅳ期後葉には名古屋市瑞穂遺跡・見晴台遺跡をはじめ、三重県津市周辺の丘陵地帯から松坂市にかけての丘陵地帯、三河地方の一部丘陵部など、それまで人々が入り込まなかった環境への広範な進出が、石鏃を除く主要な石器を欠くなかで進行するのである。この背景としては、ひとつには低地部定住地の環境が不安定化したこと、ふたつめに鉄斧の大幅な普及があったからだと考えられる。

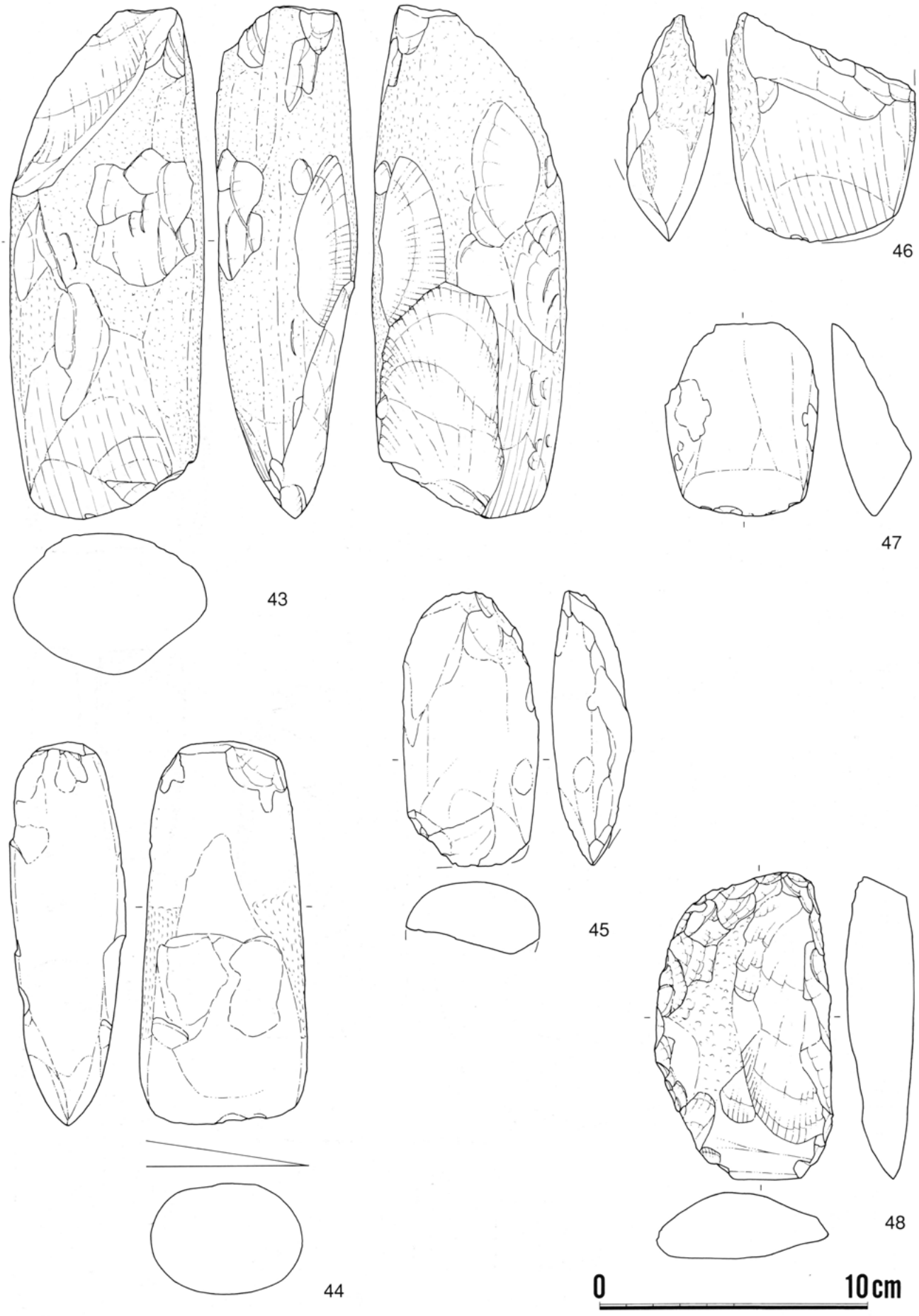
とはいえ、鉄斧などの鉄製利器の生産および分配を掌握していたのがどこであろうが、石斧と同様に生産基盤を構成する品目としての社会性からみてそれが局限化される可能性は、政治との関係を抜きにしては考えられないであろう。

石器流通システムを中心とする交換システムの崩壊が既存の分業システムを不安定化させたことが鉄器依存を促進しかつ新しい交換システムの構築を結果したとしても、鉄器流通システムが石器流通システムを駆逐するというような排他性をそこに認めることはできない。当初両者は重合して二重システムになっていたわけであるから、鉄器は徐々に、そして急激に普及したのである。ただ、後戻りできない方向に当地域を踏み出させたそのことが、その変化を固定し強調したのである。

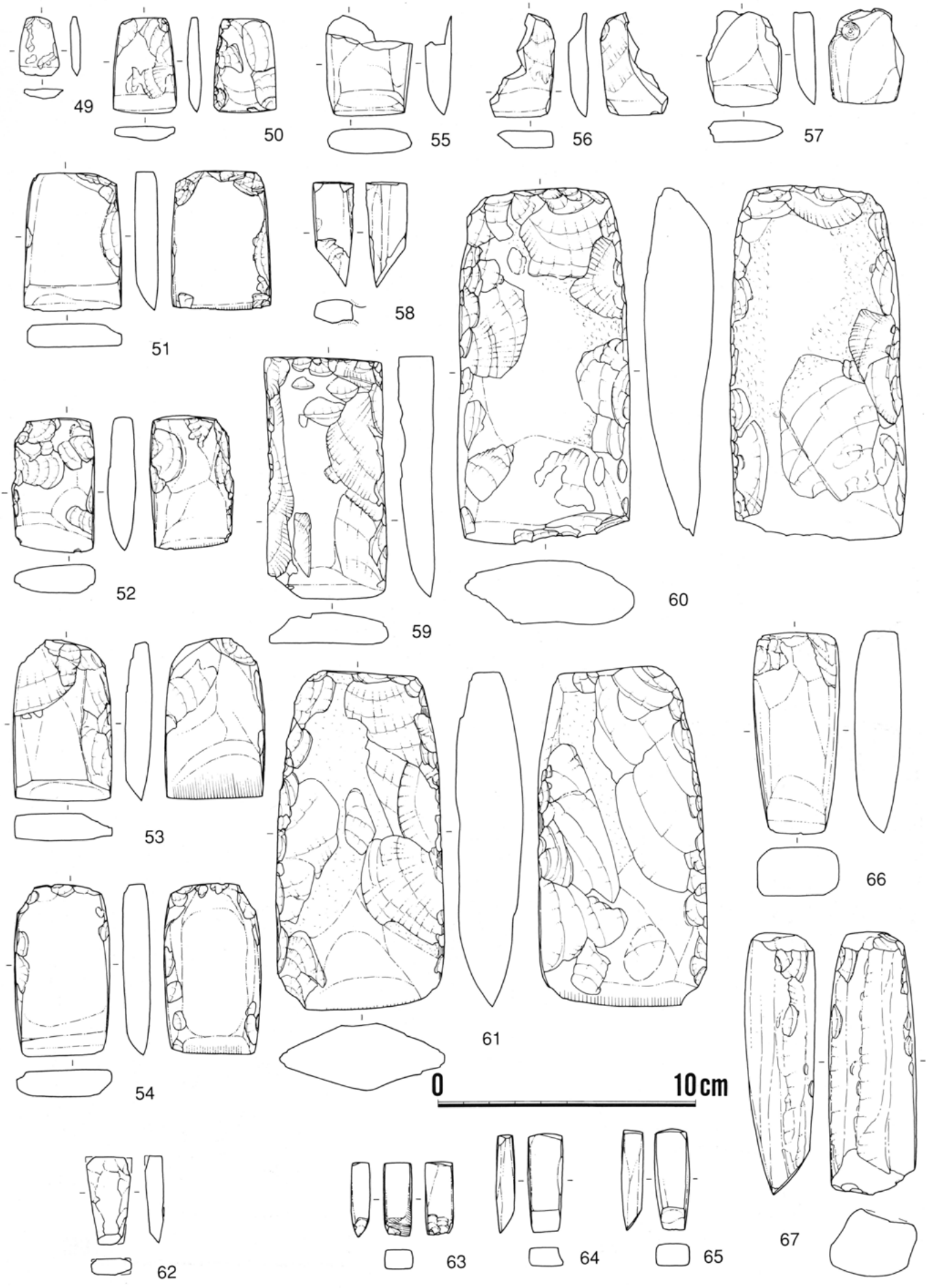
鉄器が社会を変えた直接的かつ重大な要因なのではなく、鉄器もその要素である全体的な環境変化が社会の構造的変化をもたらすほど重大であったということなのであろう。



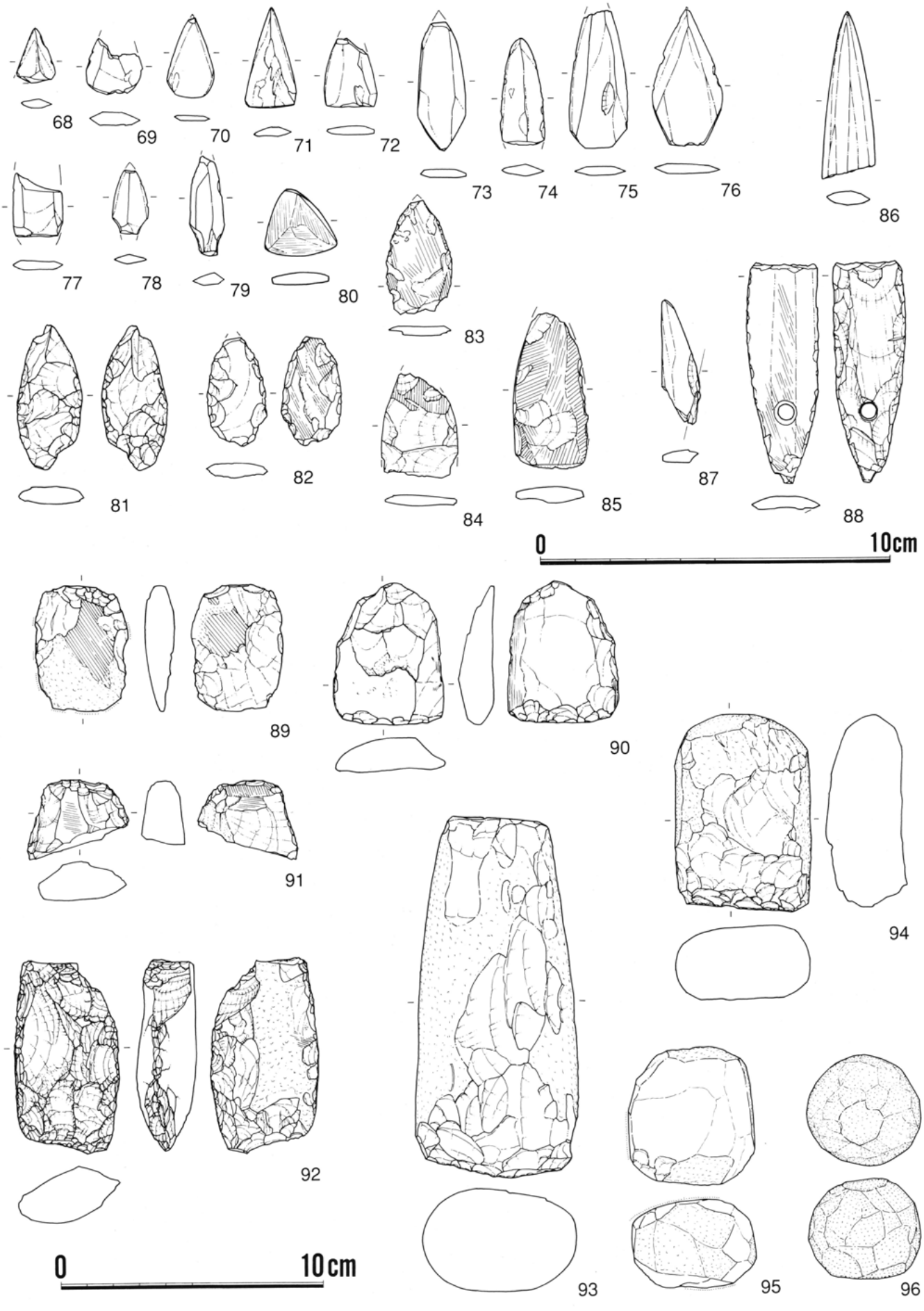
第１図　打製石鏃・打製石錐等実測図（２：３）



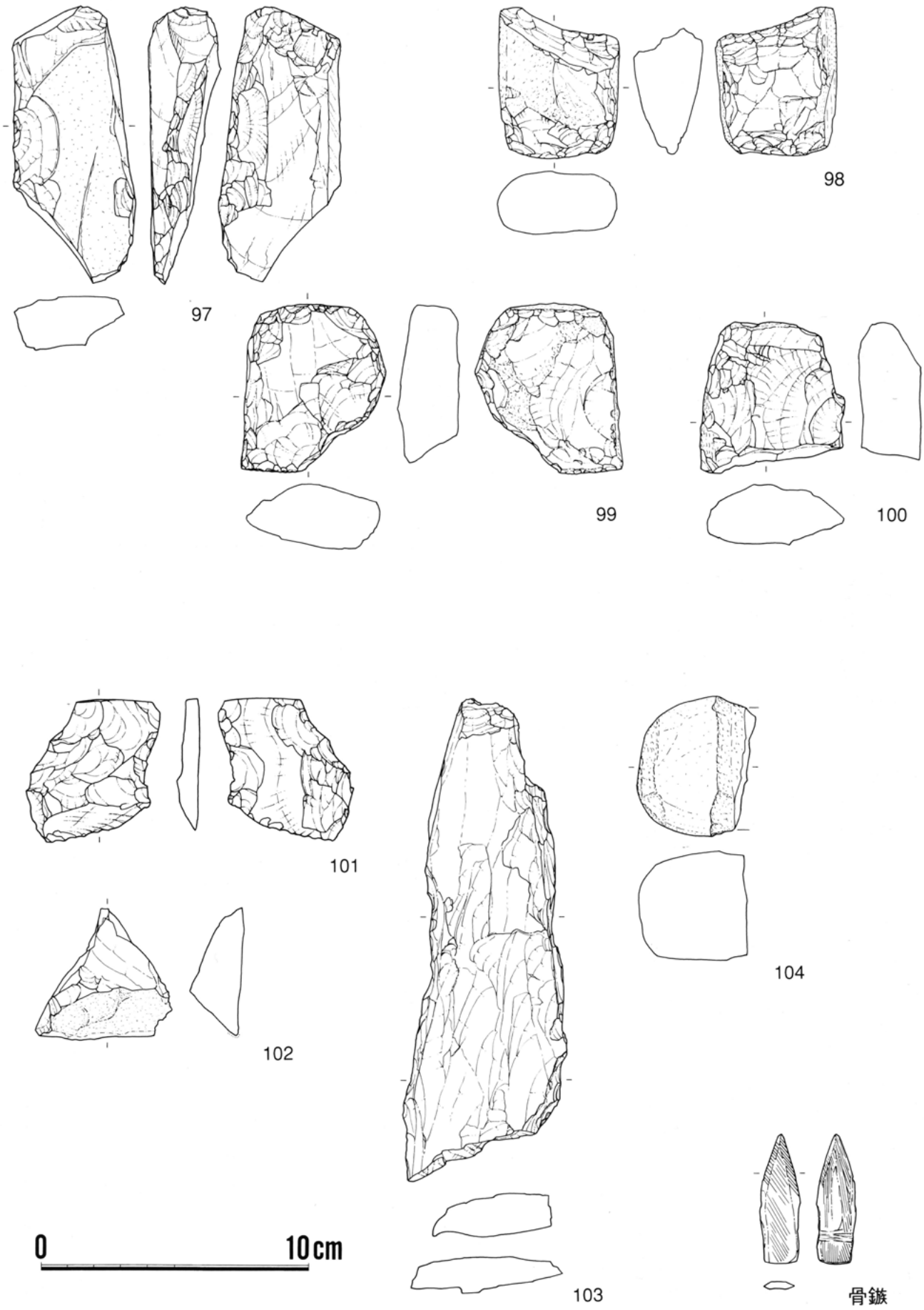
第2図　磨製石斧実測図1（1：2）



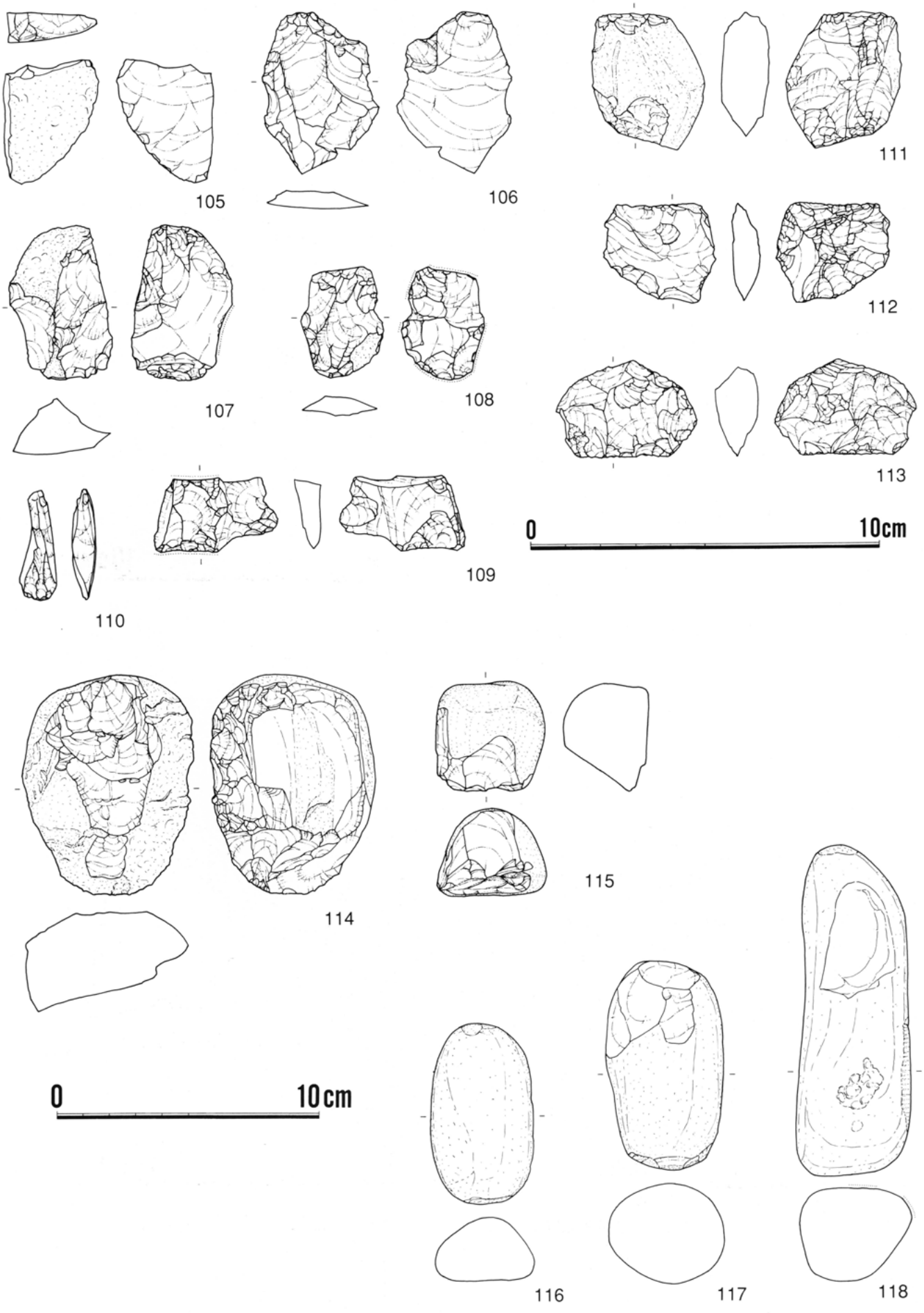
第3図　磨製石斧実測図2（1：2）



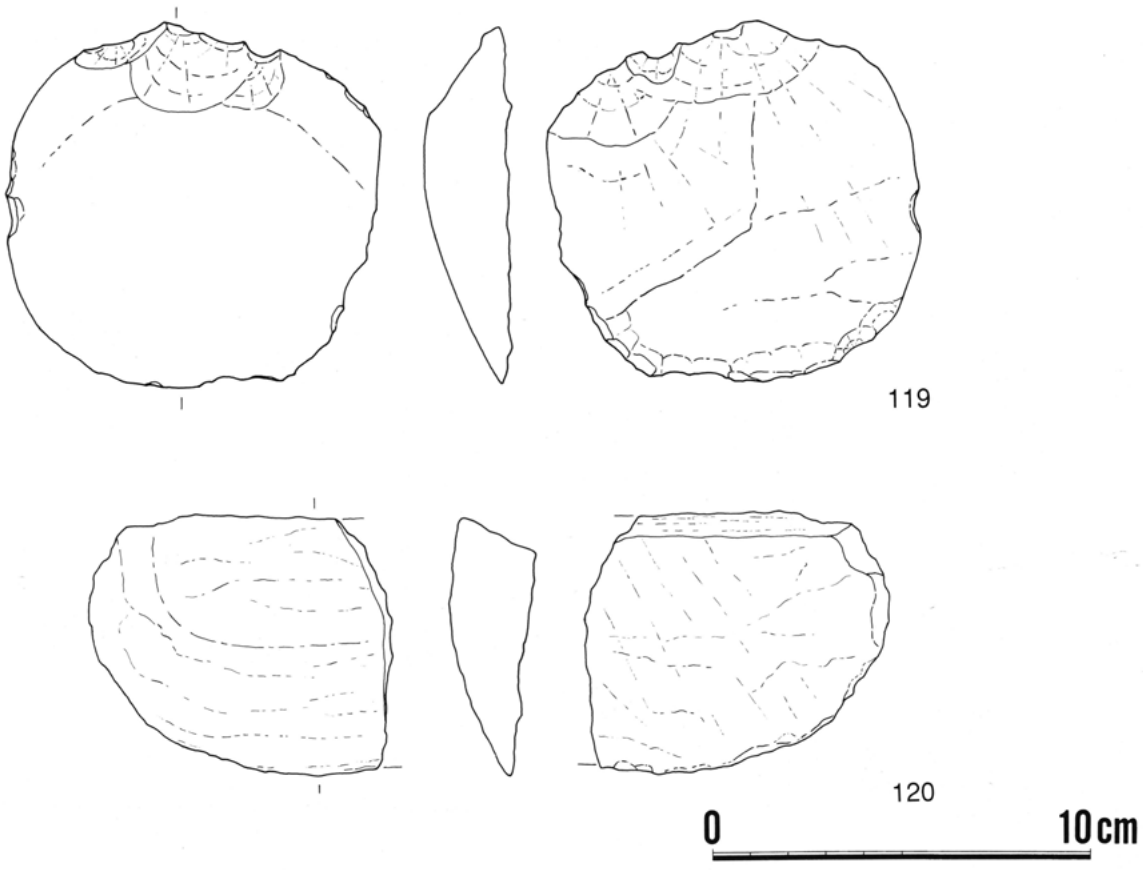
第４図　磨製石鏃・未製品等実測図（68～85は２：３、86～96は１：２）



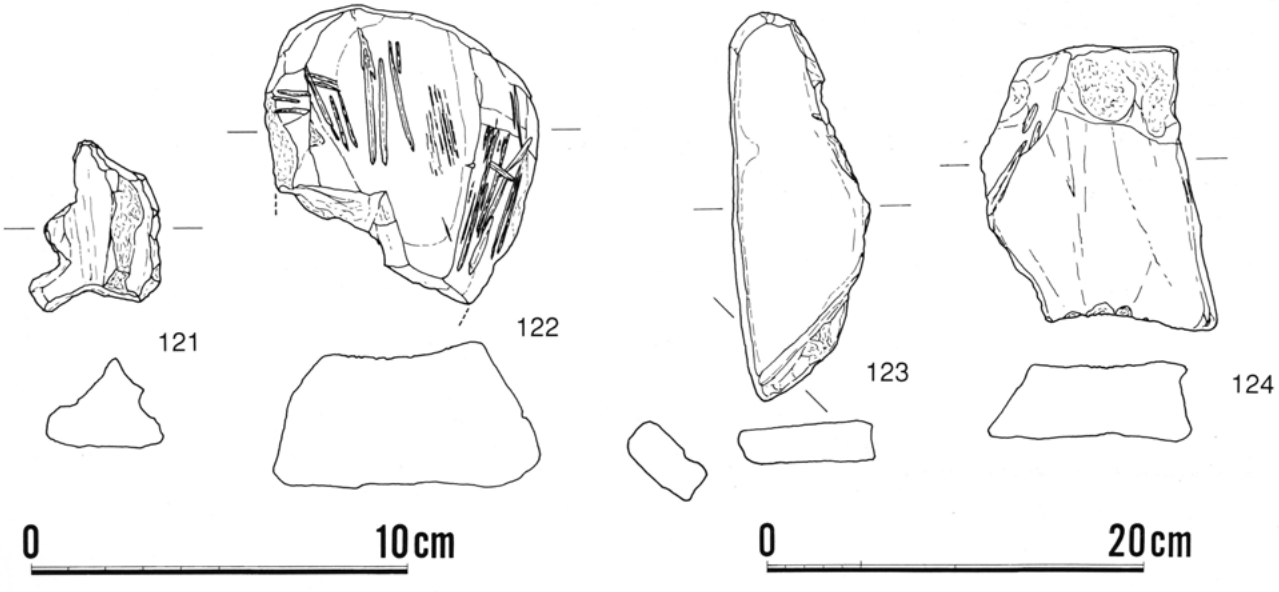
第5図　未製品類・骨鏃実測図（97～100・103・104は1：2、101・102・骨鏃は2：3）



第6図　剥片・石核・叩き石等実測図（105～115は2：3、116～118は1：2）

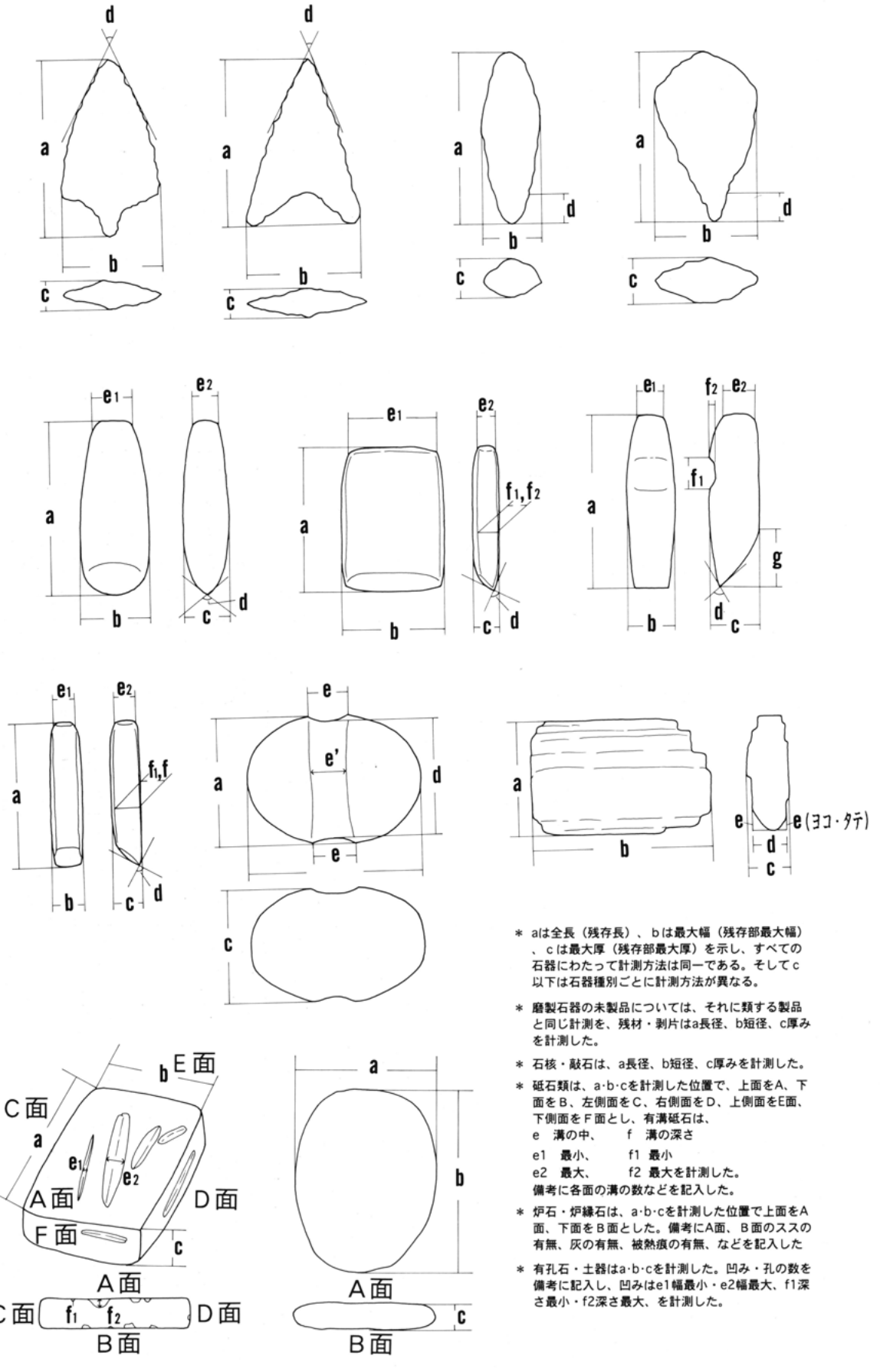


第7図　粗製剥片石器実測図（1：2）



第8図　有溝砥石実測図（121は1：2、122～124は1：4）

計測方法模式図



＊ aは全長（残存長）、bは最大幅（残存部最大幅）、cは最大厚（残存部最大厚）を示し、すべての石器にわたって計測方法は同一である。そしてc以下は石器種別ごとに計測方法が異なる。

＊ 磨製石器の未製品については、それに類する製品と同じ計測を、残材・剥片はa長径、b短径、c厚みを計測した。

＊ 石核・敲石は、a長径、b短径、c厚みを計測した。

＊ 砥石類は、a·b·cを計測した位置で、上面をA、下面をB、左側面をC、右側面をD、上側面をE面、下側面をF面とし、有溝砥石は、
e　溝の中、　f　溝の深さ
e1　最小、　f1　最小
e2　最大、　f2　最大を計測した。
備考に各面の溝の数などを記入した。

＊ 炉石・炉縁石は、a·b·cを計測した位置で上面をA面、下面をB面とした。備考にA面、B面のススの有無、灰の有無、被熱痕の有無、などを記入した

＊ 有孔石・土器はa·b·cを計測した。凹み・孔の数を備考に記入し、凹みはe1幅最小・e2幅最大、f1深さ最小・f2深さ最大、を計測した。

第９図　石製品計測部位図

登録番号	図版	番号	遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号・出土位置		器種	石材	重量(g)	a	b	c	d	e1	e2	f1	f2	分類	備考
S=001	1	1	SK67	95	Ca	SK05	X H14p	打製石鏃	チャート	1.5	(2.5)	(1.5)	0.2	(48)					Ⅱαa	3～4mm欠損
S=002	1	2	SB08	96	D	SB02 No.444		打製石鏃	チャート	1.8	(2.3)	0.4	0.45	52					ⅠBαa	5mm欠損
S=003	1	3		93	Bb	検出Ⅰ	Ⅱ I5i	打製石鏃	チャート	198.0	2.2	1.3	0.4	59					ⅠBβ	
S=004	1	4	SK85	95	Cb	SK05		打製石鏃	チャート	2.1	(3.4)	1.5	0.35	45					ⅠCβa	
S=005	1	5		93	D	検出Ⅱ	Ⅰ J6q	打製石鏃	安山岩(下呂石)	0.8	(3.1)	1.2	0.25	(47)					ⅠBαa	欠損3mm以内
S=006	1	6		93	D	表土ﾊｷﾞ		打製石鏃	安山岩(下呂石)	3.0	3.4	1.5	0.5	72					ⅠBαa	
S=007	1	7	NR04	95	F	NR01	X J20r	打製石鏃	安山岩(下呂石)	2.2	(2.2)	1.1	0.35	(21)					ⅠBβ	5mm以上欠損
S=008	1	8		93	Aa	T	Ⅰ J3n	打製石鏃	チャート	2.1	3.4	(1.1)	1.5	48					ⅠCγc	5mm以上欠損
S=009	1	9		94	Bb	SD01	X H17b	打製石鏃	安山岩(下呂石)	2.8	3.9	1.2	0.55	68					ⅠBβc	
S=010	1	10		93	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ J2l	打製石鏃	安山岩(下呂石)	3.6	(4.5)	1.6	0.6	(34)					Ⅷa	欠損3mm以内
S=011	1	11		93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ J8k	打製石鏃	安山岩(下呂石)	2.2	3.1	1.5	0.4	58					Ⅱαa	
S=012	1	12	SZ12	93	Aa	SZ03西溝	Ⅰ J8i	打製石鏃	チャート	2.0	3.2	1.2	0.45	39					ⅠCαa	
S=013	1	13		93	Ab	SK15	Ⅰ J17h	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.4	(2.2)	1.0	0.45	63					ⅠCαab	5mm欠損
S=014	1	14	SZ18	93	Ba	SZ01東溝	Ⅱ J3i	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.6	2.8	1.2	0.3	52					ⅠCαa	
S=015	1	15		95	Ca	SK06	X H11p	打製石鏃	安山岩	1.4	2.9	1.1	0.35	58					ⅠCβb	
S=016	1	16		93	Aa	表土ﾊｷﾞ		打製石鏃	チャート	1.5	3.0	1.0	0.25	40					Ⅲa	
S=017	1	17		93	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ J4l	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.8	2.9	1.1	0.3	35					ⅠCγa	欠損3mm以内
S=018	1	18	SB26	93	Aa	SB102	Ⅰ J10j	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.8	(2.7)	1.4	0.35	(46)					ⅠCβa	5mm欠損
S=019	1	19	SK47	93	Bb	SK50	Ⅱ I4i	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.5	(2.3)	1.0	0.3	(38)					(a)	5～7mm欠損
S=020	1	20		93	Ab	SX01	Ⅰ J17h	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.2	(2.8)	1.0	0.3	(39)					ⅠCγa	欠損3mm以内
S=021	1	21		95	Ba	暗褐色土層	Ⅱ I1s	打製石鏃	チャート	2.7	(3.5)	1.0	0.5	45					Ⅲa	欠損3mm以内
S=022	1	22		95	Ca	SD01	X H12o	打製石鏃	安山岩(下呂石)	3.2	3.5	1.5	0.5	55					Ⅲa	
S=023	1	23	SB06	96	D	SB04 No.213		打製石鏃	チャート	1.6	2.8	1.1	0.4	42					Ⅲa	欠損3mm以内
S=024	1	24	SB15	93	Aa	SB104	Ⅰ J7m	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.9	3.1	1.3	0.25	65					Ⅲa	欠損3mm以内
S=025	1	25		93	Aa	表採		打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.7	(3.4)	1.1	0.35	(30)					Ⅲa	5～7mm欠損
S=026	1	26	SZ20	95	Ba	SD03	Ⅱ J3d	打製石鏃	安山岩(下呂石)	5.0	4.3	1.2	0.9	47					Ⅲa	
S=027	1	27		93	D	検出Ⅱ	Ⅰ J11q	打製石鏃	安山岩(下呂石)	2.1	(2.4)	1.1	0.4	68					(Ⅲ)a	欠損3mm以内
S=028	1	28	SK39	94	Ca	SK22	Ⅰ I19k	打製石鏃	安山岩(下呂石)	2.0	(2.5)	1.4	0.3	(59)					Ⅲa	5mm欠損
S=029	1	29	SZ17	93	Ab	SZ01北溝	Ⅰ J17i	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.1	(1.9)	(1.0)	0.4	(40)					a	5mm以上欠損
S=030	1	30		93	Ab	SX01	Ⅰ J17h	打製石鏃	安山岩(下呂石)	3.9	(3.5)	1.4	0.75	(40)					ⅠCα(a)	5mm欠損
S=031	1	31		95	Cb	検出Ⅰ	Ⅰ H1n	打製石錐	安山岩(下呂石)	2.0	2.6	1.4	0.5	0.70					ⅡD3	両端部を刃部として使用痕
S=032	1	32		95	Cb	Sﾏｳﾝﾄﾞ	Ⅰ H1m	石鏃の未成品	安山岩(下呂石)	0.8	2.1	1.0	0.3							
S=033	1	33		93	Ab	表採		石鏃の未成品	安山岩(下呂石)	5.4	3.6	1.8	0.6							
S=034	1	34		95	Cb	検出Ⅰ	X H20n	石鏃の未成品	安山岩(下呂石)	2.4	2.9	1.7	0.45							
S=035	1	35	SB77	95	Cb	SB01		剥片	安山岩(下呂石)	4.9	3.8	2.1	0.65							礫面残す,一部加工痕あり
S=036	1	36	SB77	95	Cb	SB01		剥片	安山岩(下呂石)	2.7	3.8	1.5	0.4							
S=037	1	37	SB46	95	Ba	SB03上層	Ⅱ I3r	打製石錐	安山岩(下呂石)	1.5	2.6	1.1	0.35	0.65					ⅡD1	
S=038	1	38	SX33	95	F	SK08		打製石錐	安山岩(下呂石)	2.2	2.5	1.2	0.75	0.8					ⅡD1	
S=039	1	39		93	Ab	SK14	Ⅰ J17g	打製石錐	泥岩	2.3	3.0	1.2	0.5	0.65					ⅡC	
S=040	1	40		96	D	SD04	X J16i	打製石錐	安山岩(下呂石)	3.1	2.4	1.3	0.8	1.2					ⅡD3	
S=041	1	41	SB82	95	Cb	SB05		打製石斧	安山岩(下呂石)	10.0	(3.5)	2.2	0.75							
S=042	1	42	SK40	94	Ca	SK41	Ⅰ I19k	打製尖頭器	チャート	10.3	4.5	2.6	0.8	2.4					ⅡC	
S=043	2	43	SB73	95	Ca	SB03南外溝		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	981.8	(18.4)	7.1	4.9	80	-	-			ⅠA	研磨刃部のみ,基部欠損
S=044	2	44	SB34	95	Ba	SB06土器2	Ⅱ I3a	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	574.6	14.2	6.1	3.9	82	4.3	(1.7)			ⅡB	
S=045	2	45	SB50	95	Bc	SK05	Ⅱ I5r	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	197.0	(10.0)	5.0	(2.6)	80	-	-			Ⅰ	
S=046	2	46	NR06	96	D	NR01遺物集中区 No.535		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	234.7	(7.5)	6.8	(3.0)	78	-	-			-	刃部のみ特に研磨
S=047	2	47		93		SD01T-16		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	134.5	(7.4)	(5.6)	(2.5)	80	-	-			-	研磨少
S=048	2	48		95	Ca	SB07石1		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	287.3	11.3	(6.4)	2.7	72	-	(1.0)			ⅠB	
S=049	3	49	SZ17	93	Ab	SZ01北溝	Ⅰ J17i	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	2.0	2.2	1.5	0.3	50	0.9	0.15			ⅠE	
S=050	3	50		93	Aa	表土ﾊｷﾞ		磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	8.9	3.7	2.4	0.5	65	1.8	0.3			ⅠE	
S=051	3	51		95	Aa	ﾄﾚﾝﾁ東側SBか?		磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	41.3	5.3	3.8	0.9	57	(3.3)	0.75			ⅠC	両刃石斧の半身を素材再生品
S=052	3	52	SB13	93	Aa	SD06	Ⅰ J5m	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	31.7	5.2	3.0	1.0	58	(2.5)	0.6			ⅠC	
S=053	3	53	NR06	96	D	NR01 No.285		磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	46.3	6.3	4.3	1.0	56	3.3	0.5			ⅠC	
S=054	3	54		95	Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ		磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	54.9	6.5	3.7	1.0	61	(2.6)	0.6			ⅠC	
S=055	3	55		94	Ca	SK05	Ⅰ I19m	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	19.6	(3.8)	(3.2)	1.0	66	-	-	0.5	0.5	Ⅰ類	
S=056	3	56	SB15	93	Aa	SB104	Ⅰ J7m	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	8.4	(3.9)	(2.2)	0.6	54	-	-			Ⅰ(C)	
S=057	3	57		94	Ab	SK33		磨製偏平片刃石斧	結晶片岩	15.2	3.7	2.8	0.7	46	-	-			Ⅰ	穿孔途中,転用か? φ0.5×0.6,深さ0.3
S=058	3	58		93	Aa	SK109	Ⅰ J6m	磨製石器の残材・未成品	玄武岩	10.0	(4.0)	0.55	0.8	-	(3.9)	0.6				e1・e2は擦り切り部傷,擦り切りあり,研磨痕あり
S=059	3	59	NR06	96	D	NR01 No.58		磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	109.9	9.3	4.5	1.3	70	4.4	1.25			ⅠA	身中央に擦痕状凹み
S=060	3	60		93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ J9j	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	418.9	13.6	6.5	2.6	62	5.2	1.3			ⅠB	
S=061	3	61		93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ J9j	磨製偏平両刃石斧	ハイアロクラスタイト	323.5	13.0	6.4	2.4	64	4.3	0.9			ⅠB	研磨刃部のみ
S=062	3	62		95	Ca	西トレンチ北		磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	6.4	3.4	1.6	0.6	70	1.3	0.4	0.25	0.2	Ⅰ E類	
S=063	3	63	SK18	95	Aa	SK17		磨製柱状片刃石斧	ハイアロクラスタイト	5.6	2.8	1.0	0.7	73	1.0	0.6			Ⅱ	
S=064	3	64		95	Ca	SK01ﾍﾞﾙﾄ		磨製柱状片刃石斧	ハイアロクラスタイト	8.3	3.8	1.4	0.7	52	1.3	0.55			Ⅱ	
S=065	3	65		93	Ab	検出Ⅰ	Ⅰ J17h	磨製柱状片刃石斧	ハイアロクラスタイト	9.7	3.8	1.3	0.85	60	1.2	0.75			Ⅱ	
S=066	3	66	SB49	93	Ba	SD04	Ⅱ I5s	磨製柱状片刃石斧	ハイアロクラスタイト	96.6	7.8	3.3	1.8	68	2.7	1.2	0.9	1.0	Ⅰ B類	
S=067	3	67	SB68	95	Ca	SB01内SK17		磨製柱状片刃石斧	ハイアロクラスタイト	143.0	10.1	3.3	3.0	72	2.5	2.3			ⅠB	
S=068	4	68	SK12	93	Aa	SK120	Ⅰ J5l	磨製石鏃	泥岩	1.2	(2.8)	0.9	0.3	35					ⅠCab	
S=069	4	69		95	Cb	SK137ﾍﾞﾙﾄ		磨製石鏃	泥岩	1.0	(1.5)	1.5	0.35	(36)					(ⅣA)	
S=070	4	70	SB23	95	Aa	SB01		磨製石鏃	泥岩	0.4	(2.2)	1.3	0.05	44					ⅣAa	
S=071	4	71		93	Ab	検出Ⅰ	Ⅰ J3o	磨製石鏃	泥岩	1.8	(3.5)	1.3	0.2	50					Ⅲc	
S=072	4	72	SK53	94	Cb	SK15	Ⅰ I18f	磨製石鏃	泥岩	1.0	(1.9)	1.5	0.2	(28)					Ⅵ	未製品

第1表　石製品観察表1

登録番号	図版	番号	遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号・出土位置	器種	石材	重量(g)	a	b	c	d	e1	e2	f1	f2	分類	備考
S=073	4	73		93	Ab	検出Ⅰ Ⅰ J17k	磨製石鏃	泥岩	1.1	2.8	(1.4)	0.2	40					Ⅵa	
S=074	4	74	SZ13	95	Aa	SD02内東西ﾄﾚﾝﾁ	磨製石鏃	泥岩	1.3	(3.0)	(1.2)	0.25	50					(b)	
S=075	4	75	SB17	95	Aa	SB02	磨製石鏃	泥岩	2.4	(3.9)	1.7	0.2	(26)					ⅣB(a)	
S=076	4	76	SB74	95	Ca	SB04	磨製石鏃	泥岩	2.5	(3.8)	2.0	0.2	57					ⅣBa	
S=077	4	77		93	Aa	検出Ⅰ Ⅰ J10l	磨製石鏃	泥岩	0.8	(1.7)	1.4	0.2	-					-	
S=078	4	78		93	Ab	SX01 Ⅰ J17h	磨製石鏃	泥岩	0.5	1.5	1.0	0.2	45					Va	
S=079	4	79		93	Aa	検出Ⅰ Ⅰ J2o	磨製石鏃	泥岩	0.4	(1.7)	1.0	0.2	(37)					ⅠCa	
S=080	4	80	SK10	93	Aa	SK09 Ⅰ J4n	磨製石鏃の未成品	泥岩	1.7	1.8	2.1	0.3							両面に研磨面有り,刃部なし
S=081	4	81		95	F	検出Ⅰ Ⅰ A1b	磨製石鏃の未成品	砂岩	4.8	4.1	1.8	0.4							
S=082	4	82	SB41	95	Ba	SB01掘り Ⅱ I1s	石鏃の未成品	泥岩	2.8	3.0	1.6	0.3							
S=083	4	83	SB41	95	Ba	SB01掘り Ⅱ I1s	磨製石鏃	頁岩	2.5	(3.1)	(1.8)	0.2	(42)					-	未製品
S=084	4	84	NR03	96	C	NR02(炭化層) Ⅰ A2g	磨製石鏃	頁岩	2.6	(2.9)	(2.1)	(0.3)	(35)					-	未製品
S=085	4	85		94	Aa	検出	磨製石鏃	頁岩	5.1	(4.3)	2.1	0.4	(34)					(b)	未製品
S=086	4	86		95	Cb	石器1 Ⅰ H3k	磨製石剣	泥岩	7.8	(6.0)	(2.0)	(0.6)	34						
S=087	4	87	SB17	95	Aa	SB02内東西ﾄﾚﾝﾁ	磨製石剣		4.1	3.5	1.4	0.4	-	-	-				
S=088	4	88	SB13	93	Aa	SD06 Ⅰ J5m	磨製石剣	頁岩	16.4	8.2	2.7	(0.35)	-						孔0.8×0.9
S=089	4	89		93	Aa	表土ﾊｷﾞ	磨製石鏃の未成品	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	9.3	2.6	(3.5)	0.7	50	-	-			-	石斧?
S=090	4	90		95	Ca	検出Ⅰ(SK1周辺)	磨製石斧	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	39.4	(5.3)	(4.0)	(1.3)	-	-	-			-	
S=091	4	91	SK53	94	Cb	SK15 Ⅰ I18f	磨製石斧	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	60.1	(3.5)	(5.2)	(1.8)	-	-	-	-	-		
S=092	4	92		93	D	検出Ⅱ Ⅰ J7q	磨製石斧	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	99.3	(6.9)	(4.0)	(2.1)	-	-	-			Ⅰ	研磨なし
S=093	4	93		93	Ea	SK04	磨製石斧	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	568.2	(13.6)	6.0	3.9	-	3.5	2.2			ⅡB	敲打具転用
S=094	4	94		93	Bb	SK04 Ⅱ I6q	磨製石斧	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	210.6	(7.3)	5.1	(2.9)	-	5.0	2.3			Ⅰ	研磨なし,敲打具転用
S=095	4	95	SB08	96	D	SB02 No.303	磨製石器敲打具	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	139.3	5.2	4.7	3.2							擦痕有,磨製石斧の転用か?
S=096	4	96	SK30	93	Bb	SK01 Ⅱ I4q	磨製石器敲打具	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	100.0	4.2	3.8	4.2							擦痕有,ｽｽ付着
S=097	5	97		93	Aa	検出Ⅰ Ⅰ J4n	磨製石器の未成品・残材	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	138.5	10.2	4.2	2.3							礫面を残す
S=098	5	98	SB34	95	Ba	SB06SW	磨製石斧	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	89.2	(4.8)	4.4	(2.5)	-	3.8	(1.3)			(Ⅰ)	研磨なし,柄部
S=099	5	99	SB83	95	Cb	SB06ﾍﾞﾙﾄ	磨製石器の未成品・残材	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	117.1	6.2	5.0	2.2							礫面残す,磨製石斧の未製品か
S=100	5	100		94	Ca	検出 Ⅰ I20m	磨製石器の未成品	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	100.9	(5.0)	5.1	2.3	-	3.3	1.5	-	-		礫面残す,磨製石斧か?
S=101	5	101	NR06	96	D	NR01遺物集中区 No.534	磨製石斧	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	22.4	(2.7)	(3.3)	(1.5)	-	-	-			-	
S=102	5	102	NR06	96	D	NR01(粗砂層中) XJ17g	磨製石器の残材	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	15.2	3.5	3.7	1.5							
S=103	5	103	SB06	96	D	SB04 No.221	打製石斧	緑色片岩	200.0	17.1	5.5	1.5							
S=104	5	104		93	D	検出Ⅱ Ⅰ J12q	石錐	濃飛流紋岩	129.3	5.1	(3.8)	4.0	3.7	(1.0)	(1.1)				
S=105	6	105	SB83	95	Cb	SB06-S Ⅰ H1m	剥片	安山岩(下呂石)	4.8	3.3	2.3	0.5							礫面残す
S=106	6	106	SB83	95	Cb	SB06ﾍﾞﾙﾄ	剥片	安山岩(下呂石)	8.3	4.5	3.3	0.55							
S=107	6	107	SB83	95	Cb	SB06-S Ⅰ H1m	石核	安山岩(下呂石)	9.4	3.9	2.6	0.9							礫面残す
S=108	6	108	SB83	95	Cb	SB06-S Ⅰ H1m	剥片	安山岩(下呂石)	5.7	3.3	2.0	0.8							
S=109	6	109	SB83	95	Cb	SB06-S Ⅰ H1m	石核	安山岩(下呂石)	15.8	4.2	2.5	1.3							礫面残す
S=110	6	110		94	Ca	検出 Ⅰ I19m	剥片	安山岩(下呂石)	1.9	3.0	0.9	0.6							
S=111	6	111	SK33	94	Ca	SK01 Ⅰ I20m	石核	安山岩(下呂石)	19.2	4.3	3.1	1.4							礫面残す
S=112	6	112		93	Aa	検出Ⅰ Ⅰ J8j	剥片	安山岩(下呂石)	7.3	3.2	2.8	0.85							礫面一部あり
S=113	6	113		95	Cb	検出Ⅰ XH20m	石核	安山岩(下呂石)	11.4	4.0	2.7	1.3							礫面残す
S=114	6	114		96	D	SD04 No.256	石核	安山岩(下呂石)	106.4	6.1	4.4	2.3							礫面残す
S=115	6	115		95	Cb	検出Ⅰ Ⅰ H2m	石核	安山岩(下呂石)	29.8	3.0	2.9	2.3							礫面残す
S=116	6	116	SK89	96	A	SK32(中層) Ⅰ H2ij	敲石	濃飛流紋岩	104.7	6.8	3.9	2.5							擦痕端面2ヶ所
S=117	6	117		93	Bb	SX01 Ⅱ I8l	敲石	濃飛流紋岩	45.0	7.8	4.4	3.7							擦痕端面に2ヶ所
S=118	6	118	SB02	95	F	SB03NE	敲石	砂岩	313.7	12.3	4.2	3.3							擦痕端面に1所
S=119	7	119	SX123	95	E	SK18	粗製剥片石器	砂岩	245.7	9.7	9.2	2.2							礫面残す
S=120	7	120		94	Bb	SD06 XH17s	その他	結晶片岩	181.1	7.9	6.5	2.4							
S=121	8	121	SZ20	95	Ba	SD01 Ⅱ J4c	有溝砥石	凝灰質砂岩	26.8	4.3	2.8	2.4		1.0	1.7	0.3	0.6		A面1,B面凹み,C面2,D面2,E面凹み,F面1
S=122	8	122	SB82	95	Cb	SB05石器2	有溝砥石	凝灰岩	1703.3	13.3	13.7	7.6		0.05	0.5	0.01	0.1		A面多数凹み,B面凹み,C面4,D面多数,E面8
S=123	8	123	SK12	93	Aa	SK120 Ⅰ J5k	有溝砥石	凝灰質砂岩	452.3	20.4	7.1	2.1		0.6	1.1	0.1	0.2		A面1凹み,B面1凹みｽｽ付着,D面ｽｽ付着,E面凹み
S=124	8	124		93	Aa	検出Ⅲ Ⅰ J7m	有溝砥石	凝灰質砂岩	1003.6	14.1	11.0	5.1		0.3	1.3	0.05	0.1		A面2凹みｽｽ付着,B面凹み,C面2凹み,D面凹み
S=125		125		93	Aa	T Ⅰ J6j	磨製石器の残材・未成品	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	90.7	7.5	4.1	2.1							礫面を残す
S=126		126		93	Aa	検出Ⅱ Ⅰ J9l	磨製石器の残材・未成品	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	48.9	7.7	2.6	1.2							礫面を残す
S=127		127	SB28	95	Ba	SB12 Ⅱ J2b	磨製石器の未成品	ﾊｲﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	63.3	5.1	4.5	2.1							
S=128		128		96	D	SD04 No.260	石核	安山岩(下呂石)	24.0	3.1	2.3	2.8							
S=129		129		93	Aa	検出Ⅱ Ⅰ J5m	炉石	濃飛流紋岩	1522.9	16.7	13.6	4.0							A面ｽｽ付着ふきこぼれ痕次付着,B面次付着
S=130		130	SB09	96	D	SB01炉内 No.469	炉縁石	濃飛流紋岩	2241.3	20.0	7.2	8.2							上半部2.3cm火熱ｽｽ付着
S=131		131	SK30	93	Bb	SK01 Ⅱ I4q	勾玉・管玉	溶結凝灰岩?	0.1	0.95	0.2	(0.08)							
S=132		132		93	Aa	検出Ⅱ Ⅰ J8k	無溝砥石	凝灰岩	99.4	4.7	4.2	3.6							研ぎ面5面,凹み有
S=133		133		93	D	検出Ⅱ Ⅰ J7r	無溝砥石	凝灰質砂岩	142.2	5.1	4.4	3.4							研ぎ面3面,凹み有
S=134		134	SK07	96	D	SX01ﾄﾚﾝﾁ XJ17i	無溝砥石	凝灰質砂岩	126.3	8.0	4.9	2.4							研ぎ面3面,研ぎ狭有,凹み有
S=201				93	Ab	SK34 Ⅰ J17j	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.1	(1.8)	0.9	0.25	(32)					(Ⅲa)	5mm以上欠損
S=202				95	Ba	暗褐色土層 Ⅱ J3b	打製石鏃	安山岩(下呂石)	1.7	(2.6)	1.1	0.4	(20)					-	未製品
S=203				95	Cb	SK137ﾍﾞﾙﾄ	打製石鏃	安山岩(下呂石)	0.7	(1.4)	(1.0)	(0.3)	(40)					a	5mm以上欠損
S=204				93	Aa	T Ⅰ J6k	石核	安山岩(下呂石)	2.0	1.9	1.6	0.5							礫面残す
S=205				93	Aa	T Ⅰ J4h	石核	泥岩	119.5	5.9	4.1	3.4							
S=206				93	Aa	検出Ⅰ Ⅰ J4l	石核	下呂石	2.8	2.3	1.8	0.5							
S=207				93	Ab	SK15 Ⅰ J17h	石核	下呂石	2.5	2.2	1.4	0.7							
S=208				93	Ab	SK15 Ⅰ J17h	石核	下呂石	2.3	1.6	1.6	0.6							
S=209			SZ18	93	Ba	SZ01南溝 Ⅱ J2f	石核	安山岩(下呂石)	7.0	3.3	1.4	1.3							礫面を残す

第２表　石製品観察表２

登録番号	図版	番号	遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号・出土位置		器種	石材	重量(g)	a	b	c	d	e1	e2	f1	f2	分類	備考
S=210				94	Bb	SD01	Ⅰ	G1r	石核	安山岩(下呂石)	12.8	4.8	1.7	1.2						礫面残す
S=211			SX63	95	Aa	SK06			石核	ﾁｬｰﾄ	11.1	2.4	1.7	2.0						礫面を残す
S=212			SE01	95	Aa	SK10E上層			石核	安山岩(下呂石)	68.5	5.4	3.1	2.3						礫面を残す
S=213			SB41	95	Ba	SB01	Ⅱ	I1s	石核	下呂石	3.8	3.0	1.8	0.5						
S=214				95	Ba	SK13	Ⅱ	J4a	石核	ﾁｬｰﾄ	5.1	3.6	1.6	1.1						
S=215				95	Ba	北壁ｾｸｼｮﾝ(4q層)	Ⅱ	I1s	石核	ﾁｬｰﾄ	837.8	9.3	6.9	8.0						礫面を残す
S=216			SB68	95	Ca	SB01土器4			石核	安山岩(下呂石)	4.2	2.3	1.1	0.8						礫面残す
S=217			SB66	95	Ca	SB05			石核	安山岩(下呂石)	7.9	2.6	2.0	1.5						
S=218			SK67	95	Ca	SK05			石核	安山岩(下呂石)	19.7	4.8	3.7	1.0						他2片(剥片)-0.8g,1.7,1.3,0.3-0.3g,1.5,0.8,0.2,礫面残す
S=219				95	Ca	検出Ⅰ	Ⅹ	H14o	石核	安山岩(下呂石)	49.8	4.7	3.1	3.0						礫面残す
S=220				95	Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ			石核	安山岩(下呂石)	30.8	3.3	2.7	2.6						礫面残す
S=221				95	Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ			石核	安山岩(下呂石)	4.0	2.5	1.7	1.0						
S=222				95	Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ			石核	安山岩(下呂石)	3.8	2.0	1.5	1.4						
S=223				95	Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ			石核	安山岩(下呂石)	2.0	1.4	1.3	1.4						
S=224				96	D	攪乱	Ⅹ	J16t	石核	下呂石	20.6	3.2	2.5	1.5						
S=225			SK11	93	Aa	SK23			剥片	泥岩	0.7	2.2	0.9	0.2						
S=226				93	Aa	ｶｰﾄﾞなし			剥片	安山岩(下呂石)	3.8	2.6	1.7	0.8						
S=227				93	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ	J4k	剥片	泥岩	2.6	3.2	1.8	0.45						
S=228				93	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ	J4l	剥片	ﾊｲﾌﾟﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	1.8	1.8	1.2	0.25						
S=229				93	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ	J4k	剥片	泥岩	2.6	3.0	1.7	0.4						礫面残す
S=230				93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ	J6l	剥片	安山岩	9.4	4.8	3.1	0.6						礫面残す
S=231				93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ	J6l	剥片	安山岩	3.0	3.8	1.5	0.5						
S=232				93	Ab	SK15	Ⅰ	J17h	剥片	下呂石	4.6	2.5	2.0	0.5						
S=233				93	Ea	検出			剥片	ﾁｬｰﾄ	16.5	4.4	3.7	0.9						
S=234			SK73	94	Ae	SK28			剥片	安山岩(下呂石)	1.6	2.2	1.3	0.5						
S=235			SK72	94	Ae	SK29			剥片	結晶片岩	23.4	5.5	4.5	0.6						
S=236			SK72	94	Ae	SK29			剥片	泥岩	2.4	3.3	2.0	0.5						礫面一部あり
S=237				94	Bb	攪乱	Ⅰ	G1r	剥片	ﾁｬｰﾄ	2.2	2.7	2.2	0.3						
S=238				94	Ca	攪乱	Ⅰ	I20m	剥片	ﾁｬｰﾄ	0.5	1.3	1.3	0.2						
S=239				94	Cb	SK02	Ⅰ	I19g	剥片	ﾁｬｰﾄ	0.4	(1.0)	(0.9)	(0.25)	-				-	
S=240			SX201	94	F	SK02			剥片	砂岩	77.7	9.1	5.5	1.5						
S=241				94		表土はぎ			剥片	安山岩	11.1	3.9	3.4	0.7						
S=242			SB23	95	Aa	SB01			剥片	安山岩(下呂石)	2.8	2.7	1.9	0.4						礫面残る
S=243			SB18	95	Aa	SB07			剥片	ﾊｲﾌﾟﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	1.2	2.5	1.3	0.25						
S=244				95	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ	J14n	剥片	安山岩(下呂石)	2.2	2.1	1.8	0.3						
S=245			SB41	95	Ba	SB01	Ⅱ	I1s	剥片	ﾊｲﾌﾟﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	2.5	2.7	1.3	0.4						
S=246			SB34	95	Ba	SB06NW			剥片	ﾊｲﾌﾟﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	1.5	2.5	2.3	0.15						
S=247			SB38	95	Ba	SB10W	Ⅱ	I3t	剥片	安山岩(下呂石)	9.4	4.0	2.1	0.7						礫面残す
S=248			SK26	95	Ba	SK07	Ⅱ	I3t	剥片	ﾊｲﾌﾟﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	1.3	2.6	1.3	0.35						
S=249				95	Ba	検出Ⅰ	Ⅱ	J3a	剥片	安山岩(下呂石)	6.2	2.5	1.8	0.6						礫面残す
S=250				95	Ba	検出Ⅰ	Ⅱ	J3a	剥片	安山岩(下呂石)	2.4	1.7	1.7	0.6						
S=251				95	Ba	検出Ⅰ	Ⅱ	J3a	剥片	安山岩(下呂石)	0.7	1.4	0.9	0.5						
S=252				95	Ba	検出Ⅰ	Ⅱ	I1t	剥片	下呂石	1.0	2.1	1.2	0.4						
S=253				95	Bb	SD01	Ⅱ	I2r	剥片	ﾁｬｰﾄ	3.3	2.7	2.0	0.6						
S=254			SB74	95	Ca	SB04ﾍﾞﾙﾄ			剥片	ﾁｬｰﾄ	13.6	4.8	2.0	1.2						
S=255			SB76	95	Ca	SB11の下			剥片	ﾁｬｰﾄ	2.1	2.4	1.6	0.5						
S=256			SK67	95	Ca	SK05	Ⅹ	H14p	剥片	安山岩(下呂石)	6.2	3.3	2.3	0.7						礫面残す
S=257			SK67	95	Ca	SK05	Ⅹ	H14p	剥片	安山岩(下呂石)	0.1	2.1	1.3	0.3						
S=258				95	Ca	検出Ⅰ	Ⅹ	H1m	剥片	安山岩(下呂石)	0.3	2.0	0.7	0.1						
S=259				95	Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ			剥片	安山岩(下呂石)	4.5	3.3	2.2	0.5						
S=260				95	Cb	Nﾏｳﾝﾄﾞ			剥片	ﾁｬｰﾄ	10.3	3.5	2.3	0.7						
S=261			SB82	95	Cb	SB05			剥片	安山岩(下呂石)	7.9	3.9	1.4	1.15						礫面残す
S=262			SB83	95	Cb	SB06			剥片	下呂石	2.4	2.4	1.5	0.5						
S=263			SB83	95	Cb	SB06			剥片	下呂石	1.3	2.7	0.7	0.4						
S=264			SB83	95	Cb	SB06-S	Ⅰ	H1m	剥片	安山岩(下呂石)	1.6	2.3	1.7	0.5						他2片(剥片)-1.3g,2.4,1.1,0.6-0.3g,1.1,0.8,0.3
S=265				95	Cb	検出Ⅰ	Ⅰ	H2m	剥片	安山岩(下呂石)	6.6	3.4	2.4	0.6						
S=266				95	Cb	検出Ⅰ	Ⅰ	H4k	剥片	安山岩(下呂石)	7.3	4.0	2.2	0.7						礫面残す
S=267				95	Cb	表土			剥片	泥岩	5.8	5.7	2.5	0.25						
S=268				95	Cc	検出Ⅰ	Ⅱ	H3h	剥片	ﾊｲﾌﾟﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	6.6	3.5	2.6	0.6						
S=269				95	Cc	検出Ⅰ	Ⅱ	H3h	剥片	ﾊｲﾌﾟﾛｸﾗｽﾀｲﾄ	4.0	3.0	1.8	0.5						
S=270			SX135	95	E	SK03			剥片	安山岩(下呂石)	5.2	3.0	2.4	0.9						礫面残す
S=271				95	E	検出Ⅰ	Ⅱ	J9a	剥片	安山岩(下呂石)	4.5	3.0	2.1	0.9						礫面残す
S=272				95	F	Nﾄﾚﾝﾁ			剥片	砂岩	1.6	3.2	1.2	0.3						
S=273			SK03	95	F	SK06ﾍﾞﾙﾄ			剥片	結晶片岩	7.6	3.8	1.6	0.75						
S=274			SX32	95	F	SK09			剥片	ﾁｬｰﾄ	9.3	2.6	2.0	1.0						
S=275			SX32	95	F	SK09			剥片	ﾁｬｰﾄ	1.8	2.1	1.5	0.4						
S=276				95	F	検出Ⅰ	Ⅹ	J18s	剥片	安山岩(下呂石)	3.2	2.9	2.2	0.5						
S=277				95	F	検出Ⅰ	南側中央		剥片	ﾁｬｰﾄ	1.4	2.8	0.9	0.5						
S=278				95	F	検出Ⅰ	Ⅰ	A2c	剥片	泥岩	3.6	3.6	2.4	0.4						
S=279			NR03	96	C	NR02(ﾄﾚﾝﾁ最下層)	Ⅰ	A1g	剥片	安山岩(下呂石)	3.6	2.2	2.2	0.7						礫面残す
S=280			NR06	96	D	NR01(下層)	Ⅹ	J15g	剥片	下呂石	0.8	1.9	1.5	0.3						

第３表　石製品観察表３

登録番号	図版	番号	遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号・出土位置	器種	石材	重量(g)	a	b	c	d	e1	e2	f1	f2	分類	備考
S=281			NR06	96	D	NR01(粗砂層中)	XJ15g	剥片	安山岩(下呂石)	10.5	5.8	2.0	1.0						
S=282			SB09	96	D	SB01炉 No.450		剥片	ハイアロクラスタイト	1.4	3.5	1.8	0.3						
S=283				96	D	SD04	XJ16i	剥片	安山岩(下呂石)	0.9	1.9	1.0	0.3						礫面残す
S=284			SK07	96	D	SX01	XJ18i	剥片	安山岩(下呂石)	3.3	2.6	1.7	0.5						
S=285			SZ05	93	Aa	SZ01西溝	IJ2l	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	363.2	(5.2)	6.5	4.2	-	-	-		(I)	表面研磨なし,石斧柄部
S=286				93	Aa	表採		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	12.9	(3.8)	(4.8)	(0.4)	72	-	-		-	
S=287				93	Ab	SK15	IJ18h	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	3.6	(2.3)	(2.2)	(0.4)	-	-	-		-	
S=288				93	Bb	SK04	IIJ6q	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	6.8	(3.8)	(2.0)	(0.8)	-	-	-		-	
S=289			SX152	93	Bb	SK23	IIJ4m	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	79.4	(7.6)	(5.1)	(1.3)	-	-	-		(I)	
S=290			SK31	93	Bb	SK03		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	8.6	(3.6)	(3.0)	(0.7)						
S=291			SK49	94	Cb	SK09	IJ19g	磨製石斧	アプライト	302.2	(9.9)	5.5	(3.7)	-	(4.5)	3.8		(I)	研磨あり,石斧か?
S=292				95	Aa	検出II	IJ8p	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	80.2	(6.0)	(4.9)	(2.9)	-	(4.5)	(2.1)	-	-	礫面残す
S=293			SB41	95	Ba	SB01	IIJ1s	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	178.6	(7.0)	(5.3)	(2.9)	-	(4.0)	(1.7)		I	
S=294			SB38	95	Ba	SB10	IIJ3t	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	9.1	(4.0)	(2.7)	(0.6)						
S=295				95	Cb	Nマウンド		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	14.8	(4.2)	(2.9)	(1.0)						
S=296			SB59	95	E	SB05	IIJ9r	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	5.1	(2.7)	(3.5)	(0.4)	-	-	-		-	
S=297				96	C	攪乱	XA20f,IA1f	磨製石斧	安山岩	1.7	3.0	1.4	0.25					-	研磨面有
S=298			NR06	96	D	NR01(下層)	XJ15g	磨製石斧	ハイアロクラスタイト	8.2	(3.3)	(2.0)	(0.7)	(67)	-	-		-	
S=299			SB08	96	D	SB02 No.302		磨製石斧	ハイアロクラスタイト	14.8	(3.8)	(3.3)	(1.0)	-	-	-		-	石斧か?
S=300			SX202	94	F	SK01		磨製柱状石斧	ハイアロクラスタイト	27.8	(5.3)	(2.7)	1.5	-	1.7	0.7	-	-	II類
S=301			SZ13	93	Aa	SZ04西溝	IJ9l	磨製柱状片刃石斧	ハイアロクラスタイト	139.0	(6.1)	3.7	3.0	-	3.3	2.3			I 基部のみ,抉りは不明
S=302				93	Aa	検出I	IJ3m	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	4.1	(2.0)	(1.5)	(0.9)	54	-	-		-	
S=303			SX171	93	Bb	SK40	IIJ7h	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	30.2	(4.7)	(4.6)	0.8	61	-	-		-	
S=304				94	Ca	攪乱	IJ20l	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	3.7	(1.6)	(2.1)	(0.6)	75	-	-		-	
S=305				95	Ca	検出I	XH14o	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	10.4	(4.2)	(3.0)	(0.75)	66	-	-		-	
S=306			NR04	95	F	NR01	XJ18q	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	1.8	(2.2)	(1.7)	(0.3)	60	-	-		-	
S=307				95	F	検出I	IA2c	磨製偏平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	153.6	9.7	4.0	2.0	60	2.2	1.3	1.1	(0.9)	IB類
S=308			SK18	95	Aa	SK17		磨製偏平両刃石斧	泥岩	2.7	(2.2)	(1.2)	(0.7)	63	-	-		-	
S=309				94	Bb	SD01	XG19s	磨製扁平石斧	ハイアロクラスタイト	9.1	(3.2)	1.8	0.7		1.6	0.4			
S=310			SK10	93	Aa	SK09	IJ5l	磨製石鏃	泥岩	1.2	(1.7)	(1.3)	0.3	-					VI 未製品
S=311			NR04	95	F	NR01	XJ19p	磨製石鏃?	ハイアロクラスタイト	1.5	(1.7)	(1.5)	0.3	-					-
S=312			SZ09	93	Aa	SZ02	IJ6m	磨製石器の残材	ハイアロクラスタイト	26.5	3.4	3.5	1.4						
S=313			SD18	95	Cb	SD07		磨製石器の残材	ハイアロクラスタイト	225.7	7.8	6.2	3.9						礫面残す、礫状
S=314				95	Cc	検出I	IIH2h	磨製石器の残材	ハイアロクラスタイト	37.8	5.6	3.9	1.7						
S=315			SB60	95	E	SB06(下)		磨製石器の残材	ハイアロクラスタイト	5.4	3.9	2.3	0.7						
S=316				93	Aa	検出I	IJ3o	磨製石器の残材・未成品	ハイアロクラスタイト	12.3	4.0	3.0	0.9						
S=317			SX63	95	Aa	SK06		磨製石器の残材・未成品	ハイアロクラスタイト	25.2	3.2	3.4	1.5						礫面を残す
S=318				95	Ba	暗褐色土層	IIJ2s	磨製石器の残材・未成品	泥岩	18.4	4.4	2.8	1.1						礫面を残す
S=319				95	Ca	排土		磨製石器の残材・未成品	ハイアロクラスタイト	53.5	4.9	5.3	1.0						礫面残す,磨製石斧の未製品か
S=320				93	Aa	検出II	IJ9l	磨製石器の未成品	ハイアロクラスタイト	13.6	4.3	(1.6)	1.0	58	1.6	0.9	1.9	0.5	抉入り柱状片刃石斧の未製品か
S=321				93	Cb	SD01	IIH1l	磨製石器の未成品	頁岩	8.2	(4.1)	(3.9)	0.25	-	-	-			板状研磨痕全面有
S=322				95	Cb	Nマウンド		磨製石器の未成品	ハイアロクラスタイト	182.9	9.1	5.0	2.9	-	-	-			
S=323				95	E	SD01		磨製石器の未成品	ハイアロクラスタイト	10.2	(3.3)	(1.6)	(1.2)						
S=324			SK10	93	Aa	SK09		磨製石器の未成品・残材	ハイアロクラスタイト	20.9	4.1	3.0	0.8						
S=325				93	Aa	SK14	IJ5n	磨製石器の未成品・残材	ハイアロクラスタイト	5.1	2.8	2.0	0.7						
S=326				93	D	検出II	IJ6r	磨製石器の未成品・残材	ハイアロクラスタイト	23.9	4.0	2.7	1.1						
S=327				95	Aa	検出II	IJ9p	磨製石器の未成品・残材	ハイアロクラスタイト	19.5	4.6	4.4	0.5						
S=328			SX222	95	Ca	SK02	XH13p	磨製石器の未成品・残材		9.8	4.4	2.9	0.7						
S=329				95	Ca	トレンチ3		磨製石器の未成品・残材	ハイアロクラスタイト	68.0	6.0	5.1	1.7						
S=330			SB94	94	Bb	SK15	XG19	磨製石斧の未成品	ハイアロクラスタイト	278.7	12.1	6.1	2.7	68	(4.3)	1.1			
S=331			SK10	93	Aa	SK09	IJ4n	磨製石鏃の未成品	泥岩	0.3	(0.8)	(1.0)	0.25						両面に研磨面有り,基部片
S=332			SZ18	93	Ba	SZ01東溝	IIJ2i	磨製石器敲打具	ハイアロクラスタイト	55.7	3.8	3.5	(2.2)						擦痕が端面に有
S=333			SZ13	93	Aa	SZ04西溝	IJ9l	その他	チャート	332.6	11.5	4.8	3.4						砥石の可能性有
S=334				95	Aa	検出I	IJ8o	その他	軽石	22.2	4.9	4.2	3.6						
S=335			SB69	95	Ca	SB09石3		その他	ハイアロクラスタイト	167.5	8.0	5.3	2.7						
S=336				95	Ca	SK35		その他	泥岩?	3.0	2.5	1.7	0.6						研き面有か?
S=337			SK78	95	Cb	SK04		その他	軽石	35.6	5.9	4.7	3.1						
S=338			NR04	95	F	NR01	XJ20p	その他	砂岩	102.8	(5.4)	3.9	3.1						棒状
S=339			NR04	95	F	NR01下層		その他	軽石	4.1	2.5	2.0	2.2						
S=340			SK02	95	F	SK14トレンチ		その他	砂岩	18.9	3.6	2.8	1.5						剥離痕有
S=341				95	F	土器17	XJ18p	その他	軽石	1.7	3.0	2.2	1.2						
S=342			NR03	96	C	NR02最下層	IA4m	その他	軽石	14.4	5.8	3.5	2.5						
S=343			SD01	96	C	SD01	IA1g	その他	軽石	15.2	5.8	3.0	2.5						
S=344				96	C	検出I	IA6l	その他	紅簾石片岩	14.5	3.5	3.3	0.9						赤い部分有
S=345			NR06	96	D	NR01遺物集中区 No.526		その他	砂岩	391.9	11.9	4.8	5.0						平坦面有,加熱赤変か?
S=346			SB07	96	D	SB03 No.224		その他	砂岩	489.4	(16.2)	(4.1)	3.8						平坦面有,ススト付着
S=347				95	Cb	SK03	XH19m	その他 穿孔あり	砂岩	7.2	3.8	2.2	1.8						穿孔有
S=348				93	Aa	SK109	IJ6m	加熱された石	濃飛流紋岩	636.0	(8.8)	7.5	5.7						上半部4.5cm火熱ススト付着
S=349				95	Aa	Nトレンチ		石丸	濃飛流紋岩	13.2	2.3	2.2	1.8						
S=350				96	D	攪乱	XJ16j	石錐	泥岩	5.2	3.3	1.9	0.6	2.5					ID1類
S=351			SK60	94	Cb	SK53	IJ18c	粗製剥片石器	結晶片岩	230.5	11.5	7.5	2.2						土掘具か?

第4表　石製品観察表4

登録番号	図版	番号	遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号・出土位置	器種	石材	重量(g)	a	b	c	d	e1	e2	f1	f2	分類	備考
S=352				95	F	攪乱SD	X J19t	粗製剥片石器	ﾁｬｰﾄ	70.1	6.0	4.5	2.1							礫面残す
S=353			SK44	93	Bb	SK53	Ⅱ I2j	置石	安山岩	823.5	(16.3)	(13.7)	2.7							板石状
S=354			SB15	93	Aa	SB104	Ⅰ J7m	置石	濃飛流紋岩	13000.0	35.5	24.0	9.8							上半部火熱ｽｽ付着,上面中央部はｽｽ付着なし
S=355			SB94	94	Bb	SK15	X G19	置石	濃飛流紋岩	4000	22.7	21.3	5.5							
S=356			SZ20	95	Ba	SD01	Ⅱ J3b	置石	濃飛流紋岩	2922.9	(13.3)	(11.0)	10.7							上面凹み有,擦り石状,側面3面,破損されている,上半部1.0cm火熱ｽｽ付着
S=357			SB68	95	Ca	SB01内SK17		置石	濃飛流紋岩	20500.0	34.5	23.0	20.0							上面12.5cm火熱,一部ｽｽ付着,上面剥離
S=358			SB82	95	Cb	SB05石器1		置石	濃飛流紋岩	13000.0	31.3	16.7	15.0							上半部9.5cm火熱ｽｽ一部付着
S=359			SB08	96	D	SB02 No.125		置石	濃飛流紋岩	430.4	(12.1)	(10.7)	(3.0)							全面に火熱,一部ｽｽ付着
S=360			SZ10	93	Aa	SD02	Ⅰ J7k	磨石	濃飛流紋岩	489.3	11.8	7.4	3.7							平面に煤付着,凹み有り
S=361				93	Aa	T	Ⅰ J8j	磨石	凝灰質砂岩	1047.7	11.3	9.0	7.6							平面に研き痕か?
S=362				93	Ab	検出Ⅰ	Ⅰ J19i	磨石	凝灰質砂岩	78.5	8.0	3.5	3.6							
S=363				93	Ba	検出Ⅰ	Ⅱ J2i	磨石	砂岩	50.2	(6.4)	(5.7)	(0.6)							磨石やや凹む
S=364			SX57	93	D	SK04	Ⅰ J10r	磨石	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	239.3	9.4	4.9	4.2							平面に研き痕か?
S=365			SK06	94	Ab	SK34		磨石	濃飛流紋岩	443.7	9.8	8.9	2.8							平面に磨き面有,少し凹む
S=366			SK35	94	Ca	SK08	Ⅰ I20l	磨石	濃飛流紋岩	256.3	9.5	5.7	3.3							平面に磨き痕
S=367				94	Ca	SK42	Ⅰ I20k	磨石	砂岩	116.9	14.4	9.7	6.0							平面に磨き面有,やや凹むか?
S=368				94		表土はぎ		磨石	砂岩	306.5	(7.7)	(7.4)	3.3							
S=369			SZ13	95	Aa	SD02		磨石	砂岩	629.2	10.7	8.0	3.5							平面に磨き痕有,ｽｽ付着
S=370			SZ20	95	Ba	SD01(No.1)		磨石	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1273.6	16.9	11.0	5.0							平面に凹み有,ｽｽ付着
S=371			SB73	95	Ca	SB03石2		磨石	凝灰質砂岩	199.4	9.1	5.5	3.4							平面に凹み有,ｽｽ付着
S=372			SB08	96	D	SB02 No.123		磨石	砂岩	369.1	12.8	11.8	2.2							平面にｽｽ付着,粗い
S=373			SK17	93	Aa	SK27	Ⅰ J9k	無溝砥石	凝灰質砂岩	40.8	3.6	2.5	2.3							研き面2面
S=374			SZ09	93	Aa	SZ02北溝		無溝砥石	凝灰質砂岩	118.9	10.4	3.6	2.8							研面2面
S=375				93	Aa	ｶｰﾄﾞなし		無溝砥石	砂岩	15.4	2.9	2.6	1.3							研き面2面
S=376				93	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ J2m	無溝砥石	凝灰質砂岩	22.7	4.0	3.9	1.1							研面2面,凹み有,研き痕有
S=377				93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ J8l	無溝砥石	凝灰岩	104.1	7.5	4.1	2.5							研き面2面,凹み研き痕有
S=378				93	Ab	SX01	Ⅰ J17h	無溝砥石	凝灰岩	36.9	4.4	3.4	2.3							研き面1面
S=379				93	Ab	SK08	Ⅰ J17j	無溝砥石		31.9	4.4	2.8	2.1							
S=380				93	Ca	検出Ⅰ	Ⅱ I2d	無溝砥石		69.8	5.6	5.1	2.6							
S=381			SX57	93	D	SK04	Ⅰ J10r	無溝砥石	凝灰質砂岩	21.1	3.6	3.2	1.3							研き面1,凹み有
S=382			SK53	94	Cb	SK15	Ⅰ I18f	無溝砥石	凝灰岩	21.0	(3.2)	(1.9)	(3.8)							研き面1面
S=383				94	Cb	SK61	Ⅰ I17b	無溝砥石	砂岩	60.2	3.9	3.9	2.3							研き面2面,A面に凹み
S=384			SB23	95	Aa	SB01		無溝砥石	砂岩	59.5	6.8	4.4	1.5							研き面2面,A面に凹み,B面に凹み
S=385				95	Aa	検出Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	Ⅰ J8o	無溝砥石	砂岩	135.2	6.3	4.0	2.8							ｽｽ付着,研き面2面
S=386				95	Aa	土器群6		無溝砥石	砂岩	35.0	5.5	3.0	1.3							研き面2面,A面凹み,B面凹み
S=387			SZ20	95	Ba	SD01(No.1)	Ⅱ J4e	無溝砥石	砂岩	14.1	3.3	2.5	1.2							研き面1面,A面凹み
S=388			SZ20	95	Ba	SD01(No.1)	Ⅱ J5d	無溝砥石	砂岩	70.7	7.7	5.0	1.3							研き面2面,A面凹み,B面凹み
S=389			SB66	95	Ca	SB05石2		無溝砥石	凝灰質砂岩	63.4	5.6	4.2	2.3							研き面2面,凹み有
S=390				95	Cb	SK12		無溝砥石	砂岩	12.4	3.0	2.3	1.2							研き面1面
S=391			SX219	95	Cc	SK04		無溝砥石	砂岩	50.7	5.4	5.1	1.3							研き面1面
S=392			SX129	95	E	SK08		無溝砥石	凝灰質泥岩	116.3	5.2	3.8	3.4							研き面2面
S=393				95	E	Sﾄﾚﾝﾁ		無溝砥石	砂岩	291.8	5.9	5.6	5.1							研き面1面
S=394			NR04	95	F	NR01	X J18q	無溝砥石	砂岩	14.6	3.3	2.1	1.1							研き面1面
S=395				95	F	Sﾄﾚﾝﾁ		無溝砥石	凝灰質砂岩	211.9	6.1	4.8	4.0							研き面3面,A面凹み,B面凹み,D面凹み,F面擦痕
S=396				95	F	検出Ⅰ	Ⅰ A2c	無溝砥石	凝灰岩	35.7	3.5	3.5	2.1							研き面1面,A面凹み
S=397				95	F	検出Ⅰ	Ⅰ A2c	無溝砥石	砂質凝灰岩	73.2	6.5	4.8	2.0							研き面1面
S=398				96	D	検出Ⅰ		無溝砥石	砂岩	194.2	8.4	4.4	4.1							研き面2面,凹み有
S=399				93	Aa	T	Ⅰ J7n	有孔石	凝灰岩	2.7	2.5	1.4	1.0	-	0.2	0.3				孔2ｺ
S=400				93	Ab	SK14	Ⅰ J17g	有孔石	凝灰岩	4.5	2.5	2.2	1.2	-	0.5	1.2	0.1	0.3		凹み4ｺ,孔1ｺ 0.9 深0.5
S=401				95	Aa	Eﾄﾚﾝﾁ南側		有孔石	凝灰岩	9.2	4.1	2.9	1.8	-	1.5	0.2	0.2	0.8		凹み,孔5ｺ
S=402			SB66	95	Ca	SB05		有孔石	凝灰岩	18.2	5.4	3.1	1.8	-	1.1	1.7	0.1	0.3		凹み8ｺ
S=403				94	E	SK25		有孔土器	土器	3.7	4.0	(2.1)	0.5	-	0.6	0.7	0.2	0.5		凹み2ｺ
S=404				94	E	SK29		有孔土製	土器	4.4	2.2	2.1	1.3	-	0.3	0.7	0.2	0.4		凹み2ｺ
S=405			SK09	93	Aa	SK10	Ⅰ J3l	有溝砥石	凝灰質砂岩	31.5	4.0	4.0	1.8		0.6	1.0	0.05	0.7		A面3,B面擦痕,C面2,D面1,E面2,F面1
S=406			SK12	93	Aa	SK120	Ⅰ J5l	有溝砥石	凝灰岩	65.7	5.2	3.8	2.6		0.1	0.2	0.03	0.04		A面多数凹み,B面8凹み,研面2面,研痕有り
S=407				93	Aa	SK124	Ⅰ J4l	有溝砥石	凝灰質砂岩	208.1	10.0	7.5	2.1		0.2		0.03			板状,A面ｽｽ付着,研磨面,C面1
S=408			SK17	93	Aa	SK27	Ⅰ J9k	有溝砥石	凝灰質砂岩	54.0	4.6	4.0	2.1		0.6	0.8	0.05	0.1		研き面2面,A面1凹み,B面1凹み,D面擦痕,E面凹み
S=409			SZ09	93	Aa	SZ02N	Ⅰ J6m	有溝砥石	凝灰質砂岩	55.5	8.0	3.1	2.4		0.4		0.15			A面凹み,B面凹みｽｽ付着,C面凹み,D面1
S=410				93	Aa	検出Ⅰ	Ⅰ J4n	有溝砥石	凝灰質砂岩	745.5	14.3	(12.1)	4.3		0.2	0.5	0.1	0.15		A面2凹み,B面凹み
S=411				93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ J6l	有溝砥石	凝灰質砂岩	49.9	5.3	4.8	2.4		0.25	0.85	0.05	0.1		A面凹み,B面2凹み,C面凹み
S=412				93	Aa	検出Ⅱ	Ⅰ J8l	有溝砥石	凝灰質砂岩	736.3	17.8	8.6	4.0		0.2	1.2	0.03	0.3		A面1凹み,B面1,D面凹み
S=413			SX83	93	Ab	SK03	Ⅰ J6k	有溝砥石	凝灰質砂岩	42.1	5.4	4.2	1.3		0.9		0.15			A面1凹み,B面凹み,E面凹み
S=414			SK32	93	Bb	SK05	Ⅱ I4p	有溝砥石	凝灰質砂岩	76.2	6.5	3.6	2.5		0.3		0.05			A面1凹み,B面凹み
S=415			SX57	93	D	SK04	Ⅰ J10r	有溝砥石	凝灰質砂岩	23.7	3.6	3.1	1.5		1.0	1.3	0.1	0.15		A面1,D面1
S=416			SK73	94	Ae	SK28		有溝砥石	凝灰質砂岩	84.2	6.1	4.5	3.3		0.1	2.4	0.03	0.5		A面5凹み,B面4,C面1凹み,D面3,F面擦痕
S=417				94	Ca	攪乱	Ⅰ I20m	有溝砥石	泥岩	40.7	5.6	5.2	0.6		0.1	0.5	0.02	0.05		A面1
S=418			SK21	95	Aa	SK03		有溝砥石		47.2	4.5	3.7	1.8		0.4	0.7	0.05	0.1		A面2
S=419			SE01	95	Aa	SK10内ﾍﾞﾙﾄ		有溝砥石	砂岩	16.3	3.6	3.3	1.3		0.9	1.8	1.0	2.0		A面1,B面2
S=420			SB46	95	Ba	SB03		有溝砥石	凝灰質砂岩	241.2	(15.0)	(3.9)	(3.9)		0.2	1.2	0.03	0.15		A面ｽｽｽ付着,B面凹み,E面凹み
S=421			SB28	95	Ba	SB12	Ⅱ J2b	有溝砥石	凝灰質砂岩	123.4	8.5	5.3	2.8		0.2	0.7	0.05	0.1		A面凹み,B面1,C面1凹み,D面2凹み
S=422			SZ20	95	Ba	SD01	Ⅱ J5d	有溝砥石	凝灰質砂岩	911.0	10.8	9.7	6.1		0.1	0.9	0.03	0.2		A面4凹み,B面2凹み,擦痕,C面13,D面4凹み,E面13

第5表　石製品観察表5

登録番号	図版	番号	遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号・出土位置	器種	石材	重量(g)	a	b	c	d	e1	e2	f1	f2	分類	備考
S=423			SZ20	95	Ba	SD01(No.1) Ⅱ J5d	有溝砥石	軽石	44.7	4.9	3.9	5.0		0.05	1.6	0.03	0.2		A面多数,C面3凹み,D面2,E面2,F面4
S=424			SZ20	95	Ba	SD01(No.1) Ⅱ J5d	有溝砥石	砂岩	72.6	6.7	3.2	3.8		0.4	2.2	0.5	0.9		A面5,B面0擦痕,C面3,D面2,E面0,F面2
S=425				95	Cb	Nｱｳﾝﾄ	有溝砥石	砂岩	108.2	7.1	5.8	2.0							A面0凹み,B面1凹み,E面擦痕
S=426				95	Cb	検出Ⅰ Ⅹ H20m	有溝砥石	凝灰質砂岩	79.7	5.5	3.3	3.9		0.2	0.5	0.03	0.1		A面凹み,B面4
S=427				95	F	検出Ⅰ Ⅹ J18m	有溝砥石	砂岩	143.6	7.3	4.1	3.8		0.3	1.8	0.02	0.2		A面1,C面1,D面2,E面擦痕,F面擦痕
S=428			NR03	96	C	NR02灰色ｼﾙﾄ No.3 Ⅰ A4n	有溝砥石	凝灰質砂岩	361.4	11.7	7.2	4.3		0.1	1.2	0.01	0.15		A面9凹み,B面7凹み,C面2,D面1凹み,E面擦痕,F面擦痕
S=429			NR06	96	D	NR01遺物集中区 No.559	有溝砥石	凝灰質砂岩	155.2	9.7	4.1	3.4		0.4	1.0	0.03	0.15		A面1凹み,B面2,C面1ｽｽ付着,D面ｽｽ付着,F面擦痕ｽｽ付着
S=430				96	D	SD04 No.259	有溝砥石	砂岩	632.4	17.3	8.0	3.8		0.2	1.0	0.03	0.1		A面2凹み擦痕,B面2凹み,C面凹み,D面10凹み
S=431				93	Aa	SK109 Ⅰ J6m	炉縁石	濃飛流紋岩	2568.8	24.0	10.4	9.1							上半部5.5cm火熱ｽｽ付着
S=432				93	Aa	Ⅰ Ⅰ J7n	炉縁石	濃飛流紋岩	583.1	13.0	5.8	4.8							上半部3.8cm火熱ｽｽ付着
S=433				93	Aa	検出Ⅱ Ⅰ J5k	炉縁石	濃飛流紋岩	994.9	(15.5)	8.5	4.8							上半部2.0cm火熱ｽｽ付着
S=434				93	Ab	SK22 Ⅰ J16k	炉縁石	濃飛流紋岩	2411.9	21.2	10.0	7.3							上半部5.5cm火熱ｽｽ付着
S=435			SZ21	93	Ba	SZ02東溝 Ⅱ J6h	炉縁石	濃飛流紋岩	673.9	(8.9)	9.6	4.8							膨らみ面に加熱痕有り
S=436			SB15	93	Aa	SB104 Ⅰ J7m	炉縁石	濃飛流紋岩	827.7	14.3	7.2	5.8							上半部4.0cm火熱ｽｽ付着
S=437			SB38	95	Ba	SB10 Ⅱ I3t	炉縁石		393.7	(9.8)	6.8	4.4							被熱痕有
S=438			SB69	95	Ca	SB09石2	炉縁石	濃飛流紋岩	1436.3	16.9	8.1	7.2							上半部4.0cm,被熱ｽｽ付着
S=439			SB82	95	Cb	SB05石器3	炉縁石	濃飛流紋岩	1482.9	18.6	8.4	6.0							上半部3.2cm火熱ｽｽ付着
S=440			NR04	95	F	NR01土器3 Ⅹ J20r	炉縁石	濃飛流紋岩	763.6	15.2	6.2	5.1							上半部2.0cm火熱,ｽｽ付着
S=441			SB08	96	D	SB02 No.124	炉縁石	濃飛流紋岩	1266.0	17.5	7.6	6.3							上半部4.0cm火熱ｽｽ付着
S=442			SZ09	93	Aa	SZ02 Ⅰ J6m	炉石	砂岩	787.7	(14.7)	(8.7)	4.0							A面ｽｽ被熱痕,B面灰付着
S=443			SZ09	93	Aa	SZ02北溝	炉石	砂岩	328.2	(13.3)	(4.6)	3.8							端面に擦痕,A面ｽｽ付着
S=444				93	Aa	検出Ⅱ Ⅰ J7n	炉石	ホルンフェルス	126.6	(4.6)	(3.5)	(4.1)							A面ｽｽ付着,被熱痕
S=445			SK30	93	Bb	SK01 Ⅱ J4g	炉石	砂岩	545.3	(11.1)	(7.4)	3.5							上面に加熱痕
S=446				93	D	検出Ⅱ Ⅰ J9r	炉石	砂岩	487.7	9.4	7.0	3.7							A面ｽｽ付着
S=447				93	D	検出Ⅱ Ⅰ J9s	炉石	濃飛流紋岩	940.7	10.9	10.9	4.8							A面ｽｽ付着,磨き痕,平坦,B面膨らみ
S=448				93	D	検出Ⅱ Ⅰ J6s	炉石	濃飛流紋岩	1.6	(6.0)	(3.3)	(1.2)							上面に付着
S=449			NR04	94	Ab	NR01	炉石	濃飛流紋岩	258.0	(9.7)	(5.4)	3.1							A面ｽｽ付着,B面磨き痕
S=450				94	Bb	攪乱 Ⅹ G19s	炉石	ｱﾌﾟﾗｲﾄ	338.5	(8.8)	(6.4)	4.5							A面被熱痕,B面被熱痕
S=451			SB63	94	Ca	SK03炉 Ⅰ I20m	炉石	濃飛流紋岩	1826.9	(15.8)	(15.7)	5.0							A面被熱痕,B面被熱痕,灰付着
S=452				94	Cb	SK04 Ⅰ I18g	炉石	濃飛流紋岩	628.5	11.0	8.7	4.2							A面ｽｽ付着
S=453			SB17	95	Aa	SB02	炉石	濃飛流紋岩	1411.1	14.1	13.0	5.2							A面被熱痕,灰付着,B面ｽｽ付着,灰付着
S=454				95	Aa	土器群3 Ⅰ J9p	炉石	ホルンフェルス	588.3	(12.8)	(5.7)	4.8							A面ｽｽ付着,B面灰付着
S=455				95	Ab	SD02	炉石	濃飛流紋岩	727.4	11.1	10.7	3.8							A面ｽｽ付着
S=456			SB35	95	Ba	SB05	炉石	凝灰質砂岩	526.8	12.7	7.5	3.5							A面ｽｽ付着,B面ｽｽ付着灰付着
S=457			SZ20	95	Ba	SD01(No.3) Ⅱ J4c	炉石	濃飛流紋岩	371.6	(11.4)	(5.4)	3.8							A面ｽｽ付着
S=458			SB68	95	Ca	SB01地床炉	炉石	濃飛流紋岩	1217.5	14.3	13.0	4.3							A面磨り痕,B面灰付着
S=459			SB66	95	Ca	SB05石1	炉石	濃飛流紋岩	827.9	11.7	10.5	3.9							A面ｽｽ付着,被熱痕平坦,B面膨らみ
S=460				95	Cb	Nｱｳﾝﾄ	炉石	濃飛流紋岩	512.7	10.5	(7.4)	3.6							A面被熱痕灰付着
S=461				95	Cb	Nｱｳﾝﾄﾞ	炉石	濃飛流紋岩	409.5	(12.5)	(7.4)	3.5							A面に磨き面被熱痕,B面灰付着
S=462				95	E	検出Ⅰ Ⅱ I8r	炉石	濃飛流紋岩	113.9	(5.6)	(3.6)	(3.9)							
S=463			SB02	95	F	SB03下	炉石	安山岩	506.3	9.4	9.3	3.4							A面ｽｽ付着,B面ｽｽ付着灰付着
S=464			SB10	96	D	SK105 No.477	炉石	濃飛流紋岩	1417.8	16.1	10.6	5.3							A面ｽｽ付着平坦,B面膨らみ
S=465				93	Aa	検出Ⅰ Ⅰ J7k	敲石	濃飛流紋岩	131.6	5.4	4.1	3.7							擦痕,端面に4ヶ所有
S=466				93	Aa	検出Ⅰ Ⅰ J1l	敲石	砂岩	268.0	(7.6)	5.5	4.3							擦痕が端面に1ヶ所,端面の1ヶ所が欠損
S=467			SK23	93	Ab	SK13 Ⅰ J18k	敲石	濃飛流紋岩	570.8	12.9	6.2	5.0							擦痕が端面に4ヶ所,側面に1ヶ所
S=468				93	Ba	SK51 Ⅱ I5s	敲石	砂岩	544.9	14.1	6.1	4.6							擦痕が端面に2ヶ所
S=469				93	Bb	SK06 Ⅱ I4p	敲石	砂岩	117.2	(4.8)	(4.3)	(3.4)							擦痕端面2ヶ所
S=470				93	D	攪乱 Ⅰ J12s	敲石	ホルンフェルス	351.6	(10.0)	(4.6)	4.7							擦痕,端面に2ヶ所,磨面有
S=471				94	Ac	検出	敲石	濃飛流紋岩	739.2	12.6	7.9	4.9							擦痕,端面に2ヶ所
S=472				94	Bb	SD01 Ⅹ H17a	敲石	砂岩	17.9	(4.0)	(3.0)	(0.9)							擦痕側面に1ヶ所
S=473				94	Bb	SK22 Ⅹ H17a	敲石	濃飛流紋岩	345.7	12.5	5.1	3.4							擦痕,端面に2ヶ所
S=474				94	Bb	SK22 Ⅹ H17a	敲石	安山岩	1071.5	14.7	9.6	5.0							擦痕,側面に1ヶ所
S=475				94	Bb	検出 Ⅹ H15a	敲石	砂岩	145.8	8.0	3.8	3.7							擦痕端面に1ヶ所
S=476				94	Cb	SK58 Ⅰ I18c	敲石	砂岩	85.6	(5.9)	(2.3)	(2.8)							擦痕,端面に2ヶ所
S=477			SZ16	95	Aa	SD01ﾍﾞﾙﾄ	敲石	ｱﾌﾟﾗｲﾄ	536.9	9.7	7.7	5.6							擦痕,端面に1ヶ所,側面に1ヶ所
S=478				95	Aa	検出Ⅰ Ⅰ I13o	敲石	凝灰質砂岩	558.1	13.5	7.9	2.9							擦痕,端面に1ヶ所,側面に2ヶ所
S=479				95	Aa	土器群3 Ⅰ J9p	敲石	濃飛流紋岩	1301.3	15.1	7.6	6.8							擦痕,端面に4ヶ所
S=480			SZ18	95	Ac	SD01	敲石	安山岩	270.5	9.1	8.7	(2.3)							擦痕,端面に,全周
S=481			SB38	95	Ba	SB107ﾋﾟ	敲石	濃飛流紋岩	289.3	9.6	5.0	4.4							擦痕,端面2ヶ所
S=482			SZ20	95	Ba	SD01 Ⅱ J3b	敲石	砂岩	230.3	7.7	6.8	2.9							擦痕,端面に全周
S=483			SB73	95	Ca	SB03石1	敲石	ｱﾌﾟﾗｲﾄ	630.5	10.6	8.1	4.8							擦痕,端面に2ヶ所,側面2ヶ所,面が粗い
S=484			SB66	95	Ca	SB05 土器22	敲石	砂岩	70.8	(6.0)	(3.9)	2.5							擦痕側面に2ヶ所
S=485				95	Ca	ﾒｲﾝｾｸｼｮﾝ西壁28層	敲石	濃飛流紋岩	1184.2	16.3	7.3	5.3							擦痕,端面3ヶ所
S=486			SB82	95	Cb	SB05	敲石	砂岩	479.7	9.4	8.2	5.0							端面に1ヶ所擦痕
S=487				95	Cb	SK137ﾍﾞﾙﾄ	敲石	濃飛流紋岩	409.4	8.3	7.2	4.6							擦痕,端面1ヶ所,側面1ヶ所,被熱している
S=488				96	A	検出Ⅰ Ⅰ H4j	敲石	濃飛流紋岩	51.9	3.4	3.3	3.1							擦痕,端面2ヶ所
S=489			SB07	96	D	SB03 No.223	敲石	安山岩	364.1	7.3	7.5	3.8							擦痕,端面2ヶ所
S=490			SB06	96	D	SB04 No.173	敲石	濃飛流紋岩	121.8	5.4	4.8	3.2							擦痕,端面3ヶ所
S=491			SK07	96	D	SX01 No.51	敲石	濃飛流紋岩	288.4	(10.8)	5.2	3.3	-	2.9	2.8			Ⅱ	研磨不明,石斧か?
S=492			SZ12	93	Aa	SZ03西溝 Ⅰ J8i	敲石の下	凝灰質砂岩	1478.9	13.5	5.5	11.2							擦痕が3面にある

第6表　石製品観察表6

8. 木製品

樋上　昇

木製品は弥生中期と中世の遺構からそれぞれ出土している。分類と名称については奈良国立文化財研究所から刊行されている『木器集成図録』近畿原始篇・近畿古代篇（奈良国立文化財研究所1993・1985）にそれぞれ従っている。

(1) 弥生中期
（第1図～第7図、第1表）

農具（1～5・8・21）　1は直柄狭鍬。隆起部が高く、明確に作り出されている。頭部の両側面にえぐり込みを入れる。2はその柄にあたり、途中に段をもつ。3・5・8は柄穴広鍬の未製品。3は頭部の両端を斜めに削り落としている。柄穴周辺の隆起部は不明瞭。5・8は平面が長方形を呈する。8は柄穴を開ける部分の周囲の隆起部がまだ作り出されておらず、全体に厚めで、全長も5に比べて長い。5は8の段階から隆起部を除いて全体に薄く削り込んでいる。21は8のさらに前段階にあたるミカン割りの板材である。全長118cmで、3や5の広鍬が3枚取れる長さである。4は片面が頭部に突起が作り出されており、一旦薄くなってまた徐々に厚くなる。もう片面はほぼ平らで、下が欠けている。曲柄狭鍬の軸部である可能性が高い。

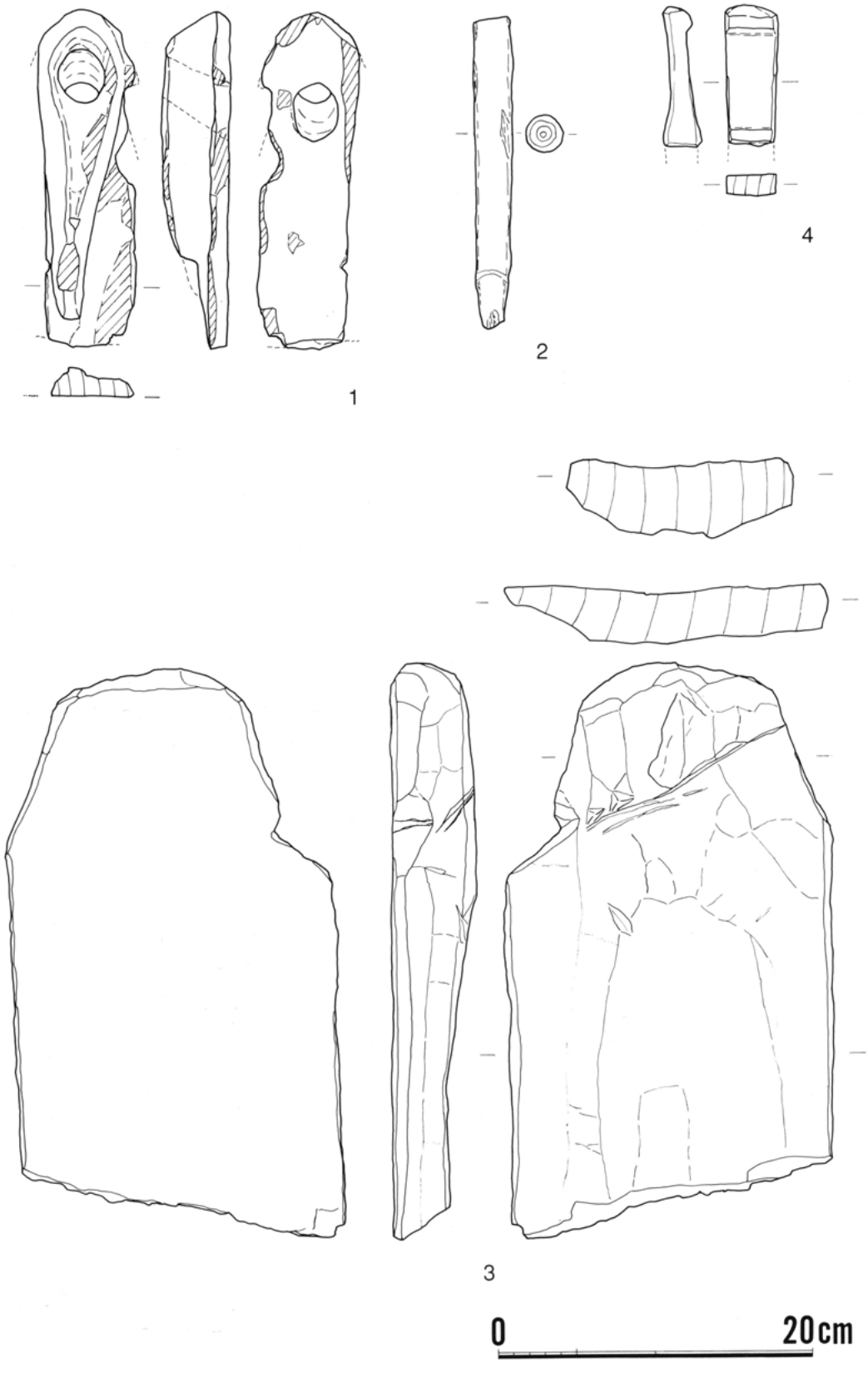
工具（11）　11は縦斧の直柄の未製品。石斧を装着する部分は片側のみ段をもつ。奈良国立文化財研究所の分類によるⅢ類にあたる。

漁労具（15・16・20）　15はアカ取りあるいはモミスクイと呼ばれるもので、一方（図では上方）には立ち上がりがなく、その反対方向には把手が付く。16・20は一木式の櫂で、16は水かき部分の先端、20は柄の上端が欠けている。

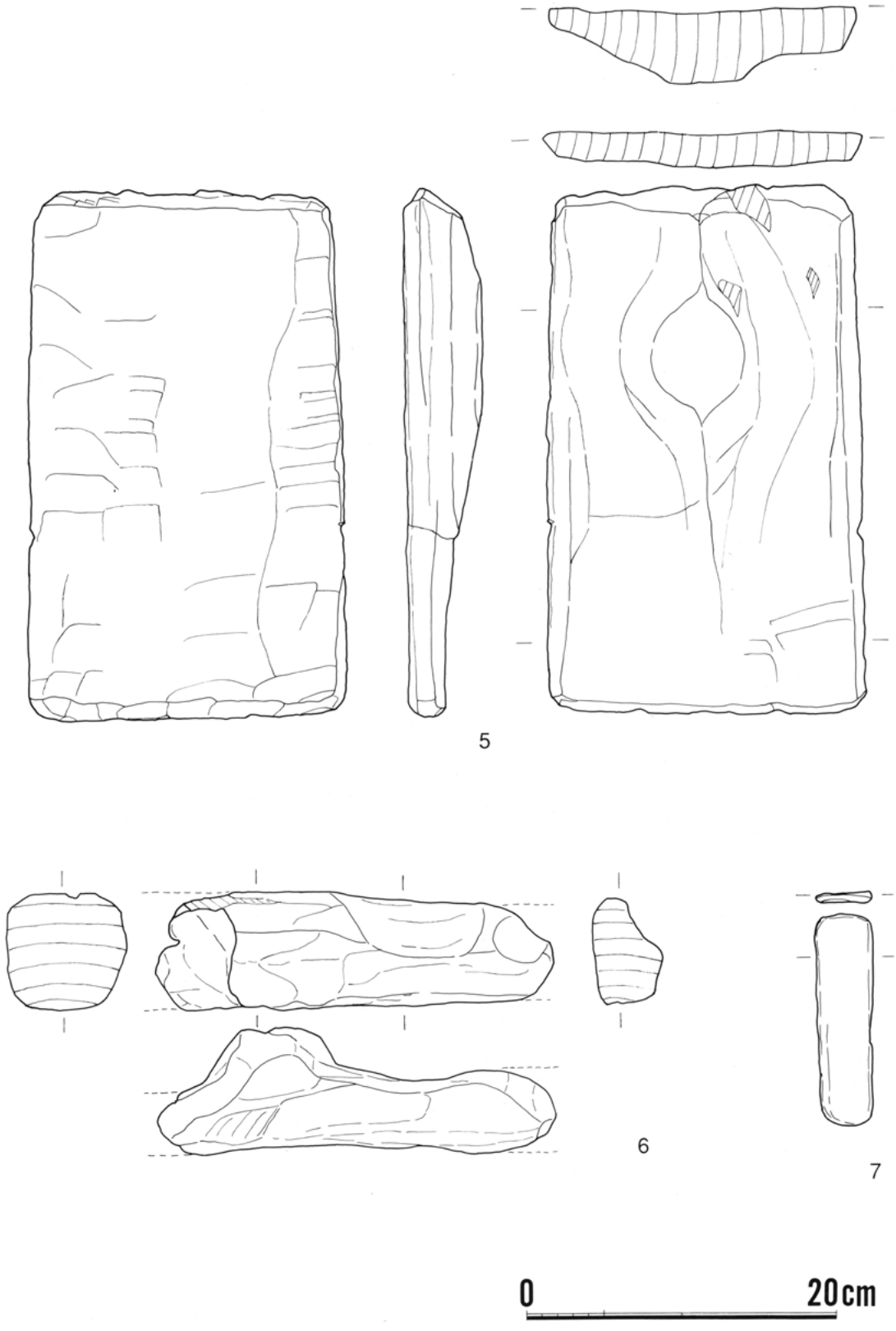
容器（14）　14は把手付の槽で、把手の側面には方形孔を穿つ。

建築部材（6）　6は梯子の破片で足掛けが一段のみ遺存している。

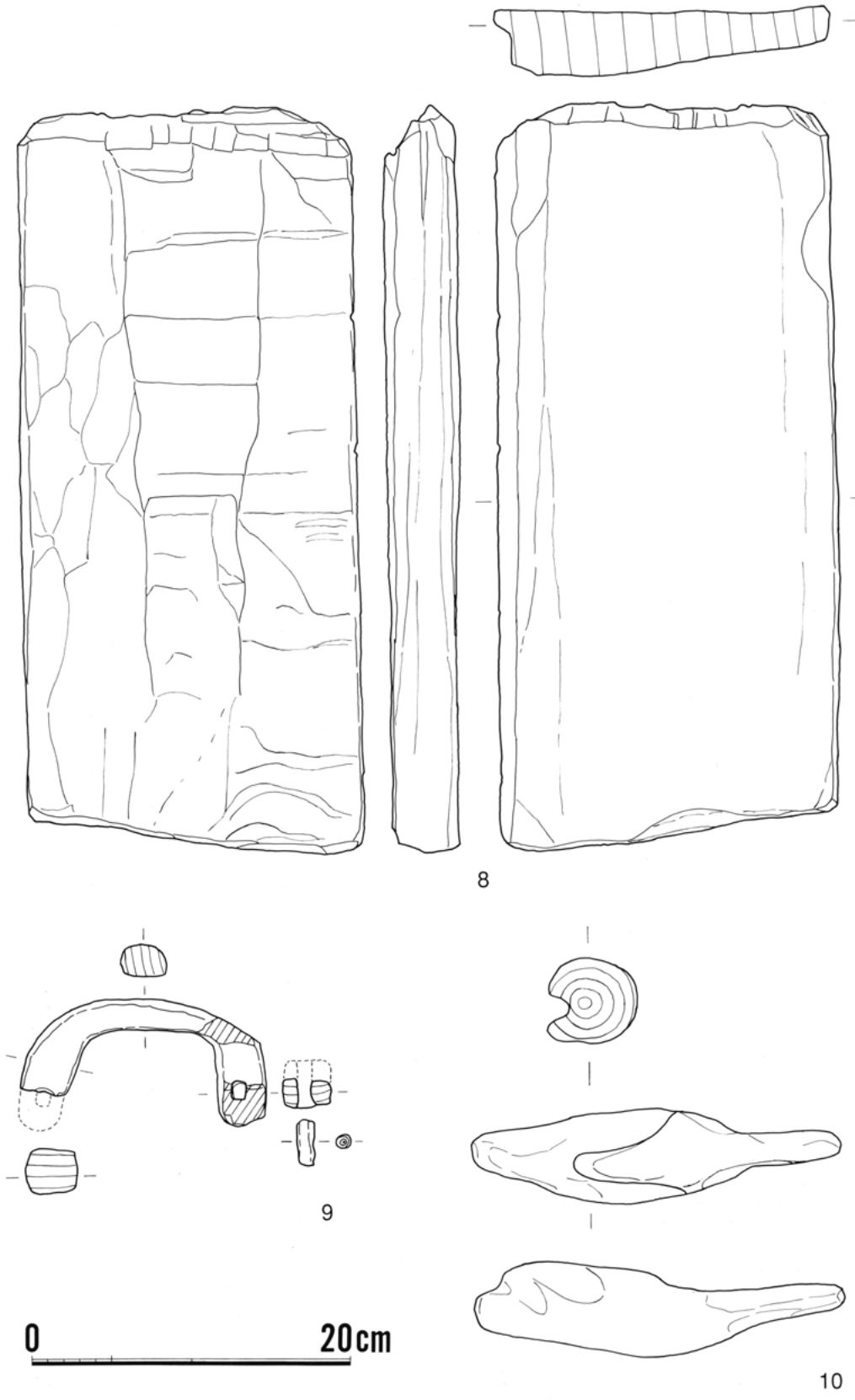
用途不明品（7・9・10・12・13・17～18）　7は用途不明の板材。木取りは板目である。9は何か別の部材に取り付く把手である。コの字状をなし、両端部付近に方形の小孔を穿つ。片側の小孔には木栓が遺存している。10は紡錘形の木の一端を棒状に加工している。杓子の未製品である可能性が高い。12は棒で一方の端は平らに加工されており、もう一方は欠損している。鍬の柄である可能性が高い。13は両端を丸く加工した厚めの板の上面に浅い溝を切り、下面は台形状に作り出す。建築部材の可能性がある。17・19は細長い棒状の製品で一端を欠損する。遺存する一端は17が削って尖らせているのに対し、19は先端に突起を作り出している。19はさらに途中に段を設けている。いずれも網枠・弓・輪カンジキ型田下駄の輪のいずれかである可能性をもつ。18はやや湾曲する板材に一ヵ所小孔を穿っている。両端は欠損しており、用途は不明である。



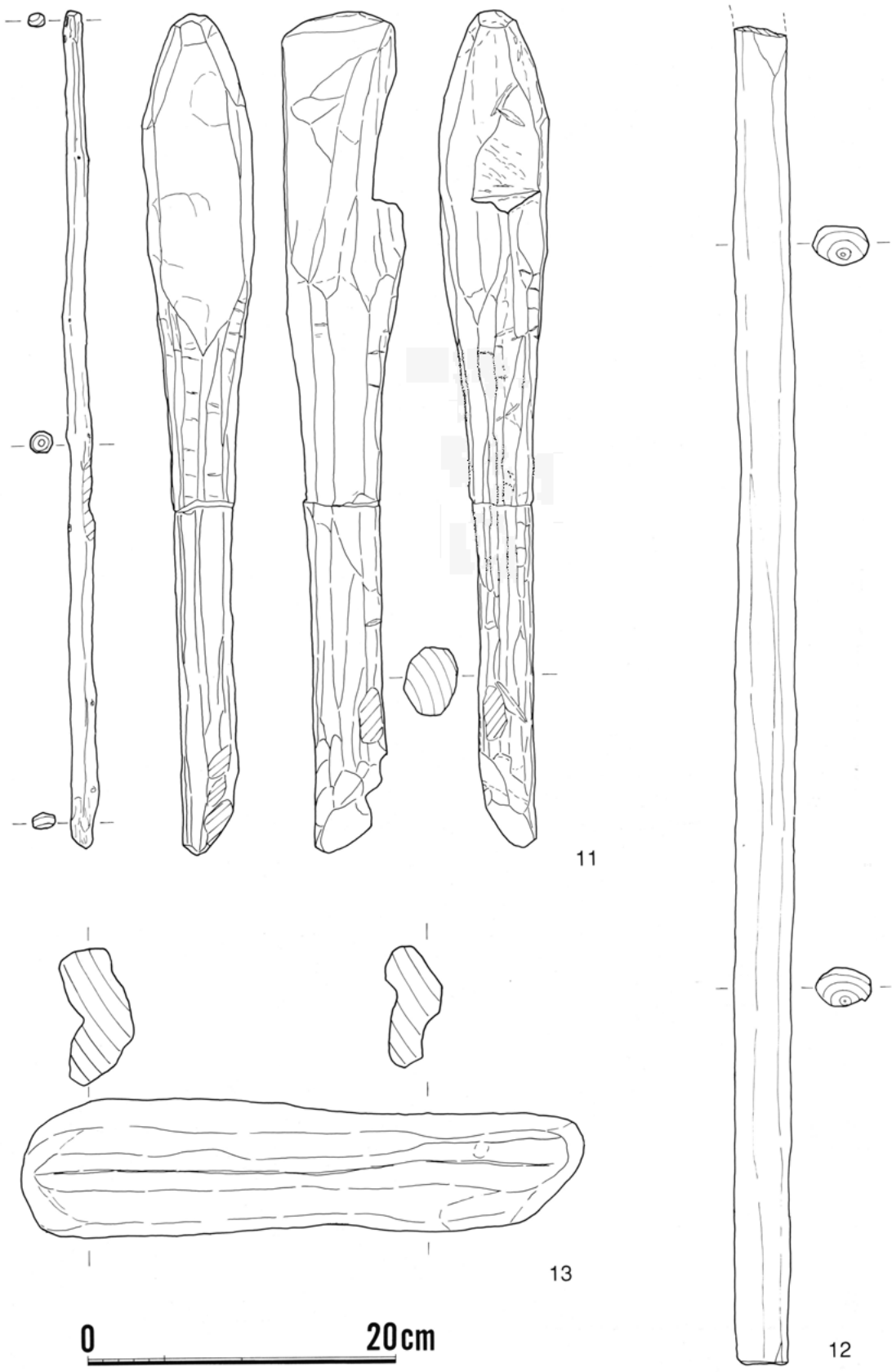
第1図　木製品実測図1 弥生 （1：4）



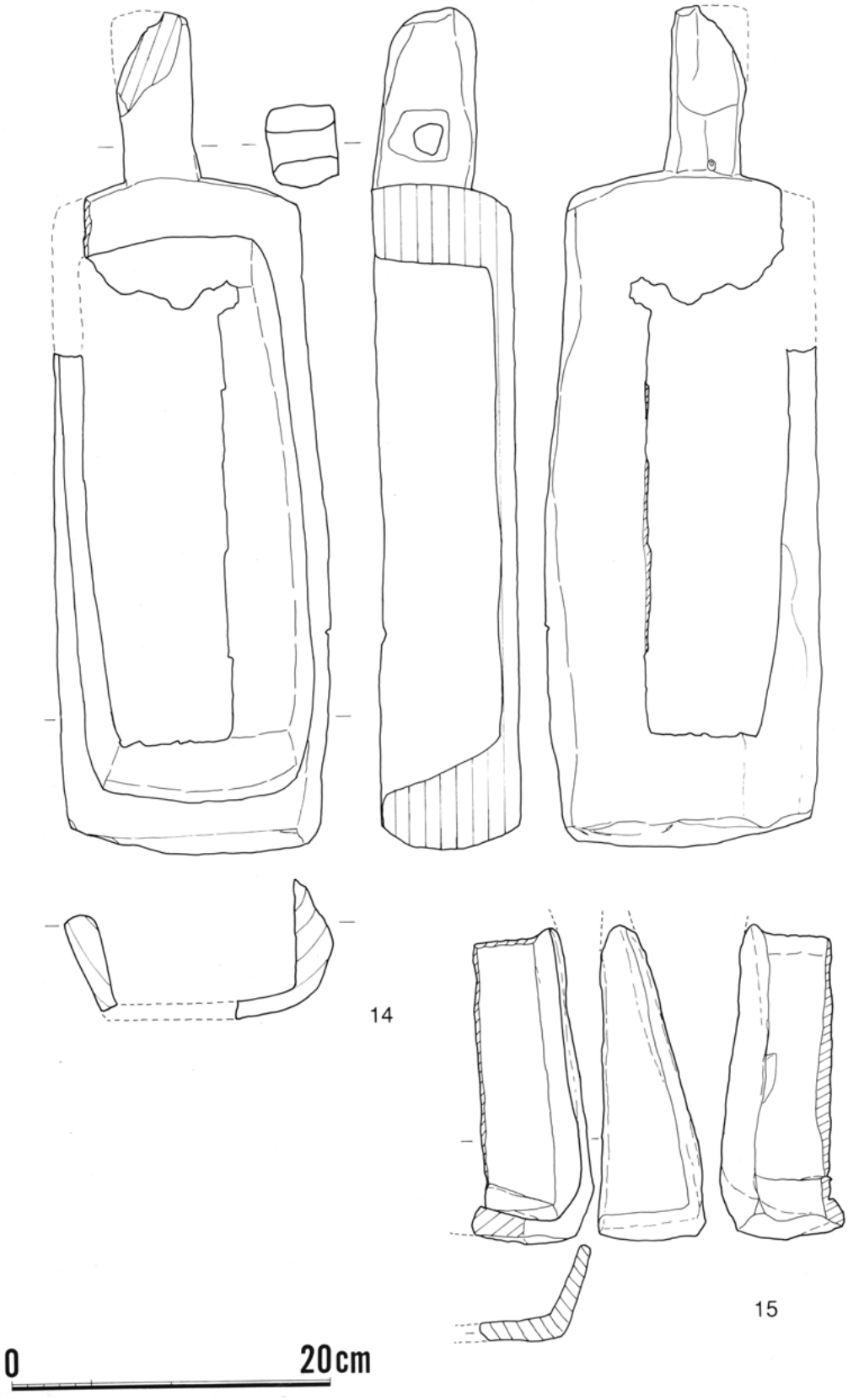
第２図　木製品実測図２ 弥生（１：４）



第３図　木製品実測図３ 弥生（1：4）



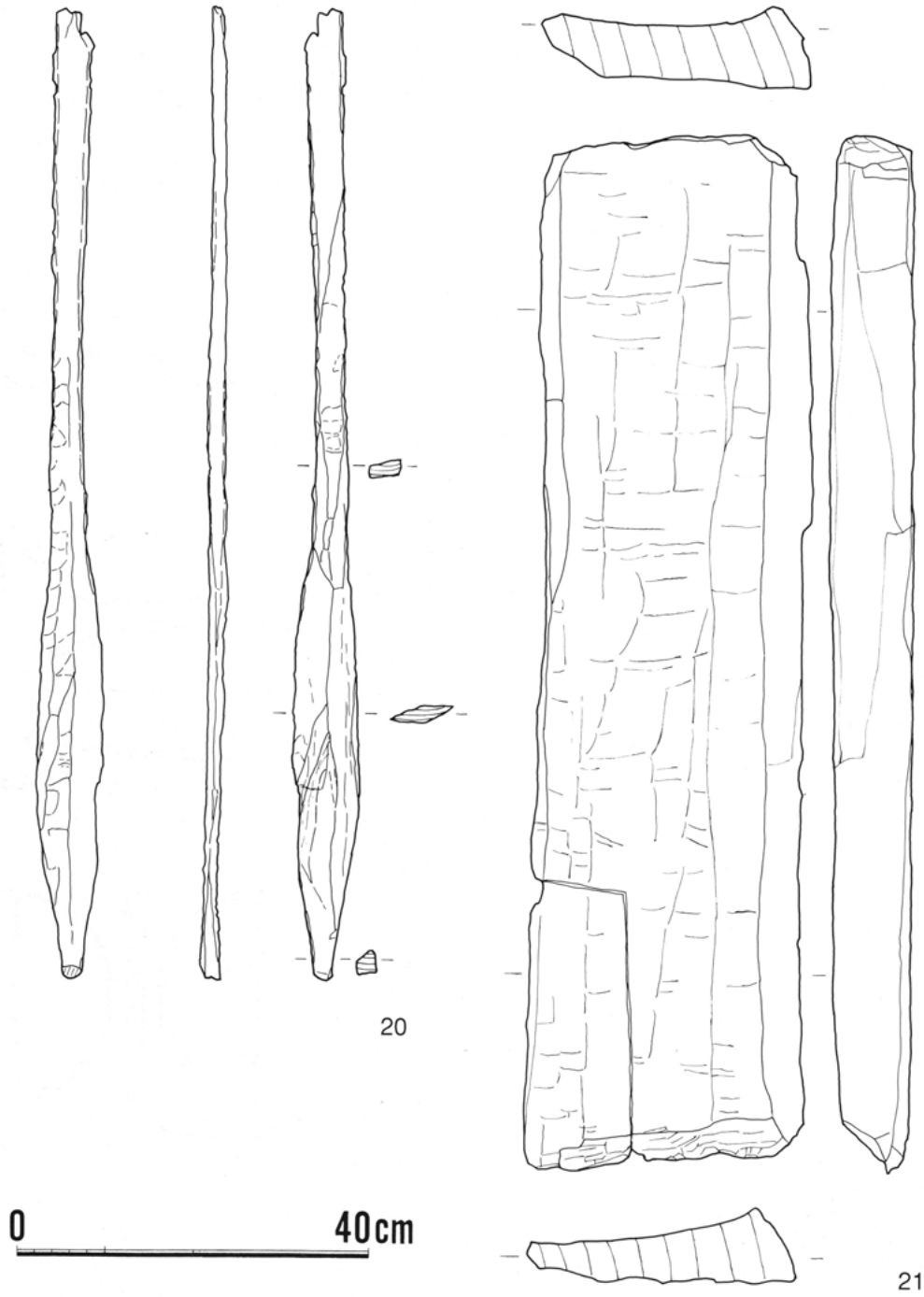
第４図　木製品実測図４ 弥生（１：４）



第5図　木製品実測図5 弥生（1：4）



第６図　木製品実測図６ 弥生（１：４）



第7図　木製品実測図7 弥生（1：8）

(2) 中世（第8図、第1表）

服飾具（22） 22は台と歯を一木で作る連歯下駄である。左側約半分を欠損しているため、全形は不明だが、前壺は前歯のほぼ中央に位置すると思われ、後壺は後歯より後方に開けられている。

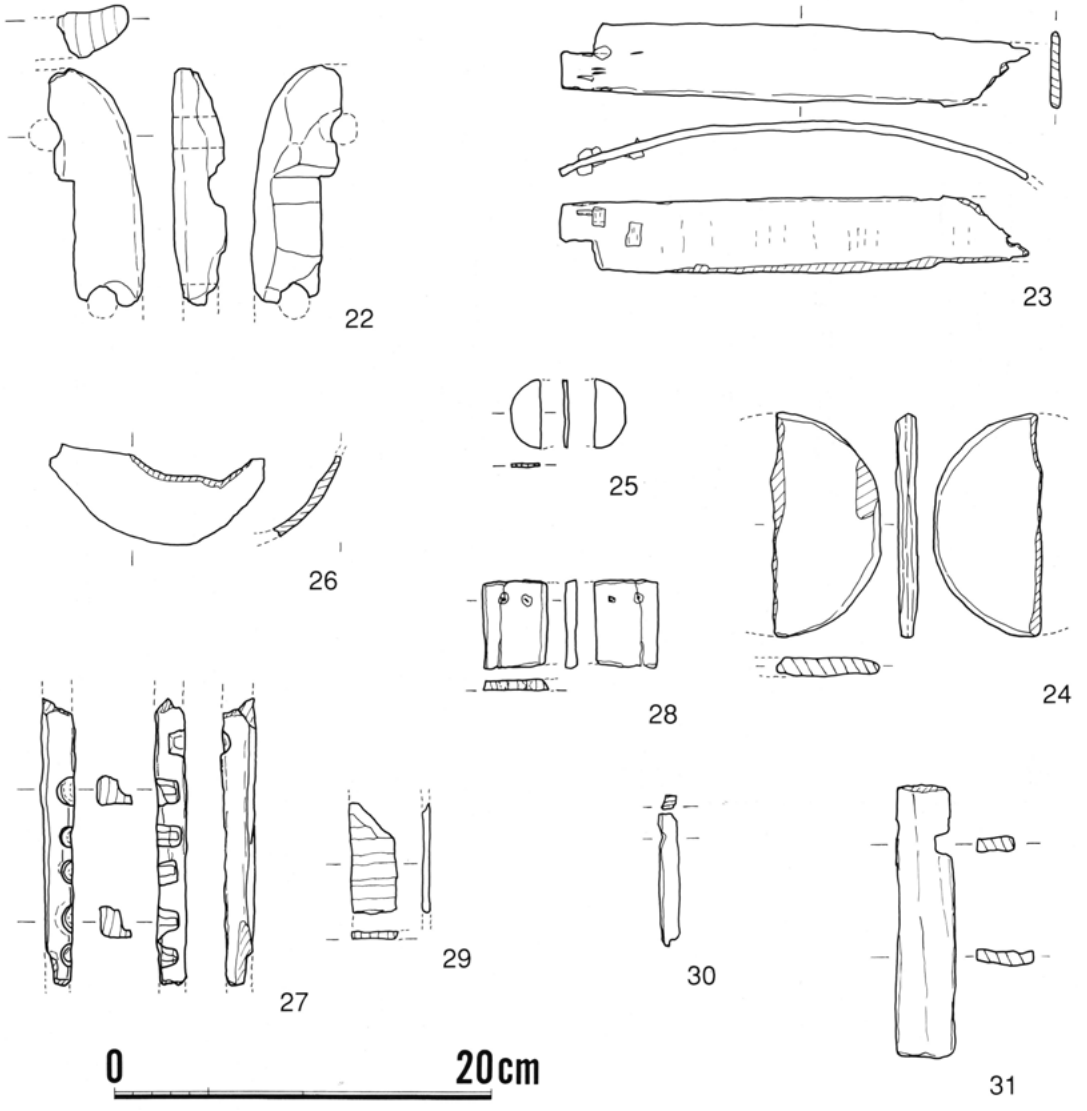
容器（23～26） 23は曲物の側板で樺綴じが残る。24は曲物の蓋とおもわれる円形の板である。25も円形の板だが、直径が3.6cmときわめて小さく、薄いため、用途は不明。26は漆椀の破片で外面に朱色の紋様を描く。

雑具（27） 27は火きり臼である。角柱状の棒の2面に6ヵ所の火きり穴が残る。

用途不明品（28～31） 28は一方の端が欠損する長方形の板で、2ヵ所に目釘の痕がある。29～31は縦長の板で、30・31は切り欠きがある。

参考文献

奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録』近畿原始篇
奈良国立文化財研究所 1985『木器集成図録』近畿古代篇



第8図　木製品実測図8 中世（1：4）

番号	製品名	図版番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	登録番号	時代	樹種
1	直柄狭鍬	1	96C	NR03	NR02	W－1	弥生	アカガシ亜属
2	鍬直柄	1	96C	NR03	NR02	W－2	弥生	
3	広鍬未製品	1	96D	NR06	NR01	W－3	弥生	アカガシ亜属
4	曲柄狭鍬	1	96D	NR06	NR01	W－4	弥生	
5	広鍬未製品	2	96D	NR06	NR01	W－5	弥生	アカガシ亜属
6	梯子	2	96D	NR06	NR01	W－6	弥生	ヒノキ
7	用途不明品	2	96D	NR06	NR01	W－7	弥生	ヒノキ属
8	広鍬未製品	3	96D	NR06	NR01	W－8	弥生	アカガシ亜属
9	把手	3	96C	NR03	NR02	W－9	弥生	アカガシ亜属
10	杓子未製品？	3	96C	NR03	NR02	W－10	弥生	ヒノキ
11	縦斧柄未製品	4	96D	NR06	NR01	W－11	弥生	ヤブツバキ
12	棒	4	96B	NR02	NR01	W－12	弥生	サワラ
13	用途不明品	4	96C	NR03	NR02	W－13	弥生	サワラ
14	把手付槽	5	96D	NR06	NR01	W－14	弥生	コナラ節
15	アカ取り	5	96C	NR03	NR02	W－15	弥生	エノキ属
16	櫂	6	96B	NR01	NR02	W－16	弥生	ヒノキ属
17	棒	6	96D	NR06	NR01	W－17	弥生	イヌガヤ
18	加工板	6	96C	NR03	NR02	W－18	弥生	スギ
19	棒	6	96D	NR06	NR01	W－19	弥生	イヌガヤ
20	櫂	7	94Aa	SD02	SD06	W－20	弥生	ヒノキ属
21	板材	7	96D	NR03	NR02	W－21	弥生	アカガシ亜属
22	下駄	8	93Ca	SX183	SK38	W－22	中世	ヒノキ属
23	曲物側板	8	96C	SX16	SK10	W－23	中世	ヒノキ
24	曲物蓋	8	96C	NR03	NR02	W－24	中世	スギ
25	円形小板	8	93Ab	SX87	SK02	W－25	中世	ヒノキ
26	漆椀	8	95E	SX124	SK13	W－26	中世	トネリコ属？
27	火きり臼	8	93Bb	SK101	SK54	W－27	中世	ヒノキ
28	加工板	8	93Ab	SX87	SK02	W－28	中世	ヒノキ
29	加工板	8	93Bb	SK101	SK54	W－29	中世	ヒノキ
30	加工板	8	93Aa	SX67	SK01	W－30	中世	ヒノキ
31	加工板	8	93Bb	SK101	SK54	W－31	中世	ヒノキ

第1表　木製品観察表

9. 中世以後の遺構

池本正明

今回検出された当該期の遺構は、ほぼ調査区全体に展開する。内容は一部の土壙を除き、基本的には方形土壙（ＳＸ）のみで構成されている。

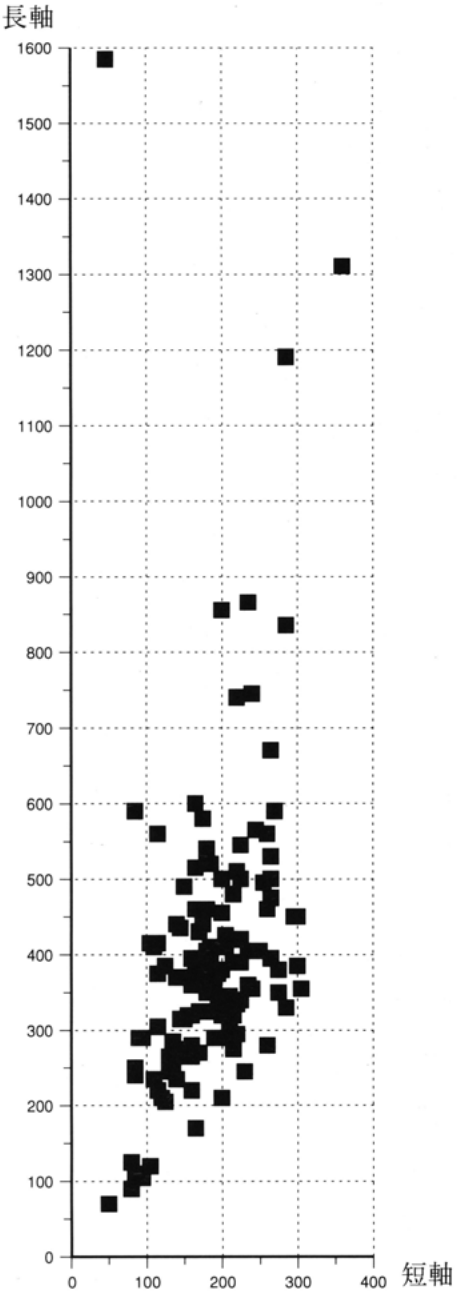
以下、具体的に報告していく。

(1) 土坑

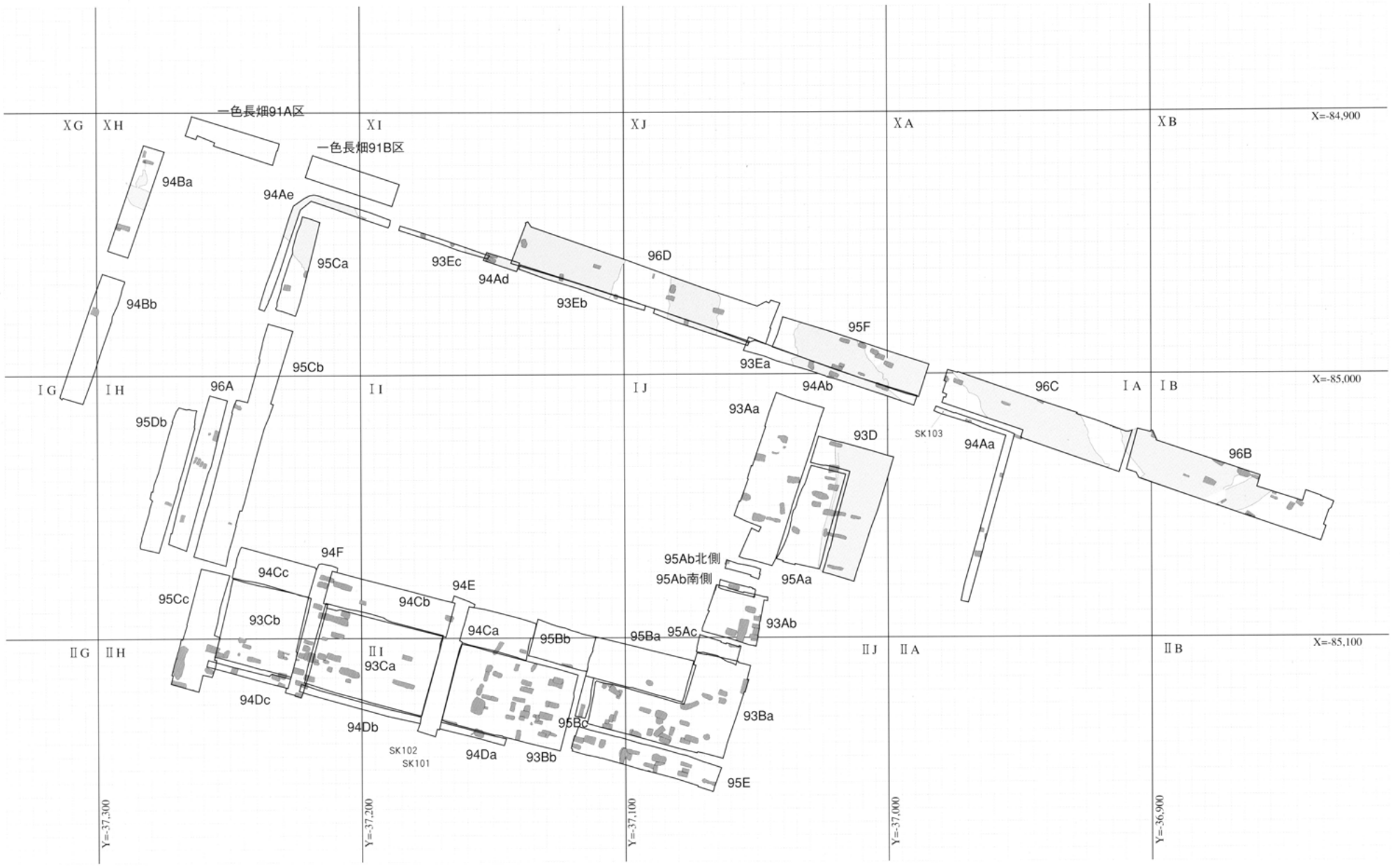
当該期の土坑は数十基程度ある。しかしそのほとんどは出土遺物も乏しく性格が不明なもので占められる。このためここでは比較的特徴的なSK 101 ～ 103を報告するにとどめる。SK 101は93Bb区で検出された土坑で、平面形は、長辺6.35ｍ、短辺5.00ｍ、検出面からの深さは0.60ｍをはかる。出土遺物は、土師器羽釜（第10章第1図－１・２）、灰釉系陶器椀（第10章第1図－３）、鉄滓（第11章第1図－７）がある。SK 102も93Bb区で検出された土壙である。形状は方形土壙に類似するが、埋土が単一となる。平面形は、長辺3.85ｍ、短辺1.70ｍ、検出面からの深さは0.72ｍをはかる。出土遺物には、施釉陶器天目椀（第10章第1図－４）、灰釉系陶器小皿（第10章第1図－５）がある。SK 103は94A区aで検出された。出土遺物には釘（第11章第1図－４）がある。

(2) 方形土壙

方形土壙は238基ある。これらはほぼ調査区全域で確認できる。分布状況は、南側で密、北側では粗となる。年代は、出土遺物や部分的に確認できる遺構の重複以外判断材料がない。



第１図　方形土壙の長軸・短軸分布（cm）



第２図　中世の遺構分布（(1：2,000)

今日方形土壙は6点の特徴に集約して理解されている（赤塚1997）。まず1つ目は特徴的な埋め戻しを伴うこと、2つ目は群集すること、3つ目は主軸の方向性が類似すること、4つ目は平面形が方形で規格を持つこと、5つ目は構造物を伴わず、無遺物を原則とすること、6つ目は窪地、低地などの利用度の低いエリアを主要分布域とすることである。

次に本遺跡例をこれと比較する。まず、1つ目とされたものは、埋土が斑土となることに特徴的となる。これは、方形土壙最大の特徴ともいえ、この種の土壙が掘削から埋め戻しまで比較的短時間で実施された可能性を示唆する。なお、本遺跡では方形土壙の判定基準をこの特徴の有無によっている。

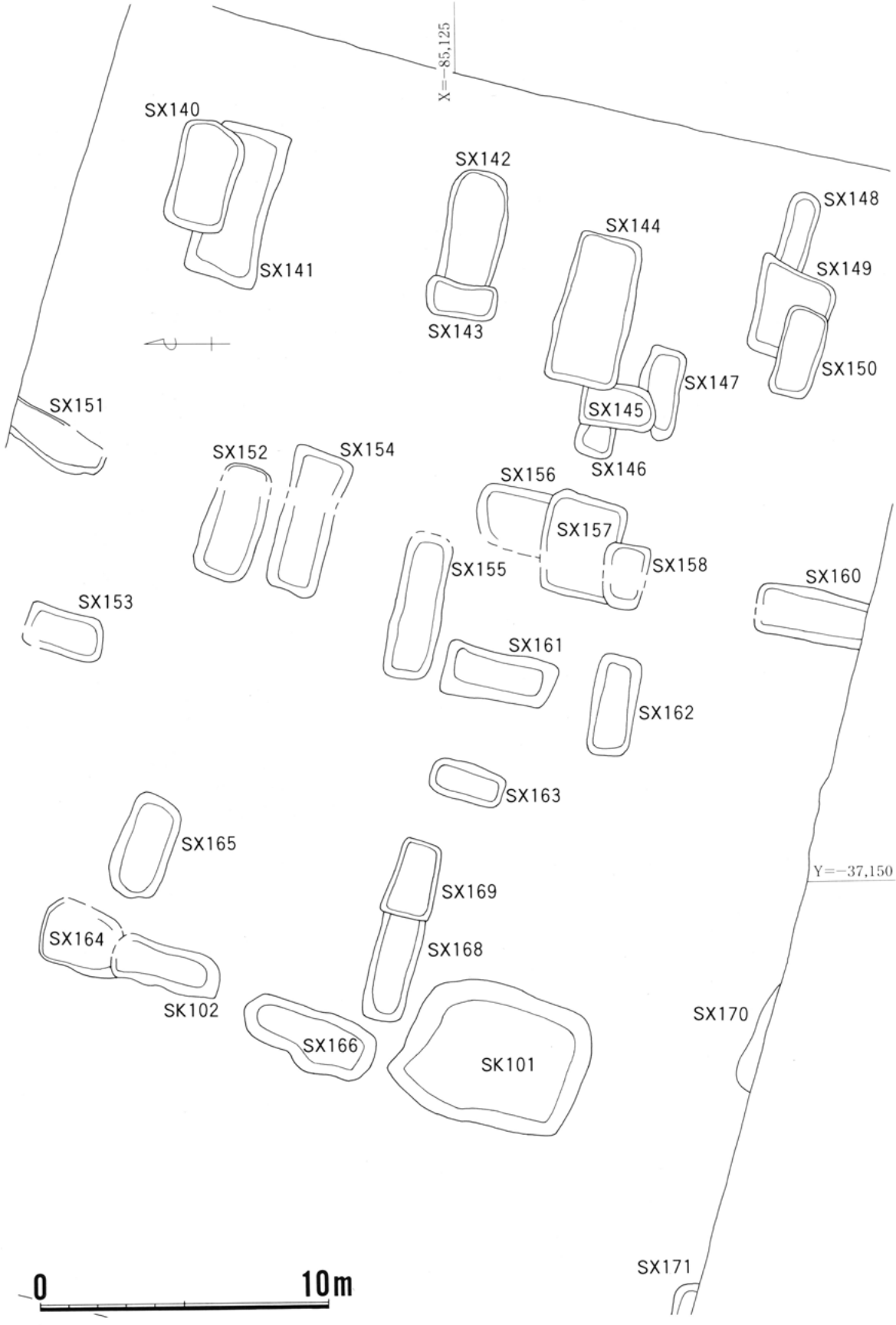
次に、2つ目の群集は、93Aa区以南～95Cc区以東に集中傾向が強い。全体の分布状況から二基を最少単位とする可能性もうかがえる。分布状況は単に集中区と点在区に区分できるだけでなく、集中区中ではさらに数基～十数基のまとまりを抽出することができる。これらは具体的には93Bb区、93Ba区、95E区と、93Ca区、93Cb区で確認されている。なお、第3図、第4図に見るようにそれぞれの集中区では、方形土壙による一定空間の区画（ほぼ20×10m程度と一定。）と、一部には土壙の重複が確認できる。なお、遺構の重複は、最大で3～4基。分布状況から予測した2基を1単位として考えると、2回の重複と考えられる。

3つ目の主軸の類似と4つ目の規格性は、遺構計測一覧を参照とする。これによると、前者の主軸方位についてはN－16°－Eとこれにほぼ直交するN－72°－Wに集中している。また、後者は長辺と短辺の比率が1：1～3：1の範囲で全体の87.7パーセントを占める。

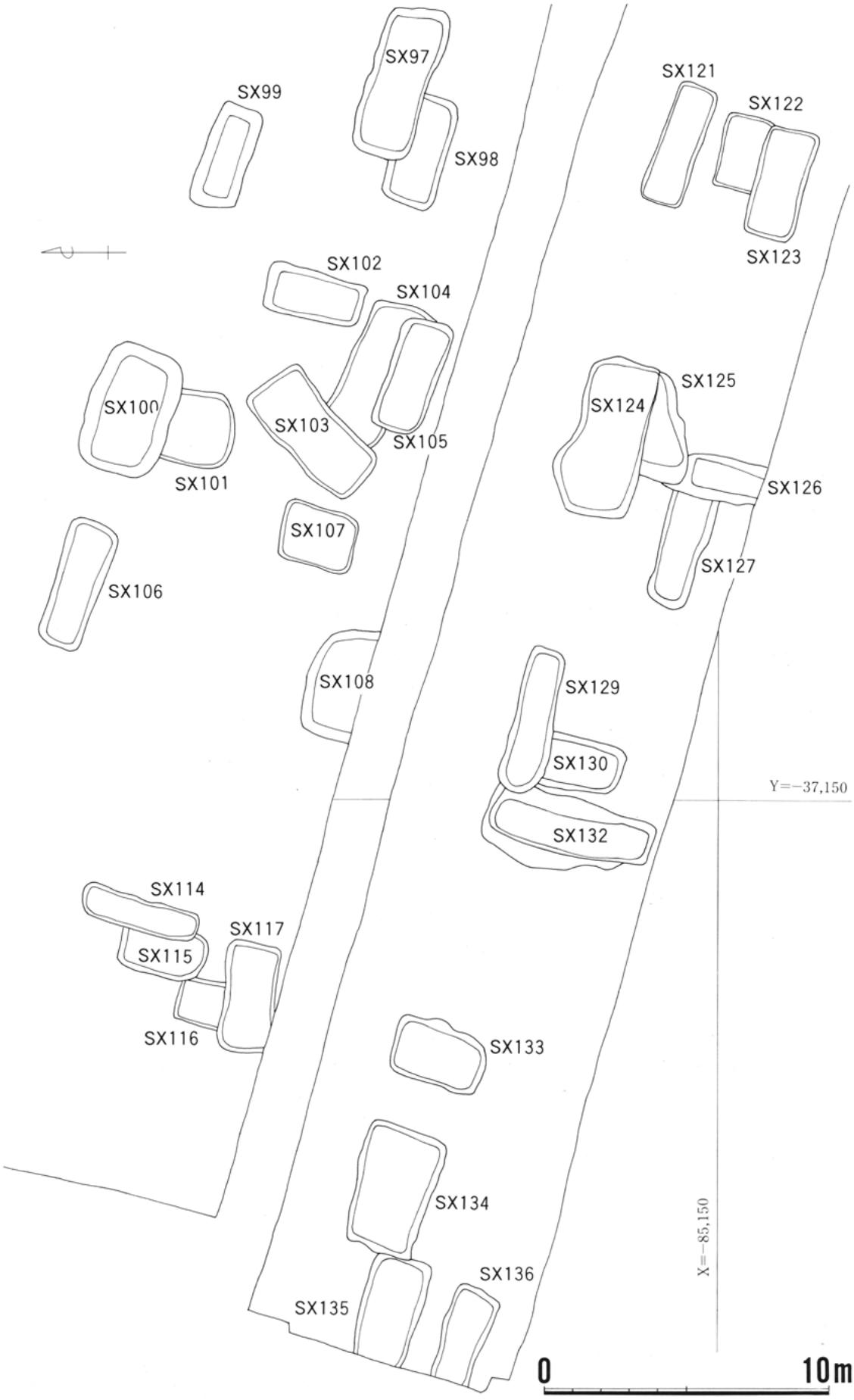
次に、5つ目の構造物と出土遺物は、前者が皆無であること、後者については図示に耐える資料を出土した遺構数が、総検出数の0.08パーセントにすぎない。最後の6つ目は、本書に第3章に先述されている通りである。

以上、本遺跡の方形土壙の状況を他遺跡での知見と比較した。その結果、これらはよく類似した様相を示した。なお、本遺跡の方形土壙の掘削時期は、出土遺物が得られた土壙以外はほとんど情報がない。ただし、方形土壙の持つ法量、方位、埋土などの規格性と、特定空間に群集する特徴などを考えると、ほぼ類似した時期に掘削されたことを予想することができる。そして、出土遺物から、これを13世紀後半～14世紀頃を中心に考えることができる。

なお、前述したSK102は方形土壙による一定空間の区画の区画中に存在するもので、埋土の状況を除けば方形土壙の特色と酷似する。この区画の南西部に主軸を揃えて存在するSK101も同様である。ここでこれらの土坑の存在を過大評価するのであれば、本遺跡での方形土壙の概念が消滅する時期を、ほぼ当該期に求めることができる。



第３図　方形土壙集中区１（1：200）



第４図　方形土壙集中区２（1：200）

遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号	平面形態	断面形態	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方向
SK101	93	Bb	SK 54	長方形	平底	6.35	5.00	0.62	N-25-E
SK102	93	Bb	SK 58	長方形	平底	3.85	1.70	0.57	N-13.5-E
SK103	94	Aa	SK 27	円形	丸底	0.45	0.40	0.10	N-74.5-E
SX 01	96	B	SK 08	長方形	平底	2.90	1.90	0.49	N-59-W
SX 02	96	B	SK 11	楕円形	平底	(3.60)	2.00	0.12	N-32-E
SX 03	96	B	SK 17	長?方?形	平底	1.75	(0.85)	0.27	N-70-W?
SX 04	96	B	SK 16	不定形	平底	2.80	(0.95)	0.12	N-66-W
SX 05	96	B	SK 13	長?方形	袋状平底	3.20	(1.40)	0.53	N-60-W?
SX 06	96	B	SK 15	楕円形	平底	5.30	(2.60)	0.52	N-71-W?
SX 07	96	B	SK 20	長?方形	平底	3.85	(1.55)	0.37	N-55-W?
SX 08	96	B	SK 19	長?方形	平底	(3.80)	(0.50)	不明	N-64-W?
SX 09	96	B	SK 25	長?方形	平底	(5.00)	(1.90)	1.07	N-53-W
SX 10	96	B	SK 26	長方形	平底	4.80	(2.65)	0.50	N-62-W
SX 11	96	B	SK 24	長方形	平底	2.40	0.85	不明	N-57-E
SX 12	96	B	SK 29	長?方形	平底	2.35	(0.80)	0.55	N-64-W?
SX 13	96	B	SK 33	不明	平底?	(1.05)	(0.85)	0.38	N-38-W?
SX 14	96	B	SK 32	長?方形	平底	(2.30)	(2.05)	0.61	N-66-W
SX 15	96	C	SK 05	長?方形	平底	2.15	(0.60)	不明	N-75-W?
SX 16	96	C	SK 10	長?方形	平底	(2.70)	(1.05)	0.96	N-61-W?
SX 17	96	C	SK 11	長方形	平底	3.85	1.25	0.31	N-69-W
SX 18	96	C	SK 12	長方形	平底	3.80	1.65	0.82	N-68-W
SX 19	96	C	SK 14	長?方形	平底	0.85	(0.65)	0.16	N-55-W?
SX 20	96	C	SK 13	長方形	平底	(2.05)	1.55	0.52	N-59-W
SX 21	94	Aa	SK 19	長方形?	平底	3.20	(1.25)	0.58	N-70-W
	96	C	SK 16						
SX 22	94	Aa	SK 23	不定形	丸底	1.20	1.05	0.21	不明
SX 23	94	Aa	SK 24	不定形	平底	(1.20)	0.90	0.16	不明
SX 24	94	Aa	SK 11	長?方形	平底	1.55	(1.30)	0.88	N-78-W?
SX 25	94	Aa	SK 04	長方形	平底	1.70	1.65	0.46	N-77-W
SX 26	94	Aa	SK 03	長?方形	平底	2.50	0.85	0.66	N-14-E?
SX 27	94	Aa	SK 02	長方形	平底	(2.65)	2.35	1.02	N-80-W
SX 28	95	F	SK 13	長方形	平底	3.65	1.90	0.62	N-67-W
SX 29	94	Ab	SK 26	長方形	平底	6.00	1.65	0.83	N-68-W
SX 30	95	F	SK 11	長方形	平底	3.80	2.00	0.54	N-69-W
SX 31	95	F	SK 10	長方形	平底	3.20	2.05	0.82	N-68-W
SX 32	95	F	SK 09	長方形	平底	3.20	1.60	0.92	N-65-W
SX 33	95	F	SK 08	長方形	平底	3.80	1.70	0.85	N-72-W
SX 34	95	F	SK 15	長楕円形	平底	2.90	0.90	0.12	N-68-W
SX 35	95	F	SK 17	長方形	丸底	2.10	1.20	0.44	N-69-W
SX 36	95	F	SK 16	長方形	平底	4.35	1.45	0.21	N-70-W
SX 37	94	Ab	SK 24	長方形	平底	3.80	1.80	0.41	N-67-W
SX 38	94	Ab	SK 23	長?方形	平底	2.35	(0.65)	(0.02)	N-81-W?
SX 39	94	Ab	SK 22	長方形?	平底	(3.25)	2.45	0.43	N-18-E
SX 40	96	D	SK 01	長方形	平底?	4.25	2.05	0.45	N-74-W
SX 41	96	D	SK 04	長方形	平底	3.20	2.15	0.32	N-16-E
SX 42	96	D	SK 03	長方形	平底	3.25	1.70	0.59	N-78-W
SX 43	96	D	SK 06	長方形	平底	(1.75)	0.70	0.38	N-15-E
SX 44	96	D	SK 10	長方形	平底	2.85	1.35	0.65	N-72-W
SX 45	96	D	SK 08	楕円形	平底	3.35	2.20	0.62	N-09-W
SX 46	93	Eb	SK 01	長方形	平底	2.75	1.55	0.54	N-06-E
	96	D	SK 07						
SX 47	93	Fa	SK 02	不明	不明	(0.85)	(0.20)	(0.24)	不明
SX 48	93	Fa	SK 01	長方形?	平底	(2.05)	1.90	0.26	N-13-E
SX 49	93	Eb	SK 02	長?方形	平底	(1.80)	(1.25)	0.20	N-75-W?
SX 50	93	Ec	SK 01	長方形	平底	3.80	(1.30)	0.78	N-72-W
	94	Ad	SK 01		平底				
SX 51	93	Ec	SK 02	長方形	平底	3.95	1.60	0.42	N-71-W
	94	Ad	SK 02		平底				
SX 52	94	Ad	SK 03	長?方形	平底	1.80	(0.80)	0.72	N-68-W?
SX 53	93	Ec	SK 03	長方形?	平底	1.65	(1.35)	(0.48)	N-72-W?
SX 54	93	Ec	SK 04	長方形?	平底	(2.50)	1.90	0.61	N-02-E
SX 55	93	D	SK 02	長方形	平底	4.90	1.50	0.81	N-74-W
SX 56	93	D	SK 13	長方形	平底	3.85	3.00	0.78	N-83-W
	95	Aa	SK 15						
SX 57	93	D	SK 04	長方形	平底	3.75	1.15	0.30	N-80-W
SX 58	93	D	SK 12	長方形	平底	5.90	0.85	0.32	N-77-W
SX 59	93	D	SK 05	長方形	平底	8.65	2.35	0.65	N-81-W
	95	Aa	SK 05						
SX 60	93	D	SK 06	長方形	平底	(7.60)	1.15	0.38	N-77-W
	95	Aa	SK 02A	長方形					
SX 61	95	Aa	SK 02A	長方形	平底?	3.05	1.15	0.17	N-16-E
SX 62	95	Aa	SK 07	長方形	平底	4.10	1.10	0.50	N-79-W
SX 63	95	Aa	SK 06	長方形	平底	3.60	2.35	0.50	N-79-W
SX 64	95	Aa	SK 08	楕円形	平底	6.70	2.65	0.39	N-71-W
SX 65	95	Aa	SK 09	長方形	平底	3.30	2.05	0.60	N-79-W
SX 66	95	Aa	SK 01A	長方形	平底	3.00	2.10	0.39	N-73-W
SX 67	93	Aa	SK 01	長方形	平底	3.95	2.65	0.70	N-79-W
SX 68	93	Aa	SK 08	長方形	平底	(1.05)	0.95	0.71	N-72-W
SX 69	93	Aa	SK 02	長?方形?	平底?	2.60	(0.60)	0.61	不明
SX 70	93	Aa	SK 03	長方形	平底	(3.90)	2.75	0.76	N-76-W
SX 71	93	Aa	SK 04	長方形	平底	4.60	2.60	0.67	N-85-W
SX 72	93	Aa	SK 07	長方形	平底	4.40	1.75	0.71	N-03-W
SX 73	93	Aa	SK 05	長方形	平底	(3.25)	2.90	0.93	N-80-W
SX 74	93	Aa	SK 25	長方形	平底	5.60	1.15	0.19	N-76-W
SX 75	93	Aa	SK 06	長方形	平底	4.75	2.65	0.67	N-78-W
SX 76	95	Ab北	SK 01	長?方形	平底	(1.40)	(1.35)	0.60	N-17-E?
SX 77	93	Ab	SK 34A	長方形	平底	4.30	1.70	0.59	N-76-W
	95	Ab南	SK 01						
SX 78	93	Ab	SK 33	長?方形?	平底	(4.40)	(0.45)	(0.35)	N-19-E
SX 79	93	Ab	SK 37	方形	平底	0.90	0.80	0.16	N-48-E
SX 80	93	Ab	SK 08	長方形	平底	4.05	2.35	1.03	N-76-W
SX 81	93	Ab	SK 06	長?方形	平底	1.00	(0.85)	0.44	N-75-W?
SX 82	93	Ab	SK 07	長方形	平底	(3.75)	1.90	0.74	N-76-W
SX 83	93	Ab	SK 03	長方形	平底	(2.95)	1.60	0.48	N-77-W

遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号	平面形態	断面形態	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方向
SX 84	93	Ab	SK 04	長方形	平底	(4.95)	(2.50)	0.49	N-13-E
SX 85	93	Ab	SK 05	長方形	平底	(3.30)	2.15	0.89	N-77-W
SX 86	93	Ab	SK 30	長?方形?	不明	(5.80)	(0.20)	(0.42)	不明
SX 87	93	Ab	SK 02	長方形	不明	(9.10)	4.00	0.65	N-14-E
SX 88	93	Ab	SK 01	長方形	平底	4.05	2.50	0.51	N-73-W
SX 89	95	Ac	SK 01	長?方形	平底	4.20	(1.15)	(0.67)	N-80-W?
SX 90	95	Ba	SK 03	楕円形	丸底?	2.90	2.10	1.12	N-68-W
SX 91	93	Ba	SK 10	長?方形	平底	5.75	(2.00)	0.77	N-18-E
SX 92	93	Ba	SK 09	長方形	平底	3.45	2.10	0.65	N-74-W
SX 93	93	Ba	SK 13	長方形	平底	2.95	2.20	0.47	N-75-W
SX 94	93	Ba	SK 15	楕円形	丸底	4.55	2.00	0.67	N-68-W
SX 95	93	Ba	SK 16	長楕円形	平底	7.40	2.20	0.57	N-75-E
SX 96	93	Ba	SK 18	不定形	平底	2.45	2.30	0.47	不明
SX 97	93	Ba	SK 19	長方形	平底	5.45	2.25	0.72	N-75-W
SX 98	93	Ba	SK 20	長方形	平底	4.00	(1.90)	0.68	N-76-W
SX 99	93	Ba	SK 22	長方形	平底	3.85	1.75	0.68	N-73-W
SX100	93	Ba	SK 24	長方形	平底	4.50	3.00	0.72	N-74-W
SX101	93	Ba	SK 25	長方形	平底	(2.40)	2.70	0.17	N-12-E
SX102	93	Ba	SK 26	長方形	平底	3.50	1.80	0.56	N-16-E
SX103	93	Ba	SK 27	長方形	平底	5.00	2.25	0.52	N-50-E
SX104	93	Ba	SK 28	長方形	平底	(5.15)	(2.30)	(0.35)	N-67-W
SX105	93	Ba	SK 29	長方形	平底	4.10	1.85	0.48	N-70-W
SX106	93	Ba	SK 36	長方形	平底	4.60	1.80	0.56	N-73-W
SX107	93	Ba	SK 31	長方形	平底	2.75	2.15	0.32	N-15-E
SX108	93	Ba	SK 32	長?方形	平底	(4.10)	(2.00)	0.79	N-74-W
SX109	93	Ba	SK 33	長方形	平底	(2.30)	1.20	0.50	N-17-E
SX110	93	Ba	SK 54	長方形	平底	(2.55)	1.90	0.66	N-22-E
SX111	93	Ba	SK 67	長?方形	平底	1.45	(1.25)	0.46	N-44-W?
SX112	93	Ba	SK 66	長方形	平底	4.95	2.55	0.74	N-48-W
SX113	93	Ba	SK 68	長方形	平底	3.65	1.75	(0.36)	N-21-E
SX114	93	Ba	SK 49	長方形	平底	4.15	1.15	0.44	N-16-E
SX115	93	Ba	SK 48	長方形	平底	3.15	(1.80)	0.40	N-15-E
SX116	93	Ba	SK 47	長方形	平底	(3.50)	1.70	0.77	N-14-E
SX117	93	Ba	SK 46	長方形	平底	3.90	2.15	0.84	N-82-W
SX118	95	Bc	SK 06	長?方形	平底	(4.90)	(1.20)	0.66	N-14-E?
SX119	95	E	SK 43	長楕円形	平底	(5.40)	1.35	0.53	N-72-W
SX120	95	E	SK 42	楕円形?	平底?	(1.40)	(0.45)	(0.63)	不明
SX121	95	E	SK 16	長方形	平底	4.40	1.40	0.84	N-70-W
SX122	95	E	SK 17	長方形	平底	2.65	(1.50)	0.50	N-77-W
SX123	95	E	SK 18	長方形	丸底	4.00	1.85	0.71	N-76-W
SX124	95	E	SK 13	長方形	平底	5.70	(2.40)	0.94	N-76-W
SX125	95	E	SK 14	不定形	丸底?	(3.70)	1.75	0.77	不明
SX126	95	E	SK 15	長方形	丸底	(3.85)	1.10	0.80	N-13-E
SX127	95	E	SK 12	長方形	平底	(4.15)	1.35	0.72	N-75-W
SX128	95	E	SK	不明	平底	(1.65)	不明	(0.80)	不明
SX129	95	E	SK 08	長方形	平底	5.15	1.65	0.70	N-78-W
SX130	95	E	SK 09	長方形	平底	(2.85)	1.90	0.42	N-11-E
SX131	95	E	SK 10	長方形	丸底	5.90	2.70	1.03	N-16-E
SX132	95	E	SK 11	長方形	平底	4.60	1.65	0.64	N-16-E
SX133	95	E	SK 04	長方形	平底	3.35	1.95	0.45	N-20-E
SX134	95	E	SK 05	長方形	平底	4.50	2.95	0.47	N-74-W
SX135	95	E	SK 03	長方形	平底	(3.85)	2.10	0.77	N-75-W
SX136	95	E	SK 02	長方形	平底	(3.45)	1.55	0.72	N-70-W
SX137	95	Bb	SK 01	長?方形	平底	(4.40)	(0.95)	(0.72)	N-78-W?
SX138	94	Ca	SK 04	長方形	平底	2.65	1.30	0.49	N-74-W
SX139	93	Bb	SK 42	長方形	丸底	5.80	1.75	0.64	N-30-E
	94	Ca	SK 70						
SX140	93	Bb	SK 08	長方形	平底	3.90	2.20	0.75	N-77-W
SX141	93	Bb	SK 46	長方形	平底	5.60	2.60	0.81	N-74-W
SX142	93	Bb	SK 11	長方形	平底	(4.00)	2.15	0.31	N-77-W
SX143	93	Bb	SK 12	長方形	平底	2.50	1.35	0.33	N-10-E
SX144	93	Bb	SK 13	長方形	平底	5.30	2.65	0.54	N-76-W
SX145	93	Bb	SK 15	長方形	平底	2.65	1.60	0.59	N-11-E
SX146	93	Bb	SK 16	長?方形	平底	(1.10)	1.35	0.33	N-79-W
SX147	93	Bb	SK 17	長方形	平底	3.15	1.50	0.35	N-79-W
SX148	93	Bb	SK 21	長方形	平底	(2.70)	1.10	0.49	N-73-W
SX149	93	Bb	SK 20	方形	平底	3.30	2.85	0.55	N-74-W
SX150	93	Bb	SK 19	長方形	平底	3.20	1.55	0.57	N-74-W
SX151	93	Bb	SK 22	長方形	平底	(3.80)	1.55	0.18	N-27-E
SX152	93	Bb	SK 23	長方形	平底	4.10	2.05	0.66	N-72-W
SX153	93	Bb	SK 26	長方形	平底	2.80	1.60	0.48	N-17-E
SX154	93	Bb	SK 24	長方形	平底	5.00	2.00	0.67	N-73-W
SX155	93	Bb	SK 25	長方形	平底	(4.85)	1.75	0.59	N-78-W
SX156	93	Bb	SK 45	長?方形	平底	(2.40)	2.25	0.52	N-13-E
SX157	93	Bb	SK 44	長方形	平底	3.50	2.75	0.50	N-77-W
SX158	93	Bb	SK 43	長方形	平底	2.20	1.60	0.57	N-80-W
SX159	93	Bb	SK 18	方形?	平底	1.05	0.95	不明	N-47-W
SX160	93	Bb	SK 38	長方形	平底	(3.85)	1.80	0.59	N-12-E
SX161	93	Bb	SK 29	長方形	平底	3.90	1.75	0.77	N-12-E
SX162	93	Bb	SK 34	長方形	平底	3.60	1.60	0.41	N-80-W
SX163	93	Bb	SK 30	長方形	平底	2.60	1.30	0.59	N-17-E
SX164	93	Bb	SK 57	長方形	平底	(2.60)	(2.25)	0.72	N-20-E
SX165	93	Bb	SK 31A	長方形	平底	3.75	1.95	0.68	N-69-W
SX166	93	Bb	SK 37	長方形	平底	4.80	2.15	0.79	N-23-E
SX167	93	Bb	SK 31B	長方形	平底	2.70	1.70	0.65	N-75-W
SX168	93	Bb	SK 32	長方形	平底	(3.65)	1.55	0.75	N-71-W
SX169	93	Bb	SK 36	長方形	平底	(1.40)	1.05	0.56	N-73-W
SX170	93	Bb	SK 39	長方形	平底	3.80	2.75	0.52	N-76-W
	94	Da	SK 03						
SX171	93	Bb	SK 40	長方形?	平底	5.80	(0.65)	(0.66)	N-76-W?
SX172	94	Da	SK 04	長楕円形	平底	(2.05)	0.55	0.07	N-52-E
SX173	94	Cb	SK 01	長方形	平底	3.20	2.00	0.25	N-73-W
	94	E	SK 28						
SX174	94	Cb	SK 68	長方形	平底	2.65	1.50	0.29	N-76-W

第1表　土坑・方形土壙一覧1

遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号	平面形態	断面形態	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方向
SX175	94	Cb	SK 74	長方形	平底	7.45	2.40	0.54	N-72-W
SX176	94	Cb	SK 75	長方形	平底	5.40	1.80	0.43	N-74-W
	94	F	SK 18						
SX177	93	Ca	SK 11	長方形	平底	4.05	1.80	0.57	N-75-W
SX178	93	Ca	SK 14	長方形	平底	8.55	2.00	0.87	N-73-W
SX179	93	Ca	SK 25	長方形	平底	3.65	(2.00)	0.50	N-67-W
SX180	93	Ca	SK 26	長方形	平底	11.90	2.85	0.58	N-73-W
	94	F	SK 15						
SX181	93	Ca	SK 27	長方形	平底	5.10	2.20	0.45	N-75-W
SX182	93	Ca	SK 28	長方形	平底	2.35	1.40	0.49	N-75-W
SX183	93	Ca	SK 38	長方形?	丸底	8.35	2.85	0.81	N-71-W
SX184	93	Ca	SK 36	長方形	平底	2.20	1.60	0.32	N-83-W
SX185	93	Ca	SK 29	長方形	平底	5.65	2.45	0.56	N-74-W
SX186	93	Ca	SK 30	長方形	平底	3.40	2.25	0.44	N-74-W
SX187	93	Ca	SK 31	長方形	平底	2.45	1.30	0.30	N-77-W
SX188	93	Ca	SK 35	方形	平底	2.10	2.00	0.44	N-18-E?
SX189	93	Ca	SK 34	長方形	平底	3.55	3.05	0.55	N-15-E
	94	F	SK 06						
SX190	93	Ca	SK 32	長?方形	平底	(1.30)	(1.05)	不明	N-77-W?
SX191	93	Ca	SK 33	長方形	平底	2.20	1.15	0.35	N-76-W
SX192	93	Ca	SK 39	長方形	平底	4.20	2.25	0.64	N-78-W
	94	F	SK 05						
SX193	94	F	SK 17	長方形	平底	3.90	2.25	0.39	N-74-W
SX194	94	F	SK 16	長方形	平底	3.45	1.95	0.37	N-73-W
SX195	94	F	SK 10	長方形	平底	3.70	1.40	0.51	N-74-W
SX196	94	F	SK 08	方形	平底	2.80	2.60	0.56	N-72-W
SX197	94	F	SK 07	長方形	平底	3.15	1.45	0.41	N-17-E
SX198	94	F	SK 20	長方形	平底	(2.30)	1.95	0.45	N-72-W
SX199	94	F	SK 19	楕円形	平底	(1.35)	0.70	0.16	N-77-W
SX200	94	F	SK 04	長方形	平底	(4.30)	2.20	0.44	N-75-W
SX201	94	Db	SK 01	長方形	平底	5.20	1.85	0.23	N-69-W
	94	F	SK 02						
SX202	94	F	SK 01	楕円形	平底	(3.00)	(1.65)	0.64	N-78-W
SX203	93	Cb	SK 11	長?方形	平底	2.75	(0.70)	(0.34)	N-71-W?
SX204	93	Cb	SK 09	方形	平底	(3.15)	2.45	0.36	N-09-E
SX205	93	Cb	SK 10	楕円形?	平底	(1.90)	1.20	0.09	不明

遺構番号	年度	調査区	旧遺構番号	平面形態	断面形態	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	長軸方向
SX206	93	Cb	SK 08	長方形	平底	3.55	2.40	0.73	N-84-W
	94	Dc	SK 04						
SX207	93	Cb	SK 06	長方形	平底	2.90	(2.15)	0.38	N-80-W
SX208	93	Cb	SK 05	長方形	平底	3.70	1.45	0.59	N-72-W
SX209	93	Cb	SK 04	不明	平底	1.25	0.80	0.34	N-13-E
SX210	93	Cb	SK 07	長方形	平底	5.35	1.80	0.92	N-74-W
SX211	93	Cb	SK 02	長方形	平底	3.25	1.80	0.34	N-24-E
SX212	93	Cb	SK 01	長方形	平底	(2.55)	1.65	0.36	N-80-W
SX213	93	Cb	SK	長方形	平底	3.40	(1.95)	0.76	N-70-W
	94	Dc	SK 03						
SX214	94	Dc	SK 05	長?方形	平底	2.85	(1.40)	0.95	N-72-W
SX215	94	Dc	SK 01	長方形?	平底	(2.50)	2.40	0.67	N-19-E
SX216	93	Cb	SK 03	長方形	平底	5.00	2.65	0.88	N-73-W
	95	Cc	SK 02						
SX217	95	Cc	SK 01	長方形?	丸底	3.30	2.10	1.06	N-67-W
SX218	95	Cc	SK 03	長楕円形	平底?	13.10	3.60	1.09	N-13-E
SX219	95	Cc	SK 04	長楕円形	平底	(5.90)	1.75	0.85	N-74-W
SX220	95	Cc	SK	不明	平底	(0.90)	不明	(0.14)	不明
SX221	94	Ae	SK 38	長方形?	不明	(3.50)	(0.60)	不明	N-65-W?
SX222	95	Ca	SK 02	不明	平底	(2.75)	(1.25)	0.42	N-15-E?
SX223	95	Ca	SK 07	楕円形	丸底	0.70	0.50	0.18	N-80-W
SX224	95	Cb	SK 01A	長方形?	丸底	(3.05)	1.60	0.86	N-61-W
SX225	96	A	SK 16	長?方形	平底	4.00	(2.05)	0.34	N-17-E?
SX226	96	A	SK 21	不定形	平底	1.10	0.85	0.15	N-16-E
SX227	96	A	SK 13	長方形	丸底	2.05	1.25	0.30	N-18-E
SX228	96	A	SK 14	長方形	平底?	2.35	1.10	0.29	N-23-E
SX229	96	A	SK 44	不定形	平底?	(2.70)	1.05	0.34	N-25-E
SX230	96	A	SK 49	不定形	平底?	2.90	0.95	0.22	N-29-E
SX231	95	Cb	SK 01B	長方形	丸底	(1.60)	0.60	0.50	N-73-W
SX232	96	A	SK 55	長方?形	平底	2.85	(1.50)	0.18	N-14-E?
SX233	95	Db	SK 24	長?方形	平底	2.85	(1.45)	(0.24)	N-66-W?
SX234	94	Ba	SK 01	長方形	平底	2.60	(1.10)	0.48	N-12-E
SX235	94	Ba	SK 02	長方形	平底	4.15	1.05	0.37	N-74-W
SX236	94	Ba	SK 07	長方形	平底	(5.15)	1.80	0.33	N-75-W
SX237	94	Ba	SK 08	長方形	平底	(1.85)	1.35	0.41	N-72-W
SX238	94	Bb	SK 05	長方形	平底	(2.95)	3.05	0.28	N-63-W

第２表　土坑・方形土壙一覧２

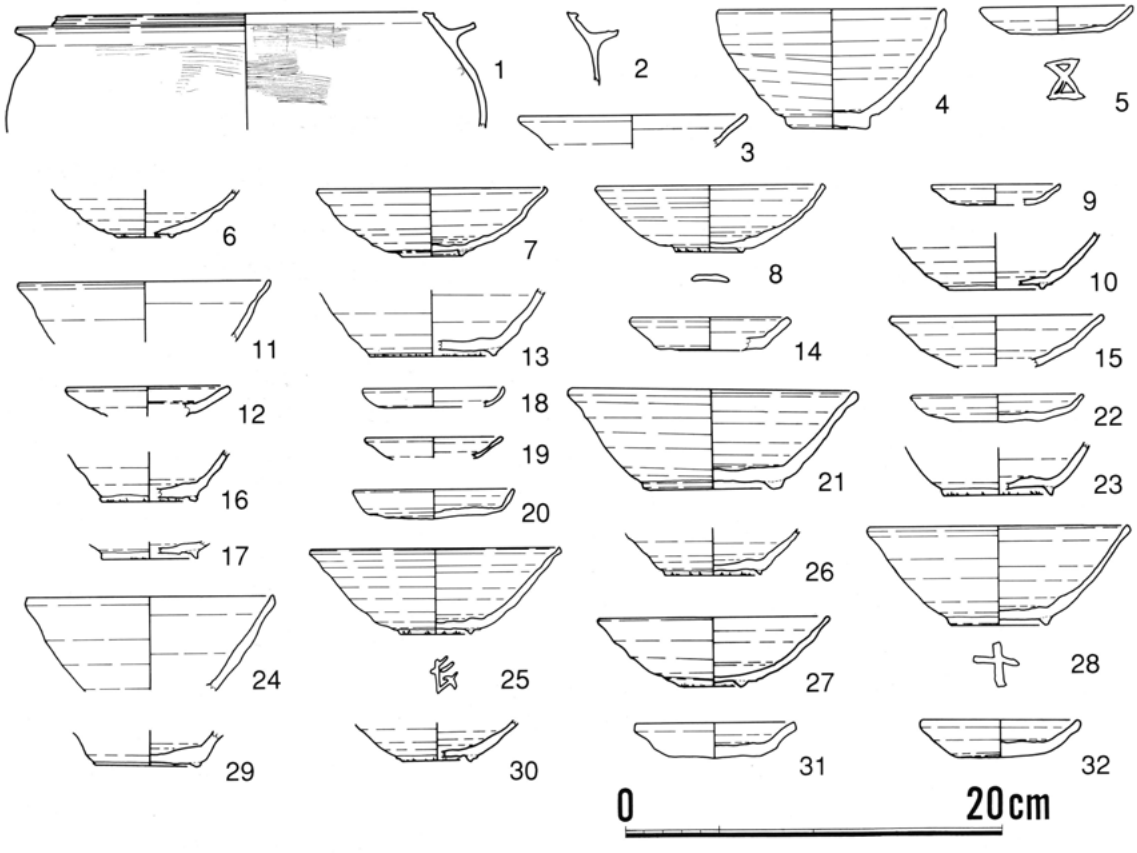
10. 中世以後の陶器類

池本正明

(1) 中世以後の土器・陶器 (第1図1～32)

中世以後の土器・陶器は量的に乏しい。種類としては灰釉系陶器・施釉陶器・土師器、器種には椀、小皿、天目椀等がある。出土位置は土坑（1～5）、方形土壙の埋土（6～27）または包含層（28～32）となる。

1～3はSK 101出土。1、2は土師器羽釜。いずれも体部の最大径が鍔部径より大きいタイプ。外面はハケメ調整。14世紀後半。3は灰釉系陶器椀。北部系の口縁部片。14世紀後葉～15世紀前葉。4、5はSK 102出土。4は施釉陶器天目椀。高台付近に黒色の付着物が確認できる。漆か。15世紀後半。5は灰釉系陶器小皿。外底部に墨書が認め



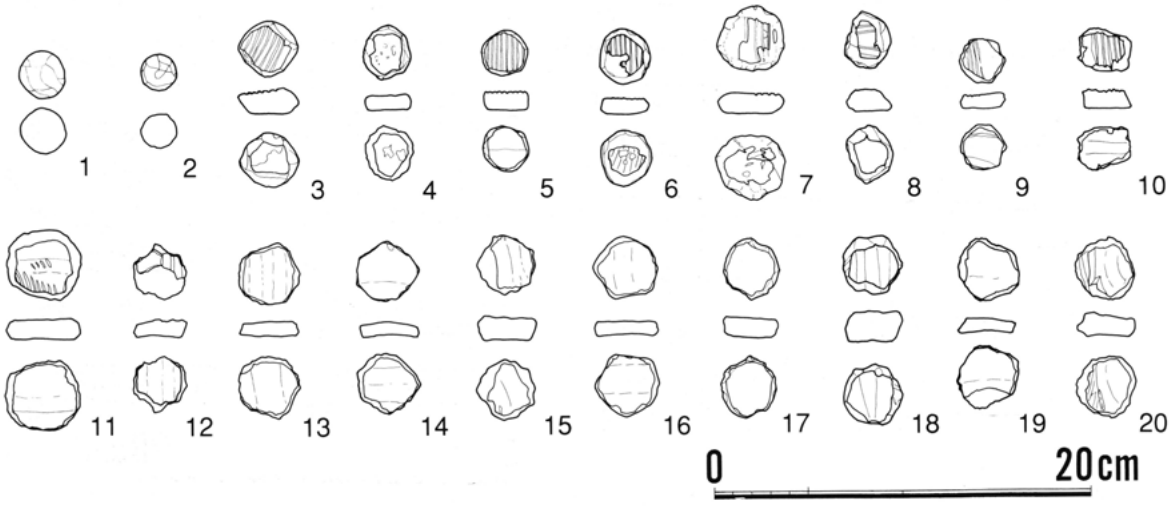
第1図　中世以降の土器・陶器実測図（1：4）

られるが意味不明。14世紀中葉。

6はSX04出土。灰釉系陶器椀。北部系の底部小片。器壁は薄く、浅い。14世紀後葉～15世紀前葉。7はSX27出土。灰釉系陶器椀。完形。器壁は薄く、浅い。外面と内面の一部に黒色の付着物が確認できる。14世紀後葉～15世紀前葉。8はSX32出土。灰釉系陶器椀。完形。器壁は薄く、浅い。外底部に墨書『一』が観察できる。14世紀後葉～15世紀前葉。9はSX33出土。灰釉系陶器小皿。小片で、器壁は薄い。13世紀中葉～14世紀前葉。10はSX38出土。灰釉系陶器椀。北部系の底部小片。器壁は薄い。13世紀後葉～14世紀後葉。11、12はSX85出土。いずれも灰釉系陶器。11は椀。北部系の口縁部小片で、器壁は薄い。13世紀後葉～14世紀後葉。12は北部系の小皿。底部を欠く。器高は高い。13世紀前葉13はSX55出土。灰釉系陶器椀。北部系の底部片。13世紀中葉。14はSX97出土。灰釉系陶器小皿。南部系の小片。13世紀中葉。15はSX99出土。灰釉系陶器椀。北部系の口縁部片。14世紀後葉～15世紀前葉。16～19はSX131出土。いずれも灰釉系陶器。16、17は椀。いずれも北部系の底部片。17は小片。前者は13世紀中葉、後者は13世紀後葉～14世紀後葉。18、19は小皿。いずれも北部系の小片。時期はやや下がるのか。20はSX166出土。灰釉系陶器小皿。北部系。完形でやや歪む。判読はできないが体部外面と内定部に墨書が施されるのかもしれない。内底部は摩滅する。14世紀中葉。21はSX176出土。灰釉系陶器椀。南部系でほぼ完形。内底部は摩滅する。13世紀中葉。22はSX183出土。灰釉系陶器小皿。器壁は薄く器高は低い。14世紀後葉～15世紀前葉か。23はSX195出土。灰釉系陶器椀。北部系の底部小片。13世紀後葉～14世紀後葉。24はSX196出土。灰釉系陶器椀。南部系で底部を欠く。13世紀後葉～14世紀前葉。25はSX206出土。灰釉系陶器椀。外底部に墨書が認められるが意味不明。14世紀中葉。26はSX208出土。灰釉系陶器椀。北部系の底部小片。13世紀後葉～14世紀後葉。27はSX218出土。灰釉系陶器椀。北部系14世紀後葉～15世紀前葉。28～32は包含層資料。いずれも灰釉系陶器。28～30が椀。28は北部系。外底部に墨書『十』が観察できる。29、30は底部片。前者が北部系で後者が南部系。31、32が小皿で南部系。

(2) 陶丸（第2図1・2）

2点出土している。いずれも方形土壙資料で、1がSX68、2がSX112出土。表面は摩滅する。重量は前者が14.2 g、後者が6.5 g。



第2図　陶丸・加工円盤実測図（1：4）

(3) 加工円盤（第2図3～20）

18点出土している。土器片の破面を打ち欠き、方形（7、8、10）ないし円形（3～6、9、11～20）に加工したものを呼称する。破面は原則的には打ち欠いたままだが、これに研磨を加える資料（3～7）も含まれる。出土位置の分布上の特徴はうかがうことができない。ほとんどが表土あるいは包含層中の出土となるが、20はSX 186出土。素材となる土器片は20が灰釉系陶器の椀であることを除けば、すべて近世陶器。器種は摺鉢（3～11）が多いが、（12～18）は壷類、（19）は椀か。使用部位は、すべて体部片。重量は3から順に、12.3 g、8.1 g、7.9 g、8.6 g、13.6 g、9.0 g、5.4 g、7.9 g、19.5 g、6.7 g、11.8 g、9.7 g、11.2 g、12.1 g、11.2 g、15.4 g、8.5 g、13.7 g。

図版	番号	遺構番号	調査区	旧遺構番号	種類	器種	口径(m)	底径(m)	器高(m)	備考	登録番号
1	1	SK101	93Bb	SK54	土師器	羽釜	19.0	—	—		E-3001
1	2	SK101	93Bb	SK54	土師器	羽釜	—	—	—		E-3002
1	3	SK101	93Bb	SK54	灰釉系陶器	椀	12.0	—	—		E-3003
1	4	SK102	93Bb	SK58	施釉陶器	天目椀	12.0	4.5	6.3		E-3004
1	5	SK102	93Bb	SK58	灰釉系陶器	小皿	8.9	4.9	1.5	墨書	E-3005
1	6	SX04	96B	SK16	灰釉系陶器	椀	—	2.9	—		E-3006
1	7	SK103	94Aa	SK27	灰釉系陶器	椀	12.1	3.3	3.7		E-3007
1	8	SX32	95F	SK09	灰釉系陶器	椀	11.9	3.5	3.6	墨書	E-3008
1	9	SX33	95F	SK08	灰釉系陶器	小皿	6.8	3.6	1.1		E-3009
1	10	SX38	94Ab	SK23	灰釉系陶器	椀	—	5.0	—		E-3010
1	11	SX85	93Ab	SK05	灰釉系陶器	椀	13.3	—	—		E-3011
1	12	SX85	93Ab	SK05	灰釉系陶器	小皿	8.6	—	—		E-3012
1	13	SX55	93D	SK02	灰釉系陶器	椀	—	6.6	—		E-3013
1	14	SX97	93Ba	SK19	灰釉系陶器	小皿	8.2	5.5	1.7		E-3014
1	15	SX99	93Ba	SK22	灰釉系陶器	椀	11.0	—	—		E-3015
1	16	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	椀	—	—	—		E-3016
1	17	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	椀	—	—	—		E-3017
1	18	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	小皿	7.4	6.0	1.0		E-3018
1	19	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	小皿	7.2	—	—		E-3019
1	20	SX166	93Bb	SK37	灰釉系陶器	小皿	8.5	5.3	2.0		E-3020
1	21	SX176	94F	SK18	灰釉系陶器	椀	15.0	6.6	5.3		E-3021
1	22	SX183	93Ca	SK38	灰釉系陶器	小皿	9.0	4.7	1.4		E-3022
1	23	SX195	94F	SK10	灰釉系陶器	椀	—	5.6	—		E-3023
1	24	SX196	94F	SK196	灰釉系陶器	椀	13.0	—	—		E-3024
1	25	SX306	93Cb	SK08	灰釉系陶器	椀	13.4	3.8	4.5	墨書	E-3025
1	26	SX208	93Cb	SK05	灰釉系陶器	椀	—	5.0	—		E-3026
1	27	SX218	93Cb	SK03	灰釉系陶器	椀	12.1	3.1	3.7		E-3027
1	28		93Aa	撹乱	灰釉系陶器	椀	13.7	5.0	5.2	墨書	E-3028
1	29		95F	表土はぎ	灰釉系陶器	椀	—	5.5	—		E-3029
1	30		95Ac	検出Ⅰ	灰釉系陶器	椀	—	3.7	—		E-3030
1	31		95Cb	Sﾏｳﾝﾄﾞ	灰釉系陶器	小皿	8.4	4.8	1.9		E-3031
1	32		94Ba	SK13	灰釉系陶器	小皿	8.2	4.5	2.0		E-3032

第1表　中世以降の土器・陶器一覧

図版	番号	遺構番号	調査区	旧遺構番号	種類	重量(g)	登録番号
2	33	SX68	93Aa	SK08	陶丸	14.2	E-3033
2	34	SX112	93Ba	SK66	陶丸	6.5	E-3034
2	35		95Cb	検出Ⅰ	加工円盤	12.3	E-3035
2	36		94Ba	撹乱	加工円盤	8.1	E-3036
2	37		94Bb	検出	加工円盤	7.9	E-3037
2	38		94Bb	SD01	加工円盤	8.6	E-3038
2	39		94Bb	撹乱	加工円盤	13.6	E-3039
2	40		94Bb	検出	加工円盤	9	E-3040
2	41		93D	ﾄﾚﾝﾁ	加工円盤	5.4	E-3041
2	42	SX201	94F	SK02	加工円盤	7.9	E-3042
2	43		94Bb	SD01	加工円盤	19.5	E-3043
2	44		94Ae	検出	加工円盤	6.7	E-3044
2	45		93D	検出Ⅰ	加工円盤	11.8	E-3045
2	46		95Cb	検出Ⅰ	加工円盤	9.7	E-3046
2	47		95Bb	南壁暗灰色土	加工円盤	11.2	E-3047
2	48		94Ba	検出	加工円盤	12.1	E-3048
2	49		96A	撹乱	加工円盤	11.2	E-3049
2	50		94Bb	ﾄﾚﾝﾁ	加工円盤	15.4	E-3050
2	51		94Ba	検出	加工円盤	8.5	E-3051
2	52	SX189	93Ca	SK34	加工円盤	13.7	E-3052

第2表　陶丸・加工円盤一覧

11. 金属製品

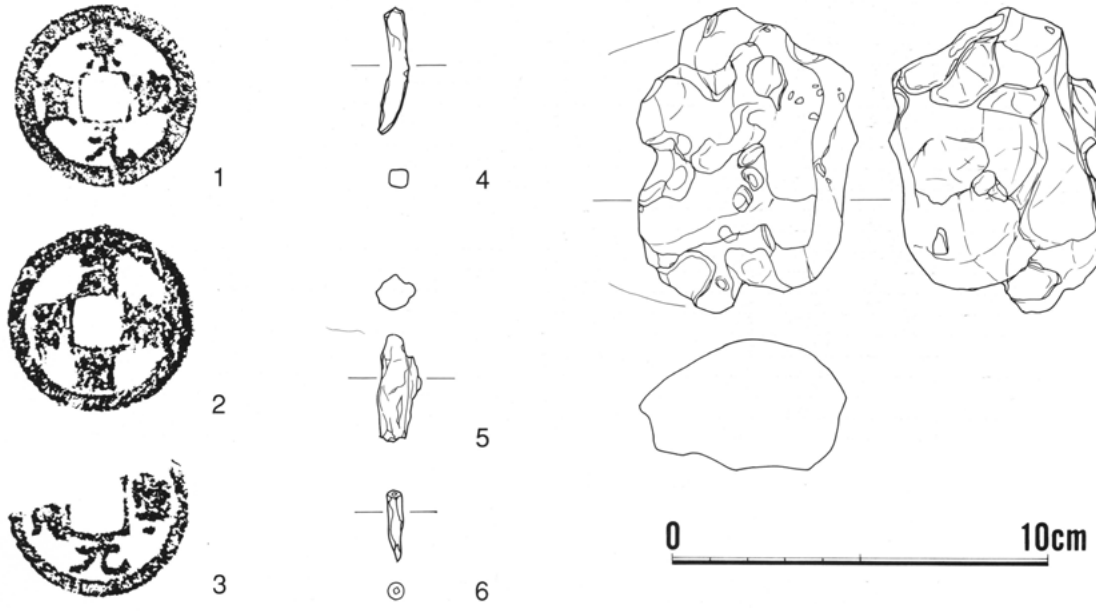
鈴木正貴

金属製品およびその関連資料には銅製品、鉄製品、鉄滓など22点があり（第1図1～7）、中世以降に属すると思われる。ここでは主要な遺物のみ報告し、他は別稿（鈴木・蔭山1997）に準拠した一覧表（第1表）に掲載するに止めた。

銅製品は銭貨（北宋銭、1～3））が3枚出土した。

鉄製品には、鉄釘、針金状鉄製品、板状鉄製品などがあるが、鉄釘（4～6）以外は近世以降に属するであろう。鉄滓には、2分の1に分割された椀型鉄滓（7）や白または褐色付着物が表面を覆う流動滓状のものがあり、後者は近代以降の可能性が高い。

鈴木正貴・蔭山誠一1997「愛知県における古代・中世の鉄器生産その1」『年報平成8年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター



第1図　金属製品実測図（1～3は1：1、4～7は1：2）

番号	調査区	遺構番号	グリッド	旧遺構番号	保存番号	種別	形状	重量	長径	短径	厚さ	着磁力	メタル	完欠	発泡	小石	植物	木炭	加材	ガラス
1	93D	—	I J7q	検出II	97-214	銅銭（景元通寶）	—	3.7	25	25	2	0	2	完	×	×	×	×	×	0
2	96B	SX13	—	SK33	97-229	銅銭（皇宋通寶？）	—	3.4	25	25	2	0	1	完	×	×	×	×	×	0
3	93Ba	SX95	II E5f	SK16	97-211	銅銭（　寧元寶）	—	1.6	25	—	1	0	2	欠	×	×	×	×	×	0
4	94Aa	SK103	—	SK27	97-227	鉄製品（釘）	棒状	2.1	33	5	4	2	2	完	×	×	×	×	×	0
5	94Bb	—	X H18a	SD01	97-217	鉄製品（釘）	棒状	3	28	11	10	2	0	欠	×	×	×	×	×	0
6	94Bb	—	X H18a	SD01	97-217	鉄製品（釘）	棒状	0.4	18	4	4	1	0	欠	×	×	×	×	○	1
7	93Bb	SK101	II J6j	SK54	97-213	2分の1分割椀型鉄滓	—	184.7	90	68	44	2	0	欠	○	○	×	○	×	1
8	96C	—	I A1f	攪乱	97-231	流動滓？	礫状	17.7	41	37	16	0	0	欠	○	×	×	×	×	2
9	93Bb	—	II I4m	SD03	97-212	流動滓？	扁平	39.1	71	40	19	0	2	完	○	×	×	×	×	2
10	94B	—	III J15t	検出	97-215	鉄塊系遺物	棒状	3.9	21	11	8	2	0	欠	×	×	×	×	×	0
11	94Ba	—	X H11b	攪乱	97-216	流動滓？	扁平	29.9	48	43	20	1	2	欠	×	×	×	×	×	2
12	94Bb	—	I G1r	攪乱	97-218	流動滓？	礫状	9.3	32	17	14	0	0	欠	○	×	×	×	×	2
13	94E	—	—	表採	97-219	鉄塊系遺物	礫状	4.5	22	14	11	2	2	完	×	×	×	×	×	0
14	95Bb	SX137	III I3r	SK01	97-220	鉄製品（針金状）	棒状	0.8	49	3	2	2	2	完	×	×	×	×	×	0
15	95Ca	NR08	X H9p	SD03	97-221	？	礫状	22.7	40	35	22	0	0	欠	×	○	×	×	×	0
16	95Ca	NR08	X H9p	SD03	97-221	？	礫状	4.8	22	19	11	0	0	欠	×	○	×	×	×	0
17	95Ca	—	—	東壁	97-223	？	礫状	40.2	49	37	24	0	0	欠	○	○	×	×	×	1
18	95Ca	—	—	東壁	97-224	鉄製品	板状	7.7	61	26	2	2	2	欠	×	×	×	×	×	0
19	96A	—	I H7h	検出I	97-226	鉄製品	板状	67.9	103	43	14	4	2	欠	×	×	×	×	×	0
20	96A	—	I H7h	検出I	97-226	鉄製品	板状	3.9	22	14	12	3	2	欠	×	×	×	×	×	0
21	96C	—	—	表土	97-230	流動滓？	扁平	8	40	26	6	0	0	欠	×	×	×	×	×	2
22	96D	NR06	X J14e	NR01	97-232	加材？	礫状	8.3	32	18	15	0	0	欠	×	○	×	×	×	0

第1表　金属製品観察表

12. 弥生時代の遺構分布とその変遷

蔭山誠一

5.弥生土器における弥生土器の時期区分と遺構の重複による前後関係や遺構の位置における相対的前後関係に基づき、弥生時代における一色青海遺跡を大きく6期に分けた（第1図～第6図、第1表）。ここでは各調査区における遺構の変遷について述べ、併せて遺構の分布について触れることにする。

1期（第1図）

弥生土器区分のⅠ式a段階に想定されるもので、北調査区におけるNR01～NR03・NR05・NR06aの旧河道が流れている段階で、SB02の存在から95F区の微高地で居住域が存在していた可能性が高い。NR05は微高地を削るクレバススプレイと思われ、SB02はそれにより堆積した後に掘り込まれたもので、1期の中で大きな洪水に見舞われた痕跡である。NR06aでまとまって出土している土器や木製品などが旧河道東岸から流れ込む形で出土していることもこれら洪水による遺構の削平による可能性がある。95Aa区の遺構検出面になる基盤層の下からほぼ同時期の土器片が出土することからもこの時期に大きな洪水が頻繁に起こったことを示しており、東調査区における居住域の大部分は削平されて存在していないものと思われる。

この時期の居住域からは外れるものと考えられるが、東調査区南部の95E区では直角近くに屈曲して流れる溝が重複して検出されており、すべて竪穴住居より先行しているものを1期と考えた。これらの溝の間にも重複する部分があり、少なくとも2～3段階の変遷がある。

その他の調査区ではこの時期の明瞭な遺構が確認出来ておらず、1期の広がりは北調査区より北側の地域から東調査区の部分に存在する可能性が高い。

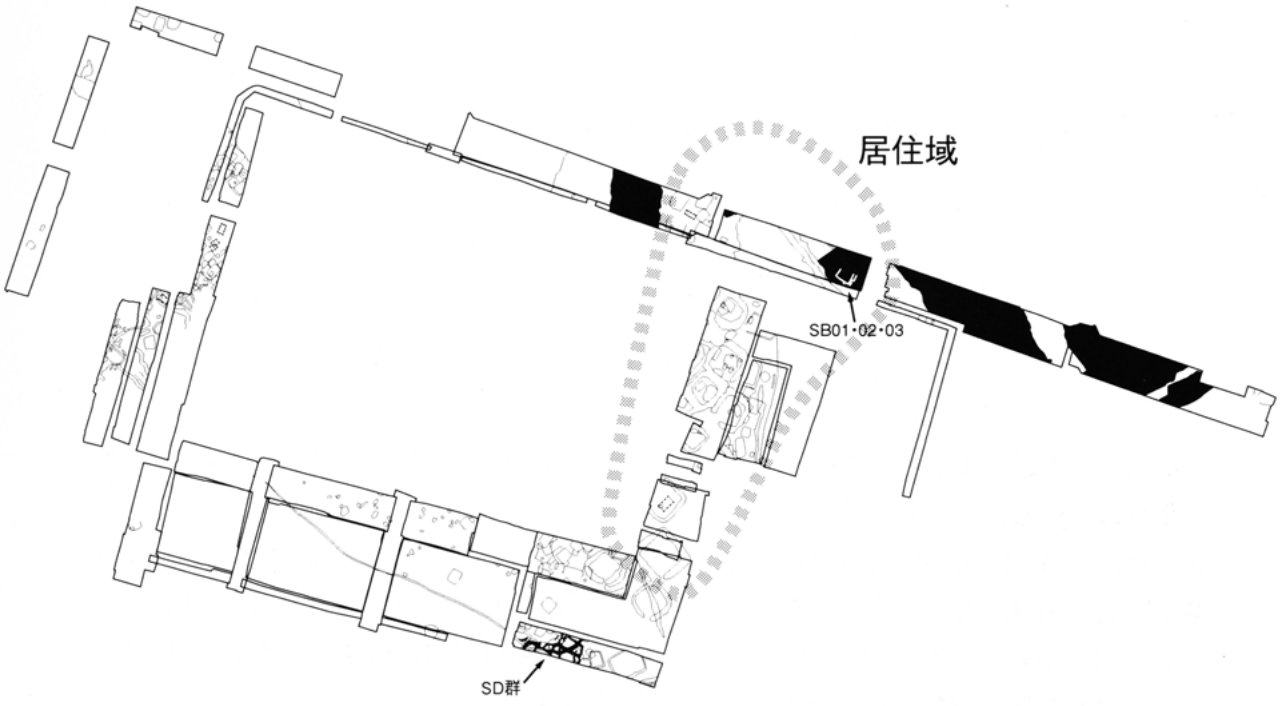
2a期（第2図）

弥生土器区分のⅠ式b段階に想定されるもので、東調査区では竪穴住居群からなる居住域が93Aa区から95E区まで広く展開し、95Aa区のSB17のように洪水によって住居が削平されたものが存在し、竪穴住居の間にも前後関係が存在する。95Ba区では竪穴住居が5棟重複している部分がある。竪穴住居では重複関係で古い平面形態方形の竪穴住居をこの時期のものとした。井戸SE01も営まれる。

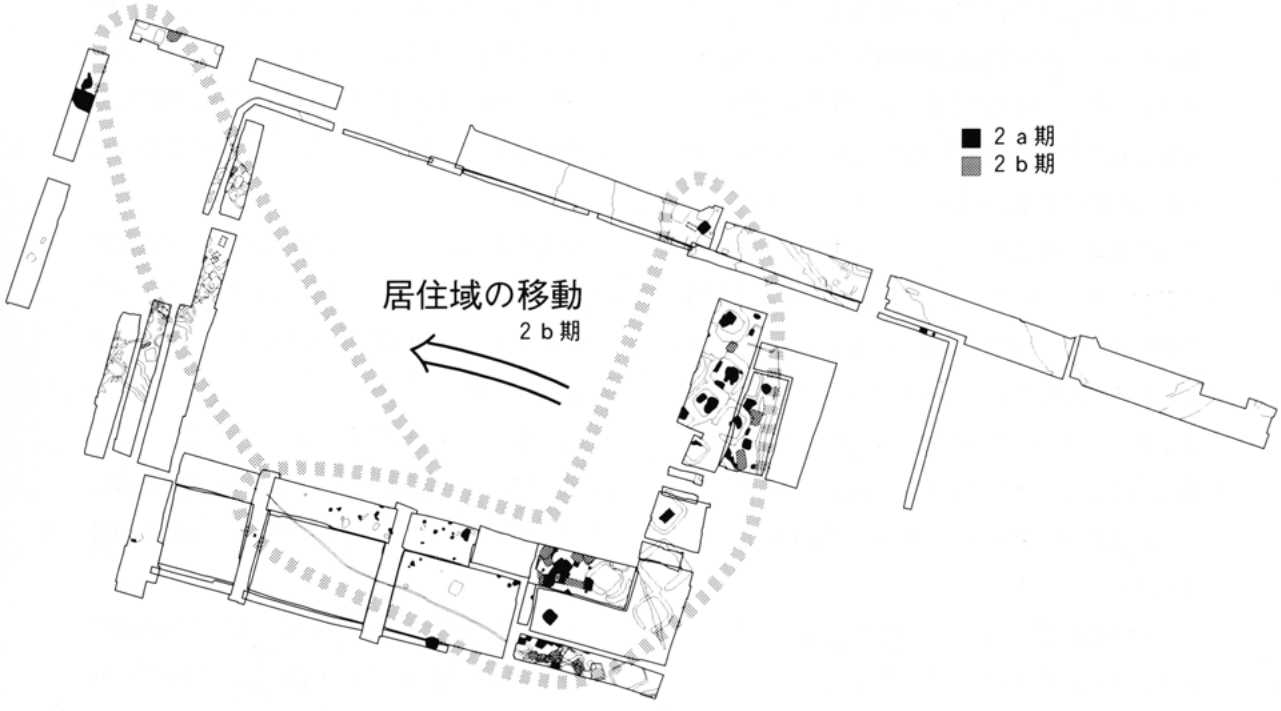
南調査区ではまとまった竪穴住居群などは検出されていないが、まとまった土器が出土する土坑などが散在し、この時期にも遺構が存在していたことが伺える。

西1調査区・西2調査区では95Ca区・95Cb区などで遺構の前後関係で一色青海Ⅱ式の遺構に先行するものが若干存在するが明確な当時期の遺構は確認できていない。

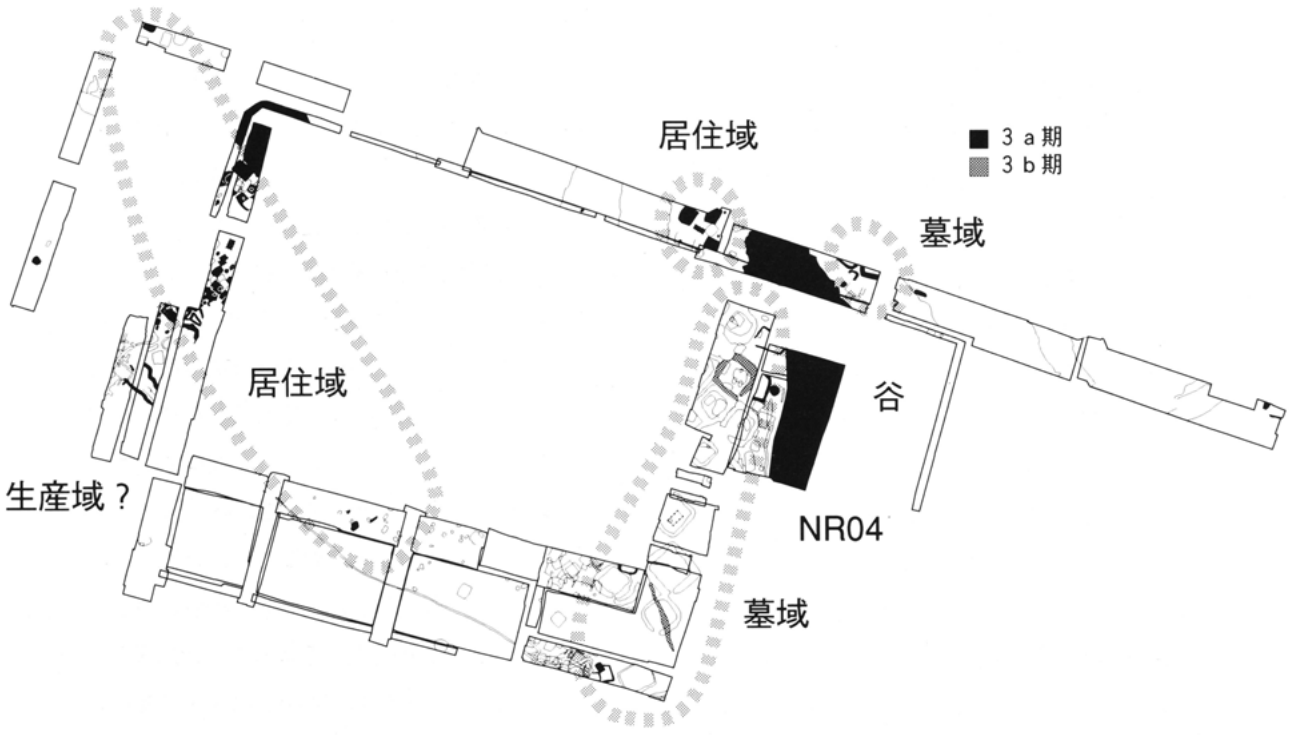
またこの段階では1期から流れていた旧河道が徐々に埋まり集落の南側が乾燥化し、95E区・93Bb区・93Ca区の遺構分布から、集落の南側に居住域がやや拡大する時期と考えられる。



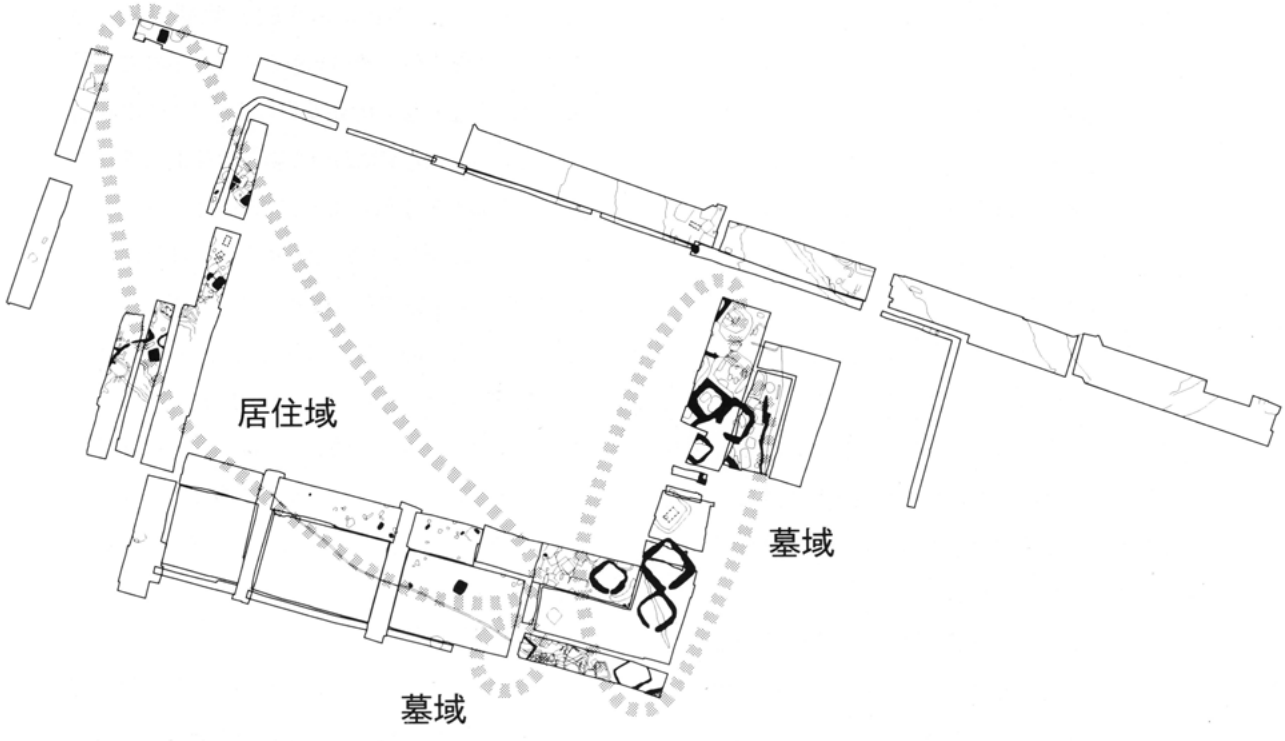
第１図　１期（一色青海Ⅰ式ａ段階）



第２図　２ａ期・２ｂ期（一色青海Ⅰ式ｂ段階）



第3図　3 a期・3 b期（一色青海II式）



第4図　4期（一色青海III式 a 段階）

２ｂ期（第２図）

弥生土器区分では２ａ期と同じⅠ式ｂ段階に想定されるもので、竪穴住居の平面形態長方形のものをこの時期のものとした。土器区分からはこの段階を設定することは困難であったため、竪穴住居以外の遺構では区別できなかった。２ａ期の土坑などの遺構からこの時期に下がるものが含まれる。この時期の竪穴住居の分布からは東調査区の93Ａａ区から95Ｅ区までと西１調査区の95Ｃａ区や95Ｃｂ区、一色長畑遺跡91Ａ区などにみられ、集落の西側に居住域が展開する過渡期と思われる。

３ａ期（第３図）

土器区分のⅡ式にあたる時期で、居住域が南調査区の西側から西1・2調査区のある遺跡の西側に墓域が東調査区のある遺跡の東側に推移・定着する段階である。

北調査区ではⅠ式に流れていた流路が埋まり、ＮＲ04が流れ、東調査区の東側にある大きな谷を刻むようになる。96Ｄ区の東側微高地において竪穴住居が営まれる。

一方北調査区の95Ｆ区東側や96Ｃ区、東調査区の93Ａａ区、95Ｂａ区・95Ｅ区において溝の比較的細く平面長台形でＮ-75°-Wに主軸をもつ方形周溝墓群が２ｂ期まで居住域であった部分に広がり、墓域が形成される。

南調査区では２期と同様な状況で、まとまった土器が出土する土坑が点在している。南調査区の北側になる94Ｃａ区・94Ｃｂ区において多数検出されている小柱穴群は１期から３期を通じて居住域が営まれた痕跡と思われる。同時期における遺構の重複はない。

西１調査区では95Ｃａ区・95Ｃｂ区を中心に遺構が多数営まれるようになる。95Ｃａ区北側でＮＲ08が流れ、竪穴住居ＳＢ66とＮＲ08の１面で検出した遺構面とでは洪水砂を挟んで前後関係があり、洪水砂の上から掘り込まれる遺構にはⅢ式に属すものがある。95Ｃｂ区においても竪穴住居や土坑の重複がみられⅡ式における多くの生活痕跡がみられる。95Ｃｂ区南側・95Ｄｂ区・96Ａ区においては竪穴住居などは希薄になり、まとまった土器の出土する土坑がなくなるが、１期の95Ｅ区でみられる様なやや不整方向ではあるが直角近くに屈曲したり枝分かれして流れるＳＤ17～ＳＤ23が繰り返し営まれ、このような状況は３ｂ期・４期に継続するものと思われる。また95Ｃｂ区北側において竪穴住居や土坑が希薄になる部分があり、掘立柱建物が３棟確認されており、居住域の中における掘立柱建物のあり方を伺うことが出来る。

西２調査区ではＳＢ94があり、居住域が確実に西に広がることを物語っている。遺構はあまり検出されていないが、西１調査区と同様な状況にあったものと思われる。

３ｂ期（第３図）

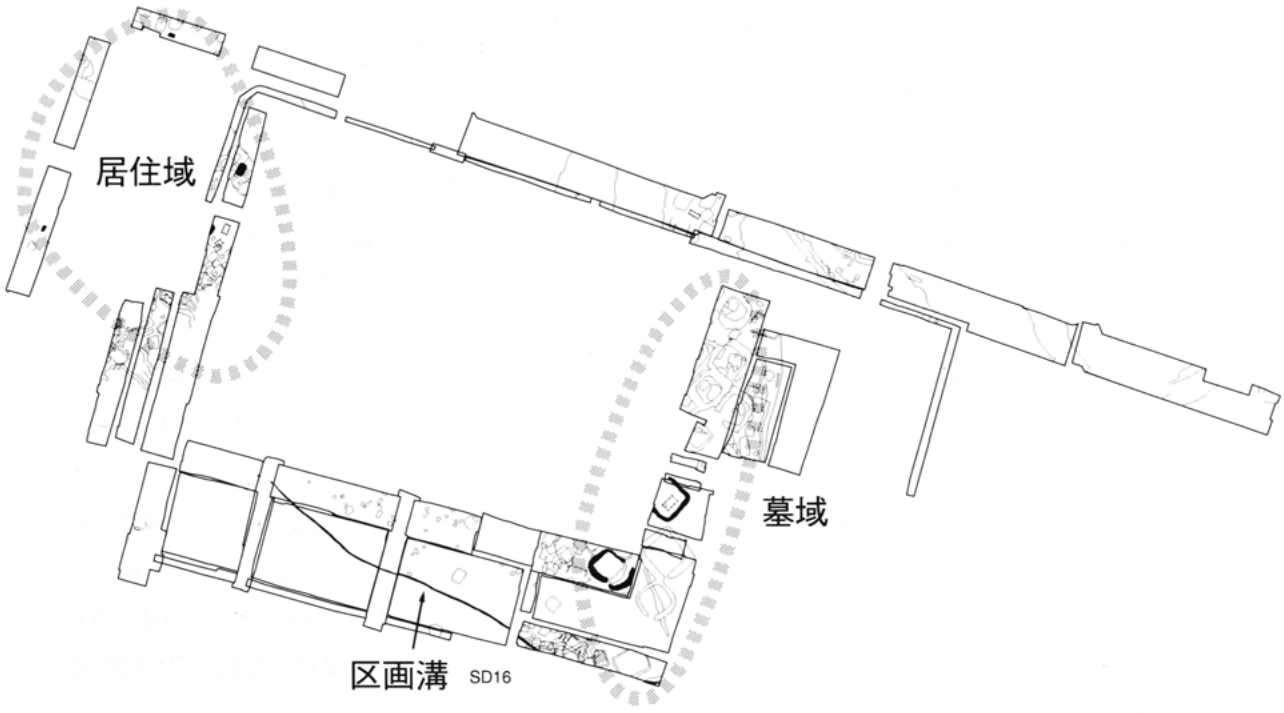
この時期は３ａ期と同じ土器区分のⅡ式に含まれるもので、東調査区における方形周溝墓ＳＺ11を壊して主軸方位、溝の形態とも３ａ期の方形周溝墓とは異なるＳＺ09が築かれるのを1つの画期と考えている。墓域において新しい原則に基づく方形周溝墓が築かれるようになる時期である。４期のＳＺ18に壊されるＳＤ04をこの段階にしている。ＳＤ04は方位からはどのように巡るのか不明だが、集落を囲う溝になる可能性がある。井戸ＳＥ01はこの時期のうちに埋没する。

居住域は３ａ期と同様な傾向にあるものと思われるが、土器区分において区分できておらず、南調査区、西1・2調査区における３ａ期の遺構がこの段階に含まれる。

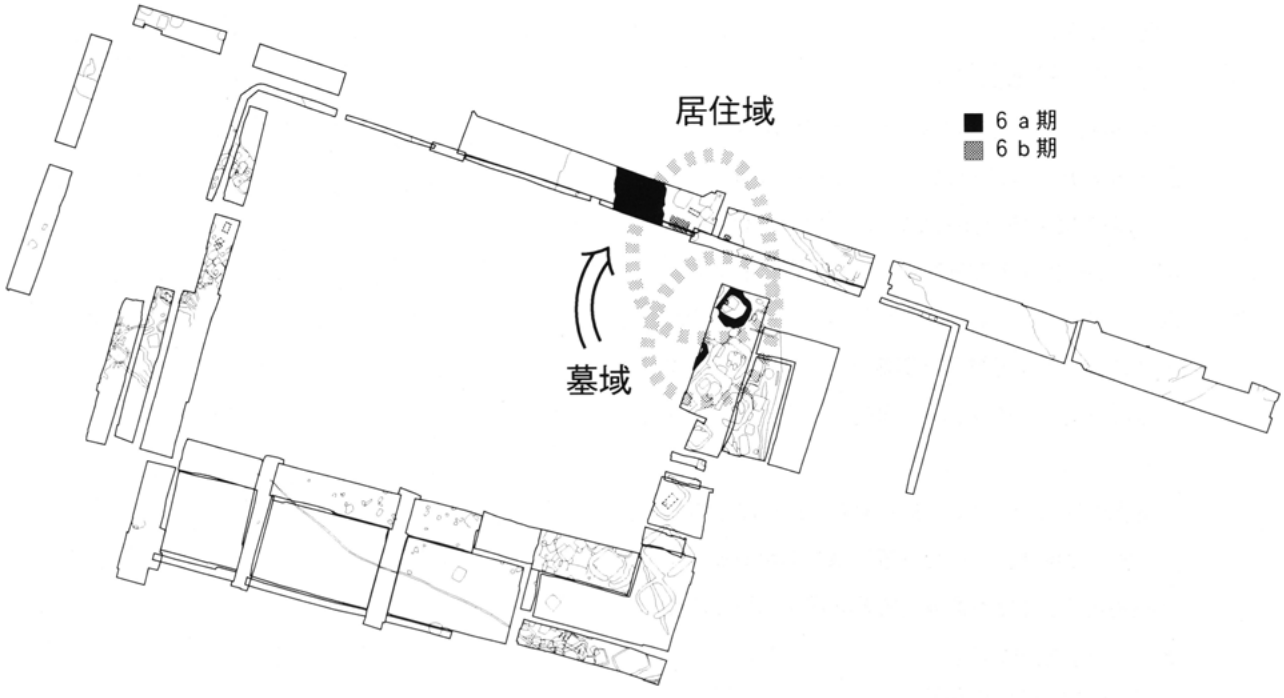
４期（第４図）

土器区分のⅢ式ａ段階にあたる。一色青海遺跡が最も安定した構成を見せる時期である。

北調査区では旧河道は埋没が進行した段階であ



第5図　5期（一色青海Ⅲ式b段階）



第6図　6 a期・6 b期（一色青海Ⅲ式c段階）

る。

東調査区では方形周溝墓が広がるが、3b期に営まれたＳＺ09とほぼ方位を合わせる形で連綿と造られていくようである。その中でＳＺ20ａの東溝とＳＺ18南溝、ＳＤ04において出土した鉢（680）は遺構間において土器が接合し近い時期に溝が埋没していったことが推定できる。ＳＺ20ａの後ＳＺ20ｂが同位置で拡張して造られ、方形周溝墓の築造過程を復元することが可能である。

南調査区ではこの時期に伴う遺構は少なくなる傾向があり、同時期の遺構の重複もない。遺構の状況は3期と同様である。

西1調査区では3期に引き続き竪穴住居を主体とする居住域が営まれる。先述した95Ｃａ区の洪水砂の上から掘り込まれたＳＢ69・ＳＢ70などのほかＳＢ73・ＳＢ68など焼失した住居が多く検出されている。遺構の状況は3期と同様である。

西2調査区ではＳＫ96がある。遺構が少ないがこの時期も同様に居住域が西に広がっていくように思われる。

５期（第５図）

土器区分のⅢ式ｂ段階にあたる。土器区分の問題もあるが、この段階として確認した遺構は少なく、4期の終末期を捉えているだけかも知れない。4期から引き続き東調査区では方形周溝墓が営まれ、西調査区では竪穴住居が認められるが、南調査区においては遺構が不明瞭になり、居住域がより西に移動したのか、縮小傾向にあるように思われる。

遺構配置に関しては95Ａｂ区のＳＺ17において、墳丘の東溝に沿った位置に棟方向があった掘立柱建物ＳＢ102があり、方形周溝墓に伴う施設となる可能性がある。

６ａ期（第６図）

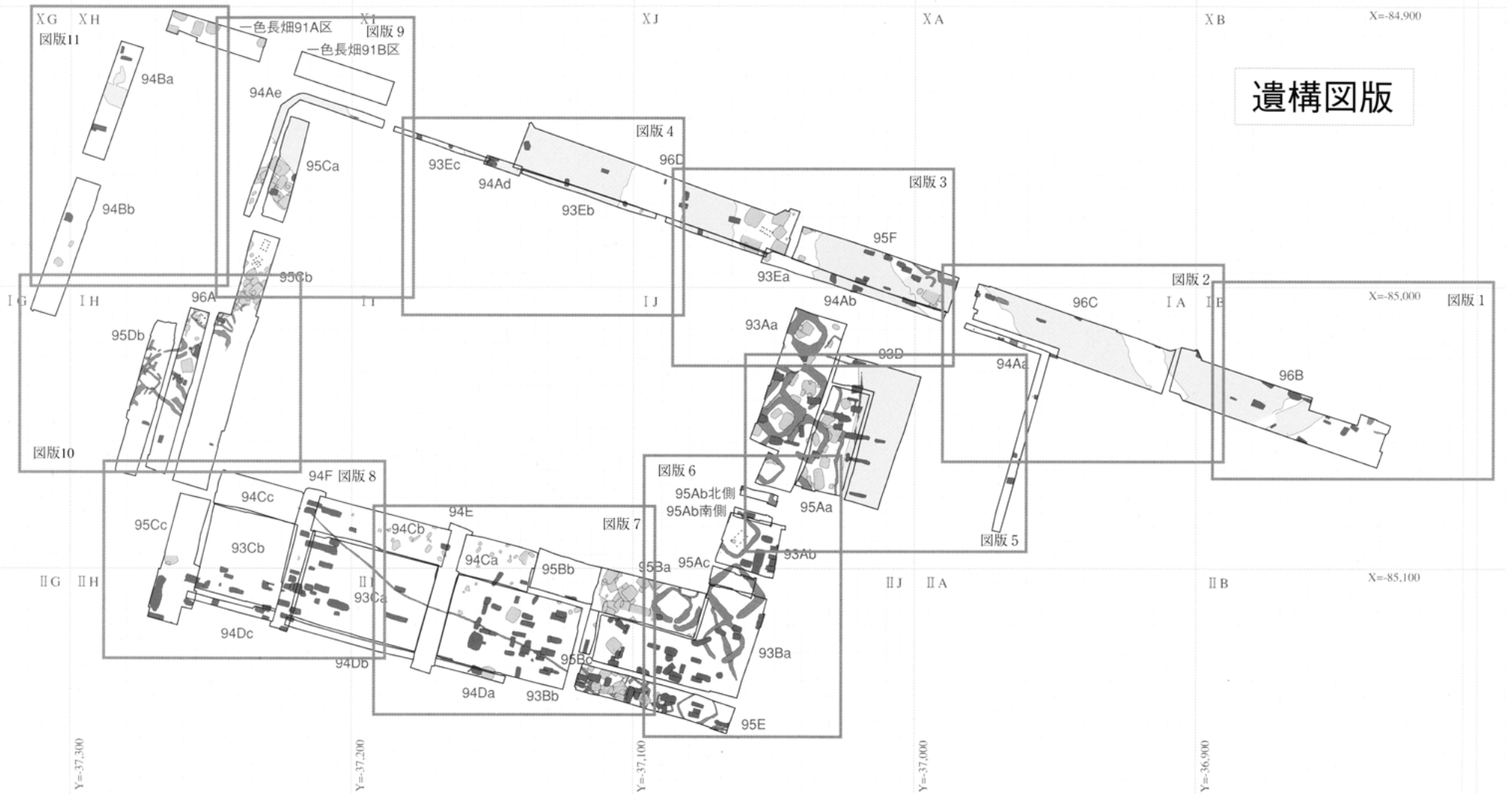
土器区分ではⅢ式ｃ段階にあたる。5期とは明確に分けられる時期ではあるが、東調査区で2基の方形周溝墓がある。北調査区では、ＮＲ06ｂが流れるようである。居住域は不明で、西調査区などではこの時期の遺構は後世の削平などによる影響で消滅している可能性が高い。

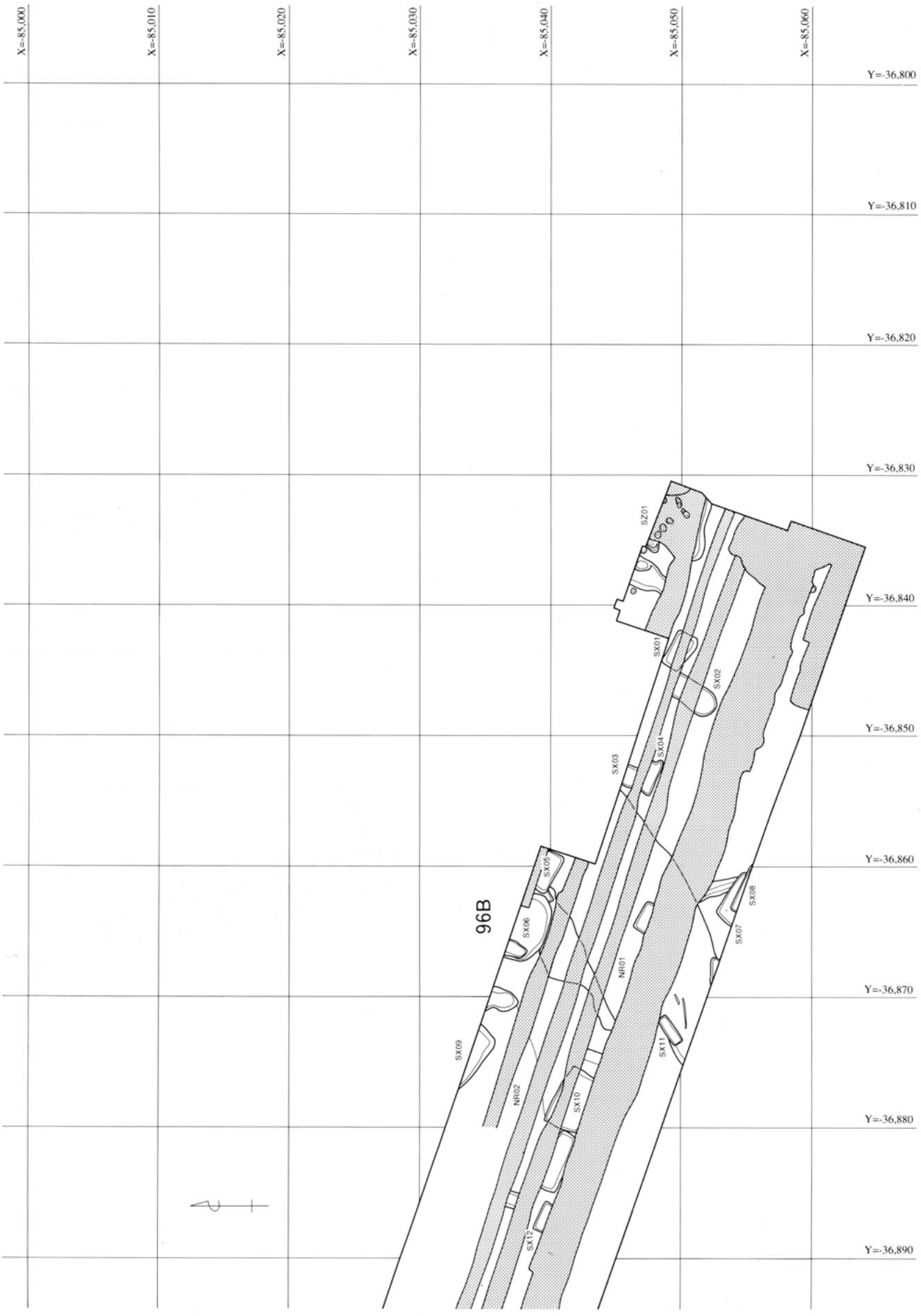
６ｂ期（第６図）

土器区分では6ａ期のⅢ式ｃ段階と同じである。北調査区の95Ｆ区から96Ｄ区の微高地にはＳＫ03・ＳＫ11がある。ＳＫ11は方形周溝墓ＳＺ05の西溝が埋没後掘り込まれた土坑で、方形周溝墓に伴う土器組成と異なるため、別の段階として考えた。これらの土坑は未調査の方形周溝墓などに伴う可能性もあるが、93Ａａ区・95Ｆ区・96Ｄ区の微高地を中心に再び居住域に戻った痕跡と考えておきたい。6ａ期と同様他の調査区では遺構・遺物とも不明である。

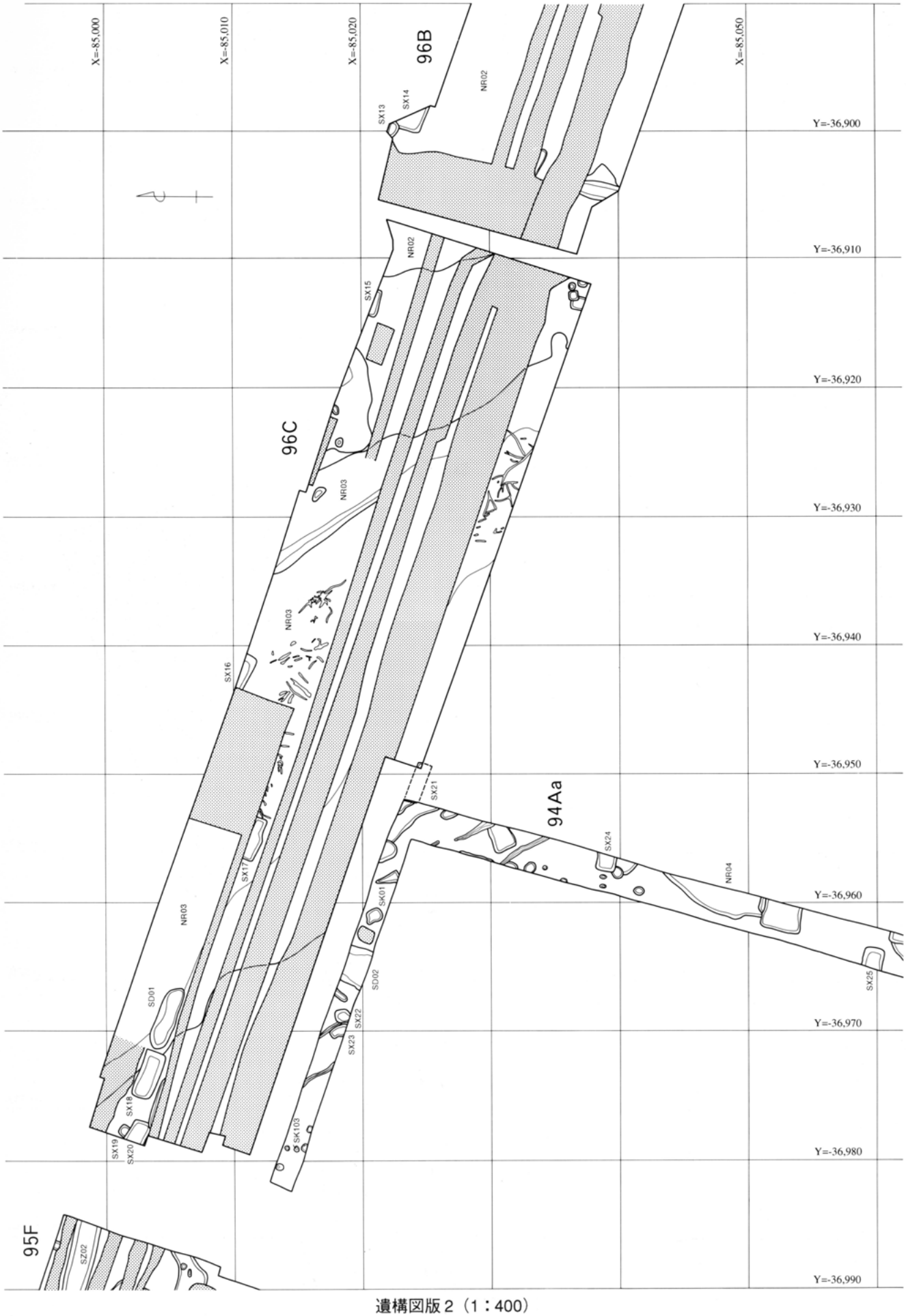
	一色青海Ⅰ式a段階	一色青海 Ⅰ式b段階		一色青海 Ⅱ式		一色青海Ⅲ式a段階	一色青海Ⅲ式b段階	一色青海 Ⅲ式c段階	
	1期	2a期	2b期	3a期	3b期	4期	5期	6a期	6b期
北調査区									
96B	NR01			SZ01					
96C	NR02 NR03			→SD01					
94Aa		SK01・SD02							
95F	NR05→SB01→SB02 SB03 SB05→SB04			→NR04下層 SZ02・SZ03・SZ04 SK02					SK03
96D・93Ea	NR06a	SB07		SB06 →SB101 SB08・SB09 SB10 SK04・SK05・SK08		SK06		→NR06b	→SK07
東調査区									
93Aa・93Ab・95Aa・95Ab		SK09 SB12→SB11 SK16・SK17・SK20 SK10・SK12 SU01→SB15 SB14→SK13・SK14・SK15 SB16・SB18・SB17→(洪水後) SB19→SB20 SB26 SK18・SK19・SB21 SB25→SB24→SK21 SB22 SE01 SB27→SK22 SK20 SK23→SB102	(SB13) SB13 →SB23 SE01	SZ11 →SZ06 SE01	→SZ09	SZ07 SZ08・SZ12 →SD03 SZ14 →SZ13 →SZ16 →SZ15	→SZ17	→SZ05 SZ10	→SK11
95Ac・93Ba					SD04	→SZ18 →SZ21			
95Ba・95Bc		SK24・(SB32) SB31 SB32・(SB38) SB36→SB35→SB34 →SB37→SB38→SK26 →SB47→SB48 SK25・SK28 SB42→SB40 SB39・SB45 SB49・SB50	→SB30・SB29→SB28 →SB33 SB46→SK29 →SB43→SB44→SB41	SZ19		→SZ20a SZ22 →SK27	→SZ20b		
95E	SD15 SD12→SD10 SD14 SD11→SD13 SD07→SD08・SA02 →SD10→SD09	SB51 →SB57 →SB55→SB54→SB58 SB61・SB62	→SB56→SB60→SB59 →SB53	SZ24→SB52		SZ23 →SZ25 SD05	→SD16 →SD06		
南調査区									
93Bb・94Ca・94Da		SB63 SK30・SK31 SK32・SK34・SK36・SK37・SK38・Sk39・SK40 SK41・SK43・SK44・SK45・SK46・SK48				→SK33 SK47 SK35・SK42 SB64			
94E		SK49				SK50			
94Cb・93Ca		SK57 SK62 SK51・SK52・SK53・SK54・SK59 SK61		→SK56 SK58・SK60 SK63		SK55 SK64			
94F・95Cc		SK66 SB65		SK65					
西1調査区									
94Ac・95Ca			SB67	→SB66→(洪水) →NR08 (1面) (SB72) SB76 SB72→SB71→SK67 SB75・SK69→SB74 SK72→SK73→SK74 SK71・SK76・SK77		→SB69 →SK68 →SB70→SK68 (SB71)→SB73 SK75	→SB68		
95Cb・95Db・96A			SK78 SB78 SD26	SB79 →SK81・SB87→SB83 SB90 →SB89→SB86 SB81 SB103・SB104・B105 SK79・SK80・SK84 SB84→SB85 SK82・SK85・SK86 →SD27→SD28 SB88→SK87・SK88→SD31 SD19→SD18 SD20 SD22→SK89 SD17・SD21・SD23 SB91・SB92・SB106 SK90・SK93・SK94・SK95	SK92→SK91	→SB82・SK83 →SB82 →SB82 →SD24→SD25 SB93	SB77		
西2調査区									
94Ba		NR09							
94Bb				SB94			SK96		

第1表　一色青海遺跡の遺構変遷

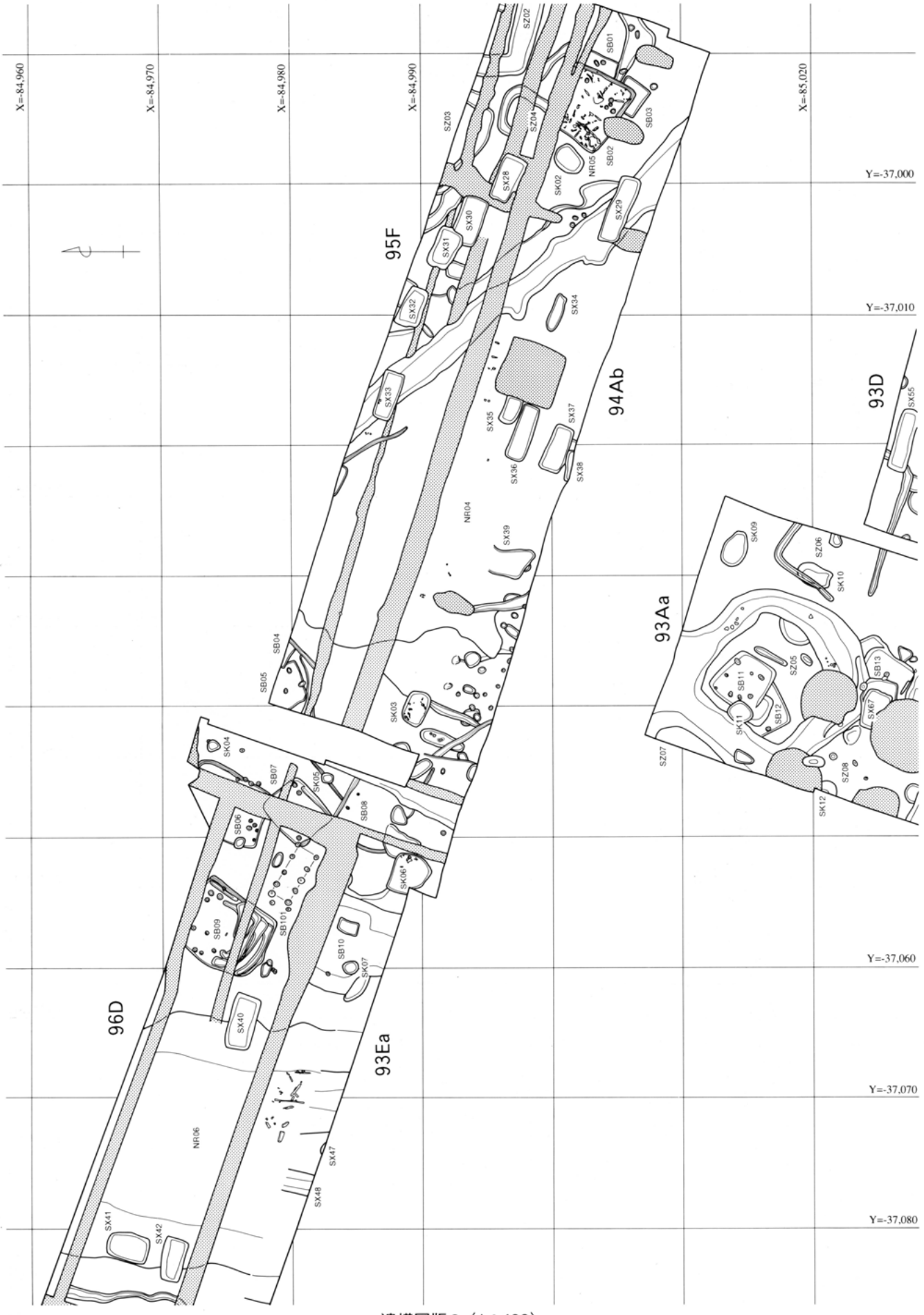

遺構図版
XG
XH
XI
XJ
XA
XB
X=-84,900
図版11
一色長畑91A区
一色長畑91B区
図版9
94Ba
94Ae
95Ca
94Bb
95Cb
図版4
93Ec
94Ad
93Eb
96D
図版3
95F
93Ea
94Ab
図版2
96C
IG
IH
II
IJ
IA
IB
X=-85,000
図版1
96A
95Db
93Aa
93D
94Aa
96B
図版10
94F
図版8
94Cc
95Cc
93Cb
94Cb
94E
図版7
94Ca
95Bb
95Ba
95Ac
93Ab
図版6
95Ab北側
95Ab南側
95Aa
図版5
IIG
IIH
IIJ
IIA
IIB
X=-85,100
93Ca
94Dc
94Db
95Bc
93Ba
94Da
93Bb
95E
Y=-37,300
Y=-37,200
Y=-37,100
Y=-37,000
Y=-36,900


X=-85,000
X=-85,010
X=-85,020
X=-85,030
X=-85,040
X=-85,050
X=-85,060
Y=-36,800
Y=-36,810
Y=-36,820
Y=-36,830
Y=-36,840
Y=-36,850
Y=-36,860
Y=-36,870
Y=-36,880
Y=-36,890
96B
SZ01
SX01
SX02
SX03
SX04
SX05
SX06
SX07
SX08
SX09
SX10
SX11
SX12
NR01
NR02

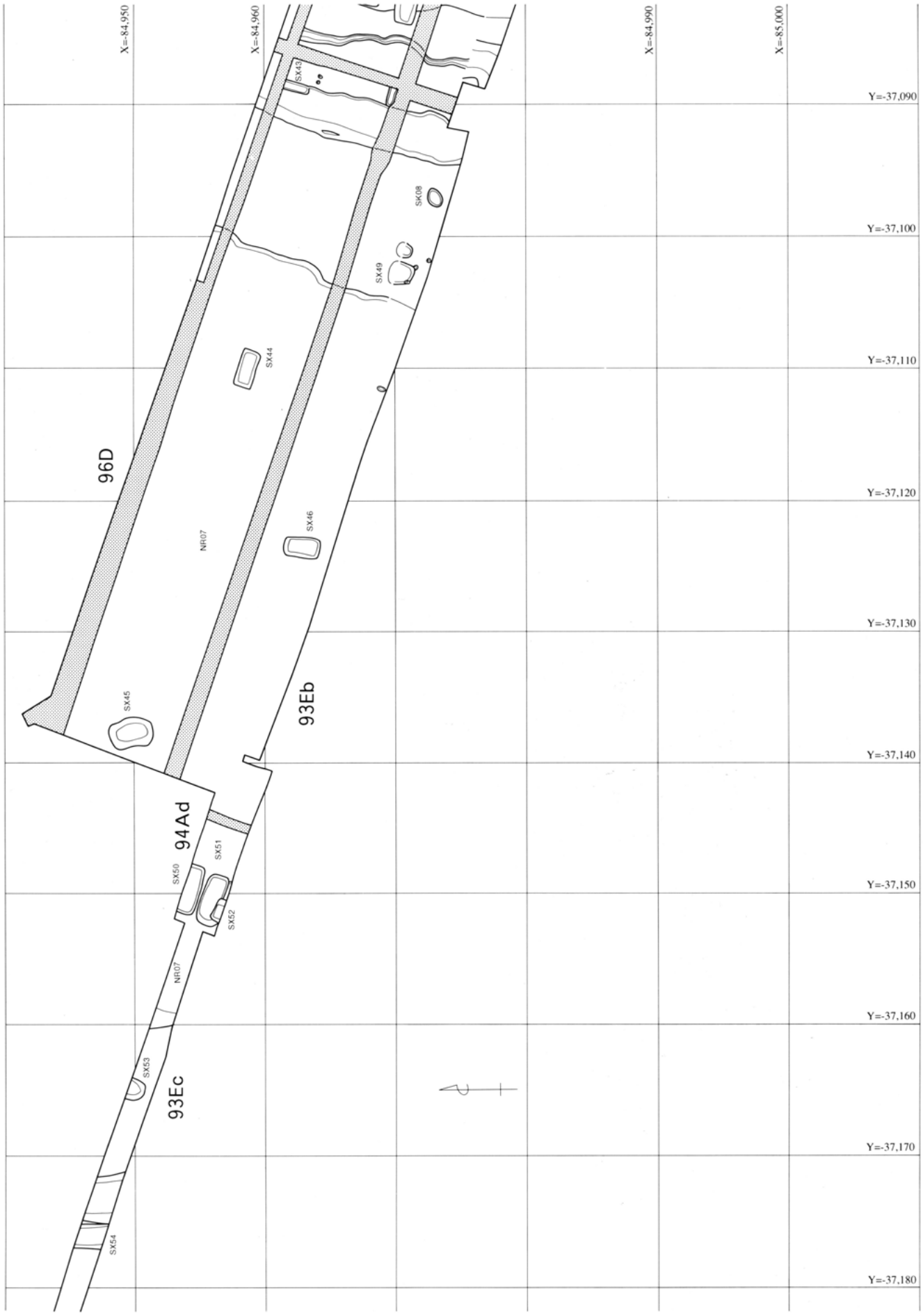
遺構図版１（1：400）


X=-85,000
X=-85,010
X=-85,020
X=-85,050
Y=-36,900
Y=-36,910
Y=-36,920
Y=-36,930
Y=-36,940
Y=-36,950
Y=-36,960
Y=-36,970
Y=-36,980
Y=-36,990
96B
96C
94Aa
95F
NR02
NR03
NR04
SX13
SX14
SX15
SX16
SX17
SX18
SX19
SX20
SX21
SX22
SX23
SX24
SX25
SD01
SD02
SK01
SK103
SZ02

遺構図版２（１：400）


X=-84,960
X=-84,970
X=-84,980
X=-84,990
X=-85,020
Y=-37,000
Y=-37,010
Y=-37,060
Y=-37,070
Y=-37,080
95F
94Ab
93D
93Aa
96D
93Ea
SZ02
SZ03
SZ04
SB01
SB02
SB03
NR05
SK02
SX28
SX29
SX30
SX31
SX32
SX33
SX34
SX35
SX36
SX37
SX38
NR04
SX39
SB04
SB05
SK03
SK04
SB07
SK05
SB08
SB06
SK06
SB09
SB101
SB10
SK07
SX40
NR06
SX41
SX42
SX47
SX48
SX55
SK09
SZ06
SK10
SB11
SZ05
SB13
SK11
SB12
SX67
SZ07
SZ08
SK12

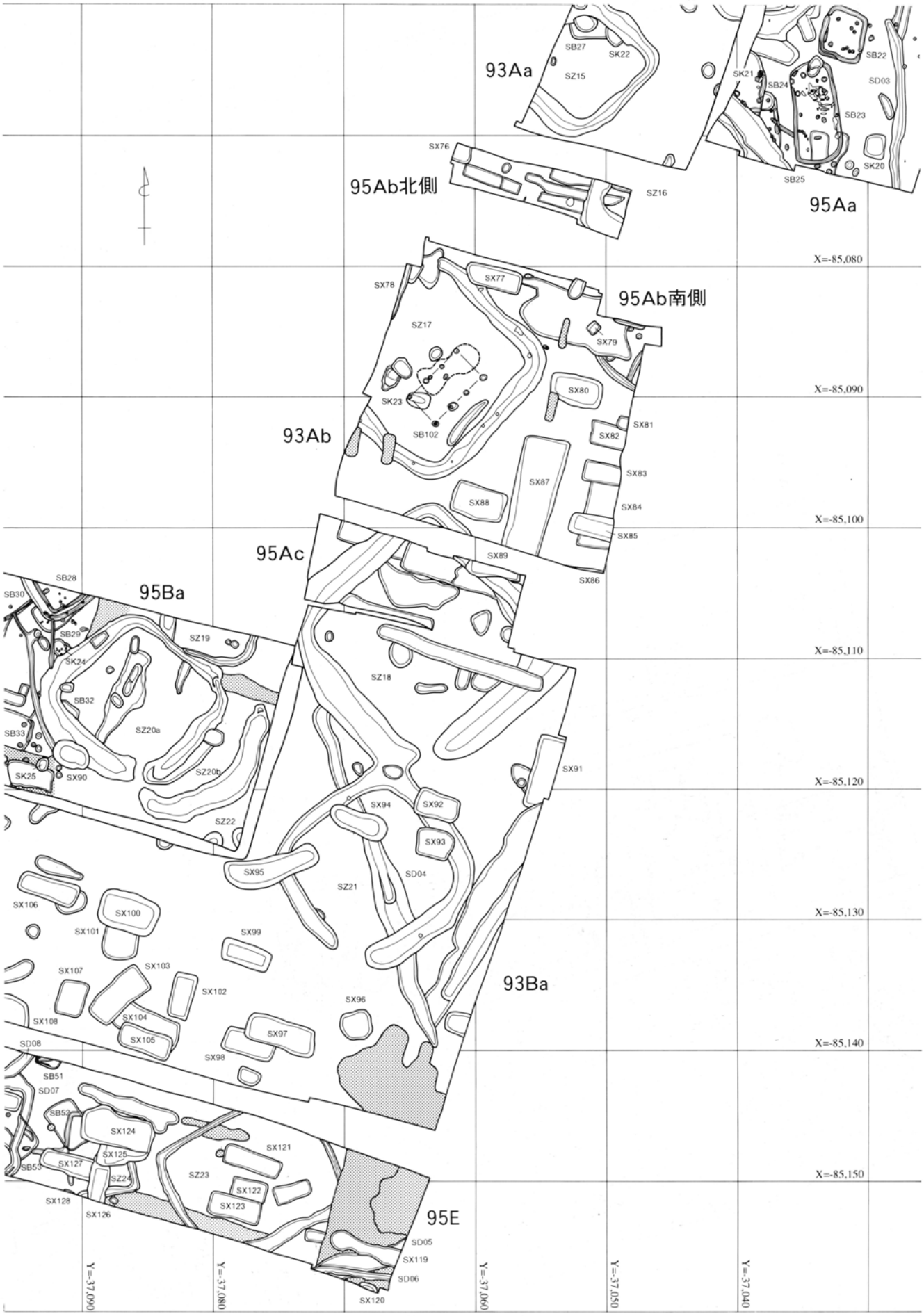
遺構図版３（１：400）


X=-84,950
X=-84,960
X=-84,990
X=-85,000
Y=-37,090
Y=-37,100
Y=-37,110
Y=-37,120
Y=-37,130
Y=-37,140
Y=-37,150
Y=-37,160
Y=-37,170
Y=-37,180
96D
93Eb
94Ad
93Ec
NR07
NR07
SX43
SX44
SX45
SX46
SX49
SK08
SX50
SX51
SX52
SX53
SX54

遺構図版４（１：400）

X=-85,030
X=-85,040
X=-85,080
X=-85,090
Y=-36,980
Y=-36,990
Y=-37,000
Y=-37,010
Y=-37,020
Y=-37,030
Y=-37,040
93D
94Aa
95Aa
95Ab北側
95Ab南側
93Aa
93Ab
NR04
SX25
SX26
SX27
SX55
SX56
SX57
SX58
SX59
SX60
SX61
SX62
SX63
SX64
SX65
SX66
SX67
SX68
SX69
SX70
SX71
SX72
SX73
SX74
SX75
SX77
SX79
SX80
SX81
SX82
SA01
SE01
SD03
SZ08
SZ09
SZ10
SZ11
SZ12
SZ13
SZ14
SZ16
SZ17
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK21
SK22
SB13
SB14
SB15
SB16
SB17
SB18
SB19
SB20
SB21
SB22
SB23
SB24
SB25
SB26
SB27
SU01

遺構図版5（1：400）


93Aa
95Ab北側
95Aa
95Ab南側
93Ab
95Ac
95Ba
93Ba
95E
X=-85,080
X=-85,090
X=-85,100
X=-85,110
X=-85,120
X=-85,130
X=-85,140
X=-85,150
Y=-37,090
Y=-37,080
Y=-37,060
Y=-37,050
Y=-37,040
SB27
SK22
SZ15
SB22
SK21
SB24
SD03
SB23
SK20
SB25
SX76
SZ16
SX78
SX77
SZ17
SX79
SX80
SK23
SB102
SX81
SX82
SX83
SX87
SX88
SX84
SX85
SX89
SX86
SB28
SB30
SB29
SK24
SZ19
SB32
SB33
SZ20a
SK25
SX90
SZ20b
SZ22
SZ18
SX91
SX94
SX92
SX93
SX95
SD04
SZ21
SX106
SX100
SX101
SX99
SX107
SX103
SX102
SX96
SX108
SX104
SX105
SX97
SX98
SD08
SB51
SD07
SB52
SX124
SX125
SX121
SB53
SX127
SZ24
SZ23
SX122
SX128
SX123
SX126
SD05
SX119
SD06
SX120

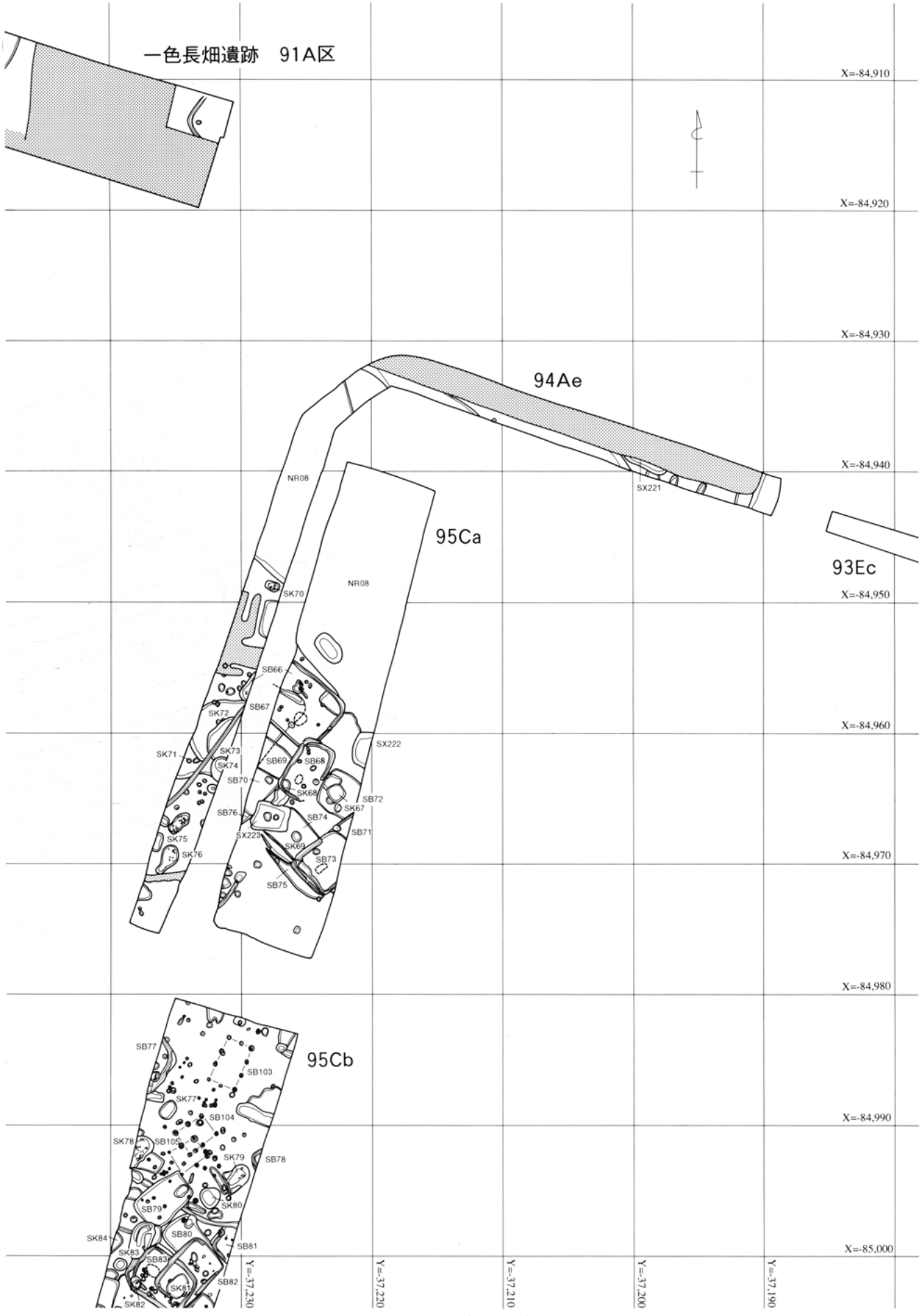
遺構図版6（1：400）

X=-85,080
X=-85,090
X=-85,100
95Ba
95Bb
95Bc
93Ba
95E
94Ca
94E
94Cb
93Bb
94Da
94Db
93Ca
Y=-37,130
Y=-37,140
Y=-37,150
Y=-37,160
Y=-37,170
Y=-37,180
Y=-37,190

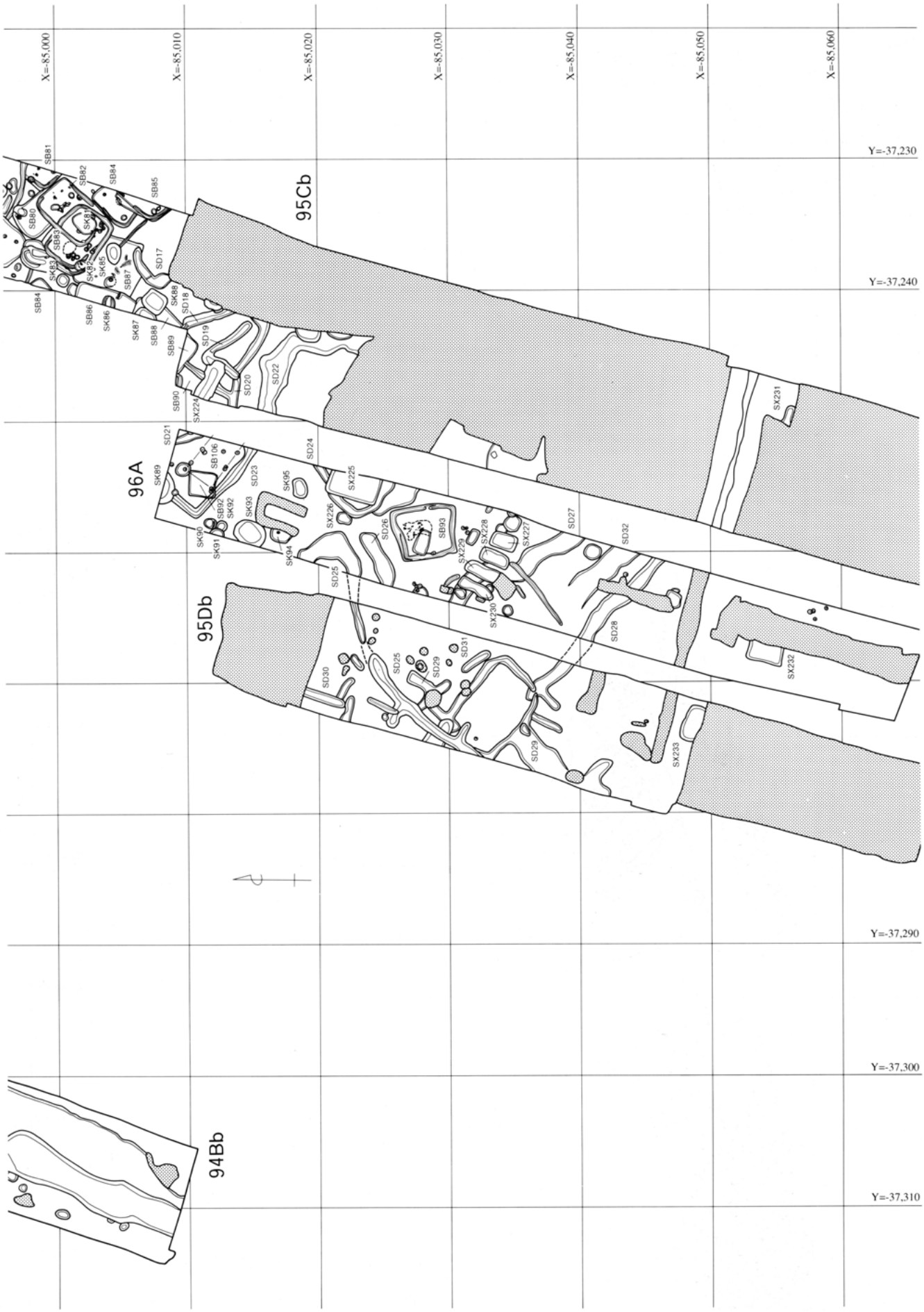
遺構図版7（1：400）

94Cb
94F
94Cc
95Cb
95Cc
96A
95Db
93Ca
93Cb
94Db
94Dc
SK62
SK63
SK64
SD16
SX174
SX175
SX176
SX193
SX179
SX180
SX181
SX182
SX194
SK65
SX195
SX196
SX185
SX187
SX186
SX190
SX189
SX191
SX197
SX183
SX184
SX188
SX192
SX199
SX200
SX201
SX202
SX203
SX198
SX205
SX204
SX206
SX213
SX214
SX210
SX207
SX208
SX209
SX215
SX211
SX212
SX216
SX217
SB65
SK66
SX218
SX219
SX220
Y=-37,210
Y=-37,220
Y=-37,230
Y=-37,240
Y=-37,250
Y=-37,260
Y=-37,270
Y=-37,280
X=-85,070
X=-85,080
X=-85,090
X=-85,100
X=-85,110
X=-85,120

遺構図版8（1：400）


一色長畑遺跡　91A区
X=-84,910
X=-84,920
X=-84,930
X=-84,940
X=-84,950
X=-84,960
X=-84,970
X=-84,980
X=-84,990
X=-85,000
Y=-37,230
Y=-37,220
Y=-37,210
Y=-37,200
Y=-37,190
94Ae
95Ca
95Cb
93Ec
NR08
SX221
SX222
SX223
SK70
SK71
SK72
SK73
SK74
SK75
SK76
SK67
SK68
SK69
SB66
SB67
SB68
SB69
SB70
SB71
SB72
SB73
SB74
SB75
SB76
SK77
SK78
SK79
SK80
SK81
SK82
SK83
SK84
SB77
SB78
SB79
SB80
SB81
SB82
SB83
SB103
SB104
SB106

遺構図版９（1：400）


X=-85,000
X=-85,010
X=-85,020
X=-85,030
X=-85,040
X=-85,050
X=-85,060
Y=-37,230
Y=-37,240
Y=-37,290
Y=-37,300
Y=-37,310
95Cb
96A
95Db
94Bb
SB81
SB82
SB84
SB85
SB80
SB83
SK81
SK82
SK83
SK85
SB87
SD17
SB84
SK88
SD18
SB86
SK86
SD19
SK87
SB88
SB89
SD20
SD22
SB90
SX224
SD21
SB106
SK89
SD23
SK95
SD24
SX225
SB92
SK92
SK93
SX226
SK90
SK91
SK94
SD26
SB93
SX228
SX227
SD27
SD32
SX229
SD25
SX230
SD28
SD30
SD31
SD29
SX231
SX232
SX233

遺構図版 10（1：400）


Y=-37,310
Y=-37,300
Y=-37,290
Y=-37,280
Y=-37,270
Y=-37,250
X=-84,920
X=-84,930
X=-84,940
X=-84,950
X=-84,960
X=-84,970
X=-84,980
X=-84,990
X=-85,000
94Ba
SX234
SX235
NR09
SX237
SX236
94Bb
SX238
SK96
SB94
一色長畑遺跡　91A区

遺構図版 11（1：400）

報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき
書名	一色青海遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第79集
編集者名	蔭山誠一・鬼頭剛・堀木真美子
編集機関	財団法人愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24
発行年月日	西暦　1998年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
いっしきあおかいいせき 一色青海遺跡	あいちけん 愛知県 いなざわし 稲沢市 ぎちょうちょう 儀長町・ なかしまぐん 中島郡 へいわちょう 平和町 すがたに 須ヶ谷	稲沢 4-10	O9168	35° 14′ 00″	136° 45′ 30″	1993.4～ 1997.3	23500m² (93年度 8800m²・ 94年度 3900m²・ 95年度 5800m²・ 96年度 5000m²)	日光川上流流域下水道浄化センター建設・県道馬飼井堀線建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
一色青海遺跡	集落	弥生時代 中期後葉	竪穴住居94棟・掘立柱建物6棟・方形周溝墓25基・溝32条・土坑96基・旧河道9条	弥生土器・加工円盤・鋳型？・石器・木器・黒化種子・魚骨類他	居住域と墓域と生産域？
		古墳時代 ～ 平安時代	土坑1基・柵1基	古式土師器・須恵器	後背湿地
		鎌倉時代 ～ 戦国時代	方形土坑238基・土坑3基	灰釉系陶器・美濃瀬戸産陶器・加工円盤他	後背湿地
		江戸時代		加工円盤他	

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第79集

一色青海遺跡
（考古編）

1998年8月31日

編集・発行　財団法人愛知県埋蔵文化財センター

印刷　株式会社名古屋大気堂